

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵・尾山 廣・久保 貞也・増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1 ◎, E 科: B ◎, C 科: II ◎, L 科: DP2 ◎, D 科: DP1 ◎, S 科: DP1 ◎, P 科: DP8 △, J 科: DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科: DP1 ◎, DP7 ◎, N 科: DP1 ◎N: DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TL01453a1, L 科: LL01355a1, D 科・S 科: IL01362a1, P 科: YL01418a2, J 科: JL01364a1, W 科: WL01343a1, N 科: NL01344a1		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。 授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。 またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを体験する。 この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。			
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。 さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。			
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 teamsを活用したオンライン授業を行う。			
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 9月12日（土）1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題：北河内について調べる（30分） 事後課題：授業の進め方について確認する（30分）
	2	チームビルディング 9月12日（土）2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題：チームビルディングの成果をまとめる（30分）
	3	北河内地域に関する講演 9月26日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	4	北河内地域に関する講演 9月26日（土）2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	5	グループワーク・プレゼンテーション 9月26日（土）3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	6	北河内地域に関する講演 10月10日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	7	北河内地域に関する講演 10月10日（土）2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	8	グループワーク・プレゼンテーション 10月10日（土）3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	9	北河内地域に関する講演 10月17日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	10	北河内地域に関する講演 10月17日（土）2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	11	グループワーク・プレゼンテーション 10月17日（土）3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	12	北河内地域に関する講演 11月14日（土）1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する（1時間）
	13	グループワーク・プレゼンテーション 11月14日（土）2時間目	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（30分）
	14	最終発表会 12月5日（土）1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（10時間）
	15	最終発表会 12月5日（土）2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う（10時間）
実務経験				

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	j4ihms4			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科) 11号館7階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1 ○, E 科: B ○, C 科: II ◎, L 科: DP2 ◎, D 科: DP1 ◎, S 科: DP1 ◎, P 科: DP8 △, J 科: DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科: DP1 ◎, DP7 ◎, N 科: DP1 ◎N: DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TL01454a1, L 科: LL01356a1, D 科・S 科: IL01363a1, P 科: YL01419a2, J 科: JL01365a1, W 科: WL01344a1, N 科: NL01345a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、以下の 4 点のようになることが期待される。 1) ICT 部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO 法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-9																																																							
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化（多様性）を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」（3つの力）を理解できる。																																																							
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。																																																							
科目学習の効果（資格）	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。																																																							
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 </td><td> ・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2 時間） ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読すること（2 時間） </td></tr><tr><td>2</td><td>ビジネスの定義</td><td> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 </td><td> ・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：企業の事例を調べること（2 時間） </td></tr><tr><td>3</td><td>組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー</td><td> ・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 </td><td> ・事前学修：NPO について調べること（2 時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2 時間） </td></tr><tr><td>4</td><td>ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー</td><td> ・グローバル化の明暗について考察する。 </td><td> ・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2 時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2 時間） </td></tr><tr><td>5</td><td>ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー</td><td> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 </td><td> ・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2 時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>6</td><td>ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー</td><td> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 </td><td> ・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2 時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2 時間） </td></tr><tr><td>7</td><td>ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① ー仕事の進め方ー</td><td> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 </td><td> ・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2 時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2 時間） </td></tr><tr><td>8</td><td>ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー</td><td> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 </td><td> ・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2 時間） </td></tr><tr><td>9</td><td>ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー</td><td> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 </td><td> ・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること（2 時間） </td></tr><tr><td>10</td><td>ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）ー</td><td> ・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。 </td><td> ・事前学修：業界内の 2 社 CM を比較し、その特徴をまとめること（2 時間） ・事後学修：CM の必要性の有無に関してレポートを作成すること（2 時間） </td></tr><tr><td>11</td><td>自己実現とキャリアプランニング ーセルフマネジメントと自己啓発ー</td><td> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 </td><td> ・事前学修：自己振り返りシートを作成すること（2 時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>12</td><td>ビジネスプラン①ー起業への意識ー</td><td> ・日常生活での不便点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM 比較をイノベーションの観点から </td><td> ・事前学修：各自がテーマを見つけること（2 時間） ・事後学修：ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2 時間） </td></tr></table>				回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2 時間） ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読すること（2 時間）	2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：企業の事例を調べること（2 時間）	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（2 時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2 時間）	4	ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2 時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2 時間）	5	ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2 時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2 時間）	6	ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2 時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2 時間）	7	ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① ー仕事の進め方ー	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2 時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2 時間）	8	ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2 時間）	9	ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること（2 時間）	10	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）ー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の 2 社 CM を比較し、その特徴をまとめること（2 時間） ・事後学修：CM の必要性の有無に関してレポートを作成すること（2 時間）	11	自己実現とキャリアプランニング ーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成すること（2 時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること（2 時間）	12	ビジネスプラン①ー起業への意識ー	・日常生活での不便点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM 比較をイノベーションの観点から	・事前学修：各自がテーマを見つけること（2 時間） ・事後学修：ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																					
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修：自己紹介の原案を考えること（2 時間） ・事後学修：プレゼンテーション資料を熟読すること（2 時間）																																																					
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修：テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること（2 時間） ・事後学修：企業の事例を調べること（2 時間）																																																					
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化した NPO 組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修：NPO について調べること（2 時間） ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること（2 時間）																																																					
4	ビジネス環境をとらえる①ー経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修：グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること（2 時間） ・事後学修：日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること（2 時間）																																																					
5	ビジネス環境をとらえる②ー地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修：ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること（2 時間） ・事後学修：地球市民として考えたことをまとめること（2 時間）																																																					
6	ビジネス現場をとらえるーオフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修：将来の働き方をイメージし、まとめること（2 時間） ・事後学修：グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること（2 時間）																																																					
7	ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① ー仕事の進め方ー	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修：働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと（2 時間） ・事後学修：自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと（2 時間）																																																					
8	ビジネス実務の基本②ービジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修：CSR について調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：一企業の CSR を選び、レポートを作成すること（2 時間）																																																					
9	ビジネス実務の基本③ービジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修：男女共同参画社会に関して調べ、まとめること（2 時間） ・事後学修：、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること（2 時間）																																																					
10	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル／マーケティング活動とコストパフォーマンス（経理財務）ー	・PDCA サイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修：業界内の 2 社 CM を比較し、その特徴をまとめること（2 時間） ・事後学修：CM の必要性の有無に関してレポートを作成すること（2 時間）																																																					
11	自己実現とキャリアプランニング ーセルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修：自己振り返りシートを作成すること（2 時間） ・事後学修：再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること（2 時間）																																																					
12	ビジネスプラン①ー起業への意識ー	・日常生活での不便点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM 比較をイノベーションの観点から	・事前学修：各自がテーマを見つけること（2 時間） ・事後学修：ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと（2 時間）																																																					

			行う（とくに CSR に関するもの）。	
	13	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。 ・CM 比較プレゼンテーションを準備する。 ・実際に企画を考える。	・事前学修：ビジネスプランを発展させること（2 時間） ・事後学修：ビジネスプランを再考すること（2 時間）
	14	寄付の教室	・寄付行為の意味を考える。	・事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2 時間） ・事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2 時間）
	15	授業のまとめ	・イノベーションの意味を再考する。 ・VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。	・事前学修：この授業の学びをまとめること（2 時間） ・事後学修を：新たな発見をすること（2 時間）
実務経験				
関連科目				
2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder			
Teams コード	dgautb5			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	・グループワーク（30%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（40%）を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。			
学生へのメッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。			
担当者の研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>読解、内容理解、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然？①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然？②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 涙</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする? ①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする? ②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見! ①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見! ②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何をする? ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする? ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見! ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見! ②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何をする? ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする? ②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見! ①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見! ②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	xxuzj4r																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	k8m701sn@yahoo.co.jp																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 日本語の文体</td><td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポート・論文の文体</td><td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記号の使い方</td><td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>段落①</td><td>段落構成について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>段落②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経過説明①</td><td>経過説明の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経過説明②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>分類</td><td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>定義</td><td>定義の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分類・定義</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>11</td><td>引用</td><td>引用の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>要約①</td><td>要約の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>要約②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料の利用</td><td>資料の利用方法を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週 1 時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名（英文）	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科:Ⅲ○,Ⅳ○,R 科:A◎,A 科:C◎,M 科:B2◎,E 科:F○,C 科:Ⅲ○,Ⅵ○,L 科:DP1◎,DP7△,DP8△,D 科:DP1◎,S 科:DP1◎,P 科:DP2△,DP4△,J 科:DP1◎,DP8◎,W 科:DP1◎,DP7◎,N 科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果（資格）	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 前期の復習</td><td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td><td>前期で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポートの言葉と表現</td><td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>レポートの構成</td><td>レポートの構成を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>テーマ決め・資料収集</td><td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td><td>資料を集める</td></tr> <tr> <td>5</td><td>資料を整理する</td><td>集めた資料を整理する</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>アウトライン</td><td>レポートのアウトラインを作成する</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>序論①</td><td>序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>序論②</td><td>序論を書く</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>本論①</td><td>本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>本論②</td><td>本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>本論③</td><td>本論を書く</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>結論①</td><td>結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>結論②</td><td>結論を書く</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ①</td><td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ②</td><td>作成したレポートを元に発表を行う</td><td>発表のF Bを元に復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方（課題、目的の提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方（データ、意見提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方（考察、結論提示）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方（全体のまとめ、今後の課題）を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	18zm0y3																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 （基準）	授業内での取り組み（40%）、提出物（60%）																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4)提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然?①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然?②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする?①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする?②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見!①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見!②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : B○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1△, DP2○, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2 時間)
	4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計 2 時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2 時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計 2 時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2 時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 (計 1.5 時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計 2 時間)
	12	各自のテーマに関する発表 1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計 2 時間)
	13	各自のテーマに関する発表 2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計 2 時間)
	14	各自のテーマに関する発表 3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計 2 時間)
	15	まとめ	全体ふり回り	全体レポート (1.5 時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : B○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1△, DP2○, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, DP7○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。																																																																		
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします																																																																		
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表																																																																		
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス・日本語レベルのチェック</td><td>授業の概要・進め方について・スピーチ</td><td>資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>テーマ「言語」</td><td>文献講読、日本語の表現、タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>テーマ「言語」</td><td>タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>テーマ「言語」</td><td>タスク、ディスカッション</td><td>テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>テーマ「教育」</td><td>文献講読、日本語の表現、タスク</td><td>資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>テーマ「教育」</td><td>タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>：テーマ「教育」</td><td>タスク、ディスカッション</td><td>テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>テーマ「ジェンダー」</td><td>文献講読、日本語の表現、タスク</td><td>資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>テーマ「ジェンダー」</td><td>タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>テーマ「ジェンダー」</td><td>タスク、ディスカッション</td><td>テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>発表について</td><td>説明</td><td>発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表</td><td>発表、質疑応答、ディスカッション</td><td>発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表</td><td>発表、質疑応答、ディスカッション</td><td>発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表</td><td>発表、質疑応答、ディスカッション</td><td>発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計 2 時間) (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ふり取り、まとめ</td><td></td><td>レポートを書く(計 2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)	2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)	5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)	6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	7	：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)	8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)	9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計 2 時間)	11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)	12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)	13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)	14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計 2 時間) (計 2 時間)	15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計 2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)																																																																
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)																																																																
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)																																																																
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
7	：テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)																																																																
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)																																																																
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計 2 時間)																																																																
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)																																																																
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)																																																																
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)																																																																
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計 2 時間) (計 2 時間)																																																																
15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計 2 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プリント配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>映画でジャパニーズ</td><td>窪田守弘編</td><td>南雲堂フェニックス</td></tr> <tr> <td>2</td><td>映画で日本文化を学ぶ人のために</td><td>窪田守弘編</td><td>世界思想社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス																																																																
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社																																																																
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	h0ek4j4																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	授業では、日本語の 4 技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)																																																																		
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。																																																																		

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP7◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名（英文）	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科:Ⅲ○,Ⅳ○,R 科:A◎,A 科:C◎,M 科:B2◎,E 科:F○,C 科:Ⅲ○,Ⅵ○,L 科:DP1◎,DP7△,DP8△,D 科:DP1◎,S 科:DP1◎,P 科:DP2△,DP4△,J 科:DP1◎,DP7◎,W 科:DP1◎,DP7◎,N 科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成（残り）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習（文体に気を付ける）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点（アイコンタクト、身振り、文体）を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成（残り）																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習（文体に気を付ける）																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Web Folder																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室（7 号館 2 階）																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A○, A 科 : C○, M 科 : B2○, E 科 : F○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1○, DP7△, DP8△, D 科 : DP1○, S 科 : DP1○, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1○, W 科 : DP1○, DP7○, N 科 : DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td><td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Eメールの書き方 1</td><td>Eメールの基本</td><td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Eメールの書き方 2</td><td>レポート提出のメール</td><td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Eメールの書き方 3</td><td>依頼メール 1</td><td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Eメールの書き方 4</td><td>依頼メール 2</td><td>依頼メールの書き方の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Eメールの書き方 5</td><td>問い合わせ／質問メール</td><td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し方 1</td><td>話題の変え方</td><td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し方 2</td><td>話の終わらせ方</td><td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>話し方 3</td><td>話の広げ方</td><td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己 PR 1</td><td>自己 PR とは何か</td><td>自己 PR で必要な項目を復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己 PR 2</td><td>自己 PR 例の検討、修正 1</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自己 PR 3</td><td>自己 PR 例の検討、修正 2</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>自己 PR 4</td><td>自分の自己 PR を書く 1</td><td>自己 PR で必要な形式、書き方の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自己 PR 5</td><td>自分の自己 PR を書く 2</td><td>自己 PR の書き方の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>今学期で学んだことを振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等 (70%)、課題等の提出物 (30%)																																																																		
学生への メッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語のレベルチェック	授業の説明	授業で確認した語彙、表現の復習
	2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
	5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
	6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
	7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
	8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
	9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
	10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
	11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
	14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	6zei4yu
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール、チーム内のチャット等
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	オンライン授業時の参加度、確認問題、活動、課題等の提出物により総合的に判断する。
学生への メッセージ	オンライン授業では積極的に発言することが求められます。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語で自分の意見を明確に表明できるようになることを目的とします。また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。 授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。																																																																		
到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策を提示する。 教員は適宜フィードバックを行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介</td><td>自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 2</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 3</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 4</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 5</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 6</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 7</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 8</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 9</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 10</td><td>まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。</td><td>授業で使用した語彙や表現を復習する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表準備 1</td><td>スクリプトの作成</td><td>発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 2</td><td>スクリプトの修正 発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 3</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>自分の発表の反省</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)	2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)	13	発表準備 2	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 3	発表資料の修正	発表練習	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	自分の発表の反省
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)																																																																
2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。																																																																
12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)																																																																
13	発表準備 2	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 3	発表資料の修正	発表練習																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	自分の発表の反省																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2																																																							
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み 50%、口頭発表 50%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、発表形式とし、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u0vvhe6																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	日本語読解R	科目名 (英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。																																																																		
授業方法と留意点	・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td><td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>フリーズする脳</td><td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>「科学」の定義①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>「科学」の定義②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>6</td><td>現代の若者のマナー①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現代の若者のマナー②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>8</td><td>親孝行な男の子</td><td>読解、内容理解、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>言語と文化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>言語と文化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ローソクの進化①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ローソクの進化②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td><td>語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>13</td><td>「割り勘」は当然？①</td><td>読解、内容理解</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>「割り勘」は当然？②</td><td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション 日本語の文体</td><td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>レポート・論文の文体</td><td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記号の使い方</td><td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>段落①</td><td>段落構成について学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>段落②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>6</td><td>経過説明①</td><td>経過説明の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>経過説明②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>8</td><td>分類</td><td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>定義</td><td>定義の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分類・定義</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>11</td><td>引用</td><td>引用の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>要約①</td><td>要約の書き方を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>要約②</td><td>実践練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>資料の利用</td><td>資料の利用方法を学ぶ</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>統計と数字①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>統計と数字②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>背理法①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>背理法②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>「待つ」こと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>「待つ」こと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ついでに何をする?①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>ついでに何をする?②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ウイルス発見!①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ウイルス発見!②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>大学で学ぶこと①</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>大学で学ぶこと②</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>何のために「学ぶ」のか</td><td>文法項目の解説と練習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>授業内で使用したプリントを使い復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。 (4) 小テストの FB に関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III o, IV o, R 科 : A o, A 科 : C o, M 科 : B2 o, E 科 : B o, C 科 : III o, VI o, L 科 : DP1 Δ, DP2 o, D 科 : DP1 o, S 科 : DP1 o, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 o, W 科 : DP1 o, N 科 : DP1 o, DP8 ΔN : DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	2	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	3	テーマ「大学生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2 時間)
	4	テーマ「大学生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計 2 時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2 時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計 2 時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習：資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5 時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2 時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 (計 1.5 時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計 2 時間)
	12	各自のテーマに関する発表 1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計 2 時間)
	13	各自のテーマに関する発表 2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計 2 時間)
	14	各自のテーマに関する発表 3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計 2 時間)
	15	まとめ	全体ふり回り	全体レポート (1.5 時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう！
担当者の 研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III○, IV○, R 科 : A◎, A 科 : C◎, M 科 : B2◎, E 科 : B○, C 科 : III○, VI○, L 科 : DP1△, DP2○, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP2△, DP4△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎, DP8△N : DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。																																																																		
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします																																																																		
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表																																																																		
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス・日本語レベルのチェック</td><td>授業の概要・進め方について・スピーチ</td><td>資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>テーマ「言語」</td><td>文献講読、日本語の表現、タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>テーマ「言語」</td><td>タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>テーマ「言語」</td><td>タスク、ディスカッション</td><td>テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>テーマ「教育」</td><td>文献講読、日本語の表現、タスク</td><td>資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>テーマ「教育」</td><td>タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>: テーマ「教育」</td><td>タスク、ディスカッション</td><td>テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>テーマ「ジェンダー」</td><td>文献講読、日本語の表現、タスク</td><td>資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>テーマ「ジェンダー」</td><td>タスク</td><td>タスクシートの課題(1.5 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>テーマ「ジェンダー」</td><td>タスク、ディスカッション</td><td>テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>発表について</td><td>説明</td><td>発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表</td><td>発表、質疑応答、ディスカッション</td><td>発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表</td><td>発表、質疑応答、ディスカッション</td><td>発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表</td><td>発表、質疑応答、ディスカッション</td><td>発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計 2 時間) (計 2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>ふり返り、まとめ</td><td></td><td>レポートを書く(計 2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)	2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)	5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)	6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)	8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)	9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)	10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計 2 時間)	11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)	12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)	13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)	14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計 2 時間) (計 2 時間)	15	ふり返り、まとめ		レポートを書く(計 2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)																																																																
2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)																																																																
5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)																																																																
6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計 2 時間)																																																																
8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5 時間)																																																																
9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5 時間)																																																																
10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計 2 時間)																																																																
11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)																																																																
12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)																																																																
13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計 2 時間)																																																																
14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計 2 時間) (計 2 時間)																																																																
15	ふり返り、まとめ		レポートを書く(計 2 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>プリント配布</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント配布			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント配布																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>映画でジャパニーズ</td><td>窪田守弘編</td><td>南雲堂フェニックス</td></tr> <tr> <td>2</td><td>映画で日本文化を学ぶ人のために</td><td>窪田守弘編</td><td>世界思想社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス																																																																
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社																																																																
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	h0ek4j4																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	授業では、日本語の 4 技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 4 階(門脇研究室)																																																																		
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Web Folder																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	専門日本語 R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: F○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△N : DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用</td><td>様々なコミュニケーションの形式の復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Eメールの書き方 1</td><td>Eメールの基本</td><td>Eメールで使われる形式、表現等の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Eメールの書き方 2</td><td>レポート提出のメール</td><td>レポート提出に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Eメールの書き方 3</td><td>依頼メール 1</td><td>依頼メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Eメールの書き方 4</td><td>依頼メール 2</td><td>依頼メールの書き方の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Eメールの書き方 5</td><td>問い合わせ／質問メール</td><td>問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>話し方 1</td><td>話題の変え方</td><td>話題を変える時に必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>話し方 2</td><td>話の終わらせ方</td><td>話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>話し方 3</td><td>話の広げ方</td><td>話の広げ方で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己 PR 1</td><td>自己 PR とは何か</td><td>自己 PR で必要な項目を復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自己 PR 2</td><td>自己 PR 例の検討、修正 1</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自己 PR 3</td><td>自己 PR 例の検討、修正 2</td><td>自己 PR で必要な語彙、表現の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>自己 PR 4</td><td>自分の自己 PR を書く 1</td><td>自己 PR で必要な形式、書き方の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自己 PR 5</td><td>自分の自己 PR を書く 2</td><td>自己 PR の書き方の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>総復習</td><td>今学期で学んだことを振り返る。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習	2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習	3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習	4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習	5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習	6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習	7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習	8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習	9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習	10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習	11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習	13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習	14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習																																																																
2	Eメールの書き方 1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習																																																																
3	Eメールの書き方 2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習																																																																
4	Eメールの書き方 3	依頼メール 1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
5	Eメールの書き方 4	依頼メール 2	依頼メールの書き方の復習																																																																
6	Eメールの書き方 5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習																																																																
7	話し方 1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習																																																																
8	話し方 2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
9	話し方 3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習																																																																
10	自己 PR 1	自己 PR とは何か	自己 PR で必要な項目を復習																																																																
11	自己 PR 2	自己 PR 例の検討、修正 1	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
12	自己 PR 3	自己 PR 例の検討、修正 2	自己 PR で必要な語彙、表現の復習																																																																
13	自己 PR 4	自分の自己 PR を書く 1	自己 PR で必要な形式、書き方の復習																																																																
14	自己 PR 5	自分の自己 PR を書く 2	自己 PR の書き方の復習																																																																
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	専門日本語 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等 (70%)、課題等の提出物 (30%)																																																																		
学生への メッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語会話 R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: F o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 ΔN: DP1 o, DP8 Δ		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。																																																																		
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。																																																																		
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td><td>授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ</td><td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>トピック 1-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>3</td><td>トピック 1-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>トピック 2-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>5</td><td>トピック 2-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>トピック 3-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>7</td><td>トピック 3-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>トピック 4-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>9</td><td>トピック 4-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>トピック 5-1</td><td>内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る</td><td>授業で使った語彙を復習し、覚える</td></tr> <tr> <td>11</td><td>トピック 5-2</td><td>前回聞いた内容について発表する</td><td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発表資料の作り方</td><td>発表資料の作り方について学ぶ</td><td>発表テーマを決めておく</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発表準備 1</td><td>発表資料の作成</td><td>発表資料の作成 (残り)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発表準備 2</td><td>発表資料の修正</td><td>発表練習 (文体に気を付ける)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>口頭発表</td><td>発表 質疑応答 振り返り</td><td>質疑応答の仕方について復習する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																																
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使った語彙を復習し、覚える																																																																
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する																																																																
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく																																																																
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)																																																																
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)																																																																
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u0vvhe6																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。																																																																		
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。																																																																		
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7 号館 2 階)																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。																																																																		

科目名	教師論	科目名（英文）	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
	2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
	3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
	4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
	5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
	6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
	7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
	8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読み レポート提出
	9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」 レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読み レポート提出
	10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する 配布資料
	11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
	12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
	13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
	14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
	15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	【授業スケジュール】 下記のことを基に今回のスケジュール変更に合わせてものとなります。各回の授業内容についてはその都度お知らせします。 【授業方法】 ①基本的に「教材・課題提供型授業」で行います。毎回、こちらから課題を提示しますので、教科書を使って課題に取り組んでください。終了後は課題を提出してください。 ②毎回の授業の終わりにコメントペーパーOPP シート (One Page Portfolio シート) を書いてもらいます。課題と一緒に提出してください。その中からいくつかを次の授業の資料として紹介し
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭 1 種免許状 (2) 中学校教諭 1 種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 20～22 及び P. 94～95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 23～25 及び P. 77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 26～27 及び 81～82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 28～29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	12	現代の教育理論②： 20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P. 169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。
実務経験				
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーOPP シートの内容 (30%) や学期末のレポート結果 (70%) 等をもとに総合的に評価します。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学習は今回できません。しかし、皆さんからの質問やこちらからのコメント・補足、授業資料上での感想や疑問等の共有、等の方法を考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。																																																																		
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は、インターネット上に教材・課題を提供することで行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」 10 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>発達と教育と心理学と 1</td><td>教育に対して心理学ができること、発達と教育</td><td>テキスト第 0 章 1, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>発達と教育と心理学と 2</td><td>発達の要因, 主な発達理論の概観</td><td>テキスト第 8 章 1, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>こどもの発達 1</td><td>乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達</td><td>テキスト第 8 章 2・第 9 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>こどもの発達 2</td><td>児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達</td><td>テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>こどもの発達 3</td><td>青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達</td><td>テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章・第 12 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>学習を支える認知機能 1</td><td>思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達</td><td>テキスト第 7 章 1, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>学習を支える認知機能 2</td><td>言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達</td><td>テキスト第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>学習を支える認知機能 3</td><td>記憶.....記憶のメカニズムと発達</td><td>テキスト第 4 章・第 5 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>こどもの学び 1</td><td>さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ</td><td>テキスト第 1 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>こどもの学び 2</td><td>さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習</td><td>テキスト第 1 章・第 6 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>学習を支える動機づけ 1</td><td>意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論</td><td>テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>学習を支える動機づけ 2</td><td>さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達</td><td>テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>学習を支える動機づけ 3</td><td>意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価</td><td>テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学校における人間関係</td><td>教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級</td><td>テキスト第 0 章 2・第 10 章, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>個に応じた教育</td><td>個人差の理解と教育.....A T I, 学習方略</td><td>テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2, 配付資料による本時の予習と復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	発達と教育と心理学と 1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第 0 章 1, 配付資料による本時の予習と復習	2	発達と教育と心理学と 2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第 8 章 1, 配付資料による本時の予習と復習	3	こどもの発達 1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 9 章, 配付資料による本時の予習と復習	4	こどもの発達 2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習	5	こどもの発達 3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章・第 12 章, 配付資料による本時の予習と復習	6	学習を支える認知機能 1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第 7 章 1, 配付資料による本時の予習と復習	7	学習を支える認知機能 2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習	8	学習を支える認知機能 3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第 4 章・第 5 章, 配付資料による本時の予習と復習	9	こどもの学び 1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第 1 章, 配付資料による本時の予習と復習	10	こどもの学び 2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第 1 章・第 6 章, 配付資料による本時の予習と復習	11	学習を支える動機づけ 1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習	12	学習を支える動機づけ 2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習	13	学習を支える動機づけ 3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習	14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第 0 章 2・第 10 章, 配付資料による本時の予習と復習	15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....A T I, 学習方略	テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2, 配付資料による本時の予習と復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	発達と教育と心理学と 1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第 0 章 1, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
2	発達と教育と心理学と 2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第 8 章 1, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
3	こどもの発達 1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 9 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
4	こどもの発達 2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
5	こどもの発達 3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第 8 章 2・第 10 章・第 11 章・第 12 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
6	学習を支える認知機能 1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第 7 章 1, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
7	学習を支える認知機能 2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第 11 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
8	学習を支える認知機能 3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第 4 章・第 5 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
9	こどもの学び 1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第 1 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
10	こどもの学び 2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第 1 章・第 6 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
11	学習を支える動機づけ 1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
12	学習を支える動機づけ 2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
13	学習を支える動機づけ 3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第 2 章・第 3 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第 0 章 2・第 10 章, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....A T I, 学習方略	テキスト第 0 章 3・第 6 章・第 7 章 2, 配付資料による本時の予習と復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	教職課程におけるすべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—</td><td>藤田哲也 (編著)</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%																																																																		
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階 (吉田研究室)																																																																		

備考	・授業内で, moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。 ・期末試験は希望者に返却します。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 間程度とする。
----	--

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。																																																																		
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。																																																																		
授業方法と留意点	遠隔授業の講義方法により授業を行う。具体的には Moodle や Teams、Zoom 等を用い、教材・課題提供型の授業を行う。その他、双方向性が可能かつ履修学生のみなさんの利用しやすい SNS などにも利用する予定である。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載																																																																		
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション 教育社会学とは</td><td>教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。</td><td>事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>新自由主義と学校教育</td><td>近年の学校教育(制度)の質的転換について、学校教育を社会学観点から考察する。</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>マイノリティと教育Ⅰ</td><td>マイノリティという概念について</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>マイノリティと教育Ⅱ</td><td>前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について検討する。</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>マイノリティと教育Ⅲ</td><td>前時の内容を受けて、実際に学校現場において「外国にルーツのある子どもたち」の生活実態、学校における支援体制について学ぶ。</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>教育格差・学力格差問題Ⅰ</td><td>教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>教育格差・学力格差問題Ⅱ</td><td>貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考え、子どもたちの現状についての理解を深める。</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>教育格差・学力格差問題Ⅲ</td><td>格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。</td><td>事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>学校教育の現場を知るⅠ</td><td>今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。</td><td>事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>学校教育の現場を知るⅡ</td><td>今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。</td><td>事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>学校教育の現場を知るⅢ</td><td>今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。</td><td>事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>ジェンダーと教育Ⅰ</td><td>学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。</td><td>事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ジェンダーと教育Ⅱ</td><td>事前課題として出していたジェンダー問題を扱った資料(読み物)についての解説と説明。</td><td>事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>ジェンダーと教育Ⅲ</td><td>ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について考える。</td><td>事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>全体のふりかえり</td><td>事前課題：最終レポートの準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。	2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について、学校教育を社会学観点から考察する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	3	マイノリティと教育Ⅰ	マイノリティという概念について	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	4	マイノリティと教育Ⅱ	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について検討する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	5	マイノリティと教育Ⅲ	前時の内容を受けて、実際に学校現場において「外国にルーツのある子どもたち」の生活実態、学校における支援体制について学ぶ。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	6	教育格差・学力格差問題Ⅰ	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	7	教育格差・学力格差問題Ⅱ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考え、子どもたちの現状についての理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	8	教育格差・学力格差問題Ⅲ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	9	学校教育の現場を知るⅠ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。	10	学校教育の現場を知るⅡ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。	11	学校教育の現場を知るⅢ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。	12	ジェンダーと教育Ⅰ	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	13	ジェンダーと教育Ⅱ	事前課題として出していたジェンダー問題を扱った資料(読み物)についての解説と説明。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。	14	ジェンダーと教育Ⅲ	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。	15	総括	全体のふりかえり	事前課題：最終レポートの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。																																																																
2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について、学校教育を社会学観点から考察する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
3	マイノリティと教育Ⅰ	マイノリティという概念について	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
4	マイノリティと教育Ⅱ	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について検討する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
5	マイノリティと教育Ⅲ	前時の内容を受けて、実際に学校現場において「外国にルーツのある子どもたち」の生活実態、学校における支援体制について学ぶ。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
6	教育格差・学力格差問題Ⅰ	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
7	教育格差・学力格差問題Ⅱ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考え、子どもたちの現状についての理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
8	教育格差・学力格差問題Ⅲ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
9	学校教育の現場を知るⅠ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。																																																																
10	学校教育の現場を知るⅡ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。																																																																
11	学校教育の現場を知るⅢ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。																																																																
12	ジェンダーと教育Ⅰ	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
13	ジェンダーと教育Ⅱ	事前課題として出していたジェンダー問題を扱った資料(読み物)についての解説と説明。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
14	ジェンダーと教育Ⅲ	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。																																																																
15	総括	全体のふりかえり	事前課題：最終レポートの準備																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td><td>久富善之、長谷川裕</td><td>学文社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社																																																								
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社																																																																

	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題 (60%)、宿題 (20%)、最終レポート (20%) それぞれの提出状況、及びその内容をチェックし、総合的に判断し、評価する。			
学生への メッセージ	毎回の事前課題にしっかりと取り組み、授業（遠隔授業）を受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 部を読んでくる。
	2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 2 部を読んでくる。
	3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 1 部を読んでくる。
	4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 1 部を読んでくる。
	5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第 1 部を読んでくる。
	6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 3 部を読んでくる。
	7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 3 部を読んでくる。
	8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 3 部を読んでくる。
	9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 3 部を読んでくる。
	10	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第 3 部を読んでくる。
	11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第 4 部を読んでくる。
	12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・労務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 4 部を読んでくる。
	13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 4 部を読んでくる。
	14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 4 部を読んでくる。
	15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 4 部を読んでくる。

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	遠隔授業中心に課題提出型の授業スタイルが基本となります。よって、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業全体を通して、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読み、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、熟読しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教育課程とは何か／オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。授業後にまとめたレポートをオンライン提出する。
	2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
	15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成し、オンライン提出する。
実務経験				
関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
	2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版

	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題とふりかえりレポートの内容（60%）と最終レポート（40%）により総合的に評価する。			
学生への メッセージ	毎回、事前学習をしっかりと行い、ふりかえりレポートを期限内に提出してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp			
備考	2009年度以前入学生は、(高校) 教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	工業科教育法 I	科目名 (英文)	Engineering Education I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者の工業高等学校等における経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。																																																																		
到達目標	工業高等学校における技術教育を行うために必要な基礎的知識を修得できる。																																																																		
授業方法と留意点	教材・課題提供型授業を行い、原則毎回レポートの提出を求めます。また、「MicrosoftTeams」を活用することで質疑応答の機会を確保し、実践的な基礎的知識の修得を図ります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	工業高等学校の教員 1 種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容></td><td>オリエンテーション。 工業教育の意義について解説する。 レポート 1</td><td>参考書による予習 (2 時間) 配付プリントによる復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容></td><td>工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。 レポート 1 に対する質疑応答</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容></td><td>工業教育における技術者倫理の育成について解説し、研究協議を行う。 レポート 2</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令></td><td>教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (日本国憲法、教育基本法等)。 レポート 2 に対する質疑応答</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令></td><td>教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (新旧教育基本法の比較等)。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令></td><td>教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(学校教育法等)。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令></td><td>教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領の歴史等)。 レポート 3</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令></td><td>教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領総則関係)。 レポート 3 に対する質疑応答</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令></td><td>教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領解説工業編)。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状></td><td>日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代初期の工業の教育等)。 小テスト 1</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状></td><td>日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代中期以降の工業の教育等)。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状></td><td>日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する。(大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等)。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状></td><td>高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目></td><td>工業技術基礎の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目></td><td>課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。 小テスト 2</td><td>配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	オリエンテーション。 工業教育の意義について解説する。 レポート 1	参考書による予習 (2 時間) 配付プリントによる復習 (2 時間)	2	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。 レポート 1 に対する質疑応答	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	3	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育における技術者倫理の育成について解説し、研究協議を行う。 レポート 2	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	4	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (日本国憲法、教育基本法等)。 レポート 2 に対する質疑応答	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	5	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (新旧教育基本法の比較等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	6	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(学校教育法等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	7	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領の歴史等)。 レポート 3	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	8	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領総則関係)。 レポート 3 に対する質疑応答	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	9	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領解説工業編)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	10	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代初期の工業の教育等)。 小テスト 1	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	11	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代中期以降の工業の教育等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	12	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する。(大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	13	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	14	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	工業技術基礎の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)	15	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。 小テスト 2	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	オリエンテーション。 工業教育の意義について解説する。 レポート 1	参考書による予習 (2 時間) 配付プリントによる復習 (2 時間)																																																																
2	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。 レポート 1 に対する質疑応答	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
3	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業教育の意義・役割・目標・内容>	工業教育における技術者倫理の育成について解説し、研究協議を行う。 レポート 2	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
4	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (日本国憲法、教育基本法等)。 レポート 2 に対する質疑応答	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
5	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (新旧教育基本法の比較等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
6	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(学校教育法等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
7	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領の歴史等)。 レポート 3	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
8	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領総則関係)。 レポート 3 に対する質疑応答	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
9	工業教育の意義・歴史・法令関係<教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領解説工業編)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
10	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代初期の工業の教育等)。 小テスト 1	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
11	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代中期以降の工業の教育等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
12	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する。(大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等)。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
13	工業教育の意義・歴史・法令関係<工業高校発展の歴史と現状>	高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
14	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	工業技術基礎の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
15	教科・工業の内容関係<教科・工業の共通科目>	課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議・発表を行う。 小テスト 2	配付プリント等による予習 (2 時間) 配付プリント等による復習 (2 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名																																																												
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																

	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
	3	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポートにより評価する。			
学生への メッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館			
備考	連絡は11号館1F教務課へ			

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法Ⅱでは、外国や専門学校における工業教育、学習指導、学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価、授業改善、さらに進路指導や学校運営について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。 授業担当者の工業高等学校等における経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。																																																																		
到達目標	工業高等学校における技術教育を行うために必要な基礎的知識が修得できる。																																																																		
授業方法と留意点	教材・課題提供型授業と対面授業、模擬授業を行います。教材・課題提供型授業では原則毎回レポートの提出を求めます。模擬授業では各専門科目の模擬授業と各分野に共通する科目等の模擬授業を行う予定です。																																																																		
科目学習の効果（資格）	工業高等学校の教員1種免許を得るために必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>外国の技術・工業教育の紹介</td><td>外国の技術・工業教育の具体例を説明する（アメリカ、韓国、ドイツ）。</td><td>参考書による予習（2時間） 配付プリントによる復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について></td><td>専門学校などの工業教育の内容について説明する。 レポート1</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>教科・工業の内容関係<実践的工業教育></td><td>実験・実習、情報機器の活用について解説し、研究協議等を行う。 レポート1に対する質疑応答</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>教育課程について</td><td>教育課程の意義・目標・役割などについて解説する。</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>安全教育について</td><td>工業科における施設・設備と安全教育について解説する。 レポート2</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>授業設計について</td><td>授業の方法や形態、情報機器の活用について解説する。 レポート2に対する質疑応答</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>授業設計について</td><td>学習指導案、評価規準、教材の活用について解説する。</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>授業設計について</td><td>工業科における学習指導案の作成方法について解説する。 学習指導案を作成し、発表する。</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>模擬授業と評価および意見交換</td><td>工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。</td><td>模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>模擬授業と評価および意見交換</td><td>工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。</td><td>模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>授業設計について</td><td>原則履修科目である情報技術基礎学習指導案を作成し、発表する。</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>模擬授業と評価および意見交換</td><td>情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。</td><td>模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>模擬授業と評価および意見交換</td><td>情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。 レポート3</td><td>模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>工業高校現状と課題について</td><td>工業教育の現状と今後の発展、問題解決学習について解説する。 レポート3に対する質疑応答</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>工業高校現状と課題について <今後の展望></td><td>学修のまとめとして模擬授業等を通じて学んだことをまとめる。</td><td>配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（アメリカ、韓国、ドイツ）。	参考書による予習（2時間） 配付プリントによる復習（2時間）	2	教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について>	専門学校などの工業教育の内容について説明する。 レポート1	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	3	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	実験・実習、情報機器の活用について解説し、研究協議等を行う。 レポート1に対する質疑応答	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	4	教育課程について	教育課程の意義・目標・役割などについて解説する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	5	安全教育について	工業科における施設・設備と安全教育について解説する。 レポート2	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	6	授業設計について	授業の方法や形態、情報機器の活用について解説する。 レポート2に対する質疑応答	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	7	授業設計について	学習指導案、評価規準、教材の活用について解説する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	8	授業設計について	工業科における学習指導案の作成方法について解説する。 学習指導案を作成し、発表する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	9	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）	10	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）	11	授業設計について	原則履修科目である情報技術基礎学習指導案を作成し、発表する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	12	模擬授業と評価および意見交換	情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）	13	模擬授業と評価および意見交換	情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。 レポート3	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）	14	工業高校現状と課題について	工業教育の現状と今後の発展、問題解決学習について解説する。 レポート3に対する質疑応答	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）	15	工業高校現状と課題について <今後の展望>	学修のまとめとして模擬授業等を通じて学んだことをまとめる。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	外国の技術・工業教育の紹介	外国の技術・工業教育の具体例を説明する（アメリカ、韓国、ドイツ）。	参考書による予習（2時間） 配付プリントによる復習（2時間）																																																																
2	教科・工業の内容関係<専門学校などの工業教育について>	専門学校などの工業教育の内容について説明する。 レポート1	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
3	教科・工業の内容関係<実践的工業教育>	実験・実習、情報機器の活用について解説し、研究協議等を行う。 レポート1に対する質疑応答	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
4	教育課程について	教育課程の意義・目標・役割などについて解説する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
5	安全教育について	工業科における施設・設備と安全教育について解説する。 レポート2	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
6	授業設計について	授業の方法や形態、情報機器の活用について解説する。 レポート2に対する質疑応答	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
7	授業設計について	学習指導案、評価規準、教材の活用について解説する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
8	授業設計について	工業科における学習指導案の作成方法について解説する。 学習指導案を作成し、発表する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
9	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）																																																																
10	模擬授業と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議する。	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）																																																																
11	授業設計について	原則履修科目である情報技術基礎学習指導案を作成し、発表する。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
12	模擬授業と評価および意見交換	情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）																																																																
13	模擬授業と評価および意見交換	情報技術基礎の模擬授業を実施し、研究協議する。 レポート3	模擬授業の予習（2時間）・復習（2時間）																																																																
14	工業高校現状と課題について	工業教育の現状と今後の発展、問題解決学習について解説する。 レポート3に対する質疑応答	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
15	工業高校現状と課題について <今後の展望>	学修のまとめとして模擬授業等を通じて学んだことをまとめる。	配付プリント等による予習（2時間） 配付プリント等による復習（2時間）																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>高等学校学習指導要領</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td>高等学校学習指導要領解説工業編</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td>「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」</td><td>池守滋、佐藤弘幸、中村豊久</td><td>実教出版株式会社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領	文部科学省		2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省		3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	高等学校学習指導要領	文部科学省																																																																	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省																																																																	
3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社																																																																
授業形態	Web Folder／対面授業																																																																		
Teams コード	tpb18r9																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	Teams を利用する																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。																																																																		

	メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 50%、模擬授業 50% (予定) により評価する。
学生への メッセージ	工業科教育関係に必要な科目です。
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館
備考	連絡は 1 1 号館 1F 教務課へ

科目名	数学科教育法 I	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるようにするための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用能力」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	(1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する 30 分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	前半は Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業、後半のマイクロティーチングにおいてはグループ学習・活動を実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視聴覚教材を用いて講義を進める。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学))

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
	2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
	3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
	4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
	5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
	6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
	7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
	8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
	9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
	10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
	11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
	12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHP などの活用について。	課題レポート
	13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30 分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
	14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶものの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
	15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート
実務経験				
関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編		

	2	高等学校学習指導要領解説 総則編		
	3	中学校学習指導要領解説 数学編		
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle／対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	数学科教育法 I mmt1t2020			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。 マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。 マイクロティーチングについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。			
学生への メッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回2時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。 課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。			

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅱでは、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力などを育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画をたて、学習指導案（指導細案）を作成し、約50分のマイクロティーチング（模擬授業）を行うことができる。
授業方法と留意点	前半は Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」、後半は Microsoft Teams を利用した「コミュニケーション型授業」、でのオンライン授業を行う。グループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（高等学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
	2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
	3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだ」と思うこととは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
	4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものに関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
	5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
	6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
	7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
	8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
	9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
	10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
	11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
	12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
	13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Action」のサイクル」をシステムティックに組み上げる。	課題レポート
	14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
	15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えを	課題レポート

			まとめ、各自の「学力観」を立てる。																	
実務経験																				
関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅰを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>高等学校学習指導要領解説 総則編</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領解説 数学編</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編			2	高等学校学習指導要領解説 総則編			3	中学校学習指導要領解説 数学編		
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領解説 数学編 理数編																			
2	高等学校学習指導要領解説 総則編																			
3	中学校学習指導要領解説 数学編																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マイクロティーチングと評価のまとめで50%とする。 マイクロティーチングについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。																			
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。																			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室																			
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回2時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。 課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。																			

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	・数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。 ・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。 ・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、プレゼンテーション・模擬授業をととして「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。 ・校種間の連携も考え、小学校・高等学校の学習・指導についても学ぶ。
到達目標	・中学校学習指導の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・PISA型学力と生きる力の理解と育成法の体得 ・必須授業力の理解と自己の授業力の育成 ・模擬授業の基礎力 ・評価と評定についての理解
授業方法と留意点	グループ学習・活動で実施する。 自らが発見した課題に積極的に取り組み、レポートの提出を求める。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
	2	数学教育の目的と目標 学習指導案	学習指導要領から目標などを学ぶ。 典型的な学習指導案の作成について学ぶ。	課題レポート
	3	数学教育の歴史	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	課題レポート
	4	数学教科書比較	学習指導要領などを基に教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
	5	数学教科書比較	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	課題レポート
	6	算数教育から数学教育へ	小学校算数教育の内容を通じて、小中の算数数学教育の連携をどのように考えるべきかについて学ぶ。	課題レポート
	7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指授の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
	8	数学教材とその応用（1）	代数・幾何分野（発展的内容を含む）などの数学教材を基にその指導についての現状を知る。	課題レポート
	9	数学教材とその応用（2）	代数・幾何分野（発展的内容を含む）などの数学教材を基に教育・指導観を吟味する。	課題レポート
	10	教科書比較・模擬授業に関わる考察（1）	各自の発表に関して、該当単元設置の目的、注意点についてまとめ、発表する。	課題レポート
	11	教科書比較・模擬授業に関わる考察（2）	相互の準備状況について意見交換を行い、発表に備える。	課題レポート
	12	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習（1）	各自の求める数学教育について、「15分間の模擬授業委」にまとめ、実践する。	課題レポート
	13	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習（2）	グループ員各々の模擬授業を「学ぶもの」の立場、「同僚（教えるもの）としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
	14	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習（3）	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート
	15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	課題レポート

実務経験			
関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修されておくことが望ましい。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle／対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	mathkyoiku3			
連絡手段	指定メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	☐ 模擬授業は必須。 ☐ 受講生・グループで連携が必要。 ☒ 日常学習状況を考慮しつつ、教科書比較・模擬授業などのレポートで評価（100％）を行う。			
学生への メッセージ	☒ 授業を開始にあたり、2020 年後期 ICT ツールを使用する関係上、下記備考を必ずお読みください。 ☐ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループを中心に、新しい教材開発など積極的な活動を求める。			
担当者の 研究室等	対応は、当該講義内が中心となります。 ただし、2020 年後期は、ICT ツール Moodle を用いた授業となるため、連絡を取る必要ががる場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。			
備考	☐ 授業は、基本的に、ICT ツール Moodle を用いつつ、状況に応じて対面授業を実施する可能性があります。 ☒ 授業開始前の二日以上前までに受講生は、別途記した指定アドレスまでご連絡ください。 ☒ Moodle 上に作成した「2020 後期 数学科教育法Ⅲ」に自己登録してください。 ☐ 事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。			

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名（英文）	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅳでは、中学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できるようにするための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。バズ式セッション・グループ活動を学習形態に取り入れ、生徒の学習意欲をたかめ、自ら学び自ら考える力を育てるという課題を持ってプロジェクトをたてる。各自がたてた課題解決プロジェクトを互いに他者評価し、自己評価して実践的な学びを展開する。教育職としてのPDCA策定。
到達目標	・中学校学習指導要領（数学）の内容（単元の学年配当、4領域＋1分野）の心得 ・数学的な活動を含んだ教育課程の編成についての理解 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチングの実践力 ・他者評価法の理解と実践力
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（中学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
	2	中学校・高等学校学習指導要領と評価	学習指導要領の確認、評価の方法に浮いて学ぶ。	課題レポート
	3	数学教材とその応用（1）	中学校の教材を中心に集合的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
	4	数学教材とその応用（2）	「中学校の教材を中心に代数的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
	5	数学教材とその応用（3）	「中学校の教材を中心に幾何的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
	6	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価をおこない、観点別評価を実践する。	課題レポート
	7	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
	8	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50 分間の模擬授業」をおこなう。	課題レポート
	9	数学教材とその応用（4）	「中学校の教材を中心に解析的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
	10	数学教材とその応用（5）	「中学校の教材を中心に統計的分野においてその指導法・発展的内容について考える。	課題レポート
	11	数学史的観点からの数学教材（1）	数学史的観点を取り入れ円周率について考察する。	課題レポート
	12	数学史的観点からの数学教材（2）	数学史的観点を取り入れ円周率についての学びを深め公式を導き出す。	課題レポート
	13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、ひとりひとりの「Plan-Do-Check-Actionのサイクル」をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
	14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
	15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えをまとめ、各自の「学力観」を立てる。	課題レポート

実務経験				
関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

		2			
		3			
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。 基本的に、マイクロティーチングと評価のまとめで40%、レポートを含む日常学習状況の評価が60%とする。				
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題(課題)解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。				
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。				
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。				

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」（以下、道徳科）の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、対面の講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業等を適宜取り入れます。 また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果（資格）	中学校教諭 1 種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める 4 つのアプローチについて概観する。	(事前) 自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後) テキスト 2. の P. 8～17 を精読しておく。
	2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 6～12 を精読しておく。 (事後) 日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
	3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前) テキスト 1. の P. 12～25 を精読しておく。 (事後) 道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
	4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 26～35 及びテキスト 2. の P. 26～29 を精読しておく。 (事後) 道徳の授業のねらいに基づく 8 類型について整理しておく。
	5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 36～48 及びテキスト 2. の P. 30～33 を精読しておく。 (事後) ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
	6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 49～58 及びテキスト 2. の P. 34～37 を精読しておく。 (事後) 道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
	7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 59～68 及びテキスト 2. の P. 38～41 を精読しておく。 (事後) 道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
	8	各授業タイプのねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業タイプのそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 71～85 及びテキスト 2. の P. 42～45 を精読しておく。 (事後) 教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
	9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前) テキスト 1. の P. 86～95 及びテキスト 2. の P. 46～49 を精読しておく。 (事後) 教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
	10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前) テキスト 1. の P. 96～106 及びテキスト 2. の P. 50～53 を精読しておく。 (事後) 問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
	11	授業づくりの実例①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前) テキスト 1. の P. 107～130 及びテキスト 2. の P. 54～57 を精読しておく。 (事後) カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	12	授業づくりの実例②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前) テキスト 1. の P. 131～152 及びテキスト 2. の P. 58～61 を精読しておく。 (事後) 問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
	13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえ、第 9 回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前) テキスト 2. の P. 62～65 を精読しておく。 (事後) グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
	14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前) テキスト 2. の P. 66～69 を精読しておく。 (事後) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
実務経験																				
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>道徳科 初めての授業づくり</td><td>吉田誠・木原一彰 編著</td><td>大学教育出版</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>小学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―</td><td>文部科学省</td><td>廣済堂あかつき</td></tr><tr><td>2</td><td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td><td>『道徳教育』編集部</td><td>明治図書出版</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領解説―特別の教科 道徳編―	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 火5「道徳教育の研究」(担当：谷口雄一) yuichi																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名（英文）	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。 「学級づくり」（教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり）に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにしたワークを行う。 また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。 公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。 主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及
授業方法と留意点	講義は遠隔授業（Moodle）によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにする。『為すことによって学ぶ』ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、学級内のディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションを意識した授業への積極的な参加を求める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって（ソロワーク）	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って（ソロワーク）	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出（ソロワーク）	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出（ソロワーク）	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」（ソロワーク）	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通して学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	7	特別活動の歴史・領域・原理ワーク⑥いじめへの対応（1）（グループ討議・発表）	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	8	特別活動と学級経営ワーク⑦いじめへの対応（2）（グループ討議・発表）	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力への対応（即興劇・交流）	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をする（1時間）。
	10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校への対応（ソロワーク）	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点ワーク⑩いじめへの対応（3）（ソロワーク）	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導（ソロワーク）	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（1時間）。
	13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブな学級づくり（ソロワーク）	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
	14	総合的な学習の時間の指導	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前

		計画と評価 ワーク⑬ジェンダーフリー な学級づくり（ソロワーク）	生徒の学習状況の評価	に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をする とともに課題を作成する（1時間）。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 集団活動の留意点、特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したものと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teamsコード	kcsmc51																			
Moodleコース名 および登録キー	特別活動の理論と方法																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 （基準）	レポート（30%）、毎回の課題（40%）、講義の視聴及び問への回答等授業への参加状況（30%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考	授業外総学習時間は60時間とする。																			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材の開発及びマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。 授業担当者は公立高校 5 校で 34 年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場からの能動的な学びを期待する。 より具体的には、つぎのことをめざす。 (1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。 (2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。 (3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。			
到達目標	教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、 (1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。 (2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。			
授業方法と留意点	授業は、moodle 及び Teams を使用して遠隔授業で行います。 授業担当者も受講者の皆さんも遠隔授業に不慣れだと思います。途中で問題が生じるようなことがあれば、その都度、指示や修正を行います。皆さんの協力がないと授業が成り立ちませんので、是非とも主体的に取り組んで下さい。 (1) 講義資料（通常は紙）は、moodle 上に PDF で配布します。できる限り印刷し手元に置いて受講するようにしてください。 (2) 講義のスライド・音声・動画の配信は、moodle 上で行います。皆さんは自身の環境に合わせて			
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教育方法学の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
	2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
	3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
	4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
	5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。
	6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐる	教科書第6章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
	7	授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）
	8	教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備を行う（2時間）。
	9	何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく（1時間）。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
	10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく（1時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）
	11	ICTを活用した授業をつくる① ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・テ	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく（1時間）。講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の準備・振り返りを行う（2時間）

		イーティング実施		
	12	ICTを活用した授業をつくる ② ワーク6 第7・8グループの チームによるマイクロ・ティ ーティング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラ ーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく（1時間）。講義資料 を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業の 準備・振り返りを行う（2時間）
	13	インクルーシブな授業をつ くる ワーク7 チームによるマイ クロ・ティーティングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指 導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応 じた指導とは、学級集団づくりと授業づ くり、授業の「わかりやすさ」と多様な 参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に 学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う（2 時間）。
	14	ユニバーサルデザインの授 業をつくる ワーク8 チームによるマイ クロ・ティーティングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・ 叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、 学習環境のユニバーサルデザイン化、指 導方法のユニバーサルデザイン化、学習 のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく（1時間）。講義資料 を参考に学習内容を整理する（1時間）。模擬授業を の振り返りを行う。
	15	まとめ～学び続ける教員像 をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グル ープ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教 師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく（1時間）。教科 書・講義資料を参考に学習内容を整理する（1時間）。 模擬授業の振り返りを行う（2時間）
実務経験				
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	毎回の授業における課題・アンケートの提出状況（50%）、期末レポート（50%）を総合的に評価します。			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点 でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。			

科目名	生徒指導論	科目名（英文）	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
	2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
	3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
	4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
	5	生徒理解の進め方（1）	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
	6	生徒理解の進め方（2）	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
	7	学級経営の進め方（1）	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	8	学級経営の進め方（2）	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
	9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
	11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	木曜日 2 限の履修者→2020 生徒指導論（木曜 2 限） 木曜日 5 限の履修者→2020 生徒指導論（木曜 5 限） 金曜日 1 限の履修者→2020 生徒指導論（金曜 1 限） 木曜 2 限→20SgctH2 木曜 5 限→20SgcTh5 金曜 1 限→20SGcf1
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生への メッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	Moodleを通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 テキストは授業の各回に先立ち配布します。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育相談	科目名（英文）	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。 ・講義部分は、基本的に遠隔授業（資料配信型）で行う。 ・グループでの活動は、対面授業と遠隔授業（オンライン型）を組み合わせで行う。 ・遠隔授業は、Teams と Moodle を併用する。 ・全体のスケジュール等は、第 1 回授業で示す。

科目学習の 効果（資格）	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4 単位のうち 2 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
-----------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	————
	2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 章、第 2 章を読む
	3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
	4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第 12 章、第 13 章を読む グループ発表の準備
	5	学校におけるカウンセリング活動 1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む グループ発表の準備
	6	学校におけるカウンセリング活動 2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第 10 章を読む グループ発表の準備
	7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備
	8	問題の理解と対応 1	問題とは何か、その原因・背景と対応、 適応過程	テキスト第 3 章を読む グループ発表の準備
	9	問題の理解と対応 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 3 章、第 4 章を読む グループ発表の準備
	10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備
	11	相談援助活動の実際 1	不登校.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 5 章を読む
	12	相談援助活動の実際 2	いじめ.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 6 章を読む
	13	相談援助活動の実際 3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 7 章を読む
	14	相談援助活動の実際 4	反社会的行動.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第 8 章を読む
	15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第 14 章を読む

実務経験	
関連科目	教職課程の科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teams コード	q4ztxbf
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	ICT ツール内での投稿、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	グループ発表 50%，期末試験 50%

(基準)	
学生への メッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の 研究室等	7号館3階（吉田研究室）
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。																																																																		
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5 単位あるいは 3 単位のうち 1 単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等</td><td>教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>実習中の勤務の要領</td><td>学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>3</td><td>授業の方法と技術</td><td>授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>授業の記録と評価</td><td>授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営</td><td>生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>6</td><td>教育実習の実際 (1)</td><td>教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>7</td><td>教育実習の実際 (2)</td><td>教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>指導案の作成 (1)</td><td>授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>指導案の作成 (2)</td><td>学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>10</td><td>模擬授業 (1)</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>11</td><td>模擬授業 (2)</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>模擬授業 (3)</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>模擬授業 (4)</td><td>作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>14</td><td>学校における人権教育</td><td>人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について</td><td>授業時に指示する</td></tr> <tr> <td>15</td><td>特別支援教育の現状と課題</td><td>障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について</td><td>授業時に指示する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する	2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する	3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する	4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する	5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する	6	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する	7	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する	8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する	9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する	10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	14	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する	15	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する																																																																
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する																																																																
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する																																																																
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する																																																																
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する																																																																
6	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する																																																																
7	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する																																																																
8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する																																																																
9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する																																																																
10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する																																																																
14	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する																																																																
15	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	教職課程で学んだ全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>『新編 教育実習の常識』</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	2020 年度教育実習 I (金曜 5 限・朝日クラス) 20TP1F5A																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。																																																																		
学生への	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。																																																																		

メッセージ	
担当者の 研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室（7号館3階） 谷口研究室（7号館4階）
備考	教育実習体験発表会（10月末土曜日）、教育実習総括講義（11月末土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおよそ 60 時間程度となる。

科目名	教職実践演習（中・高）	科目名（英文）	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子、朝日 素明、大野 順子、谷口 雄一、林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果（資格）	○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目（教職実践演習を除く）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。 近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと考える。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を扱い、学校教育を改めて考えてみたい。 特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前) 第1回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1～2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	5	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。 それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。 ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1～2程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	6	学校の危機管理①: 学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理②: 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	8	教員の体罰はなぜなくならないのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。

			景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事後) ミニレポートを課す。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
実務経験				
関連科目				
全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
対面授業				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
6gazelle、taniguchi				
連絡手段				
学内メール				
メールアドレス				
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)				
グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。				
学生への メッセージ				
教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。				
担当者の 研究室等				
7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)				
備考				
事前・事後総学習時間は、60時間程度である。				

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。 Teams 内で行う予定です。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1 時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3 時間）
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2 時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2 時間）
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3 時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1 時間）
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（3 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1 時間）
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2 時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3 時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1 時間）
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2 時間）
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1 時間）
	9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめること（2 時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2 時間）
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2 時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2 時間）
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（2 時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2 時間）
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと（3 時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1 時間）。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（1 時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3 時間）
	14	模擬授業	・講義 13 で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（2 時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2 時間）
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（3 時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1 時間）

実務経験	
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名（英文）	Vocational GuidanceⅡ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果（資格）	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること（1時間）。 事後学習：後期の学習計画を立てること（3時間）
	2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関する調査すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関する調査すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関する調査すること（2時間）。 事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
	5	フリーター・ニートについて	グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間）。 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）。
	9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間）。 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）
	10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間）。 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間）。 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）

実務経験	
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

		2			
		3			
授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder				
Teams コード	2z97dst				
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段	学内メール				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)				
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。				
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）				
備考					

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。 この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。 これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。 授業担当者は小学校での約 15 年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。 【方法】 ①基本的に Moodle を使って、教科書についての解説資料等を提供します。 加えて、授業のはじめと終わりに受講される皆さんの考えを共有する場を設けています。 ②毎回の授業の終わりにコメントペーパー-OPP シート (One Page Portfolio シート) を書いてもらいます。 その中からいくつかを次の授業の資料として紹介します (※匿名です)。 これにより、自分とは異なる他の人の考えも参考にし
科目学習の効果 (資格)	(1) 高等学校教諭 1 種免許状 (2) 中学校教諭 1 種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P. 3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P. 59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P. 76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P. 69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P. 93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどう扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P. 86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①：コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 20～22 及び P. 94～95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②：ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 23～25 及び P. 77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③：ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 26～27 及び 81～82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	11	現代の教育理論①：デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 28～29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	12	現代の教育理論②：20 世紀の教育理論	20 世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
	14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P. 147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P. 169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。
実務経験				

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>哲学する教育原理</td><td>伊藤潔志 編著</td><td>保育出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>中学校学習指導要領</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td>高等学校学習指導要領</td><td>文部科学省</td><td>東洋館出版</td></tr> <tr> <td>3</td><td>哲学する学校経営</td><td>伊藤潔志 編著</td><td>教育情報出版</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房																
2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版																
3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版																
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Moodle																		
Teams コード	9bs70tx																		
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 月1（※木1の方は木1）「教育原理」（担当：谷口雄一） yuichi																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容（30％）や学期末試験の結果（70％）等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																		
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学修は遠隔のためできませんが、チャット機能を使つての意見交換を予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。																		
担当者の 研究室等	7号館4階（谷口研究室）																		
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																		

科目名	特別支援教育論	科目名（英文）	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。 障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。 「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史的変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。 中・高（小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として 34 年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。 ④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。
授業方法と留意点	講読演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	8	通常学級での特別支援教育の実践（通級による指導を含む）	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
	11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働	校内での連携。他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	14	社会的養護にある子供、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。
	15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく（1 時間）。授業後に課すレポートを作成する（2 時間）。

実務経験				
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特別支援教育資料（平成31年度版）	文部科学省	Web

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階林研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名（英文）	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 公立高校での 34 年間の学級担任、総合的な学習の時間の企画主担者等を通じた教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。 SDGs-1, 4, 5, 10																																																						
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解し																																																						
授業方法と留意点	講義は遠隔授業（Moodle）によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材を参照しながらすすめるが、ソロワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の時間を指導する立場として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーション意識しながら授業への積極的な																																																						
科目学習の効果（資格）	教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題</td><td>学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量</td><td>特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>特別活動の目標・内容・方法</td><td>教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐる（ソロワーク）</td><td>特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>学級活動・ホームルーム活動①</td><td>学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入って（ソロワーク）</td><td>特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>学級活動・ホームルーム活動②</td><td>人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出（ソロワーク）</td><td>特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>生徒会活動・児童会活動、学校行事</td><td>生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出（ソロワーク）</td><td>特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>体験活動・体験的な学びの意義</td><td>特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」（ソロワーク）</td><td>配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>特別活動の歴史</td><td>学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ ワーク⑥いじめへの対応（1）（グループ討議・発表）</td><td>配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>特別活動と学級経営</td><td>学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦いじめへの対応（その2）（ソロワーク）</td><td>配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>特別活動と生徒指導</td><td>生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧問題行動への対応（ソロワーク）</td><td>配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>特別活動の指導計画と評価</td><td>全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨不登校への対応（ソロワーク）</td><td>特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点</td><td>特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩進路指導（ソロワーク）</td><td>配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>総合的な学習の時間の目標・内容・原理</td><td>総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪インクルーシブな学級づくり</td><td>総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐる（ソロワーク）	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（1時間）。	3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入って（ソロワーク）	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出（ソロワーク）	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出（ソロワーク）	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ ワーク⑥いじめへの対応（1）（グループ討議・発表）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦いじめへの対応（その2）（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧問題行動への対応（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨不登校への対応（ソロワーク）	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩進路指導（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。	12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪インクルーシブな学級づくり	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																				
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐる（ソロワーク）	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習するとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入って（ソロワーク）	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出（ソロワーク）	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出（ソロワーク）	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ ワーク⑥いじめへの対応（1）（グループ討議・発表）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦いじめへの対応（その2）（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧問題行動への対応（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨不登校への対応（ソロワーク）	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩進路指導（ソロワーク）	配布プリントを事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				
12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪インクルーシブな学級づくり	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく（1時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1時間）。																																																				

			〈ソロワーク〉																	
	13	総合的な学習の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク⑩ジェンダーフリーな学級づくり 〈ソロワーク〉	総合的な学習の時間のテキスト第 2・7 章を事前に読んでおく（1 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1 時間）。																
	14	総合的な学習の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク⑬いじめへの対応（その 3）〈ソロワーク〉	総合的な学習の時間のテキスト第 5・6・8 章を事前に読んでおく（1 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1 時間）。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。集団活動の留意点、特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第 4 章第 2・3・4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章を事前に読んでおく（1 時間）。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する（1 時間）。																
実務経験																				
関連科目																				
すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したものと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																				
教科書																				
<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>2</td><td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td><td>文部科学省</td><td>東山書房</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書																				
<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams「オンライン型」																				
Teams コード																				
xtuapx2																				
Moodle コース名 および登録キー																				
特別活動・総合的な学習の時間の指導法（月曜 4 限）																				
連絡手段																				
学内メール																				
メールアドレス																				
メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																				
評価方法 （基準）																				
レポート（30%）、毎回の課題（30%）、講義の視聴及び問への回答等の授業への参加状況（30%）を踏まえ、総合的に評価する。																				
学生への メッセージ																				
学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																				
担当者の 研究室等																				
7 号館 3F 林研究室																				
備考																				
授業外学習総時間を 60 時間とする。																				

科目名	地域連携教育活動Ⅰ	科目名（英文）	Community-Based Education Support ActivitiesⅠ
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子、朝日 素明、大野 順子、谷口 雄一、林 茂樹
ディプロマポリシー（DP）			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																																																																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめ履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導1</td><td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導2</td><td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導3</td><td>「守秘義務」の意味とその内容について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動1～25</td><td>受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>最終報告会</td><td>活動報告会</td><td>報告のための準備</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備	5	活動1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備																																																																
2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備																																																																
3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備																																																																
5	活動1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成																																																																
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階（朝日研究室）、7号館3階（大野研究室）、7号館4階（谷口研究室）、7号館3階（林研究室）、7号館3階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名（英文）	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																																																																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																																																																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめて履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前指導 1</td><td>活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>2</td><td>事前指導 2</td><td>マナー講座・小中学校の教育現場について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>事前指導 3</td><td>「守秘義務」の意味とその内容について</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>活動準備</td><td>受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</td><td>活動のための準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>活動 1～25</td><td>受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）</td><td>各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成</td></tr> <tr> <td>6</td><td>最終報告会</td><td>活動報告会</td><td>報告のための準備</td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備																																																																
2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動（活動業務日報・活動時間票の提出）	各種活動の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成																																																																
6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 3 階（朝日研究室）、7 号館 3 階（大野研究室）、7 号館 4 階（谷口研究室）、7 号館 3 階（林研究室）、7 号館 3 階（吉田研究室）																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1 回の活動に対して、それぞれ 1?2 時間は必要です。																																																																		

科目名	キャリアデザインⅠ（BASIC）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(0.5 時間)
	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること(0.5 時間)
	3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと(2 時間)
	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと(2 時間)
	5	グループ課題の設定	・グループワーク（インタビュープロジェクト）の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと(2 時間)
	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること(0.5 時間)
	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(0.5 時間)
	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(0.5 時間)
	9	自分づくり①	・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(1 時間)
	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(0.5 時間)
	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること(0.5 時間)
	12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(1 時間)
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること(1.5 時間)
	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること(2 時間)
	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(1 時間)
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書				

	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	各回の課題レポート(55%)、最終レポート(45%)で総合的に評価する。																
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山)																
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。																

科目名	キャリアデザインⅠ（BASIC）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ことが期待される。 なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画	回数			
	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること（1 時間） ・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること（2 時間）
	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること（1 時間） ・事後学修：各受講科目のノートを整理すること（3 時間）
	3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く	・事前学修：摂大生として、HP の建学の精神と教育理念を理解すること HP の（2 時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること（2 時間）
	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと（2 時間） ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（2 時間）
	5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（1 時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（3 時間）
	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること（1 時間） ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（3 時間）
	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDP について調べること（1 時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること（3 時間）
	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べること（1 時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること（3 時間）
	9	自分づくり①	・自分の良いところを 100 挙げる ・ベアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと（2 時間） ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（2 時間）
	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ベアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・事前学修：大学へ入学した目的を再確認すること（2 時間） ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること（2 時間）
	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べること（1 時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること（3 時間）
	12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと（3 時間） ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（1 時間）
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。（3 時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（1 時間）

		14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること（3時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（1時間）
		15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）
実務経験					
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 （基準）	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。				
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。				
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）				
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。				

科目名	キャリアデザインⅠ（BASIC）	科目名（英文）	Career Planning I(Basic)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	V科：Ⅱ◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：Ⅱ◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生は、 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。ことが期待される。 なお、講義は担当講師の人材・教育業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。
科目学習の効果（資格）	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か、またなぜ必要なのかについて考える ・公と私について考える	・事前学修：自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること（1時間） ・事後学修：キャリアデザインがなぜ必要かをまとめ、「公と私」について考えること（2時間）
	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・事前学修：大学で学ぶ意味について考えること（1時間） ・事後学修：各受講科目のノートを整理すること（3時間）
	3	摂大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・先輩の話聴く	・事前学修：摂大生として、HPの建学の精神と教育理念を理解することHPの（2時間） ・事後学修：大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること（2時間）
	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・事前学修：設定された個人ワークに取り組むこと（2時間） ・事後学修：学生生活の目標を再度考えること（2時間）
	5	グループ課題の設定	・グループワークの目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・事前学修：グループワークに必要なことを考えること（1時間） ・事後学修：グループで課題に取り組むこと（3時間）
	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・事前学修：社会で求められる人材について考えること（1時間） ・事後学修：社会で求められる能力について考えること（3時間）
	7	社会の仕組み①	・GDPから見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・事前学修：GDPについて調べる（1時間） ・事後学修：経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること（3時間）
	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・事前学修：税金について調べる（1時間） ・事後学修：配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること（3時間）
	9	自分づくり①	・自分の良いところを100挙げる ・ペアワーク	・事前学修：自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと（2時間） ・事後学修：長所を伸ばすための自分の言動について考えること（2時間）
	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定	・事前学修：大学へ入学した目的を再確認すること（2時間） ・事後学修：学生としての自分の目標を再確認すること（2時間）
	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCAサイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・事前学修：社会人基礎力を調べる（1時間） ・事後学修：社会人基礎力を実践する方法を考えること（3時間）
	12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・事前学修：他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと（3時間） ・事後学修：自分が選択した本に関して、よりまとめておくこと（1時間）
	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること。（3時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（1時間）

		14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・事前学修：グループのプレゼンテーションの準備をすること（3時間） ・事後学修：発表グループの良かった点、改善点をまとめること（1時間）
		15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・事前学修：キャリアデザインを振り返ること（1時間） ・事後学修：夏休み以降の大学生活の目標を考えること（3時間）
実務経験					
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ				
教科書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名		著者名	出版社名
	1				
	2				
	3				
授業形態					
Teamsコード					
Moodleコース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 （基準）	各回の課題レポート（55%）、最終レポート（45%）で総合的に評価する。				
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。				
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（上野山）				
備考	1. 必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 2. ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。				

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 SDGs-4. 4, 8. 6
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (3 時間)
	2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3 時間)
	3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5 時間)
	4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念の理解 ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5 時間)
	5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べる (4 時間)
	6	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考える (3 時間)
	7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3 時間)
	8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5 時間)
	9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5 時間)
	10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考える (3 時間)
	11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7 時間)
	12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考える (3 時間)
	13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4 時間)
	14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4 時間)
	15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3 時間)

実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder			
Teams コード	ar5bala			

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山)
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	キャリアデザインⅡ (ADVANCE)	科目名 (英文)	Career Planning II(Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。 SDGs-4. 4, 8. 6
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・配布したレジュメを見直すこと ・大学生活 1 年目で経験したことを思い出しておくこと (3 時間)
	2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・配付したレジュメを見直すこと ・人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること (3 時間)
	3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること (5 時間)
	4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念の理解 ・川上～川下の概念の理解	・配布したレジュメを見直すこと ・グループ課題に取り組むこと (5 時間)
	5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布したレジュメを見直すこと ・どのような業種・会社があるのか調べる (4 時間)
	6	就活体験①	・特性と心がけ、自己 PR の組み立て方を学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・自らの強みについて考える (3 時間)
	7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・学生生活の振り返りを行うこと (3 時間)
	8	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5 時間)
	9	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (5 時間)
	10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・配布したレジュメを見直すこと ・講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考える (3 時間)
	11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・配布したレジュメを見直すこと ・講義の内容を日常生活で実践すること (7 時間)
	12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直すこと ・自らの将来について考える (3 時間)
	13	自分を高める③	・講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	・配布したレジュメを見直すこと ・プレゼンテーションの準備をしておくこと (4 時間)
	14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・配布したレジュメを見直すこと ・日本を取り巻く課題について理解すること (4 時間)
	15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・配布したレジュメを見直すこと ・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと (3 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder
Teams コード	mgdiomo

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	毎回のミニレポートが採点をした後に最終講義で返却する。

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teams は連絡用に使い、講義では主に Moodle で行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input 量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火 2) sjt2
連絡手段	Teams に「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30 点、Smart SPI...15 点、中間テスト...15 点、最終試験...40 点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宜・寺内 陸博
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teams は連絡用に使い、講義では主に Moodle で行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input 量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)
	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)
	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)
	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvmr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火 2) sjt2
連絡手段	Teams に「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30 点、Smart SPI...15 点、中間テスト...15 点、最終試験...40 点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。 また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。																																																																		
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。																																																																		
授業方法と留意点	Teams は連絡用に使い、講義では主に Moodle で行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input 量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション・実力テスト</td><td>講座の目的意義の確認・実力テスト</td><td>シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>数的思考①</td><td>方程式の活用</td><td>方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>数的思考②</td><td>割合の活用①</td><td>割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>数的思考③</td><td>割合の活用②</td><td>割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>数的思考④</td><td>割合の活用③</td><td>割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>中テスト①・数的思考⑤</td><td>中テスト①・分数の活用</td><td>2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>数的思考⑥</td><td>速度の考え方①</td><td>速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>数的思考⑦</td><td>速度の考え方②</td><td>速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>数的思考⑧</td><td>場合の数と確率</td><td>場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>数的思考⑨</td><td>集合の概念</td><td>集合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>中テスト②・資料解釈</td><td>中テスト②・表の読み取り</td><td>6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>論理推論①</td><td>順序推理</td><td>推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>論理推論②</td><td>内訳・表・位置</td><td>推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>論理推論③</td><td>その他論理推論</td><td>推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総復習</td><td>今までの問題の復習</td><td>全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)	2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)	7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)	12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)	15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30 分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30 分)																																																																
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2～5 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)																																																																
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6～9 回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2 時間)																																																																
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30 分)・smartSPI の実施(目安:30 分)																																																																
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	コミュニケーション能力開発																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	オリジナル教材を使用します。 また適宜 Smart SPI の活用を指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>その他 SPI や玉手箱関連の問題集</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																																																																		
Teams コード	61cqvmr																																																																		
Moodle コース名および登録キー	就職実践基礎 (後期火 2) sjt2																																																																		
連絡手段	Teams に「連絡・相談」という項目を設けます																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	小テスト...30 点、Smart SPI...15 点、中間テスト...15 点、最終試験...40 点																																																																		
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得してってください。																																																																		

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。 講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実には則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指します。 サブテーマとして、E S G・SDG's 等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。
到達目標	経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。 また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。
授業方法と留意点	・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持つようにして授業に出席すること。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 ・株式シミュレーションゲームを行う予定ですが、評価の対象とはしません。 ・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します
科目学習の効果 (資格)	日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。 企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。 中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
	2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を 2 回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ
	3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認
	4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる
	5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する
	6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める
	7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる
	8	アセットクラス※の基礎知識／株式 (1) (E S G 投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス : 資産クラス、資産の種類のこと	媒体での E S G 投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する
	9	アセットクラスの基礎知識／株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める
	10	アセットクラスの基礎知識／債券 (1) (SDG's 含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省の H P で 2 0 年度予算の概要を確認

			す。債券の種類・特徴とリスク、“格付け”について学びます。																	
	11	アセットクラスの基礎知識／債券（２）－金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める																
	12	アセットクラスの基礎知識／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認																
	13	アセットクラスの基礎知識／外貨建て商品・証券化商品・外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック																
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる																
	15	試験	試験時間 60 分。記述式、複数回答からの選択式の併用。全 14 回授業のレジュメから出題。※なお、試験は電卓以外持ち込み不可。	30 分程度試験のポイント解説予定																
実務経験																				
関連科目		民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																		
教科書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>金融経済と資産運用の基礎</td><td>日興リサーチセンター</td><td>星雲社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社																	
2																				
3																				
参考書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態		Web Folder																		
Teams コード																				
Moodle コース名および登録キー																				
連絡手段		日興リサーチセンター宛てメール																		
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）		理解度等を総合的に評価します。 ・レポート：100%（レポート内容は今後確定）																		
学生へのメッセージ		実務経験をベースととし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります																		
担当者の研究室等		11 号館 1 階（教務課）																		
備考		質問等は、遠隔授業を前提とし、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります asano_hiroshi3@nrc.nikko.co.jp この講義は、SMB C 日興証券グループによる「寄附講座」です。																		

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	6	マーケティングの S T P アプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、S T P アプローチに関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	8	マーケティングの歴史的 research と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的 research と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましょう。(所要時間 1 時間)
	15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1 時間)

実務経験				
関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷―	武居 奈緒子	千倉書房
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
	2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します（100%）。
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2 回生以降に摂南大学 PBL プロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応 : 工学部 [A], 理工学部 [II]
授業方法と留意点	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
科目学習の効果 (資格)	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。土曜日に集中講義で開講する。
	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	9 月 1 9 日 オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	事前学習 : 本科目のシラバスを精読すること。(1 時間) 事後学修 : 講義で配付された資料を見直すこと(1 時間)
	2	9 月 1 9 日 グループ分けを自己紹介	・グループ分け ・自己紹介ワーク	事後学修 : チームにどのように貢献できるかを考える。(1 時間)
	3	9 月 1 9 日 チームビルディングの理論を学ぶ	・チームビルディングの理論を学ぶ	事後学修 : 講義資料を熟読する(1 時間)
	4	10 月 3 日 チームビルディング体験①	・コンセンサスゲーム ・チームの 1 0 箇条	事後学習 : 自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1 時間)
	5	10 月 3 日 チームビルディング体験②	チームで推理クロスに挑む	事後学修 : 自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1.5 時間)
	6	10 月 3 日 チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける
	7	10 月 24 日 話し合う技術①	・GD に関する知識を学ぶ	事後学修 : 講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5 時間)
	8	10 月 24 日 話し合う技術②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	事後学習 : 講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5 時間)
	9	10 月 24 日 組織で学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	事前学修 : チームにどのように貢献できるかを考えること(1 時間) 事後学修 : 講義で配付された資料を見直すこと(1 時間)
	10	11 月 7 日 情報の読み取りと活用	・チームで改善計画を考える	事後学習 : 講義資料を熟読すること(1.5 時間)
	11	11 月 7 日 チームで課題解決に挑む	・チームでニッポンの課題の解決策を考える	事前学修 : チームにどのように貢献できるかを考えること(1 時間) 事後学修 : 講義で配付された資料を見直すこと(1 時間)
	12	11 月 7 日 チームで企画する	・チームで学生提案の PBL プロジェクトを企画する	事後学修 : チームでの話し合いを振り返ること(1.5 時間)
	13	11 月 21 日 チームでワークに取り組む①	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修 : チームで発表をする準備をすること(1 時間) 事後学修 : 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2 時間)
	14	11 月 21 日 チームでワークに取り組む②	・チームで地域創生のワークに取り組む	事後学修 : チームで発表をする準備をすること(1 時間) 事後学修 : 自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2 時間)
	15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5 時間) 事後学修 : 講義全体を振り返ること。(1 時間)
実務経験				
関連科目	・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 ・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学 PBL プロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果（資格）	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家のように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDV は、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パ	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			スワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
実務経験				
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ（多様性）を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 容認することが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDGs-5																																																				
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。																																																				
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。																																																				
科目学習の効果（資格）	・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。																																																				
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて</td><td>・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（1 時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（3 時間）</td></tr><tr><td>2</td><td>ダイバーシティと境界線</td><td>・ウチとソトの感覚</td><td>・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考えること（2 時間） ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をすること（2 時間）</td></tr><tr><td>3</td><td>ジェンダー視点</td><td>・フェミニズム×女性学+男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち 6 名に関して調査</td><td>・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（2 時間） ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること（2 時間）</td></tr><tr><td>4</td><td>日本の近代化</td><td>・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション</td><td>・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（2 時間） ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること（2 時間）</td></tr><tr><td>5</td><td>国際統計比較</td><td>・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数</td><td>・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（2 時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（2 時間）</td></tr><tr><td>6</td><td>性役割の形成</td><td>・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違</td><td>・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（2 時間） ・事後学修：中間発表用レポート作成（2 時間）</td></tr><tr><td>7</td><td>中間発表</td><td>・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。</td><td>・事前学修：中間発表準備（2 時間） ・事後学修：中間発表レポート手直し（2 時間）</td></tr><tr><td>8</td><td>「らしさ」とセクシャル・ポリティクス</td><td>・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化</td><td>・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（2 時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること（2 時間）</td></tr><tr><td>9</td><td>男女共同参画社会とワークライフバランス</td><td>・ジェンダーマネジメント ・働き方改革</td><td>・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること（2 時間） ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること（2 時間）</td></tr><tr><td>10</td><td>中間プレゼンテーション</td><td>・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する</td><td>・事前学修：調査考察し、発表準備をすること（2 時間） ・事後学修：議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること（2 時間）</td></tr><tr><td>11</td><td>アサーティブネス理論①</td><td>・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出</td><td>・事前学修：アサーティブネスについて調べること（2 時間） ・事後学修：アサーティブに話す練習をすること（2 時間）</td></tr><tr><td>12</td><td>アサーティブネス理論②</td><td>・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる</td><td>・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（2 時間） ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる</td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（1 時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（3 時間）	2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考えること（2 時間） ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をすること（2 時間）	3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち 6 名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（2 時間） ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること（2 時間）	4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（2 時間） ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること（2 時間）	5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（2 時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（2 時間）	6	性役割の形成	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（2 時間） ・事後学修：中間発表用レポート作成（2 時間）	7	中間発表	・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。	・事前学修：中間発表準備（2 時間） ・事後学修：中間発表レポート手直し（2 時間）	8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（2 時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること（2 時間）	9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること（2 時間） ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること（2 時間）	10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修：調査考察し、発表準備をすること（2 時間） ・事後学修：議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること（2 時間）	11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（2 時間） ・事後学修：アサーティブに話す練習をすること（2 時間）	12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（2 時間） ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																		
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修：ダイバーシティに関して、調べること（1 時間） ・事後学修：身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること（3 時間）																																																		
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修：私たちの周りにある伝統や習慣について考えること（2 時間） ・事後学修：「ウチとソト」に関するレポートを作成をすること（2 時間）																																																		
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学＝人間学 ・時代を生きた女性たち 6 名に関して調査	・事前学修：フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること（2 時間） ・事後学修：活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること（2 時間）																																																		
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション	・事前学修：明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること（2 時間） ・事後学修：明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること（2 時間）																																																		
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修：国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること（2 時間） ・事後学修：国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること（2 時間）																																																		
6	性役割の形成	・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デート DV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違	・事前学修：性役割を理解し、幼児期から振り返ること（2 時間） ・事後学修：中間発表用レポート作成（2 時間）																																																		
7	中間発表	・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。	・事前学修：中間発表準備（2 時間） ・事後学修：中間発表レポート手直し（2 時間）																																																		
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M 字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化	・事前学修：日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること（2 時間） ・事後学修：M 字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること（2 時間）																																																		
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修：ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること（2 時間） ・事後学修：ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること（2 時間）																																																		
10	中間プレゼンテーション	・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する	・事前学修：調査考察し、発表準備をすること（2 時間） ・事後学修：議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること（2 時間）																																																		
11	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修：アサーティブネスについて調べること（2 時間） ・事後学修：アサーティブに話す練習をすること（2 時間）																																																		
12	アサーティブネス理論②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修：アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること（2 時間） ・事後学修：アサーティブネス理論を使うことによる																																																		

				る自身の変化についてレポートを作成すること（2時間）	
	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）	
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）	
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）	
実務経験					
関連科目		「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。			
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
		2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
		3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
授業形態		Teams「オンライン型」／Web Folder			
Teams コード		800myjf			
Moodle コース名および登録キー					
連絡手段		学内メール			
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）		ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ		皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の研究室等		7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考		予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	・ 日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・ たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデート DV の被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・ 近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・ 本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・ 犯罪被害者を論ずる前に、講義の数回を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・ 法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。																																												
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・「被害者」概念について説明できる ・ 犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる ・ 犯罪被害者の支援制度について理解できる」 ようになることが期待される。																																												
授業方法と留意点	・ 原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。																																												
科目学習の効果（資格）	・ 万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・ 公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。																																												
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」</td><td> ・ 授業の進め方と文献紹介 ・ 「加害者」の法的責任 ・ 「加害者」と「犯罪者」 ・ 「被害者」の意義 ・ 「犯罪被害者」の意義 </td><td> ・ 教科書の入手 - 事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>2</td><td>少年犯罪の被害者</td><td> ・ 少年法と被害者救済 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>3</td><td>性犯罪の被害者</td><td> ・ 性犯罪被害特有の問題点 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>4</td><td>ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者</td><td> ・ DV被害の特殊性 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「DV」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>5</td><td>ストーカー犯罪の被害者</td><td> ・ ストーカーへの対抗手段 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>6</td><td>インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者</td><td> ・ インターネット犯罪被害の特殊性 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>7</td><td>児童虐待の被害者救済</td><td> ・ 児童虐待の意義 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>8</td><td>触法精神障害者からの被害</td><td> ・ 精神障害者の加害行為と対処法 </td><td> - 事前：教科書第 6 章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>9</td><td>犯罪被害救済総論①</td><td> ・ 被害届と告訴・告発の効果 ・ 加害者との示談交渉 ・ マスコミ対策 ・ 検察審査会 ・ 検察審査員 ・ 審査申立手続 ・ 検察審査会と被害者 ・ 起訴議決制度 </td><td> - 事前：教科書第 2 章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間） </td></tr><tr><td>10</td><td>犯罪被害救済総論②</td><td> ・ 被害者による裁判傍聴と参加 ・ 被害者による記録の閲覧と謄写 </td><td> - 事前：教科書第 3 章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間） </td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・ 授業の進め方と文献紹介 ・ 「加害者」の法的責任 ・ 「加害者」と「犯罪者」 ・ 「被害者」の意義 ・ 「犯罪被害者」の意義	・ 教科書の入手 - 事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間）	2	少年犯罪の被害者	・ 少年法と被害者救済	- 事前：教科書第 6 章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間）	3	性犯罪の被害者	・ 性犯罪被害特有の問題点	- 事前：教科書第 6 章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）	4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	・ DV被害の特殊性	- 事前：教科書第 6 章「DV」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）	5	ストーカー犯罪の被害者	・ ストーカーへの対抗手段	- 事前：教科書第 6 章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）	6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・ インターネット犯罪被害の特殊性	- 事前：教科書第 6 章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）	7	児童虐待の被害者救済	・ 児童虐待の意義	- 事前：教科書第 6 章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）	8	触法精神障害者からの被害	・ 精神障害者の加害行為と対処法	- 事前：教科書第 6 章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）	9	犯罪被害救済総論①	・ 被害届と告訴・告発の効果 ・ 加害者との示談交渉 ・ マスコミ対策 ・ 検察審査会 ・ 検察審査員 ・ 審査申立手続 ・ 検察審査会と被害者 ・ 起訴議決制度	- 事前：教科書第 2 章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間）	10	犯罪被害救済総論②	・ 被害者による裁判傍聴と参加 ・ 被害者による記録の閲覧と謄写	事前：教科書第 3 章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																										
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	・ 授業の進め方と文献紹介 ・ 「加害者」の法的責任 ・ 「加害者」と「犯罪者」 ・ 「被害者」の意義 ・ 「犯罪被害者」の意義	・ 教科書の入手 - 事前：教科書第 1 章をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2 時間）																																										
2	少年犯罪の被害者	・ 少年法と被害者救済	- 事前：教科書第 6 章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
3	性犯罪の被害者	・ 性犯罪被害特有の問題点	- 事前：教科書第 6 章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	・ DV被害の特殊性	- 事前：教科書第 6 章「DV」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
5	ストーカー犯罪の被害者	・ ストーカーへの対抗手段	- 事前：教科書第 6 章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	・ インターネット犯罪被害の特殊性	- 事前：教科書第 6 章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
7	児童虐待の被害者救済	・ 児童虐待の意義	- 事前：教科書第 6 章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
8	触法精神障害者からの被害	・ 精神障害者の加害行為と対処法	- 事前：教科書第 6 章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
9	犯罪被害救済総論①	・ 被害届と告訴・告発の効果 ・ 加害者との示談交渉 ・ マスコミ対策 ・ 検察審査会 ・ 検察審査員 ・ 審査申立手続 ・ 検察審査会と被害者 ・ 起訴議決制度	- 事前：教科書第 2 章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2 時間） - 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2 時間）																																										
10	犯罪被害救済総論②	・ 被害者による裁判傍聴と参加 ・ 被害者による記録の閲覧と謄写	事前：教科書第 3 章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2 時間）																																										

			- 被害者における心情陳述 - 被害者等特定事項の非公開 - 遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）
	11	犯罪被害救済総論③	・損害賠償命令制度	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	12	犯罪被害救済総論④	・被害回復給付金制度	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	13	犯罪被害救済総論⑤	・犯罪被害者等給付金支給制度	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）
	14	犯罪被害救済総論⑥	- 加害者情報へのアクセス - 法テラス	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）
実務経験				
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に 関する委員会	東京法令出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する。		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」			
Teams コード	wol2lfc			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生への メッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名 (英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 川崎 勝己, 木村 朋紀, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明, 向井 歩
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎ N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。 また、企業で商品開発等に 20 年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う（第 1 回）。																																																																		
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解																																																																		
授業方法と留意点	配布資料に沿って、教材・課題提供型授業を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>概要説明 特殊環境微生物学（西矢）</td><td>授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>糖質生化学（大橋）</td><td>糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>細胞生命生理学（宮崎）</td><td>生物がいかんして環境に適応する仕組み（ホメオスタシス）を獲得し、進化してきたのかについて解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>分子生物学（川崎）</td><td>分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>環境分析学（青笹）</td><td>食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>生命環境科学（長田）</td><td>ライフサイエンスにおける植物について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>細胞機能学（船越）</td><td>生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>環境毒理学（木村）</td><td>環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>構造生物学（中嶋）</td><td>生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>共生機能材料学（松尾）</td><td>タンパク質に対する水の必要性和その機能について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>分子細胞制御学（西村）</td><td>多くの生命現象は「現在（いま）」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>生体触媒科学（井尻）</td><td>生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>病態薬理学（居場）</td><td>薬理学の基本について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>動物生理学（向井）</td><td>生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>生体分子機能学（尾山）</td><td>さまざまな機能性タンパク質について解説する。</td><td>課題レポートまたは確認小テストを課す。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明 特殊環境微生物学（西矢）	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	2	糖質生化学（大橋）	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	3	細胞生命生理学（宮崎）	生物がいかんして環境に適応する仕組み（ホメオスタシス）を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	4	分子生物学（川崎）	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	5	環境分析学（青笹）	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	6	生命環境科学（長田）	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	7	細胞機能学（船越）	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	8	環境毒理学（木村）	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	9	構造生物学（中嶋）	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	10	共生機能材料学（松尾）	タンパク質に対する水の必要性和その機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	11	分子細胞制御学（西村）	多くの生命現象は「現在（いま）」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	12	生体触媒科学（井尻）	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	13	病態薬理学（居場）	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	14	動物生理学（向井）	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。	15	生体分子機能学（尾山）	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明 特殊環境微生物学（西矢）	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
2	糖質生化学（大橋）	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
3	細胞生命生理学（宮崎）	生物がいかんして環境に適応する仕組み（ホメオスタシス）を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
4	分子生物学（川崎）	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
5	環境分析学（青笹）	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
6	生命環境科学（長田）	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
7	細胞機能学（船越）	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
8	環境毒理学（木村）	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
9	構造生物学（中嶋）	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
10	共生機能材料学（松尾）	タンパク質に対する水の必要性和その機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
11	分子細胞制御学（西村）	多くの生命現象は「現在（いま）」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
12	生体触媒科学（井尻）	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
13	病態薬理学（居場）	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
14	動物生理学（向井）	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
15	生体分子機能学（尾山）	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	生物学概論、物理科学、生物無機化学、生物統計学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポートまたは確認小テスト 100%
学生への メッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の 研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全教員)
備考	欠席・遅刻などの扱いは理工学部の規定に従って処理する(80%以上の出席が必要)。 事後学習に要する総時間の目安は15時間

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400 字でまとめる。
	2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の 8 つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の 8 つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
	3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400 字以上)。
	4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの 1 週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
	5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 ももとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
	6	電話対応	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話対応プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
	7	来客対応	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
	8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
	9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
	10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
	11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
	12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学習：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400 字以上)。
	13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
	14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
	15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。
実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」//Web Folder																			
Teams コード	w3uk3fb																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1 ○, E 科: B △, C 科: II ◎, L 科: DP2 ◎, D 科: DP1 ◎, S 科: DP1 ◎, P 科: DP8 △, J 科: DP1 ◎, W 科: DP1 ◎, N 科: DP1 ◎N: DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TT01461a1～TT01465a1, L 科: LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科: IT01371a1～IT01375a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JT01374a～JT01378a1, W 科: WT01352a1～WT01356a1, N 科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	現在のビジネス環境 及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。 働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
	2	マネジャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネジャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
	3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。 個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
	4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
	5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1～5 回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
	6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。 各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしているのか考えてみる。
	7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。 多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GM との合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。 最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
	8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないとされいいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
	9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
	10	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 (6～10 回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？ 自身の能力をどう評価していますか？
	11	自分とはどのようなビジネスリーダーになるか	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。 成長・働く・奉仕 (奉公) を実践	以下 3 回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。二人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
	12	事例 1 二宮尊徳	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第 11 回参照
	13	事例 2 パナソニック創業者 松下幸之助	No2 の役割とは何か。	第 11 回参照
	14	事例 3 藤沢武夫	誰も教えてくれない。あなた達が必ず直面する。どう対処すればよいのか	
	15	企業不正	全 14 回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

実務経験				
関連科目				
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人の資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6y3a3rw			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを使用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	第5回時のレポート（25%）、第10回時のレポート（25%）、定期試験（50%）			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課（11号館1階）			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史的流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。			
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。			
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書と Moodle を利用して授業を進めます。 ・授業の一環としての映画鑑賞は、各自で動画配信サービス等を利用して行なうものとします。 (詳細については、Moodle および配布レジュメにおいて説明します。)			
科目学習の効果（資格）	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
	2	近現代韓国の基礎知識（１）	韓国近現代史概説： 1945 年以前と以後	〔事前学習〕配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	3	近現代韓国の基礎知識（２）	韓国近現代史概説： 軍党政権の時代と民主化後の時代	〔事前学習〕配布レジュメの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	4	映画作品に見る「韓国現代史」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	5	映画作品に見る「韓国現代史」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	6	近現代韓国社会への理解（１）	解放・建国に始まる韓国現代史概説	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	7	近現代韓国社会への理解（２）	解放・建国に始まる韓国現代史概説	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	10	近現代韓国社会への理解（３）	民主化と、民主化以後の現代韓国	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	11	近現代韓国社会への理解（４）	民主化と、民主化以後の現代韓国	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」（前編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」（後編）	関連する映画作品の鑑賞と解説	〔事前学習〕テキストの関連部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	14	現代韓国に向き合う（１）	韓国現代史と現代韓国社会	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分） 〔事後学習〕配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60 分）
	15	現代韓国に向き合う（２）	韓国現代史と現代韓国社会	〔事前学習〕テキストの該当部分を読んでおくこと（目安時間：60 分）

				[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと（目安時間：60分）															
実務経験																			
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国現代史</td> <td>木村幹</td> <td>中公新書</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	韓国現代史	木村幹	中公新書	2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	韓国現代史	木村幹	中公新書																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・提出レポートについては、授業内で課される小レポートと最終レポートを併せて総合評価を行なうものとします。 (ともにMoodleを通じて提出することになります。)																		
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。																		
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室																		
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。																		

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子・横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年から教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGs を実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs (2030 年までの世界の目標) などを中心とした教養 (社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について知り、討議することができる。 (2) 時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3) 問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4) チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標 SDGs を学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通して SDGs の理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。 学修法としては、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 協働学習による学び、QFT (問い作り) で探求のテーマ設定をします。 この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGs カードゲーム 振り返りシート	事後 : SDGs を調べる (Moodle に資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どの SDGs が気になりましたか?)
	2	SDGs を学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs 前文仮訳 ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : SDGs を 1 分で話せるようにまとめる 事後 : 今日の学びまとめ
	3	SDGs 目標 1?10 を学ぶ	理解度確認テスト (目標 1-10) SDGs 目標 1-10 ABD サマリ作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 目標 1-10 の予習 事後 : 今日の学びまとめ
	4	SDGs 目標 11?17 を学ぶ	理解度確認テスト (目標 11-17) SDGs 目標 11-17 ABD サマリ作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 目標 11-17 の予習 事後 : 今日の学びまとめ
	5	SDGs の問い作り	理解度確認テスト (SDGs 復習) システム思考ミニ講義 SDGs 目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前 : 目標すべての復習 事後 : 今日の学びまとめ
	6	SDGs のポスターづくり	理解度確認テスト (SDGs 復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前 : 新聞づくりの調査 事後 : 今日の学びまとめ
	7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト (SDGs 復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前 : 新聞づくりの追加調査 事後 : 振り返りレポート
	8	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 1 章 ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 第 1 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ
	9	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 2 章 ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 第 2 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ
	10	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 3 章 ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : 第 3 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ
	11	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第 4 章 ABD リレープレゼン 対話	事前 : 第 4 章の予習 事後 : 今日の学びまとめ

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本の SDGs について調べる （ジェンダー平等、貧困、テクノロジー） 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030 年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030 年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030 年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、 振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを 押さえた振り返り
実務経験				
関連科目				
摂南大学で開講されている科目のすべて				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030 年の世界地図帳 あたらしい経済と SDGs、未来への展望	落合陽一	SB クリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス				
メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 （基準）	・取り組み姿勢（チーム：30％） ・ポスター、新聞づくり／発表（チーム：25％） ・振り返りレポート 2 回（個人：20％） ・振り返りシート（個人：10％） ・理解度確認クイズ（個人： 10％） ・資料ファイリング（個人 5％） 以上の評価点の合計で 60％以上を合格とする．期末試験は実施しない． なお、成績評価の対象は原則として出席率 80％以上の学生とする．			
	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います．この授業を履修することで、大学生として SDGs 実現のために必要な幅広い教養，コミュニケーション力，ファシリテーション力，学習方法が身に付き，さらに学部，学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう．？			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
大塚正人（薬学部 1 号館 5F），伊藤諱（1 号館 3F），原由紀子（非常勤講師室）				
備考				
バインダーを用意し、資料を管理します．この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です．教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています．また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください．				

科目名	株式投資と起業家育成	科目名 (英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。 【SDGs-4】（質の高い教育をみんなに） 【担当教員実務経歴】 ①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）
到達目標	将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。 また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。 「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。 またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得 学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習（1 時間）
	6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1 時間）
	11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を 活用した用語等の習得（30 分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることに

			基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と上場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	＜事後＞投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知			
学生への メッセージ	■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化するとされています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。																																																																		
到達目標	(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること (2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること (3) AI を活用したビジネスプランを立案し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションできること																																																																		
授業方法と留意点	本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。 授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams の AI ビジネス創造実習クラスにアップロードする。 毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。 なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、AI の構築環境の準備</td><td>シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>AI の基本原理と最新動向 (1)</td><td>AI の歴史、AI の仕組み、最新動向</td><td>配布資料の指定頁の予復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>AI の基本原理と最新動向 (2)</td><td>最新動向の調査、アイデア出し</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>4</td><td>AI を作るための準備 (1)</td><td>データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>5</td><td>AI を作るための準備 (2)</td><td>データの整備</td><td>データの整備、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>6</td><td>AI の作り方</td><td>CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>7</td><td>AI の使い方</td><td>画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>8</td><td>AI の評価方法</td><td>画像認識 AI モデルの評価、再学習</td><td>配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し</td></tr> <tr> <td>9</td><td>AI によるビジネスプランの立案 (1)</td><td>作成した AI の相互評価、グループ分け</td><td>学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し</td></tr> <tr> <td>10</td><td>AI によるビジネスプランの立案 (2)</td><td>グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方</td><td>グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの立案</td></tr> <tr> <td>11</td><td>AI によるビジネスプランの立案 (3)</td><td>ビジネスプランと AI の作成</td><td>ビジネスプランの文書作成、AI の作成</td></tr> <tr> <td>12</td><td>AI によるビジネスプランの立案 (4)</td><td>ビジネスプランの推敲、AI の作成</td><td>ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化</td></tr> <tr> <td>13</td><td>AI によるビジネスプランの立案 (5)</td><td>ビジネスプランの推敲、AI の評価</td><td>ビジネスプランの文書修正、AI の評価</td></tr> <tr> <td>14</td><td>プレゼンテーション</td><td>グループによる発表、相互評価</td><td>授業内容の振り返り</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総括</td><td>これまでのまとめ</td><td>授業内容の振り返り</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習	2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習	3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し	6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し	9	AI によるビジネスプランの立案 (1)	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し	10	AI によるビジネスプランの立案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの立案	11	AI によるビジネスプランの立案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成	12	AI によるビジネスプランの立案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化	13	AI によるビジネスプランの立案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価	14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り	15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習																																																																
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習																																																																
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し																																																																
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し																																																																
9	AI によるビジネスプランの立案 (1)	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し																																																																
10	AI によるビジネスプランの立案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの立案																																																																
11	AI によるビジネスプランの立案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成																																																																
12	AI によるビジネスプランの立案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化																																																																
13	AI によるビジネスプランの立案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価																																																																
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り																																																																
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましい																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>人工知能が変える仕事の未来</td><td>野村 直之</td><td>日本経済新聞</td></tr> <tr> <td>2</td><td>人工知能は人間を超えるか</td><td>松尾 豊</td><td>角川</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞	2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞																																																																
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川																																																																
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :																																																																		
評価方法 (基準)	成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点となる。																																																																		
学生へのメッセージ	Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができてしまう世の中になっています。この授業をととして、そのことを実感してほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等備考	11 号館 8 階 塚田講師室																																																																		

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a1～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個々人の生き方など、多角的な視点から考えていきます。 本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。 SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17																																																																		
到達目標	①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること ?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること ③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること																																																																		
授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます</td><td>事後学修：配布資料を熟読すること (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>社会福祉の歴史①</td><td>諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会福祉の歴史②</td><td>日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>社会福祉の実施主体</td><td>社会福祉の実施主体について理解を深めます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>社会保障の概観</td><td>社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>高齢者福祉</td><td>高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>認知症と地域生活</td><td>認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかなう基本的な知識を踏まえて考えます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>障害者福祉</td><td>障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>子ども家庭福祉</td><td>子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>地域福祉①</td><td>地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>地域福祉②</td><td>地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>地域福祉③</td><td>地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>地域福祉④</td><td>地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います</td><td>事後学修：提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>社会福祉と大学生の役割</td><td>社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます</td><td>事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のふりかえり</td><td>講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知</td><td>事後学修：講義の内容について振り返りを行うこと (4 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修：配布資料を熟読すること (2 時間)	2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	7	認知症と地域生活	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかなう基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事後学修：提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2 時間)	14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)	15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学修：講義の内容について振り返りを行うこと (4 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修：配布資料を熟読すること (2 時間)																																																																
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
7	認知症と地域生活	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかなう基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからについて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事後学修：提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習：テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2 時間) 事後学修：配布資料を用いて振り返りを行うこと (2 時間)																																																																
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学修：講義の内容について振り返りを行うこと (4 時間)																																																																

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder			
Teams コード	eqjnr1			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート 50%、最終レポート 50%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙, 大塚 正人, 荻田 喜代一, 久保 貞也, 佐井 英子, 瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A ◎, A 科: A ◎, M 科: A1 ○, E 科: B △, C 科: II ◎, L 科: DP2 ◎, D 科: DP1 ◎, S 科: DP1 ◎, P 科: DP8 △, J 科: DP1 ◎, W 科: DP1 ◎, N 科: DP1 ◎N: DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科: R 科: A 科: M 科: E 科: C 科: TKY1458a1, L 科: LKY1360a1, D 科: S 科: IKY1367a1, P 科: YT01423a2～YT01427a2, J 科: JKY1369a1, W 科: WKY1348a1, N 科: NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2) ABD による読書法を身につけている。 (3) チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4) SDG s と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5) 読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6) コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7) 自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABD の体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む (1.5 時間以上)
	2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む (1.5 時間以上)
	3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読む (1.5 時間以上)
	4	教養入門: 第五章 経済学	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第一章を読む (1.5 時間以上)
	5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)
	6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート 1 回目 事前学習: SDG s とは何かを調べる (3 時間以上)
	7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s の概要 SDG s ゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDG s とは何か調べる (1.5 時間以上)
	8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s とは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる (1.5 時間以上)
	9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 振り返りレポート 2 回目 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読む (2 時間以上)
	10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読む (1.5 時間以上)
	11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読む (1.5 時間以上)
	12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読む (1.5 時間以上)
	13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3 時間以上)
	14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート 3 回目 (2 時間以上)
	15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習: 振り返りレポート 4 回目 (2 時間以上)

実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・取り組み姿勢（チーム：20%） ・中間発表・まとめ（チーム：20%） ・振り返りレポート 4回（個人：20%） ・振り返りシート（個人：15%） ・理解度確認クイズ（個人：15%） ・事前学習シート（個人：5%） ・ファイル管理（個人：5%） 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。			
	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	荻田喜代一（7号館8F、学長室）、伊藤譲（1号館3F）、石井三恵（7号館5F）、柳沢学（8号館3F）、大塚正人（薬学部1号館5F）、久保貞也（11号館7F）、佐井英子（11号館6F）、瀬川智広（スゴ振）、古矢篤史（7号館4F）、寺本俊太郎（1号館3F）、松島裕一（11号館9F）、羅鵬飛（経済）			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 譲・上野山 裕士・友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TKY1459a1, L 科 : LKY1361a1, D 科・S 科 : IKY1368a1, P 科 : YTO1423a2~YTO1427a2, J 科 : JKY1370a1, W 科 : WKY1349a1, N 科 : NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABD による読書法の基礎 (要約, プレゼンテーション, 対話) を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話 (感想を述べ合うこと, 質疑応答) を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	この授業は対面授業 (6 回) と遠隔授業 (9 回) で行う。 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート	教科書 p. 18-47 を読み, 事前学習シート (①不明な用語を調べる, ②重要箇所を抜き出す) を作成する。(3 時間以上)
	2	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	事後学習シート (学習範囲を 200~250 字で要約) を作成する。教科書 p. 48-79 を読み, 事前学習シートを作成する。
	3	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	事後学習シート。教科書 p. 80-108 を読み, 事前学習シートを作成する。
	4	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート	事後学習シート
	5	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	学びの振り返り (整理, 共有) 要約・プレゼン・対話の要点を説明	教科書 p. 109~146 を読み, 事前学習シートに記入する。
	6	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	事後学習シート
	7	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p. 148~181 を読み, 事前学習シートを作成する
	8	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p. 181~203 を読み, 事前学習シートを作成する
	9	教養としての社会の課題を知る : 「未来の年表」	解説, 確認試験 協働学習 (要約・プレゼン・対話) QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート ポスター作成 プレゼン準備 図書館の利用
	10	教養としての社会の課題を知る : 中間成果発表 1 回目	ポスター作成 発表・質疑応答, 投票と表彰 振り返りシート	振り返りレポート 1 回目 「星の王子様」1~10 章を読み, 事前学習シートを作成
	11	教養としての文学作品に触れる : 「星の王子様」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	事後学習シート 11~20 章を読み, 事前学習シートを作成
	12	教養としての文学作品に触れる : 「星の王子様」	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	事後学習シート 21~27 章を読み, 事前学習シートを作成
	13	教養としての文学作品に触れる : 「星の王子様」	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート 事前学習シート (ポスター作成・プレゼン準備)
	14	教養としての文学作品に触れる : 中間成果発表 2 回目	解説, 確認試験 ポスター作成	振り返りレポート 2 回目 図書館の利用

			発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート		
	15	全体振り返り	各グループで選択した文学作品の紹介。 バインダーチェック 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り		
実務経験					
関連科目		摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
		2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
授業形態		対面授業			
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー		大学教養実践 DKJ			
連絡手段		学内メール			
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)		・取り組み姿勢／ルーブリック（チーム：15%）、・ファイリング（個人：5%） ・ポスター発表（チーム：20%） ・振り返りレポート 2回（個人：20%）、・振り返りシート（個人：10%） ・理解度確認クイズ（個人：10%） ・事前学習シート（個人：10%）、・事後学習シート（個人：10%） 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ		この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等		伊藤謙（1号館3F）、上野山裕士（7号館3F）、寺内睦博（11号館10F）、水野武（7号館3F）、友枝恭子（3号館3F）、瀧（スポ振）			
備考		この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？			

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1004a0		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立 1 次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論である。現代理工学の多くは線形代数を基本単語として記述されているため、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることのできる基礎的能力、すなわち 1) 行列の計算ができること 2) ベクトルの内積・外積が求められること 3) 基本変形で連立 1 次方程式を解けること 4) 基本変形で逆行列が求められること を目標とする。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。毎回課題を課し、次回に解答を述べ回収する。自ら手を動かして計算してみることが大切である。
科目学習の効果 (資格)	これから学ぶ理工学関連の科目の基礎となる。これらの科目を履修予定のものは、この科目を学んでおく事が望まれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	行列の定義 (1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題、レポート
	2	行列の定義 (2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題、レポート
	3	正方行列 (1)	・単位行列・正則行列の定義	第 1 章の間、演習問題、レポート
	4	正方行列 (2)	・正則行列の性質	第 1 章の間、演習問題、レポート
	5	2 次正方行列	・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題、レポート
	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第 1 章の間、演習問題、レポート
	7	連立 1 次方程式 (1)	・消去法	第 2 章の間、演習問題、レポート
	8	連立 1 次方程式 (2)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題、レポート
	9	連立 1 次方程式 (3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題、レポート
	10	連立 1 次方程式 (4)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題、レポート
	11	連立 1 次方程式 (5)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題、レポート
	12	空間のベクトル (1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題、レポート
	13	空間のベクトル (2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題、レポート
	14	空間のベクトル (3)	・外積・スカラー 3 重積	第 3 章の間、演習問題、レポート
	15	空間のベクトル (4)	・直線の方程式・平面の方程式	第 3 章の間、演習問題、レポート

実務経験	
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	線形代数	摂南大学数学教室編	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テスト・演習で 40%、期末試験 60% で評価する。(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)。
学生への メッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。
担当者の 研究室等	3 号館 3 階 数学研究室
備考	事前事後学習は各々毎回 1.5 時間以上かけること。 小テスト・演習は、授業中にフィードバックする。

科目名	線形代数Ⅰ	科目名（英文）	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 甫宗
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1004a0		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	1) 行列の計算ができる。 2) ベクトルの内積・外積を理解する。 3) 基本変形で連立1次方程式を解く。 4) 基本変形で逆行列を求めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は基本的に、Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果（資格）	以下の科目の講義は線形代数Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められます： 線形代数Ⅱ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅰを履修すること。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列の定義(1)</td><td>・和、スカラー倍</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列の定義(2)</td><td>・積の定義・転置行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>正方行列(1)</td><td>・単位行列・正則行列の定義</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>正方行列(2)</td><td>・正則行列の性質</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>2次正方行列</td><td>・逆行列の計算</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>いろいろな行列</td><td>・対称行列・交代行列・べき零行列</td><td>第1章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>連立1次方程式(1)</td><td>・消去法</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>連立1次方程式(2)</td><td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>連立1次方程式(3)</td><td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>連立1次方程式(4)</td><td>・基本解・特殊解</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>連立1次方程式(5)</td><td>・同次連立1次方程式・正則行列となる条件</td><td>第2章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>空間のベクトル(1)</td><td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>空間のベクトル(2)</td><td>・内積・距離</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>空間のベクトル(3)</td><td>・外積・スカラー3重積</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>空間のベクトル(4)</td><td>・直線の方程式・平面の方程式</td><td>第3章の間、演習問題 レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート	5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・べき零行列	第1章の間、演習問題 レポート	7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート	8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート	9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート	10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート	11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・べき零行列	第1章の間、演習問題 レポート																																																																
7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間、演習問題 レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間、演習問題 レポート																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	線形代数Ⅱ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>線形代数の基礎講義</td><td>島田伸一・廣島文生</td><td>共立出版</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	演習、小テストで30%、期末70%で評価する。 ただし、期末試験の実施が困難な場合は、レポート試験を行う可能性がある。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、各々毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、演習は採点して返却する。																																																																		

科目名	線形代数Ⅱ	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2005a0		

授業概要・目的	行列式の計算ができ、行列の固有値と固有ベクトルが求められ、それらを行列の対角化へ応用できるようになることが本講義の目的である。																																																																		
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の三角化と対角化ができる。																																																																		
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。 (1) 演習問題は授業で説明した内容から出題する。 (2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められるため、それらの科目を受講する予定の場合は線形代数Ⅱを履修すること。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列式(1)</td><td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列式(2)</td><td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>行列式(3)</td><td>・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>行列式(4)</td><td>・行列式の余因子展開</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>行列式(5)</td><td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>行列式(6)</td><td>・余因子行列・逆行列</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>行列式(7)</td><td>・クラメールの公式</td><td>第4章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>固有値と固有ベクトル(1)</td><td>・固有多項式・固有方程式 ・固有値、固有ベクトルの計算(1)</td><td>第5章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>固有値と固有ベクトル(2)</td><td>・固有値、固有ベクトルの計算(2)</td><td>第5章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>固有値と固有ベクトル(3)</td><td>・正方行列の三角化</td><td>第5章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>固有値と固有ベクトル(4)</td><td>・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理</td><td>第5章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>固有値と固有ベクトル(5)</td><td>・正方行列の対角化</td><td>第6章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>固有値と固有ベクトル(6)</td><td>・実対称行列の対角化・直交行列</td><td>第6章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>固有値と固有ベクトル(7)</td><td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td><td>第6章の間、演習問題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>固有値と固有ベクトル(8)</td><td>・2次曲線、曲面の例</td><td>第6章の間、演習問題レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題レポート	3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間、演習問題レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題レポート	7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値、固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値、固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の三角化	第5章の間、演習問題レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間、演習問題レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間、演習問題レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間、演習問題レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題レポート																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題レポート																																																																
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間、演習問題レポート																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題レポート																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題レポート																																																																
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題レポート																																																																
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題レポート																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式・固有方程式 ・固有値、固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題レポート																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値、固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題レポート																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の三角化	第5章の間、演習問題レポート																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間、演習問題レポート																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間、演習問題レポート																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化・直交行列	第6章の間、演習問題レポート																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題レポート																																																																
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題レポート																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	線形代数Ⅰ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>線形代数の基礎講義</td><td>島田伸一 廣島文生</td><td>共立出版</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一 廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一 廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」／Moodle																																																																		
Teams コード	85akoh3																																																																		
Moodle コース名 および登録キー	linearR																																																																		
連絡手段	Teams チャンネル、チャット																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	レポート、演習、小テストで30%、定期テストで70%の割合で判定し評価する。 定期テストについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。																																																																		
学生への メッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。どのような質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが、最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前時御学習は各々毎回1.5時間以上かけること。																																																																		

	小テスト, 演習は採点して返却する。
--	--------------------

科目名	線形代数Ⅱ	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2005a0		

授業概要・目的	行列式の計算法と行列の固有値と固有ベクトルの求め方が本講義の目的である。																																																																		
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の3角化と対角化について理解し、対角化可能であるか判定できる。 (4) 実対称行列を直交行列により対角化できる。																																																																		
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。 線形代数Ⅱで紹介しなくてはならない内容は多く、線形代数Ⅰに比べて、授業時間中に演習時間を多くは割けないため、授業理解のためのレポートを事後学習課題として課す。 期末試験の出題内容は、教科書の演習問題やレポート問題のレベルの内容とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	構造力学Ⅰ、Ⅱなどの基礎となる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>行列式(1)</td><td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>行列式(2)</td><td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>行列式(3)</td><td>・2次正方向行列の行列式・3次正方向行列の行列式</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>行列式(4)</td><td>・行列式の余因子展開</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>行列式(5)</td><td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>行列式(6)</td><td>・余因子行列・逆行列</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>行列式(7)</td><td>・クラメールの公式</td><td>第4章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>固有値と固有ベクトル(1)</td><td>・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)</td><td>第5章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>固有値と固有ベクトル(2)</td><td>・固有値, 固有ベクトルの計算(2)</td><td>第5章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>固有値と固有ベクトル(3)</td><td>・正方向行列の3角化</td><td>第5章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>固有値と固有ベクトル(4)</td><td>・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理</td><td>第5章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>固有値と固有ベクトル(5)</td><td>・正方向行列の対角化</td><td>第6章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>固有値と固有ベクトル(6)</td><td>・実対称行列の対角化 ・直交行列</td><td>第6章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>固有値と固有ベクトル(7)</td><td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td><td>第6章の間、演習問題 レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>固有値と固有ベクトル(8)</td><td>・2次曲線、曲面の例</td><td>第6章の間、演習問題 レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題 レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題 レポート	3	行列式(3)	・2次正方向行列の行列式・3次正方向行列の行列式	第4章の間、演習問題 レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題 レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題 レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題 レポート	7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題 レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題 レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題 レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方向行列の3角化	第5章の間、演習問題 レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間、演習問題 レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方向行列の対角化	第6章の間、演習問題 レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第6章の間、演習問題 レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題 レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
3	行列式(3)	・2次正方向行列の行列式・3次正方向行列の行列式	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方向行列の3角化	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方向行列の対角化	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>線形代数の基礎講義</td><td>島田伸一, 廣島文生</td><td>共立出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一, 廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一, 廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle／対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー	線形代数Ⅱ 1a12r2020																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	課題レポート30%、期末テスト70%で判定し評価する。 期末テストについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。																																																																		
学生への	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらず																																																																		

メッセージ	に最終目標をいつも頭において勉強してください。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は各々毎回1.5時間以上かけること。 レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	工業数学 I	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2006a0		

授業概要・目的	工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。
到達目標	微積分及び線形代数の主要な計算を実行できる。 専門基礎で用いられる数学的表現が理解できる。
授業方法と留意点	資料配布型でのオンライン授業を実施する。 理解の促進と達成の度合いをみるため演習問題を課題配布する。 詳細は、Microsoft teams を通して、連絡をする。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	演習問題
	2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	演習問題
	3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	演習問題
	4	ベクトル (1)	・ベクトルの内積の図形的意味	演習問題
	5	ベクトル (2)	・ベクトルの外積の図形的意味	演習問題
	6	行列式の計算	・種々の行列式の計算法	演習問題
	7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	演習問題
	8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	演習問題
	9	速度・加速度 (1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	演習問題
	10	速度・加速度 (2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	演習問題
	11	ベクトルを用いた物理量 (1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	演習問題
	12	ベクトルを用いた物理量 (2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	演習問題
	13	重積分の計算 (1)	・重積分の逐次積分法	演習問題
	14	重積分の計算 (2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	演習問題
	15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	演習問題

実務経験	
------	--

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	工業数学の基礎 (2017 年度版)		摂南大学 基礎理工学機構編
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	小テスト 40% および最終のレポート 60% で成績評価する。 期末試験は行わない。
-----------	--

学生へのメッセージ	3 号館 3 階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室
----------	----------------

備考	事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は採点して返却し、適宜講義中に解説する。
----	---

科目名	工業数学Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2007a0		

授業概要・目的	工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の 1 つである。講義の前半は、1 階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では 2 階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的な解法について学習する。
到達目標	変数分離系などの微分方程式を解くことができる。 線形微分方程式を理解して解くことができる。 専門分野で出てくる微分方程式で解くことができる。
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるもので、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 資料配布型でのオンライン授業を実施する。 理解の促進と達成の度合いをみるため演習問題を課題配布する。 詳細は、Microsoft teams を通して、連絡をする。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分方程式の解	・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式	教科書の演習問題
	2	1 階常微分方程式 (1)	・変数分離形 1 階微分方程式の解法	教科書の演習問題
	3	1 階常微分方程式 (2)	・定数変化法による 1 階線形微分方程式の解法	教科書の演習問題
	4	1 階常微分方程式 (3)	・微分方程式を用いた運動方程式の記述	教科書の演習問題
	5	1 階常微分方程式 (4)	・空気抵抗中の運動など物理への応用	教科書の演習問題
	6	2 階定数線形微分方程式 (1)	・基本解の導出	教科書の演習問題
	7	2 階定数線形微分方程式 (2)	・基本解・解の表示	教科書の演習問題
	8	2 階定数線形微分方程式 (3)	・未定係数法 (1) $y'' + ay' + by = (\text{多項式})$ の解法	教科書の演習問題
	9	習熟度確認試験及び解説講義	第 1-7 回目までの内容に関する習熟度確認試験、及びその解説講義	
	10	2 階定数線形微分方程式 (4)	・未定係数法 (2) $y'' + ay' + by = (\text{指数関数})$ の解法	教科書の演習問題
	11	2 階定数線形微分方程式 (5)	・未定係数法 (3) $y'' + ay' + by = (\text{三角関数})$ の解法	教科書の演習問題
	12	2 階定数線形微分方程式の応用 (2)	・強制振動など物理への応用	教科書の演習問題
	13	数値計算 (1)	・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
	14	数値計算 (2)	・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法	教科書の演習問題
	15	総合演習	・応用問題	教科書の演習問題

実務経験	
------	--

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II, 工業数学 I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微分方程式の基礎 (2016 年度版)		摂南大学 基礎理工学機構編
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder
------	----------------------------

Teams コード	iak2ta7
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	teams/メール(メールを送る場合は、teams 内で知らせること)
------	-------------------------------------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	演習・小テスト 40%および最終回のレポート 60%で成績評価を行う。 期末試験は行わない。
--------------	---

学生への メッセージ	3 号館 3 階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
---------------	---

担当者の 研究室等	3 号館 3 階 数学研究室
--------------	----------------

備考	事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は採点して返却し、適宜講義中に解説する。
----	---

科目名	代数学	科目名 (英文)	Algebra
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2008a0		

授業概要・目的	最近の電子社会の発展に伴い、「群」、「環」、「体」と言った抽象代数の知識の必要性が増している。抽象代数においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開される。そのなかにあつて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのようにして捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理について説明できる。																																																																		
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I。 毎時間の講義の内容を復習し、自分で納得するまで手と頭を動かすことを習慣づけること。授業時間の倍以上の自主学習が必要である。授業テーマごとに講義録と演習問題を配布する。演習問題は授業中の課題演習、宿題等に利用する。なお解説・解答は次回授業時に配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	代数的構造がどのようにして捉えられ、記述される方法がわかる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>集合</td><td>・集合 ・集合の間の関係 ・論理記号など</td><td>・演習問題 1</td></tr> <tr> <td>2</td><td>同値関係と商集合</td><td>・同値関係 ・同値類、類別 ・商集合</td><td>・講義の復習 ・演習問題 2</td></tr> <tr> <td>3</td><td>写像</td><td>・全射、単射、全単射 ・逆写像</td><td>・講義の復習 ・演習問題 3</td></tr> <tr> <td>4</td><td>群の定義と例 (1)</td><td>・2 項演算 ・群の定義、加法群、乗法群 ・群の乗積表</td><td>・講義の復習 ・演習問題 4 (前半)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>群の定義と例 (2)</td><td>・群の例</td><td>・講義の復習 ・演習問題 4 (後半)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>群と対称性への入門 (2 面体群で遊ぶ)</td><td>・2 面体群 ・生成元と基本関係式</td><td>・講義の復習 ・演習問題 5</td></tr> <tr> <td>7</td><td>部分群</td><td>・部分群の定義 ・部分群の例</td><td>・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>部分群と剰余類</td><td>・左剰余類、右剰余類 ・ラグランジュの定理 ・剰余の同値律</td><td>・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>要素の位数</td><td>・群の要素の位数 ・巡回群</td><td>・講義の復習 ・演習問題 7</td></tr> <tr> <td>10</td><td>正規部分群と剰余群 (商群) (1)</td><td>・正規部分群の定義と例</td><td>・講義の復習 ・演習問題 8 (前半)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>正規部分群と剰余群 (商群) (2)</td><td>・正規部分群による剰余類 ・剰余群 (商群) とその例</td><td>・講義の復習 ・演習問題 8 (後半)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>群の準同型 (1)</td><td>・群準同型写像、群準同型 ・群準同型の例 ・群同型写像、群同型 ・群同型の例</td><td>・講義の復習 ・演習問題</td></tr> <tr> <td>13</td><td>群の準同型 (2)</td><td>・群準同型写像の核 ・群準同型写像の核と正規部分群</td><td>・講義の復習 ・演習問題</td></tr> <tr> <td>14</td><td>群の準同型定理 (1)</td><td>・準同型定理</td><td>・講義の復習 ・演習問題</td></tr> <tr> <td>15</td><td>群の準同型定理 (2)</td><td>・準同型定理とその応用</td><td>・講義の復習 ・演習問題</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	集合	・集合 ・集合の間の関係 ・論理記号など	・演習問題 1	2	同値関係と商集合	・同値関係 ・同値類、類別 ・商集合	・講義の復習 ・演習問題 2	3	写像	・全射、単射、全単射 ・逆写像	・講義の復習 ・演習問題 3	4	群の定義と例 (1)	・2 項演算 ・群の定義、加法群、乗法群 ・群の乗積表	・講義の復習 ・演習問題 4 (前半)	5	群の定義と例 (2)	・群の例	・講義の復習 ・演習問題 4 (後半)	6	群と対称性への入門 (2 面体群で遊ぶ)	・2 面体群 ・生成元と基本関係式	・講義の復習 ・演習問題 5	7	部分群	・部分群の定義 ・部分群の例	・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)	8	部分群と剰余類	・左剰余類、右剰余類 ・ラグランジュの定理 ・剰余の同値律	・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)	9	要素の位数	・群の要素の位数 ・巡回群	・講義の復習 ・演習問題 7	10	正規部分群と剰余群 (商群) (1)	・正規部分群の定義と例	・講義の復習 ・演習問題 8 (前半)	11	正規部分群と剰余群 (商群) (2)	・正規部分群による剰余類 ・剰余群 (商群) とその例	・講義の復習 ・演習問題 8 (後半)	12	群の準同型 (1)	・群準同型写像、群準同型 ・群準同型の例 ・群同型写像、群同型 ・群同型の例	・講義の復習 ・演習問題	13	群の準同型 (2)	・群準同型写像の核 ・群準同型写像の核と正規部分群	・講義の復習 ・演習問題	14	群の準同型定理 (1)	・準同型定理	・講義の復習 ・演習問題	15	群の準同型定理 (2)	・準同型定理とその応用	・講義の復習 ・演習問題
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	集合	・集合 ・集合の間の関係 ・論理記号など	・演習問題 1																																																																
2	同値関係と商集合	・同値関係 ・同値類、類別 ・商集合	・講義の復習 ・演習問題 2																																																																
3	写像	・全射、単射、全単射 ・逆写像	・講義の復習 ・演習問題 3																																																																
4	群の定義と例 (1)	・2 項演算 ・群の定義、加法群、乗法群 ・群の乗積表	・講義の復習 ・演習問題 4 (前半)																																																																
5	群の定義と例 (2)	・群の例	・講義の復習 ・演習問題 4 (後半)																																																																
6	群と対称性への入門 (2 面体群で遊ぶ)	・2 面体群 ・生成元と基本関係式	・講義の復習 ・演習問題 5																																																																
7	部分群	・部分群の定義 ・部分群の例	・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)																																																																
8	部分群と剰余類	・左剰余類、右剰余類 ・ラグランジュの定理 ・剰余の同値律	・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)																																																																
9	要素の位数	・群の要素の位数 ・巡回群	・講義の復習 ・演習問題 7																																																																
10	正規部分群と剰余群 (商群) (1)	・正規部分群の定義と例	・講義の復習 ・演習問題 8 (前半)																																																																
11	正規部分群と剰余群 (商群) (2)	・正規部分群による剰余類 ・剰余群 (商群) とその例	・講義の復習 ・演習問題 8 (後半)																																																																
12	群の準同型 (1)	・群準同型写像、群準同型 ・群準同型の例 ・群同型写像、群同型 ・群同型の例	・講義の復習 ・演習問題																																																																
13	群の準同型 (2)	・群準同型写像の核 ・群準同型写像の核と正規部分群	・講義の復習 ・演習問題																																																																
14	群の準同型定理 (1)	・準同型定理	・講義の復習 ・演習問題																																																																
15	群の準同型定理 (2)	・準同型定理とその応用	・講義の復習 ・演習問題																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	線形代数 I、線形代数 II、微積分 I。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>代数的構造</td><td>遠山 啓</td><td>ちくま学芸文庫</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>代数学の基礎</td><td>岩永 恭雄</td><td>日評数学選書</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	代数学の基礎	岩永 恭雄	日評数学選書	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	代数学の基礎	岩永 恭雄	日評数学選書																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する (期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)。																																																																		

学生への メッセージ	こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。中途半端な学習では何も身に付きません。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしい。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	毎回2時間程度の事後学習が必要だろう。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	幾何学Ⅰ	科目名（英文）	GeometryⅠ
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2009a0		

授業概要・目的	幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの基本的な図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。 (2) 命題の基本的な証明方法を使うことができる。 (3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。 (4) 平行線の公理について理解している。 (5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業を行います。 毎回の課題レポートには時間をかけて取り組むようにしましょう。配付する授業資料には、課題レポートの問題も含めて、練習問題をたくさん載せていますので、論理的な文章が書けるように、練習を積んでください。																																																																		
科目学習の効果（資格）	数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>推論と証明(1)</td><td>命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>2</td><td>推論と証明(2)</td><td>命題の逆、対偶、必要十分条件について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>3</td><td>線分と角の合同</td><td>合同の概念、線分と角の合同について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>4</td><td>三角形の合同定理</td><td>3つの、三角形の合同定理について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>5</td><td>いろいろな角</td><td>いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>6</td><td>三角不等式</td><td>三角形の内角と外角、三角不等式について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>7</td><td>線分の中点</td><td>直角三角形の合同定理、線分の中点、角の二等分線について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>8</td><td>平行線の公理</td><td>平行線の公理、三角形の内角の和について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>9</td><td>四辺形</td><td>いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>10</td><td>中点連結定理</td><td>中点連結定理、n等分点列の存在について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>11</td><td>三角形の相似</td><td>線分の内分と外分、三角形の相似について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>12</td><td>三平方の定理</td><td>三平方の定理、中線定理、円、円の接線について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>13</td><td>三角形の五心(1)</td><td>重心、外心、垂心について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>14</td><td>三角形の五心(2)</td><td>内心、傍心について</td><td>課題レポート</td></tr> <tr><td>15</td><td>複素数平面</td><td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	推論と証明(1)	命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について	課題レポート	2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件について	課題レポート	3	線分と角の合同	合同の概念、線分と角の合同について	課題レポート	4	三角形の合同定理	3つの、三角形の合同定理について	課題レポート	5	いろいろな角	いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について	課題レポート	6	三角不等式	三角形の内角と外角、三角不等式について	課題レポート	7	線分の中点	直角三角形の合同定理、線分の中点、角の二等分線について	課題レポート	8	平行線の公理	平行線の公理、三角形の内角の和について	課題レポート	9	四辺形	いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について	課題レポート	10	中点連結定理	中点連結定理、n等分点列の存在について	課題レポート	11	三角形の相似	線分の内分と外分、三角形の相似について	課題レポート	12	三平方の定理	三平方の定理、中線定理、円、円の接線について	課題レポート	13	三角形の五心(1)	重心、外心、垂心について	課題レポート	14	三角形の五心(2)	内心、傍心について	課題レポート	15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	推論と証明(1)	命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について	課題レポート																																																																
2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件について	課題レポート																																																																
3	線分と角の合同	合同の概念、線分と角の合同について	課題レポート																																																																
4	三角形の合同定理	3つの、三角形の合同定理について	課題レポート																																																																
5	いろいろな角	いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について	課題レポート																																																																
6	三角不等式	三角形の内角と外角、三角不等式について	課題レポート																																																																
7	線分の中点	直角三角形の合同定理、線分の中点、角の二等分線について	課題レポート																																																																
8	平行線の公理	平行線の公理、三角形の内角の和について	課題レポート																																																																
9	四辺形	いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について	課題レポート																																																																
10	中点連結定理	中点連結定理、n等分点列の存在について	課題レポート																																																																
11	三角形の相似	線分の内分と外分、三角形の相似について	課題レポート																																																																
12	三平方の定理	三平方の定理、中線定理、円、円の接線について	課題レポート																																																																
13	三角形の五心(1)	重心、外心、垂心について	課題レポート																																																																
14	三角形の五心(2)	内心、傍心について	課題レポート																																																																
15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について	課題レポート																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ など。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>幾何入門</td><td>砂田利一</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>2</td><td>幾何への誘い</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> <tr><td>3</td><td>幾何のおもしろさ</td><td>小平邦彦</td><td>岩波書店</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	幾何入門	砂田利一	岩波書店	2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店	3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	幾何入門	砂田利一	岩波書店																																																																
2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店																																																																
3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																																
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	課題レポート30%、定期テスト70%の割合で判定し評価する。 定期テストについては、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更もあり得る。																																																																		
学生へのメッセージ	授業資料の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、毎回の課題レポートでは難しいものもあるかもしれませんが、まずは「考えることに意義がある」と思って、じっくり取り組んでください。そしてできるだけ欠かさず提出することを心がけましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	幾何学Ⅱ	科目名（英文）	Geometry II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2010a0		

授業概要・目的	微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。																																																																		
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： 1) 2 次曲線の焦点・準線・極形式を理解する 2) 焦点の性質と微分方程式を用いた解析を理解する 3) 2 次曲線を座標軸の回転により標準形に直す 4) 平面曲線の弧長・曲率を理解する 5) 曲面の接平面を理解する 6) 曲面積分と曲面の重心が計算できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数Ⅰ、線形代数Ⅱ、微積分Ⅰ、微積分Ⅱ 授業テーマ毎に講義録と課題を Webbox にアップする。講義を基本とし理解度をみるため課題演習を行い、宿題も課す。また他者に説明できるまで授業内容を把握しているかもみるので出席を重視する。 ただし状況によっては、Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する場合もある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>2 次曲線（1）</td><td>放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>2</td><td>2 次曲線（2）</td><td>放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>3</td><td>2 次曲線（3）</td><td>楕円、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>4</td><td>2 次曲線（4）</td><td>楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>5</td><td>2 次曲線（5）</td><td>双曲線、標準形、準線、焦点、極形式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>6</td><td>2 次曲線（6）</td><td>双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>7</td><td>2 次曲線（7）</td><td>座標軸の回転と固有値</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>8</td><td>2 次曲線（8）</td><td>固有値による 2 次曲線の分類</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>9</td><td>平面の曲線（1）</td><td>弧長、曲率</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>10</td><td>平面の曲線（2）</td><td>曲率円</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>11</td><td>平面曲線（3）</td><td>曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>12</td><td>空間内の曲面（1）</td><td>陰関数表示、パラメータ表示、接平面</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>13</td><td>空間内の曲面（2）</td><td>曲面積分、曲面積、重心</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>14</td><td>空間内の曲面（3）</td><td>平均曲率、ガウス曲率(1)</td><td>課題レポート</td></tr> <tr> <td>15</td><td>空間内の曲面（4）</td><td>平均曲率、ガウス曲率(2)</td><td>課題レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	2 次曲線（1）	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	2	2 次曲線（2）	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	3	2 次曲線（3）	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	4	2 次曲線（4）	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート	5	2 次曲線（5）	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート	6	2 次曲線（6）	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート	7	2 次曲線（7）	座標軸の回転と固有値	課題レポート	8	2 次曲線（8）	固有値による 2 次曲線の分類	課題レポート	9	平面の曲線（1）	弧長、曲率	課題レポート	10	平面の曲線（2）	曲率円	課題レポート	11	平面曲線（3）	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート	12	空間内の曲面（1）	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート	13	空間内の曲面（2）	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート	14	空間内の曲面（3）	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート	15	空間内の曲面（4）	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	2 次曲線（1）	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
2	2 次曲線（2）	放物線の焦点の性質、接線(接空間)、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
3	2 次曲線（3）	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
4	2 次曲線（4）	楕円の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、面積	課題レポート																																																																
5	2 次曲線（5）	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	課題レポート																																																																
6	2 次曲線（6）	双曲線の焦点の性質、接線(接空間)、パラメータ表示、微分方程式を立てて解く。	課題レポート																																																																
7	2 次曲線（7）	座標軸の回転と固有値	課題レポート																																																																
8	2 次曲線（8）	固有値による 2 次曲線の分類	課題レポート																																																																
9	平面の曲線（1）	弧長、曲率	課題レポート																																																																
10	平面の曲線（2）	曲率円	課題レポート																																																																
11	平面曲線（3）	曲率と平面曲線の特徴付け、フルネセレーの公式	課題レポート																																																																
12	空間内の曲面（1）	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	課題レポート																																																																
13	空間内の曲面（2）	曲面積分、曲面積、重心	課題レポート																																																																
14	空間内の曲面（3）	平均曲率、ガウス曲率(1)	課題レポート																																																																
15	空間内の曲面（4）	平均曲率、ガウス曲率(2)	課題レポート																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	微積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Ⅰ・Ⅱ、幾何学Ⅰ、解析学、代数学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Moodle																																																																		
Teams コード	temv2eq																																																																		
Moodle コース名および登録キー	幾何学Ⅱ shimada																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	課題で 45%、期末試験 55%で評価する。（期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る）																																																																		
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、スチューデントアワー(月-金の 5 限目)には 3 号館 3 階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	3 号館 3 階 数学研究室																																																																		
備考	毎回プリントを配布し講義する。 事前事後学習は毎回 1.5 時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	解析学	科目名 (英文)	Analysis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2011a0		

授業概要・目的	微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数のもつ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としてもつ性質についての理解を目標にする。
到達目標	関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II 授業では、課題レポートの問題も含めた授業に関するプリントを配付する。 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	数学教職免許取得に不可欠。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実数の構成と性質 (1)	論証の用語、和集合、共通部分 有理数と実数	課題レポート
	2	実数の構成と性質 (2)	無限集合、濃度の比較、 有理数の可算性と実数の非可算性	課題レポート
	3	実数の構成と性質 (3)	実数の連続性、実数の作る集合の性質 限・下限、上極限・下極限、 数列の極限、 ε - N 論法	課題レポート
	4	実数の構成と性質 (4)	コーシー列、実数の完備性、 ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理	課題レポート
	5	関数の性質 (1)	関数の定義、関数の極限、 関数の連続性と ε - δ 論法、	課題レポート
	6	関数の性質 (2)	中間値の定理、最大値・最小値の存在	課題レポート
	7	連続関数	逆関数の定義、合成関数の連続性、 一様連続性、 リプシッツ・ヘルダー連続性	課題レポート
	8	微分と積分 (1)	微分係数の定義、導関数の定義 微分可能な関数の作る空間	課題レポート
	9	微分と積分 (2)	リーマン積分可能性と定積分、 微積分の基本定理	課題レポート
	10	平均値の定理とテイラー展開 (1)	ロルの定理、コーシーの平均値の定理、 有限増分の公式	課題レポート
	11	平均値の定理とテイラー展開 (2)	べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理	課題レポート
	12	関数列	数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束、	課題レポート
	13	関数空間	関数の作る空間、ノルム区間と完備性、 アスコリ・アルツェラの定理、	課題レポート
	14	関数方程式と関数空間 (1)	関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理	課題レポート
	15	関数方程式と関数空間 (2)	色々な関数方程式と解の存在	課題レポート

実務経験	
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II、力学、物理学など。特に微積分 I・II の修得は不可欠。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜プリント教材を配布する。		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle
Teams コード	cqzci8y
Moodle コース名 および登録キー	analysis
連絡手段	Teams チャンネル、チャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 30%、定期テスト(期末) 70% で判定し評価する。 期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る。 レポートは毎回採点して返却する。
学生への メッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問してください。いつでも親切に答えるようにしています。Teams によるリアルタイムでの質問時間も設けております。また、スチューデントアワー(月・金の 5 限目)には 3 号館 3 階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関する

	どんな質問でも気軽においで下さい。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2012a0		

授業概要・目的	統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計学の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。																																																																			
到達目標	到達目標： 1. データ整理に関する基礎的な統計計算ができる。 2. 確率の基本的性質の理解。 3. 確率分布の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 4. 2 項分布など離散型の確率分布に関する計算ができる。 5. 正規分布など連続型の確率分布に関する計算ができる。 6. 統計的推定の基本的な考え方の理解と応用ができる。 7. 統計的仮説検定の基本的な考え方の理解と応用ができる。																																																																			
授業方法と留意点	確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を捉える確率分布モデルを学ぶ。 その上でデータから母集団分布の特性について推論を行う統計的推測の基本的な考え方と、統計的推定、仮説検定を学ぶ。 Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 授業テーマごとに講義録と演習問題を配布する。レポート課題は演習問題の類題から出題する。 授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																			
科目学習の効果（資格）	統計的推定、仮説検定の考え方を理解して、その方法を実践できる。																																																																			
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>データの整理 1</td><td>・講義内容の説明 ・母集団と標本 ・標本平均、標本分散 ・ヒストグラム</td><td>・講義の復習 ・課題</td></tr><tr><td>2</td><td>データの整理 2</td><td>・2 変量データ ・相関係数 ・散布図</td><td>・講義の復習 ・課題</td></tr><tr><td>3</td><td>確率とその基本的な性質 1</td><td>・全事象と事象 ・事象の確率 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 1</td></tr><tr><td>4</td><td>確率とその基本的な性質 2</td><td>・条件付確率 ・事象の独立性 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 1</td></tr><tr><td>5</td><td>離散的確率変数 1</td><td>・離散型確率変数とその確率分布 ・離散型確率変数の期待値、分散値 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 2 (前半)</td></tr><tr><td>6</td><td>離散的確率変数 2</td><td>・2 項分布とその応用 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 2 (後半)</td></tr><tr><td>7</td><td>離散的確率変数 3</td><td>・2 項分布とその応用 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 3</td></tr><tr><td>8</td><td>連続型確率変数 1</td><td>・連続型確率変数, ・確率分布と確率密度関数 ・確率分布関数 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 4</td></tr><tr><td>9</td><td>連続型確率変数 2</td><td>・正規分布とその関連分布 ・標準正規分布 ・正規分布に従う確率変数の基準化</td><td>・講義の復習 ・演習問題 5</td></tr><tr><td>10</td><td>連続型確率変数 3</td><td>・正規分布に従う確率変数の定数倍 ・正規分布に従う独立な 2 つの確率変数の和 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 5</td></tr><tr><td>11</td><td>現象のモデル化</td><td>・母集団分布 ・母平均, 母分散, 母標準偏差</td><td>・講義の復習</td></tr><tr><td>12</td><td>統計的推定 1</td><td>・推定の考え方 ・点推定と区間推定 ・問題演習</td><td>・講義の復習</td></tr><tr><td>13</td><td>統計的推定 2</td><td>・母平均の区間推定 ・危険度 ・信頼区間 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)</td></tr><tr><td>14</td><td>統計的仮説検定 1</td><td>・仮説検定の考え方 ・帰無仮説と対立仮説 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)</td></tr><tr><td>15</td><td>統計的仮説検定 2</td><td>・母平均の仮説検定 ・両側検定 ・片側検定 ・問題演習</td><td>・講義の復習 ・演習問題 7</td></tr></table>				回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	データの整理 1	・講義内容の説明 ・母集団と標本 ・標本平均、標本分散 ・ヒストグラム	・講義の復習 ・課題	2	データの整理 2	・2 変量データ ・相関係数 ・散布図	・講義の復習 ・課題	3	確率とその基本的な性質 1	・全事象と事象 ・事象の確率 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 1	4	確率とその基本的な性質 2	・条件付確率 ・事象の独立性 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 1	5	離散的確率変数 1	・離散型確率変数とその確率分布 ・離散型確率変数の期待値、分散値 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 2 (前半)	6	離散的確率変数 2	・2 項分布とその応用 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 2 (後半)	7	離散的確率変数 3	・2 項分布とその応用 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 3	8	連続型確率変数 1	・連続型確率変数, ・確率分布と確率密度関数 ・確率分布関数 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 4	9	連続型確率変数 2	・正規分布とその関連分布 ・標準正規分布 ・正規分布に従う確率変数の基準化	・講義の復習 ・演習問題 5	10	連続型確率変数 3	・正規分布に従う確率変数の定数倍 ・正規分布に従う独立な 2 つの確率変数の和 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 5	11	現象のモデル化	・母集団分布 ・母平均, 母分散, 母標準偏差	・講義の復習	12	統計的推定 1	・推定の考え方 ・点推定と区間推定 ・問題演習	・講義の復習	13	統計的推定 2	・母平均の区間推定 ・危険度 ・信頼区間 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)	14	統計的仮説検定 1	・仮説検定の考え方 ・帰無仮説と対立仮説 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)	15	統計的仮説検定 2	・母平均の仮説検定 ・両側検定 ・片側検定 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 7
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																	
1	データの整理 1	・講義内容の説明 ・母集団と標本 ・標本平均、標本分散 ・ヒストグラム	・講義の復習 ・課題																																																																	
2	データの整理 2	・2 変量データ ・相関係数 ・散布図	・講義の復習 ・課題																																																																	
3	確率とその基本的な性質 1	・全事象と事象 ・事象の確率 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 1																																																																	
4	確率とその基本的な性質 2	・条件付確率 ・事象の独立性 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 1																																																																	
5	離散的確率変数 1	・離散型確率変数とその確率分布 ・離散型確率変数の期待値、分散値 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 2 (前半)																																																																	
6	離散的確率変数 2	・2 項分布とその応用 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 2 (後半)																																																																	
7	離散的確率変数 3	・2 項分布とその応用 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 3																																																																	
8	連続型確率変数 1	・連続型確率変数, ・確率分布と確率密度関数 ・確率分布関数 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 4																																																																	
9	連続型確率変数 2	・正規分布とその関連分布 ・標準正規分布 ・正規分布に従う確率変数の基準化	・講義の復習 ・演習問題 5																																																																	
10	連続型確率変数 3	・正規分布に従う確率変数の定数倍 ・正規分布に従う独立な 2 つの確率変数の和 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 5																																																																	
11	現象のモデル化	・母集団分布 ・母平均, 母分散, 母標準偏差	・講義の復習																																																																	
12	統計的推定 1	・推定の考え方 ・点推定と区間推定 ・問題演習	・講義の復習																																																																	
13	統計的推定 2	・母平均の区間推定 ・危険度 ・信頼区間 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)																																																																	
14	統計的仮説検定 1	・仮説検定の考え方 ・帰無仮説と対立仮説 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)																																																																	
15	統計的仮説検定 2	・母平均の仮説検定 ・両側検定 ・片側検定 ・問題演習	・講義の復習 ・演習問題 7																																																																	
実務経験																																																																				
関連科目	微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.																																																																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書 籍 名</td><td>著 者 名</td><td>出 版 社 名</td></tr></table>				番号	書 籍 名	著 者 名	出 版 社 名																																																												
番号	書 籍 名	著 者 名	出 版 社 名																																																																	

	1	基礎統計学	坂田, 高田, 百武	朝倉書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可		
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	AR 統計学 ARCs2			
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	3 号館 3 階数学研究室			
備考				

科目名	物理学基礎演習	科目名 (英文)	Exercises in Fundamental Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東谷 篤志, 前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1013a0		

授業概要・目的	物理学は自然現象を理解する上で極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な自然現象を物理学の法則から導き出す力を身につけることを目的として、さまざまな物理現象・科学技術との関連性について講述する。とくに環境科学に密接に関係する熱力学、電磁気学および波の基本的原理や法則を講述し、現象を定量的に取り扱う方法について概説する。
到達目標	熱・電磁気・波に関する基本的な物理を理解し、以下のことを目標とする。 熱：熱力学第一法則を用いて熱効率を計算できる。 電磁気：クーロン力・静電ポテンシャルを計算できる。 波：数学的に波を記述できる。
授業方法と留意点	教材・課題提供型のオンライン授業を実施する。教科書・参考書を参照し課題を最後まであきらめずに考え提出すること。
科目学習の効果 (資格)	理工学部において必要不可欠な物理の理解に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	気体の状態方程式	「熱力学」の紹介。ボイルの法則、シャルルの法則から、気体の状態方程式を学ぶ。	予習・復習課題 1
	2	温度と熱	温度と熱の概念を気体の分子運動論から理解する。	予習・復習課題 2
	3	仕事と熱と内部エネルギー	物理学でいう仕事の概念、熱の概念、内部エネルギーの概念を修得する。	予習・復習課題 3
	4	熱力学第一法則	熱現象に関わるエネルギー保存則を理解する。	予習・復習課題 4
	5	様々な状態変化	等温変化、定圧変化、定積変化、断熱変化を知る。カルノーサイクルを学び、第 2 種永久機関の是非を問う。	予習・復習課題 5
	6	クーロン力	「電磁気学」の紹介。質量に対する万有引力と比して、荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。	予習・復習課題 6
	7	電場	電場中に置かれた荷電粒子にかかる力を求め、電場と電気力線の概念を学ぶ。	予習・復習課題 7
	8	電気的位置エネルギー	力学的位置エネルギーと電気的位置エネルギーとの比較をもとに、等電位線の概念を理解する。	予習・復習課題 8
	9	電子の流れと抵抗とジュール熱	電流、抵抗、オームの法則を学ぶ。また、電気回路での合成抵抗やジュール熱を習得。	予習・復習課題 9
	10	コンデンサー	コンデンサー容量、コンデンサーを含む回路における合成容量や静電エネルギーを習得。	予習・復習課題 10
	11	電流と磁場	電流のつくる磁場、磁場中の電子に働くローレンツ力を学ぶ	予習・復習課題 11
	12	波	波の性質と数学的表現の仕方を理解する。	予習・復習課題 12
	13	波の伝播と位相速度	位相とは何か、また位相速度とは何か、波が空間を伝播していく様子を音波を例に挙げて説明する。	予習・復習課題 13
	14	波の様々な現象	重ね合わせの原理をもとに、波が干渉したり、折れ曲がったりする現象を学ぶ。	予習・復習課題 14
	15	音波	音波のうなりと気柱振動を学ぶ。	予習・復習課題 15

実務経験	
関連科目	微積分 I, 線形代数 I, 基礎力学演習, 物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹, 上村 洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。

	メールアドレス：
評価方法 (基準)	評価は課題提出と定期試験(Moodle, Teams を利用した試験, またはレポート試験)で行う。 定期試験 60%, 課題提出 40%
学生への メッセージ	物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが, 自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して, 身近な物理現象の原因を突き止めてみましょう。困ったときやわからないときには, 担当教員や学習支援センターを遠慮なくたずねてください。
担当者の 研究室等	1 号館 2 階 放射光物性研究室(東谷) 8 号館 2 階 物理準備室(前田)
備考	この科目は、講義と演習の二つからなる。 講義終了後には演習課題のプリントを配布するので、講義終了後には1時間以上かけて講義の復習と課題問題を解いておくこと。しておくこと。 また、演習授業終了後には授業中に行った演習問題を再度復習しておくこと(0.5h 以上)。 課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	物理学	科目名 (英文)	Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1014a0		

授業概要・目的	物理学は自然現象や理工系学部の専門科目を理解する上で、極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な物理現象の紹介とその成り立ちについて基本的な法則から説明する。特に、力学、熱学、光学および電磁気学に関する物理学の基本的原理や法則の相互関係を概説し、物理現象を総括的にかつ定量的に取り扱う方法を学ぶ。 SDGs-9																																																																		
到達目標	建築・都市工学技術者として必要な専門知識の理解を深めるために、数学や物理学などの基礎的な考え方が説明でき、それらを活用できる。																																																																		
授業方法と留意点	Moodle を利用する。解説を視聴し、クイズに答えてください。さらに課題プリントを各自で印刷して解答してください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>身の周りの現象と物理学</td><td>身近なところで活躍する物理学</td><td>————</td></tr> <tr> <td>2</td><td>時間変化と速度、加速度</td><td>位置の時間変化から、速度や加速度が定義される</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 時間に関する微分法</td></tr> <tr> <td>3</td><td>運動の法則</td><td>運動の三法則</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 運動方程式を導く</td></tr> <tr> <td>4</td><td>つり合いの状態</td><td>運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 運動方程式を解く</td></tr> <tr> <td>5</td><td>力学的エネルギー</td><td>空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) エネルギー保存則</td></tr> <tr> <td>6</td><td>電荷と力</td><td>力学と電気の関係：クーロンの法則</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 万有引力以外の力</td></tr> <tr> <td>7</td><td>電荷の運動 (質点の力学)</td><td>ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電場中での荷電粒子の運動</td></tr> <tr> <td>8</td><td>電流と電圧 (簡単な回路)</td><td>電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) オームの法則</td></tr> <tr> <td>9</td><td>電磁誘導 (磁石と力)</td><td>磁石と力、モーターと発電機</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電場と磁場の違い</td></tr> <tr> <td>10</td><td>直流と交流</td><td>家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 直流電流と交流電流の用途</td></tr> <tr> <td>11</td><td>電気エネルギーと熱エネルギー</td><td>電気エネルギーと熱エネルギーの関係</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則</td></tr> <tr> <td>12</td><td>光の性質：電磁波</td><td>折れ曲がる電磁波と光</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 重ね合わせの原理</td></tr> <tr> <td>13</td><td>光の性質：粒子</td><td>光の粒子性とエネルギー</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 光電効果</td></tr> <tr> <td>14</td><td>物理学とエネルギー</td><td>エネルギーの変換と効率化 (力学、電磁気、熱、光の融合)</td><td>スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 様々なエネルギー</td></tr> <tr> <td>15</td><td>おわりに</td><td>講義のまとめ</td><td>————</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	身の周りの現象と物理学	身近なところで活躍する物理学	————	2	時間変化と速度、加速度	位置の時間変化から、速度や加速度が定義される	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 時間に関する微分法	3	運動の法則	運動の三法則	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 運動方程式を導く	4	つり合いの状態	運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 運動方程式を解く	5	力学的エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) エネルギー保存則	6	電荷と力	力学と電気の関係：クーロンの法則	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 万有引力以外の力	7	電荷の運動 (質点の力学)	ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電場中での荷電粒子の運動	8	電流と電圧 (簡単な回路)	電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) オームの法則	9	電磁誘導 (磁石と力)	磁石と力、モーターと発電機	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電場と磁場の違い	10	直流と交流	家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 直流電流と交流電流の用途	11	電気エネルギーと熱エネルギー	電気エネルギーと熱エネルギーの関係	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則	12	光の性質：電磁波	折れ曲がる電磁波と光	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 重ね合わせの原理	13	光の性質：粒子	光の粒子性とエネルギー	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 光電効果	14	物理学とエネルギー	エネルギーの変換と効率化 (力学、電磁気、熱、光の融合)	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 様々なエネルギー	15	おわりに	講義のまとめ	————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	身の周りの現象と物理学	身近なところで活躍する物理学	————																																																																
2	時間変化と速度、加速度	位置の時間変化から、速度や加速度が定義される	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 時間に関する微分法																																																																
3	運動の法則	運動の三法則	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 運動方程式を導く																																																																
4	つり合いの状態	運動方程式の解法を学んだのち、物体がつり合っている状態での運動方程式を理解する	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 運動方程式を解く																																																																
5	力学的エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) エネルギー保存則																																																																
6	電荷と力	力学と電気の関係：クーロンの法則	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 万有引力以外の力																																																																
7	電荷の運動 (質点の力学)	ミリカンの実験・ブラウン管における電荷の運動	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電場中での荷電粒子の運動																																																																
8	電流と電圧 (簡単な回路)	電圧、電流、抵抗及び消費電力について説明する	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) オームの法則																																																																
9	電磁誘導 (磁石と力)	磁石と力、モーターと発電機	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電場と磁場の違い																																																																
10	直流と交流	家庭用電源と電池の原理と役割、簡単な回路	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 直流電流と交流電流の用途																																																																
11	電気エネルギーと熱エネルギー	電気エネルギーと熱エネルギーの関係	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 電気を熱に変換したときのエネルギー保存則																																																																
12	光の性質：電磁波	折れ曲がる電磁波と光	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 重ね合わせの原理																																																																
13	光の性質：粒子	光の粒子性とエネルギー	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 光電効果																																																																
14	物理学とエネルギー	エネルギーの変換と効率化 (力学、電磁気、熱、光の融合)	スライド・課題プリント復習 (1.5 時間以上) 様々なエネルギー																																																																
15	おわりに	講義のまとめ	————																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	力学Ⅰ・Ⅱ，物理学Ⅰ，物理学実験																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>やさしい基礎物理</td><td>潮 秀樹，上村 洸</td><td>森北出版</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹，上村 洸	森北出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	やさしい基礎物理	潮 秀樹，上村 洸	森北出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	物理学 IIA 科・物理学 R 科(2020) butsuri2																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	期末試験 (70%) と課題プリント (30%) の割合で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。																																																																		
担当者の研究室等	8 号館 2 階 物理準備室																																																																		
備考	Moodle 内のクイズにすべて正答していることが期末試験受験の前提条件です。																																																																		

科目名	基礎力学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	X
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1015a0		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は理工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。また、力学は日常的な現象を定量的に知ることができる学問であり、ものづくりに欠かせない。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方を学ぶ。
到達目標	数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。 具体的には、物体の運動方程式を組み立て、運動方程式を解き、物体の運動を理解することを目標とする。
授業方法と留意点	教材・課題提供型のオンライン授業を実施する。教科書・参考書等を参照し課題を最後まであきらめずに考え提出すること。
科目学習の効果 (資格)	力学の基礎を身につけ、簡単な構造計算ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理で使用する単位についても説明する。	予習・復習課題 1 単位について
	2	数学的準備 (1)	ベクトルの基礎と三角関数について学ぶ。	予習・復習課題 2 スカラー量とベクトル量
	3	数学的準備 (2)	ベクトルの取り扱いと三角関数の計算について学ぶ。	予習・復習課題 3 三角関数の計算
	4	数学的準備 (3)	ベクトルの合成・分解と簡単な微分積分について学ぶ。	予習・復習課題 4 ベクトル量の和と差
	5	重力と重心	重力・重心について学ぶ。	予習・復習課題 5 質量と重量の違い
	6	さまざまな力と力のモーメント (1)	垂直抗力・回転の力について学ぶ。	予習・復習課題 6 ベクトル量としての力
	7	さまざまな力と力のモーメント (2)	摩擦力・力のモーメントについて学ぶ。	予習・復習課題 7 ベクトル量としての力のモーメント
	8	力・力のモーメントのつり合い (1)	力・力のモーメントのつり合い式について学ぶ。	予習・復習課題 8 つり合いの条件を求める (物体が移動しないための条件)
	9	力・力のモーメントのつり合い (2)	力・力のモーメントのつり合い式の解法を学ぶ。	予習・復習課題 9 つり合いの条件を求める。 (物体が回転しないための条件)
	10	位置・速度・加速度と角度・角速度	位置・速度・加速度と角度・角速度について学ぶ。	予習・復習課題 10 位置の時間変化と角度の時間変化
	11	運動の 3 法則と円運動	慣性の法則・ニュートンの運動方程式および円運動について学ぶ。	予習・復習課題 11 運動方程式を導く 1
	12	運動の 3 法則と単振動	ニュートンの運動方程式と単振動について学ぶ。	予習・復習課題 12 運動方程式を導く 2
	13	エネルギー	仕事とエネルギーについて学ぶ。	予習・復習課題 13 エネルギーがスカラー量であることを理解する
	14	運動量・力積・衝突	力積・運動量と衝突について学ぶ。	予習・復習課題 14 運動量がベクトル量であることを理解する。
	15	まとめ	1 - 14 回目までの力学の内容について理解を深めるために、復讐を行う。	課題 (まとめ)

実務経験	
------	--

関連科目	微積分 I, 線形代数 I, 物理学基礎演習, 物理学実験
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洸著	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	評価は課題提出と定期試験(Moodle, Teams を利用した試験, またはレポート試験)で行う。 定期試験 60%, 課題提出 40%
-----------	--

学生へのメッセージ	物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、身近な現象を理解しましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	1 号館 2 階 放射光物性研究室
----------	-------------------

備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み、復習を行うこと。加えて、理解出来なかった点を確認し、次の授業にて質問すること。さらに、0.5時間以上、次回の講義の予習を行うこと。 課題は適宜講義で解説を行う。
----	--

科目名	基礎力学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	入澤 明典
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1015a0		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は理工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。また、力学は日常的な現象を定量的に知ることができる学問であり、ものづくりに欠かせない。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方を学ぶ。
到達目標	数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。 具体的には、物体の運動方程式を組み立て、運動方程式を解き、物体の運動を理解することを目標とする。
授業方法と留意点	教材・課題提供型のオンライン授業を実施する。教科書・参考書等を参照し課題を最後まであきらめずに考え提出すること。
科目学習の効果 (資格)	力学の基礎を身につけ、簡単な構造計算ができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理で使用する単位についても説明する。	予習・復習課題 1 単位について
	2	数学的準備 (1)	ベクトルの基礎と三角関数について学ぶ。	予習・復習課題 2 スカラー量とベクトル量
	3	数学的準備 (2)	ベクトルの取り扱いと三角関数の計算について学ぶ。	予習・復習課題 3 三角関数の計算
	4	数学的準備 (3)	ベクトルの合成・分解と簡単な微分積分について学ぶ。	予習・復習課題 4 ベクトル量の和と差
	5	重力と重心	重力・重心について学ぶ。	予習・復習課題 5 質量と重量の違い
	6	さまざまな力と力のモーメント (1)	垂直抗力・回転の力について学ぶ。	予習・復習課題 6 ベクトル量としての力
	7	さまざまな力と力のモーメント (2)	摩擦力・力のモーメントについて学ぶ。	予習・復習課題 7 ベクトル量としての力のモーメント
	8	力と力のモーメントのつり合い (1)	力と力のモーメントのつり合い式について学ぶ。	予習・復習課題 8 つり合いの条件を求める (物体が移動しないための条件)
	9	力と力のモーメントのつり合い (2)	力と力のモーメントのつり合い式の解法を学ぶ。	予習・復習課題 9 つり合いの条件を求める。 (物体が回転しないための条件)
	10	位置・速度・加速度と角度・角速度	位置・速度・加速度と角度・角速度について学ぶ。	予習・復習課題 10 位置の時間変化と角度の時間変化
	11	運動の 3 法則と円運動	慣性の法則・ニュートンの運動方程式および円運動について学ぶ。	予習・復習課題 11 運動方程式を導く 1
	12	運動の 3 法則と単振動	ニュートンの運動方程式と単振動について学ぶ。	予習・復習課題 12 運動方程式を導く 2
	13	エネルギー	仕事とエネルギーについて学ぶ。	予習・復習課題 13 エネルギーがスカラー量であることを理解する
	14	運動量・力積・衝突	力積・運動量と衝突について学ぶ。	予習・復習課題 14 運動量がベクトル量であることを理解する。
	15	まとめ	1 - 14 回目までの力学の内容について理解を深めるために、復讐を行う。	課題 (まとめ)

実務経験	
関連科目	微積分 I, 線形代数 I, 物理学基礎演習, 物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗著	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	評価は課題提出と定期試験(Moodle, Teams を利用した試験, またはレポート試験)で行う。 定期試験 60%, 課題提出 40%
学生へのメッセージ	物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、身近な現象を理解しましょう。
担当者の研究室等	8 号館 2 階 物理準備室 (不在の場合, 1 号館 2 階 放射光物性研究室)

備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み、復習を行うこと。加えて、理解出来なかった点を確認し、次の授業にて質問すること。さらに、0.5時間以上、次回の講義の予習を行うこと。 演習問題は、適宜講義中に解説する。
----	---

科目名	力学	科目名 (英文)	Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1016a0		

授業概要・目的	近代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学Ⅱ」では、剛体の力学について学ぶ。
到達目標	剛体の運動を記述するための物理量および方程式について説明できる。さらに剛体の運動を回転の運動方程式をもとに調べることができる。
授業方法と留意点	本授業は ICT ツールを用い遠隔で実施する。 受講者は、配布した教材（要約を記したプリント）を参照しながら、主として講義ビデオを視聴する。オンライン授業を実施する場合もある。また、数回のレポート課題に取り組む。 毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書・資料を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。小テストの正答率の低かった問題を中心に講義で解説する。
科目学習の効果 (資格)	工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	力学Ⅰの復習	質点の力学を復習する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	2	力のモーメントの基礎	剛体の運動の特徴である回転運動を扱うために必要な力のモーメントの考え方を学ぶ。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	3	様々な力のモーメントの表し方	モーメントの腕およびベクトルの外積を用いた力のモーメントの表し方を学習する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	4	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいを力のモーメントを用いて表す方法を学習する。つりあいの条件を求める方法を習得する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	5	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	6	様々な形状の剛体の重心	様々な形状の剛体の重心の求め方を習得する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	7	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解する。さらに角加速度を導入し、回転運動の運動方程式を学ぶ。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	8	前半のまとめ	前半に課したレポートの解説をする。また前半の内容について中間確認テストを実施する。	自主学習（配布プリント・中間確認テストの復習）を 1 時間以上
	9	慣性モーメント (1)	棒状の慣性モーメントの求め方を習得する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	10	慣性モーメント (2)	板状の慣性モーメントの求め方を習得する。慣性モーメントの計算に便利な平板の定理を理解する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	11	慣性モーメント (3)	円盤状の慣性モーメントの求め方を習得する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	12	平行軸の定理	慣性モーメントの計算に便利な平行軸の定理を学ぶ。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	13	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動を並進及び回転運動の運動方程式を用いて調べる方法を習得する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	14	角運動量、回転運動の運動エネルギー	剛体の回転運動の状態を表す角運動量と回転運動の運動エネルギーを学ぶ。これらを利用して剛体の運動を調べる方法を習得する。	自主学習（配布プリント及び小テスト復習）を 1 時間以上
	15	剛体の力学のまとめ	剛体の運動についてのまとめ	-----

実務経験	
関連科目	微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ、力学Ⅰ、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村 洸	森北出版
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	lwouuis
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メールを利用
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	レポートと小テストにより評価する。レポート 65%、小テスト 35%
学生への メッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
担当者の 研究室等	8号館2階 長島研究室 スチューデントアワー 火曜日 5限目
備考	

科目名	化学	科目名 (英文)	General Chemistry
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐藤 和之
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2017a0		

授業概要・目的	「化学」は、物質とその変化を捉える学問である。本科目は、化学を通じて、科学的な基礎知識やその基礎概念を修得することを目的とする。授業では、高校化学の学習内容を復習し、さらにその内容が実社会でどのように応用されているかを理解することで、化学的思考力や応用力を養うことを目指す。 SDGs-3, 4, 7, 9, 13			
到達目標	1) 化学で用いられる用語を定義することができる。 2) 各項目の基本的な考え方を説明することができる。 3) 基礎的な化学計算ができる。 4) 他者とのコミュニケーションを通じ、合意形成を行うことができる。			
授業方法と留意点	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は教科書に沿ってすすめる。また、講義内容に沿った課題を別途設ける。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	元素と周期表	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、元素と周期表について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 2 章「元素がつくるカレンダーって何のこと?」と、3 章「物質は何からできているの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	2	原子と分子 (1)	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、原子と分子について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 1 章「太陽はなぜ輝くの?」と、2 章「元素がつくるカレンダーって何のこと?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	3	原子と分子 (2)	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、原子と分子について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 1 章「太陽はなぜ輝くの?」と、2 章「元素がつくるカレンダーって何のこと?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	4	化学結合	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、化学結合について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 4 章「ダイヤモンドと食塩の違いって?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	5	溶解	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、化合物が溶けることを化学的な見地から説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 5 章「メタンハイドレートって何だろう?」と、8 章「塩は溶けるが小麦粉は溶けない?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	6	物質の状態	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、物質の三態や状態図について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 6 章「スケートが滑るのはなぜ?」と、7 章「エアガンの弾はなぜ飛ぶの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	7	反応速度と化学平衡	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、化学反応に影響を及ぼす要因について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 12 章「炭が燃えると熱くなるのはなぜ?」と、13 章「炭を燃やすのになぜマッチが必要なの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	8	酸と塩基	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、酸と塩基について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 9 章「酸性食品・塩基性食品って何だろう?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	9	酸化と還元	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、酸化と還元について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 10 章「化学カイトが熱くなるのはなぜ?」と、11 章「乾電池と太陽電池の違いは?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	10	有機化合物	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、有機化合物について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 14 章「有機化合物って何だろう?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	11	異性体	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、有機化合物の異性体について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 15 章「味の素」は「L 体」って何のこと?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	12	有機化学反応	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、有機化学反応について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 16 章「マーガリンはどうやってつくるの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	13	高分子	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、高分子化合物について説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 17 章「プラスチックって何だろう?」と、18 章「コラーゲンってタンパク質なの?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	14	医薬品	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、医薬品を化学的な見地から説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 19 章「洗濯で汚れが落ちるのはなぜ?」と、20 章「抗生物質って何だろう?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
	15	エネルギーと地球温暖化	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。講義内容は、地球温暖化を化学的な見地から説明する。また、適宜課題を与える。	事前に教科書の 12 章「炭が燃えると熱くなるのはなぜ?」と、21 章「地球温暖化はなぜ起こる?」を熟読しておくこと。また、授業で説明した内容を整理しておくこと。
実務経験				

関連科目	有機化学、無機化学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ふしぎの化学	齋藤勝裕・安藤文雄・今枝健一	培風館
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	lfhyedf			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)と授業態度(30%、課題の正答数や提出状況など)。100点満点中、60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	この講義を通じ、身の回りにある物や身近で起こっている現象が「化学」の作用に起因していることを理解して欲しい。			
担当者の 研究室等	枚方学舎1号館6階 佐藤講師室			
備考	事前事後学習には、毎回1.5時間以上かけること。			

科目名	生物学	科目名 (英文)	Biology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2018a0		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問うビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	――
	2	生殖系神経系の構造と機能	生殖系、中枢神経と末梢神経、神経の連動の妙	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	3	生殖系神経系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第1章細胞のスーパーパワー」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	4	内分泌系、神経系の構造	ホルモンと神経との関係はどのようになっているのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	5	内分泌系、神経系の構造	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第2章細胞が出す魔法の薬」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	6	免疫系の構造と機能	外敵への抵抗	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	7	免疫系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 老いと戦う細胞」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	8	泌尿器系、循環器系の構造と機能	腎臓、心臓の働きの基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	9	泌尿器系、循環器系の構造と機能	ビデオ「人体 腎臓が寿命を決める」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	10	骨、筋肉系の理解	骨、筋肉系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	11	骨、筋肉系の理解	ビデオ「人体 脂肪と筋肉が命を守る」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	12	生物の多様性の理解	生物の系統、分類の基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	13	生態系の理解	生態系、物質の循環の基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	14	総括質問	すべての授業内容に関する質問に答えるとともに、難解だった部分の解説を行う。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
	15	習熟度試験	習熟度を確認する。	――

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の小テストを 50%、習熟度試験を 40%および授業態度：授業への応答状況 10%により総合的に判断する
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部 6 号館 3 階病理学研究室 1
備考	事後学習 60 分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習 30 分が必要です。 授業中の小テストについてはテスト終了後に解説する

科目名	物理学実験	科目名 (英文)	Experiments in Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神嶋 修, 大上 雅史, 山崎 篤志
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1020a0		

授業概要・目的	この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。よって、いろいろな装置を活用して、一連の基本的実験および計測手段を学ぶ。 SDGs グローバル指標との対応 : SDGs-9
到達目標	以下の項目の理解を目標とする。 1) 国際単位系 (SI) 2) 各テーマの物理的内容 3) 計測機器の取り扱い法 4) 物理量の測定方法 5) 誤差の考え方と取り扱い方
授業方法と留意点	はじめのガイダンスは、Teams を利用した動画を配信します。 2 週目以降より、大学にて実験を行います。遠隔授業ではありません。 2~3 人で 1 つの班が編成されるが、各班は順番表に従って週に 1 回 (2 時限) の実験を行い、レポートを提出する。 3 密を避けるため、窓 (扉) を開放し通風をよくする。 実験の前後にて、手指、実験器具をアルコール殺菌する。また、実験室を退室するさいに、流し台にて、うがいをするを義務づける。
科目学習の効果 (資格)	この科目では、事実・現象・測定等の実体験をとおして、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	物理学実験に向けて	「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。	_____
	2	サールの装置によるヤング率の測定	サールの装置を用いて、2 本の針金 (真ちゅう線・ピアノ線) のヤング率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	3	熱の仕事当量 J の測定	電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量 J を求める。	事前報告書およびレポート課題
	4	電子の比電荷の測定	電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 e/m の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	5	分光実験	分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。	事前報告書およびレポート課題
	6	プランク定数の測定	光電効果の現象を通して、光子の概念を理解し、プランク (Planck) 定数 h の値を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	7	ボルダの振り子による重力加速度の測定	ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	8	直流回路と交流回路	簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	9	低温の世界	低温では物質の性質が劇的に変化する。本実験では低温におけるさまざまな現象について体験を通して理解する。	事前報告書およびレポート課題
	10	光の回折の実験	レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、回折格子の間隔の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	11	ねじれ振り子による剛性率の測定	ねじれ振り子の周期、金属製円環のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	12	コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定	コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	13	電磁波の実験	電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏角特性を調べる。	事前報告書およびレポート課題
	14	レンズの焦点距離の測定	凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。	事前報告書およびレポート課題
	15	速度と加速度	ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。	事前報告書およびレポート課題

実務経験				
関連科目	理工学基礎実験，基礎力学演習，力学Ⅰ・Ⅱ，物理学Ⅰ・Ⅱ，			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学実験	基礎理工学機構	
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洸	森北出版
	2	第3版 物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
	3			
授業形態	対面授業／Teams			
Teams コード	glo01q6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	1) 実験は講義と異なり、全て出席を前提とする。 2) レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。 3) レポート(60%)、実験態度(40%)の割合で評価する。			
学生への メッセージ	実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおいに物理学を実体験して下さい。質問がある場合、担当の先生に遠慮なく質問して下さい。			
担当者の 研究室等	8号館2階 光物性研究室			
備考	毎回レポート提出が課せられている。 自らが行う実験の事前学習として、 1.5時間以上をかけて教科書を読み、1) 実験の目的、2) 理論的背景、3) 実験手順 を提出レポートにまとめたうえで授業に参加すること。			

科目名	化学実験	科目名 (英文)	Experiments in Chemistry
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広、相澤 秀樹
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2021a0		

授業概要・目的	化学とは、物質を構成する原子または分子に着目し、物質の構造、性質、反応を取り扱う自然科学の一部門である。様々な物理・化学・生物的手段を利用して実験を行うことで、物質の組成、構造、状態、特性、反応機構を解明するとともに、新物質を合成することが化学実験である。 1. 「化学実験」の授業科目は、化学実験を通して、化学実験器具、薬品の取り扱い方法、化学実験に関する測定方法等の基本的技術および化学の基礎知識の理解を深めることを目的としている。 2. 化学実験で起きる現象を注意深く観察することで、化学現象に対する観察力および洞察力を培い、実験操作、観察結果を正しく記述し、結果に対する解析結果と適切な考察をレポートにまとめることで論理的に説明する力を習得することを目的としている。 3. 化学現象に限らず、(1)ある現象を観察して洞察し、(2)その現象の問題点を発見し、(3)その解決策を提案して実行し、(4)その結果をまとめて検証と考察し、(5)他者に対して論理的に説明する、という一連のプロセスは主体的な学びのプロセスである。 本授業科目は、化学現象を題材とした主体的な学びの方法の基礎を学ぶことをも目的としている。
到達目標	1. 化学の基礎知識を説明できる。 2. 化学実験器具、薬品の取り扱い方法、化学実験に関する測定方法等を説明できる。 使用器具・機器：化学実験用ガラス器具、天秤、ホットプレート付きスターラー、真空ポンプ、pH メーター、融点測定器など 3. 化学実験でおきる現象、実験操作、観察結果を正しく記述できる。 4. 実験結果に対する解析と適切な考察を論理的に説明できる。 5. 化学現象以外の様々な現象についても、他者への論理的説明というプロセスに応用することができる。
授業方法と留意点	1. 化学実験は対面授業で行い、配布する実習書を使って、化学実験内容および実験上の注意点を講義したのち、講義に沿った実験を行う。 2. 実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成し提出する。 3. 緊急事態宣言の発出等により授業ができない場合は自己学習課題提出方式で行う。 その場合においては、授業できない授業回数分だけ授業テーマ・内容・方法を変更する。
科目学習の効果 (資格)	1. 化学実験を通して、物質に起こる変化や現象を化学の面から捉え、試薬や器具を取り扱う技術を養う。 2. 化学現象を題材とすることで、主体的な学びのプロセスの方法の実践する能力を養う。 3. 実験結果に対する解析と適切な考察を論理的に説明する能力を養う。 4. 実験でおきる現象、実験操作、観察結果を正しく記述し表現する能力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・導入講義	- 安全管理および危機管理を行うために、実験室のイラストを見て、危険な行為や状況とその理由について指摘する。 - 実験書を配布し、使用する器具や試薬の名称と使用上の注意事項および実験室での心構えを説明する。	【事前学習】自分の体の皮膚が弱い、アレルギーがあるのかを調べておくこと。
	2	溶媒の性質	種々の溶媒 (溶剤) の物性や物質を溶かす性質を学ぶ。	【事前学習と課題】溶媒の性質について調べる。(1 時間以上) 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	3	混合物の分離 (1)	クロマトグラフィーの原理を理解し、薄層クロマトグラフ法 (TLC) を用いて混合色素を各成分に分離する方法と分離した成分を確認する方法を習得する。	【事前学習と課題】クロマトグラフィーの原理を調べる。(1 時間以上) 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	4	混合物の分離 (2)	混合色素をカラムクロマトグラフィーを用いて各成分に分離する方法および分取の方法を習得する。	【事前学習と課題】カラムクロマトグラフィーの原理を調べる。(1 時間以上) 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	5	分子模型	分子模型を組むことで原子間の結合、分子の構造を理解する。	【事前学習と課題】乳酸とサリドマイドについて分子の構造と特性などについて調べる。(1 時間以上) 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	6	アセトアニリドの合成 (1)	最初 (1853 年) の合成解熱剤として知られるアセトアニリドを、アニリンと無水酢酸を用いて合成する。	【事前学習と課題】使用する試薬アニリン、無水酢酸の性質について調べる。(1 時間以上) 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	7	アセトアニリドの合成 (2)	再結晶は代表的な物質の精製法である。アセトアニリド粗結晶を水に溶かし、再結晶法を行って精製する。	【事前学習と課題】再結晶について調べる。 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	8	アセトアニリドの合成 (3)	合成した化合物がアセトアニリドであることを確認するために、融点測定法と TLC を用いて調べる。	【事前学習と課題】融点測定法について調べる。(1 時間以上) 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。(1 時間以上)
	9	香りのある化合物の合成 (1)	サリチル酸メチルは局所性消炎鎮痛薬で、シヤクナグ科植物の葉から得られる	【事前学習と課題】サリチル酸メチルの合成法や用途について調べる。(1 時間以上)

			揮発油（冬緑油）の主成分であることが知られている。これをサリチル酸とメタノールから合成する。	【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
	10	香りのある化合物の合成 (2)	前時で合成したサリチル酸メチル反応物を分液ロートで単離する。	【事前学習と課題】分液ロートの使用法などについて調べる。（1 時間以上） 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
	11	混合物の分離 (3)	昇華現象を引き起こす物質とその他の物質の混合物を昇華により分離するとともに昇華現象を観察する。	【事前学習と課題】昇華という現象について調べる。（1 時間以上） 【事後学習】実験の結果から分析・解釈および考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
	12	無機化合物の性質 (1)	鉄釘およびアルミ箔などの金属について、塩酸、酢酸水溶液、水酸化ナトリウム水溶液に対する溶解性を調べる。	【事前学習と課題】金属銅および銅イオンの化学的性質について調べる。（1 時間以上） 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
	13	無機化合物の性質 (2)	炎色反応の方法を習得し、塩化リチウム、塩化ナトリウム、硫酸銅等の代表的な金属塩の炎色を確認する。	【事前学習と課題】炎色反応について調べる。（1 時間以上） 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
	14	酸塩基滴定 (1)	酸・塩基 (中和) 滴定を用いて溶液に溶けている物質の量を求める。 試液の調製と指示薬を用いて滴定を行う。	【事前学習と課題】中和反応と酸・塩基 (中和) 滴定について調べる。（1 時間以上） 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
	15	酸塩基滴定 (2)	滴定の終点を pH メーターで求める。pH メーターの調整、滴定曲線の作成、中和点の求め方、定量法などを習得する。	【事前学習と課題】pH と滴定曲線について調べる。（1 時間以上） 【事後学習】実験の結果から分析・解釈及考察を行い、課題に沿ってレポートを作成すること。（1 時間以上）																
実務経験																				
関連科目		化学																		
教科書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>中学・高校で使用していた理科の教科書、資料集または参考書（まだあれば）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学・高校で使用していた理科の教科書、資料集または参考書（まだあれば）			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学・高校で使用していた理科の教科書、資料集または参考書（まだあれば）																			
2																				
3																				
授業形態		対面授業																		
Teams コード																				
Moodle コース名および登録キー																				
連絡手段		学内メール																		
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）		1. 全項目を実験することを前提とする。実験成果と態度（40％）と予習シート（30％）レポート（30％）にて総合的に評価する。 2. 実験不履行の項目がある場合は評価できませんので、やむなく欠席した場合は、速やかに欠席届を提出し、期間内に補講実験を実施してもらいます。 3. 緊急事態宣言の発出等により授業ができない場合は、実施した実験成果・態度・予習シート・レポートと自己学習課題の成果にて総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ		1. 化学実験は対面授業で行いますので、必ず登校して授業を受けてください。 2. 化学実験は化学薬品等を使用するので、自分の体の皮膚が弱いのか、アレルギーがあるのかを調べておいてください。 3. 化学実験は、ガラス器具、化学薬品、加熱機器等を使用するので常に危険を伴います。毎回実験を行う前にその日の実験内容、実験器具などの操作方法、実験上の危険箇所などの注意点を説明します。 これに遅刻することなく参加し、実験に際しては、教員の指示に従って行動してください。 4. 緊急事態宣言の発出等に																		
担当者の研究室等		菅波：寝屋川キャンパス 3 号館 2 階学習支援室 相澤：枚方キャンパス 1 号館 1 階学部共同研究室 1																		
備考		1. 実験についての学習効果を高めるために、事前事後学習には、毎回 1 時間以上をかけてください。 2. 実験レポートには 1 回あたり 5 時間以上かけて仕上げてください。																		

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	妹尾 史郎, 渡邊 るりこ
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1022a0		

授業概要・目的	コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を得得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を得得する。
到達目標	理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を得得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。
授業方法と留意点	Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を得得するための資料を配付する。 ・各回の教材スライドを WebFolder に置く。適宜これをダウンロードし視聴することにより、学習ポイントを把握し、内容を理解する。 ・授業時間における Microsoft Teams のチャット機能により、操作や演習についての質疑応答を実施する。また、メールによる
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィスペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	利用システムの概説	・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明	情報処理室の利用手引きに目を通しておく。
	2	Windows システム	・ Windows の基本操作	ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般)
	3	電子文書の作成	・ Word の基本操作, レイアウト ・ ファイル入出力	Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2. 1～2. 4 の演習課題)
	4	電子文書の作成	・ 罫線と表作成 ・ オブジェクト (図) の挿入	罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2. 5～2. 7 の演習課題)
	5	表計算入門	・ Excel の基本操作 ・ セルの概念	Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3. 1～3. 3 の演習課題)
	6	表計算とグラフ	・ グラフの作成 ・ 簡単なデータベース	セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3. 4～3. 5 の演習課題)
	7	表計算と関数	・ 数学関数 ・ 統計関数	利用する数学関数の使い方を理解する。 (3. 6 の演習課題)
	8	演習	・ 表計算のまとめ ・ 理工学系レポート作成の基本	レポート作成要領を理解する
	9	電子メール	・ 電子メールの配信の仕組み ・ 課題のメール送信	添付ファイルの送信方法を理解する。 (4. 1, 4. 2 の練習)
	10	ネット技術と情報検索	・ 情報検索の方法 ・ HTML 入門	インターネットの仕組みを理解する。 (4. 3 と 5. 1 の練習)
	11	演習	・ 情報検索と HTML レポートのまとめ方	レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布)
	12	プレゼンテーションソフト入門	・ PowerPoint の基本操作	PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般)
	13	プレゼンテーション資料の作成	・ 効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・ 資料の作成方法	Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般)
	14	テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1)	・ プレゼンテーション資料の作成演習 ・ 発表の仕方	総合演習課題
	15	総合演習 (2)	・ 演習課題とレポート作成	総合演習課題

実務経験	
関連科目	-

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :
評価方法 (基準)	演習課題 (6 回) 70% および確認課題 (9 回) 30% で評価する。 ただし、(1) 演習課題はすべて提出し、(2) 確認課題は少なくとも 6 回分を提出すること。(1) と (2) を同時に満たさない場合は評価の対象外である。

学生への メッセージ	学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身に着けることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習には概ね1.5時間程度おこない、各回授業内容を確実に定着させることを心がけて下さい。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名（英文）	Information Literacy II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	妹尾 史郎・日浦 明大
ディプロマポリシー（DP）	B◎		
科目ナンバリング	TDR1023a0		

授業概要・目的	通信が5G時代となる現代、情報伝達手段の中心である映像編集やデザインの基礎的な技術はもちろん、情報を効率よく、効果的に伝達するための【考え方】を様々な課題を通して修得します。 授業担当者は情報メディアの実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。（SDGs-11）				
到達目標	プレゼンテーションに必要な映像制作（CM的映像の作り方）や平（紙）面デザインの基礎技術と考え方の修得				
授業方法と留意点	情報を伝えるために必要な概念図の演習、映像制作実習（CMの制作）、平面デザイン課題を通して伝えるために必要な考え方を身につけていきます。 本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。 情報処理室で授業を実施するため、入退室時の消毒、3密を避ける、十分な換気など、感染予防対策をしながら実施しますので、ご協力ください。 また、遠隔授業を余儀なくされた場合は、Teamsでの実施に切り替える場合があります。				
科目学習の効果（資格）	プレゼンテーション（自分の考えを他者に伝える作業）に必要な考え方の修得と映像や平面デザインといった様々なメディアの特性を学びディレクション能力を身につける。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	情報メディアデザインの考え方と年間講義概要	・授業計画と受講留意事項の説明 ・情報整理の考え方と演習 ・ビジュアルシンキングのススメ（5W1H）	情報処理室の利用手引きを読む 課題1》自分が伝えたいモノを決めて持参
		2	まず何を知るべきか？ 情報収集、分類、分析	・WHAT、WHOM、WHYとは？ ・ビジュアルシンキングのススメ（Mind Map）	課題2》自分が選んだモノを5W1H+1Wの図を作 って提出
		3	メディアデザインとは	・HOW、WHEN、WHEREで最適手段を選択 ※実例を紹介して説明 ビジュアルシンキングのススメ＝Venn 図	課題3》自分の選んだモノに最適なメディアとその 具体例を選び、具体例となぜ選んだか、その理由を 提出
		4	動画・デザインの作り方	・Goodストーリーの大切さ ・特徴①時間の魔法 ・特徴②心を揺さぶる	課題4》いいと思うストーリーのある広告を選び、 その理由を提出
		5	効果的なシナリオ	・真逆を持ってくる「アンチ手法」 論文、説明文、広報文、小説、脚本、チ ラシに至るまで共通する効果的な情報 伝達手法	課題5》自分の選んだモノで考えたストーリーと写 真などのビジュアルを提出
		6	デザインのススメ チラシを作ってみる	・5W1H+1Wから手法を考える ・チラシのデザインパターン ・プレゼン資料のデザインパターン	課題6》自分の選んだモノで作ったチラシを提出
		7	撮影しよう！ 素材の質が全てを決める	・写真、映像、音声をどう残すか ・ライティングの重要性 ・チーム編成（監督、助監督、撮影、照 明、音響）	課題7》映像課題用の撮影をして素材を収集するこ とと、不明な点の質問をする
		8	実習「編集しよう！」	・基本編集：カットアウト ・効果をつける：クロスフェード、拡大・ 縮小	課題8》映像課題用の編集をして、不明な点の質問 をする。次回、入れるべき文字内容を考えて持参
		9	実習「文字を入れよう！」	・映像に文字を貼る ・文字を動かす	課題9》映像課題用の編集をして、不明な点の質問 をする。次回、入れるべき音楽を選んで持参
		10	実習「音を付けよう！」	・音のマジック！音はクオリティを3 倍増しにする！ ・同録とアテレコ	課題10》映像課題用の編集をして、不明な点の質問 を列挙して提出する
		11	プレゼンの極意	・5W1H+1Wを使って戦略を練る ・己を知り、敵を知らば、百戦危うから ず！ ・発表順の決定	課題11》映像課題「作品」を完成させて提出する
		12	課題発表1	前半チーム	課題12》発表された「作品」を審査基準に基づいて 評価する
		13	発表2	後半チーム	課題13》発表された「作品」を審査基準に基づいて 評価する
		14	JMD アワード2020	・結果発表→結果を考察 ・比較・分析することの重要性 ・「勝敗は時の運」の本当の意味	課題14》結果を受けて自己分析を提出
		15	最終試験	・15回の講義を通して学んだもの	
実務経験					
関連科目	情報リテラシーⅠ				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	演習テキストおよび資料を毎回配布する		
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	必要に応じて関連書籍（アスキー出版、インプレス出版等）を各自用意するとよい		
		2			

	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード	9kg8652			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の課題や小テスト、課題提出（45%）、作品制作と演習レポート（55%）で評価する。			
学生への メッセージ	上位学年次の学習や研究に役立つ課題や制作に取り組む際の考え方や発想法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 30 分をかけて内容を理解する。 【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間かけて、教科書以外の資料や実際の CM・広告物に目を向ける。出来るだけ視覚的資料にあたること。			

科目名	住環境倫理	科目名 (英文)	Ethics of Residential Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浅見 雅之
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR3023a0		

授業概要・目的	多発する大災害から派生する諸問題や、地球環境保全の問題、人口減少社会の問題、市民参画社会における地域づくり、ネットワーク社会がもたらす問題、専門分化の進んだ技術社会における諸問題など、様々な社会問題について知ることを通じ、住環境デザインの周辺に存在する倫理課題に取り組めます。 講義を通じて、現在に適合した倫理観を養い、自ら行動するための判断基準・マインドセットを手に入れることを目的とします。
到達目標	私達を取り巻くさまざまな社会問題に対し、多様な価値基準を参考に、単なる主観ではない自分の考えを手に入れ、それを文章化できる能力が身に付く。 価値判断の難しい悩みに直面した時、その問題を解決へと導くためのマインドセットが身に付く。 社会人として自立・自律的に行動するための、自分なりの価値判断基準が身に付く。
授業方法と留意点	倫理観は、自らが考え、養うものであることから、身近なところから課題を抽出し、何が倫理として問題であるのか、自分ならどうするかを考察する時間を重視し、各回の講義の時間内でショートレポートの提出を求めます。また、最終の授業後に、まとめの課題レポートの提出を求めます。 授業の目的に即し、学生の理解度に応じて、講義の内容を変更しながら進めることがあります。 必要に応じて、学生が仲間と共に学ぶためのワークショップを行うなど、議論の深まる参加型の授業を進めます。 必要に応じて、社会経験の豊かなゲスト講師を招いて
科目学習の効果 (資格)	進路決定に役立つような、住環境デザイン分野の様々な実務内容を学ぶことができます。 建築士試験の職業倫理に関する問題回答、就職試験、面接に役立つとともに、文章力も身につきます。 実務の上で、迷ったり悩んだりした際に、問題を解決に導けるマインドセットを身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住環境倫理が目指すもの	講義内容・授業の進め方・評価基準等の説明を行います。 「課題解決のマインドセット」について講義し、この授業の目的についての理解を深めます。	倫理とは何かについて考えてくること。
	2	都市景観と住環境倫理	景観保全の考え方について実例を通じて学び、景観は誰のために守られるべきかについて倫理的な観点から考えます。	景観保全の実例を探し、その景観が保全されることのメリット・デメリットについて考えて来ること。
	3	歴史的建造物保存と住環境倫理	歴史的建造物保存の考え方について実例を通じて学び、価値ある歴史的建造物が残されない理由、残される理由について、倫理的な観点から考えます。	歴史的建造物の保存が問題になった実例を探し、その建造物が残らなかった理由、残された理由について考えてくること。
	4	市民参画社会と住環境倫理	まちづくりや建築設計における市民参加の手法について学び、現代社会において市民参加が重要である理由について、倫理的な観点から考えます。	まちづくりや建築設計における市民参加の実例を探し、市民参加がどのようにそのプロジェクトに役立ったかを考えてくること。
	5	災害復興と住環境倫理	東日本大震災を題材に、大災害がどのように社会の矛盾を顕在化させるかについて学び、復興まちづくりがどのように行われるべきかを、倫理的な観点から考えます。	大災害からの復興まちづくりの事例を探し、それがうまくいった理由・うまくいかなかった理由について考えてくること。
	6	環境共生と住環境倫理	サステナブルデザイン・サステナブルデベロップメントの考え方について学び、「環境にやさしい」ことがなぜ重要なのかについて、倫理的な観点から考えます。	地球にやさしいデザインの実例を探し、それが社会にどう役に立っているかを考えてくること。
	7	人口減少社会と住環境倫理	わが国における人口減少のメカニズム・現状について学び、人口が減る社会にあって、私達がどんな態度をとればよいのかについて、倫理的な観点から考えます。	日本の人口減少の様子がよく分かる資料を探し、人口減少を止めることができるかどうかについて考えてくること。
	8	よりよいものを作るための作法	学生相互、技術者相互の正しい批評のあり方が、お互いがよりよい成果を出すために重要であることを学び、実践してみます。	批評と批判とはどう違うか、正しい批評とはどんなことかについて考えてくること。
	9	限界集落と住環境倫理	限界集落の実情について学び、集落は維持・存続されるべきか、集落をなくして町に集まって住むべきかについて、倫理的な観点から考えます。	限界集落の再生の実例を探し、集落を存続させようという熱意がどこからうまれるのかについて考えてくること。
	10	ニュータウンと住環境倫理	ニュータウンの成り立ちと、オールドニュータウンの実情について学び、ニュータウンという住環境開発の手法は有効な手法だったのかについて、倫理的な観点から考えます。	オールドニュータウンの再生事例を探し、ニュータウンの再生がうまくいくには何が必要なのかについて考えてくること。
	11	リノベーションと住環境倫理	自力施工による建築リノベーションが注目されている現状について学び、自力施工によってもたらされるものについて、倫理的な観点から考えます。	自力施工により建築リノベーションの実例を探し、自力施工にはどんなメリット・デメリットがあるのかについて考えてくること。
	12	建築デザインと住環境倫理	建築の発注者・利用者・設計者の関係について学び、建築デザインは誰のものか、建築のデザインはどんなプロセスで行われるべきかについて倫理的な観点から学びます。	自分の好きな建築物について、そのデザインが誰の意図によって成り立っているのかについて取材するか、考えてくること。
	13	高齢化社会と住環境倫理	高齢化社会の現状や、福祉住環境の整備の実例について学び、高齢期の住まいをどのように選ぶべきか、どのようにつく	身近なお年寄りや対話するなど、高齢者の住生活上の困難や、生活上の工夫について取材して来ること。

			るべきかを、倫理的な観点から考えます。	
	14	建築法規と住環境倫理	複雑で難解なことで有名な建築法規は、いったいどのように社会に役に立っているのかを学び、建築法規を守るべき理由について、倫理的な思考から考えます。	学んだ建築の法規のうち、どうしてそんなルールになっているのか気になるものを選び、その理由について考えてくること。
	15	住環境倫理演習	“これまで学んだ住環境倫理の題材を使ったグループ演習により、実社会における様々な課題に直面した場合、私達はどのような態度でいるべきか、倫理的な態度とはどんな態度なのかについて考えます。また、最終レポート課題を出題し、解説を行います。”	
実務経験				
関連科目	設計演習、建築環境工学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BE KOBE 震災から 20 年、できたこと、できなかったこと	BE KOBE プロジェクト	ポプラ社
	2	地方創生大全	木下 齊	東洋経済新報社
	3	ふるさとを元気にする仕事	山崎 亮	筑摩書房
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回課題評価 (第 8 回・最終回以外の各回 (計 13 回)) 60%、最終レポート課題 40%として評価します。			
学生への メッセージ	住環境デザインを学び、建築の専門家になる皆さんは、専門家の倫理とはどういうものであり、専門家の責任がどういうものであるかの全体像を、感覚的に把握しておく必要があります。特に覚えなければならないことがあるわけではなく、自分なりの判断基準を手に入れるために、自分の考えを深めることに重点を置いて授業を進めます。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室 または 12 号館 7 階稲地准教授室			
備考	考えることの楽しさを体感しましょう。 授業の内容についての質問などは、以下のメールアドレスに送ってください。 asami.masayuki@me.com 事前事後学習は概ね 1.5 時間程度おこない、各回授業内容を確実に定着させることを心がけて下さい。 興味を持てた内容について、本を読んだり、ネットで調べて深掘りすることをすすめます。			

科目名	建築法規	科目名 (英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	澤田 範夫
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR3024a0		

授業概要・目的	人が安全に住める住宅、人々が集まって安心して暮らせるまち、そのためにはルールが必要です。 そのルールとして、法律はどのような役割をもっているのでしょうか。 世の中の出来事、身の回りの街の風景の中に、それを学習していきましょう。 私は、長年の行政経験とその後の民間確認検査機関において、住宅やまちづくりの現場に接してきています。 学生の皆さんに、常に今、現場で何が起きているかを伝えながら、一緒に法律の必要性を考えます。 建築法規は何のために存在し、現状はどうなっているのか。 住環境デザインに必要な建築法規の基本を学び、将来の建築士資格取得の基礎をつくります。
到達目標	学生の皆さんが、建築基準法を中心に建築士法、都市計画法及びその他関連法規の要点を理解するとともに、法律の目的、読み方を習得し、住環境デザインと法令の関わりを意識できるようになることを目標にします。 特に建築士受検科目であることに留意して、法律と施行令との関係など実践的な理解を深め、今後の建築士受検に際して、建築法規の勉強にスムーズな取組める能力を養います。
授業方法と留意点	まず、現場の実態について解説し、法令集により建築基準法のポイントを講義します。 そして、参考教科書を使い、よりわかりやすく解説し、例題で確認します。 授業の最後には、必要に応じ知識の定着のため小テストを行い、その回答を解説します。 予習は必要ありません。授業の内容をしっかりと理解し、定着させていきましょう。
科目学習の効果 (資格)	建築法規は「建築士」の受験には欠かすことが出来ない科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 授業の進め方 建築基準法の概要	自己紹介し、授業の進め方について説明する。 建築法規の導入の歴史を概観し、建築基準法の概要を解説する。	住環境デザインにおいて建築法規は必須の教養です。 身の回りの事象について、法律でどのように規制されているのか、できているのか考えてみましょう。
	2	法文の構成 用語の定義 建築士法	法文の構成や法令用語について解説する。 併せて、建築の資格法である建築士法について確認する。	法律と施行令の関係、基礎的な用語の定義、法律の構成を復習しましょう。 早く条文を探せるように、法律の目次構成を確認してください。
	3	建築基準法 集団規定 1 (建築物と道路)	集団規定のうち、建築物と道路の関係について解説する。 併せて、建築物の定義について確認する。	建築基準法で出来た道路について、自分の住む地域の道路で確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	4	建築基準法 集団規定 2 (用途地域と都市計画制限)	集団規定のうち、用途地域と都市計画制限について解説する。 併せて、都市計画法の手続等について確認する。	身の回りの住宅地について、行政のホームページで都市計画情報を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	5	建築基準法 集団規定 3 (建蔽率と容積率)	集団規定のうち、建蔽率と容積率について解説する。 併せて、都市計画法の手続等について確認する。	自分が住む家の建蔽率と容積率を計算してみましょう。 授業で紹介された事例をヒントに、身の回りで気が付いたことがあれば写真とコメントでレポートしてください。
	6	建築基準法 集団規定 4 (斜線制限、日影規制等)	集団規定のうち、斜線制限や日影規制について解説する。 併せて、天空率について確認する。	自分が住むまちのマンションの高さ制限について計算してみましょう。 気が付いた事例があれば、写真とコメントでレポートしてください。
	7	建築基準法 集団規定 5 (高さ、外壁後退、建築協定等)	集団規定のうち、高さや外壁後退等について解説する。 併せて、地区計画や建築協定について確認する。	自分の家の外壁の位置について調べてみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	8	建築基準法 集団規定のおさらい 中間テスト	集団規定について補足し、前半 7 回の授業を再確認する。 併せて、中間テストを行う。	建築士試験と同様、法令集は持ち込み可能です。 テストで間違ったところは、解答で必ず復習してください。
	9	建築基準法 単体規定 1 (採光、換気、天井の高さ)	単体規定のうち、採光、換気等について解説する。 併せて、居室の天井高さについて確認する。	自分の家の居室の採光、換気について確認してみましょう。 身の回りで気が付いた事例があれば、写真・コメントでレポートしてください。
	10	建築基準法 単体規定 2 (防火区画、内装制限等)	単体規定のうち、防火規定、内装制限等について解説する。 併せて、防火地域、準防火地域の制限について確認する。	マンションや大学等の特殊建築物について、防火区画等を確認してみましょう。 授業で紹介された事案等で、類似事例をみつけたら、写真とコメントでレポートしてください。
	11	建築基準法 単体規定 3 (廊下、階段、避難規定)	単体規定のうち、廊下、階段等の避難規定について解説する。 併せて、排煙や非常用照明について確認する。	マンションや大学等の廊下、階段、出口などを確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	12	建築基準法 単体規定 4 (敷地の安全、構造規定)	単体規定のうち、敷地や構造の安全に関する規定を解説する。 併せて、ブロック塀について確認する。	身近なまちのブロック塀を見て、基準に適合しているか確認してみよう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	13	建築基準法 制度規定 1 (確認申請、検査、定期報告)	確認申請や定期報告等、建築基準法の手続規定について解説する。 併せて、手続に関与する建築士等のあり方について確認する。	学校やビル、マンションのエレベータについて、定期検査報告済証があるか確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	14	建築基準法 制度規定 2	確認申請や定期報告等、建築基準法の手続規定について解説する。	建築現場において「建築基準法による確認済」の表示板を確認してみましょう。

		(仮設建築物、工作物等)	併せて、前半 7 回の重点項目を復習する。	気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
	15	建築基準法 制度規定 3 (その他関連法規)	住環境に関するその他の法律について解説する。 併せて、15回の授業のポイントについて復習する。	住宅やマンションのチラシの中に書いてある内容を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
実務経験				
関連科目	建築計画、建築設計など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本建築基準法関係法令集 2020 年版	建築資料研究社／日建学院	建築資料研究社
	2	図説建築法規	小嶋和平	学芸出版社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Moodle			
Teams コード	913iy2f			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	小テスト 15%、中間テスト 30%、定期試験 40%、レポート 15%の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	建築法規は、人々が安全・安心で、快適に暮らしていくための知恵の集大成です。 建築物にまつわる事件に感心を持ち、自分の住む家や近所の建物や街をあらためて観察してみましょう。 授業で学んだ事例を身の回りでみかけたら、写真にコメントをつけて積極的にレポートを送ってください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室			
備考	講義に係る予習は不要。授業後は、学習した条文、参考書の部分、小テストを復習する (1.5 時間程度) 併せて、授業で紹介された事案について、身の回りで同様の事例がないか観察する。 気が付いたことがあれば、写真にコメントをつけてまとめておくといい。 尚、授業時間外での質問等についてはメールで対応するので、授業で通知されたメールアドレスに送信するとい。			

科目名	住環境デザイン概論	科目名 (英文)	Introduction to Residential Environment Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榎愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR1025a0		

授業概要・目的	住環境デザインを学ぶ導入として、住環境デザインの潮流を大づかみに把握し、住環境の諸要素とその性状を理解することによって、住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得することを目的とする。SDGs-3, 7, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15
到達目標	住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得すること。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用する。 講義の内容に沿った課題を出題するので、毎回、期限までに提出すること。 担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。
科目学習の効果 (資格)	住環境デザインにかかわる基礎的知識を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(イントロダクション) 住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの変遷を建築家の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	2	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	3	環境配慮型デザインプロセス	建物の省エネルギー化を目的としたデザインプロセスと、最新の省エネルギー技術について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	4	地球共生建築のすすめ	地球共生建築および構造、コンポーネントデザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	5	バイオミミクリ (バイオメティックス)	自然界の生物の形態やプロセスを模倣し、私たちに役立てる技術について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	6	映画の中の住環境	様々な映画に見る日本・世界・未来の住環境デザイン、そこから現代生活環境との違いについて考えてみる。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	7	次世代の住環境を考える	私たちの住環境はどのように進化すべきか、地球共生から宇宙共生についてを学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	8	住まいの地域性とデザイン	気候風土や歴史、文化などを背景に、地方色豊かな伝統的住宅の特徴とデザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	9	居住福祉と住宅のデザイン	高齢者の心身機能の特性を踏まえて、福祉空間という視点から住宅の機能とデザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	10	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ・景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	12	居住地域を把握するー社会指標にみる地域の実態	我々が居住する地域について、社会指標を用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	13	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と最近の調査、デザイン事例を、学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	14	人の感覚と住生活環境	住空間におけるにおい対策、かおりの活用をはじめと感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。
	15	CG と空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられる CG のしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習・復習を十分に行う。

実務経験																				
関連科目	学科教育に関わる全ての専門科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
	3																			
授業形態																				

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の課題、および小テストなどの採点結果で評価する。
学生への メッセージ	住環境デザインというものを大づかみに把握し、そのなかから興味ある領域を見出すように努力してほしい。
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12号館7階 岩田教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榊准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、大橋准教授室 12号館6階 坂本教授室
備考	講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回2時間程度を目安とする。 毎回の課題については、随時評価の上返却。

科目名	プロダクトデザイン論	科目名 (英文)	Product Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西山 徹
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2027a0		

授業概要・目的	【概要】 「デザイン思考」ということばが広く使われるようになってきた。デザインが持つ創造的な問題解決能力を広く社会先般に活用し、イノベーションを生み出そうという考え方である。プロダクトデザイン論を通してデザイン思考を身につけ日々の課題はもちろん、毎日の生活や将来の仕事に新たな価値をつくりだせるスキルを会得する。 【目的と手段】 ・プロダクトデザイン論を通じて①問題発見能力 ②問題解決能力 ③コミュニケーション能力を習得をする。 ・現役インハウスデザイナーが多くの実務事例を用いながら、プロになっても実践できる「デザイン思考」を学ぶ。 以上の事項について、プロダクトデザインを中心とした実務経験に基づき講義する。 SDGs=4、9、11、12																																																								
到達目標	【到達目標】 ①プロダクトデザインの過程を手と頭で経験し全体像を理解する。 ②プロセスを通じて最適なデザイン手法を選び、実践し、結果を出せるようになる。 ③デザイン以外の課題、サービス企画、企画、市場創造、研究開発、論文など多様な分野に応用できる「デザイン思考」を習得する。																																																								
授業方法と留意点	・講義を中心に実技・演習・プレゼンも盛り込みながら展開する。 ・講義は授業計画に沿って行うが、学生の理解度および興味に合わせてフレキシブルに計画内容を修正しながら推進する。																																																								
科目学習の効果（資格）	ここで得たスキルは他教科のベースになると考える																																																								
授業計画	<table><tr><th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr><tr><td>1</td><td>■プロの仕事</td><td>□自己紹介を兼ねて仕事紹介 □講師を知ってもらう</td><td>・事後アンケート ・次回課題 「好きなデザイン・デザイナー」</td></tr><tr><td>2</td><td>■よいデザインとは？</td><td>□自分が思うよいデザインとは？ □よいデザインの見える化 □みんなが思う、よいデザイン</td><td>・発表会 「好きなデザイン・デザイナー」 ・次回課題 「気になるアイテム」</td></tr><tr><td>3</td><td>■何がよいデザインか？</td><td>□気になるデザインの分析</td><td>・発表会 「気になるアイテム」</td></tr><tr><td>4</td><td>■プロダクトデザイン（以下PD）概論</td><td>□PDとは？ □プロダクトデザイナーとは □社会とPD □ビジネスとPD</td><td>事前：なし 事後：気づき、不明点記入</td></tr><tr><td>5</td><td>■デザインプロセス</td><td>□PD戦略 □PD企画 □PD開発 □PDフォロー</td><td>事前：なし 事後：気づき、不明点記入</td></tr><tr><td>6</td><td>■デザインマーケティング</td><td>□マーケティングとデザイン □マーケティングプロセス □プロモーション</td><td>事前：なし 事後：気づき、不明点記入</td></tr><tr><td>7</td><td>■ユーザー調査と情報のまとめ方</td><td>□アンケート/インタビュー □観察/フィールド調査 □ペルソナ手法 □シナリオ手法 □ダイアグラム</td><td>事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）</td></tr><tr><td>8</td><td>■アイデア展開 1</td><td>□アイデアって何？ □発想法</td><td>事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）</td></tr><tr><td>9</td><td>■アイデア展開 2</td><td>□アイデア展開 □アイデアの定着</td><td>事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）</td></tr><tr><td>10</td><td>■プレゼンテーション 1</td><td>□プレゼンの本質と全体を理解する □資料を作る技術 □話す、見せる技術</td><td>事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）</td></tr><tr><td>11</td><td>■プレゼンテーション 2</td><td>□プレゼン準備の流れ □基本的チェック項目</td><td>事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）</td></tr><tr><td>12</td><td>■ワーキング（個人）</td><td>□「気になるアイテム」をリデザインしてみる。 □フォーマットに沿って今までの授業内容を追体験する</td><td>（個人ワーキング） 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット保管 *配布資料あり（予定）</td></tr><tr><td>13</td><td>■ワーキング（グループ）</td><td>□各自持ち寄った「気になるアイテム」を共有する</td><td>（チームワーキング） 事前：気になるアイテム持参</td></tr></table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	■プロの仕事	□自己紹介を兼ねて仕事紹介 □講師を知ってもらう	・事後アンケート ・次回課題 「好きなデザイン・デザイナー」	2	■よいデザインとは？	□自分が思うよいデザインとは？ □よいデザインの見える化 □みんなが思う、よいデザイン	・発表会 「好きなデザイン・デザイナー」 ・次回課題 「気になるアイテム」	3	■何がよいデザインか？	□気になるデザインの分析	・発表会 「気になるアイテム」	4	■プロダクトデザイン（以下PD）概論	□PDとは？ □プロダクトデザイナーとは □社会とPD □ビジネスとPD	事前：なし 事後：気づき、不明点記入	5	■デザインプロセス	□PD戦略 □PD企画 □PD開発 □PDフォロー	事前：なし 事後：気づき、不明点記入	6	■デザインマーケティング	□マーケティングとデザイン □マーケティングプロセス □プロモーション	事前：なし 事後：気づき、不明点記入	7	■ユーザー調査と情報のまとめ方	□アンケート/インタビュー □観察/フィールド調査 □ペルソナ手法 □シナリオ手法 □ダイアグラム	事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）	8	■アイデア展開 1	□アイデアって何？ □発想法	事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）	9	■アイデア展開 2	□アイデア展開 □アイデアの定着	事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）	10	■プレゼンテーション 1	□プレゼンの本質と全体を理解する □資料を作る技術 □話す、見せる技術	事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）	11	■プレゼンテーション 2	□プレゼン準備の流れ □基本的チェック項目	事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）	12	■ワーキング（個人）	□「気になるアイテム」をリデザインしてみる。 □フォーマットに沿って今までの授業内容を追体験する	（個人ワーキング） 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット保管 *配布資料あり（予定）	13	■ワーキング（グループ）	□各自持ち寄った「気になるアイテム」を共有する	（チームワーキング） 事前：気になるアイテム持参
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																						
1	■プロの仕事	□自己紹介を兼ねて仕事紹介 □講師を知ってもらう	・事後アンケート ・次回課題 「好きなデザイン・デザイナー」																																																						
2	■よいデザインとは？	□自分が思うよいデザインとは？ □よいデザインの見える化 □みんなが思う、よいデザイン	・発表会 「好きなデザイン・デザイナー」 ・次回課題 「気になるアイテム」																																																						
3	■何がよいデザインか？	□気になるデザインの分析	・発表会 「気になるアイテム」																																																						
4	■プロダクトデザイン（以下PD）概論	□PDとは？ □プロダクトデザイナーとは □社会とPD □ビジネスとPD	事前：なし 事後：気づき、不明点記入																																																						
5	■デザインプロセス	□PD戦略 □PD企画 □PD開発 □PDフォロー	事前：なし 事後：気づき、不明点記入																																																						
6	■デザインマーケティング	□マーケティングとデザイン □マーケティングプロセス □プロモーション	事前：なし 事後：気づき、不明点記入																																																						
7	■ユーザー調査と情報のまとめ方	□アンケート/インタビュー □観察/フィールド調査 □ペルソナ手法 □シナリオ手法 □ダイアグラム	事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）																																																						
8	■アイデア展開 1	□アイデアって何？ □発想法	事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）																																																						
9	■アイデア展開 2	□アイデア展開 □アイデアの定着	事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）																																																						
10	■プレゼンテーション 1	□プレゼンの本質と全体を理解する □資料を作る技術 □話す、見せる技術	事前なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）																																																						
11	■プレゼンテーション 2	□プレゼン準備の流れ □基本的チェック項目	事前：なし 事後：気づき、不明点記入 *配布資料あり（予定）																																																						
12	■ワーキング（個人）	□「気になるアイテム」をリデザインしてみる。 □フォーマットに沿って今までの授業内容を追体験する	（個人ワーキング） 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット保管 *配布資料あり（予定）																																																						
13	■ワーキング（グループ）	□各自持ち寄った「気になるアイテム」を共有する	（チームワーキング） 事前：気になるアイテム持参																																																						

			☐ グループで更に展開する。 ☐ プレゼン資料作成	事後：フォーマット保管 ＊配布資料あり（予定） （チームワーキング） 事前：気になるアイテム持参 事後：フォーマット提出 ＊配布資料あり（予定）
	14	■発表会（グループ）	☐ プレゼンテーションの実践	レポート・試験に備えて今までの内容をレビューし整理してみる。
	15	■講義のまとめ・補足	☐ 講義のまとめと補足 ☐ 参考図書紹介など	
実務経験				
関連科目	インテリアデザイン演習、設計演習、プロダクトデザイン演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	czwry2m			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	レポート＆課題（40％）と試験（60％）から総合的に評価する。			
学生への メッセージ	プロダクトデザインについて学びながら、「デザイン思考」を一緒に学びましょう。			
担当者の 研究室等	・7号館2階 非常勤講師室 ・12号館7階 稲地准教授室			
備考	・講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とし全15回で計60時間程度を行うこと。 ・非常勤講師調整中であり、決定次第に掲示にて示します。			

科目名	図形科学	科目名 (英文)	Graphics Science
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榊 愛
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR1027a0		

授業概要・目的	図形の数学的な理解を基礎として、図形を読み解く力を養い、投影法に関する理解を深める。さらに、定規などを用いた演習を通して図形表現の基本的な技術を修得し、図形の幾何学的な特徴を理解するとともに空間把握力を培う。また 3 次元 CAD を用いて、コンピュータ上で 3 次元図形を表現する方法を学習する。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習） 3 次元空間にあるもの（建物や家具など）を 2 次元平面（紙やパソコンの画面など）に表現するための知識と技術を習得することを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業を進めます。 一部の授業では、3 次元 CAD を使用するため、各自でパソコンを準備してください。 もしパソコンの準備が難しい場合は、大学からパソコンを貸し出していますので、手続きの上、活用してください。CAD のインストール方法は初回の授業で説明します。
科目学習の効果（資格）	関連する資格：CAD 利用技術者検定、CG エンジニア検定など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 図形科学の概要 平面について	授業内容、持ち物、評価基準などについて説明する。 建築で使われる主な平面図形の幾何学的特徴を説明する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	2	立体	建築で使われる主な立体・空間曲線・曲面の幾何学的特徴を説明する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	3	立体から平面へ：正投影	投影の分類について説明する。 さらに正投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形の三面図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	4	立体から平面へ：軸測投影	軸測投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形のアイソメ図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	5	立体から平面へ：標高投影	標高投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な地形図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	6	立体から平面へ：斜投影	斜投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形のミリタリ図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	7	立体から平面へ：透視投影 (1)	透視投影のうち 2 消点法のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形の透視図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	8	立体から平面へ：透視投影 (2)	建築物の透視図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	9	立体から平面へ：透視投影 (3)	透視投影のうち 1 消点法のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、内観透視図を描く。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	10	立体から平面へ：陰影	光線と陰影について説明し、作図する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	11	3DCAD を用いた図形表現 (1)	CAD の基本について説明する。 3DCAD の基本操作について説明する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	12	3DCAD を用いた図形表現 (2)	3DCAD を用いた立体図形の作成・編集操作について説明する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	13	3DCAD を用いた図形表現 (3)	3DCAD を用いて、簡単な建物を作る方法について説明する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	14	3DCAD を用いた図形表現 (4)	3 DCAD を用いて作成した図を効果的にプレゼンテーションする方法について説明する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。
	15	最終課題・解説	これまでの内容を踏まえた最終課題を実施し、解説する。	配布プリント・教科書をもとに、予習・復習を 1.5 時間行う。

実務経験	
関連科目	基礎設計演習、空間表現演習、設計演習など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実用図学	阿部 浩和, 鈴木 広隆, 橋寺 知子, 安福 健祐, 榊 愛	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく学ぶ建築製図	松下希和, 長沖充, 照内創	エクスナレッジ
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	wloelbj
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール、Teams の投稿、Teams のチャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の課題・理解度確認テスト (80%)、最終課題 (20%) で評価する。
学生への メッセージ	自分の思い描く空間を表現するための基礎が身につきます。積極的に取り組んでください。
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 榊准教授室
備考	講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 課題は、実施後に解説します。

科目名	居住安全計画	科目名 (英文)	Planning for Safe Living
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	生田 英輔
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2031a0		

授業概要・目的	建築設計や生活の質を考える場合、快適性・利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害も対象として、そのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築や地域の設計・計画に応用させることを目的とする。
到達目標	災害や事故のメカニズムを理解し、被害の実態を学んだ上でそれへの対策を考える力をつける。
授業方法と留意点	各種の災害について、その発生メカニズムと被害の実態および対策について解説する。資料を配付したり、写真や映像を用いてわかりやすく説明する。疑問点については積極的に質問すること。
科目学習の効果 (資格)	地域・都市計画や設計の演習において、防災・安全の視点を取り入れて取り組むことが可能となる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	概論	講義の進め方、学習の意義について述べる。	災害のメカニズムについて事前に調べ、受講後に各自でまとめる。
	2	地震災害 1)	地震のメカニズム、地盤と震害	地震のメカニズムについて事前に調べ、受講後に各自でまとめる。
	3	地震災害 2)	耐震・免震・制震、地震応答計算	振動被害について事前に調べ、受講後に防災対策をまとめる。
	4	地震災害 3)	地震火災、津波、避難行動	地震時の避難について事前に調べ、受講後にまとめる。
	5	地震災害 4)	人的被害、生活安全計画	地震による人間被害について事前に調べ、受講後にまとめる。 レポート 1
	6	台風災害	高潮、風害、耐風構造	台風のメカニズムについて事前に調べ、受講後にまとめる。
	7	洪水災害	地域開発と水害、都市の水害、集中豪雨	洪水災害について事前に調べ、受講後にその変遷についてまとめる。
	8	崩壊災害	斜面崩壊と住宅被害、宅地造成	崩壊災害の種類について事前に調べ、受講後にまとめる。
	9	雪氷災害	屋根雪処理、除排雪システム	降雪のメカニズムについて事前に調べ、受講後にまとめる。 レポート 2
	10	平常時火災 1)	出火・延焼、住宅火災、防火	火災の実態について事前に調べ、受講後に地震火災との差違についてまとめる。
	11	平常時火災 2)	延焼遮断、避難計画、福祉施設の防火対策	防災対策について事前に調べ、受講後にまとめる。
	12	日常生活事故 1)	日常災害、建築災害、人口動態統計	日常災害について事前に調べ、受講後に分類を行う。
	13	日常生活事故 2)	住宅内事故、安全対策	住宅の安全について事前・事後に整理を行う。 レポート 3
	14	日常生活事故 3)	高齢者・障害者対応住宅のあり方	バリアフリーについて事前に調べ、受講後に考えをまとめる。
	15	犯罪	住まい及び居住地の防犯計画	防犯について事前に調べ、受講後に考えをまとめる。

実務経験	
関連科目	設計演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末試験において、各種災害のメカニズムや被害および防災・安全対策について正しい理解がなされているかを評価する。なお、評価のウエイトは期末試験 70%、授業期間中に課すレポート課題 30%とする。
学生へのメッセージ	積極的に質問すること 講義終了後 10 分間は 7 号館 2 階 非常勤講師控室にて質問を受け付ける
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
備考	講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする

科目名	都市環境計画	科目名 (英文)	Urban Environmental Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧, 川田 隆之, 松下 直幹
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2030a0		

授業概要・目的	本講義では、広域的・都市的スケールにおける環境計画及び環境工学上の諸問題から、建物レベルでエネルギーを多消費する空調設備、電気設備に関する技術や省エネルギー手法など幅広く講述する。講義は社会の第一線で活躍する非常勤講師 2 名、および株式会社日建設計で 16 年の実務経験をもつ教員が担当し、実社会において今後の方向性を適切に判断しうる人の育成を目的とする。
到達目標	・都市や建築が抱える環境上の諸問題を説明でき、改善例を提示できる。 ・建物レベルでエネルギーを多消費する空調設備のコミショニングに関する知識を得る。 ・都市、建物レベルの電気設備の基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	温室効果ガス排出を考える	温室効果ガス排出に起因する地球環境問題について講述する。	関連科目 (特に住環境設備 A) を振り返り、予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	2	都市環境とヒートアイランド	都市環境の定義や諸問題、およびヒートアイランド現象について講述する。	ヒートアイランドについて各自調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	3	省エネルギーとパッシブデザイン	環境配慮型デザインプロセスに基づく都市・建築のパッシブデザイン手法について事例を交えて講述する。	身近なパッシブデザインについて各自調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	4	省エネルギーとアクティブデザイン	最新のアクティブデザイン手法について事例を交えて講述する。	住環境設備 A を振り返り、設備に関する予習をしておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	5	省エネルギーとマネジメント	都市スケールの大学キャンパスをテーマに、省エネルギーマネジメント手法について講述する。	住環境設備 A を振り返り、設備に関する予習をしておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	6	省エネルギーと空調自動制御の概要	建物の省エネを推進する上で必要となる空調自動制御の概要を講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	7	空調自動制御の基本	空調用熱源・空調機の装置の概要説明と自動制御の基本動作について講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	8	空調自動制御による省エネルギー手法	空調用熱源・空調機の制御による基本的な省エネ手法について講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	9	コミショニングプロセスの概要	省エネルギー性能の検証プロセスである「コミショニングプロセス」の概要、実施する意義、必要な技術などを実施事例を交えながら講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
	10	電気設備の基礎	電圧、電流、抵抗、オームの法則、直流と交流の違い、配線方式 (単相 3 線式、3 相 3 線式、3 相 4 線式)、絶縁、接地の必要性について講述する。	教科書を読み、予習しておくこと。講義終了後、配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
	11	発送配電設備	電気の流れ、発電所の仕組み、送電線、変電所、最近の停電事例、電力会社から家庭やビルへの受電方式について一部動画を交えて講術する。	電気の流れについて、各自調べて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
	12	ビルの電気設備	ビルの電気設備 (受電方式、受変電設備、蓄電池、自家発、幹線設備、動力設備、照明コンセント設備、防災設備等) について講述する。また、実際の建築工事、電気設備について紹介する。	ビルを構成する電気設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
	13	日本のエネルギー事情と電気設備の省エネルギー・リニューアル	日本のエネルギー事情、電気設備の省エネルギーとリニューアル事例紹介、再生可能エネルギーについて講述する。	電気設備の省エネルギー、再生可能エネルギーについて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
	14	電気設備に関わる仕事と資格、図面の紹介	電気設備に関わる仕事と資格について講述し、電気設備の図面例、施工写真の紹介する。	電気設備に関わる仕事、関連法規、資格について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
	15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う。	講義内容全般にわたって復習しておくこと

実務経験	
関連科目	住環境工学 A、住環境工学 B、住環境設備 A、住環境設備 B、環境工学演習、環境計画演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築設備工学 (改訂版)	田中俊六監修	井上書院
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜紹介する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する			
学生への メッセージ	遠慮なく積極的に質問すること			
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 大橋研究室			
備考	・講義に係る予習・復習は、合計で 60 時間を目安とする ・非常勤講師への授業時間外の質問はメールにて受け付ける（メールアドレスは授業内で提示する） ・毎回の小演習は、当日もしくは翌週の講義時間内に解説を行う ・SDGs-7, 11, 13			

科目名	住環境工学A	科目名 (英文)	Environmental Engineering for Living A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR1033a0		

授業概要・目的	屋内空間の熱・空気環境を安全で健康、しかも快適な状態に保つため、環境の状態を把握する能力や、人と環境との関係を理解できる能力を修得することを目指し、熱・空気環境に関する基礎的知識について学ぶ。人が感じる暑さ寒さの指標や、壁や窓を通して屋外と屋内を行き来する熱に対する考え方、屋内空気の清浄度に関する基準や適切な換気の方法、湿気と結露とその対策方法、環境デザインと省エネの両立などについて取り上げる。
到達目標	建築環境工学における熱環境・空気環境に関する基礎的知識を修得すること。
授業方法と留意点	身近な現象と教科書の知識とを繋げて理解するように心掛けること。授業進行は、その点に留意して進行するほか、確認のための小テストや演習問題を実施する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	住環境と熱・空気	環境構造の中の住環境、外界の気象、環境と人の関係、住環境工学と省エネ	教科書をよく読んで復習すること。講義中は要点をノートにとること。
	2	空気環境と室内空気質	空気汚染物質、シックビル症候群	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	3	必要換気量と換気方式	換気回数、必要換気量、機械換気の換気方式	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	4	重力換気と風力換気、臭気対策	自然換気の利用と計算、臭気対策の基本的考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	5	人体の熱平衡	人体の熱収支、顕熱と潜熱	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	6	伝熱の基礎と温熱四要素	伝熱3 態 (伝導、対流、放射)、温熱四要素 (温度、湿度、気流、放射)	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	7	人体に関わる温熱環境指標	作用温度、有効温度、PMV などの指標の特徴	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	8	日照と日射	日射と熱環境、太陽位置	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	9	建物と日射	日影の考え方、建物と日射量の関係	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	10	建物の熱性能①	建物における熱伝導、熱伝達、熱放射の計算	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	11	建物の熱性能②	熱貫流の計算と、壁体内の温度分布	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	12	建物の熱性能③	換気による熱負荷、熱容量の考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	13	湿り空気線図	湿気概念、湿り空気線図の使い方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	14	湿気と結露	壁体内の結露、結露対策	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
	15	講義のまとめ	講義のまとめと補足	試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。

実務経験	
関連科目	住環境工学 B 環境工学演習 住環境設備 A 住環境設備 B 環境計画演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説建築環境	松原斎樹他	学芸出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会	彰国社
	2	図説テキスト 建築環境工学	加藤信介他	彰国社
	3	生活環境学	岩田利枝他	井上書院

授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業
Teams コード	bj2f2mw
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams 投稿欄への記入
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 (60%) と演習問題類 (40%) の総合評価
学生への メッセージ	教科書を初回から必ず持参すること 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 竹村講師室
備考	講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分程度を目安とする

科目名	住環境工学B	科目名 (英文)	Environmental Engineering for Living B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2034a0		

授業概要・目的	建築空間の光環境と音環境について、人間の生理的・心理的反応と物理条件に着目しながら、建築計画や環境計画の際に知っておくべき基礎的要件と計画に応用するための解析法や評価法についての知識を学ぶ。光環境については、太陽の動きと日照の問題、人工照明による照明設計手法など、音環境については、騒音の評価と防止、音響計画の手法についてなどを学ぶ。 SDGs-3, 9, 11																																																																		
到達目標	都市・建築のサステナブル環境デザインや省エネルギー設計への応用につながるための基礎的な知識を修得することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。毎回、課題を出すので、教科書、参考書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。必ず、期日までに課題を提出すること。後日、正解およびコメントを示します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、建築設備士、商業施設士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>住環境工学の概略</td><td>快適な建築空間を計画するための光・熱・音・空気環境</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>太陽の動きと建物の関係</td><td>地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>日照と日影</td><td>日照と日当たり、日影と日照の検討方法</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>光と視覚</td><td>目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>明視照明と雰囲気照明</td><td>蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>照明計算の基礎</td><td>測光量と単位、照明計算の基礎、JIS 照度基準値、昼光率</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>照明設計とその要件</td><td>さまざまな照明方式、照明設計の手順</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>昼光照明と電灯照明</td><td>窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>建築の色彩設計</td><td>建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>音の基本的性質</td><td>反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>音の感じ方と計算の基礎</td><td>デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>残響</td><td>各種建築材料の吸音率、残響時間</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>吸音機構</td><td>共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>音質評価</td><td>明瞭度と文章了解度、室内音響設計</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>騒音防止計画</td><td>さまざまな騒音と騒音対策</td><td>教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間) 試験の準備をすること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	住環境工学の概略	快適な建築空間を計画するための光・熱・音・空気環境	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	2	太陽の動きと建物の関係	地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	3	日照と日影	日照と日当たり、日影と日照の検討方法	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	4	光と視覚	目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	5	明視照明と雰囲気照明	蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	6	照明計算の基礎	測光量と単位、照明計算の基礎、JIS 照度基準値、昼光率	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	7	照明設計とその要件	さまざまな照明方式、照明設計の手順	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	8	昼光照明と電灯照明	窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	9	建築の色彩設計	建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	10	音の基本的性質	反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	11	音の感じ方と計算の基礎	デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	12	残響	各種建築材料の吸音率、残響時間	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	13	吸音機構	共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	14	音質評価	明瞭度と文章了解度、室内音響設計	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)	15	騒音防止計画	さまざまな騒音と騒音対策	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間) 試験の準備をすること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	住環境工学の概略	快適な建築空間を計画するための光・熱・音・空気環境	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
2	太陽の動きと建物の関係	地球と太陽の関係、太陽と建物の関係、直射日光と天空光	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
3	日照と日影	日照と日当たり、日影と日照の検討方法	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
4	光と視覚	目の構造と可視光、光に対する感度と視細胞の働き	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
5	明視照明と雰囲気照明	蛍光灯、白熱電球、水銀ランプなど身近な各種光源の特徴と空間への光の供給	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
6	照明計算の基礎	測光量と単位、照明計算の基礎、JIS 照度基準値、昼光率	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
7	照明設計とその要件	さまざまな照明方式、照明設計の手順	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
8	昼光照明と電灯照明	窓からの採光による照明計画、電灯による照明計画	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
9	建築の色彩設計	建築計画における色彩の心理的な効果と調和の基礎要件	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
10	音の基本的性質	反射、屈折、回折など音の伝播に関する基本的項目の説明	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
11	音の感じ方と計算の基礎	デシベル単位、音の透過損失、音の合成と分解	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
12	残響	各種建築材料の吸音率、残響時間	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
13	吸音機構	共鳴器型、多孔質型、板および膜振動型吸音機構	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
14	音質評価	明瞭度と文章了解度、室内音響設計	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間)																																																																
15	騒音防止計画	さまざまな騒音と騒音対策	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (2 時間) 試験の準備をすること																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	住環境工学Ⅱ、環境工学演習、住環境材料学Ⅰ、住環境材料学Ⅱ、住環境設備																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>環境工学教科書</td><td>日本建築学会</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	環境工学教科書	日本建築学会	彰国社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	環境工学教科書	日本建築学会	彰国社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>生活環境学</td><td>岩田利枝ほか</td><td>井上書院</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	生活環境学	岩田利枝ほか	井上書院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	生活環境学	岩田利枝ほか	井上書院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	毎回の課題提出 50%、および試験 50%により評価する																																																																		
学生への メッセージ	教科書の内容に沿って、予習復習を心がけてください																																																																		
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 岩田教授室																																																																		
備考	講義に係る予習・復習は、毎回 2 時間程度を目安とする。																																																																		

科目名	住環境設備 A	科目名 (英文)	Building Services A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久, 大橋 巧
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2033a0		

授業概要・目的	建築環境設備には空調設備、給排水衛生設備、電気設備などがある。近年の建築や都市に関わる環境問題を背景として、講義では建築設備を広く住環境全般からとらえ直し、建築設備の基礎的な知識や考え方の修得を目的とする。授業担当は、株式会社日建設計にて 16 年の実務経験をもつ教員も担当し、実践的な視点も交えて教授する。 SDGs-6, 7, 13																																																																		
到達目標	建築設備工学に関する基礎的知識の修得およびその知識を説明できる																																																																		
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>概論 (教科書 第 1 章)</td><td>建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題 建築設備と地球環境問題 エコ技術・環境配慮建築</td><td>教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>空調設備 (1) (教科書 第 3 章 1. 2.)</td><td>空調設備の概要 空調設備方式の種類と特徴</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>空調設備 (2) (教科書 第 3 章 3. 4.)</td><td>空調設備の計画 冷暖房負荷計算法?</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>空調設備 (3) (教科書 第 3 章 5. 6.)</td><td>湿り空気線図と空調プロセス 空調設備</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>空調設備 (4) (教科書 第 3 章 7. 8.)</td><td>冷熱源機器 熱搬送機器</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>空調設備 (5) (教科書 第 3 章 9. 10. 13.)</td><td>配管設備の計画・設計 ダクト設備の計画・設計 換気・排煙設備</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>建築設備の見学?</td><td>学内の設備機械室・屋上等に設置してある建築設備を見学する。</td><td>1～6 回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>前半講義のまとめテストと解説</td><td>前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。</td><td>1～7 回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>給水設備</td><td>給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>排水・通気設備</td><td>排水の考え方と通気設備の必要性</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>衛生器具・排水処理設備</td><td>衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>消火・防災設備 (1)</td><td>消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>消火・防災設備 (2)</td><td>特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>電気・搬送設備</td><td>電気・搬送設備の概要と基礎知識</td><td>前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>後半講義のまとめテストと解説</td><td>後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。</td><td>テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概論 (教科書 第 1 章)	建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題 建築設備と地球環境問題 エコ技術・環境配慮建築	教科書を読んで予習しておく。	2	空調設備 (1) (教科書 第 3 章 1. 2.)	空調設備の概要 空調設備方式の種類と特徴	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	3	空調設備 (2) (教科書 第 3 章 3. 4.)	空調設備の計画 冷暖房負荷計算法?	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	4	空調設備 (3) (教科書 第 3 章 5. 6.)	湿り空気線図と空調プロセス 空調設備	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	5	空調設備 (4) (教科書 第 3 章 7. 8.)	冷熱源機器 熱搬送機器	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	6	空調設備 (5) (教科書 第 3 章 9. 10. 13.)	配管設備の計画・設計 ダクト設備の計画・設計 換気・排煙設備	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	7	建築設備の見学?	学内の設備機械室・屋上等に設置してある建築設備を見学する。	1～6 回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。	8	前半講義のまとめテストと解説	前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	1～7 回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。	9	給水設備	給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	10	排水・通気設備	排水の考え方と通気設備の必要性	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	11	衛生器具・排水処理設備	衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	12	消火・防災設備 (1)	消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	13	消火・防災設備 (2)	特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	14	電気・搬送設備	電気・搬送設備の概要と基礎知識	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。	15	後半講義のまとめテストと解説	後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概論 (教科書 第 1 章)	建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題 建築設備と地球環境問題 エコ技術・環境配慮建築	教科書を読んで予習しておく。																																																																
2	空調設備 (1) (教科書 第 3 章 1. 2.)	空調設備の概要 空調設備方式の種類と特徴	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
3	空調設備 (2) (教科書 第 3 章 3. 4.)	空調設備の計画 冷暖房負荷計算法?	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
4	空調設備 (3) (教科書 第 3 章 5. 6.)	湿り空気線図と空調プロセス 空調設備	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
5	空調設備 (4) (教科書 第 3 章 7. 8.)	冷熱源機器 熱搬送機器	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
6	空調設備 (5) (教科書 第 3 章 9. 10. 13.)	配管設備の計画・設計 ダクト設備の計画・設計 換気・排煙設備	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
7	建築設備の見学?	学内の設備機械室・屋上等に設置してある建築設備を見学する。	1～6 回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。																																																																
8	前半講義のまとめテストと解説	前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	1～7 回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。																																																																
9	給水設備	給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
10	排水・通気設備	排水の考え方と通気設備の必要性	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
11	衛生器具・排水処理設備	衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
12	消火・防災設備 (1)	消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
13	消火・防災設備 (2)	特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
14	電気・搬送設備	電気・搬送設備の概要と基礎知識	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。																																																																
15	後半講義のまとめテストと解説	後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	住環境設備 B、住環境工学 A、住環境工学 B、環境工学演習、環境計画演習																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>最新 建築設備工学 (改訂版)</td><td>田中俊六監修</td><td>井上書院</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	最新 建築設備工学 (改訂版)	田中俊六監修	井上書院	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	最新 建築設備工学 (改訂版)	田中俊六監修	井上書院																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																																																																		
Teams コード	3nocw58																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	Teams 投稿欄への記入																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	毎回の小演習及び Emat の受験状況等 40% まとめテスト 60%を総合的に評価する																																																																		
学生へのメッセージ	教科書を持参すること 遠慮なく質問すること																																																																		
担当者の研究室等	12 号館 7 階 大橋研究室、竹村研究室																																																																		

備考	予習復習は配布資料、教科書についての通読をこれに当てること（計 60 時間） 毎回の小演習は、当日もしくは翌週の講義時間内に解説を行う
----	--

科目名	住環境設備 B	科目名 (英文)	Building Services B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧、曾我部 峰幸、谷口 浩一郎
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR3034a0		

授業概要・目的	これからの環境配慮、環境共生建築を考える上で、建築設備に関する知識や専門技術の習得は欠かせない。本講義は、設備工事業界で活躍する非常勤講師、および株式会社日建設計で 16 年の実務経験をもつ教員が担当し、住環境設備 A までで学んだ基礎的な知識や考え方をベースに、先進的な情報も教授しつつ、実務に応用できる知識や技術の基礎を身につける。 SDGs-6, 7, 13
到達目標	建築設備工学に関する最新情報を知り、実務に応用できる知識や技術の基礎を修得する。
授業方法と留意点	講義を中心としながら、原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ることを。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義概要全体の説明 現代空調設備の傾向	現代の空調設備に関する概説、基礎的な住環境設備の知識・理解度の確認	参考書「第 3 章 空気調和設備」について予習・復習のこと。
	2	熱源機器	高効率、モジュール型等、最新熱源機器について (事例を交えて)	参考書「第 3 章 空気調和設備」の熱源機器を予習・復習のこと。
	3	空調機	空気調和機二次側設備について (事例を交えて)、最近の多種多様な直膨パッケージエアコンの紹介	参考書「第 3 章 空気調和設備」の空調機器を予習・復習のこと。
	4	配管の全体システム	主要空調機器に付帯するポンプと配管、全体システムについて (事例を交えて)	参考書「第 3 章 空気調和設備」の配管設備を予習・復習のこと。
	5	ダクトの全体システム、換気設備	ダクトと送風機について (事例を交えて)、換気設備の重要性について (事例や失敗談を交えて)	参考書「第 3 章 空気調和設備」のダクト設備を予習・復習のこと。
	6	産業用空調	産業用空調の概説、加湿と除湿についての応用、クリーンルームの概説・事例	参考書「第 3 章 空気調和設備」の産業用空調を予習・復習のこと。
	7	衛生設備概要・給水設備	衛生設備概要、給水設備全般、給水汚染の原因と対策、各種給水方式について	参考書「第 4 章給排水衛生設備」の給水設備を予習・復習のこと。
	8	給水・給湯設備	給水容量算定方法とサイズ決定方法 給湯方式と給湯量、各種給湯方式について	参考書「第 4 章給排水衛生設備」の給湯設備を予習・復習のこと。
	9	排水・通気設備	排水通気方式について トラップ種別と機能、破封原因について	参考書「第 4 章給排水衛生設備」の排水設備を予習・復習のこと。
	10	消火設備	消防法と消火設備の関係 各種消火設備について	参考書「第 4 章給排水衛生設備」の消火設備を予習・復習のこと。
	11	ガス設備・特殊設備	ガス設備と安全対策、ガス燃焼方式と換気設備 特殊設備 (ろ過設備、医療ガス設備等)	参考書「第 4 章給排水衛生設備」のガス・特殊設備を予習・復習のこと。
	12	エネルギーと建築・都市設備 1 (エネルギーとは)	エネルギー資源と安全保障、エネルギー消費の副産物、エネルギーの捉え方について	参考書「第 1 章 概論」について予習・復習のこと
	13	エネルギーと建築・都市設備 2 (都市のインフラ)	都市のインフラ整備、非常時のインフラ機能、都市のエネルギー供給システム、地域冷暖房システムについて	参考書「第 1 章 概論」について予習・復習のこと
	14	エネルギーと建築・都市設備 3 (建築・都市の環境整備)	建築・都市の営みに起因する環境負荷、環境評価について	参考書「第 1 章 概論」について予習・復習のこと
	15	住環境設備 B まとめテスト	空気調和設備・給排水衛生設備・エネルギーと都市・建築設備に関するまとめテストおよび解説	配布資料及び小演習問題を整理してよく復習しておくこと。

実務経験	
関連科目	住環境設備 A、住環境工学 A、住環境工学 B、環境工学演習、環境計画演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜紹介する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築設備工学 (改訂版)	田中俊六監修	井上書院
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder
Teams コード	p108w79
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	E メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	小演習 30% (毎回)

(基準)	まとめテスト 70% (最終回) 以上を総合的に評価する
学生への メッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待する
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 大橋研究室
備考	・講義に係る予習・復習は、合計で 60 時間を目安とする ・非常勤講師への授業時間外の質問はメールにて受け付ける（メールアドレスは授業内で提示する） ・毎回の小演習は、当日もしくは翌週の講義時間内に解説を行う

科目名	住環境材料学	科目名 (英文)	Housing Materials
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	難波 尚
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2037a0		

授業概要・目的	建築には、天然材料から人工材料まで、多岐にわたる種類の材料が用いられます。本講義では、建築材料の種類や性質について理解するとともに、各材料の性能と建築の機能との関係性を理解することを目的とします。
到達目標	建築を設計・施工・運用する際に必要となる、適切な材料選択のための基礎を修得する他、必要性能を発揮するための要件を理解・活用できることを目標とします。
授業方法と留意点	教科書に沿った内容のスライドを用いた講義形式を行います。
科目学習の効果 (資格)	1 級建築士、2 級建築士の指定科目 (建築材料 2 単位)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築材料概論	建築材料の分類, 建築材料の性能と性質	教科書による予習復習
	2	材料の機械的性質	材料の機械的性質	教科書による予習復習
	3	構造材料 鉄鋼材料①	鋼の製法と基本的性質	教科書による予習復習
	4	構造材料 鉄鋼材料②	鋼材の機械的性質	教科書による予習復習
	5	構造材料 鉄鋼材料③	鋼材の種類・規格	教科書による予習復習
	6	構造材料 鉄鋼材料④	鋼材の接合	教科書による予習復習
	7	構造材料 コンクリート①	コンクリートの基礎知識	教科書による予習復習
	8	構造材料 コンクリート②	フレッシュコンクリートの性質	教科書による予習復習
	9	構造材料 コンクリート③	硬化コンクリートの性質	教科書による予習復習
	10	構造材料 コンクリート④	調合	教科書による予習復習
	11	構造材料 コンクリート⑤	耐久性, 試験方法	教科書による予習復習
	12	木材および木質材料①	木材の特性	教科書による予習復習
	13	木材および木質材料②	木材および木質材料の機械的性質	教科書による予習復習
	14	木材および木質材料③	木材および木質材料の規格	教科書による予習復習
	15	木材および木質材料④	木材の劣化とその防止	教科書による予習復習

実務経験	
関連科目	建築構造学・構法に関する科目一般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料を学ぶ ーその選択から施工までー	谷川恭雄他	理工図書 ISBN978-4-8846-0740-3
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	mlitw51
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	初回授業のガイダンス資料で通知する。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート 100%で評価する。
学生へのメッセージ	日常生活において、建築の存在は極めて当然のものですが、これらは長い間の経験から得た知識・知恵の集大成と言えます。ぜひ日常においても建築を学ぶものとして意識と関心を持つよう心がけて下さい。
担当者の研究室等	神戸大学工学研究科建築学専攻 難波研究室
備考	講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする

科目名	構造デザイン論	科目名 (英文)	Structural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武
ディプロマポリシー(DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2038a0		

授業概要・目的	目的は建築構造の役割を理解し、建築構造デザインについての基礎知識・能力と実践的な応用力を取得することである。将来、建築設計、構造設計、設備設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料の分野など、活躍の場は幅広いが、どの分野に進むにしても、基本となる知識が含まれているので、それらを習得する。持続可能な住環境のために、人類はどのように広さ、長さ、高さを求めて新しい技術革新に取り組んできたのか考えていく。 2020 年度の配当年次は 1 及び 2 年生 SDGs-3, 9, 11, 12																																																																		
到達目標	建築構造デザインの源流と本質を理解する。広さ、長さ、高さを克服するための構造デザインの基礎、構造システムを理解する。材料の利用・生産方法から構造システムが生まれる歴史の変遷を理解し、これからの新しい材料についてもどのように活用を考えるべきか、応用力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	授業は教科書、スライド (PPT)、板書を使い講義形式、及び学生 2 名～3 名程度でグループを作り、教科書の内容を分担して、まとめ、解りやすく発表を行う参加形式とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第一章 構造システムの歩み ガイダンス (授業の内容は発表の順番で前後します。)</td><td>建築・橋・塔の構造と構造システム、古典的・近代的構造材料の歩み</td><td>事前：該当部分を読むこと。 1-1, 1-2</td></tr> <tr> <td>2</td><td>鉄の歴史</td><td>古典的材料の鉄～近代的構造材料の鉄鋼</td><td>事前：該当部分を読むこと。 1-3</td></tr> <tr> <td>3</td><td>コンクリートの歴史</td><td>古典的～近代的構造材料のコンクリートの変遷</td><td>事前：該当部分を読むこと。 1-4</td></tr> <tr> <td>4</td><td>構造システム前史</td><td>広さ、長さ、高さへの挑戦</td><td>事前：該当部分を読むこと。 1-5</td></tr> <tr> <td>5</td><td>第 2 章 構造システムのタイプ (その 1)</td><td>抵抗系別の構造システムその 1</td><td>事前：該当部分を読むこと。 2-1～2-3</td></tr> <tr> <td>6</td><td>構造システムのタイプ (その 2)</td><td>抵抗系別の構造システムその 2</td><td>事前：該当部分を読むこと。 2-4～2-6</td></tr> <tr> <td>7</td><td>第 3 章 「広さ」を可能にする構造デザイン</td><td>大スパン建築の変遷</td><td>事前：該当部分を読むこと。 3-1</td></tr> <tr> <td>8</td><td>大スパン建築の種類と構造システム (その 1)</td><td>トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム</td><td>事前：該当部分を読むこと。 3-2-1～3-2-3</td></tr> <tr> <td>9</td><td>大スパン建築の種類と構造システム (その 2)</td><td>シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他</td><td>事前：該当部分を読むこと。 3-2-4～3-2-6</td></tr> <tr> <td>10</td><td>大スパン建築の設計</td><td>大スパン建築の実例紹介</td><td>事前：該当部分を読むこと。 3-3</td></tr> <tr> <td>11</td><td>第 4 章 「長さ」を可能にする構造デザイン</td><td>橋の変遷</td><td>事前：該当部分を読むこと。 4-1</td></tr> <tr> <td>12</td><td>橋の種類と構造システム</td><td>橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋～斜張橋等</td><td>事前：該当部分を読むこと。 4-2</td></tr> <tr> <td>13</td><td>橋の設計</td><td>橋の設計事例紹介</td><td>事前：該当部分を読むこと。 4-3</td></tr> <tr> <td>14</td><td>第 5 章 「高さ」を可能にする構造デザイン</td><td>塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計</td><td>事前：該当部分を読むこと。 5-1～5-3</td></tr> <tr> <td>15</td><td>高層ビルと超高層ビル</td><td>高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例</td><td>事前：該当部分を読むこと。 5-4～5-6</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	第一章 構造システムの歩み ガイダンス (授業の内容は発表の順番で前後します。)	建築・橋・塔の構造と構造システム、古典的・近代的構造材料の歩み	事前：該当部分を読むこと。 1-1, 1-2	2	鉄の歴史	古典的材料の鉄～近代的構造材料の鉄鋼	事前：該当部分を読むこと。 1-3	3	コンクリートの歴史	古典的～近代的構造材料のコンクリートの変遷	事前：該当部分を読むこと。 1-4	4	構造システム前史	広さ、長さ、高さへの挑戦	事前：該当部分を読むこと。 1-5	5	第 2 章 構造システムのタイプ (その 1)	抵抗系別の構造システムその 1	事前：該当部分を読むこと。 2-1～2-3	6	構造システムのタイプ (その 2)	抵抗系別の構造システムその 2	事前：該当部分を読むこと。 2-4～2-6	7	第 3 章 「広さ」を可能にする構造デザイン	大スパン建築の変遷	事前：該当部分を読むこと。 3-1	8	大スパン建築の種類と構造システム (その 1)	トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム	事前：該当部分を読むこと。 3-2-1～3-2-3	9	大スパン建築の種類と構造システム (その 2)	シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他	事前：該当部分を読むこと。 3-2-4～3-2-6	10	大スパン建築の設計	大スパン建築の実例紹介	事前：該当部分を読むこと。 3-3	11	第 4 章 「長さ」を可能にする構造デザイン	橋の変遷	事前：該当部分を読むこと。 4-1	12	橋の種類と構造システム	橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋～斜張橋等	事前：該当部分を読むこと。 4-2	13	橋の設計	橋の設計事例紹介	事前：該当部分を読むこと。 4-3	14	第 5 章 「高さ」を可能にする構造デザイン	塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計	事前：該当部分を読むこと。 5-1～5-3	15	高層ビルと超高層ビル	高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例	事前：該当部分を読むこと。 5-4～5-6
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	第一章 構造システムの歩み ガイダンス (授業の内容は発表の順番で前後します。)	建築・橋・塔の構造と構造システム、古典的・近代的構造材料の歩み	事前：該当部分を読むこと。 1-1, 1-2																																																																
2	鉄の歴史	古典的材料の鉄～近代的構造材料の鉄鋼	事前：該当部分を読むこと。 1-3																																																																
3	コンクリートの歴史	古典的～近代的構造材料のコンクリートの変遷	事前：該当部分を読むこと。 1-4																																																																
4	構造システム前史	広さ、長さ、高さへの挑戦	事前：該当部分を読むこと。 1-5																																																																
5	第 2 章 構造システムのタイプ (その 1)	抵抗系別の構造システムその 1	事前：該当部分を読むこと。 2-1～2-3																																																																
6	構造システムのタイプ (その 2)	抵抗系別の構造システムその 2	事前：該当部分を読むこと。 2-4～2-6																																																																
7	第 3 章 「広さ」を可能にする構造デザイン	大スパン建築の変遷	事前：該当部分を読むこと。 3-1																																																																
8	大スパン建築の種類と構造システム (その 1)	トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム	事前：該当部分を読むこと。 3-2-1～3-2-3																																																																
9	大スパン建築の種類と構造システム (その 2)	シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他	事前：該当部分を読むこと。 3-2-4～3-2-6																																																																
10	大スパン建築の設計	大スパン建築の実例紹介	事前：該当部分を読むこと。 3-3																																																																
11	第 4 章 「長さ」を可能にする構造デザイン	橋の変遷	事前：該当部分を読むこと。 4-1																																																																
12	橋の種類と構造システム	橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋～斜張橋等	事前：該当部分を読むこと。 4-2																																																																
13	橋の設計	橋の設計事例紹介	事前：該当部分を読むこと。 4-3																																																																
14	第 5 章 「高さ」を可能にする構造デザイン	塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計	事前：該当部分を読むこと。 5-1～5-3																																																																
15	高層ビルと超高層ビル	高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例	事前：該当部分を読むこと。 5-4～5-6																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	構造力学入門、構造力学Ⅰ、Ⅱ、建築一般構造学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>[広さ][長さ][高さ]の構造デザイン</td><td>坪井善昭、等編著</td><td>株式会社建築技術</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	[広さ][長さ][高さ]の構造デザイン	坪井善昭、等編著	株式会社建築技術	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	[広さ][長さ][高さ]の構造デザイン	坪井善昭、等編著	株式会社建築技術																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち</td><td>川口 衛 他</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>図説テキスト 建築構造 ー構造システムを理解するー 第二版</td><td>建築構造システム研究会編</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Structures. Seventh Edition</td><td>Daniel L. Schodek, Martin Bechthold</td><td>Pearson Education, Inc.</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち	川口 衛 他	彰国社	2	図説テキスト 建築構造 ー構造システムを理解するー 第二版	建築構造システム研究会編	彰国社	3	Structures. Seventh Edition	Daniel L. Schodek, Martin Bechthold	Pearson Education, Inc.																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち	川口 衛 他	彰国社																																																																
2	図説テキスト 建築構造 ー構造システムを理解するー 第二版	建築構造システム研究会編	彰国社																																																																
3	Structures. Seventh Edition	Daniel L. Schodek, Martin Bechthold	Pearson Education, Inc.																																																																
授業形態	Teams「オンライン型」/Moodle																																																																		
Teams コード	57skjbp																																																																		
Moodle コース名および登録キー	12345SD																																																																		
連絡手段	大学メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		

評価方法 (基準)	①授業内課題（グループまたは個人テスト） 20% ②ミニ課題 50% （PPTを利用してグループ毎に教科書指定範囲を読み解いてまとめ、発表・提出） ③最終課題 30% 計 100%※（レポート） ※各課題の評価配分は進捗状況、内容変更などに伴う複雑度等により変動します。
学生への メッセージ	構造デザインは本来楽しいものです。建築の可能性を広げてくれる重要な学びです。計算ではなく、様々な構造システムの原理と特性を創造豊かに考えてみましょう。我々人類の歴史と共に、一歩ずつ歩んできた材料の発見と使い方としての構法、そしてその失敗を重ねて導いた新しい構造システムを理解しましょう。
担当者の 研究室等	12号館7階 白鳥 武 准教授 教員室
備考	講義に係る予復習は、毎回30分程度を目安とする。 必ず授業の流れ・進行状況に沿って、該当する教科書を読み、課題に1時間以上費やすこと。積重ねが重要です。 ①授業内課題は毎回グループ毎発表内容や教科書をもとにしたミニテストを授業内に出題し、グループ毎に答案提出により採点。 ②ミニ課題はPPTによる内容発表直後に、事前に伝えられた評価ポイントを基準に評価します。オンラインでは通信障害が発生することがあり、適宜臨機応変に対策を考えていきます。また、発表ができなかった場合は提出内容で評価

科目名	色彩デザイン論	科目名 (英文)	Introduction to Color Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岩田 三千子
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2037a0		

授業概要・目的	色は人々に様々な影響を与え、生活を豊かにすることから、良いデザインのための重要な要件である。講義では色の物理的な性質、色が見える仕組み、色と心理、色と文化など、色についての基礎的な知識を学ぶとともに、生活の場面で色を生かしたデザインの実例や研究成果を学ぶ。 SDGs-3, 9, 11
到達目標	建築計画や環境計画における色彩デザインに関する基礎的な知識を修得し、身の回りの色彩環境についての関心を深めてデザインへの応用につながることを目標とする。
授業方法と留意点	各章の授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。 パワーポイントを用いてオンライン講義を中心とした授業を行う。 授業後に各人がノートを取り、毎回ノートを Teams で提出する。
科目学習の効果 (資格)	カラーコーディネーター、色彩検定、商業施設士、インテリアコーディネーター、一級建築士、二級建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 色を見る眼のしくみ	人の眼と色が見えるしくみを学ぶ	住環境工学 B で学んだ照明と色彩に関する部分を復習して、授業に臨むこと (2 時間)
	2	色を伝える方法	慣用色名と系統色名について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	3	色と心理 1	色の連想と象徴について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	4	色と心理 2	色の視認性と誘目性について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	5	色と心理 3	色がもたらす心理的効果について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	6	色の表示 1	色の三属性とマンセル表色系などのカラーオーダーシステムを学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	7	色の表示 2	色の三属性とトーンの関係について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	8	光と色 1	光源色と物体色の表示と混色について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	9	光と色 2	光による自然現象を学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	10	配色と色彩調和 1	色彩調和の考え方について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	11	配色と色彩調和 2	代表的な色彩調和理論について学ぶ	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること (2 時間)
	12	色彩環境デザイン 1	色彩イメージと空間デザインについての基礎を学ぶ	予習・復習として課題を出すので翌週までに提出すること (2 時間)
	13	色彩環境デザイン 2	絵画から知る色彩デザインの歴史について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間) 宿題を出すので提出すること
	14	色彩環境デザイン 3	商品から知る色彩デザインの歴史について学ぶ	教科書から講義部分の予習と復習を十分に行う (2 時間)
	15	まとめテスト	講義の内容について、総復習のテストを実施する (対面を予定)	事前にノート、教科書を見てしっかり復習をしておくこと

実務経験	
関連科目	インテリアデザイン論、住環境工学 B、環境工学演習、環境計画演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カラーコーディネーター検定試験 (旧) 3 級公式テキスト	東京商工会議所	
	2	カラーコーディネーター検定試験スタンダードクラス公式テキスト	東京商工会議所	
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」
Teams コード	c6d26qy
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams の投稿欄、チャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 (課題を含む) 50%、まとめテスト 50% の割合で、総合的に評価する
学生への メッセージ	日常から、いろいろなものの「色」について関心を持って接してください
担当者の	12 号館 7 階 岩田教授室

研究室等	
備考	効果的に色を用いることで環境の質が向上し、生活が豊かになることを学んでほしい。 講義に係る予習・復習は、毎回2時間程度を目安とする。 授業中にとったノートを毎回10点満点で採点し、講義中にクイズなどを実施して理解度や取組姿勢を確かめる。

科目名	ランドスケープデザイン論	科目名 (英文)	Landscape Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	武田 重昭, 下村 泰彦
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2039a0		

授業概要・目的	本講義は、都市圏や自然地域における各種の緑地空間を対象としたランドスケープデザインを理解するための基本となる知識と理論、デザイン手法と技術を学修することによって、一連のランドスケープデザイン・プロセスの習得と豊かな発想力を養うことを目標とする。
到達目標	(1) ランドスケープデザインの基本的な計画プロセスとデザイン手法を説明できる。 (2) 植栽デザインの考え方や緑化材料の基本的事項を説明できる。 (3) 景観デザインや空間デザインの基本的考え方を説明できる。 (4) 緑地空間における問題点や課題を抽出でき、その解決方法を総合的に表現できる。
授業方法と留意点	講義内容に応じたプリントを配布する。授業方法はプロジェクターを主とし、板書で補足する。 プリントは資料であるので、授業内容をしっかりとメモすること。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ランドスケープデザインの基本的アプローチ	ランドスケープデザインの概念的枠組みおよび基礎的事項について概説する。人間行動、自然的要素、時間軸の関係性について考える。	ランドスケープデザインについて予習するとともに西洋庭園や日本庭園について学習しておく。講義後は、庭園デザインについて復習するとともにそこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。
	2	西洋庭園様式の変遷と庭園デザイン	西洋庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・屋上緑化の起源 ・幾何学式庭園と自然風景式庭園のデザイン ・水を使ったデザイン	ランドスケープデザインについて予習するとともに西洋庭園や日本庭園について学習しておく。講義後は、庭園デザインについて復習するとともにそこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。
	3	日本庭園様式の変遷と庭園デザイン	日本庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・遠近法、借景等のデザイン ・自然修景手法と植栽樹木	ランドスケープデザインについて予習するとともに西洋庭園や日本庭園について学習しておく。講義後は、庭園デザインについて復習するとともにそこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。
	4	大阪の緑と広域緑地計画	大阪の緑の現状と課題について概説するとともに、広域緑地計画の考え方について学修する。 ・大阪の歴史と緑地軸 ・ボストンのエメラルドネックレス ・緑の基本計画	配布資料を通読してくること。講義前には、都市の緑地に関して学習しておく。講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等における樹木に着目して、その植栽形式や効果について考察する。
	5	都市に自然空間を演出する (自然観と里地里山)	都市内の住宅計画に多用されている「里山をイメージした植栽デザイン」。 ・里山の概念を紹介するとともに、都市空間における「自然的雰囲気」の演出手法を学修する。	配布資料を通読してくること。講義前には、都市の緑地に関して学習しておく。講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等における樹木に着目して、その植栽形式や効果について考察する。
	6	都市景観形成と植栽デザイン	都市景観形成を「緑」から考える。 ・植栽樹木の特性や樹種選定の方法、配植方法といった植栽デザイン (planting design) の基本的考え方について学修する。	配布資料を通読してくること。講義前には、都市の緑地に関して学習しておく。講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等における樹木に着目して、その植栽形式や効果について考察する。
	7	都市空間の現地視察・1 (学外見学)	都市空間に実際に外向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。	調査対象地区の概要を事前に調査しておく。視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。
	8	都市空間の現地視察・2 (学外見学)	都市空間に実際に外向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。	調査対象地区の概要を事前に調査しておく。視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。
	9	都市空間の現地視察・3 (学外見学)	都市空間に実際に外向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。	調査対象地区の概要を事前に調査しておく。視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。
	10	ランドスケープデザイン・1 (計画・設計プロセス)	都市緑地・オープンスペースの計画・設計プロセスについて説明する。	ランドスケープデザインに関するプロセスについて予習しておく。講義終了後には、敷地分析手法と計画手法を復習する。
	11	ランドスケープデザイン・2 (敷地分析)	ランドスケープ・デザインにおける敷地分析 (site analysis) の手法について説明する。 ・分析に用いる項目と考え方	ランドスケープデザインに関するプロセスについて予習しておく。講義終了後には、敷地分析手法と計画手法を復習する。
	12	ランドスケープデザイン・3 (敷地計画)	ランドスケープ・デザインにおける敷地計画 (site planning) の手法について説明する。 ・「ゾーニング」と「サーキュレーション」	ランドスケープデザインに関するプロセスについて予習しておく。講義終了後には、敷地分析手法と計画手法を復習する。

			ン」 ・「ゾーニング」から「エスキス」へ		
	13	ランドスケープデザイン・4 (事例紹介)	業務系ビルや住宅（集合住宅と独立住宅）の植栽計画・デザインの事例紹介を通じて空間デザイン・植栽デザイン手法について説明する。	ランドスケープデザインの事例について事前に学習する。講義後には、ユニバーサルデザイン等に関して復習する。	
	14	ランドスケープデザイン・5 (事例紹介)	人にやさしいデザイン（ユニバーサルデザイン）や安全・安心のまちづくり、コミュニティ形成などに係わる都市オープンスペースデザインについて説明する。	ランドスケープデザインの事例について事前に学習する。講義後には、ユニバーサルデザイン等に関して復習する。	
	15	ランドスケープデザインの意義と今日の課題	講義の総まとめとして、ランドスケープデザインに関する主として建築分野での意義や必要性を述べるとともに、今日の課題について説明する。	ランドスケープデザインの事例について事前に学習する。講義後には、ユニバーサルデザイン等に関して復習する。	
実務経験					
関連科目	設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ、地域・都市計画学、建築空間論				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1	景観の構造—ランドスケープとしての日本の空間	樋口忠彦	技報堂出版
		2	「街並みの美学」	芦原義信	岩波現代文庫
		3	都市・まちづくり学入門	日本都市計画学会関西支部 新しい都市計画教程研究会編 久隆浩、下村泰彦 他	学芸出版社
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	学期末のレポート課題（80%）、各回授業における小レポート（20%）で到達度を評価する。				
学生への メッセージ	都市空間を構成する「ランドスケープデザイン」についての理念や考え方の理解を深める講義である。建築計画・設計の範疇を超えて敷地全体や周辺地域に配慮したトータルなデザインプロセスや手法について学修できるとともに、植栽デザイン・修景手法の基本的な考え方も修得できる。				
担当者の 研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室				
備考	事前事後学習は配布資料について約1時間30分間程度をこれに当てること。 また、講義内容を踏まえ、都市内における各種オープンスペースに出向き、人間行動を観察し、人間のアクティビティと施設・樹木の空間配置やデザインとの関わりについて考察してもらいたい。				

科目名	構造力学Ⅰ	科目名（英文）	Structural MechanicsⅠ
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西野 孝仁
ディプロマポリシー（DP）	D◎		
科目ナンバリング	TDR2040a0		

授業概要・目的	この授業では、建築の構造設計の基礎となる構造力学を初めて学ぶ学生を対象に、建築物にかかる力の基本的な考え方（釣り合い、モーメント、反力）と表現を学び、さらに静定構造部材（梁、ラーメン、トラス）に生じる反力と応力について、基礎的な知識の講義を行う。
到達目標	構造的に安全な建物を設計するためには、建物に加わる応力計算の手法を学ぶ必要がある。構造力学Ⅰでは構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を把握することが第1義である。様々な演習問題を解くことによって、これをイメージで理解できるようになる事が目標である。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、よって、この授業では構造力学の基礎がためとなるものである。
授業方法と留意点	板書および配付プリント等を用いて講義する。講義は復習、解説、練習、小テストで構成される。原則として電卓、三角定規を持参すること。配布プリント、返却する小テストはファイルしておくこと。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方・学習の意義について説明する。続いて、構造力学を学ぶ上での基礎知識を説明する。	高校の理数系教科書に一通り目を通しておくこと。本講義の見直し。
	2	力の性質	力の表現、力のつり合い・合成と分解	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	3	支点反力（1）	片持ち梁と単純梁の支点反力の求め方を解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	4	支点反力（2）	門型ラーメンと3ヒンジラーメンの支点反力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	5	応力（1）	片持ち梁と単純梁の応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	6	応力（2）	門型ラーメンの応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	7	中間試験	第1回～第6回の講義内容から出題	第1回～第6回の内容を良く復習しておくこと。
	8	中間試験の解説および応力分布（1）	片持ち梁と単純梁に集中荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	中間試験内容と本講義内容の見直し。
	9	応力分布（2）	片持ち梁と単純梁に集中曲げモーメントが作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	10	応力分布（3）	片持ち梁と単純梁に等分布荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	11	応力分布（4）	門型ラーメンに集中荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	12	応力分布（5）	門型ラーメンに集中曲げモーメントが作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	13	トラスの解法（1）	節点法による応力の求め方を解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	14	トラスの解法（2）	切断法による応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
	15	総まとめ	講義内容全体の復習を行う	講義全体の内容を良く復習しておくこと。

実務経験				
関連科目	構造力学、構造力学、建築一般構造学			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解レクチャー 構造力学	浅野清昭	学芸出版社
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 やさしい構造力学	浅野清昭	学芸出版社
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder			
Teams コード	5q291nv			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点(小テストと授業態度を重視する) ----- 25% 中間試験 ----- 25%			

	期末試験 ----- 50%
学生への メッセージ	毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。レポート課題は必ず提出すること。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時限数の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。 講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	構造力学Ⅱ	科目名（英文）	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西野 孝仁
ディプロマポリシー(DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2041a0		

授業概要・目的	本講義は構造力学Ⅰで学んだ、構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を踏まえ、部材の断面強度の検定の手法や、静定・不静定の骨組みの変形について考え方と計算法を学び、応力解析のための基礎知識を付与する。構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、本講義はその基礎がためとなるものである。																																																																		
到達目標	不静定問題は力のつり合いだけでは解けず、変形を理解する必要がある。若干の数学計算が必要であるが、イメージで考え、解くプロセスを身につけることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	WebFolderを用いた『教材・課題提供型授業』とします。WebFolderの「教材」－「構造力学Ⅱ」のフォルダーに毎回の教材を提供しますので、これを用いて学習を進めてください。課題は毎回、課します。課題の内容は各教材の最終頁に記載してあります。																																																																		
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>概論</td><td>講義の進め方・学習の意義について説明する。構造力学Ⅰの総復習を行う。</td><td>構造力学Ⅰの復習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>断面の性質</td><td>図心、重心、断面1次2次モーメント、断面係数等について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>応力度（1）</td><td>軸方向応力度・せん断応力度の求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>応力度（2）</td><td>曲げ応力度の求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>応力度（3）</td><td>組み合わせ応力度の求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>部材の変形</td><td>単純梁・片持ち梁・はね出しはりといった様々な構造物の変形について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>中間試験</td><td>第1回～第6回から出題</td><td>第1回～第7回の内容を良く復習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>不静定構造物の応力（1）</td><td>不静定構造物の応力を、変形を利用して求める方法について学習する</td><td>中間試験の見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>不静定構造物の応力（2）</td><td>不静定構造物の応力を、固定モーメント法を利用して求める方法について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>不静定構造物の応力（3）</td><td>不静定構造物の応力を、たわみ角法を利用して求める方法について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>不静定構造物の応力（4）</td><td>多層ラーメンの地震時応力の求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>座屈問題</td><td>座屈荷重の求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>崩壊荷重（1）</td><td>全塑性曲げモーメントの求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>崩壊荷重（2）</td><td>仮想仕事の原理を用いた崩壊荷重の求め方について学習する</td><td>前回小テストの見直しと今回講義内容の復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>総まとめ</td><td>期末テストにむけて総復習を行う</td><td>講義全体の内容を良く復習しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概論	講義の進め方・学習の意義について説明する。構造力学Ⅰの総復習を行う。	構造力学Ⅰの復習しておくこと。	2	断面の性質	図心、重心、断面1次2次モーメント、断面係数等について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	3	応力度（1）	軸方向応力度・せん断応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	4	応力度（2）	曲げ応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	5	応力度（3）	組み合わせ応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	6	部材の変形	単純梁・片持ち梁・はね出しはりといった様々な構造物の変形について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	7	中間試験	第1回～第6回から出題	第1回～第7回の内容を良く復習しておくこと。	8	不静定構造物の応力（1）	不静定構造物の応力を、変形を利用して求める方法について学習する	中間試験の見直しと今回講義内容の復習	9	不静定構造物の応力（2）	不静定構造物の応力を、固定モーメント法を利用して求める方法について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	10	不静定構造物の応力（3）	不静定構造物の応力を、たわみ角法を利用して求める方法について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	11	不静定構造物の応力（4）	多層ラーメンの地震時応力の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	12	座屈問題	座屈荷重の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	13	崩壊荷重（1）	全塑性曲げモーメントの求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	14	崩壊荷重（2）	仮想仕事の原理を用いた崩壊荷重の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習	15	総まとめ	期末テストにむけて総復習を行う	講義全体の内容を良く復習しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概論	講義の進め方・学習の意義について説明する。構造力学Ⅰの総復習を行う。	構造力学Ⅰの復習しておくこと。																																																																
2	断面の性質	図心、重心、断面1次2次モーメント、断面係数等について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
3	応力度（1）	軸方向応力度・せん断応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
4	応力度（2）	曲げ応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
5	応力度（3）	組み合わせ応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
6	部材の変形	単純梁・片持ち梁・はね出しはりといった様々な構造物の変形について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
7	中間試験	第1回～第6回から出題	第1回～第7回の内容を良く復習しておくこと。																																																																
8	不静定構造物の応力（1）	不静定構造物の応力を、変形を利用して求める方法について学習する	中間試験の見直しと今回講義内容の復習																																																																
9	不静定構造物の応力（2）	不静定構造物の応力を、固定モーメント法を利用して求める方法について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
10	不静定構造物の応力（3）	不静定構造物の応力を、たわみ角法を利用して求める方法について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
11	不静定構造物の応力（4）	多層ラーメンの地震時応力の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
12	座屈問題	座屈荷重の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
13	崩壊荷重（1）	全塑性曲げモーメントの求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
14	崩壊荷重（2）	仮想仕事の原理を用いた崩壊荷重の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習																																																																
15	総まとめ	期末テストにむけて総復習を行う	講義全体の内容を良く復習しておくこと。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	建築一般構造、構造力学Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂版『初めての建築構造力学』</td><td><建築のテキスト>編集委員会 編</td><td>学芸出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>考えるプロセスがわかる 変形を理解する構造力学</td><td>小野里憲一・西村彰敏</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂版『初めての建築構造力学』	<建築のテキスト>編集委員会 編	学芸出版社	2	考えるプロセスがわかる 変形を理解する構造力学	小野里憲一・西村彰敏	彰国社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂版『初めての建築構造力学』	<建築のテキスト>編集委員会 編	学芸出版社																																																																
2	考えるプロセスがわかる 変形を理解する構造力学	小野里憲一・西村彰敏	彰国社																																																																
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	平常点（毎回の課題）：25% 中間試験（レポートとします）：25% 期末試験（レポートとします）：50%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。レポート課題は必ず提出すること。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		

備考	質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。 講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする
----	--

科目名	建築一般構造学	科目名 (英文)	Introduction to Architectural Structure Methods
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西野 孝仁
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR1042a0		

授業概要・目的	建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力の習得。 1. 建築構造の分類別特性の理解：どのような条件で特定の構造種別を採用すべきかの基本理解。 2. 建築物の躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みの理解。 3. 構造設計法の概略と、これに関連する法規の概略の習得。 以上が授業の概要・目的である。
到達目標	建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身に着ける ① 木構造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、その他構造の特性が理解できる ② 各構法の基本図面が理解できる
授業方法と留意点	WebFolder を用いた『教材・課題提供型授業』とします。 WebFolder の「教材」 - 「建築一般構造学」のフォルダーに毎回の教材を提供しますので、これを用いて学習を進めてください。 課題は毎回、課します。課題の内容は各教材の 2 頁目に記載してあります。
科目学習の効果 (資格)	1 級建築士、2 級建築士、インテリアデザイナー、施工監理士等の一般的な構造学知識

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築構造のあらし	建築構造の歴史的発達、なりたち、分類、および建築物に働く力について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	2	木構造 (1)	木材の材料特性と、木構造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	3	木構造 (2)	在来工法と枠組壁工法について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	4	木構造 (3)	壁量計算方法について講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。電卓を持参すること。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	5	鉄骨構造 (1)	鋼材の材料特性と鉄骨造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	6	鉄骨構造 (2)	部材の接合形式および設計上の留意点についてパワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	7	鉄骨構造 (3)	各部の構造形式および設計上の留意点についてパワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。また中間試験に向けて、これまでの講義内容を見直しておくこと。
	8	中間試験	これまでの講義内容について、理解度をチェックします。	事前にこれまでの講義内容を復習しておくこと。事後は、試験の内容を見直しておくこと。
	9	鉄筋コンクリート構造 (1)	コンクリートの材料特性と鉄筋コンクリート構造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	10	鉄筋コンクリート構造 (2)	各部の構造形式と設計上の留意点について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	11	鉄筋コンクリート構造 (3)	鉄筋の配筋計画と設計上の留意点について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	12	鉄骨鉄筋コンクリート構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に 30 分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題 1 2】
	13	壁式構造と補強コンクリートブロック造	壁式構造と補強コンクリートブロック造について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	14	プレストレスト コンクリート造	プレストレスト コンクリート造について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
	15	基礎と地盤	基礎と地盤について、パワーポイントを用いて講義した後、いままでの講義内容	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直し

			も含む小テストによって、この講義の理解度をチェックしていただきます。	ておくこと。また期末試験に向けて、いままでの講義内容全体を見直しておくこと。
実務経験				
関連科目	構造力学 1、構造力学 2. 構造デザイン概論等			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 やさしい建築一般構造	今村仁美 他	学芸出版
	2	最新建築構造入門	青木博文 他	実教出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	わかる建築学 5 建築構法	安達俊夫 他	学芸出版
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点（毎回の授業で実施する課題）：25％ 中間試験（レポートとします）：25％ 期末試験（レポートとします）：50％			
学生への メッセージ	構造は建物の安全性が担保される必要があります。そのためには計算が必要となりますが、本講義ではなるべく計算を行わないで、各構造の特性や設計上の留意点を理解できるように配慮します。疑問や質問があれば、積極的に投げかけてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室			
備考	質問用のメールアドレスは講義時にお知らせします。 講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とすること			

科目名	住宅生産学	科目名 (英文)	Housing Construction Methods
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 文久
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR3043a0		

授業概要・目的	建築物がどのようにつくられているのかを学習する。授業では、地盤調査などの施工前の準備から工事、維持管理に至るまでの建築工事の過程を、工場や工事現場の実例を示しながら分かりやすく説明する。建築施工に関しては、構造規定や法令などの専門的な規定や取り決めが数多く存在するが、その背景や理由についてもできる限り詳細に解説する。																																																																		
到達目標	住宅をはじめとする建築物が、工場や工事現場でどのように作られているのかを理解できる。また、建築で使用する材料がどのように作られ、どのように供給されているのかを理解できる。構造規定や法令など、建築施工に関わる専門的な規定について理解できる。本講義を受ければ、二級建築士の学科試験レベルの知識を習得できる。																																																																		
授業方法と留意点	教科書を用いた講義中心の授業形式とし、授業時間内に質疑応答時間を設ける。毎回、レジュメプリントを配布し、授業の終わりに小テストを実施する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士 一級建築施工管理技士 技術士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス 住宅産業の歴史の変遷</td><td>講義全体の概要説明を行う。 日本と海外における住宅産業の歴史の変遷について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>工事契約 積算 施工計画と管理</td><td>建築工事全体の流れ、施工準備と施工計画について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>地盤調査 測量</td><td>建設地の地盤調査および測量について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>仮設工事 土工</td><td>仮設工事と土工について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>基礎工事</td><td>直接基礎や杭基礎工事について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>鉄筋コンクリート工事</td><td>鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>鉄骨工事</td><td>溶接接合、高力ボルト接合について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>コンクリートブロック工事 木工</td><td>コンクリートブロック工事、木造住宅の木工について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>外装工事</td><td>屋根工事、防水工事、タイル工事、塗装工事、ガラス工事について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>内装工事 設備工事</td><td>天井や壁などの内装工事、設備工事について講義する。</td><td>小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>維持管理 習得状況確認テスト</td><td>維持管理に関する講義と、講義後に習得状況確認テストを行う。</td><td>習得状況確認テストを行うので、事前に全講義の内容を復習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス 住宅産業の歴史の変遷	講義全体の概要説明を行う。 日本と海外における住宅産業の歴史の変遷について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	2	工事契約 積算 施工計画と管理	建築工事全体の流れ、施工準備と施工計画について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	3	地盤調査 測量	建設地の地盤調査および測量について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	4	仮設工事 土工	仮設工事と土工について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	5	基礎工事	直接基礎や杭基礎工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	7	鉄骨工事	溶接接合、高力ボルト接合について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	8	コンクリートブロック工事 木工	コンクリートブロック工事、木造住宅の木工について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	9	外装工事	屋根工事、防水工事、タイル工事、塗装工事、ガラス工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	10	内装工事 設備工事	天井や壁などの内装工事、設備工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。	11	維持管理 習得状況確認テスト	維持管理に関する講義と、講義後に習得状況確認テストを行う。	習得状況確認テストを行うので、事前に全講義の内容を復習しておくこと。	12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス 住宅産業の歴史の変遷	講義全体の概要説明を行う。 日本と海外における住宅産業の歴史の変遷について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
2	工事契約 積算 施工計画と管理	建築工事全体の流れ、施工準備と施工計画について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
3	地盤調査 測量	建設地の地盤調査および測量について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
4	仮設工事 土工	仮設工事と土工について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
5	基礎工事	直接基礎や杭基礎工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
6	鉄筋コンクリート工事	鉄筋工事、型枠工事、コンクリート工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
7	鉄骨工事	溶接接合、高力ボルト接合について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
8	コンクリートブロック工事 木工	コンクリートブロック工事、木造住宅の木工について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
9	外装工事	屋根工事、防水工事、タイル工事、塗装工事、ガラス工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
10	内装工事 設備工事	天井や壁などの内装工事、設備工事について講義する。	小テストの内容について、教科書を読んで復習すること。次回講義で答え合わせをします。																																																																
11	維持管理 習得状況確認テスト	維持管理に関する講義と、講義後に習得状況確認テストを行う。	習得状況確認テストを行うので、事前に全講義の内容を復習しておくこと。																																																																
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>図説 やさしい建築施工</td><td>松本進・臼井博史</td><td>学芸出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 やさしい建築施工	松本進・臼井博史	学芸出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	図説 やさしい建築施工	松本進・臼井博史	学芸出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	毎回授業の終わりに実施する「小テスト」30%、第11回授業で実施する「習得状況確認テスト」70%の割合で総合的に評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	教科書を用いた講義中心の授業ですが、工場や工事現場の実例を示しながら分かりやすく講義します。																																																																		
担当者の研究室等																																																																			
備考	講義に係る予習・復習は、毎回30分程度を目安とします。授業時間外での質問等についてはEメールで行います。																																																																		

科目名	住生活学	科目名 (英文)	Housing Lifestyle Theory
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山根 聡子
ディプロマポリシー(DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR1044a0		

授業概要・目的	住まいは私たちの暮らしや社会生活の基盤であることを踏まえ、住居の計画・設計の基盤になる考え方とその主要なポイントについて、文化、社会、歴史の文脈の中で理解する。さらに、住生活と住空間、また住環境との相互の対応関係について、その基本的構造を理解する。
到達目標	日本を中心に、様々な住宅の成り立ちやその基本的な特徴、住様式について理解をし、今後の住居デザインのあり方を考える力を養う。また、地球環境や住環境保全についての問題意識が高まる中、住宅計画や住宅管理の上でもどのような工夫がなされているかについても理解を深める。
授業方法と留意点	オンライン型授業とし、プリント資料とパワーポイントを用いた講義とする（資料は、オンラインで事前配布する）。授業の中ほどで中間テストを、最後の授業でまとめのテストを行う予定である。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士を受験するには、必要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業のガイダンス、日本の住まいの変遷（１）	住生活を学ぶ意義、原始時代から中世までの住まい	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	2	日本の住まいの変遷（２）	近世～近代の住まい	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	3	日本の住まいの変遷（３）	現代の住まい	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	4	世界の住まい	世界の多様な住まい	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	5	快適な室内環境（１）	熱・湿度・光	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	6	快適な室内環境（２）	音・空気・水	授業中に小テストを行う。中間テストに向けて、復習をしておくこと。
	7	前半講義のまとめと中間テスト	前半講義のまとめと中間テストを実施する	テストの復習を行なっておくこと。
	8	住まいと家族生活（１）	「家族」の変化と住まい	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	9	住まいと家族生活（２）	子どもの生活空間	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	10	住まいと家族生活（３）	高齢者の生活空間	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	11	住まいと社会（１）	日本の住宅事情と住環境	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	12	住まいと社会（２）	住まいの居住水準	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	13	住空間の形態と構成（１）	住まいと選択と管理	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	14	住空間の形態と構成（２）	空間の認識と構成	授業プリントを見直して、復習をしておくこと。授業の最後に小テストを行う。
	15	講義のまとめとテスト	講義のまとめとテストを実施する	これまでの講義内容を復習しておくこと。

実務経験	
関連科目	住環境管理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	住生活論	松井静子編著	建帛社
	2	住まい方から住空間をデザインする	林知子他	彰国社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	hiuv6og
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	チェックテスト30%、中間テスト30%（レポート形式）、まとめのテスト40%（記述式のテスト＋レポート形式）で、総合的に評価する。
学生へのメッセージ	住まいは私たちの生活を守り、次世代を育てる場であると同時に、社会とつながる基盤でもあります。授業を通じて、住まいの持つ様々な側面や問題に意識を持ってもらえればと思います。 授業開始後30分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。
担当者の研究室等	12号館7階 山根講師室
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。 中間テストは採点后、返却する。まとめのテストは返却しない。

科目名	住環境管理学	科目名 (英文)	Management of Residential Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	平田 陽子
ディプロマポリシー(DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2044a0		

授業概要・目的	住環境の空間スケールに対応させつつ、安全性・快適性・利便性などの観点から、住環境を維持管理するための計画技術、制度や維持管理の実態、またそこから導かれる課題について学ぶ。 住戸とその周りの空間の所有・利用をめぐる権利関係の調整方法や住環境の維持管理を担保するための計画課題、特にマンションや団地の再生を取り上げ、問題解決のための手法や計画技術などについての基礎的知識を習得することを目的とする。 また、技術者としてどのような視点で設計・施工を行えばよいのかの技術者倫理についても触れる。 SDGs-11																																																																		
到達目標	住戸とその周りの空間の所有・利用をめぐる法制度や維持管理の手法について、またマンションや団地の再生について問題解決のための計画技術などについての基礎的知識を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を用いた遠隔授業を基本とする。 オンライン型と教材・課題配置型をM I X した形を予定している。 ただ、授業の 8 回目（中間テスト）と 15 回目（まとめのテスト）は対面型で行う予定であるが、コロナ禍の状況によって変更の可能性がある。																																																																		
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士など																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>住環境管理の意味と課題</td><td>住宅の商品化と管理の変化、住環境の定義</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>共有空間を持つ住宅（1）</td><td>集合住宅の管理問題とコミュニティ</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>共有空間を持つ住宅（2）</td><td>タウンハウスの管理問題とコミュニティ</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>住まいの耐用性とメンテナンス（1）</td><td>建物の寿命、メンテナンスの意義、老朽化対策</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>住まいの耐用性とメンテナンス（2）</td><td>住宅の長寿化に伴う住宅改善、住まいの管理能力</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>居住地の管理（1）</td><td>居住地の構成と種類</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>居住地の管理（2）</td><td>地域環境の改善・まちづくりへの参加</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>これまでの講義のまとめと中間テスト</td><td>これまでの講義内容の復習と中間テストを実施する</td><td>中間テストの復習を行うこと。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>環境共生住宅</td><td>環境共生住宅の定義と要件、環境に資する意味</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>コレクティブハウス</td><td>コレクティブハウスの定義と環境に配慮した暮らし方</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>コーポラティブハウス</td><td>コーポラティブハウスの定義と建築計画、環境への配慮</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>公共住宅の維持管理と団地再生事業</td><td>大規模団地における事例から再生事業を考える</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>管理を支える法制度とマンパワー（1）</td><td>住環境を守る諸制度と管理を支える専門家</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>管理を支える法制度とマンパワー（2）</td><td>マンション管理をめぐる行政の取り組み</td><td>授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義のまとめとテスト</td><td>授業のまとめとテストを行う</td><td>まとめのテストに向けて、よく準備をしておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	住環境管理の意味と課題	住宅の商品化と管理の変化、住環境の定義	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	2	共有空間を持つ住宅（1）	集合住宅の管理問題とコミュニティ	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	3	共有空間を持つ住宅（2）	タウンハウスの管理問題とコミュニティ	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	4	住まいの耐用性とメンテナンス（1）	建物の寿命、メンテナンスの意義、老朽化対策	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	5	住まいの耐用性とメンテナンス（2）	住宅の長寿化に伴う住宅改善、住まいの管理能力	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	6	居住地の管理（1）	居住地の構成と種類	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	7	居住地の管理（2）	地域環境の改善・まちづくりへの参加	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。	8	これまでの講義のまとめと中間テスト	これまでの講義内容の復習と中間テストを実施する	中間テストの復習を行うこと。	9	環境共生住宅	環境共生住宅の定義と要件、環境に資する意味	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	10	コレクティブハウス	コレクティブハウスの定義と環境に配慮した暮らし方	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	11	コーポラティブハウス	コーポラティブハウスの定義と建築計画、環境への配慮	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	12	公共住宅の維持管理と団地再生事業	大規模団地における事例から再生事業を考える	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	13	管理を支える法制度とマンパワー（1）	住環境を守る諸制度と管理を支える専門家	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	14	管理を支える法制度とマンパワー（2）	マンション管理をめぐる行政の取り組み	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	15	講義のまとめとテスト	授業のまとめとテストを行う	まとめのテストに向けて、よく準備をしておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	住環境管理の意味と課題	住宅の商品化と管理の変化、住環境の定義	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
2	共有空間を持つ住宅（1）	集合住宅の管理問題とコミュニティ	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
3	共有空間を持つ住宅（2）	タウンハウスの管理問題とコミュニティ	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
4	住まいの耐用性とメンテナンス（1）	建物の寿命、メンテナンスの意義、老朽化対策	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
5	住まいの耐用性とメンテナンス（2）	住宅の長寿化に伴う住宅改善、住まいの管理能力	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
6	居住地の管理（1）	居住地の構成と種類	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
7	居住地の管理（2）	地域環境の改善・まちづくりへの参加	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。																																																																
8	これまでの講義のまとめと中間テスト	これまでの講義内容の復習と中間テストを実施する	中間テストの復習を行うこと。																																																																
9	環境共生住宅	環境共生住宅の定義と要件、環境に資する意味	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
10	コレクティブハウス	コレクティブハウスの定義と環境に配慮した暮らし方	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
11	コーポラティブハウス	コーポラティブハウスの定義と建築計画、環境への配慮	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
12	公共住宅の維持管理と団地再生事業	大規模団地における事例から再生事業を考える	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
13	管理を支える法制度とマンパワー（1）	住環境を守る諸制度と管理を支える専門家	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
14	管理を支える法制度とマンパワー（2）	マンション管理をめぐる行政の取り組み	授業資料を復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
15	講義のまとめとテスト	授業のまとめとテストを行う	まとめのテストに向けて、よく準備をしておくこと。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	住生活学、集合住宅管理学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																																																																		
Teams コード	zp21z8j																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法	チェックテスト 30%、中間テスト 30%、まとめの試験 40% で評価する。																																																																		

(基準)	
学生への メッセージ	共用空間を豊かに計画することで、住宅地や建築物の表情が変わります。さまざまな事例紹介をしたいと思いますので、休日などの現地見学に積極的に取り組んでください。 授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。
担当者の 研究室等	非常勤講師室 授業時間外の質問などは、下記アドレスにご連絡ください。 e-mail : y-hirata[at]edu.setsunan.ac.jp *[at] は@マークに替えてください。
備考	講義に係る予復習は、できる範囲で実施してください。

科目名	集合住宅管理学	科目名 (英文)	Management of Collective Housing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR3045a0		

授業概要・目的	住宅の中に占める集合住宅の割合は増加しており、徐々に経年化が進んだものも増えている。これらの集合住宅は重要な住宅ストックであり、適切に維持管理し、建物の資産価値とともに居住性を向上させることは、重要な課題である。集合住宅は、1棟丸ごと大家が所有している賃貸タイプと、各住戸を区分所有者が所有する分譲タイプがあるが、後者はその所有形態の複雑さから特別な管理方法が必要である。集合住宅の所有方法と管理方法、それを取り巻く法制度について学び、賃貸住宅と分譲住宅について比較しながら学ぶ。																																																																		
到達目標	集合住宅の建築物としての特徴を理解したうえで、管理についての建築的側面、法制度の面、生活上の工夫などの基礎的知識を身につける。																																																																		
授業方法と留意点	オンライン型授業とし、プリント資料とパワーポイントをを用いた講義とする（資料は、オンラインで事前配布する）。授業の中ほどで中間テストを、最後の授業でまとめのテストを行う予定である。																																																																		
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、マンション管理士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>授業のガイダンス、なぜ集合住宅管理を学ぶのか</td><td>日本における集合住宅の現状、集合住宅の管理を学ぶ意義</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>集合住宅とは何か</td><td>集合住宅の定義と歴史</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>分譲集合住宅の所有の仕組み</td><td>区分所有、区分所有法</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>分譲集合住宅管理と管理組合</td><td>管理組合、分譲会社の役割、管理組合の役割と管理システム</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>管理組合の運営（1）</td><td>分譲集合住宅における規約と集会</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>管理組合の運営（2）</td><td>理事会と理事、管理者</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>管理組合の運営（3）</td><td>管理会社、管理組合法人、管理費・修繕積立金</td><td>授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>これまでの講義のまとめと中間テスト</td><td>これまでの講義のまとめと中間テスト</td><td>中間テストの復習をすること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>分譲集合住宅の修繕、維持管理</td><td>計画修繕、大規模修繕の進め方</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>分譲集合住宅の建て替え</td><td>合意形成、マンション建て替え円滑化法</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>分譲集合住宅の生活管理</td><td>借家人の管理責任、分譲集合住宅におけるコミュニティ</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>分譲集合住宅をめぐる問題と行政の対応</td><td>マンション管理適正化法、管理標準指針、みらいネット</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>賃貸住宅の管理（1）</td><td>賃貸住宅の管理とは？</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>賃貸住宅の管理（2）</td><td>原状回復などのトラブルと解決方法</td><td>授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめの講義とテスト</td><td>まとめの講義とテスト</td><td>これまでの講義内容を復習しておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業のガイダンス、なぜ集合住宅管理を学ぶのか	日本における集合住宅の現状、集合住宅の管理を学ぶ意義	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	2	集合住宅とは何か	集合住宅の定義と歴史	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	3	分譲集合住宅の所有の仕組み	区分所有、区分所有法	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	4	分譲集合住宅管理と管理組合	管理組合、分譲会社の役割、管理組合の役割と管理システム	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	5	管理組合の運営（1）	分譲集合住宅における規約と集会	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	6	管理組合の運営（2）	理事会と理事、管理者	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	7	管理組合の運営（3）	管理会社、管理組合法人、管理費・修繕積立金	授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。	8	これまでの講義のまとめと中間テスト	これまでの講義のまとめと中間テスト	中間テストの復習をすること。	9	分譲集合住宅の修繕、維持管理	計画修繕、大規模修繕の進め方	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	10	分譲集合住宅の建て替え	合意形成、マンション建て替え円滑化法	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	11	分譲集合住宅の生活管理	借家人の管理責任、分譲集合住宅におけるコミュニティ	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	12	分譲集合住宅をめぐる問題と行政の対応	マンション管理適正化法、管理標準指針、みらいネット	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	13	賃貸住宅の管理（1）	賃貸住宅の管理とは？	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	14	賃貸住宅の管理（2）	原状回復などのトラブルと解決方法	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。	15	まとめの講義とテスト	まとめの講義とテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	授業のガイダンス、なぜ集合住宅管理を学ぶのか	日本における集合住宅の現状、集合住宅の管理を学ぶ意義	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
2	集合住宅とは何か	集合住宅の定義と歴史	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
3	分譲集合住宅の所有の仕組み	区分所有、区分所有法	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
4	分譲集合住宅管理と管理組合	管理組合、分譲会社の役割、管理組合の役割と管理システム	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
5	管理組合の運営（1）	分譲集合住宅における規約と集会	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
6	管理組合の運営（2）	理事会と理事、管理者	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
7	管理組合の運営（3）	管理会社、管理組合法人、管理費・修繕積立金	授業終了時にチェックテストを行う。中間テストの準備をしておくこと。																																																																
8	これまでの講義のまとめと中間テスト	これまでの講義のまとめと中間テスト	中間テストの復習をすること。																																																																
9	分譲集合住宅の修繕、維持管理	計画修繕、大規模修繕の進め方	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
10	分譲集合住宅の建て替え	合意形成、マンション建て替え円滑化法	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
11	分譲集合住宅の生活管理	借家人の管理責任、分譲集合住宅におけるコミュニティ	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
12	分譲集合住宅をめぐる問題と行政の対応	マンション管理適正化法、管理標準指針、みらいネット	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
13	賃貸住宅の管理（1）	賃貸住宅の管理とは？	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
14	賃貸住宅の管理（2）	原状回復などのトラブルと解決方法	授業プリントを復習しておくこと。授業終了時にチェックテストを行う。																																																																
15	まとめの講義とテスト	まとめの講義とテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	住生活学、住環境管理学、地域・都市計画学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	チェックテスト 20%、中間テスト 40%（レポート形式）、まとめのテスト 40%（記述式のテスト＋レポート形式）で、総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業のほかにも、身近にある集合住宅を見学したり、管理の実際の話聞くことで、集合住宅管理への関心が高まり、理解が深まると思います。 授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなしますので、注意してください。																																																																		
担当者の研究室等	1 2 号館 7 階 山根講師室																																																																		
備考	講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 中間テストは採点后、返却する。まとめのテストは返却しない。																																																																		

科目名	住居計画学	科目名 (英文)	Planning Theory of Dwelling Settlement
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2046a0		

授業概要・目的	住居には様々なタイプがあることを認識し、それぞれの住居タイプの成り立ちを理解して、幅広い視野から住居を見る眼と、社会の変化に対応する今後の住居計画のあり方について考える力を養う。特に実務的には住宅設計はクライアントの多様な生活形式に個別的に対応することが求められる。この点については担当教員の建築設計実務経験も踏まえて教授する。 SDGs-11																																																																		
到達目標	次にあげる項目を理解し、基礎的な住居の設計計画課題について論述ができるレベルを到達目標とする。 ・日本の住居計画の変遷と具体事例 ・人間工学的視点からの住居計画（バリアフリーなど） ・集合住宅および住宅地開発の計画手法 ・地域特性と住居計画 ・家族生活と住居タイプ																																																																		
授業方法と留意点	現代日本住居の変遷を概観したうえで、住宅近代化の過程、異なる地域の住居の比較、建築家による住宅、集合住宅などについて具体的事例を題材にして講述し、新しい都市居住に対応する住居のあり方について考究する。特に教科書は指定しないため、参考図書や配布プリントで紹介する書籍は出来るだけ目を通すなど、授業だけではなく周辺からも住居計画に関する基礎的知識を吸収することが必要である。																																																																		
科目学習の効果（資格）	一級建築士試験、二級建築士、木造建築士の計画出題範囲に含まれる部分がある。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>現代日本住居の系譜</td><td>住居のタイプとその変遷</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅰ</td><td>続き間型住宅、中廊下型住宅、居間中心型住宅</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅱ</td><td>LDK 型住宅、商品化住宅</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>現代住居の地域性</td><td>気候、文化の違いと住宅</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>建築家による住宅Ⅰ</td><td>住様式と平面構成の提案</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>建築家による住宅Ⅱ</td><td>都市化のなかでの提案</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>建築家による住宅Ⅲ</td><td>構法・空間構成の提案</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>集合住宅の変遷Ⅰ</td><td>近代的集合住宅の起源</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>集合住宅の変遷Ⅱ</td><td>郊外大規模団地</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>集合住宅の変遷Ⅲ</td><td>高層化・高密度化</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>集合住宅の変遷Ⅳ</td><td>多様性への対応</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>これからの家族と住居</td><td>家族生活と住居タイプ</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>これからの都市居住</td><td>住宅供給方式と住宅形式</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>住宅実例の見学</td><td>住宅の図面と実施事例</td><td>授業配布のプリントにある課題を行い、復習すること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>講義のまとめとテスト</td><td>これまでの講義内容を復習しておくこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	現代日本住居の系譜	住居のタイプとその変遷	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	2	都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅰ	続き間型住宅、中廊下型住宅、居間中心型住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	3	都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅱ	LDK 型住宅、商品化住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	4	現代住居の地域性	気候、文化の違いと住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	5	建築家による住宅Ⅰ	住様式と平面構成の提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	6	建築家による住宅Ⅱ	都市化のなかでの提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	7	建築家による住宅Ⅲ	構法・空間構成の提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	8	集合住宅の変遷Ⅰ	近代的集合住宅の起源	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	9	集合住宅の変遷Ⅱ	郊外大規模団地	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	10	集合住宅の変遷Ⅲ	高層化・高密度化	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	11	集合住宅の変遷Ⅳ	多様性への対応	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	12	これからの家族と住居	家族生活と住居タイプ	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	13	これからの都市居住	住宅供給方式と住宅形式	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。	14	住宅実例の見学	住宅の図面と実施事例	授業配布のプリントにある課題を行い、復習すること。	15	まとめ	講義のまとめとテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	現代日本住居の系譜	住居のタイプとその変遷	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
2	都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅰ	続き間型住宅、中廊下型住宅、居間中心型住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
3	都市住宅にみる住宅近代化の過程Ⅱ	LDK 型住宅、商品化住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
4	現代住居の地域性	気候、文化の違いと住宅	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
5	建築家による住宅Ⅰ	住様式と平面構成の提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
6	建築家による住宅Ⅱ	都市化のなかでの提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
7	建築家による住宅Ⅲ	構法・空間構成の提案	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
8	集合住宅の変遷Ⅰ	近代的集合住宅の起源	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
9	集合住宅の変遷Ⅱ	郊外大規模団地	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
10	集合住宅の変遷Ⅲ	高層化・高密度化	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
11	集合住宅の変遷Ⅳ	多様性への対応	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
12	これからの家族と住居	家族生活と住居タイプ	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
13	これからの都市居住	住宅供給方式と住宅形式	授業配布のプリントにある課題を行い、復習するとともに次回授業の内容事前確認と論考ポイントについて予習すること。																																																																
14	住宅実例の見学	住宅の図面と実施事例	授業配布のプリントにある課題を行い、復習すること。																																																																
15	まとめ	講義のまとめとテスト	これまでの講義内容を復習しておくこと																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	住生活学、建築計画学、設計演習Ⅲなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>眼を養い手を練れ〈2〉集まって住もう</td><td>居住空間デザイン講師室</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾</td><td>宮脇塾講師室</td><td>彰国社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	眼を養い手を練れ〈2〉集まって住もう	居住空間デザイン講師室	彰国社	2	眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾	宮脇塾講師室	彰国社																																																				
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	眼を養い手を練れ〈2〉集まって住もう	居住空間デザイン講師室	彰国社																																																																
2	眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾	宮脇塾講師室	彰国社																																																																

	3	住まいを読む—現代日本住居論	鈴木成文	建築資料研究社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業期間内のレポート等 20%、テスト 80%			
学生への メッセージ	住居は誰でも体験している建物であるがゆえに体験による狭い固定観念に縛られやすい。より幅広い視野で住居計画を考えられるように、学習に取り組んでほしい。			
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 稲地准教授室			
備考	・講義に関連したレポート課題を課す。具体的指示は講義中に示す。 ・講義に関連したレポート課題等は、理解を深められるよう授業内で紹介・解説する。 ・住宅の実践事例の見学や本授業科目に関係の深い学外講師によるレクチャーを行う場合がある。 ・講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度、15 回では計 60 時間程度を行うことが望まれる。			

科目名	建築計画学	科目名 (英文)	Architectural Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久富 敏明
ディプロマポリシー(DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2047a0		

授業概要・目的	建築計画の基礎的な知識と応用力の修得を目的とする。建築設計製図演習と本科目の講義内容を関連付けることが出来るように授業を進行する。建築計画および設計についての知識と技能と合わせて住環境デザインの考え方を修得する。																																																																		
到達目標	建築計画の基本的知識として単位空間を理解し、専門用語を習得する。その上で、教育施設、図書館、美術館、劇場など主要なビルディングタイプに関する建築計画と設計について理解し、問題解決への応用力を習得する。併せて現代社会の要求とそれを解決する手法をも習得する。																																																																		
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行う。授業方法は、ICT ツール、または、プロジェクター、板書を利用する。教科書、配布済プリントは必ず持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	1 級建築士、2 級建築士、木造建築士の資格試験に関連する内容																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>建築計画の基本 I</td><td>講義全体の概説、建築計画の基礎知識</td><td>事前に教科書 P. 7 から P. 14 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>建築計画の基本 II</td><td>建築の各部および単位空間の計画</td><td>事前に教科書 P15 から P. 22 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>各種建築物の計画 I</td><td>小学校の計画</td><td>事前に教科書 P. 53 から P. 64 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>各種建築物の計画 II</td><td>幼稚園・保育所の計画</td><td>事前に教科書 P. 65 から P. 72 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>各種建築物の計画 III</td><td>図書館の計画</td><td>事前に教科書 P. 73 から P. 86 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>各種建築物の計画 IV</td><td>美術館の計画</td><td>事前に教科書 P. 87 から P. 98 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>各種建築物の計画 V</td><td>劇場の計画</td><td>事前に教科書 P. 99 から P. 108 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>各種建築物の計画 VI</td><td>事務所の計画</td><td>事前に教科書 P. 109 から P. 116 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>各種建築物の計画 VII</td><td>ホテルの計画</td><td>事前に教科書 P. 117 から P. 124 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>各種建築物の計画 VIII</td><td>病院・診療所の計画</td><td>事前に教科書 P. 125 から P. 132 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>各種建築物の計画 IX</td><td>商業建築の計画</td><td>事前に教科書 P. 133 から P. 140 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>各種建築物の計画 X</td><td>各種建築物 (コミュニティ施設、駐車駐輪施設、など) の計画</td><td>事前に教科書 P. 141 から P. 152 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>人と地球にやさしい建築計画 I</td><td>高齢者・障害者に配慮した建築計画</td><td>事前に教科書 P. 153 から P. 164 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>人と地球にやさしい建築計画 II</td><td>地球環境に配慮した建築計画</td><td>事前に教科書 P. 165 から P. 174 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>人と地球にやさしい建築計画 III</td><td>建築計画の今後 (複合建築、災害復興、など)</td><td>事前に教科書 P. 175 から P. 184 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	建築計画の基本 I	講義全体の概説、建築計画の基礎知識	事前に教科書 P. 7 から P. 14 を読み、要点を理解する (1 時間)	2	建築計画の基本 II	建築の各部および単位空間の計画	事前に教科書 P15 から P. 22 を読み、要点を理解する (1 時間)	3	各種建築物の計画 I	小学校の計画	事前に教科書 P. 53 から P. 64 を読み、要点を理解する (1 時間)	4	各種建築物の計画 II	幼稚園・保育所の計画	事前に教科書 P. 65 から P. 72 を読み、要点を理解する (1 時間)	5	各種建築物の計画 III	図書館の計画	事前に教科書 P. 73 から P. 86 を読み、要点を理解する (1 時間)	6	各種建築物の計画 IV	美術館の計画	事前に教科書 P. 87 から P. 98 を読み、要点を理解する (1 時間)	7	各種建築物の計画 V	劇場の計画	事前に教科書 P. 99 から P. 108 を読み、要点を理解する (1 時間)	8	各種建築物の計画 VI	事務所の計画	事前に教科書 P. 109 から P. 116 を読み、要点を理解する (1 時間)	9	各種建築物の計画 VII	ホテルの計画	事前に教科書 P. 117 から P. 124 を読み、要点を理解する (1 時間)	10	各種建築物の計画 VIII	病院・診療所の計画	事前に教科書 P. 125 から P. 132 を読み、要点を理解する (1 時間)	11	各種建築物の計画 IX	商業建築の計画	事前に教科書 P. 133 から P. 140 を読み、要点を理解する (1 時間)	12	各種建築物の計画 X	各種建築物 (コミュニティ施設、駐車駐輪施設、など) の計画	事前に教科書 P. 141 から P. 152 を読み、要点を理解する (1 時間)	13	人と地球にやさしい建築計画 I	高齢者・障害者に配慮した建築計画	事前に教科書 P. 153 から P. 164 を読み、要点を理解する (1 時間)	14	人と地球にやさしい建築計画 II	地球環境に配慮した建築計画	事前に教科書 P. 165 から P. 174 を読み、要点を理解する (1 時間)	15	人と地球にやさしい建築計画 III	建築計画の今後 (複合建築、災害復興、など)	事前に教科書 P. 175 から P. 184 を読み、要点を理解する (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	建築計画の基本 I	講義全体の概説、建築計画の基礎知識	事前に教科書 P. 7 から P. 14 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
2	建築計画の基本 II	建築の各部および単位空間の計画	事前に教科書 P15 から P. 22 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
3	各種建築物の計画 I	小学校の計画	事前に教科書 P. 53 から P. 64 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
4	各種建築物の計画 II	幼稚園・保育所の計画	事前に教科書 P. 65 から P. 72 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
5	各種建築物の計画 III	図書館の計画	事前に教科書 P. 73 から P. 86 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
6	各種建築物の計画 IV	美術館の計画	事前に教科書 P. 87 から P. 98 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
7	各種建築物の計画 V	劇場の計画	事前に教科書 P. 99 から P. 108 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
8	各種建築物の計画 VI	事務所の計画	事前に教科書 P. 109 から P. 116 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
9	各種建築物の計画 VII	ホテルの計画	事前に教科書 P. 117 から P. 124 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
10	各種建築物の計画 VIII	病院・診療所の計画	事前に教科書 P. 125 から P. 132 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
11	各種建築物の計画 IX	商業建築の計画	事前に教科書 P. 133 から P. 140 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
12	各種建築物の計画 X	各種建築物 (コミュニティ施設、駐車駐輪施設、など) の計画	事前に教科書 P. 141 から P. 152 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
13	人と地球にやさしい建築計画 I	高齢者・障害者に配慮した建築計画	事前に教科書 P. 153 から P. 164 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
14	人と地球にやさしい建築計画 II	地球環境に配慮した建築計画	事前に教科書 P. 165 から P. 174 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
15	人と地球にやさしい建築計画 III	建築計画の今後 (複合建築、災害復興、など)	事前に教科書 P. 175 から P. 184 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	設計演習 (II、III、IV)、住居計画学、建築空間論、建築法規																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>改訂版 図説 やさしい建築計画</td><td>深水浩</td><td>学芸出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	改訂版 図説 やさしい建築計画	深水浩	学芸出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	改訂版 図説 やさしい建築計画	深水浩	学芸出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 3 版 コンパクト建築設計資料集成</td><td>日本建築学会</td><td>丸善</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第 3 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	第 3 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」／Moodle																																																																		
Teams コード	h3kx98a																																																																		
Moodle コース名および登録キー	hisatomi																																																																		
連絡手段	学内メール、及び Teams のチャット																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	講義時間内に行なう修得理解度テスト、もしくは修得理解度レポート (各回 20 点／計 5 回実施) 100%。日時は事前告知せず、授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施し解説する。なお期末試験は実施しない。																																																																		
学生へのメッセージ	本講義で習得した知識を設計演習科目に関連させること。授業開始後 10 分以降の入室は欠席とみなす。																																																																		
担当者の研究室等	12 号館 7 階 久富教室																																																																		
備考	5 回の修得理解度テスト、もしくは修得理解度レポートの解説を次の授業で実施し理解を深める。 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。 予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約 1 時間 30 分間程度とする。																																																																		

科目名	地域・都市計画学	科目名 (英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー(DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR3046a0		

授業概要・目的	日本の都市計画で策定される諸要素(土地利用、交通施設、公園緑地、生活施設)、市街地整備事業について、それぞれ策定する意義と制度の内容について講義する。また、近隣住区理論、地区計画といった住環境を計画する上での計画論、制度を取り上げ解説する。 SDGs-11, 15
到達目標	○都市計画の様々な分野の計画の基本的理論・事項を理解することができる。 ○地域計画を検討する上での姿勢、必要な要素を身につけることができる。
授業方法と留意点	○講義を中心とした授業ですが、ICTツールを活用します。各回における重要事項については、演習・レポートを課します。 ○特定の教科書は指定せず、毎回の内容に該当する資料を配付します。
科目学習の効果(資格)	一級建築士・二級建築士・木造建築士など。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 地域・都市計画とは何か	講義の方針、概要、スケジュール及び地域・都市計画で検討される諸要素を概説する。	シラバスを読んでおくこと。 配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
2	近代都市計画の系譜	近代都市(住宅地)計画の成立過程について、英国と日本の事例を通して解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
3	土地利用計画 1 都市計画区域・区域区分	都市計画における土地利用の意味と都市計画区域、区域区分について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと 配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
4	土地利用計画 2 地域地区制・用途地域	土地利用計画の根幹をなす「地域地区制」と「用途地域」について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
5	土地利用計画 3 建築の形態規制	建築物の形態規制(主に斜線規制)とその緩和措置(公開空地他)について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
6	近隣住区理論	住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
7	都市交通計画 1 都市における交通とその特性	都市における交通の特性、都市交通を把握する調査、公共輸送について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
8	都市交通計画 2 都市内街路計画	都市内街路の機能と道路ネットワークの基本的な考え方について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
9	都市交通計画 3 歩車共存の空間システム	歩行者・自動車の交通空間システム及び歩車共存道路について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
10	生活施設の機能と配置	都市・住宅地の生活施設の種類・内容と配置の考え方を、視聴覚資料を用いて解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
11	公園緑地計画 1 都市における公園・緑地の機能	都市における公園・緑地の機能と住区基幹公園(街区・近隣公園)について解説する。	前回配付資料を読んでおくこと。 配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
12	公園緑地計画 2 都市公園の配置システム	地区公園、都市基幹公園の内容及び都市における公園配置の基本的な考え方について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
13	市街地整備事業 1 土地区画整理事業の仕組み	日本の市街地整備事業の概要と種類、土地区画整理事業の目的と特性、事業上の考慮事項を解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
14	市街地整備事業 2 土地区画整理事業の課題 市街地再開発事業	土地区画整理事業の有する課題、及び市街地再開発の目的、事業上の特性について解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。
15	地区計画制度とその活用	地区住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用法を解説する。	前回の要点の確認を行うことがある。配付資料の要点(要記入部分)を復習しておくこと。

実務経験	
関連科目	一級建築士などの資格試験に出題される範囲が一部含まれている。授業としては建築計画学や住居計画学や建築法規が関連している。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市計画 シリーズ〈建築工学〉7	荻島哲編著	朝倉書店
	2	新・都市計画概論 改訂2版	加藤晃・竹内 伝史	共立出版社
	3	都市計画とまちづくりがわかる本 第二版	伊藤雅春・小林郁雄他	彰国社

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	最終課題・レポート (50%)，講義内の課題・小テスト・レポート(50%)で評価する。
学生への メッセージ	都市計画・地域計画の専門的講義になりますので，理解のできない点等は授業中及び時間外に積極的に質問するようにして下さい。
担当者の 研究室等	12号館6階 坂本教授室
備考	事前事後学習時間は、各回平均1.5時間以上とすること。 小テスト，レポートについて翌週に解答例の提示，解説を行います。

科目名	近代デザイン史	科目名 (英文)	History of Modern Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	川勝 真一
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2047a0		

授業概要・目的	近代デザインの歴史的展開を各時代を代表する展覧会を読み取りながら、社会背景や同時代の芸術運動などと合わせて実体的に理解する。
到達目標	近代デザインの歴史について、教師や友人と十分語り合えるようになる。現代デザインについての主体的な興味を育む。
授業方法と留意点	関連作品の静止画や動画の資料を活用しつつ、講義形式による授業を行う。近代デザインに関する本を読み、基礎知識を備えて授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	近代デザインの歴史を実際の作品や運動を通じて理解し、実践にも役立つ知識と思考力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	近代デザインのアウトライン	授業の見取り図となるように、19 世紀後半から現在にいたる近代デザインの歴史を概観します。	20 世紀の歴史の流れを復習しておく。
	2	産業革命後の社会とデザイン：「ロンドン万博」(1851)	1851 年に開催されたロンドン万博を起点に、その後のウィリアム・モリスらのデザイン運動を迎えることで、近代デザインが誕生する流れを理解します。	ウィリアム・モリスやアーツ・アンド・クラフツ運動について参考書・関連図書などで予習しておく。
	3	伝統からの分離：「ウィーン分離派展」(1898)	旧態依然とした芸術・デザインの状況から袂をわかし新しいデザインの可能性を模索したウィーン分離派を中心に、アール・ヌーボーやユエグントシュティールなど同時代的な有機的デザインに迫ります。	ウィーン分離派、アール・ヌーボーについて参考書・関連図書などで予習しておく。
	4	工業化社会の造形理念：「ドイツ工作連盟展」(1914)	1910 年代?20 年代のドイツに着目し、工業化社会にふさわしい合理主義や機能主義のデザインが生まれていく背景を探ります。アーツアンドクラフツに影響を受けたドイツ工作連盟やバウハウスに着目します。	ドイツ工作連盟、バウハウスについて参考書・関連図書などで予習しておく。
	5	アヴァンギャルドの時代：「0,10」(1915)	ロシア・アヴァンギャルドから未来派、デ・スティールといった前衛的な芸術・デザイン運動に着目し、各地域でどのように前衛が生まれ、ネットワークが形成されていったかを明らかにします。	ロシア・アヴァンギャルド、デ・スティールについて関連図書などで予習しておく。
	6	装飾の復権：「近代装飾美術・産業美術展覧会」(1925)	新しい造形意識が生まれる一方で、1925 年にパリで開催された「近代装飾美術・産業美術展覧会」では、幾何学をベースとした新しい装飾表現が花開き、世界的に流行する。その成立の背景と展開を論じます。	アール・デコについて関連図書などで予習しておく。
	7	モダニズムの成立：「ヴァイゼンホフ・ジートルング」(1927)、「ストックホルム展」(1930)、「Modern Architecture」(1932)	インターナショナルスタイルへとつながるモダニズムがどのように拡散していったのか、その過程で何が起こったかを 1920 年代後半から各地で行われた展覧会から読み解いていきます。	インターナショナルスタイル、日本のモダニズム建築について関連図書などで予習しておく。
	8	新しい生活と商業デザイン：「Good Design」(1950~1955)、「20 世紀のデザイン展：ヨーロッパとアメリカ」(1957)、「This is tomorrow」(1956)	戦後の高度成長の中で躍進したインダストリアルデザインと日本への需要に着目します。とくに現在のグッド・デザインにつながる MOMA(ニューヨーク近代美術館)の展覧会、そしてイギリスにおけるポップアートの建築への影響を探ります。	グッドデザインについて関連図書などで予習しておく。
	9	カウンターとしてのデザイン：「Living City」(1963)、「建築家なしの建築」(1964)	社会全体で近代社会に対する異議申し立てが行われた時代。デザイン分野で展開したモダニズムへのカウンターの動向を探ります。	建築家なしの建築、アーキグラムについて関連図書などで予習しておく。
	10	前衛の終焉：「大阪万博」(1970)	1970 年に大阪で開催された日本万国博覧会は強烈な未来のイメージを提示すると同時に、環境問題や経済の停滞によってその実現不可能性が明らかにされました。挫折しつつも現代に続く 70 年代のデザインの可能性を検証します。	大阪万博について関連図書などで予習しておく。
	11	ラディカリズムのアンチ・デザイン：「ITALY : NEW DOMESTIC LANDSCAPE」(1972)、「MAN transFORM」(1976)	60 年代からイタリアや東欧で生まれたラディカリズムは、モノとしてのデザインを否定し、デザインの領域を拡張しました。その背景となった社会や思想、現代へ続く影響について論じます。	ラディカリズムについて関連図書などで予習しておく。
	12	ポストモダニズムの多義性：「The 1980 Venice Architecture Biennale」(1980)	モダニズムが否定した歴史性や地域性の復権を目指して世界的に展開したポストモダニズムについて考察します。1980 年に開催されたベニス建築ビエンナーレに着目し、その多義的な様相に迫ります。	ポストモダニズムの建築・デザインについて関連図書などで予習しておく。
	13	デコンの氾濫：哲学者ジャック・デリダの脱構築主義を	哲学者ジャック・デリダの脱構築主義を	80 年代後半からの建築デザインについて関連図書

		「 Deconstructivist Architecture」(1988)、「花と緑の博覧会」(1990)	援用して名付けられたデコン建築と、現代の都市と建築の関係について論じます。	などで予習しておく。
	14	ジェネリックとユニバーサル:「Mutant Materials in Contemporary Design」(1995)、「Light Construction」(1995)	90年代以降のデザインの展開を1995年に焦点当てて、社会の変化とともに検証します。	ユニバーサルデザインについて調べておく。
	15	拡張するデザイン	2000年以降、デザインの対象はこれまで以上に拡張しています。そうした現代特有のデザインの課題について考えます。	環境デザイン、フード・デザインなど、様々な「デザイン」について調べておく。
実務経験				
関連科目	各建築史、インテリアデザイン論、インテリアデザイン演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	近代デザインの美学	高安 啓介	みずす書房
	2	世界デザイン史	阿部公正 (監修)	美術出版社
	3	デザイン史を学ぶクリティカル・ワークス	高島直之 (監修)	フィルムアート社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業毎の小テスト(50%)、最終レポート(50%)で総合評価する。			
学生への メッセージ	生活・環境・産業といった様々な側面で、デザインは私たちの生活の重要な部分を形づくっている。そのようなデザイン思想と実践の歴史に興味のある学生を歓迎します。			
担当者の 研究室等	12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室			
備考	講義の予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする			

科目名	日本建築史	科目名 (英文)	Japanese Architectural History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	砂本 文彦
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2048a0		

授業概要・目的	現在及び将来の住文化を考えるためには、その背景にある建築と都市の歴史に対する理解が不可欠です。この講義では、わが国における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指します。建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となります。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合もあります。講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要です。
到達目標	グローバル化が進行する現代社会にあつては、外国の建物に精通しているだけでなく、むしろ日本建築の特徴や歴史を踏まえて、世界の人々とコミュニケーションができる建築専門家が求められます。社会に出るとたいへん多忙になるので、学生時代の今、しかも京都、奈良、大阪、兵庫、滋賀など、日本の国宝、世界遺産が集中している摂南大学の地の利を生かして、教科書に載っている有名な建築をその目で確かめて下さい。
授業方法と留意点	講義は、指定教科書と補足資料を配布し、視覚的な把握を目指します。さらに、現存する建物や町並みを見学し、実物の空間体験を通じて理解を深めます。現地見学の交通費や入館料は受講者の負担になります。教科書の『図説日本住宅の歴史』は各自で購入し、授業に持参してください。
科目学習の効果 (資格)	1 級建築士・2 級建築士の資格取得試験の基礎問題に出題される。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	古代の建築 1	先史時代の住居である、竪穴住居と高床住居、平地住居を比較しながら、その暮らしと形態の推定について学ぶ。	縄文集落や弥生集落の遺跡に見学に行ってください。住まい方と形態に想像をめぐらしましょう。
	2	古代の建築 2	神社建築について、神社の様式と、伊勢神宮と出雲大社について学ぶ。	神社に行つて、本殿の建物を見学してください。流造 (ながれづくり) や春日造 (かすがづくり) などの神社建築の様式を確認しましょう。
	3	古代の建築 3	仏教建築の伝来について学ぶ。法隆寺などの多くの寺院の建築と伽藍配置を知る。また、古代の都城である平城京や平安京などについて学ぶ。	奈良の寺院や大阪の四天王寺などを見学してください。金堂や塔などをよく見学し、建物の配置の違いも理解してください。また、復元についても留意してください。
	4	支配階層の住宅 1	寝殿造とその建築的特徴、しつらいによる空間の利用方法について学ぶ。	平安時代の貴族の住まいについて関心を持ってください。時代劇ドラマなどを観ることも有効です。
	5	支配階層の住宅 2	主殿造から書院造の成立について学ぶ。	京都などにある書院造の部屋のある建築物を見学に行ってください。座敷飾りについて理解しましょう。
	6	中世の建築	大仏様、禅宗様、和様、折衷様のちがいとその寺院建築について学ぶ。	奈良や京都にある寺院を見学に行ってください。柱や梁、組み物などに注目してみましょう。
	7	近世の都市と城郭	城と郭、書院、城郭都市について、安土城、大坂城、二条城などを通して学ぶ。	城のある街にて城郭建築を見学してください。建物だけではなく、郭にも着目してみましょう。
	8	近世の建築 1	武士の住宅の変遷と特徴について学ぶ。	各地に残る武家屋敷を見学してください。
	9	近世の建築 2	民家の地方性が風土と生業の関係からよくあらわれる農家の特徴について学ぶ。	各地に残る農家を見学してください。
	10	近世の建築 3	江戸・大坂の街のすまいと町家の住まい方について学ぶ。	関西の町並み保存地区を見学してください (奈良今井町、大坂富田林など)。
	11	日本建築史にかかる現地見学	近世や近代の建築物に関する現地見学を行ない、実物に即した理解を深める。	見学する建築物について調べるとともに、その時代の様式や建築物の立つ地域の地域性について学習してください。
	12	近代の建築 1	明治維新後の武家屋敷と俸給者の住宅について学ぶ。また、和洋併立住宅、和洋折衷住宅など、洋風化の展開も学ぶ。	神戸北野地区の西洋館を見学しましょう。
	13	近代の建築 2	サラリーマンの住宅と集合住宅について、生活の洋風化と和式生活の残存を考慮しつつ学ぶ。また、郊外住宅地開発と住宅の専用住宅化についても学ぶ。	大正から昭和初期の生活を記した小説などを読んでみましょう。
	14	近代の建築 3	西洋建築の導入と展開について学ぶ。擬洋風建築の派生と様式建築の展開について学ぶ。	様式建築 (神戸居留地、大阪市中央図書館、公会堂、日本銀行大阪支店、泉布観など) を見学しましょう。
	15	まとめ	日本建築史の講義のまとめを行う	これまで学んだことの視点と内容を理解しておきましょう。

実務経験	
関連科目	近代デザイン史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説日本住宅の歴史	平井聖	学芸出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本建築史図集	日本建築学会	彰国社
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」／Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	chdv3oy
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	f-sunamoto@yg.kobe-wu.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中に行うレポート(100%)で評価します。
学生への メッセージ	講義で取り上げられた建物は、休日や旅行の時に、現地で実物を見学するようにしてください。
担当者の 研究室等	12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 またはメール f-sunamoto@yg.kobe-wu.ac.jp まで。

科目名	西洋建築史	科目名（英文）	History of European Architecture
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 正子
ディプロマポリシー(DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2049a0		

授業概要・目的	歴史的な作品にはさまざまな解釈の余地があるため、建築家は過去の作品を研究するのです。本科目では、近代の巨匠と呼ばれるル・コルビュジエをはじめ多くの建築家が、歴史から学び、知識と創意によって歴史を解釈し自分自身のデザインに生かしていく手法を、古代から近代に到るまでのさまざまな西洋建築の様式に見ていきます。同時に時代・社会の産物である建築物に表れる様式への理解と過去の時代を読み解いていくことで建築の本質に触れてください。
到達目標	建築において歴史は過去のものではなく生きた存在であることを認識するとともに建築設計においても歴史を学ぶことがいかに重要であることを知る。現代建築も過去の作品の多角的な解釈の上に展開していることを学び、建築史が建築家にとってより身近な存在であることを再確認しましょう。
授業方法と留意点	配信資料によって、近現代建築に生きている建築史をテーマに、各回、近現代建築と歴史様式との関係を見ていきます。Teams を利用した遠隔授業となり、主として毎回提示された時代様式に関する資料を読み、出題された課題を期日までに提出していただくという方法で行います。毎回の課題提出が対面授業での出席と同等とみなします。
科目学習の効果（資格）	建築史を学んだからといって、目に見える効果が即現れることはありませんが、歴史的解釈がデザインのヒントやアイデアに繋がることを意識して学んでください。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	建築の歴史を学ぶということは	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	2	古代ー1	古代エジプト建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	3	古代ー2	古代ギリシア建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	4	古代ー3	古代ローマ建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	5	中世ー1	ロマネスク建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	6	中世ー2	ゴシック建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	7	近世ー1	ルネサンス建築-1	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	8	近世ー2	ルネサンス建築-2	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	9	近世ー3	バロック建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	10	近世ー4	新古典主義建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	11	近世ー5	ゴシック・リヴァイヴァル	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	12	近世ー6	歴史主義建築	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	13	住居史? 1	西洋の住まいの歴史? 1	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	14	住居史? 2	西洋の住まいの歴史? 2	資料内容を理解するとともに建築史の流れの関係性に関心をもつこと。
	15	まとめ	様式とは?	全回の資料内容の復習をすること。

実務経験	
関連科目	近代デザイン論、各設計演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	jb9f3r3
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メールが取得可能ならば学内メールで。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	テストに代わる最終レポート課題（80%）及び遠隔授業で提出された課題（20%）によって評価します。
学生へのメッセージ	現代建築も過去の作品の多角的な解釈の上に展開しているからこそ歴史を学ぶ意義があります。建築設計においても歴史を学ぶことがいかに重要であることを知ってください。
担当者の研究室等	資料内容や課題に関する質問等についてはメールで受け付け、回答します。
備考	資料内容の理解および遠隔授業の受講を確認するために、毎回、資料内容に関する設問に答えるという課題提出をしていただきます。

	西洋建築史という歴史の流れを通して建築を理解するため、前の時代様式を把握した上で次回の受講が望ましいので、資料内容の理解および課題作成のために毎回3時間程度の学習を行いましょう。
--	---

科目名	インテリアデザイン論	科目名 (英文)	Theory of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2050a0		

授業概要・目的	インテリアと建築を切り離して考えるのではなく、住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉える。多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのような空間デザインがありうるかを提案するための基礎知識を獲得することを目指す。SDGs-11				
到達目標	生活文化・住環境デザインに関連する基礎的技術の修得・活用できる				
授業方法と留意点	毎回、スライドおよび動画を用いて、講義する。また①本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、②不正行為防止対策としての技術者倫理についてインテリアデザイン論に関連する内容の解説を行う。				
科目学習の効果（資格）	インテリアコーディネーター　2級建築士　1級建築士　福祉住環境コーディネーター　商業施設士				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法　等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス	インテリアデザイン論の概要	さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		2	インテリアエレメントについて	インテリアエレメントの概要	さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		3	インテリアエレメント　床・壁・天井	インテリアエレメント　床・壁・天井について、プリント、映像によって講義	さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		4	インテリアエレメント　開口部・巾木・回り縁・階段	インテリアエレメント　開口部・巾木・回り縁・階段について、プリント、映像によって講義	さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		5	インテリアエレメント　家具	インテリアエレメント　家具について、プリント、映像によって講義	さまざまな家具に座ることと記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		6	インテリアエレメント　照明	インテリアエレメント　照明について、プリント、映像によって講義	さまざまな照明空間を体験することと記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		7	現代のインテリア・建築デザイン　海外のデザイナー	海外のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 エッソー・ソットサス・Jr、コンスタンチン・グルッチッチなど	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		8	現代のインテリア・建築デザイン　日本のデザイナー	日本のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 倉俣史郎、吉岡徳仁など	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ、実測） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		9	近代のインテリア・建築デザイン　海外のデザイナー　西欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 シャルロット・ペリアン、トーマス・ヘリット・リートフェルト、アイリーン・グレイなど	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		10	現代までのインテリア・建築デザイン　海外のデザイナー　北欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 アルヴァ・アアルト、アルネ・ヤコブセン、ハンス・J・ヴェグナーなど	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		11	現代までのインテリア・建築デザイン　日本のデザイナー	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 柳宗理、剣持勇、イサム・ノグチなど	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		12	インテリア計画とデザインのプロセス	インテリア計画とデザインのプロセスについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		13	インテリア計画と工法のプロセス	インテリア計画と工法のプロセスについて、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		14	インテリア・建築デザインと表現方法	インテリア・建築デザインと表現方法について、プリント、映像によって講義	さまざまな文献調査と記録（スケッチ、メモ） 授業内で分からなかった言葉を調べる
		15	まとめと試験	これまでの講義のまとめと試験	授業内容をよく復習しておくこと 授業内で分からなかった言葉を調べる
実務経験					
関連科目	インテリアデザイン演習　設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ　近代デザイン史　建築空間論				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
授業形態	Teams「オンライン型」				
Teams　コード	6mbj2v0				
Moodle　コース名および登録キー					
連絡手段	学内メール				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。				

	メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業内の講義メモなど提出物 30% 試験 70%
学生への メッセージ	インテリアデザインに関する基礎知識を獲得する最良の方法は、実際の空間デザインを体験しておくことです。日頃から、商業施設、公共施設、住宅など、自発的にさまざまな空間の体験を心がけてください。
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 川上教授室
備考	展覧会やインテリアデザインの実物を見学することがある インテリアデザイン、空間デザイン業界から専門家を招くことがある 講義に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする

科目名	建築空間論	科目名 (英文)	Theory of Architectural Space
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久富 敏明
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR1053a0		

授業概要・目的	住環境の形成が深く生活文化に根ざしたものであり、建築設計が身体スケールに対する理解を元に、家具デザイン、インテリアデザインからまちづくり、都市計画、ランドスケープデザインにいたる総合的な創作活動であることを理解する。																																																																		
到達目標	建築入門講座として、専門用語を習得する。住環境デザインに関連する知識を元に、応用する能力と設計能力を習得する。																																																																		
授業方法と留意点	教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェックを行う。授業方法は、ICT ツール、または、プロジェクター、板書を利用する。教科書、配布済プリントは必ず持参すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	1 級建築士、2 級建築士、木造建築士の資格試験に関連する内容																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション 自然発生的建築から学ぶもの生活環境形成としての建築的思考</td><td>講義の進め方、環境と設計から見るデザインの考え方、他</td><td>事前に教科書 P.1 から P.8 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>2</td><td>自然発生的建築の多様性生活文化が生み出す住環境デザイン I</td><td>精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他</td><td>事前に教科書 P.8 から P.28 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>3</td><td>自然発生的建築の多義性生活文化が生み出す住環境デザイン II</td><td>集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態倉に貯蔵される記憶</td><td>事前に教科書 P.8 から P.28 を再読し、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>4</td><td>空間の構成要素 素材の解説 I</td><td>近代建築のつくり方 鉄・ガラス・コンクリート</td><td>事前に教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>5</td><td>空間の構成要素 素材の解説 II</td><td>空間の構成要素 皮膜・インテリア・家具</td><td>事前に教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日本の歴史的木造建築空間概説 I</td><td>時間軸から見た素材、構法</td><td>事前に教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本の歴史的木造建築空間概説 II</td><td>日本の伝統的建築物に見られる空間性</td><td>事前に教科書 P.49 から P.68 を再読し、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>8</td><td>空間と架構デザイン I</td><td>重力・水平力について</td><td>事前に教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>9</td><td>空間と架構デザイン II</td><td>空間の閉じ方と開き方</td><td>事前に教科書 P.69 から P.88 を再読し、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>10</td><td>ランドスケープデザイン I</td><td>庭園・広場・都市景観デザインの変遷</td><td>事前に教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ランドスケープデザイン II</td><td>住まいをまちに開く作法・ランドスケープと空間の関係性</td><td>事前に教科書 P.89 から P.108 を再読し、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>12</td><td>発想への技法 I</td><td>フロッタージュ・引用・幾何学立体</td><td>事前に教科書 P.109 から P.125 を読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>13</td><td>発想への技法 II</td><td>構法のジオメトリー・プログラム・コンセプト</td><td>事前に教科書 P.109 から P.125 を再読し、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>14</td><td>発想への技法 III</td><td>言葉と建築・観察・トランスフォーメーション</td><td>事前に教科書 P.109 から P.125 を再読し、要点を理解する (1 時間)</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>科目内容全体の総括</td><td>事前に教科書全ページを読み、要点を理解する (1 時間)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション 自然発生的建築から学ぶもの生活環境形成としての建築的思考	講義の進め方、環境と設計から見るデザインの考え方、他	事前に教科書 P.1 から P.8 を読み、要点を理解する (1 時間)	2	自然発生的建築の多様性生活文化が生み出す住環境デザイン I	精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他	事前に教科書 P.8 から P.28 を読み、要点を理解する (1 時間)	3	自然発生的建築の多義性生活文化が生み出す住環境デザイン II	集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態倉に貯蔵される記憶	事前に教科書 P.8 から P.28 を再読し、要点を理解する (1 時間)	4	空間の構成要素 素材の解説 I	近代建築のつくり方 鉄・ガラス・コンクリート	事前に教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する (1 時間)	5	空間の構成要素 素材の解説 II	空間の構成要素 皮膜・インテリア・家具	事前に教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する (1 時間)	6	日本の歴史的木造建築空間概説 I	時間軸から見た素材、構法	事前に教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する (1 時間)	7	日本の歴史的木造建築空間概説 II	日本の伝統的建築物に見られる空間性	事前に教科書 P.49 から P.68 を再読し、要点を理解する (1 時間)	8	空間と架構デザイン I	重力・水平力について	事前に教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する (1 時間)	9	空間と架構デザイン II	空間の閉じ方と開き方	事前に教科書 P.69 から P.88 を再読し、要点を理解する (1 時間)	10	ランドスケープデザイン I	庭園・広場・都市景観デザインの変遷	事前に教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する (1 時間)	11	ランドスケープデザイン II	住まいをまちに開く作法・ランドスケープと空間の関係性	事前に教科書 P.89 から P.108 を再読し、要点を理解する (1 時間)	12	発想への技法 I	フロッタージュ・引用・幾何学立体	事前に教科書 P.109 から P.125 を読み、要点を理解する (1 時間)	13	発想への技法 II	構法のジオメトリー・プログラム・コンセプト	事前に教科書 P.109 から P.125 を再読し、要点を理解する (1 時間)	14	発想への技法 III	言葉と建築・観察・トランスフォーメーション	事前に教科書 P.109 から P.125 を再読し、要点を理解する (1 時間)	15	まとめ	科目内容全体の総括	事前に教科書全ページを読み、要点を理解する (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション 自然発生的建築から学ぶもの生活環境形成としての建築的思考	講義の進め方、環境と設計から見るデザインの考え方、他	事前に教科書 P.1 から P.8 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
2	自然発生的建築の多様性生活文化が生み出す住環境デザイン I	精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他	事前に教科書 P.8 から P.28 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
3	自然発生的建築の多義性生活文化が生み出す住環境デザイン II	集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態倉に貯蔵される記憶	事前に教科書 P.8 から P.28 を再読し、要点を理解する (1 時間)																																																																
4	空間の構成要素 素材の解説 I	近代建築のつくり方 鉄・ガラス・コンクリート	事前に教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
5	空間の構成要素 素材の解説 II	空間の構成要素 皮膜・インテリア・家具	事前に教科書 P.29 から P.48 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
6	日本の歴史的木造建築空間概説 I	時間軸から見た素材、構法	事前に教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
7	日本の歴史的木造建築空間概説 II	日本の伝統的建築物に見られる空間性	事前に教科書 P.49 から P.68 を再読し、要点を理解する (1 時間)																																																																
8	空間と架構デザイン I	重力・水平力について	事前に教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
9	空間と架構デザイン II	空間の閉じ方と開き方	事前に教科書 P.69 から P.88 を再読し、要点を理解する (1 時間)																																																																
10	ランドスケープデザイン I	庭園・広場・都市景観デザインの変遷	事前に教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
11	ランドスケープデザイン II	住まいをまちに開く作法・ランドスケープと空間の関係性	事前に教科書 P.89 から P.108 を再読し、要点を理解する (1 時間)																																																																
12	発想への技法 I	フロッタージュ・引用・幾何学立体	事前に教科書 P.109 から P.125 を読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
13	発想への技法 II	構法のジオメトリー・プログラム・コンセプト	事前に教科書 P.109 から P.125 を再読し、要点を理解する (1 時間)																																																																
14	発想への技法 III	言葉と建築・観察・トランスフォーメーション	事前に教科書 P.109 から P.125 を再読し、要点を理解する (1 時間)																																																																
15	まとめ	科目内容全体の総括	事前に教科書全ページを読み、要点を理解する (1 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	設計演習 (Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)、建築計画学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>建築概論</td><td>本多友常、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一</td><td>学芸出版社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築概論	本多友常、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	建築概論	本多友常、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	講義時間内に行なう修得理解度テスト (計 5 回) 100%。日時は事前告知せず、授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施し解説する。なお期末試験は実施しない。																																																																		
学生へのメッセージ	本講義で習得した知識を設計演習科目に関連させること。授業開始後 10 分以降の入室は欠席とみなす。																																																																		
担当者の研究室等	12 号館 7 階 久富教授室																																																																		

備考	5 回の小テストの解説を次回の授業で実施し理解を深める。 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。 予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約 1 時間 30 分間程度とする。
----	--

科目名	空間表現演習 A	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	榊 愛, 風戸 拓大, 牧尾 晴喜, 松本 崇
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR1052a0		

授業概要・目的	2 次元 CAD・3 次元 CAD の基本知識・基本操作を学習し、建物の図面・パースを作成する演習を行う。コンピュータを用いた空間表現に関する基礎的な知識と技術を修得することを目的とする。
到達目標	自分が思い描く建築空間を、コンピュータを用いて的確に表現できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	配布された資料と動画を用いて、随時学修を進める。質問は随時受け付け、授業時間をコアタイムとして返答する。教員に直接質問、指導を希望する場合は正規の授業時間に出席すること。
科目学習の効果 (資格)	CAD 利用技術者試験、CG エンジニア検定など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、2DCAD の基礎 1	授業内容、進め方、評価基準に関する説明、2DCAD の概要、基本操作、基本設定、基本コマンド (作成)	事前学習: 2DCAD について調べる 事後学習: 2DCAD と 3DCAD との違いを理解する
	2	2DCAD の基礎 2	基本コマンド (修正、文字記入、寸法記入、印刷、保存など)	事前学習: 前回の内容を復習する 事後学習: 作成、修正コマンドを中心に復習し、確実に修得する
	3	CAD による製図基礎 1	簡単な立体図形による家具の図面作成	事前学習: 図面の表記ルールを復習する 事後学習: 身の回りの立体物の平面図、断面図をスケッチする
	4	CAD による製図基礎 2	簡単な立体図形による家具の 3D モデル作成	事前学習: 3 DCAD を復習する 事後学習: 身の回りの立体物の 3D モデルを作成する
	5	CAD による製図基礎 3	シンプルな建物の図面作成	事前学習: 図面の表記ルールを復習する 事後学習: 自宅の平面図、断面図をスケッチする
	6	CAD による製図基礎 4	シンプルな建物の 3D モデル作成	事前学習: 3 DCAD を復習する 事後学習: 自宅のアイソメ図をスケッチする
	7	CAD による図面模写 1	住宅建築 模写する住宅建築の説明、平面図の模写	事前学習: 平面図の書き方を復習する 事後学習: 図面をよく見て空間構成を把握する
	8	CAD による図面模写 2	住宅建築 断面図・立面図の模写	事前学習: 断面図の書き方を復習する 事後学習: 図面をよく見て空間構成を把握する
	9	CAD による設計課題 1	店舗建築 躯体部分の平面図、断面図模写	事前学習: 店舗建築のタイトル、コンセプトを決めて、下描き図面を完成させる 事後学習: 身の回りにある家具の大きさを測り、寸法を確認する
	10	CAD による設計課題 2	店舗建築 設計部分の平面図、断面図作成	事前学習: 平面図、断面図の表記ルールを復習する 事後学習: 平面図、断面図を完成させる
	11	CAD による設計課題 3	プレゼン基礎 画像処理の基礎	事前学習: 画像処理をしたい画像を探してくる 事後学習: 画像処理操作を復習する
	12	CAD による設計課題 4	プレゼン基礎 レイアウトの基礎	事前学習: 指定した雑誌から良いレイアウトの事例を調べる 事後学習: プレゼンシートのレイアウトを考える
	13	CAD による設計課題 5	プレゼン基礎 イラスト描画の基礎	事前学習: 指定した雑誌から良いダイアグラム・イラストの事例を調べる 事後学習: プレゼンシートに描くイラスト・ダイアグラムを考える
	14	CAD による設計課題 6	店舗建築 プレゼンテーションシートを作成する	事前学習: 前回までの内容を復習する 事後学習: プレゼンシートを仕上げる
	15	CAD による設計課題 7	店舗建築 プレゼンテーション、講評会	事前学習: プレゼン方法を考える 事後学習: 授業内容を復習する

実務経験	
関連科目	図形科学、空間表現演習 B、設計演習など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	小テスト・小レポート・小演習による評価 40%、課題による評価 60%

(基準)	
学生への メッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って集中して取り組んでください。
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 榊准教授室 12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする

科目名	空間表現演習 B	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榊 愛, 風戸 拓大, 鈴木 広隆, 安福 健祐
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2053a0		

授業概要・目的	コンピュータグラフィックス (CG)、画像処理ソフト、ドローイングソフト、GIS (地理情報システム) など、さまざまなソフトを用いて空間表現に関する演習を行う。 コンピュータを用いた空間表現の高度な技術を修得することを目的とする。
到達目標	都市、建築、インテリアなどの空間を、コンピュータを用いて的確に、効果的に表現できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。集中して作業をすれば授業時間内に課題を完成できる。授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果 (資格)	空間表現に関わる高度な技術を身につけられる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ソフトウェアのインストール	授業内容、進め方、評価基準に関する説明 使用するソフトウェアのインストール	事前学習：パソコン環境を整えておく 事後学習：使用するソフトウェアの特徴について調べる
	2	建築プレゼンテーション実践 1	画像処理の知識と技術	事前学習：画像処理をしたい画像を探してくる 事後学習：画像処理操作を復習する
	3	建築プレゼンテーション実践 2	レイアウトの知識と技術	事前学習：指定した雑誌から良いレイアウトの事例を調べる 事後学習：プレゼンシートのレイアウトを考える
	4	建築プレゼンテーション実践 3	イラスト描画の知識と技術	事前学習：指定した雑誌から良いダイアグラム・イラストの事例を調べる 事後学習：プレゼンシートに描くイラスト・ダイアグラムを考える
	5	建築プレゼンテーション実践 4	プレゼンテーションシートを作成する	事前学習：前回までの内容を復習する 事後学習：プレゼンシートを仕上げる
	6	写真合成による建築シミュレーション 1	テーマに関連するレクチャー、透視図に関する復習と CG のカメラ設定比較	事前学習：CG について、どういうソフトか調べておく。 事後学習：透視図のしくみと CG カメラ設定を復習しておく
	7	写真合成による建築シミュレーション 2	実在の建築写真照合 (3DCG と写真の合成) に関する演習建築物を用いた CG 合成練習	事前学習：合成された画像やダイアグラムの事例を調べておく。 事後学習：写真合成の操作について復習する
	8	写真合成による建築シミュレーション 3	建築写真照合 (3DCG と写真の合成) に関する演習	事前学習：合成された画像やダイアグラムの事例を調べておく。 事後学習：写真合成の操作について復習する
	9	写真合成による建築シミュレーション 4	フォトリアリスティックな建築 3DCG レンダリングに関する解説と演習	事前学習：前回授業内容の操作を身に付けておく 事後学習：フォトリアリスティックな 3D-CG のレンダリング設定について復習する
	10	地域を対象とした空間表現 1	GIS の基本操作、地図データの読み込み、属性情報の入力、主題図を用いた属性情報の可視化	事前学習：前回の内容を復習し、操作を身につけておく 事後学習：住環境デザインの分野において GIS を使った研究事例について調べる
	11	地域を対象とした空間表現 2	空間解析による地域特性の可視化	事前学習：前回の内容を復習し、操作を身につけておく 事後学習：対象地域の周辺環境を調査する
	12	CG による照明器具デザイン 1	CG を用いた基本オブジェクトのモデリング・レンダリング演習	事前学習：曲面で構成された照明器具を調べる 事後学習：モデリング方法を復習する
	13	CG による照明器具デザイン 2	ライトの色、拡散透過の表現、曲面の幾何学的分類、逆二乗法則と余弦法則、折り紙による行灯作り	事前学習：作成する照明器具のデザインを考える 事後学習：ライトの色、拡散透過の表現を復習する
	14	CG による照明器具デザイン 3	幾何学的形状のランプシェードの CG デザイン	事前学習：作成する照明器具のデザインを考える 事後学習：課題を完成させる
	15	CG による照明器具デザイン 4	幾何学的形状のランプシェードの製作	事前学習：模型の作り方を考える 事後学習：模型を完成させる

実務経験	
関連科目	図形科学、空間表現演習 A、設計演習など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン	坂牛卓, 平瀬有人, 中野豪雄	鹿島出版会
	2	建築とインテリアのための Photoshop+Illustrator テクニック	長嶋 竜一	エクスナレッジ
	3	実用図学	阿部 浩和, 鈴木 広隆, 橋寺 知子, 榊 愛	共立出版

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	j0xpxy7

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール、Teams の投稿、Teams のチャット（榊が対応します）
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	各回の提出物（課題もしくは理解度確認テスト）で 100%評価する
学生への メッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って取り組んでください。
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 榊准教授室 12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 課題については、回収後コメントをつけて返却します。

科目名	造形演習	科目名 (英文)	Exercises in Formative Art and Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 国谷 隆志, 三宅 砂織, 吉川 紀子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR1054a0		

授業概要・目的	平面と立体の3つの基礎課題を通して、ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うことを目的とする。平面基礎：鉛筆デッサンによる表現課題を通して基礎的な観察力、立体把握力、表現力を養う。立体基礎：加工の容易な素材を使った立体構造物の製作課題を通して基礎的な工作力、発想力、立体構力、表現力を養う。最後に作品を展示し、講評会を行う。以上の指導は非常勤講師の実務経験を活かして行われる。
到達目標	ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力として次の事項を獲得することを到達目標とする。 ・平面基礎：対象の観察する方法や概念を知る。立体把握の方法や概念を知る。これらの情報を的確に表現する方法を体験をととして知る。 ・立体基礎：立体構成とそれが与える意味や役割の関係性について知る。 ・グループワークデザインの体験を通して、デザイン作業におけるコミュニケーションの重要性を体験をととして知る。
授業方法と留意点	屋内外において個人製作課題とグループ製作課題に取り組む。課題の製作必要時間には個人差があり、必ずしも授業時間内に収まらない場合がある。不足分は授業外での自主的作業によって各自が補うこととする。クロッキー帳や鉛筆などの画材、カッターなどの工具は各自が授業内容および課題の進み具合から判断して、持参することとする。
科目学習の効果 (資格)	空間設計・プロダクト設計をする上で必要となる基礎的なデザイン能力を養える。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の内容と進め方について説明および担当する非常勤講師の紹介を行う。クロッキー帳と鉛筆を持参すること。	各課題に必要な画材や用具を準備すること。
	2	デッサン1：観察と描写	生花などをモチーフとして、デッサンの最も重要な要素である「観察」と「描写」について学ぶ	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	3	デッサン2：基礎形体	レンガ（直方体）とコップ（円柱）など比較的簡単な形の物をモチーフとして、物の形を捉え方・描き方について学ぶ	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	4	デッサン3：空間表現	複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。このテーマは2週連続で1つの課題を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	5	デッサン4：空間表現	複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	6	風から生まれる形1	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	7	風から生まれる形2	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	8	風から生まれる形3	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	9	風から生まれる形4	環境と応答する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	10	光から生まれる形1	環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	11	光から生まれる形2	環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	12	光から生まれる形3	環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	13	光から生まれる形4	環境と応答する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	14	講評会展示準備	講評会のための展示準備を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。
	15	講評会	作品の講評を行う。	事前にプレゼンテーション資料などを準備すること。

実務経験	
関連科目	インテリアデザイン演習、各種の設計演習、プロダクトデザイン演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

		2			
		3			
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	制作過程における評価 50%、完成作品評価 50%				
学生への メッセージ	ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うという意味で大変重要な演習と考えます。積極的な姿勢で演習に臨んで下さい。				
担当者の 研究室等	演習に関する相談や問い合わせについて、演習日は 12 号館 5 階のデザイン準備室へ、その他の日は 12 号館 7 階稲地准教授室まで				
備考	演習を受講するためには、ガイダンス時に配布する資料にある画材を事前に用意する必要があります。 演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とし、全 15 回において計 60 時間程度行うことが望まれる。				

科目名	基礎設計演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Architectural Planning and Drawing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二、円満字 洋介、田所 克庸、田中 郁恵、山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR1055a0		

授業概要・目的	パース・スケッチ・トレース・模型作成など様々な課題を通して住環境デザインの基礎的な考え方、図面表現、立体表現の基礎技術を習得します。
到達目標	建築分野の専門家として仕事をこなしていく上での基本となる設計の基礎技術を身につけます。
授業方法と留意点	製図室における演習、全体の講義、グループごとの説明、個人に対するアドバイスが適宜、行われます。授業時には必要な製図用具、画材を必ず準備して臨んでください。提出日時は時間厳守です。作業の進行状況によって授業終了後も引き続き各自で課題に取り組んでもらうことがあります。
科目学習の効果 (資格)	建築設計製図・模型制作の基礎を身につけます。 一級建築士、二級建築士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス及び二点パースの描き方 1	演習系科目のプログラム及び基礎設計演習で学ぶことについて説明。二点パースの描き方についての説明と基本練習	配布された資料・図面を十分読んでおくこと。
	2	二点パースの描き方 2	二点パースによる建物、人物、植栽の描き方の練習	配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	3	線の練習・文字のレタリング	建築図面における線の描き方とレタリングの描き方の練習	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	4	一点パースの描き方	一点パースの描き方の説明と室内空間による練習	配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	5	寝屋川キャンパス内のスケッチ	建築図面におけるスケッチの描き方の練習及び講評	講評をよく聞いて、各自でスケッチの練習をすること。
	6	木造住宅図面の模写 I	木造住宅模写の描き方の説明、練習 (題材を 3 つとし、それぞれグループに分かれて作業)	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。
	7	木造住宅図面の模写 II	平面図の模写	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	8	木造住宅図面の模写 III	断面・立面図の模写	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	9	木造住宅図面の模写 IV	配置図の模写	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	10	木造住宅図面の模写 V	全体のブラッシュアップ。製作物の提出、講評。	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された図面をよく見ておくこと。
	11	木造住宅の模型製作 I	図面模写した住宅の模型を製作。対象作品の写真紹介。模型の作り方についての説明。	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	12	木造住宅の模型製作 II	模型製作	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	13	木造住宅の模型製作 III	同上	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	14	木造住宅の模型製作 IV	同上	。配布された資料・図面を十分読んでおくこと。授業終了後も作業を続けることがある。
	15	木造住宅の模型製作 V	木造住宅模型の製作、提出、講評	提出日時の厳守。提出時間を守るように前もって作業スケジュールをよく考えておくこと。

実務経験				
関連科目	造形演習、建築計画学、図形科学、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	基礎設計演習(検索キー：基礎設計) bapd20（登録は9/11 から）			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出物を中心に（90%）、毎回の受講態度、質問への呼応など（10%）を加味して評価します。ただし、無断欠席が4回以上ある場合には、成績評価しません。			
学生への	住環境の設計を学ぶスタートです。基本ルール等をしっかりと学び、以後の設計演習の表現に応用できるように心がけてください。			

メッセージ	授業が始まる前に、製図用具や資料などを準備して、すぐに作業にかかれるようにして、授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	12号館6階 坂本教授室 12号館7階 山根講師室、 12号館5階 住環境デザイン学科準備室2
備考	製図用具が必要ですので、指定された用具を購入すること。 演習に係る授業時間外練習は、毎回1.5時間程度を目安とします。 提出された課題については、随時講評を行います。 製図室での飲食は、厳禁です。

科目名	設計演習Ⅰ	科目名（英文）	Exercises in Architectural Planning and Drawing I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子, 阿曾 実実, 今井 俊夫, 岩田 三千子, 白鳥 武, 竹村 明久, 中山 大介
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2056a0		

授業概要・目的	基礎設計演習に続いて図面による建築表現を学ぶ。次いで、小規模でシンプルな空間の設計課題に取り組む。敷地周辺の環境などから設計の手がかりをつかみ、空間をつくっていく方法を習得する。さらに、緑・水・光・熱・風など自然の力を活用する環境技術と空間デザインの融合について考えを深め、持続可能な住宅として設計提案する。SDGs-16, 15, 14, 13, 12, 11, 9, 7, 5, 3, 1
到達目標	住宅デザインの基礎として比較的小規模なプログラムの建築空間構成およびその図面・模型表現ができる。
授業方法と留意点	I C Tを活用する。少人数ごとに教員の指導を受け、図面、模型などをとおして提案する。課題に関連する講義および図面、模型などを制作する実習。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。
科目学習の効果（資格）	一級建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス及び事例研究、図面模写の課題説明	設計演習Ⅰの目標、授業の進め方などについて説明する。 模写の対象建築物について説明する。	配布された図面をよく見ておくこと 課題を各自ですすめておくこと
	2	事例研究のまとめ、各種図面および模型の理解と製図法、模型作成法の修得	事例研究のまとめと発表、図面の模写および模型の制作	授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
	3	同上	同上	同上
	4	同上	同上	同上
	5	同上	同上	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
	6	住宅の設計	課題説明	課題に関連する資料の収集 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
	7	同上	エスキース	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
	8	同上	同上	同上
	9	同上	同上	同上
	10	同上	中間提出とグループごとの講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
	11	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
	12	同上	同上	同上
	13	同上	同上	同上
	14	同上	作品提出	課題を各自ですすめておくこと 作品提出日時の厳守
	15	同上	講評会	作品について説明できるように準備しておくこと

実務経験	
関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社
	2	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善株式会社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	提出物 60%、日常の実習進行度 40%
学生へのメッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施する。 [スケッチブック名：CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ] を必ず購入しておくこと。

	講評会はフォーマルなものです。その意識で臨んでください。
担当者の 研究室等	12 号館 7 階 川上教授室、白鳥准教授室 12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	学外で調査、見学を行うことがある。 学外から講師を招聘して講評会を開催することがある。 演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする

科目名	設計演習Ⅱ	科目名（英文）	Exercises in Architectural Planning and Drawing II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲地 秀介, 赤木 隆, 大橋 巧, 榊 愛, 久富 敏明, 星田 逸郎, 松本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2057a0		

授業概要・目的	比較的公共性の高い性格の小規模建築の計画・設計の課題を通して、敷地分析力（地域特性の調査理解）、施設計画力（想定される使われ方、機能と空間構成）や空間設計力（空間創造、表現）を養うことを目的とする。なお、本演習授業の指導は実務経験者によって行われる。 SDGs-11																																																																		
到達目標	比較的公共性の高い性格の小規模建築の計画・設計に必要な基礎的事項①敷地分析、②施設計画、③空間設計手法を理解し、これに基づいた設計計画案を作成し、簡単なプレゼンテーションによって伝えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	課題に基づき、皆さんが事前に作業したエスキース案に対して、授業中に教員がコメントする方法で演習が進みます。エスキース案の制作改善作業や製図作業や模型制作作業を行わないと評価することが出来ませんので、必ず事前作業してから演習に出席して下さい。事前作業が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合があります。また、優秀作品は、他大学（京都府立大学、奈良女子大学、大阪市立大学、帝塚山大学など）との合同講評会への出品を予定している。本授業は、対面授業形式での実施を予定しています。但し、新型コロナウイルス等の感染症拡																																																																		
科目学習の効果（資格）	一級建築士試験、二級建築士試験、木造建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス、第一課題説明</td><td>設計演習Ⅱの目標、授業の進め方、および課題などについて説明する。</td><td>課題施設に関連する事例や資料の収集</td></tr> <tr> <td>2</td><td>第一課題（公共施設の設計）</td><td>敷地調査および情報整理、施設機能の理解や事例収集</td><td>クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>事例収集を行い、複数の計画案を検討する。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>同上</td><td>中間提出とグループごとの講評</td><td>講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>図面、模型の作成を行うこと。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>図面、模型の作成を行うこと。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>講評会および第二課題（共同住宅の設計）の説明</td><td>作品提出、及び講評</td><td>作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。次の課題に関連する資料の収集、敷地見学をすること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第二課題（共同住宅の設計）</td><td>敷地調査結果の整理、施設機能の理解や事例収集</td><td>クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>事例収集を行い、複数の計画案を検討する。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>同上</td><td>中間提出とグループごとの講評</td><td>講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>図面、模型の作成を行うこと。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>図面、模型の作成を行うこと。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講評会</td><td>作品提出、及び講評</td><td>作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、第一課題説明	設計演習Ⅱの目標、授業の進め方、および課題などについて説明する。	課題施設に関連する事例や資料の収集	2	第一課題（公共施設の設計）	敷地調査および情報整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。	3	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。	4	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。	5	同上	中間提出とグループごとの講評	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。	6	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。	7	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。	8	講評会および第二課題（共同住宅の設計）の説明	作品提出、及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。次の課題に関連する資料の収集、敷地見学をすること。	9	第二課題（共同住宅の設計）	敷地調査結果の整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。	10	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。	11	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。	12	同上	中間提出とグループごとの講評	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。	13	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。	14	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。	15	講評会	作品提出、及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、第一課題説明	設計演習Ⅱの目標、授業の進め方、および課題などについて説明する。	課題施設に関連する事例や資料の収集																																																																
2	第一課題（公共施設の設計）	敷地調査および情報整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。																																																																
3	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。																																																																
4	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。																																																																
5	同上	中間提出とグループごとの講評	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。																																																																
6	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。																																																																
7	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。																																																																
8	講評会および第二課題（共同住宅の設計）の説明	作品提出、及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。次の課題に関連する資料の収集、敷地見学をすること。																																																																
9	第二課題（共同住宅の設計）	敷地調査結果の整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。																																																																
10	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。																																																																
11	同上	エスキースチェック	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。																																																																
12	同上	中間提出とグループごとの講評	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。																																																																
13	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。																																																																
14	同上	エスキースチェック	図面、模型の作成を行うこと。																																																																
15	講評会	作品提出、及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>コンパクト建築設計資料集成</td><td>日本建築学会編</td><td>丸善</td></tr> <tr> <td>2</td><td>初めての建築製図</td><td>“建築のテキスト”編集委員会</td><td>学芸出版社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ステップ・バイ・ステップ</td><td>川北健雄 花田佳明他</td><td>彰国社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善	2	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社	3	ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 花田佳明他	彰国社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善																																																																
2	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社																																																																
3	ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 花田佳明他	彰国社																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>眼を養い手を練れ（2）集まって住もう</td><td>居住空間デザイン講師室</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾</td><td>宮脇塾講師室</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>集住体設計する（住環境の計画シリーズ）</td><td>住環境の計画編集委員会編</td><td>彰国社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	眼を養い手を練れ（2）集まって住もう	居住空間デザイン講師室	彰国社	2	眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾	宮脇塾講師室	彰国社	3	集住体設計する（住環境の計画シリーズ）	住環境の計画編集委員会編	彰国社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	眼を養い手を練れ（2）集まって住もう	居住空間デザイン講師室	彰国社																																																																
2	眼を養い手を練れ—宮脇檀住宅設計塾	宮脇塾講師室	彰国社																																																																
3	集住体設計する（住環境の計画シリーズ）	住環境の計画編集委員会編	彰国社																																																																
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	各回授業での作業内容についての評価 20%、成果物評価 80%																																																																		
学生へのメッセージ	日々の積み重ね以外に建築設計能力が向上するわけではありません。天からアイデアが降ってきたり、朝起きたら図面が出ていたりすることはないのです。突拍子もないことや、奇抜な形の空間をつくるのが設計ではありません。「使いやすく」、「多くの人に愛され」、「何十年も使い続けられる」ような建築をつくるのが真の建築設計だと思います。そのような建築を設計するためには、あなたは日々なにをすべきか？を考えてみてください。																																																																		
担当者の研究室等	・12号館 7階 久富教授室、稲地准教授室、榊准教授室、大橋准教授室 ・非常勤講師への質問等は上記の選任教員を通して可能である。																																																																		

備考	・各課題の講評会には外部講師を招き、講評して頂く予定です。 ・演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする。
----	--

科目名	設計演習Ⅲ	科目名（英文）	Exercises in Architectural Planning and Drawing III
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久富 敏明、稲地 秀介、川上 比奈子、河崎 敦子、榑愛、坂本 淳二、白鳥 武、中村 文紀、鍋谷 めぐみ、前川 治彦
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3058a0		

授業概要・目的	学校などの地域施設の設計課題に取り組む。地域環境やコミュニティに視野をひろげ、企画のための調査、計画の組み立て作業を課題に取り入れて、構想力、計画力を養う。 SDGs-11																																																																		
到達目標	住環境デザインの基礎として比較的大規模で複雑なプログラムの建築空間構成およびその図面表現ができる。																																																																		
授業方法と留意点	ICT ツールを使用して少人数ごとに教員の指導を受け、案をつくりまとめていく。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。																																																																		
科目学習の効果（資格）	1 級建築士、2 級建築士、木造建築士の資格試験に関連する内容																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス及び設計課題の説明 前半課題、密集市街地における地域活性化施設の設計</td><td>設計演習Ⅲの目標、授業の進め方の説明。 密集市街地における集住体の設計の課題説明。</td><td>課題に関連する資料の収集</td></tr> <tr> <td>2</td><td>密集市街地における地域活性化施設の設計</td><td>所要室と面積などの計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション</td><td>根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>3</td><td>同上</td><td>エスキース</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>4</td><td>同上</td><td>同上</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>5</td><td>同上</td><td>中間提出とグループ講評</td><td>要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>6</td><td>同上</td><td>エスキース</td><td>中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>7</td><td>同上</td><td>作品提出</td><td>作品提出日時の厳守</td></tr> <tr> <td>8</td><td>同上 後半課題、大都市におけるコミュニティースクールの設計</td><td>講評会 後半設計課題の説明</td><td>作品について説明できるように準備しておくこと 後半課題に関連する資料の収集、現地調査指示</td></tr> <tr> <td>9</td><td>同上</td><td>調査結果の報告とグループディスカッション</td><td>敷地見学などの結果を発表できるように準備しておくこと</td></tr> <tr> <td>10</td><td>同上</td><td>エスキース</td><td>要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>11</td><td>同上</td><td>同上</td><td>同上</td></tr> <tr> <td>12</td><td>同上</td><td>同上</td><td>同上</td></tr> <tr> <td>13</td><td>同上</td><td>中間提出とグループ講評</td><td>要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>14</td><td>同上</td><td>エスキース</td><td>中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>15</td><td>同上</td><td>作品提出及び講評</td><td>作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス及び設計課題の説明 前半課題、密集市街地における地域活性化施設の設計	設計演習Ⅲの目標、授業の進め方の説明。 密集市街地における集住体の設計の課題説明。	課題に関連する資料の収集	2	密集市街地における地域活性化施設の設計	所要室と面積などの計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション	根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと	3	同上	エスキース	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	4	同上	同上	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	5	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと	6	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと	7	同上	作品提出	作品提出日時の厳守	8	同上 後半課題、大都市におけるコミュニティースクールの設計	講評会 後半設計課題の説明	作品について説明できるように準備しておくこと 後半課題に関連する資料の収集、現地調査指示	9	同上	調査結果の報告とグループディスカッション	敷地見学などの結果を発表できるように準備しておくこと	10	同上	エスキース	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと	11	同上	同上	同上	12	同上	同上	同上	13	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと	14	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと	15	同上	作品提出及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス及び設計課題の説明 前半課題、密集市街地における地域活性化施設の設計	設計演習Ⅲの目標、授業の進め方の説明。 密集市街地における集住体の設計の課題説明。	課題に関連する資料の収集																																																																
2	密集市街地における地域活性化施設の設計	所要室と面積などの計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション	根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと																																																																
3	同上	エスキース	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
4	同上	同上	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
5	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと																																																																
6	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと																																																																
7	同上	作品提出	作品提出日時の厳守																																																																
8	同上 後半課題、大都市におけるコミュニティースクールの設計	講評会 後半設計課題の説明	作品について説明できるように準備しておくこと 後半課題に関連する資料の収集、現地調査指示																																																																
9	同上	調査結果の報告とグループディスカッション	敷地見学などの結果を発表できるように準備しておくこと																																																																
10	同上	エスキース	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと																																																																
11	同上	同上	同上																																																																
12	同上	同上	同上																																																																
13	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと																																																																
14	同上	エスキース	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと																																																																
15	同上	作品提出及び講評	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 3 版 コンパクト建築設計資料集成</td><td>日本建築学会 編</td><td>丸善</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ステップ・バイ・ステップ</td><td>川北、花田、三上、倉知、水島</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>初めての建築製図</td><td>“建築のテキスト”編集委員会</td><td>学芸出版社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第 3 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社	3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	第 3 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善																																																																
2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社																																																																
3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	提出物 60%、日常の実習に対する取組み 40%																																																																		
学生へのメッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 スケッチブックは、「CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ」を必ず購入する。																																																																		
担当者の研究室等	12 号館 7 階 久富教授室、川上教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室 12 号館 6 階 坂本教授室、住環境デザイン学科共通準備室																																																																		
備考	2 つの課題ごとに広い視野からの批評を受けるべく、学外講師の招聘による講評会を予定している。 演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする。																																																																		

科目名	設計演習Ⅳ	科目名（英文）	Exercises in Architectural Planning and Drawing IV
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久富 敏明、稲地 秀介、川上 比奈子
ディプロマポリシー（DP）	F◎		
科目ナンバリング	TDR3061a0		

授業概要・目的	規模の比較的大きい公共施設の計画設計を通して基礎設計演習から設計演習Ⅲまでに学習した敷地分析手法、施設計画・提案手法、空間設計力手法などの基礎的技術や知識の定着と「計画全体をまとめる力」および「プレゼンテーション力」を養うことを目的とする。																																																																		
到達目標	規模の比較的大きい公共施設の計画設計に必要な「敷地分析力」、「施設計画・提案力」、「空間設計力」などの基礎的技術や知識を理解・修得した上で、それらにもとづいた設計計画案の作成とプレゼンテーションによって他者に伝えることができる。																																																																		
授業方法と留意点	ICT ツールを使用して、課題にもとづく事前学習（エスキース・図面制作、模型製作など）結果に対して教員が指導する。事前学習が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合がある。成果物の講評時（2 回程度）に設計実務に携る学外講師を招く。また、必要に応じて学外施設見学（2 回程度・授業日外）実施を予定している。																																																																		
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士、木造建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナーの資格試験に関連する内容																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス、第 1 課題（公共施設 2）の説明</td><td>授業の学習目標と進め方の説明</td><td>課題に関連する資料を収集すること</td></tr> <tr> <td>2</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること</td></tr> <tr> <td>3</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること</td></tr> <tr> <td>4</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること</td></tr> <tr> <td>5</td><td>〃</td><td>中間提出と個人講評</td><td>講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること</td></tr> <tr> <td>6</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>図面・模型を制作すること</td></tr> <tr> <td>7</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること</td></tr> <tr> <td>8</td><td>講評会および第 2 課題（公共施設 2）の説明</td><td>外部講師者を招いた講評会</td><td>プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>第 2 課題（公共施設 2）</td><td>敷地調査および施設機能の学習や事例収集の仕方を学習および計画課題の抽出</td><td>クロッキー帖などに敷地情報などを整理する。複数の計画案を参考事例として施設機能の理解や表現方法などを学習すること</td></tr> <tr> <td>10</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること</td></tr> <tr> <td>11</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>複数の計画案の検討、およびプレゼンテーション資料を制作すること</td></tr> <tr> <td>12</td><td>〃</td><td>中間提出と個人講評</td><td>講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること</td></tr> <tr> <td>13</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>図面・模型を制作すること</td></tr> <tr> <td>14</td><td>〃</td><td>エスキースチェック</td><td>図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講評会</td><td>外部講師者を招いた講評会</td><td>プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス、第 1 課題（公共施設 2）の説明	授業の学習目標と進め方の説明	課題に関連する資料を収集すること	2	〃	エスキースチェック	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること	3	〃	エスキースチェック	複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること	4	〃	エスキースチェック	複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること	5	〃	中間提出と個人講評	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること	6	〃	エスキースチェック	図面・模型を制作すること	7	〃	エスキースチェック	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること	8	講評会および第 2 課題（公共施設 2）の説明	外部講師者を招いた講評会	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること	9	第 2 課題（公共施設 2）	敷地調査および施設機能の学習や事例収集の仕方を学習および計画課題の抽出	クロッキー帖などに敷地情報などを整理する。複数の計画案を参考事例として施設機能の理解や表現方法などを学習すること	10	〃	エスキースチェック	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること	11	〃	エスキースチェック	複数の計画案の検討、およびプレゼンテーション資料を制作すること	12	〃	中間提出と個人講評	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること	13	〃	エスキースチェック	図面・模型を制作すること	14	〃	エスキースチェック	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること	15	講評会	外部講師者を招いた講評会	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス、第 1 課題（公共施設 2）の説明	授業の学習目標と進め方の説明	課題に関連する資料を収集すること																																																																
2	〃	エスキースチェック	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること																																																																
3	〃	エスキースチェック	複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること																																																																
4	〃	エスキースチェック	複数の計画案を検討およびプレゼンテーション資料を制作すること																																																																
5	〃	中間提出と個人講評	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること																																																																
6	〃	エスキースチェック	図面・模型を制作すること																																																																
7	〃	エスキースチェック	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること																																																																
8	講評会および第 2 課題（公共施設 2）の説明	外部講師者を招いた講評会	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること																																																																
9	第 2 課題（公共施設 2）	敷地調査および施設機能の学習や事例収集の仕方を学習および計画課題の抽出	クロッキー帖などに敷地情報などを整理する。複数の計画案を参考事例として施設機能の理解や表現方法などを学習すること																																																																
10	〃	エスキースチェック	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること																																																																
11	〃	エスキースチェック	複数の計画案の検討、およびプレゼンテーション資料を制作すること																																																																
12	〃	中間提出と個人講評	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること																																																																
13	〃	エスキースチェック	図面・模型を制作すること																																																																
14	〃	エスキースチェック	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること																																																																
15	講評会	外部講師者を招いた講評会	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと。講評者コメントなど改善すべき点を整理すること																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習 A、空間表現演習 B																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>第 3 版 コンパクト建築設計資料集成</td><td>日本建築学会 編</td><td>丸善</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ステップ・バイ・ステップ</td><td>川北、花田、三上、倉知、水島</td><td>彰国社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>初めての建築製図</td><td>“建築のテキスト”編集委員会</td><td>学芸出版社</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第 3 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善	2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社	3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	第 3 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善																																																																
2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社																																																																
3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社																																																																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	各回授業での作業内容についての評価 20%、成果物評価 80%																																																																		
学生へのメッセージ	より高い建築設計能力を身につけるためには、自己流にこだわるのではなく、これまでの授業科目で習得してきた知見を元に、更に多くの知識をインプットすることが必要です。そのために、専門誌を読み込むことと建築見学をとおして建築設計の知見を増やし技能を身につけましょう。建築に求められる「用・強・美」を設計することを基本として、少し先の未来をつくりだすことを目標とします。そのような建築設計を実現するために、インプットを重ねることを日課にしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	12 号館 7 階 久富教授室、川上教授室、稲地准教授室																																																																		
備考	本演習の目的に沿った学生参加可能な建築設計競技がある場合には、上記課題を変更し競技への参加になる場合がある。演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とする。 課題内容により、敷地周辺調査のための学外視察や学外講評会を実施する場合がある。																																																																		

科目名	インテリアデザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Planning and Drawing of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子, 西山 広志, 松本 直也, 吉本 光絵
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2059a0		

授業概要・目的	住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉え、多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのようなデザインがありうるか、その可能性を模索し、具体的に提案できるようになることを目標とする。内部だけを考えるのではなく、外部空間が内部に与える影響、また、逆に内部空間が外部に与える影響を念頭に設計課題に取り組む。企画のための調査、計画の組み立て、模型・CGのプレゼンテーション作業を課題に取り入れて、構想力、計画力、表現力を養う。SDGs-9, 11																																																																		
到達目標	インテリアデザインの基礎として比較的小規模で簡単なプログラムの建築空間構成およびその図面表現ができる。																																																																		
授業方法と留意点	少人数ごとに教員の指導を受け、グループの共同作業も行いながら、案をつくりまとめていく。毎週のエスキースチェック、および演習時間中の自発的作業を重視する。とくに講評会では、設計の趣旨、内容を図面、模型、言葉によって、わかりやすく説明できるように留意してほしい。学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士 インテリアプランナー インテリアコーディネーター 福祉住環境コーディネーター 商業施設士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス及び設計課題: 商店街の再生と商業空間デザインの説明</td><td>インテリアデザイン演習の目標、授業の進め方の説明。 設計課題: 住空間のインテリアデザインの課題説明。</td><td>課題に関連する資料の収集 特に商業空間と商店街の資料収集</td></tr> <tr> <td>2</td><td>住空間のインテリアデザイン</td><td>住空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース作業</td><td>根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと 作業をスムーズに進める準備をしておくこと</td></tr> <tr> <td>3</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>4</td><td>同上</td><td>住空間のインテリアデザイン計画案 エスキース作業</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>5</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>6</td><td>同上</td><td>エスキース作業</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>7</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>8</td><td>公開講評会</td><td>提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける</td><td>作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>商業空間のインテリアデザイン</td><td>課題について説明</td><td>商業空間のインテリアデザインに関する資料収集</td></tr> <tr> <td>10</td><td>同上</td><td>エスキース作業</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>11</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>12</td><td>同上</td><td>中間提出とグループ講評</td><td>要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>13</td><td>同上</td><td>エスキースチェック</td><td>中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>14</td><td>同上</td><td>模型、図面の完成に向けてプレゼンテーション作業</td><td>中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと</td></tr> <tr> <td>15</td><td>公開講評会</td><td>作品提出及び講評、展示 提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける</td><td>作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス及び設計課題: 商店街の再生と商業空間デザインの説明	インテリアデザイン演習の目標、授業の進め方の説明。 設計課題: 住空間のインテリアデザインの課題説明。	課題に関連する資料の収集 特に商業空間と商店街の資料収集	2	住空間のインテリアデザイン	住空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース作業	根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと 作業をスムーズに進める準備をしておくこと	3	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	4	同上	住空間のインテリアデザイン計画案 エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	5	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	6	同上	エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	7	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	8	公開講評会	提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。	9	商業空間のインテリアデザイン	課題について説明	商業空間のインテリアデザインに関する資料収集	10	同上	エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	11	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと	12	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと	13	同上	エスキースチェック	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと	14	同上	模型、図面の完成に向けてプレゼンテーション作業	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと	15	公開講評会	作品提出及び講評、展示 提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス及び設計課題: 商店街の再生と商業空間デザインの説明	インテリアデザイン演習の目標、授業の進め方の説明。 設計課題: 住空間のインテリアデザインの課題説明。	課題に関連する資料の収集 特に商業空間と商店街の資料収集																																																																
2	住空間のインテリアデザイン	住空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース作業	根拠も含めて計画案について説明できるようにしておくこと 作業をスムーズに進める準備をしておくこと																																																																
3	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
4	同上	住空間のインテリアデザイン計画案 エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
5	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
6	同上	エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
7	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
8	公開講評会	提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。																																																																
9	商業空間のインテリアデザイン	課題について説明	商業空間のインテリアデザインに関する資料収集																																																																
10	同上	エスキース作業	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
11	同上	エスキースチェック	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと																																																																
12	同上	中間提出とグループ講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと																																																																
13	同上	エスキースチェック	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと																																																																
14	同上	模型、図面の完成に向けてプレゼンテーション作業	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと																																																																
15	公開講評会	作品提出及び講評、展示 提出・展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。展示作業はインテリアデザイン演習にとって、実務に最も近い体験。積極的にインテリアコーディネーター、展示レイアウトを実践すること。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	図形科学、空間表現演習Ⅰ、Ⅱ、基礎設計演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ プロダクトデザイン演習、 インテリアデザイン論など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	提出物 70%、日常の実習進捗度 30%
学生への メッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 [スケッチブック名：CROQUIS white maruman ss1 表紙色ページ]を必ず購入しておくこと。 講評会は外来講師を交えたフォーマルなものです。その意識で臨んでください。
担当者の 研究室等	12号館7階 川上教授室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	展覧会やインテリアデザインの実物を学外で見学することがある。 講評会において外来講師を迎える。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	環境工学演習	科目名 (英文)	Exercises in Environmental Engineering
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	竹村 明久, 岩田 三千子, 大橋 巧
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3060a0		

授業概要・目的	住環境工学 A、住環境工学 B で学んだ知識を基に、機器を使った測定や具体的な計算などの演習を通して、光環境、音環境、熱環境、空気環境に関する予測や評価の手法を修得する。住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につける。 SDGs-3, 6, 7, 9, 11, 13
到達目標	建築士資格試験を受ける際の計算問題などの解法や、実務の測定技術・計算技術などの基礎を修得・活用できることを目標とする。
授業方法と留意点	各々の環境分野について計算・演習問題などの課題を出す。 住環境工学 A、住環境工学 B で学習した内容を教科書で毎回復習して課題提出すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	日影図の作成と日影時間の検討	日影図について理解を深め、日影図を作成する。その日影図を用いて、ある建物の日影図を作成する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	2	光束法による照明設計	天井に蛍光灯を均等に並べて照明する場合について、蛍光灯の必要個数を計算により求めその配置図を描く。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	3	逐点法による照度の計算	明るさ評価の基本となる水平面照度と鉛直面照度について、照明器具の配光特性に基づいて算定する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	4	照度の計測	教室の照度分布について、昼光と人工照明を用いた場合について測定し、照度計の取り扱いを習得する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	5	光環境の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。	以前の講義で学習した内容を復習して出席すること
	6	温熱環境の測定と評価 (1)?	熱環境分野で使用する測定器の原理、使用方法を説明し、温熱環境指標 (SET* など) を解説する。後半では、計測器に慣れることを目的に、室内の気温、湿度、MRT (グローブ温度)、気流の測定を行う。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
	7	温熱環境の測定と評価 (2)?	建物内外数か所にて温熱環境を測定し、温熱環境指標 (SET* など) による環境評価および考察を行う。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
	8	クールスポットの提案 冷暖房熱負荷計算 (1)	前回の計測結果を踏まえ、温熱環境に配慮したクールスポットの提案を行う。後半では手計算による冷暖房熱負荷計算法を解説する。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
	9	冷暖房熱負荷計算 (2)?	例題を示し、冷暖房熱負荷計算の演習を行う。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
	10	冷暖房熱負荷計算 (3)?	前回の計算結果を踏まえ、外皮条件の違いによる負荷の多寡を評価する?。	演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
	11	音の基本単位と騒音の実測	音の基本単位を復習し、騒音測定機器の取扱いを修得した後に、実際の環境の騒音測定をする。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	12	残響時間および透過損失の計算	残響時間と透過損失を理解し、その計算式を、ある空間に適用する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	13	音・熱環境の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	14	CO2 の計測と換気量の計算	換気と空気質の関係について復習し、教室内外の CO2 を測定して、換気量の推定を行う。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
	15	空気環境・設備の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。	以前の講義で学習した内容を復習して出席すること

実務経験	
関連科目	住環境工学 A、住環境工学 B、住環境設備 A、住環境設備 B、都市環境計画、環境計画演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	日本建築学会	彰国社
	2	図説建築環境	松原斎樹他	学芸出版社
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活環境学	岩田利枝他	井上書院
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の課題の評価点の合計点で評価する(100%)。期末試験は行わない。
学生への メッセージ	教科書、電卓、三角定規一式、A4レポート用紙を毎回持参すること。
担当者の 研究室等	12号館7階 大橋准教授室 12号館7階 岩田教授室 12号館7階 竹村准教授室
備考	・講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする ・演習は、講義時間内に解説を行うなどしてフィードバックし、理解を深める

科目名	環境計画演習	科目名 (英文)	Exercises in Environmental Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久, 岩田 三千子, 大橋 巧
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3065a0		

授業概要・目的	原則として、以下の (A)、(B)、(C) の 3 グループに分かれて実施するが、第 7 回と 14 回の講評会は合同で行う。 (A) 環境配慮技術を理解し、建築設計に応用できる基礎的能力と、シミュレーション等によるエネルギー評価手法を学ぶ。 (B) 測光量を用いた計算演習、および光学測定器や色票を用いて、視環境についての評価方法とデザインの手法を学ぶ。 (C) 環境に対する人の心理生理反応を把握することを目指し、空気環境を中心とした心理評価や生理量測定手法を修得する。 SDGs-3, 6, 7, 9, 11, 13
到達目標	住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につけ、卒業研究を行うための基礎知識と測定技術・計算技術などを修得・活用できることを目標とする。
授業方法と留意点	手法の説明や問題演習、実験の実施と、データ処理、そして発表に至るまで、総合的に取り組む。 環境工学 A 及び環境工学 B の講義内容について復習して臨むこと。 第 7 回と 14 回の講評会には外部の専門家に参加してもらう。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	(A) ガイダンス (B) ガイダンスおよび準備 (C) 心理評価による室内環境評価	(A) 演習の目的、概要説明、シミュレーションツールの解説 (B) 3 年次前期までの講義内容の復習 (C) 心理評価の活用事例の説明、概要の説明	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	2	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価 1 (B) 照明設計の基礎 (C) における心理評価①	(A) 最大負荷計算 (B) 測光量、照度計 (C) 心理評価における実験者、被験者の注意点の整理	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	3	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価 2 (B) 照明設計 1 (C) における心理評価②	(A) 窓ガラスの性能評価 1 (B) 分光放射計、視感度 (C) 心理評価データの分析	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	4	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価 3 (B) 照明設計 2 (C) 心理評価手法の比較①	(A) 窓ガラスの性能評価 2 (B) 輝度計、輝度対比、明るさ感 (C) 評定尺度法と ME 法の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	5	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価 4 (B) 照明設計 3 (C) 心理評価手法の比較②	(A) ルーバーの最適設計 1 (B) 光束法による照度計算 (C) 実験データを基にした評価手法の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	6	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価 5 (B) 照明設計 4 (C) これまでの演習に関する復習①	(A) ルーバーの最適設計 2 (B) 逐点法による照度計算 (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説	講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。
	7	前半のテーマの発表 (講評会)	演習内容について研究発表スタイルにまとめて発表する。また、講評を受けて今後の課題を見出す。	プレゼンテーションの準備
	8	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価 6 (B) 色彩環境デザインの基礎 (C) 生理反応測定による室内環境評価	(A) エアフローウィンドウの性能評価 (B) 色彩イメージ、色彩調和 (C) 生理量測定による室内環境評価について	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	9	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価 1 (B) 色彩環境デザイン 1 (C) 生理量測定と心理評価の比較①	(A) 昼光利用による照明制御のエネルギー評価 1 (B) 物体色、視感測色、機器による測色 (C) 生理量測定手法の概要と、測定時の注意点	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	10	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価 2 (B) 色彩環境デザイン 2 (C) 生理量測定と心理評価の比較②	(A) 昼光利用による照明制御のエネルギー評価 2 (B) 光源色、色温度、演色性 (C) 生理量測定結果と心理評価の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	11	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価 3 (B) 視環境設計の基礎 (C) 生理量測定によるストレスの把握①	(A) 窓面積の違いによる空調への影響評価 (B) 明視 4 条件 (C) ストレス測定手法の概要と、測定時の注意点	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	12	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価 4 (B) 視環境設計 1 (C) 生理量測定によるストレスの把握②	(A) 外断熱、高気密の評価 1 (B) 表示物 (サイン) (C) ストレスに関する生理量と心理評価の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
	13	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価 5 (B) 視環境設計 2 (C) これまでの演習に関する	(A) 外断熱、高気密の評価 2 (B) 高齢者、ロービジョン (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説	講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。

		る復習②		
	14	後半のテーマの発表（講評会）	学習した内容について各自が発表する。講評を受けて今後の課題を見出す。	プレゼンテーションの準備
	15	総まとめ	演習課題で得られた成果を整理し、苦手箇所などのフォローアップを行う。	これまでの配布資料やノートをよく読むこと。
実務経験				
関連科目	住環境工学 A、住環境工学 B、色彩デザイン論、住環境設備 A、住環境設備 B、都市環境計画、環境工学演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書第二版	日本建築学会	彰国社
	2	生活環境学	岩田利枝他	井上書院
	3	最新建築設備工学(改訂版)	田中俊六監修	井上書院
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業			
Teams コード	alpnyv1			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 投稿欄への記入、学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の演習課題の提出物で 100%評価する			
学生への メッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待します。継続的に進行するので欠席しないこと 環境工学 A、環境工学 B、色彩デザイン論等の講義で使用した教科書も適宜使用する 教科書、A4 レポート用紙、関数電卓、必要に応じて製図用三角定規などを持参すること			
担当者の 研究室等	12 号館 7 階の岩田教授室、大橋准教授室、竹村准教授室			
備考	- 講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする - 演習は、講義時間内に解説を行うなどしてフィードバックし、理解を深める			

科目名	構造デザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Structural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3066a0		

授業概要・目的	建築構造の役割を理解し、材料学と密接に関わる建築構造デザインについての基礎知識、実践的な応用力を身に付けることを目的とする。構造設計、建築設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料分野などの基礎的な知識を一部応用も含めて習得する。敢えて木造に特化した演習課題を行う。木材の樹種、強度、節の影響、剛性、靱性を理解し、本教員が開発した楔一長押耐力壁も含めて未活用木材の利用に対する考え方も盛り込み、持続可能な建築材料と工法、伝統構法（石場立て等）からの温故知新な構造的観点も含めて、我々のこれからの木造建築構造がどうあるべきか、実際に耐力壁を自らデザインし、加工し、そのせん断実験を通して理解を深める。SDGs-9, 11, 12, 15																																																																		
到達目標	建築構造デザインのエッセンスを木構造を通して理解する。デザイン学、材料学、構造力学との相互に密接な関係を理解し、構造システムの「抑えどころ」を理解し活用できることを到達目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	教科書を良く読み、理解に努めて授業に臨むこと。教科書、スライド (PPT) を駆使した授業は教員からの一方通行ではなく、個人及びグループで教科書を分担し発表する。その発表に対して教員が実務での例や補足を加えて理解を促す形式を取る。 考案・デザイン・作成した木造耐力壁の模型を実際にせん断実験を行う演習をする。 その後、その耐力壁の性能を評価し、実験レポートを提出する。進捗度により、耐力壁の作成タイミングは変動する。 ★★コロナで全く大学に来れない場合★★★ 耐力壁試験体の作成と実験が大学に来れず難しい																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計士																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>構造デザインとは？ 入門編 木構造の基礎知識</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>基本編 地盤①</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>基本編 軸組①</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>基本編 耐力壁①</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>基本編 水平構面①</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>基本編 接合部①</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>木造耐力壁実験 I</td><td>この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインを用意しておくこと。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>木造耐力壁実験 II</td><td>この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインの修正案を用意しておくこと。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>実践編 地盤・基礎②</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁模型用の材料採り）を後半に行う。石場立てについても考えていく。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>実践編 軸組②</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁模型用の材料採り II）を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>実践編 耐力壁②</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁壁模型用の加工）を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>実践編 水平構面②</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁壁模型用の加工 II）を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>実験 III</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁加力実験）を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>実験 IV</td><td>ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁加力実験 II）を後半に行う。</td><td>授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>実験の結果がどのように実際の構造実験現場で活用されるのかを見て行きます。</td><td>最終課題（実験レポート）提出</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	構造デザインとは？ 入門編 木構造の基礎知識	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	2	基本編 地盤①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	3	基本編 軸組①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	4	基本編 耐力壁①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	5	基本編 水平構面①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	6	基本編 接合部①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	7	木造耐力壁実験 I	この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインを用意しておくこと。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	8	木造耐力壁実験 II	この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインの修正案を用意しておくこと。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	9	実践編 地盤・基礎②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁模型用の材料採り）を後半に行う。石場立てについても考えていく。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	10	実践編 軸組②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁模型用の材料採り II）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	11	実践編 耐力壁②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁壁模型用の加工）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	12	実践編 水平構面②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁壁模型用の加工 II）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	13	実験 III	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁加力実験）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	14	実験 IV	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁加力実験 II）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。	15	まとめ	実験の結果がどのように実際の構造実験現場で活用されるのかを見て行きます。	最終課題（実験レポート）提出
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	構造デザインとは？ 入門編 木構造の基礎知識	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
2	基本編 地盤①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
3	基本編 軸組①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
4	基本編 耐力壁①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
5	基本編 水平構面①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
6	基本編 接合部①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
7	木造耐力壁実験 I	この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインを用意しておくこと。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
8	木造耐力壁実験 II	この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインの修正案を用意しておくこと。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
9	実践編 地盤・基礎②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁模型用の材料採り）を後半に行う。石場立てについても考えていく。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
10	実践編 軸組②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁模型用の材料採り II）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
11	実践編 耐力壁②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁壁模型用の加工）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
12	実践編 水平構面②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁壁模型用の加工 II）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
13	実験 III	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁加力実験）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
14	実験 IV	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習（耐力壁加力実験 II）を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。																																																																
15	まとめ	実験の結果がどのように実際の構造実験現場で活用されるのかを見て行きます。	最終課題（実験レポート）提出																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	構造力学、住環境材料学 I、建築一般構造学、設計演習 I、構造デザイン論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ヤマベの木構造 増補改訂版</td><td>山辺豊彦</td><td>X-Knowledge 社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヤマベの木構造 増補改訂版	山辺豊彦	X-Knowledge 社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ヤマベの木構造 増補改訂版	山辺豊彦	X-Knowledge 社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ヤマダの木構造（建築知識の本）</td><td>山田 憲明</td><td>X-Knowledge 社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>世界で一番やさしい木構造 増補改訂カラー版（エクスナレッジムック 世界で一番やさしい建築シリーズ 3）ムック</td><td>山辺豊彦</td><td>X-Knowledge 社</td></tr> <tr> <td>3</td><td>木による空間構造へのアプローチ-木で可能な 15 の</td><td>今川 憲英（著）、岡田 章（著）</td><td>建築技術；新訂版（1997/4/1）</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ヤマダの木構造（建築知識の本）	山田 憲明	X-Knowledge 社	2	世界で一番やさしい木構造 増補改訂カラー版（エクスナレッジムック 世界で一番やさしい建築シリーズ 3）ムック	山辺豊彦	X-Knowledge 社	3	木による空間構造へのアプローチ-木で可能な 15 の	今川 憲英（著）、岡田 章（著）	建築技術；新訂版（1997/4/1）																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ヤマダの木構造（建築知識の本）	山田 憲明	X-Knowledge 社																																																																
2	世界で一番やさしい木構造 増補改訂カラー版（エクスナレッジムック 世界で一番やさしい建築シリーズ 3）ムック	山辺豊彦	X-Knowledge 社																																																																
3	木による空間構造へのアプローチ-木で可能な 15 の	今川 憲英（著）、岡田 章（著）	建築技術；新訂版（1997/4/1）																																																																

		基本架構の構造デザイン		
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業			
Teams コード	x81gv4w			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	大学メール、FBMessenger など			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①授業内課題・ミニ演習 40% (教科書をまとめ、グループ毎発表) ②授業外課題・ミニ演習 40% (実験用試験体のデザインと試験体加工) ③最終課題 20% (実験ⅠⅡ 木造耐力壁加力実験とそのまとめレポート) 計 100% ★★★大学に全く来れない場合★★★ ②③は3種類の耐力壁の実験データをもとに分析する研究レポートを代用する。60%			
学生への メッセージ	教科書・参考書をじっくり読んで、木構造の世界を楽しんでください。 教科書は①ヤマベの木構造 増補改訂版を購入すること。②参考書はいずれかの1冊をできれば購入・読破してください。特に木造住宅の構造や設計に興味がある人は教科書ヤマベを一通り読むことは非常に有益ですし、ヤマダ(注意：紛らわしいので間違えないように)の参考書#1はおすすめです。ぜひこの機会に木構造に関してしっかりと意識を高めてほしいと思います。 日本における素晴らしい持続可能な建築構造材料の一つですから。			
担当者の 研究室等	12号館7階 白鳥 武 准教授 教員室			
備考	教科書を読んで、課題に1時間以上費やすこと。コツコツと積み重ねが重要です。 ①授業内課題・ミニ演習：「教科書をよく理解し、重要ポイントを整理して発表できているか」で評価します。 ②授業外課題・ミニ演習 「実験用試験体のデザインと試験体加工」では「授業で学んだ耐力壁に求められる構造特性を理解して、各自重要と考える要素を取り入れてデザインし、加工に繋げて、制作に至っているか」を加味して評価します。枠のみの試験体+3体を提出すること。			

科目名	空間情報演習	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Information
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期後半	授業担当者	榊 愛, 坂本 淳二, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3067a0		

授業概要・目的	地理情報システム (GIS) を用いて、建物やまちに関わる空間情報表現・分析に関する演習を行う。 私達のまわりにあふれている空間情報を適切に収集し、分析・表現することで、より安全・安心して、快適に暮らせる住環境デザインのでがかりを発見することを目的とする。
到達目標	GIS の基礎を理解し、住環境デザイン分野における分析手法を修得・活用できる。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心としてアクティブラーニング形式で進める。 授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	GIS の基礎	GIS の歴史、しくみ、事例の紹介、基本操作	事前学習：GIS の利用事例を探す 事後学習：GIS を使った研究事例を調べる
	2	空間情報の収集とベースマップの作成 (1)	寝屋川市の住宅地図を用いた表示操作・建物情報の閲覧・建物の検索・建物の分布特性に関する考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	3	空間情報の収集とベースマップの作成 (2)	寝屋川市の統計データの読み込み、考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	4	空間情報の収集とベースマップの作成 (3)	寝屋川市における生活利便施設の分布の把握、考察	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	5	空間情報の収集とベースマップの作成 (4)	寝屋川市における生活利便施設の分布の立地分析	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	6	フィールドワーク (1)	フィールドワーク事前学習	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	7	フィールドワーク (2)	フィールドワーク前半	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	8	フィールドワーク (3)	フィールドワーク後半	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	9	G I S プロジェクト (1)	G I S を用いて取り組みたい研究テーマを探し、研究計画をたてる	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	10	G I S プロジェクト (2)	対象地域のベースマップを収集する	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	11	G I S プロジェクト (3)	対象地域の空間情報を収集する	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	12	G I S プロジェクト (4)	収集した空間情報を G I S に入力する	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	13	G I S プロジェクト (5)	G I S に入力したデータをもとに主題図を作成し、考察する	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	14	G I S プロジェクト (6)	プレゼンテーション資料を作成する	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す
	15	まとめ・発表	レポート発表・講評会	事前学習：前回の授業内容を復習する 事後学習：授業内容に関連する身の回りの事例を探す

実務経験	
関連科目	住生活演習、地域・都市計画学、空間表現演習、卒業研究

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名	住生活・空間情報演習 2020 (検索キー：住空間)

および登録キー	hlsi20（登録は9/15から）
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	演習への取り組み（20%）、課題（80%）で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	1 2号館6階 坂本教授室 1 2号館7階 榊准教授室
備考	住生活演習で取り組む課題と関連したテーマを扱うため、原則住生活演習を履修すること。 事前事後学習は毎回概ね1時間程度する。

科目名	住生活演習	科目名 (英文)	Exercises in Housing Lifestyle
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期前半	授業担当者	坂本 淳二, 榊 愛, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3068a0		

授業概要・目的	住宅や建築物を設計したり、あるいは地域計画を行う際に、予め、その住宅の居住者や地域の利用者の声を聞くことが重要である。本科目は、地域づくりや建物づくりを行う際に、その地域がどのような地域であり、居住者がどのような要求をもっているかを知るための方法について演習を通じて学ぶことを目的とする。																																																																		
到達目標	住民要求や地域の状況を把握するための各種調査手法を学ぶ。そのうえで、実際にテーマを定めて調査し、集計・分析を行い、報告をするという一連の調査研究の流れを身につけて活用できることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	演習開始時に大枠の調査課題を設定し、グループ毎に調査企画～調査～結果の集計・分析～結果の報告（プレゼンテーション）を受講生が主体的に進める。加えてプリントやパワーポイントを用いた講義と、実際に現場に出るフィールドワークを取り混ぜて実施する。																																																																		
科目学習の効果（資格）	社会調査の基礎、ワークショップの進め方等を学ぶことで、企画調査や住民参加型の設計・計画づくりに役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ガイダンス</td><td>講義のガイダンス、社会調査の歴史、背景など</td><td>配布したプリントを基に、復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>社会調査・アンケート調査を知る（1）</td><td>社会調査・アンケート調査の種類について</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。各種調査の事例を探す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>社会調査・アンケート調査を知る（2）</td><td>調査情報の発掘（1）寝屋川市の統計データを調べる</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>社会調査・アンケート調査を知る（3）</td><td>調査情報の発掘（2）既存研究を調べる</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>社会調査・アンケート調査を知る（4）</td><td>企画・設計、サンプリング</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>調査票の作成（1）</td><td>質問調査用紙の作成（1）質問仮説の設定、対象地の選定</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>調査票の作成（2）</td><td>質問調査用紙の作成（2）項目案の作成</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>調査票の作成（3）</td><td>質問調査用紙の作成（3）質問文、選択肢の作成</td><td>配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>フィールドワーク（1）</td><td>調査に取り組む（1）</td><td>現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>フィールドワーク（2）</td><td>調査に取り組む（2）</td><td>現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>報告会の準備（1）</td><td>調査の集計・分析</td><td>調査結果の集計・分析・考察</td></tr> <tr> <td>12</td><td>報告会の準備（2）</td><td>調査の集計・分析・検定</td><td>調査結果の集計・分析・考察</td></tr> <tr> <td>13</td><td>報告会の準備（3）</td><td>調査の集計・分析・考察</td><td>調査結果の集計・分析・考察</td></tr> <tr> <td>14</td><td>調査研究の報告会（1）</td><td>これまでの調査研究の報告と講評会</td><td>報告会のための資料の準備を行う</td></tr> <tr> <td>15</td><td>調査研究の報告会（2）</td><td>これまでの調査研究の報告と講評会</td><td>報告会のための資料の準備を行う</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	講義のガイダンス、社会調査の歴史、背景など	配布したプリントを基に、復習を1時間行う。	2	社会調査・アンケート調査を知る（1）	社会調査・アンケート調査の種類について	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。各種調査の事例を探す。	3	社会調査・アンケート調査を知る（2）	調査情報の発掘（1）寝屋川市の統計データを調べる	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。	4	社会調査・アンケート調査を知る（3）	調査情報の発掘（2）既存研究を調べる	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。	5	社会調査・アンケート調査を知る（4）	企画・設計、サンプリング	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。	6	調査票の作成（1）	質問調査用紙の作成（1）質問仮説の設定、対象地の選定	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。	7	調査票の作成（2）	質問調査用紙の作成（2）項目案の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。	8	調査票の作成（3）	質問調査用紙の作成（3）質問文、選択肢の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。	9	フィールドワーク（1）	調査に取り組む（1）	現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。	10	フィールドワーク（2）	調査に取り組む（2）	現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。	11	報告会の準備（1）	調査の集計・分析	調査結果の集計・分析・考察	12	報告会の準備（2）	調査の集計・分析・検定	調査結果の集計・分析・考察	13	報告会の準備（3）	調査の集計・分析・考察	調査結果の集計・分析・考察	14	調査研究の報告会（1）	これまでの調査研究の報告と講評会	報告会のための資料の準備を行う	15	調査研究の報告会（2）	これまでの調査研究の報告と講評会	報告会のための資料の準備を行う
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	講義のガイダンス、社会調査の歴史、背景など	配布したプリントを基に、復習を1時間行う。																																																																
2	社会調査・アンケート調査を知る（1）	社会調査・アンケート調査の種類について	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。各種調査の事例を探す。																																																																
3	社会調査・アンケート調査を知る（2）	調査情報の発掘（1）寝屋川市の統計データを調べる	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。																																																																
4	社会調査・アンケート調査を知る（3）	調査情報の発掘（2）既存研究を調べる	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。																																																																
5	社会調査・アンケート調査を知る（4）	企画・設計、サンプリング	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。																																																																
6	調査票の作成（1）	質問調査用紙の作成（1）質問仮説の設定、対象地の選定	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。																																																																
7	調査票の作成（2）	質問調査用紙の作成（2）項目案の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。																																																																
8	調査票の作成（3）	質問調査用紙の作成（3）質問文、選択肢の作成	配布したプリントを基に、予習・復習を1時間行う。																																																																
9	フィールドワーク（1）	調査に取り組む（1）	現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。																																																																
10	フィールドワーク（2）	調査に取り組む（2）	現場調査のやり方についてよく自学自習しておくこと。																																																																
11	報告会の準備（1）	調査の集計・分析	調査結果の集計・分析・考察																																																																
12	報告会の準備（2）	調査の集計・分析・検定	調査結果の集計・分析・考察																																																																
13	報告会の準備（3）	調査の集計・分析・考察	調査結果の集計・分析・考察																																																																
14	調査研究の報告会（1）	これまでの調査研究の報告と講評会	報告会のための資料の準備を行う																																																																
15	調査研究の報告会（2）	これまでの調査研究の報告と講評会	報告会のための資料の準備を行う																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	地域・都市計画学、住環境管理学、空間情報演習、集合住宅管理学、卒業研究																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>まちの見方・調べ方</td><td>西村幸夫他</td><td>朝倉書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まちの見方・調べ方	西村幸夫他	朝倉書店	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	まちの見方・調べ方	西村幸夫他	朝倉書店																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	対面授業																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	住生活・空間情報演習 2020(検索キー：住空間) hlsi2020（登録は9/15から）																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	演習への取り組み（20％）、報告課題（80％）で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	空間情報演習で取り組む課題と関連したテーマを扱うため、原則空間情報演習も履修すること。																																																																		
担当者の研究室等	1 2 号館 6 階 坂本教授室																																																																		
備考	事前事後学習は毎回概ね1時間行うこと。																																																																		

科目名	古典文学から学ぶ	科目名 (英文)	Classic Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1401a2		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。
授業方法と留意点	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する
科目学習の効果（資格）	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む
	2	作品としての『百人一首』1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む
	3	作品としての『百人一首』2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む
	4	作品としての『百人一首』3	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む
	5	四季歌を読む 春 1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 春の歌を読みます	配布プリントを読む
	6	四季歌を読む 春 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 桜の歌を読みます	配布プリントを読む
	7	四季歌を読む 夏	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 夏の歌を読みます	配布プリントを読む
	8	四季歌を読む 秋 1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 秋の歌を読みます	配布プリントを読む
	9	四季歌を読む 秋 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む
	10	四季歌を読む 冬	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 冬の歌を読みます	配布プリントを読む
	11	恋歌 1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	12	恋歌 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	13	恋歌 3	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	14	雑歌 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む
	15	授業の総括	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 『百人一首』の意義と他の文学作品との	配布プリントを読む

			関わり																	
実務経験																				
関連科目	日本語読解																			
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																	
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																	
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	授業態度(質問への回答)や復習テストなど20%、定期試験80% ”新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価方等を変更する場合があります、その際は別途連絡する”																			
学生への メッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																			
備考	予習復習は、配布資料を約1時間程度通読する。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																			

科目名	近代文学から学ぶ	科目名 (英文)	Modern Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1402a2		

授業概要・目的	この講義では、明治以降現代までの新聞小説を、朝日新聞を中心に読んでいきます。作品の面白さとともに、時代順に読むことで、近現代史の中で新聞小説が持つ役割も考えましょう。
到達目標	社会性、時事性など新聞小説の特色を理解すること。文学の枠内だけでなく、複数の視点で大きく作品を捉えるようになることが目標です。
授業方法と留意点	配布資料による。不定期に復習テストを行います。 また、授業で紹介した新聞小説を最低 1 冊読み、定期試験で感想文を書いてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	日本近代文学の教養を身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 新聞小説とは何か	本講義に臨むための基本姿勢と注意点について説明 新聞小説の始まりと歴史	特になし
	2	明治時代の新聞小説 1	黎明期 (明治 30 年まで) の新聞小説 尾崎紅葉『金色夜叉』を中心に	配布資料と作品を読む
	3	明治時代の新聞小説 2	明治 31 年以降の新聞小説 夏目漱石『虞美人草』を中心に	配布資料と作品を読む
	4	明治時代の新聞小説 3	夏目漱石『坊主』	配布資料と作品を読む
	5	大正時代の新聞小説 1	中勘助『銀の匙』 芥川龍之介『地獄変』	配布資料と作品を読む
	6	大正時代の新聞小説 2	菊池寛『真珠夫人』 谷崎潤一郎『痴人の愛』	配布資料で作品を読む
	7	大正時代の新聞小説 3	江戸川乱歩『一寸法師』を中心に	配布資料と作品を読む
	8	昭和初期の新聞小説	川端康成『浅草紅団』	配布資料と作品を読む
	9	戦前・戦中の新聞小説	戦前・戦中の新聞小説の特色 火野葦平『花と兵隊』を中心に	配布資料と作品を読む
	10	戦後の新聞小説 1	戦後の新聞小説の特色 石坂洋次郎『青い山脈』 太宰治『グッド・バイ』	配布資料と作品を読む
	11	戦後の新聞小説 2	三島由紀夫『にっぽん製』	配布資料と作品を読む
	12	現代の新聞小説 1	松本清張『砂の器』	配布資料と作品を読む
	13	現代の新聞小説 2	有吉佐和子『複合汚染』	配布資料と作品を読む
	14	現代の新聞小説 3	宮部みゆき『理由』	配布資料と作品を読む
	15	現代の新聞小説 4 本講義のまとめ	東野圭吾『手紙』 奥田英朗『沈黙の町で』など 近年の作品 講義で取り上げた新聞小説のまとめと時代との関わり。	配布資料と作品を読む

実務経験	
関連科目	日本語読解

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	水曜 1 限目 : 81gcpvv 水曜 2 限目 : v6qlz1l
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	【B】 Teams 「オンライン型」
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :
評価方法 (基準)	不定期の復習テスト 20% 定期試験 (感想文を含む) 80% "新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価方等を変更する場合があります、その際は別途連絡する"
学生への メッセージ	新聞小説というジャンルを意識し、社会と文学との関わりを考えてみよう。文学が時代を反映していることや社会に与える影響を、新聞小説を通して理解することが重要である。また、授業で興味を持った作品を積極的に読み、読書の楽しさを知ってもらいたい。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	予習復習は、新聞小説としての特徴を考えながら、配布資料を約 1 時間程度通読する。 質問は、Teams で受け付ける。

科目名	日本語読解	科目名 (英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1403a2		

授業概要・目的	文章を読むことは好きだろうか。大学で何を学ぶにせよ、「論文などの難解な文章を理解する」「長い文章から重要な事項をピックアップする」力は大学生活に必須である。 また、人の心の動きが表現された文学作品を読解することは、他者の気持ちを類推するトレーニングにもなり、今後の社会生活にも役立つことだろう。 文章を読むことによって、語彙力や表現力も磨かれ、自分の考えを伝える力も向上する。 この授業では、日本語の文法の基本を学ぶ。また、様々なジャンルの文章を読むことによって、語彙力や表現力の向上を目指す。最終的には、評論文や論文などの論理的な文章を正しく読解し、要約できるようにする。さらに、読解力を養成することで思考力を獲得し、自己の考えを文章化することにつなげることを目標とする。			
到達目標	・日本語の文法の基本を学び、新聞記事や論説文について正確な読解を行う ・論文など論理的な文章を読解する能力を身につける ・さまざまなジャンルの文章にふれ、語彙や表現を学ぶ			
授業方法と留意点	授業では、まず文法や語彙についての小テストを行う。 その後、受講者が各自でやや長い文章を読み、問題に解答する。 その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読してくる。 受講者の理解度を確認するため、課題を作成させることもある。期末テストに向けて復習を怠らないこと。			
科目学習の効果 (資格)	大学の授業・社会人になってから必要な読解能力			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス／難読漢字を読む (1)	授業内容、授業の進め方、評価基準等について説明する。 難読漢字を学ぶことで、語彙力を高める。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	2	文法を学ぶ／難読漢字を読む (2)	読解の基礎となる文法を学ぶ。 難読漢字を学ぶことで、語彙力を高める。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	3	文の構造について学ぶ／語彙を豊かにする (1)	文の構造に注目し、文中に述べられている複数の事柄の関係を読解する。 ことわざや故事成語を学ぶことで、語彙力を高める。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	4	要点をおさえて文章を読む／語彙を豊かにする (2)	やや長い文章を要点を押さえて読解する。 類義語や対義語について正確に理解する。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	5	新聞を読む／語彙を豊かにする (3)	文や文章の組み立てに注目しながら、新聞記事や社説を正しく読解し、内容について考える。 カタカナ語を学ぶことで、語彙力を高める。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	6	接続詞・指示語／漢字・語彙	接続詞や指示語に注意しながら、文章を整序する練習を行う。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	7	文と文の関係、論理展開	本文を構成する文と文の関係や、論理展開に注意しながら、文中の空欄補充を行う。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	8	内容把握 (1) 基礎	人文科学分野の文章を読み、内容を把握する。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	9	内容把握 (2) 発展	人文科学分野の長い文章を読み、内容を把握する。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	10	要旨把握 (1)	人文科学分野の文章を読み、要旨を把握する。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	11	要旨把握 (2)	自然科学分野の文章を読み、要旨を把握する。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	12	長文読解についての復習テスト／資料読解 (1)	接続詞、指示語、論理展開、内容把握、要旨把握、についての小テストを行う。 資料読解に必要な表現を学ぶ。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	13	資料読解 (2)	実数や割合に関する数表を読み解く。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。

		14	資料読解（3）	実数や割合に関する数表を読み解く。	事前学習：配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
		15	本講義のまとめ	第一回から第十四回までの理解度を確認するまとめの講義を行う。	本講義で学んだことを今後に活かすため、各自定期試験に向け復習する。
実務経験					
関連科目	文章表現法				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	期末テスト100%				
学生への メッセージ	・能動的な態度で授業に臨むこと。 ・遅刻しないこと。 ・私語は厳禁とする。 ・さまざまなジャンルの本を読み、他者の考え方を知ることによって思考力が身につく。幅広い関心を持って、日頃から読書に親しむようにしよう。				
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）				
備考	授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読してくること。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する				

科目名	日本語読解	科目名 (英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1403a2		

授業概要・目的	日々、何を読んでいますか？ また、日々、何を書いていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。 語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積み、読解した内容に対して自分なりの考えを表現すること。この三つの力を磨くことを目標とします。																																																																		
到達目標	【目標1】語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。 【目標2】さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちや想像しながら読み解くこと。 【目標3】文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。																																																																		
授業方法と留意点	◇毎回、語句チェックを通じて語彙力を磨きます。また毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進めます。最後にその日の授業を振り返って文章にまとめることを必須とします。 ◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。 ◇毎回提出する小レポートから、随時取り上げて公開添削し、表現の弱点をみがいていきます。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>エッセイ (1)</td><td>叙情的な作品に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>エッセイ (2)</td><td>軽妙洒落な作品に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>エッセイ (3)</td><td>空想的な作品に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>文語的な文章 (1)</td><td>古典の作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>文語的な文章 (2)</td><td>古典を踏まえた古典作品を読み、発想の広がりに触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文語的な文章 (3)</td><td>古典を踏まえた現代の作品を読み、発想の広がりに触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>小説 (1)</td><td>近代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>小説 (2)</td><td>現代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>小説 (3)</td><td>翻訳された有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>実用的な文章 (1)</td><td>手紙文を「読解」してみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>実用的な文章 (2)</td><td>ビジネス文書を「読解」してみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>実用的な文章 (3)</td><td>説明文を「読解」してみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>韻文 (1)</td><td>身近な歌の歌詞を作品として「読解」してみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>韻文 (2)</td><td>短歌を身近なものとして「読解」してみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>韻文 (3)</td><td>俳句を身近なものとして「読解」してみる。</td><td>プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	エッセイ (1)	叙情的な作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	2	エッセイ (2)	軽妙洒落な作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	3	エッセイ (3)	空想的な作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	4	文語的な文章 (1)	古典の作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	5	文語的な文章 (2)	古典を踏まえた古典作品を読み、発想の広がりに触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	6	文語的な文章 (3)	古典を踏まえた現代の作品を読み、発想の広がりに触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	7	小説 (1)	近代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	8	小説 (2)	現代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	9	小説 (3)	翻訳された有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	10	実用的な文章 (1)	手紙文を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	11	実用的な文章 (2)	ビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	12	実用的な文章 (3)	説明文を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	13	韻文 (1)	身近な歌の歌詞を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	14	韻文 (2)	短歌を身近なものとして「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。	15	韻文 (3)	俳句を身近なものとして「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	エッセイ (1)	叙情的な作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
2	エッセイ (2)	軽妙洒落な作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
3	エッセイ (3)	空想的な作品に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
4	文語的な文章 (1)	古典の作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
5	文語的な文章 (2)	古典を踏まえた古典作品を読み、発想の広がりに触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
6	文語的な文章 (3)	古典を踏まえた現代の作品を読み、発想の広がりに触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
7	小説 (1)	近代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
8	小説 (2)	現代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
9	小説 (3)	翻訳された有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
10	実用的な文章 (1)	手紙文を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
11	実用的な文章 (2)	ビジネス文書を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
12	実用的な文章 (3)	説明文を「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
13	韻文 (1)	身近な歌の歌詞を作品として「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
14	韻文 (2)	短歌を身近なものとして「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
15	韻文 (3)	俳句を身近なものとして「読解」してみる。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法	◇講義ごとに小レポートを提出することで、出席とみなします。																																																																		

(基準)	◇最終成績は、定期試験に代わる最終レポートの結果5割と、小レポートの回答状況5割とを合わせて判断します。 ◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。
学生へのメッセージ	「本を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	◇事後学習として、授業後少なくとも半時間は、学習した事項を書いて覚えたり、曖昧な箇所は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。 ◇毎週水曜は3限からの授業なので、お昼休みは非常勤講師室に在室しています。

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	段階的に文章執筆のメソッドを習得し、最終的に 1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行う。教科書は必ず用意して授業に臨むこと。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現問題のプリントを行う。このプリントのまとめをテストとして実施し、成績評価に取り入れるため、遅刻をしないこと。 講義の進捗状況によって、シラバスに記載した順番が前後することもある。
科目学習の効果 (資格)	レポート・論文の作成に必要な文章スキルを身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 文章の書き方 1 文章表現の基礎を学ぶ	本講義に臨むための基本姿勢 講義 文章表現の基礎	授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	2	文章の書き方 2 文章表現の基礎を学ぶ	講義 文章表現の基礎	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	3	事実の記述と意見の記述 【課題 1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	講義 事実を述べる文章と意見を述べる文章の違い 論理的に説明する方法	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う
	4	課題 1 の返却 要約	課題 1 のフィードバック 個別に不足点を指導する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	5	文章を引用し、出典注記を記す	講義 他者の文章を引用する際の作法をまなぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	6	文章を引用し、出典注記を記す【確認】	講義 文章の引用方法習得の確認	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	7	【課題 2】文章資料を引用し、出典注記を明記する文章を書く	確認テスト	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う
	8	三部構成	講義 論理的文章の構成をまなぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	9	図表の引用	講義 図表などのデータを引用する方法	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	10	課題 2 の返却	フィードバック 個別に不足点を指導する	教科書 意見の述べ方を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む 課題 2 を見直す
	11	意見の述べ方	講義 総合的な見解の述べ方をまなぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	12	【課題 3】資料 (文章と図表) を引用して見解を述べる	文章と図表を引用し、論理的な文章を書く	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う
	13	引用の確認	講義 図表の引用と出典注記の記述方法を確認する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	14	小テストの実施	これまで行った小テストの内容を確認する	全回配布分のプリントを確認・見直す
	15	課題 3 の返却	レポートのフィードバックと総括	課題 3 を見直す 各自の理解不足箇所を補う
実務経験				
関連科目	ゼミ、卒業研究など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	ijqid2w			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題3回により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておく。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックします。			

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田林 千尋
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 具体的には、教科書を用いた講義形式で、論理的な文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 授業時間内に 2 回の課題と、1 回のレポートを提出する。 授業時間内に小テスト（予習不要）を行い、最後に確認テストを行う。 教科書の問題にきちんと取り組んでいるか、適宜チェックを行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、評価方法、進め方等の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ 原稿用紙の使い方	復習：教科書 1-6 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 7-12 頁 (0.5 時間)
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書 7-12 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 13-17 頁 (0.5 時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、必要なことをわかりやすく説明する方法を学ぶ	復習：教科書 1-17 頁 (0.5 時間)
	4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	復習：教科書 1-17 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 19-22 頁 (0.5 時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	復習：教科書 19-22 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 23-26 頁 (0.5 時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を知る	復習：教科書 23-26 頁 (0.5 時間)
	7	【課題 1】フィードバック	【課題 1】のフィードバック これまでの復習	復習： 課題 1 の見直し (0.5 時間) 教科書 1-26 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 27-31 頁 (0.5 時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書 27-31 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 32-37 頁 (0.5 時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書 27-37 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 38-39 頁 (0.5 時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	文章・図表からの引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	復習：教科書 27-39 頁 (0.5 時間)
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる	復習：教科書 1-39 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 41-44 頁 (0.5 時間)
	12	レポートの書き方 1・2 【レポート】執筆 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題についての説明 レポートテーマの決定 【レポート】の執筆 次週までに調べることのリストアップ	復習：教科書 1-44 頁 (0.5 時間) 予習：【レポート】に必要な資料を集めてくる (0.5 時間)
	13	【課題 2】フィードバック 【レポート】執筆 2	【課題 2】のフィードバック 【レポート】の執筆 次週までに調べることのリストアップ	復習： 教科書 1-44 頁 (0.5 時間) 【課題 2】を見直す (0.5 時間) 予習：【レポート】に必要な資料を集め、あらかじめ文章にまとめる (1 時間)
	14	【レポート】執筆 3 【レポート】提出	【レポート】の執筆 【レポート】を完成させ、提出する	復習：教科書 1-44 頁 (0.5 時間) 予習：小テストの復習 (1 時間)
	15	【レポート】フィードバック 小テストの復習テスト	【レポート】のフィードバック 小テストの復習テストをする	復習：教科書 1-44 (0.5 時間)

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	ax0ay9q
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により 評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	【重要】教科書は必ず1人1冊購入してください。各自教科書を持っていることを前提に授業を進めます。内容理解の確認もします。 日常会話で使っている日本語と、大学のレポートや論文、社会に出てから作成する報告書などで用いる日本語は区別しなくてはなりません。本講義では、レポート・論文・報告書で書くべき論理的文章はもちろん、就職活動で重要となる敬語などを広く学びます。これからの学生生活、社会人生活に必要なことと理解し、日本語と真面目に向き合ひましょう。
担当者の 研究室等	-----<通常時>----- 7号館2階非常勤講師室（水曜日 13:00～15:10 在室） それ以外の時間帯の緊急連絡はメールにて対応します。メールアドレスは初回授業にて伝えます。 -----<遠隔授業時>----- 水曜日にメール確認をします。それ以外もメールは常時受け付けていますが、必ずしも即時返信を約束するものではありません。緊急の連絡がある場合は、メールの題名に【緊急】、【要返信】などを付けて送ってください。
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 【再度確認】教科書は必ず1人1冊購入してください。各自教科書を持っていることを前提に授業を進めます。内容理解の確認もします。

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	テキストに即して講義形式で知識を整理したのち、各自課題に取り組み、その結果を適宜講師が確認しながら教室全体にフィードバックする形で授業を進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・はじめに ・文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	2	・文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	3	・事実と意見	事実と意見の書き分け	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	4	・課題①－1 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	5	・課題①－2 説明文	課題①を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	6	・構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	7	・要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	8	・文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	9	・図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	10	・意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	11	・課題②－1 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	12	・課題②－2 論説文	課題②を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	13	・レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	14	・レポートの書き方 2	レポートの作成の注意点を教える	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	15	・最終課題レポート	まとめのレポートを作成する	当日のレポート作成に備えて、テキストを読み直して注意点を確認しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「大学生の日本語文章表現」	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	毎回の提出レポートに「質問その他」の欄を設けます。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	学生として、社会人として、他人に自分の考えていることを伝えるには、友人とのラインのやり取りのようなわけにはいきません。自分の文章を胸を張って他人に提示できるように、実際に手を動かしてトレーニングを重ねましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	◇事前事後学習の総時間の目安は15時間。 ◇提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	人間力と心理	科目名 (英文)	Human Capability and Psychology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1405a2		

授業概要・目的	本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。 これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上での心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。																																																																		
到達目標	自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。																																																																		
授業方法と留意点	Web folder にパワーポイントの資料を提示します。各自ダウンロードして学習を進めてください。スライド部分だけでなく、画面下部のノートというところに、講義で話す予定だった内容も書かれていますので、そちらも読むようにしてください。 自己紹介、試験や成績評価については、資料にも記載していますが、動画を載せることができたなら、動画でも自己紹介、試験や成績評価の説明をおこないます。コロナに関する役立ちそうな情報も載せることができたなら載せるかもしれません。 試験に代わる課題については、7月に入ってから W																																																																		
科目学習の効果 (資格)	自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明</td><td>本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。</td><td>教科書で、興味の持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>感覚と知覚について</td><td>本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。</td><td>五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>記憶について</td><td>本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。</td><td>教科書（暮らし 08）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>学習理論、子育て、人の伸ばし方について</td><td>本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。</td><td>教科書（仕事 06, 09, 人間関係 03, 06）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>自尊心（自信）について</td><td>本講義では、生きていくうえで重要な自尊心（自信）について学ぶ。</td><td>教科書（悩み 08, 暮らし 01, 友だち 01, 08, 09, 人間関係 05）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>性格やパーソナリティ障害について</td><td>本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。</td><td>教科書（悩み 05, 友だち 05, 07, 人間関係 08）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について</td><td>本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。</td><td>教科書（暮らし 02, 恋愛 06）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について</td><td>本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。</td><td>うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>虐待について</td><td>本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。</td><td>ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>DV（ドメスティックバイオレンス）について</td><td>本講義では、DVの背景や実情について学ぶ。</td><td>教科書（恋愛 09, 12, 14）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>社会的認知、集団の心理について</td><td>本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。</td><td>教科書（仕事 05, 08）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>感情と欲求、ストレスマネジメントについて</td><td>本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。</td><td>教科書（悩み 01, 02, 03）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>コミュニケーション、傾聴、共感について</td><td>本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴（話の聴き方）や共感について学ぶ。</td><td>教科書（悩み 06, 07, 友だち 11, 仕事 11, 人間関係 02）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について</td><td>本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。</td><td>教科書（暮らし 02, 仕事 03, 04）を一読しておくことが望ましい。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>講義全体のまとめ</td><td>本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。</td><td>全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味の持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい。	2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい。	3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書（暮らし 08）を一読しておくことが望ましい。	4	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	教科書（仕事 06, 09, 人間関係 03, 06）を一読しておくことが望ましい。	5	自尊心（自信）について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心（自信）について学ぶ。	教科書（悩み 08, 暮らし 01, 友だち 01, 08, 09, 人間関係 05）を一読しておくことが望ましい。	6	性格やパーソナリティ障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書（悩み 05, 友だち 05, 07, 人間関係 08）を一読しておくことが望ましい。	7	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書（暮らし 02, 恋愛 06）を一読しておくことが望ましい。	8	成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい。	9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい。	10	DV（ドメスティックバイオレンス）について	本講義では、DVの背景や実情について学ぶ。	教科書（恋愛 09, 12, 14）を一読しておくことが望ましい。	11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	教科書（仕事 05, 08）を一読しておくことが望ましい。	12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	教科書（悩み 01, 02, 03）を一読しておくことが望ましい。	13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴（話の聴き方）や共感について学ぶ。	教科書（悩み 06, 07, 友だち 11, 仕事 11, 人間関係 02）を一読しておくことが望ましい。	14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	教科書（暮らし 02, 仕事 03, 04）を一読しておくことが望ましい。	15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味の持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい。																																																																
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい。																																																																
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書（暮らし 08）を一読しておくことが望ましい。																																																																
4	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	教科書（仕事 06, 09, 人間関係 03, 06）を一読しておくことが望ましい。																																																																
5	自尊心（自信）について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心（自信）について学ぶ。	教科書（悩み 08, 暮らし 01, 友だち 01, 08, 09, 人間関係 05）を一読しておくことが望ましい。																																																																
6	性格やパーソナリティ障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書（悩み 05, 友だち 05, 07, 人間関係 08）を一読しておくことが望ましい。																																																																
7	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書（暮らし 02, 恋愛 06）を一読しておくことが望ましい。																																																																
8	成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい。																																																																
9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい。																																																																
10	DV（ドメスティックバイオレンス）について	本講義では、DVの背景や実情について学ぶ。	教科書（恋愛 09, 12, 14）を一読しておくことが望ましい。																																																																
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	教科書（仕事 05, 08）を一読しておくことが望ましい。																																																																
12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	教科書（悩み 01, 02, 03）を一読しておくことが望ましい。																																																																
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴（話の聴き方）や共感について学ぶ。	教科書（悩み 06, 07, 友だち 11, 仕事 11, 人間関係 02）を一読しておくことが望ましい。																																																																
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	教科書（暮らし 02, 仕事 03, 04）を一読しておくことが望ましい。																																																																
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学</td><td>ゆうきゆう</td><td>学研プラス</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する 10 のアプローチ</td><td>板口 典弘</td><td>講談社</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する 10 のアプローチ	板口 典弘	講談社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する 10 のアプローチ	板口 典弘	講談社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	・ 7 月に入ってから、Web folder に課題を提示する。 各自ダウンロードして、課題を完成させる、その課題の得点を成績評価に用いる (100%)。 課題の提出は、Web folder で提出するものとする。
学生への メッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	・ 講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします（メールでも可）。 ・ 事前事後学習に、毎回 1 時間以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。

科目名	心理と社会	科目名 (英文)	Psychology and Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ト部 敬康
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1406a2		

授業概要・目的	「心理と社会」では、現代社会の構造と、そこに暮らす私たち人間のこころと行動とが、どのように関わっているのかについて、昨今の日本社会の状況に即して考えるための視点を提供する。前者については近代の特質を扱った基礎的な社会学理論を、後者については社会心理学の代表的な理論を紹介する。そのうえで両者の関連について、現代日本社会の特質を交えて考察する。 以上の内容を通して、社会や人間について私たちが陥りがちな独断や偏見からの脱却と、有意義な人生を構築するための教養を育むことを目的としたい。
到達目標	①現代日本社会の特質と、そこに生きる人々のこころや行動との関連性について理解すること。 ②①を通して、深い人間理解と社会洞察ができるようになること。
授業方法と留意点	原則として講義をするので、口述筆記が必要である。パワーポイントは使用しない。受講者が少人数なら、議論やグループで行うゲームも併用する。
科目学習の効果 (資格)	目に見える「何か」のための学ぶわけではない。しかし、全力を尽くした活動は、実践した人には必ず何らかの効果がある。いま、このような「無用の用」という考え方が急速に失われつつある。この講義では、こうした視点を獲得し、「人間とは何か」「社会とは何か」という、諸君が生きるうえで必ず必要となる「根本的に考える力」を涵養する効果が得られる。ただし、その質・量は当該個人の集中力と努力に比例する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業概要・目的・内容・授業の進め方・授業のルール・評価基準、などについて説明します。	講義目的と関連することがらを、諸君の生活に即して考える。
	2	「近代」の特質 (1)	ウェーバーの「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を概説し、私たちの物質観や人生観の基盤について考える。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	3	「近代」の特質 (2)	デュルケムの『自殺論』から、個人的不幸と社会的な不幸は必ずしも一致しないことを説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	4	「近代」の特質 (3)	社会制度としての人間の感情と欲求について説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	5	社会心理学の理論 (1)	原因帰属の理論と錯誤帰属について説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	6	社会心理学の理論 (2)	認知的不協和理論について説明する。おもに、実験データを紹介する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	7	社会心理学の理論 (3)	認知的不協和理論について説明する。おもに、カルト宗教や根拠のないお話を簡単に信じ込む仕組みについて説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	8	社会心理学の古典的実験研究 (1)	同調についての実験を紹介し、社会規範の基盤について説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	9	社会心理学の古典的実験研究 (2)	ジンバルドーの模範監獄実験を説明し、人間のアイデンティティの揺らぎやすさについて考える。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	10	社会心理学の古典的実験研究 (3)	ミルグラムの通称・アイヒマン実験を説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	11	社会心理学の理論 (4)	社会的交換理論について説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	12	現代日本社会の生きづらさ (1)	社会的交換理論の応用として、情報化社会への過剰な適応のもたらす病理について説明する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	13	現代日本社会の生きづらさ (2)	前回の説明をふまえて、SNSを用いたコミュニケーションの「しんどさ」について考察する。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	14	現代日本社会の生きづらさ (3)	社会と個人の「マクドナルド化」について考察し、現代日本社会の閉塞性の正体を明らかにする。	講義内容をノートにまとめて、よく理解する。
	15	総括	これまでの内容を総括します。最終レポートの提出。	すべての内容を復習する。

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	常識の社会心理：「あたりまえ」は本当にあたりまえか	ト部敬康・林理 (編著)	北大路書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	心理と社会（担当者：卜部） 202425583
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	基本的には、最終レポート100%で評価する。詳しくは初回の講義で説明する。
学生への メッセージ	私はこの大学では初めて講義を担当しますので、どんな学生が受講してくれるか楽しみです。非常勤なので、講義時しか大学にいませんが、質問には時間をかけて答えるつもりがありますので、講義の感想なども含め、講義の前後に気軽に話しかけてください。
担当者の 研究室等	11号館6階 経営学部事務室
備考	事前事後学習については、毎回1時間以上はかけて、講義内容を日常生活のさまざまな場面で自らの行動と関連づけて理解するように努めること。

科目名	実践の思想	科目名（英文）	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー（DP）	A◎		
科目ナンバリング	THU2407a2		

授業概要・目的	この授業では、私たちの価値観や規範のルーツとなり、先人たちが培ってきたものづくりを支えている日本の思想を知り、プロフェッショナルとしての技術者のありかたを考えます。 技術の発展は、どの人にも人間らしい生活を可能にする社会を実現し、貧困の解消に大いに貢献する一方で、急速な工業化に伴う深刻な環境汚染も引き起こしました。現在、地球温暖化を食い止め、持続可能な社会を目指す国際的な合意は、自然と調和した技術へのシフトを後押ししています。科学技術が生み出す人工物は時に人の生を超えるほどの長期間にわたって社会と生態系に影響を与えるのですから、専門知識を持ち大規模プロジェクトの実行に関わる技術者は、自らの技術の影響について熟慮する必要があります。 古来から近世に至る日本社会では、自然との調和を目指す考え方が主流でした。古代から近世にかけての土木技術や建築は、日本列島の気候や地形、自然環境を生かすようにして発展した例と言えるでしょう。そうすると、古代から現代にいたる自然観を知ること、環境に配慮した今後の科学技術のあり方を考えるうえで、一つのヒントになりそうです。 ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について、学んでいきましょう。
到達目標	日本社会における自然観・技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。
授業方法と留意点	講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。
科目学習の効果（資格）	科学技術をめぐる歴史をたどることで、人間の知的営みとしての技術のあり方を理解する。 日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに：科学技術と暮らしのなかの持続可能性	授業説明と導入。持続可能な社会とは。	予習 「土木学会倫理綱領」を読んでおく。
	2	日本史のなかの技術と思想：古代から中世へ	技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。	予習 古代から中世にかけての世界史と、近世までの日本史、高校地理を復習しておく。
	3	日本史のなかの技術と思想：近世から近代へ	技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。	予習 近代までの日本の歴史を見ておく。
	4	日本史のなかの技術と思想：日本における公害の歴史と科学技術	4 大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメントについて学ぶ。	予習：4 大公害訴訟について調べる。
	5	日本の里山の思想	日本の里山で培われてきた共生の思想を学ぶ。	予習 西岡常一『木に学べ』（小学館文庫）を読んでおく。
	6	日本の宗教と自然観：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習 テキストにある祝詞『六月晦日大祓』『大殿祭』を読んでおく。
	7	日本の宗教と自然観：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習 テキストにある『一遍上人語録』・『歎異抄』『教行信証』を読んでおく。
	8	日本の組織倫理を支える思想：『論語』から朱子学へ	日本社会への儒学の影響を知る。	予習 『論語』を読んでおく。
	9	日本の組織倫理を支える思想：武士道と町衆の思想	江戸期の多様な思想を知る。	予習 戦国時代から江戸時代の歴史を復習しておく。
	10	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	荻生徂徠と福沢諭吉の思想を知る。	予 習 青 空 文 庫 に あ る 福 沢 諭 吉 『 学 問 の すゝめ 』（ http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html ）を読んでおく。
	11	日本の環境思想：南方熊楠と田中正造	日本社会における共生の思想を知る。	予 習 青 空 文 庫 に あ る 南 方 熊 楠 『 神 社 合 祀 に 関 す る 意 見 』（ http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html ）と、テキストにある南方熊楠『トータムと命名』を読んでおく。
	12	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係を考察する。	予習 高校地理の気候について復習しておく。日本建築の特徴を調べる。
	13	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習 テキストにある岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。
	14	日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦	自然と調和した美とものづくりを支える思想を知る。	予 習 青 空 文 庫 に あ る 九 鬼 周 造 『 い き の 構 造 』（ http://www.aozora.gr.jp/cards/000065/files/393_1765.html ）を読んでおく。
	15	まとめ：持続可能な社会と科学技術	環境アセスメントを手がかりに市民感覚を持った技術者のあり方を考える。	予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」および日本土木学会「倫理綱領」を読むこと。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	思想のアンソロジー	吉本隆明	ちくま学芸文庫
	2	技術士倫理綱領の解説	公益社団法人 日本技術士会	http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf
	3	土木学会倫理綱領	公益社団法人 日本土木学会	http://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	工学の歴史	三輪修三	ちくま学芸文庫
	2	ものづくりの科学史	橋本毅彦	講談社学術文庫
	3	技術の街道をゆく	畑村洋太郎	岩波新書
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物 20%、受講態度 20%の割合で総合的に評価する。 提出物については、提出後、評価基準について説明し、全体的な講評を行う。なお、一定の基準に満たない場合は再提出を命じることがある。 受講態度については、グループディスカッションへの参加度および毎回提出するミニレポートで評価する。 なお、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業中に一時退出した場合、受講態度の評価の対象とせず、欠席として扱う。			
学生へのメッセージ	日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。 遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。			
担当者の研究室等	非常勤講師室			
備考	予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応します。			

科目名	実践の思想	科目名 (英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2407a2		

授業概要・目的	働くことは人生の時間の大半を占める、と言っても決して過言ではない。本講義のテーマは「仕事と人生」であり、日本人の人生観の源流を振り返ることを通じて、専門技術者を志す学生が身につけておくべき職業倫理を学ぶ。具体的には、近年注目されている「武士道」と「商人道」の違いなどを考察することを通じて、そもそもの「道（どう・みち）」なる発想の根幹を掴み、それを自らの実人生に応用できることを目指す。本講義で学ぶことによって、中江藤樹や柳宗悦などの人生観・職業観を知ることができるのと同時に、社会へ出て働くことに向けた心構えが鍛えられるだろう。 職業あるいは仕事を、たんに生きるための手段としてではなく、人生の最も大事な部分を形作る本質的な要素として理解できるような視点——このような視点を鍛え上げることを講義全体の目標とする。																																																																		
到達目標	以下の項目の理解を到達目標とする。 1. 武士道と職業倫理 2. 商人道と職業倫理 3. 〈ものづくり〉における倫理 4. 職業と人生の本質的な関係																																																																		
授業方法と留意点	ノート講義形式。講義内容の理解を問うコメントカードや小テストなどによって授業態度を評価する。なお、小テストおよびコメントカードについては、提出した次の回にリアクションや解答をフィードバックする。 授業の予習・復習はそれぞれ1時間程度行うこと。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日本の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>講義の説明</td><td>事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>科学と技術の基礎（1）</td><td>自然科学の源流：自然を素材や道具と見る世界観がどのように育まれてきたかを見る。</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>科学と技術の基礎（2）</td><td>近代と産業技術：産業化という意味の近代化の特徴を確認する。</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>江戸時代の思想（1）</td><td>武士道と商人道：ひとびとが社会に生きる際に採用しうる異なるエトスを確認する。</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>江戸時代の思想（2）</td><td>中江藤樹の思想：「孝」の思想を学ぶ。</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>江戸時代の思想（3）</td><td>熊沢蕃山の思想：「心」の思想を学ぶ。</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>江戸時代の思想（4）</td><td>安藤昌益の思想：「農本」の思想を学ぶ。</td><td>予習 安藤昌益について調べる（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>江戸時代の思想（5）</td><td>石田梅岩の思想：「心学」と町人の生き方としての思想を学ぶ。</td><td>予習 石田梅岩について調べる（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>江戸時代の思想（6）</td><td>貝原益軒の思想：「本草学」とは何かを学ぶ。</td><td>予習 貝原益軒について調べる（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>職業と人生</td><td>人生における職業の位置づけ：「何のために働くのか」を考察する。</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>柳宗悦の思想</td><td>民藝と手仕事：「機能美」というものについて学ぶ。</td><td>予習 柳宗悦について調べる（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>仏教と職業倫理</td><td>浄土思想と人生観：「救い」と実生活の関係について学ぶ。</td><td>予習 浄土仏教について調べる（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>岡倉天心の思想</td><td>茶道にみる日本人の美観：質素であることと生き方について学ぶ。</td><td>予習 岡倉天心について調べる（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>科学技術がもたらす社会的倫理的問題</td><td>職業・生きがい・アパシーについて</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>講義のふりかえり</td><td>事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解（1時間以上）	2	科学と技術の基礎（1）	自然科学の源流：自然を素材や道具と見る世界観がどのように育まれてきたかを見る。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	3	科学と技術の基礎（2）	近代と産業技術：産業化という意味の近代化の特徴を確認する。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	4	江戸時代の思想（1）	武士道と商人道：ひとびとが社会に生きる際に採用しうる異なるエトスを確認する。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	5	江戸時代の思想（2）	中江藤樹の思想：「孝」の思想を学ぶ。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	6	江戸時代の思想（3）	熊沢蕃山の思想：「心」の思想を学ぶ。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	7	江戸時代の思想（4）	安藤昌益の思想：「農本」の思想を学ぶ。	予習 安藤昌益について調べる（1時間以上）	8	江戸時代の思想（5）	石田梅岩の思想：「心学」と町人の生き方としての思想を学ぶ。	予習 石田梅岩について調べる（1時間以上）	9	江戸時代の思想（6）	貝原益軒の思想：「本草学」とは何かを学ぶ。	予習 貝原益軒について調べる（1時間以上）	10	職業と人生	人生における職業の位置づけ：「何のために働くのか」を考察する。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事：「機能美」というものについて学ぶ。	予習 柳宗悦について調べる（1時間以上）	12	仏教と職業倫理	浄土思想と人生観：「救い」と実生活の関係について学ぶ。	予習 浄土仏教について調べる（1時間以上）	13	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の美観：質素であることと生き方について学ぶ。	予習 岡倉天心について調べる（1時間以上）	14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	職業・生きがい・アパシーについて	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）	15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解（1時間以上）																																																																
2	科学と技術の基礎（1）	自然科学の源流：自然を素材や道具と見る世界観がどのように育まれてきたかを見る。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
3	科学と技術の基礎（2）	近代と産業技術：産業化という意味の近代化の特徴を確認する。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
4	江戸時代の思想（1）	武士道と商人道：ひとびとが社会に生きる際に採用しうる異なるエトスを確認する。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
5	江戸時代の思想（2）	中江藤樹の思想：「孝」の思想を学ぶ。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
6	江戸時代の思想（3）	熊沢蕃山の思想：「心」の思想を学ぶ。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
7	江戸時代の思想（4）	安藤昌益の思想：「農本」の思想を学ぶ。	予習 安藤昌益について調べる（1時間以上）																																																																
8	江戸時代の思想（5）	石田梅岩の思想：「心学」と町人の生き方としての思想を学ぶ。	予習 石田梅岩について調べる（1時間以上）																																																																
9	江戸時代の思想（6）	貝原益軒の思想：「本草学」とは何かを学ぶ。	予習 貝原益軒について調べる（1時間以上）																																																																
10	職業と人生	人生における職業の位置づけ：「何のために働くのか」を考察する。	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
11	柳宗悦の思想	民藝と手仕事：「機能美」というものについて学ぶ。	予習 柳宗悦について調べる（1時間以上）																																																																
12	仏教と職業倫理	浄土思想と人生観：「救い」と実生活の関係について学ぶ。	予習 浄土仏教について調べる（1時間以上）																																																																
13	岡倉天心の思想	茶道にみる日本人の美観：質素であることと生き方について学ぶ。	予習 岡倉天心について調べる（1時間以上）																																																																
14	科学技術がもたらす社会的倫理的問題	職業・生きがい・アパシーについて	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習（1時間以上）																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	哲学から学ぶ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象」とする。評価の仕方は次のとおり。 定期試験 60%、授業態度 40%の割合で採点する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容と小テストへの解答内容を指す。
学生への メッセージ	日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。また、漫然と講義を受けるだけでなく、シラバスを参照し授業の予習・復習を行ないましょう（それぞれ1時間程度）。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	予習（事前学習）・事後学習には、毎回十分に時間をかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2408a2		

授業概要・目的	この授業では、現代社会を形作ってきた哲学・思想を手がかりに、ものごとを多角的に捉える視点を学びます。 ひとは、便利さや快適さを求めて技術を発展させてきました。技術が人間社会のなかでつくり出されたものである以上、そのあり方は社会のなかで共有される価値観、特に自然観や真理観、社会全体にとっての「善」といった視点と強く結びついています。例えば、地球温暖化が問題になっている現在では、未来世代と生態系に負担をかける技術ではなく、現在の様々な資源を未来に残す技術が求められています。 哲学は、存在とは何か、なかでも自己と世界の存在について、根源的に問う知の営みです。古代ギリシャの人々は、人の手では作り出すことができない自然のなかのさまざまな変化を観察し、これに驚くとともに、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。古代ギリシャに始まる万物の始原への問いは、人間について考えるときには「わたし」とはどのような存在か、わたしたちにとって「よく生きる」こととはどのようなことなのか、という問いとなります。 ここでは、私たちの身近な問題と重ね合わせながら、「よく生きる」こととはどういうことなのか、技術は社会のありかたとどのように関わっているのか、考えていきましょう。																																																																		
到達目標	・哲学の歴史と学説を知り、事象について多様な見方が成立することを知る。 ・哲学の思考形式を理解し、論理的に思考できる。 ・毎回のミニレポート課題を通じて、短時間で自分の考えをまとめることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、思考の多様性を知り、物事について多角的に把握する視点を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>はじめに：古代ギリシャの思想から考える自然の姿</td><td>授業説明と導入。技術と思想の関係について考える。</td><td>予習 中学校・高校で学んだ世界史の流れをざっと復習しておく。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>哲学のはじまり：タレスとデモクリトス</td><td>古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。</td><td>予習 「原子論」の歴史について調べる。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>「知への愛」とは何か：『饗宴』と『ソクラテスの弁明』から見えてくること</td><td>「知る」とはどのようなことなのか、考えてみよう。</td><td>予習 ソクラテスの「アイロニー」について調べる。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>自然には目的があるか？：アリストテレス『自然学』</td><td>プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が 1000 年以上支配的だったのか、考える。</td><td>予習 アレクサンドロス大王について調べる。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>宇宙という全体のなかの個人という認識がもたらすもの：ストア主義</td><td>ストア主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。</td><td>予習 古代ローマの歴史を復習しておく。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>宗教のなかの自然：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教</td><td>宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。</td><td>予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>現在でしか生きられない人間にとっての未来とは：アウグスティヌス『告白』</td><td>アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。</td><td>予習 プラトンのイデア論を復習しておく。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>近代自然科学の方法と哲学：デカルト</td><td>数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。</td><td>予習 「科学革命」という言葉を調べておく。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>経験だけが人間の知識をつくる：ロックとヒューム</td><td>人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。</td><td>予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>人はなぜ戦争をするのか？：カント</td><td>カントの定言命法と永遠平和の定義について理解する。</td><td>予習 18 世紀のヨーロッパの政情について調べておく。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>ひとやすみ：消費社会と地球温暖化</td><td>持続可能な社会を目指す技術とは何か、考える。</td><td>予習 マイクロ・プラスチックの問題について調べておく。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>人間の疎外とは何か：マルクス</td><td>産業革命により消費社会が実現したが、これにより人間を自分自身と自然からの疎外が誕生したことを理解する。</td><td>予習 産業革命について調べておく。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>超人という思想：ニーチェ</td><td>ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」を理解する。</td><td>予習 ユーゲン・シュティール様式の建築について調べておく。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>思考の停止が危険な理由とは：アレント</td><td>自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。</td><td>予習 20 世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ：持続可能な社会と技術者倫理</td><td>ひとの「善き生」を目指す科学技術のあり方を考える。</td><td>予習 技術者の説明責任について考えておくこと。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	はじめに：古代ギリシャの思想から考える自然の姿	授業説明と導入。技術と思想の関係について考える。	予習 中学校・高校で学んだ世界史の流れをざっと復習しておく。	2	哲学のはじまり：タレスとデモクリトス	古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。	予習 「原子論」の歴史について調べる。	3	「知への愛」とは何か：『饗宴』と『ソクラテスの弁明』から見えてくること	「知る」とはどのようなことなのか、考えてみよう。	予習 ソクラテスの「アイロニー」について調べる。	4	自然には目的があるか？：アリストテレス『自然学』	プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が 1000 年以上支配的だったのか、考える。	予習 アレクサンドロス大王について調べる。	5	宇宙という全体のなかの個人という認識がもたらすもの：ストア主義	ストア主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習しておく。	6	宗教のなかの自然：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教	宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。	7	現在でしか生きられない人間にとっての未来とは：アウグスティヌス『告白』	アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。	予習 プラトンのイデア論を復習しておく。	8	近代自然科学の方法と哲学：デカルト	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。	予習 「科学革命」という言葉を調べておく。	9	経験だけが人間の知識をつくる：ロックとヒューム	人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。	予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。	10	人はなぜ戦争をするのか？：カント	カントの定言命法と永遠平和の定義について理解する。	予習 18 世紀のヨーロッパの政情について調べておく。	11	ひとやすみ：消費社会と地球温暖化	持続可能な社会を目指す技術とは何か、考える。	予習 マイクロ・プラスチックの問題について調べておく。	12	人間の疎外とは何か：マルクス	産業革命により消費社会が実現したが、これにより人間を自分自身と自然からの疎外が誕生したことを理解する。	予習 産業革命について調べておく。	13	超人という思想：ニーチェ	ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」を理解する。	予習 ユーゲン・シュティール様式の建築について調べておく。	14	思考の停止が危険な理由とは：アレント	自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。	予習 20 世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。	15	まとめ：持続可能な社会と技術者倫理	ひとの「善き生」を目指す科学技術のあり方を考える。	予習 技術者の説明責任について考えておくこと。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに：古代ギリシャの思想から考える自然の姿	授業説明と導入。技術と思想の関係について考える。	予習 中学校・高校で学んだ世界史の流れをざっと復習しておく。																																																																
2	哲学のはじまり：タレスとデモクリトス	古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。	予習 「原子論」の歴史について調べる。																																																																
3	「知への愛」とは何か：『饗宴』と『ソクラテスの弁明』から見えてくること	「知る」とはどのようなことなのか、考えてみよう。	予習 ソクラテスの「アイロニー」について調べる。																																																																
4	自然には目的があるか？：アリストテレス『自然学』	プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が 1000 年以上支配的だったのか、考える。	予習 アレクサンドロス大王について調べる。																																																																
5	宇宙という全体のなかの個人という認識がもたらすもの：ストア主義	ストア主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習しておく。																																																																
6	宗教のなかの自然：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教	宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。																																																																
7	現在でしか生きられない人間にとっての未来とは：アウグスティヌス『告白』	アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。	予習 プラトンのイデア論を復習しておく。																																																																
8	近代自然科学の方法と哲学：デカルト	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。	予習 「科学革命」という言葉を調べておく。																																																																
9	経験だけが人間の知識をつくる：ロックとヒューム	人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。	予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。																																																																
10	人はなぜ戦争をするのか？：カント	カントの定言命法と永遠平和の定義について理解する。	予習 18 世紀のヨーロッパの政情について調べておく。																																																																
11	ひとやすみ：消費社会と地球温暖化	持続可能な社会を目指す技術とは何か、考える。	予習 マイクロ・プラスチックの問題について調べておく。																																																																
12	人間の疎外とは何か：マルクス	産業革命により消費社会が実現したが、これにより人間を自分自身と自然からの疎外が誕生したことを理解する。	予習 産業革命について調べておく。																																																																
13	超人という思想：ニーチェ	ニーチェによるニヒリズムと「生への意志」を理解する。	予習 ユーゲン・シュティール様式の建築について調べておく。																																																																
14	思考の停止が危険な理由とは：アレント	自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。	予習 20 世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。																																																																
15	まとめ：持続可能な社会と技術者倫理	ひとの「善き生」を目指す科学技術のあり方を考える。	予習 技術者の説明責任について考えておくこと。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>反哲学入門</td><td>木田元</td><td>新潮文庫</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	反哲学入門	木田元	新潮文庫	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	反哲学入門	木田元	新潮文庫																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder																																																																		
Teams コード	x8x9b5z																																																																		

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams のメッセージ
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物 (2 回) 20%、ミニレポート (毎回提出) 20% の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。 できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、考えることをあきらめないこと。 遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、ミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命 じることがあります。
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	予習・復習にはそれぞれ 1 時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には 20 時間以上かけるように。 質問等は Teams 等にて対応します。

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2408a2		

授業概要・目的	古代ギリシア時代の哲学者アリストテレスが万学の祖と呼ばれるように、ほんらい哲学とはあらゆる学問の根源にあるものです。この授業では、こうした哲学の深みに触れ、いまある私たち生活、文化を見つめ直すとともに、社会における人文知の意義を学修します。
到達目標	この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。 (1) 社会の課題、問題を自ら発見できる (2) 世の中で当たり前だとされていることを疑って批判的に考えられる (3) ものごと、対象を複数の視点から眺め、考察できる
授業方法と留意点	この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業を進めていきます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、毎回の授業に出席しなければ学修の効果は薄いでしょう。また、授業の終わりに毎回リフレクションシートを提出してもらい、第2回目以降の授業では冒頭でそれを取り上げます。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。
	2	哲学的に考える	ものごとを哲学的に考えるとはどういうことなのでしょう。世の中にはいろいろな意見があるでしょうが、そうした意見のひとつとして、今回は「常識にとらわれないこと」について考えます。そもそも常識とは何なのか、そしてそれにとらわれないというのはどういうことなのか、社会のなかにある具体的な事例をもとに学修します。	事前学習：「タレス」「始源 (アルケー)」について図書館の参考資料 (『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など) で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。
	3	哲学のはじまり	世界で最初の哲学者はタレスであると言われていて、哲学のはじまりは、世界を説明するのに神話ではなく自然の観察によって得られた知見を用いたことにあるとされています。 今回の授業では、ものごとをしっかりと観察することの大切さを学修します。	事前学習：「タレス」「始源 (アルケー)」について図書館の参考資料 (『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など) で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。
	4	悪法も法なのか？	プラトンの対話編『ソクラテスの弁明』と『クリトン』を手がかりに「悪法も法なのか」という問題について考えます。	事前学習：プラトン『ソクラテスの弁明』、『クリトン』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に与えられた課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)
	5	徳は教えることができるのか？	徳は教えることができるのでしょうか。そして不正は教育によって防ぐことができるのでしょうか。今回の授業では、プラトンの対話編『メノン』を手がかりに「徳は教えることができるのか？」という問題について考えます。	事前学習：プラトン『メノン』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分)

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	6	正義とは何か？	私たちの社会ではさまざまな〈正義感〉がぶつかりあっています。ある者が正義と呼ぶものを別の者が不正義と呼び、対立することがしばしばあります。いったい正義とは何なのでしょう。今回の授業では、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、ジョン・ロールズの『正義論』を手がかりに、正義の基本的な概念について学修します。	事前学習：「正義」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された
	7	中庸の徳について	主要な徳のひとつにかぞえられる勇氣は、その気質が強すぎると向こう見ずや無鉄砲となり、徳ではなくなってしまいます。逆にその気質が弱すぎると、今度は臆病となり、やはりこれも徳ではなくなってしまいます。勇氣という徳は、向こう見ずと臆病とのあいだ、すなわち中庸にこそあり、その他の徳も同様に、過剰なものと不足しているものとの中庸にあるというのがアリストテレスの徳についての考え方です。 このことは私たちの生活のなかからも実感できるかもしれません。今回の授業では、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、中	事前学習：「中庸の徳」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席すること。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出され
	8	中間のふり返り	これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどについて質問する時間も設けます。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	9	生の短さについて	セネカ『生の短さについて』を手がかりに生の短さについて考えます。	事前学習：セネカ『生の短さについて』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	10	老年について	日本は世界でもっとも高齢化率が高い超高齢社会になっています。今回の授業では、キケロー『老年について』を手がかりに老年について考えます。	事前学習：キケロー『老年について』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
	11	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれたものであり、散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節に目を通しながら、その深みに触れます。この作業を通じて人文知のあり方をあらためて考えます。	事前学習：パスカル『パンセ』に目を通し、好きな一節を書き留めておきましょう（授業の中で紹介してもらいます）。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって
	12	ブッダの思想	今回の授業では東洋の思想に目を向け	事前学習：ブッダの思想について調べておきましょ

			ます。ソクラテスとブッダはちょうど同じ頃に生きていたとされています。ブッダの思想はどのようなものなのか、古代ギリシア時代の哲学者の思想と比較しながら学修します。	う。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)																
	13	科学と哲学	科学（と翻訳されるもとなっている英語の science）ということばが作られたのは、19 世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていました。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますが、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。 今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系・	事前学習：科学と哲学の関わりについて調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)																
	14	現代社会の諸問題	これまで学修してきたことを手がかりに、現代社会の諸問題について考察します。その上で、私たちがいま古人の教えから何を学ぶことができるのか考えます。	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)																
	15	まとめ、全体のふり回り	これまでの授業をふり回りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。	事前学習：これまでの授業をふり回り、不明な点などを書き出しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90 分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90 分)																
実務経験																				
関連科目		実践の思想																		
教科書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態		Teams「オンライン型」																		
Teams コード		e0f9g44																		
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段		学内メール																		
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)		授業内課題（リフレクション課題）15%、問レポート 30%、期末試験 55%で評価する。ただし、出席率が 80%未満の場合には原則として成績評価の対象としない。																		
学生への メッセージ		決して堅苦しい雰囲気のある授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。																		
担当者の 研究室等		この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7 号館 2 階 非常勤講師室 メールアドレス：xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp																		

	([*]を半角の@に置き換え)
備考	授業内課題（リフレクションシート）、授業に関連する課題調査、中間レポートについては、必要に応じて授業内あるいはポータルサイトを通じてフィードバックがある。

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	織田 康孝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2409a2		

授業概要・目的	現在、世界は非常に複雑な情勢となっており、日々新たな出来事が起きている。連日、テレビや新聞等でそれらを見聞きすることが多いと思うが、私たちは本当にそれらを理解できているだろうか。また、理解はしているがある一方向からの考えで理解しているのではないだろうか。過去があるからこそ今があるというように、現代起っている出来事には必ず原因、つまり歴史がある。 そこで、本講義では、現代に起っている出来事を理解するため、また、それらを様々な角度からみる目を養うために近代日本の歴史、とりわけ、近代日本が行った戦争を事例としてその軌跡を追っていく。そのうえで、近年の地域間紛争や民族紛争、国際紛争について、その要因と国際社会に与える影響について考える。受講生がそれぞれ解決の糸口を多角的に検討できるようになることを本講義の目的とする。				
到達目標	本講義を通じて、近代日本が辿った歴史の基礎知識を身につけることはもちろんのこと、様々な視点から物事を考える能力を養うことが可能となる。加えて、これら歴史上の事象と、現代の国際社会において紛争、飢餓、経済、人種、宗教を起因として発生する様々な問題の背景にある諸条件とを比較検討することによって、現代社会が持つ問題の特質について考察する。				
授業方法と留意点	本講義は、遠隔形式（非同期型）で行います。基本的に毎回の講義内容を WEB 上に掲載し、それを利用して講義を行います。教科書等は必要なく、講義内で参考書を適宜紹介していきます。また、毎回の講義後、小レポート（200 字程度）を提出してもらいます。 なお、事前学習の際は、参考書に挙げている『詳説日本史：日本史 B』および『詳説世界史：世界史 B』にて学修してください。				
科目学習の効果（資格）	歴史を論理的に考えることで、現在起っている事象をも論理的に理解できるようになり、かつ、毎回の授業後における 200 字程度の小レポートを提出することにより学習したことおよび自らの思考をアウトプット出来る能力を養うことができよう。また、講義で学ぶ多様な立場や価値観、視角を理解することで、現代社会に発生している民族間対立や宗教間対立について、知見に基づき客観的に分析することができるようになる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	はじめに	歴史とは何かを考える。授業の方針・全体計画・評価方法について説明する。	みなさんにとって歴史とは何かを考えてきてください。
		2	近代日本の誕生	王政復古や戊辰戦争を通じて近代日本の誕生を考える。	予習として、王政復古や戊辰戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		3	近代日本と軍事	徴兵制などを通じて日本が軍事大国となる原点を辿る。	予習として、徴兵制に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		4	日本と清国	「朝鮮」をめぐる日本と清国の関係をみていく。	予習として、日清戦争以前の日本と清国との関係に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		5	日清戦争	山県有朋の「主権線」・「利益線」などを通じて日清戦争がなぜ起こったのか、また、下関条約による領土拡大を考える。さらに、日清戦争の裏で行われていた魚釣諸島領有問題についてもみていく。	予習として、日清戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		6	日露戦争	三国干渉や日英同盟を通じて日露戦争を考える。また、ポーツマス条約をみることで現在に繋がるロシアとの領土問題について考える。さらに、本戦争と竹島の関係についてもみていく。	予習として、日露戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		7	第一次世界大戦①	民族自決、ワシントン体制を軸に第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考える。	予習として、第一次世界大戦勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		8	第一次世界大戦②	帝国国防方針および総力戦体制論をキーワードに第一次世界大戦が日本に与えた衝撃を考える。	予習として、帝国国防方針や総力戦体制論に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		9	満洲事変	満洲事変とはなにか、また、同事変の目的はいかなるものであったのか。	予習として、満洲事変に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		10	日本の植民地統治	傀儡をキーワードに日本の植民地政策の特質を捉える。	予習として、満洲国や汪兆銘政権に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		11	日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦	日中戦争解決の糸口はどこにあるのか？当時の為政者は何を考えていたのかをみていく。	予習として、日中戦争勃発経緯やアジア・太平洋戦争勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		12	「大東亜共栄圏」構想の形成と展開	「大東亜共栄圏」構想の起源を辿り、同構想がいかに展開したのか、また、日本の各占領地にいかに波及したのかを考える。	予習として、「大東亜共栄圏」に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		13	大東亜会議	大東亜会議とはなにか、また、なにを目的に開催されたのかを考える。	予習として、大東亜会議・重光葵に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		14	帝国日本の解体	帝国日本は単に戦争に負けたから解体したのか。東南アジア占領や「独立」問題などを絡めて帝国日本の解体を考える。 また、帝国日本解体後の問題となる日本領土についても考えていく。	予習として、東条英機内閣・小磯国昭内閣・鈴木貫太郎内閣に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
		15	現代日本を取り巻く諸問題	東北アジアの領土問題（竹島＝独島、尖閣＝釣魚諸島問題、北方四島）など現代日本を取り巻く諸問題に関して考える。	予習として、東北アジアの領土問題について教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
実務経験					
関連科目					

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	詳説日本史：日本史 B	笹山晴生ほか	山川出版社
	2	詳説世界史：世界史 B	木村靖二ほか	山川出版社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	臨時試験（レポート）80%、小レポート（200 字程度）20%			
学生への メッセージ	授業タイトルにもあるように「歴史に学ぶ」ことは非常に大切なことです。周知の通り、過去があるから今があります！現代で起こっている事象には必ず歴史があり、それらを理解するためには歴史をみる必要があります。 高校生までの暗記科目としての歴史ではなく、歴史を様々な角度からみること、考えることで今私たちが生きている現代をみる目も変わってくるはずです。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）			
備考	予習・復習にあてる総時間の目安は 60 時間程度とします。なお、授業での質問等がある場合は、メールにてご連絡ください。			

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2409a2		

授業概要・目的	理工学部のみなさんが学んでいる技術や知識は、その多くが近代の西洋（欧米つまりヨーロッパ・アメリカ）で確立したものです。しかしそれらは近代になって急にできあがったものではなく、古代・中世からつづく人間の営為のなかで誕生しました。つまり歴史の産物なのです。だからより深い理解のためには歴史を、つまり人間社会の経験の積み重ねを学ぶべきなのです。なお歴史は暗記科目ではありません。現在のあらゆる偏見から自由になり、未来を考えるためのよりどころとなる知的営みです。先が見通せない状況だからこそ、後ろをふり返るのです。ヨーロッパの過去という二重の意味での異文化を通して、それを具体的に実践しましょう。																																																																		
到達目標	社会とその時間のなかでの変化という視点を身に着けることで、各専門での学びをより豊かなものとする。また学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。まず復習として、授業プリントを最低2回は読み返すこと。次に予習として、次回分の資料には、あらかじめ目を通してこくこと。最後に話を聞く（文を読む）ときは手を動かす（線を引く、印をつける、メモをとる）こと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。																																																																		
科目学習の効果（資格）	人間社会の時間的変化（つまり歴史）という視点から、それぞれの学問的な専門知識をさらに深める。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>歴史を学ぶにあたって (1)</td><td>授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す</td><td>必ず出席するよう予定を調整する。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>歴史を学ぶにあたって (2)</td><td>成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>歴史を学ぶにあたって (3)</td><td>論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>機械でたどる西洋史 (1)</td><td>水車とともに始まった、アジアからヨーロッパへ</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>機械でたどる西洋史 (2)</td><td>発明だけで歴史は変わらない、人間は「社会」を成す生き物だから</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>機械でたどる西洋史 (3)</td><td>民主的な政治と学芸が発達した古代、発明は起こっても普及につながらない社会</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>機械でたどる西洋史 (4)</td><td>神への信仰と領主の支配が機械の普及につながる</td><td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>機械でたどる西洋史 (5)</td><td>機械の普及が城と騎士の時代を終わらせた</td><td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>建築でたどる西洋史 (1)</td><td>「西洋建築＝石造建築」とは限らない</td><td>同上の課題に加えて小レポート。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>建築でたどる西洋史 (2)</td><td>石造建築が栄えた古代、ただし社会という視点から見つめなおすと...</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>建築でたどる西洋史 (3)</td><td>古代社会の終わりとともに石造りの建築も消える</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>建築でたどる西洋史 (4)</td><td>初期の城は木と土でできていた、教会と都市が石の建築をよみがえらせる</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>建築でたどる西洋史 (5)</td><td>ヨーロッパ都市の中心は大聖堂、建築家の誕生</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>自然学でたどる西洋史 (1)</td><td>「宗教 VS 科学」という思い込み</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>自然学でたどる西洋史 (2)</td><td>化学と錬金術、占星術と天文学</td><td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。	2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	4	機械でたどる西洋史 (1)	水車とともに始まった、アジアからヨーロッパへ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	5	機械でたどる西洋史 (2)	発明だけで歴史は変わらない、人間は「社会」を成す生き物だから	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	6	機械でたどる西洋史 (3)	民主的な政治と学芸が発達した古代、発明は起こっても普及につながらない社会	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	7	機械でたどる西洋史 (4)	神への信仰と領主の支配が機械の普及につながる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	8	機械でたどる西洋史 (5)	機械の普及が城と騎士の時代を終わらせた	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	9	建築でたどる西洋史 (1)	「西洋建築＝石造建築」とは限らない	同上の課題に加えて小レポート。	10	建築でたどる西洋史 (2)	石造建築が栄えた古代、ただし社会という視点から見つめなおすと...	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	11	建築でたどる西洋史 (3)	古代社会の終わりとともに石造りの建築も消える	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	12	建築でたどる西洋史 (4)	初期の城は木と土でできていた、教会と都市が石の建築をよみがえらせる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	13	建築でたどる西洋史 (5)	ヨーロッパ都市の中心は大聖堂、建築家の誕生	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	14	自然学でたどる西洋史 (1)	「宗教 VS 科学」という思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	15	自然学でたどる西洋史 (2)	化学と錬金術、占星術と天文学	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	歴史を学ぶにあたって (1)	授業のルール、すべては表裏一体、現代中心主義から脱け出す	必ず出席するよう予定を調整する。																																																																
2	歴史を学ぶにあたって (2)	成績評価の基準、具体的に書く必要と方法、単純な善悪二元論は捨てよう	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
3	歴史を学ぶにあたって (3)	論理的に書く必要と方法、学ぶことの意義、「進んだ西洋」は思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
4	機械でたどる西洋史 (1)	水車とともに始まった、アジアからヨーロッパへ	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
5	機械でたどる西洋史 (2)	発明だけで歴史は変わらない、人間は「社会」を成す生き物だから	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
6	機械でたどる西洋史 (3)	民主的な政治と学芸が発達した古代、発明は起こっても普及につながらない社会	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
7	機械でたどる西洋史 (4)	神への信仰と領主の支配が機械の普及につながる	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
8	機械でたどる西洋史 (5)	機械の普及が城と騎士の時代を終わらせた	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
9	建築でたどる西洋史 (1)	「西洋建築＝石造建築」とは限らない	同上の課題に加えて小レポート。																																																																
10	建築でたどる西洋史 (2)	石造建築が栄えた古代、ただし社会という視点から見つめなおすと...	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
11	建築でたどる西洋史 (3)	古代社会の終わりとともに石造りの建築も消える	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
12	建築でたどる西洋史 (4)	初期の城は木と土でできていた、教会と都市が石の建築をよみがえらせる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
13	建築でたどる西洋史 (5)	ヨーロッパ都市の中心は大聖堂、建築家の誕生	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
14	自然学でたどる西洋史 (1)	「宗教 VS 科学」という思い込み	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
15	自然学でたどる西洋史 (2)	化学と錬金術、占星術と天文学	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト（40点）、②レポート（30点）、③レスポンスペーパー（30点）。																																																																		

学生への メッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あら
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	第1に事前事後学習は、毎回1時間をはかること。第2に受講および慈善事後学習の際は手を動かす（線を引く、印をつける、メモをとるなど）こと。第3に知識が不足する際には、指定の参考文献を積極的に利用すること。

科目名	健康論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2410a2		

授業概要・目的	現代社会において、生活の質 (QOL) を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。本授業では、身体のかみを理解し、健康増進のための知識とそれを実践するための基礎知識を修得することを目的とする。
到達目標	健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。 身体のかみについては、解剖学的、生理学的、心理学的基礎知識を習得すること、また、健康維持・増進のための栄養学的理解と運動実践の方法を理解し実践できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。 参考資料は適宜配布する。
科目学習の効果 (資格)	この講義を受講することにより、健康な身体づくりのための方法と知識を身に付けることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	・授業の進め方について説明を行う。 ・健康についての基礎的な理解をすることができる。	・授業ノートで復習すること。
	2	社会と健康	・現代日本における健康問題と国の施策について知ることができる。	・授業ノートで復習すること。
	3	生活習慣病と3大疾病	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について正しく理解ができる。	・授業ノートで復習すること。
	4	こころの健康	・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解することができる。	・授業ノートで復習すること。
	5	身体のかみ	・筋・骨格について理解ができる。 ・体組成について知ることができる。	・授業ノートで復習すること。
	6	身体のかみ	・脳・内臓・神経の働きについて理解ができる。	・授業ノートで復習すること。
	7	身体のかみ	・ホルモンバランス、睡眠、アレルギーについて理解ができる。	・授業ノートで復習すること。
	8	食事と栄養	・5大栄養素と食事の選び方について理解、実践ができる。 ・カロリーバランスについて知ることができる。	・授業ノートで復習すること。
	9	食事と現代社会	・食品添加物、サプリメントについて知ることができる。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶことができる。	・授業ノートで復習すること。
	10	嗜好品と薬物	・喫煙、飲酒、カフェインの功罪について理解ができる。 ・薬物について学ぶことができる。	・授業ノートで復習すること。
	11	健康と運動	・全身持久力を高めるための運動処方と実践の方法を理解できる。	・授業ノートで復習すること。
	12	健康と運動	・筋持久力と筋力向上のための運動処方と実践の方法を理解できる。	・授業ノートで復習すること。
	13	健康と運動	・レクリエーションスポーツや生涯スポーツについての理解を深めることができる。	・授業ノートで復習すること。
	14	緊急時の応急手当て	・外傷やスポーツ傷害、熱中症などの初期対応ができる。	・授業ノートで復習すること。
	15	まとめ	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノートで復習すること。

実務経験	
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末試験（４０％）、小テスト（３０％）、課題・提出物（３０％）により評価を行う。 小テストの回答および結果は、次の回の授業でフィードバックを行う。 １００点中６０点で合格とする。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	総合体育館１階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、６０時間を目安とします。

科目名	健康論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中尾 千晶
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2410a2		

授業概要・目的	健康の成り立ち、考え方が理解できる 健康に関わる要因について理解できる				
到達目標	健康について理解し、自身の健康管理に役立てる 自身の健康づくりについて立案する事ができる				
授業方法と留意点	レジュメを配布し、講義形式で授業を進める 課題に対して適宜グループワークを行う				
科目学習の効果（資格）					
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点、評価などの説明 アンケート記入	配布資料の復習 課題予習
		2	健康観	健康に関する考え方、成り立ちを理解する	配布資料の復習 課題予習
		3	健康と統計	健康問題に関わる統計を読み解く	配布資料の復習 課題予習
		4	応急手当	救命手当の重要性、その方法を理解する	配布資料の復習 課題予習
		5	応急手当	急性のケガ、病気、熱中症などの対処法を理解する	配布資料の復習 課題予習
		6	生活習慣病	生活行動、生活習慣、メタボリックシンドロームについて理解する	配布資料の復習 課題予習
		7	生活習慣病	生活習慣病について理解する	配布資料の復習 課題予習
		8	歯と口の健康	口腔ケアについて理解する	配布資料の復習 課題予習
		9	食と健康	食が健康に及ぼす影響について理解する	配布資料の復習 課題予習
		10	運動と健康	運動が健康に及ぼす影響について理解する	配布資料の復習 課題予習
		11	休養と健康	休養が健康に及ぼす影響について理解する	配布資料の復習 課題予習
		12	ストレスマネジメント	ストレスとその対処法を理解する	配布資料の復習 課題予習
		13	依存症	飲酒、喫煙、薬物、スマホが健康に及ぼす影響について理解する	配布資料の復習 課題予習
		14	ライフスタイルの変化と健康	ライフスタイルの変化に伴う健康課題について理解する	配布資料の復習 課題予習
		15	まとめ	健康論総括、補足 まとめテスト	総復習
実務経験					
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習				
教科書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
参考書		番号	書籍名	著者名	出版社名
		1			
		2			
		3			
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 （基準）	出席率 80%以上が成績評価の対象となる 配布資料の記入及び課題提出 40%、授業態度（発言、積極性、呼応状態）20%、まとめテスト 40%で総合的に評価する				
学生への メッセージ					
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 体育館事務室				
備考	質問等ある場合は体育館事務室へ来てください				

科目名	スポーツ科学実習Ⅰ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤, 吉川 万紀
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1411a2		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodle の 2 つの ICT ツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>・ガイダンス</td><td>・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td><td>事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>・体力測定①</td><td>・屋外種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>・体力測定②</td><td>・屋内種目</td><td>事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>・種目の概要 ・基礎知識について</td><td>・種目の概要、基礎知識の説明</td><td>事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム</td><td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム</td><td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td><td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>・ゲーム</td><td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td><td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）	2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）	3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）	4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）	5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）																																																																
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）																																																																
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える（30 分） 事後：自身の体力についての振り返り（30 分）																																																																
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分）																																																																
5	・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
6	・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
7	・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
8	・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
9	・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）																																																																
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：全授業の総括（30 分）																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法	活動点 5 0 %、課題点 5 0 %として、総合評価する。																																																																		

(基準)	
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名（英文）	Practicum in Sports Science II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤、山方 諒平
ディプロマポリシー（DP）	A◎		
科目ナンバリング	TPH1412a2		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術に応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間に内で課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業ではMicrosoft Teamsを使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通でTeamsを用い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する（30分） 事後：本実習の理解を深める（30分）
	2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく（30分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	3	【対面授業】 ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	4	【対面授業】 ・基本技術（基礎編1） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	5	【対面授業】 ・基本技術（基礎編2） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	6	【対面授業】 ・基本技術（応用編1） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	7	【対面授業】 ・基本技術（応用編2） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術に応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）
	9	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）

		・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする（生涯スポーツなど）	事前：これまでのまとめと健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
実務経験																				
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																			
Teamsコード	d392rvw																			
Moodleコース名および登録キー																				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法（基準）	対面授業・・・活動点50％、態度点＋技能点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50％、課題点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。																			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来てください。																			
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。																			

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治、近藤 潤、瀬川 智広、瀧 千波、横山 喬之、渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2413a2		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodle の 2 つの ICT ツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30 分) 事後：本実習の理解を深める (30 分)
	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30 分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30 分)
	3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：内容の振り返り (30 分)
	15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30 分) 事後：全授業の総括 (30 分)

実務経験				
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			

評価方法 (基準)	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の 研究室等	体育館1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用のこと。

科目名	生涯スポーツ実習	科目名（英文）	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤、河瀬 泰治、中尾 千晶、横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2413a2		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間に内で課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業では Microsoft Teams を使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果（資格）	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で Teams を用い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する（30 分） 事後：本実習の理解を深める（30 分）
	2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく（30 分） 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	3	【対面授業】 ・基本技術（導入編） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	4	【対面授業】 ・基本技術（基礎編 1） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	5	【対面授業】 ・基本技術（基礎編 2） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	6	【対面授業】 ・基本技術（応用編 1） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	7	【対面授業】 ・基本技術（応用編 2） ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）
	9	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30 分） 事後：内容の振り返り（30 分）

		・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする（生涯スポーツなど）	事前：これまでのまとめと健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
実務経験																				
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																			
Teamsコード	e4yak6c																			
Moodleコース名および登録キー																				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法（基準）	対面授業・・・活動点50％、態度点＋技能点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50％、課題点50％として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。																			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来てください。																			
担当者の研究室等	体育館1F 体育館事務室																			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。																			

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2413a2		

授業概要・目的	ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的にする。 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見ただけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人のコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。 SDGs-3, 4, 5																																																																		
到達目標	①健康の保持増進ができる ②運動技能を向上させることができる ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる 学科の学習・教育目標との対応：[A]																																																																		
授業方法と留意点	事前ガイダンス（90分）と集中授業4日間（午前、午後、最終日は午後のみ）合わせて5日間で行う。 日程は、オンラインで事前ガイダンスを予定（詳細はポータルで連絡）、9月7日（月）～10日（木）5日間すべて受講できること。 コロナ感染症対策を事前ガイダンスで周知し、実施する。 事前の申し込みが受け付けられることが必要。 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。																																																																		
科目学習の効果（資格）	ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>事前ガイダンス</td><td>目的、内容、準備について ゴルフの概要</td><td>事後：ゴルフの概要を確認（1時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>ゴルフの基礎知識</td><td>ゴルフのルール、マナーについて</td><td>事前：ルールの再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ゴルフの基礎技術（1）</td><td>グリップ、スウィング</td><td>事前：午前中のルール・マナーについて確認（1時間） 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>ゴルフの基礎技術（2）</td><td>打球練習場での練習 アイアン</td><td>事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>ゴルフの基礎技術（3）</td><td>アプローチ、パター練習</td><td>事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>ゴルフの応用技術（1）</td><td>打球練習場での練習 ドライバー</td><td>事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>ゴルフの応用技術（2）</td><td>ミニラウンド</td><td>事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>ゴルフの実践</td><td>ラウンド（9H）</td><td>事前：ラウンドのイメージトレーニング（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認（1時間）	2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）	3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認（1時間） 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）	4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）	5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）	6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）	7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）	8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	事前：ラウンドのイメージトレーニング（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）	9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認（1時間）																																																																
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）																																																																
3	ゴルフの基礎技術（1）	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認（1時間） 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）																																																																
4	ゴルフの基礎技術（2）	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）																																																																
5	ゴルフの基礎技術（3）	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）																																																																
6	ゴルフの応用技術（1）	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：技術の反復練習 ルールの再確認（1時間）																																																																
7	ゴルフの応用技術（2）	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認（1時間） 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）																																																																
8	ゴルフの実践	ラウンド（9H）	事前：ラウンドのイメージトレーニング（1時間） 事後：授業内容を実習ノートにまとめる（1時間）																																																																
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ、Ⅱ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	mr8pt4b																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		

評価方法 (基準)	活動点(態度点含む) 50%、技能点 25%および実習ノート 25%を総合評価する。
学生への メッセージ	履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。 コロナの影響で、実施について変更することがあります。 事前ガイダンスはオンラインで行う予定です。
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 近藤研究室
備考	ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス(半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴(スパイク類は禁止) ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。 雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。 本学東グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心掛けてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果 (資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1-25 番まで勉強する事。
	2	Unit1 Profile 自分を語ろう	be 動詞	教科書 p.1-6、次回の第二回単語テスト範囲、26-50 番まで勉強する事。
	3	Unit2 Sports 多彩だね、スポーツの世界	一般動詞	教科書 p.7-12、次回の第三回テスト範囲、51-75 番まで勉強する事。
	4	Unit3 Special Occasions 特別な日には何をしてあげる!?	名詞、代名詞	教科書 p.13-18、次回の第四回単語テスト範囲、76-100 番まで勉強する事。
	5	Unit4 Families 家族を語ろう	Wh 疑問文	教科書 p.19-24、次回の第語回単語テスト範囲、101-125 番まで勉強する事。
	6	Unit5 Japan Quiz 日本クイズに挑戦	前置詞	教科書 p.25-30、次回の第六回テスト範囲、126-150 番まで勉強する事。
	7	Unit6 Love and Marriage 恋愛はいつの時代も人々の関心事	接続詞	教科書 p.31-36、次回の第七回単語テスト範囲、151-200 番まで勉強する事。
	8	Unit 7 Life History デートは最初が肝心	過去形	教科書 p.37-42、次回の第八回単語テスト範囲、201-250 番まで勉強する事。
	9	Unit 8 Leisure 自分の経験を語ろう	進行形	教科書 p.43-48、次回の第九回単語テスト範囲、251-300 番まで勉強する事。
	10	Unit 9 College Life 学生生活を楽しまう	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.49-54、次回の第十回単語テスト範囲、301-375 番まで勉強する事。
	11	Unit 10 On Vacation 休暇の計画を立てよう	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.55-60、次回の第十一回単語テスト範囲、376-438 番まで勉強する事。
	12	Unit 11 Out and About 自分の気持ちを上手に伝えるには？	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.61-66、次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
	13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
	14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
	15	総合復習	定期試験対策	――

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living Grammar	山本直子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowelett	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷悟志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度 5%)の合計 60%に e-learning 学習進捗度(20%)、共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) を足して総合評価します。統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します。なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す。
学生へのメッセージ	「感動と発見を与える授業に...明るく、元気で一步一步！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけ

	で指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加藤 恭子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5 文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。																																																																		
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってくる。また、毎回授業の最後に課題を出してもらいます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語の演習をする</td><td>テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1</td><td>文の基本パーツ</td><td>テキストの予習と単語学習（1-40）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 1</td><td>文の基本パーツ</td><td>テキストの予習と単語学習（41-80）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 2</td><td>名詞</td><td>テキストの予習と単語学習（81-120）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 2</td><td>名詞</td><td>テキストの予習と単語学習（121-160）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3</td><td>動詞</td><td>テキストの予習と単語学習（161-200）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 3</td><td>動詞</td><td>テキストの予習と単語学習（201-240）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 4</td><td>現在・過去・未来</td><td>テキストの予習と単語学習（241-280）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 4</td><td>現在・過去・未来</td><td>テキストの予習と単語学習（281-320）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 5</td><td>進行形・完了形</td><td>テキストの予習と単語学習（321-360）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 5</td><td>進行形・完了形</td><td>テキストの予習と単語学習（361-400）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 6</td><td>形容詞</td><td>テキストの予習と単語学習（401-438）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 6</td><td>形容詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 7</td><td>副詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Unit 7</td><td>副詞 総まとめ</td><td>テキストの予習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語の演習をする	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。	2	Unit 1	文の基本パーツ	テキストの予習と単語学習（1-40）	3	Unit 1	文の基本パーツ	テキストの予習と単語学習（41-80）	4	Unit 2	名詞	テキストの予習と単語学習（81-120）	5	Unit 2	名詞	テキストの予習と単語学習（121-160）	6	Unit 3	動詞	テキストの予習と単語学習（161-200）	7	Unit 3	動詞	テキストの予習と単語学習（201-240）	8	Unit 4	現在・過去・未来	テキストの予習と単語学習（241-280）	9	Unit 4	現在・過去・未来	テキストの予習と単語学習（281-320）	10	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（321-360）	11	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（361-400）	12	Unit 6	形容詞	テキストの予習と単語学習（401-438）	13	Unit 6	形容詞	テキストの予習	14	Unit 7	副詞	テキストの予習	15	Unit 7	副詞 総まとめ	テキストの予習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語の演習をする	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。																																																																
2	Unit 1	文の基本パーツ	テキストの予習と単語学習（1-40）																																																																
3	Unit 1	文の基本パーツ	テキストの予習と単語学習（41-80）																																																																
4	Unit 2	名詞	テキストの予習と単語学習（81-120）																																																																
5	Unit 2	名詞	テキストの予習と単語学習（121-160）																																																																
6	Unit 3	動詞	テキストの予習と単語学習（161-200）																																																																
7	Unit 3	動詞	テキストの予習と単語学習（201-240）																																																																
8	Unit 4	現在・過去・未来	テキストの予習と単語学習（241-280）																																																																
9	Unit 4	現在・過去・未来	テキストの予習と単語学習（281-320）																																																																
10	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（321-360）																																																																
11	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（361-400）																																																																
12	Unit 6	形容詞	テキストの予習と単語学習（401-438）																																																																
13	Unit 6	形容詞	テキストの予習																																																																
14	Unit 7	副詞	テキストの予習																																																																
15	Unit 7	副詞 総まとめ	テキストの予習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	基礎英語 IIa																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Vitamin G</td><td>Hideyuki Tera / Tetsuro Chihara / Hideo Ishida</td><td>CENGAGE Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Vitamin G	Hideyuki Tera / Tetsuro Chihara / Hideo Ishida	CENGAGE Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Vitamin G	Hideyuki Tera / Tetsuro Chihara / Hideo Ishida	CENGAGE Learning																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	共通試験（統一英語単語テスト） 20%、e-learning 20% 定期試験 30%、提出物（課題） 20%、授業態度 10% の割合で総合的に評価する。 （※授業態度とは、授業中の発表など、授業への積極的な参加を指す。） また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。																																																																		
学生へのメッセージ	英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）																																																																		
備考	事前・事後学習に毎回 1 時間以上学習すること。 必ず辞書を持参すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 提出課題は次回の授業でフィードバックする。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5 文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。																																																																		
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってくる。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備してくること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。</td><td>テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1</td><td>5 文型 単語テスト (1-44)</td><td>テキストの予習と単語テスト (1-44) の準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 1</td><td>5 文型 単語テスト (45-88)</td><td>テキストの予習と単語テスト (45-88) の準備</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 2</td><td>動詞 単語テスト (89-132)</td><td>テキストの予習と単語テスト (89-132) の準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 2</td><td>動詞 単語テスト (133-176)</td><td>テキストの予習と単語テスト (133-176) の準備</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3</td><td>進行形・未来形・助動詞 単語テスト (177-220)</td><td>テキストの予習と単語テスト (177-220) の準備</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 3</td><td>進行形・未来形・助動詞 単語テスト (221-264)</td><td>テキストの予習と単語テスト (221-264) の準備</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 4</td><td>名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (265-308)</td><td>テキストの予習と単語テスト (265-308) の準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 4</td><td>名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (309-352)</td><td>テキストの予習と単語テスト (309-352) の準備</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 5</td><td>前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (353-396)</td><td>テキストの予習と単語テスト (321-360) の準備</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 5</td><td>前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (397-438)</td><td>テキストの予習と単語テスト (397-438) の準備</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 6</td><td>形容詞・副詞と比較級</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 6</td><td>形容詞・副詞と比較級</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 7</td><td>命令文・感嘆文</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Unit 7</td><td>命令文・感嘆文 総まとめ</td><td>テキストの予習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。	2	Unit 1	5 文型 単語テスト (1-44)	テキストの予習と単語テスト (1-44) の準備	3	Unit 1	5 文型 単語テスト (45-88)	テキストの予習と単語テスト (45-88) の準備	4	Unit 2	動詞 単語テスト (89-132)	テキストの予習と単語テスト (89-132) の準備	5	Unit 2	動詞 単語テスト (133-176)	テキストの予習と単語テスト (133-176) の準備	6	Unit 3	進行形・未来形・助動詞 単語テスト (177-220)	テキストの予習と単語テスト (177-220) の準備	7	Unit 3	進行形・未来形・助動詞 単語テスト (221-264)	テキストの予習と単語テスト (221-264) の準備	8	Unit 4	名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (265-308)	テキストの予習と単語テスト (265-308) の準備	9	Unit 4	名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (309-352)	テキストの予習と単語テスト (309-352) の準備	10	Unit 5	前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (353-396)	テキストの予習と単語テスト (321-360) の準備	11	Unit 5	前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (397-438)	テキストの予習と単語テスト (397-438) の準備	12	Unit 6	形容詞・副詞と比較級	テキストの予習	13	Unit 6	形容詞・副詞と比較級	テキストの予習	14	Unit 7	命令文・感嘆文	テキストの予習	15	Unit 7	命令文・感嘆文 総まとめ	テキストの予習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。																																																																
2	Unit 1	5 文型 単語テスト (1-44)	テキストの予習と単語テスト (1-44) の準備																																																																
3	Unit 1	5 文型 単語テスト (45-88)	テキストの予習と単語テスト (45-88) の準備																																																																
4	Unit 2	動詞 単語テスト (89-132)	テキストの予習と単語テスト (89-132) の準備																																																																
5	Unit 2	動詞 単語テスト (133-176)	テキストの予習と単語テスト (133-176) の準備																																																																
6	Unit 3	進行形・未来形・助動詞 単語テスト (177-220)	テキストの予習と単語テスト (177-220) の準備																																																																
7	Unit 3	進行形・未来形・助動詞 単語テスト (221-264)	テキストの予習と単語テスト (221-264) の準備																																																																
8	Unit 4	名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (265-308)	テキストの予習と単語テスト (265-308) の準備																																																																
9	Unit 4	名詞・冠詞・代名詞 単語テスト (309-352)	テキストの予習と単語テスト (309-352) の準備																																																																
10	Unit 5	前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (353-396)	テキストの予習と単語テスト (321-360) の準備																																																																
11	Unit 5	前置詞・接続詞 (1) 単語テスト (397-438)	テキストの予習と単語テスト (397-438) の準備																																																																
12	Unit 6	形容詞・副詞と比較級	テキストの予習																																																																
13	Unit 6	形容詞・副詞と比較級	テキストの予習																																																																
14	Unit 7	命令文・感嘆文	テキストの予習																																																																
15	Unit 7	命令文・感嘆文 総まとめ	テキストの予習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	基礎英語 IIa																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>英文法から学ぶ英作と読解</td><td>佐藤哲三</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英文法から学ぶ英作と読解	佐藤哲三	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英文法から学ぶ英作と読解	佐藤哲三	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	統一単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 定期試験（授業態度を含む） 60% を総合して評価する。 授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。																																																																		
学生へのメッセージ	英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）																																																																		
備考	英単語は、毎日平均 30 分は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	徹底した基礎文法（5 文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます（補助プリントも使用予定）。教科書と英語の辞書を持ち、予習復習と、毎回行う単語テストの準備もできるだけしてくる。診断書、証明書、正当な理由の提出の無い遅刻、欠席、意欲を欠く授業態度は減点、指示、注意に従わない、授業を妨げる行為は、教員の判断で欠席扱い（遅刻等を合わせ欠席 4 回で単位不可）とする。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解力、リスニング力の養成

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 1 Complicated 基礎文法の確認	授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 基礎文法：接続詞と前置詞の区別	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1～40
	2	Unit 2 S.O.S. 基礎文法の確認	基礎文法：仮定法、 語彙、リスニングの学習 単語テスト1	単語テストの予習 NO 41～80 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	3	Unit 3 You Are Not Alone 基礎文法の確認	基礎文法：品詞、 語彙、リスニングの学習 単語テスト2	単語テストの予習 NO 81～120 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	4	Unit 4 Don't Wanna Lose You 基礎文法の確認	基礎文法：不定詞、 語彙、リスニングの学習 単語テスト3	単語テストの予習 NO121～160 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	5	Unit 5 How Crazy Are You? 基礎文法の確認	基礎文法：分詞、 語彙、リスニングの学習 単語テスト4	単語テストの予習 NO161～200 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	6	Unit 6 Sunday Morning 基礎文法の確認	基礎文法：形容詞・副詞、 語彙、リスニングの学習 単語テスト5	単語テストの予習 NO 201～240 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	7	UNIT 7 I Want It That Way 基礎文法の確認	基礎文法：知覚・使役動詞、 語彙、リスニングの学習 単語テスト6	単語テストの予習 NO 241～280 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	8	UNIT 8 Suddenly I See 基礎文法の確認	基礎文法：動名詞、 語彙、リスニングの学習 単語テスト7	単語テストの予習 NO 281～320 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	9	UNIT 9 How Am I Supposed To Live Without You? 基礎文法の確認	基礎文法：受動態、 語彙、リスニングの学習 単語テスト8	単語テストの予習 NO 321～360 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	10	UNIT 10 Save The Best For Last 基礎文法の確認	基礎文法：完了形 語彙、リスニングの学習単語テスト9	単語テストの予習 NO 361～401 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	Listening の練習 単語テスト10	単語テストの予習 NO 402～438 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	12	UNIT 12 Torn 基礎文法の確認	基礎文法：助動詞 語彙、リスニングの学習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	13	UNIT 13 La La (Means I Love You) 基礎文法の確認	基礎文法：関係代名詞 語彙、リスニングの学習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	14	UNIT 14 With You 基礎文法の確認	基礎文法：否定 語彙、リスニングの学習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	15	これまでの授業の復習と、発展的学習	総復習	重要項目、フレーズの整理、総復習

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English with Pop Hits ヒットソングで学ぶ総合英語	角山照彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 学習の進捗度 20%、定期試験 30%、小テスト 10%、単語テスト 10%、授業態度 10%を総合して評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する回答状況、毎授業の集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	e-learning 教材と、教科書の音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。 教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習（それぞれ約1時間）以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	まずは、基礎文法を徹底させ、読解力を向上させる。 毎回の単語テストにより単語力をつけるが、その際、間違った音で覚えないように、発音にも注意を払っていく。また TOEIC 形式のリスニング問題や映画などの映像教材を用いて楽しみながらリスニング力の向上にもつなげる
到達目標	基礎英文法を理解できるようになる。語彙力、読解力の向上。TOEIC Part 1,2 の問題が解けるリスニング力が養成される。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストは NO 1～NO 4 3 8 の範囲を毎回約 4 0 単語ずつ 1 1 回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	基礎英文法の徹底理解。語彙力読解力の向上。リスニング力の養成。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Unit 1	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 テキストを少し学習する	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1～40
	2	Unit 1 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト1	単語テストの予習 NO 41～80 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	3	Unit 1 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト2	単語テストの予習 NO 81～120 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	4	Unit 2 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト3	単語テストの予習 NO121～160 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	5	Unit 2 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト4	単語テストの予習 NO161～200 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	6	これまでの授業の復習と、発展的学習	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト5	単語テストの予習 NO 201～240 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	7	Unit 3 読解の方法	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト6	単語テストの予習 NO 241～280 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	8	Unit 3 読解の方法	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト7	単語テストの予習 NO 281～320 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	9	Unit 4 読解の方法	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト8	単語テストの予習 NO 321～360 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	10	Unit 4 読解の方法	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト9	単語テストの予習 NO 361～400 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト10	単語テストの予習 NO 401～438 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	12	Unit 5 語彙と発音	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	13	Unit 5 語彙と発音	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	14	これまでの授業の復習と、発展的学習	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	15	総まとめ	総復習	重要項目、フレーズの整理、総復習

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer- Revised Edition	佐藤哲三 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning 20% の割合で評価する。
学生へのメッセージ	・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 ・小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。

担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習（それぞれ約 1 時間）以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを目指す。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。
到達目標	英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。
授業方法と留意点	共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、語彙力を付けながら、文法を確認をし、リスニングからライティング・リーディングまで進めて行く。各ユニットを 1～2 回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の 4 スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。単語テスト (0001-0045) の準備。
	2	be 動詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0001-0045	単語テスト (0046-0090) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	3	be 動詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0046-0090	単語テスト (0091-0135) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	4	一般動詞 (現在) に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0091-0135	単語テスト (0136-0180) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	5	一般動詞 (過去) に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0136-0180	単語テスト (0181-0225) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	6	名詞・代名詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0181-0225	単語テスト (0226-0270) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	7	名詞・代名詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0226-0270	単語テスト (0271-0315) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	8	助動詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0271-0315	単語テスト (0316-0360) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	9	Wh 疑問文に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0316-0360	単語テスト (0361-0400) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	10	Wh 疑問文に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0361-0400	単語テスト (0401-0438) の準備と教科書の授業範囲の予習と復習。
	11	前置詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。 単語テスト：0401-0438	教科書の授業範囲の予習と復習。
	12	前置詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	13	前置詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	14	接続詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英	教科書の前期授業範囲の復習。

			文理解問題の練習をして知識固めをする。																	
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	レポート等最終提出。																
実務経験																				
関連科目	他の全ての英語科目。																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>English Ace</td><td>山本 厚子 他</td><td>成美堂</td></tr><tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td><td></td><td>成美堂</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Ace	山本 厚子 他	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-		成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	English Ace	山本 厚子 他	成美堂																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-		成美堂																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	共通試験（統一英語単語テスト）20%、e-learning 学習 20%、定期試験 40%、平常点（小テスト、レポート・課題、授業への取り組み）20%の割合で評価する。																			
学生への メッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 e-learning 学習をフルに活用し、また予習・復習を怠らないようにして、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																			
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、レポート・課題等は授業中にフィードバックする。																			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小磯 かをる
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」、実践英語の基礎固めをする。テキストで不十分な部分はプリント教材において文法項目等を学習し、英文を理解する力をつけ、TOEIC 等にも対応できる力を養う。
到達目標	基礎読解力を身につける。TOEIC の問題に慣れる
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 439 から NO 862 の範囲を一週につき 40 個ずつ合計 10 回のテストをする。テキストの内容確認の臨時テストも各章の終わりに行う。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める	単語テストの予習 NO 439～ NO 500
	2	Unit 1 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 501～ NO 540 当該ユニットの予習 復習
	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト 2	課題：授業で指示する
	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 541～ No. 590
	5	Unit 2 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 3	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 590～ NO 630
	6	Unit 3 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 4	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670
	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 5	課題：授業中に指示する
	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO 710
	9	Unit 4 読解の方法	演習と解説 単語テスト 6	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 711～ NO 750
	10	Unit 5 読解の方法	演習と解説 単語テスト 7	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 751～ NO 790
	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 8	課題：単語テストの予習 NO 791～ NO 830
	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習、単語テスト 9	課題：単語テストの予習 NO831 ～ No. 862
	13	Unit 6 英語の語彙	演習と解説 単語テスト 10	当該ユニットの予習 復習
	14	Unit 7 英語の語彙	演習と解説	当該ユニットの予習 復習
	15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Adventures	M Flaudree	桐原書店
	2	「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition- Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、E-learning 20% 定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、応答状態、積極性、発表など) 10% の割合で総合的に評価する
学生へのメッセージ	・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD にて自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 TOEIC IP を受験してください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考	事前事後学習（それぞれ約 1 時間）以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」、実践英語の基礎固めをする。テキストで不十分な部分はプリント教材において文法項目等を学習し、英文を理解する力をつけ、TOEIC 等にも対応できる力を養う。																																																																		
到達目標	基礎英語力を身につける。TOEIC の問題に慣れる																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 439 から NO 862 の範囲を一週につき約 40 個ずつ合計 11 回のテストをする。テキストの内容確認の臨時テストも各章の終わりに行う。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める</td><td>単語テストの予習 NO 439～ NO 470</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1 基礎文法の確認</td><td>演習と解説 単語テスト 1</td><td>単語テストの予習 NO 471～ NO 510 当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説、発展問題 単語テスト 2</td><td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 511～ NO550</td></tr> <tr> <td>4</td><td>これまでの授業内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 551～ NO590</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 2 基礎文法の確認</td><td>演習と解説 単語テスト 3</td><td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 591～ NO630</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 3 基礎文法の確認</td><td>演習と解説 単語テスト 4</td><td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670</td></tr> <tr> <td>7</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説 単語テスト 5</td><td>課題：授業中に指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO710</td></tr> <tr> <td>8</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 711～ NO750</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 4 読解の方法</td><td>演習と解説 単語テスト 6</td><td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO751～ NO 790</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 5 読解の方法</td><td>演習と解説 単語テスト 7</td><td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 791～ NO 830</td></tr> <tr> <td>11</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説 単語テスト 8</td><td>課題：単語テストの予習 NO 831～ NO 862</td></tr> <tr> <td>12</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習、単語テスト 9</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 6 英語の語彙</td><td>演習と解説 単語テスト 10</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 7 英語の語彙</td><td>演習と解説</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>総復習</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める	単語テストの予習 NO 439～ NO 470	2	Unit 1 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 471～ NO 510 当該ユニットの予習 復習	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト 2	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 511～ NO550	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 551～ NO590	5	Unit 2 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 3	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 591～ NO630	6	Unit 3 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 4	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 5	課題：授業中に指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO710	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 711～ NO750	9	Unit 4 読解の方法	演習と解説 単語テスト 6	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO751～ NO 790	10	Unit 5 読解の方法	演習と解説 単語テスト 7	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 791～ NO 830	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 8	課題：単語テストの予習 NO 831～ NO 862	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習、単語テスト 9	課題：授業で指示する	13	Unit 6 英語の語彙	演習と解説 単語テスト 10	当該ユニットの予習 復習	14	Unit 7 英語の語彙	演習と解説	当該ユニットの予習 復習	15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める	単語テストの予習 NO 439～ NO 470																																																																
2	Unit 1 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 471～ NO 510 当該ユニットの予習 復習																																																																
3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト 2	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 511～ NO550																																																																
4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 551～ NO590																																																																
5	Unit 2 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 3	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 591～ NO630																																																																
6	Unit 3 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 4	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670																																																																
7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 5	課題：授業中に指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO710																																																																
8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 711～ NO750																																																																
9	Unit 4 読解の方法	演習と解説 単語テスト 6	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO751～ NO 790																																																																
10	Unit 5 読解の方法	演習と解説 単語テスト 7	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 791～ NO 830																																																																
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 8	課題：単語テストの予習 NO 831～ NO 862																																																																
12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習、単語テスト 9	課題：授業で指示する																																																																
13	Unit 6 英語の語彙	演習と解説 単語テスト 10	当該ユニットの予習 復習																																																																
14	Unit 7 英語の語彙	演習と解説	当該ユニットの予習 復習																																																																
15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Mystery Break</td><td>Atsuko Uemura</td><td>センダー ジ ラーニング</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td><td></td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mystery Break	Atsuko Uemura	センダー ジ ラーニング	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition		成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mystery Break	Atsuko Uemura	センダー ジ ラーニング																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition		成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、E-learning 20% 定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、応答状態、積極性、発表など) 10% の割合で総合的に評価する																																																																		
学生へのメッセージ	・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD にて自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましよう。 TOEIC IP を受験してください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

	小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。
--	--------------------------

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英文読解を中心に進めていく授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、より多くの語彙力、文法力、作文力、リスニング能力をつけていくことを目的とする。 教科書はグローバル化が進み訪日観光客が年々増加する中、実践的な「おもてなし英語」を習得しながら、自国の文化への関心を深めることを目指している。第一には、英語能力の向上、同時に、教科書が扱う現代の日本に関する様々なトピックをとおして英語で現代の日本事情に関心をもってもらいたい。				
到達目標	まじめに学習することで基礎読解力、語彙力、リスニング力がつく。また TOEIC 受験に必要な読解力が向上する。				
授業方法と留意点	語学の授業であるため、学生主導で進めて行く。訳出、練習問題、音読、すべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。授業の2回目からの単語テストは平常点評価に加点されるので、毎回準備すること。 また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。				
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法の説明 基本的な文法テスト	教科書を準備しておくこと
		2	Unit 1: Ramen インバウンド観光客に人気であるばかりではなく、今や世界中で人気のラーメンについて	第1回目 単語テスト 教科書 pp. 8-9	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0439―0481
		3	Unit 1: Ramen インバウンド観光客に人気であるばかりではなく、今や世界中で人気のラーメンについて	第2回目 単語テスト 教科書 pp. 10-11	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0482-0524 小テストの準備
		4	Unit 2: Animal Cafe 空前のペットブームの日本では最近動物がいるカフェが増加している。その様子 と外国人の反応について	第3回目 単語テスト 教科書 12-13 Unit1 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0525-0567
		5	Unit 2: Animal Cafe 空前のペットブームの日本では最近動物がいるカフェが増加している。そ お様子 と外国人の反応について	第4回目 単語テスト 教科書 pp. 14-15	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0568-0610 小テストの準備
		6	Unit 3: Stand-up Eatery その始まりを江戸時代にさかのぼることができる「立ち食い」について	第5回目 単語テスト 教科書 pp. 16-17 Unit2 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0611-0653
		7	Unit 3: Stand-up Eatery その始まりを江戸時代にさかのぼることができる「立ち食い」について	第6回目 単語テスト 教科書 pp. 18-19	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0654-0696 小テストの準備
		8	Unit 4:Convenience Store 現代の日本人の生活に密着し、多くの外国人が訪れる「コンビニ」について	第7回目 単語テスト 教科書 pp. 20-21 Unit 3 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0697-0739
		9	Unit 4: Convenience Store 現代の日本人の生活に密着し、多くの外国人が訪れる「コンビニ」について	第8回目 単語テスト 教科書 pp. 22-23	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0740-0782 小テストの準備
		10	Unit 5:Japanese Fast Food, Gyudon 外国人にも人気の「日本食ファストフ ード 牛丼」の歴史や特徴	第9回目 単語テスト 教科書 pp. 24-25 Unit 4 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0783-0825
		11	Unit 5: Japanese Fast Food, Gyudon 外国人にも人気の「日本食ファストフ ード 牛丼」の歴史や特徴	第10回目 単語テスト 教科書 pp. 26-27	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0826-0862 小テストの準備
		12	Unit 6: Japanese Spa	教科書 pp. 28-29 Unit 5 の小テスト	当該ユニットの予習 復習

		増加する「スーパー銭湯」の特徴や利便性について		
	13	Unit 6: Japanese Spa 増加する「スーパー銭湯」の特徴や利便性について	教科書 pp. 30-31	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備
	14	Unit 7: Flour Dishes 関西人には欠かせない「粉もの」が外国人観光客にも人気になりつつある。その理由や背景について	教科書 pp. 32-33 Unit 6 の小テスト	当該ユニットの予習 復習
	15	Unit 7: Flour Dishes 関西人には欠かせない「粉もの」が外国人観光客にも人気になりつつある。その理由や背景について	教科書 pp. 34-35	当該ユニットの予習 復習 前期末テストの準備
実務経験				
関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Glances of Japan	坂部俊行 / 岡島徳昭 / Howard Tarnoff	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	統一単語テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 詳しくは第1回目の授業で説明する。			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。 辞書は必ず持参すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	- 実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 - 授業計画は進度によって変わる場合がある。 - 事前事後の学習のため、毎回平均1時間は学習すること。 - 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	授業では、まず重要単語や表現、文法事項を確認する。ポプスを聞きながら、英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることに取り組む。また、毎回学習内容の確認のための小テストを行う。
到達目標	基礎的な読解力、語彙力をつける。
授業方法と留意点	受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、毎回小テストを行うので復習をしておくことが必要である。
科目学習の効果 (資格)	英検・TOEIC テストのスコアアップなど

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 You're Beautiful be 動詞	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 1 You're Beautiful be 動詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0439-0480 テキストの予習、復習
	3	Unit 2 I Want It That Way 一般動詞 (現在形)	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0481-0520 テキストの予習、復習
	4	Unit 2 I Want It That Way 一般動詞 (現在形)	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0521-0560 テキストの予習、復習
	5	Unit 3 The First Time 一般動詞 (過去形)	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0561-0600 テキストの予習、復習
	6	Unit 3 The First Time 一般動詞 (過去形)	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0601-0640 テキストの予習、復習
	7	Unit 4 Complicated [The Matrix Mix] 進行形	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0641-0680 テキストの予習、復習
	8	Unit 4 Complicated [The Matrix Mix] 進行形	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0681-0720 テキストの復習
	9	Unit 5 My Heart Will Go On 未来表現	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0721-0760 テキストの予習、復習
	10	Unit 5 My Heart Will Go On 未来表現	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0761-0800 テキストの予習、復習
	11	Unit 6 With You 助動詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0801-0830 テキストの予習、復習
	12	Unit 6 With You 助動詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習: 0831-0862 テキストの予習、復習
	13	Unit 7 Torn 受動態	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	指示された範囲の単語学習 テキストの予習、復習
	14	Unit 7 Torn 受動態	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	指示された範囲の単語学習 テキストの予習、復習
	15	まとめ 全体のまとめと復習	小テスト Unit 1-7 までの文法事項等の確認	指示された範囲の単語学習 テキスト全体の復習

実務経験	
関連科目	基礎英語 II b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits!	角 山 照 彦 / Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%), e-learning 20%, 定期試験 40%, 小テスト, 授業態度 (授業への積極性、集中度など) 20% の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	基本的な文法を理解し、確実に英語力をつけることを目指します。そのためにも、e ラーニング教材「リングポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC (Bridge) 試験に挑戦しましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	自主学習には、毎回 1 時間以上をかけ丁寧に準備、復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト等の提出物は授業中にフィードバックする。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英語力の土台となる基礎を身につける。具体的には基本的な文法、リーディング、スピーキング、ライティング、リスニングの技能を身につけることで、会話やニュースによく出てくるトピック（文化、社会、自然科学）を基本的な英語で理解し、そのトピックに対する自分の意見を基本的な英語で表現する力をつける。授業を通して、英語に苦手意識をもっている学生はそれを無くし、また英語にある程度自信がある学生はさらに自信をつけることで、英語を好きになることを目指す。
到達目標	①5 文型を中心に、英語の基本的な構造を理解する。 ②テキストが紹介する、日常会話でもよく話されるトピック（地理、家族・友人、建築、社会、生物、スポーツなど）を基本的な英語で理解できるようにする。 ③教員やクラスメイトが表現する基本的な英語を聞き取り（リスニング）、また自分の意見を基本的な英語を用いて教員やクラスメイトに伝えることができるようになる（スピーキング）。
授業方法と留意点	＝授業方法＝ ・各講義を消化するという事はすなわち、テキストの文章の内容を理解し（リーディング）、文章を構成する各文の簡単な構造がわかり（文法）、文章内の単語の意味がわかり（語彙力）、テキストの文章を音読することができ（スピーキング）、トピックに沿った英語を聞き取ることができ（リスニング）、講義毎で紹介する英語表現を用いて英文を作成することができる（ライティング）ようになること。そのために予めテキストに目を通し、わからない単語を事前に調べるといった予習は効果的だが、むしろ各講義をしっかり復習することに
科目学習の効果（資格）	・英語の基本構造が理解できるようになる。 ・基本構造が理解できるようになると、相手の言っていることをより正確に理解できるようになり（リスニングおよびリーディング技能の向上）、また自分で言いたいことが英語で表現できるようになる（スピーキングおよびライティング技能の向上）。 ・英検、TOEIC など英語能力試験のスコア向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。	第 2 講に備え、テキストを購入。
	2	Unit 1 : Volcanoes: (A) Mountains of Fire	火山に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 13 を読み、わからない単語を調べておく。P. 13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	3	Unit 1 : Volcanoes: (B) Journey to the Center of the Earth Unit 2 : Families: (A) My Family	火山、家族に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 17、および P. 23 を読み、わからない単語を調べておく。P. 17、23 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	4	Unit 2 : Families: (B) Animal Families, Review 1: Kilimanjaro	動物の家族、キリマンジャロに関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 27、および P. 33 を読み、わからない単語を調べておく。P. 27、33 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	5	Unit 3 : Amazing Feats: (A) The Long, Hard Road, (B) Building the Pyramids	古道、ピラミッドに関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 39、および P. 43 を読み、わからない単語を調べておく。P. 39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	6	Unit 4 : Big Ideas: (A) A New Building, (B) Big Ideas, Small Sizes	建築、発明に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 49、および P. 53 を読み、わからない単語を調べておく。P. 49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	7	Review 2: The Great Wall of China, A Chinese Folktale: Meng Chiang-nu and the Great Wall	万里の長城、中国の民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 58～59、および P. 61 を読み、わからない単語を調べておく。P. 58～59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	8	Unit 5 : Striking It Rich: (A) Winning the Lottery, (B) Fantastic Finds	宝くじ、発見に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 65、および P. 69 を読み、わからない単語を調べておく。P. 65、69 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	9	Unit 6 : Killer Plants: (A) Beautiful but Deadly, (B) A Plant Experiment	食虫植物に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 75、および P. 79 を読み、わからない単語を調べておく。P. 75、79 の文章を音読する。 事後学習：授業ノートを復習。
	10	Review 3 : Central Amazon, A Brazilian Folktale: The Curupira	アマゾン、ブラジルの民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 84～85、および P. 87 を読み、わからない単語を調べておく。P. 84～85、87 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	11	Unit 7 : The Night Sky: (A) Light Pollution, (B) Our Solar System	光害、太陽系に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。	【事前学習】テキスト P. 91、および P. 95 を読み、わからない単語を調べておく。P. 91、95 の文章を音読する。

			英作文。 ペアワーク。	【事後学習】授業ノートを復習。
	12	Review 1 : A Tanzanian Folktale: The Rabbit and the Well, Reading aloud: The Hare and the Tortoise	タンザニアに関する文章を読む。寓話「うさぎとかめ」で音読練習。 文法（品詞、5 文型）の学習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 35 を読み、わからない単語を調べておく。P. 35 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習、「The Hare and the Tortoise」を音読。
	13	Unit 8 : The Olympics: (A) The Modern Olympics, (B) The Ancient Olympics	近代・古代のオリンピックに関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 101、および P. 105 を読み、わからない単語を調べておく。P. 101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	14	Review 4 : Olympia Greece, A Greak Folktale: Persephone and the Return of Spring	オリンピア、ギリシャ民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 110～111、および P. 112～113 を読み、わからない単語を調べておく。P. 110～111、112～113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	15	前期総復習	前期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Adventures 1	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・共通試験（統一英単語テスト）20% ・e-learning 学習の進捗度 20% ・期末試験：30% ・平常点：18% ・課題：6% ・小テスト：6% 注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度（講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。			
学生への メッセージ	・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです（文法・単語）。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります（リーディング）。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し（リスニング）、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります（スピーキング）。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身に着け、ぜひ英語で自分の世界を広げていって下さい。 ・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	嶋村 恵理
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	この授業は科学に関するトピックを扱う教材を用いて総合的な英語力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。
到達目標	辞書を多用すること無しに、英文を理解できるようになる。 基礎読解力を身につける
授業方法と留意点	教科書に沿って、文法解説、演習、読解を行う。 授業時間内に、小テスト (授業内容の確認) と単語テスト (指定範囲) を行う。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方・評価方法・注意点についての説明	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	2	Unit 1 Chocolate Power! の内容理解	単語テスト: 439-471 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	3	Unit 1 Chocolate Power! の内容理解	単語テスト: 472-504 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	4	Unit 2 An End to Malaria? の内容理解	単語テスト: 505-537 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	5	Unit 3 Spiders in Space? の内容理解	単語テスト: 538-570 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	6	Unit 4 Feeling Stressed or Annoyed? Talk, Don't Text! の内容理解	単語テスト: 571-603 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	7	Unit 5 Speeding Sharks の内容理解	単語テスト: 604-636 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 中間テストの準備
	8	これまでのまとめ、中間テスト	単語テスト: 637-669 前半内容の総復習および中間テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	9	Unit 6 Asteroid Special Delivery の内容理解	単語テスト: 670-702 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	10	Unit 6 Asteroid Special Delivery の内容理解	単語テスト: 703-735 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	11	Unit 7 "Dung Beetle" Car Powered by Poop の内容理解	単語テスト: 736-768 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	12	Unit 7 "Dung Beetle" Car Powered by Poop の内容理解	単語テスト: 769-801 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	13	Unit 8 Robot Scientist の内容理解	単語テスト: 802-834 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 次回の Unit の練習問題を解く・単語を調べる
	14	Unit 8 Robot Scientist の内容理解	単語テスト: 835-862 リスニング、ペアワーク、文法解説、問題演習、小テスト	次回の単語テストの範囲を暗記する 定期試験の準備
	15	前期のまとめ	単語テスト: 439~862 前半内容の総復習	定期試験の準備

実務経験	
関連科目	基礎英語 II b

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science for Everyone	服部圭子 / Kevin Cleary / 村瀬寿代 / 山下弥生 / 篠原弘樹	金星堂
	2	単語帳: The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	・4回以上欠席すると、試験などの成績にかかわらず失格とする。 ・事前・事後、毎回、1時間以上予習・復習すること。 ・授業を妨げる行為 (私語、許可無く途中退席する、テキストを持参しない、スマホや携帯の使用、居眠り等) は減点の対象とする。 ・質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果 (資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーションと前期の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習	
	2	Unit12 Rules 経歴を話そう	現在完了形	
	3	Unit13 Falk Tales パーティーに行こう！	未来表現	教科書 p.73-78
	4	Unit14 News and Events ルールにもお国柄	助動詞	教科書 p.79-84
	5	Unit 15 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切	受動態	教科書 p.85-90
	6	Unit 16 Movie Reviews 映画評論	形容詞、副詞	教科書 p.91-96
	7	Unit17 Worlds Records 世界記録もさまざま	比較級、最上級	教科書 p.97-102
	8	Unit18 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	教科書 p.103-108
	9	Unit 19 Environment	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.109-114
	10	Unit 20 Old Sayings	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.115-120
	11	Unit 21 Professions	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.121-126
	12	Unit 22 What If?	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	教科書 p.127-132
	13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
	14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
	15	総合復習	定期試験対策	

実務経験	
関連科目	基礎英語Ⅰ a

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living Grammar	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benrdict Rowelett	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷悟志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	前期に同じく、各回ごとの課題提出(60%)に e-leaning 学習進捗度(20%)、共通試験 20% (TOEIC L&R20%) を足して総合評価します。
学生へのメッセージ	「感動と発見を与える授業に...明るく、元気で一步一步！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
担当者の	7号館2階(非常勤講師室)

研究室等	
備考	事前、事後学習には毎回 1 時間以上取り組み、課題に 1 回当たり 1 時間程度かけて仕上げること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恭子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5 文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。																																																																		
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 基礎英文法の徹底理解																																																																		
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。 また、毎回授業の最後に課題を提出してもらいます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Unit 4</td><td>授業の進め方、成績の説明をする。 現在・過去・未来</td><td>テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 4</td><td>現在・過去・未来</td><td>テキストの予習と単語学習（809-840）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 5</td><td>進行形・完了形</td><td>テキストの予習と単語学習（841-880）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 5</td><td>進行形・完了形</td><td>テキストの予習と単語学習（881-920）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 6</td><td>形容詞</td><td>テキストの予習と単語学習（921-960）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 6</td><td>形容詞</td><td>テキストの予習と単語学習（961-1000）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 7</td><td>副詞</td><td>テキストの予習と単語学習（1001-1040）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 7</td><td>副詞</td><td>テキストの予習と単語学習（1041-1080）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 8</td><td>その他の修飾表現</td><td>テキストの予習と単語学習（1081-1120）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 8</td><td>その他の修飾表現</td><td>テキストの予習と単語学習（1121-1160）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 9</td><td>仮定法</td><td>テキストの予習と単語学習（1161-1200）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 9</td><td>仮定法</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 10</td><td>法助動詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 10</td><td>法助動詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Review</td><td>これまでの復習とまとめ</td><td>テキストの予習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 4	授業の進め方、成績の説明をする。 現在・過去・未来	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。	2	Unit 4	現在・過去・未来	テキストの予習と単語学習（809-840）	3	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（841-880）	4	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（881-920）	5	Unit 6	形容詞	テキストの予習と単語学習（921-960）	6	Unit 6	形容詞	テキストの予習と単語学習（961-1000）	7	Unit 7	副詞	テキストの予習と単語学習（1001-1040）	8	Unit 7	副詞	テキストの予習と単語学習（1041-1080）	9	Unit 8	その他の修飾表現	テキストの予習と単語学習（1081-1120）	10	Unit 8	その他の修飾表現	テキストの予習と単語学習（1121-1160）	11	Unit 9	仮定法	テキストの予習と単語学習（1161-1200）	12	Unit 9	仮定法	テキストの予習	13	Unit 10	法助動詞	テキストの予習	14	Unit 10	法助動詞	テキストの予習	15	Review	これまでの復習とまとめ	テキストの予習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Unit 4	授業の進め方、成績の説明をする。 現在・過去・未来	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。																																																																
2	Unit 4	現在・過去・未来	テキストの予習と単語学習（809-840）																																																																
3	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（841-880）																																																																
4	Unit 5	進行形・完了形	テキストの予習と単語学習（881-920）																																																																
5	Unit 6	形容詞	テキストの予習と単語学習（921-960）																																																																
6	Unit 6	形容詞	テキストの予習と単語学習（961-1000）																																																																
7	Unit 7	副詞	テキストの予習と単語学習（1001-1040）																																																																
8	Unit 7	副詞	テキストの予習と単語学習（1041-1080）																																																																
9	Unit 8	その他の修飾表現	テキストの予習と単語学習（1081-1120）																																																																
10	Unit 8	その他の修飾表現	テキストの予習と単語学習（1121-1160）																																																																
11	Unit 9	仮定法	テキストの予習と単語学習（1161-1200）																																																																
12	Unit 9	仮定法	テキストの予習																																																																
13	Unit 10	法助動詞	テキストの予習																																																																
14	Unit 10	法助動詞	テキストの予習																																																																
15	Review	これまでの復習とまとめ	テキストの予習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	基礎英語Ⅰa																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Vitamin G</td><td>Hideyuki Tera / Tetsuro Chihara / Hideo Ishida</td><td>CENGAGE Learning</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Vitamin G	Hideyuki Tera / Tetsuro Chihara / Hideo Ishida	CENGAGE Learning	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Vitamin G	Hideyuki Tera / Tetsuro Chihara / Hideo Ishida	CENGAGE Learning																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams 「オンライン・リアルタイム・双方向型」 / Web Folder																																																																		
Teams コード	10fd2jh																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール/Teams チャット																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	① TOEIC L&R 20% ② e-learning (English Central) 20% ③ 課題（提出物）50% ④ 授業への積極的な参加 10%																																																																		
学生へのメッセージ	英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定です。 積極的な授業への参加を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）																																																																		
備考	事前・事後学習に毎回1時間以上学習すること。 辞書を手元に置いて授業に参加すること。 質問等は随時メールで対応します。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5 文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。																																																																		
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 基礎英文法の徹底理解																																																																		
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきますが、必ず英語の辞書を持ってくる。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備してくること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。</td><td>テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 5</td><td>前置詞・接続詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 5</td><td>前置詞・接続詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 6</td><td>形容詞・副詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 6</td><td>形容詞・副詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 7</td><td>命令文・感嘆文</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 7</td><td>命令文・感嘆文</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 8</td><td>不定詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 8</td><td>不定詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 9</td><td>動名詞・分詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 9</td><td>動名詞・分詞</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 10</td><td>各種疑問文</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 10</td><td>各種疑問文</td><td>テキストの予習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>まとめ</td><td></td><td>テキストの復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめのテスト</td><td></td><td>テキストの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。	2	Unit 5	前置詞・接続詞	テキストの予習	3	Unit 5	前置詞・接続詞	テキストの予習	4	Unit 6	形容詞・副詞	テキストの予習	5	Unit 6	形容詞・副詞	テキストの予習	6	Unit 7	命令文・感嘆文	テキストの予習	7	Unit 7	命令文・感嘆文	テキストの予習	8	Unit 8	不定詞	テキストの予習	9	Unit 8	不定詞	テキストの予習	10	Unit 9	動名詞・分詞	テキストの予習	11	Unit 9	動名詞・分詞	テキストの予習	12	Unit 10	各種疑問文	テキストの予習	13	Unit 10	各種疑問文	テキストの予習	14	まとめ		テキストの復習	15	まとめのテスト		テキストの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。																																																																
2	Unit 5	前置詞・接続詞	テキストの予習																																																																
3	Unit 5	前置詞・接続詞	テキストの予習																																																																
4	Unit 6	形容詞・副詞	テキストの予習																																																																
5	Unit 6	形容詞・副詞	テキストの予習																																																																
6	Unit 7	命令文・感嘆文	テキストの予習																																																																
7	Unit 7	命令文・感嘆文	テキストの予習																																																																
8	Unit 8	不定詞	テキストの予習																																																																
9	Unit 8	不定詞	テキストの予習																																																																
10	Unit 9	動名詞・分詞	テキストの予習																																																																
11	Unit 9	動名詞・分詞	テキストの予習																																																																
12	Unit 10	各種疑問文	テキストの予習																																																																
13	Unit 10	各種疑問文	テキストの予習																																																																
14	まとめ		テキストの復習																																																																
15	まとめのテスト		テキストの復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	基礎英語Ⅰa																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>英文法から学ぶ英作と読解</td><td>佐藤哲三</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	英文法から学ぶ英作と読解	佐藤哲三	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	英文法から学ぶ英作と読解	佐藤哲三	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語Ⅱa ENG0E																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 （基準）	TOEIC Bridge 20% e-learning 学習の進捗度 20% まとめテスト（課題提出を含む） 60% を総合して評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。																																																																		
学生への メッセージ	英語の学習は、続けることが肝心です。それぞれの学生のレベルをみながら、授業をすすめていく予定なので、毎回辞書をもって出席してください。																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階（非常勤講師室）																																																																		
備考	英単語は、毎日平均 30 分は学習すること。 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。																																																																		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	ワークブック形式のテキストを通して基礎文法力、読解力、語彙力をつけ、英語の基礎固めをする。 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。TOEIC Bridge, TOEIC のリスニング問題を用いてリスニング力も高める。
到達目標	徹底した基礎英文法（5 文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます（補助プリントも使用予定）。教科書と英語の辞書を持ち、予習復習と、毎回行う小テスト（クイズ）の準備もできるだけしてくる。診断書、証明書、正当な理由の提出の無い遅刻、欠席、意欲を欠く授業態度は減点、指示、注意に従わない、授業を妨げる行為は、教員の判断で欠席扱い（遅刻等を合わせ欠席 4 回で単位不可）とする。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解力、リスニング力の養成

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 1 Shall we go to America together to learn English?	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 読歩の表現／受動態	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 863～NO840
	2	2 I'm a little excited about the orientation!	単語テスト1 相手をほめる表現／現在完了形 (1)	該当UNITの予習 復習 単語テストの予習 NO841～NO880
	3	3 Is a bank card the same as a credit card?	単語テスト2 内容を確認する表現／助動詞	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO881～NO920
	4	4 I'm planning to rent a suitcase from the rental shop.	単語テスト3 推量する表現／関係代名詞	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO921～NO960
	5	5 The captain of this plane is saying something!	単語テスト4 不満を述べる表現／複文 (1)	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO961～NO1000
	6	6 This form is an "Immigration form."	単語テスト5 相手を誘う表現／複文 (2)	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO1001～NO1040
	7	7 How do you like the salad bars they have?	単語テスト6 考えや希望を述べる表現／名詞節	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO1041～NO1080
	8	8 How was your first class, Sakura?	単語テスト7 受け答えの表現／to 不定詞 (1)	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO1081～NO1120
	9	9 Mr. Carpenter said "grace" before eating.	単語テスト8 聞き返しの表現／接続詞	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO1121～NO1160
	10	10 English is a very important foreign language in Korea.	単語テスト9 会話をつなぐ表現／現在分詞・動名詞	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO1161～NO1200
	11	11 I had tacos for the first time in my life!	単語テスト10 肯定・否定の表現／現在完了形 (2)	該当UNITの予習、復習
	12	12 It took me more than a week to prepare my presentation.	疑いを述べる表現／to 不定詞 (2)	該当UNITの予習、復習
	13	13 They may sell these potatoes by the pound. 14 I've long wanted to visit Disneyland in America.	数量の表現／命令文 驚きの表現／再帰代名詞	該当UNITの予習、復習
	14	15 I've made up my mind to study English harder.	意志や決心を述べる表現／代名詞	該当UNITの予習、復習
	15	まとめ	総復習	

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Expression Pre-Intermediate／コミュニケーションのための英語表現レッスン：自己表現力強化編	David E. Bramley	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder
Teams コード	1fhkbn6
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	共通試験 20% (TOEIC Bridge 20%)、e-learning 20%、定期試験 30%、クイズ 25% (授業態度 5%程を含む) を総合して評価する。 授業態度

(基準)	とは、授業中の質問に対する回答状況、毎授業の集中度を指す。(接続事情等による欠席は、事情を聞き配慮)
学生への メッセージ	e-learning 教材と、教科書の音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。 教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習(それぞれ約1時間)以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	ワークブック形式のテキストを通して基礎文法力、読解力、語彙力をつけ、英語の基礎固めをする。 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。TOEIC Bridge, TOEIC のリスニング問題を用いてリスニング力も高める。
到達目標	基礎英文法の徹底。 基礎英単語を習得し、読解力を向上させる TOEIC Part 3, 4 が理解できるリスニング力を養成する
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語は NO 863～ NO 1200 の範囲を各自学習すること。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎英文法の徹底、語彙力、読解力、リスニング力の向上。TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 863～NO900
	2	Unit 6 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習 復習 単語予習 NO901～NO940
	3	Unit 6 英文構造	演習と解説、発展問題 単語テスト2	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO941～NO980
	4	Unit 7 英文構造	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO981～NO 1020
	5	Unit 7 英文構造	演習と解説、発展問題 単語テスト4	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO1021～NO1060
	6	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 1061～NO1100
	7	Unit 8 英文内容把握	演習と解説、発展問題 単語テスト6	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO1101～NO1140
	8	Unit 8 英文内容把握	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 1141～NO1180
	9	Unit 9 英文内容把握	演習と解説、発展問題 単語テスト8	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 1181～NO1200
	10	Unit 9 英文内容把握	演習と解説 単語テスト9	該当UNITの予習、復習
	11	これまでの授業の復習と、発展学習	演習と解説、発展問題 単語テスト10	該当UNITの予習、復習
	12	Unit 10 リスニング対策	演習と解説	該当UNITの予習、復習
	13	Unit 10 リスニング対策	演習と解説、発展問題	該当UNITの予習、復習
	14	これまでの授業の復習と、発展学習	演習と解説	該当UNITの予習、復習
	15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	First Primer-Revised Edition	佐藤哲三 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／zoom ライブ
Teams コード	is249r7
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	大学共通 (TOEIC Bridge 20%、 e-learning 20%) 臨時テスト 25%、課題レポート 25%、授業態度 10% (授業中の発表) の割合で評価する。
学生へのメッセージ	・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD 使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。

	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。
--	--

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	この授業では、これまで学んだ英語の基礎を、文法を中心としてもう一度確認しながら、語彙や文の構造を知って、リスニング、ライティングからリーディングまで、総合的な英語力を養成することを目指す。そして実際に「使える」英語運用能力を身につけることを目的とする。
到達目標	英語基礎能力を確立し、何らかの形で英語に関わってくる時代の流れに対応するために、英語全体の根底にある文法・語法を身につけ、さらにそれを実践に活かせるようにすることを目標とする。
授業方法と留意点	共通単語帳と教科書を中心に授業を行う。まず、共通単語帳の小テストをし、教科書の内容に入る。教科書では、語彙力を付けながら、文法を確認をし、リスニングからライティング・リーディングまで進めて行く。各ユニットを 1～2 回の授業で行う予定である。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC や英検等の得点力アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容についての説明と、英語の 4 スキルに関する導入と準備をする。	事前にテキストの内容に目を通しておくこと。
	2	進行形に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	3	進行形に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	4	現在完了形に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	5	現在完了形に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	6	未来表現に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	7	未来表現に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	8	助動詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	9	助動詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	10	受動態に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	11	受動態に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	12	形容詞・副詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	13	比較級・最上級に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	14	不定詞・動名詞に関する表現練習。	文法事項を確認しながら、語彙選択問題や文整序問題、リスニング問題、また英文理解問題の練習をして知識固めをする。	教科書の前期授業範囲の復習。
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	レポート等最終提出。 まとめのテスト。
実務経験				
関連科目	他の全ての英語科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	山本 厚子 他	成美堂

	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	TOEIC Bridge20%、e-learning 学習 20%、平常点（課題、小テスト、授業への取り組み）30%、授業内期末まとめのテスト 30%の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 e-learning 学習をフルに活用し、また予習・復習を怠らないようにして、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learning を含めて、毎日1時間以上学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、レポート・課題等は授業中にフィードバックする。			

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小磯 かをる
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」「考える」ワークブック形式のテキストを通してさらなるリスニング力、読解力、語彙・文法力をつけ、実践英語の基礎固めをする。 TOEIC等で高得点がとれるようなリスニング力、読解力、語彙・文法力、をつけることを目標とする 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。																																																																		
到達目標	基礎読解力を身につける 基礎英単語を習得する TOEIC で高得点をとる英語力を身につける																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 1201～ NO 1500 の範囲を 毎回 30 単語ずつ合計 10 回のテストをする。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造</td><td>該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1201～NO1230</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 9 英文構造</td><td>演習と解説 単語テスト1</td><td>該当UNITの予習 復習 単語テストの予習 NO1231～NO 1260</td></tr> <tr> <td>3</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説、発展問題 単語テスト2</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>これまでの授業内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO1261～NO 1290</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 10 英文内容把握</td><td>演習と解説 単語テスト3</td><td>該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1291～NO1320</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 11 英文内容把握</td><td>演習と解説 単語テスト4</td><td>該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1321～NO1350</td></tr> <tr> <td>7</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説 単語テスト5</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 1351～NO1380</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 12 リスニング対策</td><td>演習と解説 単語テスト6</td><td>該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1381～NO1410</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 13 リスニング対策</td><td>演習と解説 単語テスト7</td><td>該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1411～NO1440</td></tr> <tr> <td>11</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説 単語テスト8</td><td>課題：単語テストの予習 NO 1441～NO1470</td></tr> <tr> <td>12</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習 単語テスト9</td><td>課題：単語テストの予習 NO 1471～NO1500</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 14 さらに語彙力アップ</td><td>単語テスト10、演習と解説</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総合演習</td><td>演習と解説</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1201～NO1230	2	Unit 9 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習 復習 単語テストの予習 NO1231～NO 1260	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト2	課題：授業で指示する	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO1261～NO 1290	5	Unit 10 英文内容把握	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1291～NO1320	6	Unit 11 英文内容把握	演習と解説 単語テスト4	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1321～NO1350	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	課題：授業で指示する	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 1351～NO1380	9	Unit 12 リスニング対策	演習と解説 単語テスト6	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1381～NO1410	10	Unit 13 リスニング対策	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1411～NO1440	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト8	課題：単語テストの予習 NO 1441～NO1470	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習 単語テスト9	課題：単語テストの予習 NO 1471～NO1500	13	Unit 14 さらに語彙力アップ	単語テスト10、演習と解説	該当UNITの予習、復習	14	総合演習	演習と解説	該当UNITの予習、復習	15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1201～NO1230																																																																
2	Unit 9 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習 復習 単語テストの予習 NO1231～NO 1260																																																																
3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト2	課題：授業で指示する																																																																
4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO1261～NO 1290																																																																
5	Unit 10 英文内容把握	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1291～NO1320																																																																
6	Unit 11 英文内容把握	演習と解説 単語テスト4	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1321～NO1350																																																																
7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	課題：授業で指示する																																																																
8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 1351～NO1380																																																																
9	Unit 12 リスニング対策	演習と解説 単語テスト6	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1381～NO1410																																																																
10	Unit 13 リスニング対策	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1411～NO1440																																																																
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト8	課題：単語テストの予習 NO 1441～NO1470																																																																
12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習 単語テスト9	課題：単語テストの予習 NO 1471～NO1500																																																																
13	Unit 14 さらに語彙力アップ	単語テスト10、演習と解説	該当UNITの予習、復習																																																																
14	総合演習	演習と解説	該当UNITの予習、復習																																																																
15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Science Adventures</td><td>M Faudree</td><td>桐原書店</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition-</td><td></td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Science Adventures	M Faudree	桐原書店	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition-		成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Science Adventures	M Faudree	桐原書店																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test – Revised Edition-		成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Web Folder																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	TOEIC 20%、定期試験 20%、小テスト 20%、課題レポート 10%、授業態度 10%（授業中の発表）、e-learning20%の割合で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	・各自の予習（単語、フレーズ調べ）が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD 使って自宅学習を行いましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		

備考	事前事後学習（それぞれ約 1 時間）以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」「考える」ワークブック形式のテキストを通してさらなるリスニング力、読解力、語彙・文法力をつけ、実践英語の基礎固めをする。 TOEIC等で高得点がとれるようなリスニング力、読解力、語彙・文法力、をつけることを目標とする 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。																																																																		
到達目標	基礎読解力を身につける 基礎英単語を習得する TOEIC で高得点をとる英語力を身につける																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語テストは NO 1201～ NO 1500 の範囲を各自学習すること。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席だけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 9 英文構造</td><td>演習と解説 単語テスト1</td><td>該当UNITの予習 復習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説、発展問題 単語テスト2</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>4</td><td>これまでの授業内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 10 英文内容把握</td><td>演習と解説 単語テスト3</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 11 英文内容把握</td><td>演習と解説 単語テスト4</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説 単語テスト5</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>8</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 12 リスニング対策</td><td>演習と解説 単語テスト6</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 13 リスニング対策</td><td>演習と解説 単語テスト7</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td><td>演習と解説 単語テスト8</td><td>課題：授業で支持する</td></tr> <tr> <td>12</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習 単語テスト9</td><td>課題：授業で支持する</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 14 さらに英語力アップ</td><td>単語テスト10、演習と解説</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>総合演習</td><td>演習と解説</td><td>該当UNITの予習、復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>これまでの学習内容の確認</td><td>臨時試験、復習</td><td>課題：授業で指示する</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造	該当UNITの予習、復習	2	Unit 9 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習 復習	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト2	課題：授業で指示する	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する	5	Unit 10 英文内容把握	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習	6	Unit 11 英文内容把握	演習と解説 単語テスト4	該当UNITの予習、復習	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	課題：授業で指示する	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する	9	Unit 12 リスニング対策	演習と解説 単語テスト6	該当UNITの予習、復習	10	Unit 13 リスニング対策	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト8	課題：授業で支持する	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習 単語テスト9	課題：授業で支持する	13	Unit 14 さらに英語力アップ	単語テスト10、演習と解説	該当UNITの予習、復習	14	総合演習	演習と解説	該当UNITの予習、復習	15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造	該当UNITの予習、復習																																																																
2	Unit 9 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習 復習																																																																
3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト2	課題：授業で指示する																																																																
4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する																																																																
5	Unit 10 英文内容把握	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習																																																																
6	Unit 11 英文内容把握	演習と解説 単語テスト4	該当UNITの予習、復習																																																																
7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	課題：授業で指示する																																																																
8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する																																																																
9	Unit 12 リスニング対策	演習と解説 単語テスト6	該当UNITの予習、復習																																																																
10	Unit 13 リスニング対策	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習																																																																
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト8	課題：授業で支持する																																																																
12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習 単語テスト9	課題：授業で支持する																																																																
13	Unit 14 さらに英語力アップ	単語テスト10、演習と解説	該当UNITの予習、復習																																																																
14	総合演習	演習と解説	該当UNITの予習、復習																																																																
15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Mystery Break</td><td>Atsuko Uemura</td><td>センゲージ ラーニング</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集- Revised Edition</td><td></td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mystery Break	Atsuko Uemura	センゲージ ラーニング	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集- Revised Edition		成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mystery Break	Atsuko Uemura	センゲージ ラーニング																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語集- Revised Edition		成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／zoom ライブ																																																																		
Teams コード	246utmi																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール、 teams チャット																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	大学共通（TOEIC 20%、 e-learning 20%）臨時テスト 25%、課題レポート 25%、授業態度 10%（授業中の発表）の割合で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	・各自の予習（単語、フレーズ調べ）が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト附属 CD 使って自宅学習を行きましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習（それぞれ約1時間）以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

	小テスト，提出物等は授業中にフィードバックする。
--	--------------------------

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英文読解を中心に進めていく授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、より多くの語彙力、文法力、作文力、リスニング能力をつけていくことを目的とする。 教科書はグローバル化が進み訪日観光客が年々増加する中、実践的な「おもてなし英語」を習得しながら、自国の文化への関心を深めることを目指している。第一には、英語能力の向上、同時に、教科書が扱う現代の日本に関する様々なトピックをとおして英語で現代の日本事情に関心をもってもらいたい。																																																						
到達目標	まじめに学習することで基礎読解力、語彙力、リスニング力がつく。また TOEIC 受験に必要な読解力が向上する。																																																						
授業方法と留意点	語学の授業であるため、学生主導で進めて行く。訳出、練習問題、音読、すべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。授業の2回目からの単語テストは平常点評価に加点されるので、毎回準備すること。 また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。																																																						
科目学習の効果（資格）	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ																																																						
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Unit 8: Karaoke 日本文化の 1 つとして定着する「カラオケ」の人気と外国人の反応</td><td>教科書 pp. 36-37</td><td>当該学習範囲の予習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 8: Karaoke 日本文化の 1 つとして定着する「カラオケ」の人気と外国人の反応</td><td>教科書 pp. 38-39</td><td>当該ユニットの予習 復習 1 小テストの準備</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 9: Seating Charges at Japanese Restaurants 日本の居酒屋でみられる「お通し」と外国人の反応について</td><td>ト 教科書 pp. 40-41 Unit 8 の小テスト</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 9: Seating Charges at Japanese Restaurants 日本の居酒屋でみられる「お通し」と外国人の反応について</td><td>教科書 42-43</td><td>当該ユニットの予習 復習 小テストの準備</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 10: Second-Hand Store 日本で住居をさがす外国人はその高額さに驚く。彼らにとって役立つ「リサイクルショップ」について</td><td>教科書 pp. 44-45 Unit 9 の小テスト</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 10: Second-Hand Store 日本で住居をさがす外国人はその高額さに驚く。彼らにとって役立つ「リサイクルショップ」について</td><td>教科書 pp. 46-47</td><td>当該ユニットの予習 復習 小テストの準備</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 11: Kawaii Culture Hello Kitty などにみられる日本の「かわいい文化」について</td><td>教科書 pp. 48-49 Unit 10 の小テスト</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 11: Kawaii Culture Hello Kitty などにみられる日本の「かわいい文化」について</td><td>教科書 pp. 50-51</td><td>当該ユニットの予習 復習 小テストの準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 12: Soba 1000 年以上の歴史をもつ「蕎麦」について</td><td>教科書 pp. 52-53 Unit 11 の小テスト</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 12: Soba 1000 年以上の歴史をもつ「蕎麦」について</td><td>教科書 pp. 54-55</td><td>当該ユニットの予習 復習 小テストの準備</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 13: Bento 手作り弁当、コンビニ弁当、駅弁などの日本の「弁当文化」について</td><td>教科書 pp. 56-57 Unit12 の小テスト</td><td>当該ユニットの予習 復習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 13: Bento 手作り弁当、コンビニ弁当、</td><td>教科書 pp. 58-59</td><td>当該ユニットの予習 復習 小テストの準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 8: Karaoke 日本文化の 1 つとして定着する「カラオケ」の人気と外国人の反応	教科書 pp. 36-37	当該学習範囲の予習	2	Unit 8: Karaoke 日本文化の 1 つとして定着する「カラオケ」の人気と外国人の反応	教科書 pp. 38-39	当該ユニットの予習 復習 1 小テストの準備	3	Unit 9: Seating Charges at Japanese Restaurants 日本の居酒屋でみられる「お通し」と外国人の反応について	ト 教科書 pp. 40-41 Unit 8 の小テスト	当該ユニットの予習 復習	4	Unit 9: Seating Charges at Japanese Restaurants 日本の居酒屋でみられる「お通し」と外国人の反応について	教科書 42-43	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備	5	Unit 10: Second-Hand Store 日本で住居をさがす外国人はその高額さに驚く。彼らにとって役立つ「リサイクルショップ」について	教科書 pp. 44-45 Unit 9 の小テスト	当該ユニットの予習 復習	6	Unit 10: Second-Hand Store 日本で住居をさがす外国人はその高額さに驚く。彼らにとって役立つ「リサイクルショップ」について	教科書 pp. 46-47	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備	7	Unit 11: Kawaii Culture Hello Kitty などにみられる日本の「かわいい文化」について	教科書 pp. 48-49 Unit 10 の小テスト	当該ユニットの予習 復習	8	Unit 11: Kawaii Culture Hello Kitty などにみられる日本の「かわいい文化」について	教科書 pp. 50-51	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備	9	Unit 12: Soba 1000 年以上の歴史をもつ「蕎麦」について	教科書 pp. 52-53 Unit 11 の小テスト	当該ユニットの予習 復習	10	Unit 12: Soba 1000 年以上の歴史をもつ「蕎麦」について	教科書 pp. 54-55	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備	11	Unit 13: Bento 手作り弁当、コンビニ弁当、駅弁などの日本の「弁当文化」について	教科書 pp. 56-57 Unit12 の小テスト	当該ユニットの予習 復習	12	Unit 13: Bento 手作り弁当、コンビニ弁当、	教科書 pp. 58-59	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																				
1	Unit 8: Karaoke 日本文化の 1 つとして定着する「カラオケ」の人気と外国人の反応	教科書 pp. 36-37	当該学習範囲の予習																																																				
2	Unit 8: Karaoke 日本文化の 1 つとして定着する「カラオケ」の人気と外国人の反応	教科書 pp. 38-39	当該ユニットの予習 復習 1 小テストの準備																																																				
3	Unit 9: Seating Charges at Japanese Restaurants 日本の居酒屋でみられる「お通し」と外国人の反応について	ト 教科書 pp. 40-41 Unit 8 の小テスト	当該ユニットの予習 復習																																																				
4	Unit 9: Seating Charges at Japanese Restaurants 日本の居酒屋でみられる「お通し」と外国人の反応について	教科書 42-43	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備																																																				
5	Unit 10: Second-Hand Store 日本で住居をさがす外国人はその高額さに驚く。彼らにとって役立つ「リサイクルショップ」について	教科書 pp. 44-45 Unit 9 の小テスト	当該ユニットの予習 復習																																																				
6	Unit 10: Second-Hand Store 日本で住居をさがす外国人はその高額さに驚く。彼らにとって役立つ「リサイクルショップ」について	教科書 pp. 46-47	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備																																																				
7	Unit 11: Kawaii Culture Hello Kitty などにみられる日本の「かわいい文化」について	教科書 pp. 48-49 Unit 10 の小テスト	当該ユニットの予習 復習																																																				
8	Unit 11: Kawaii Culture Hello Kitty などにみられる日本の「かわいい文化」について	教科書 pp. 50-51	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備																																																				
9	Unit 12: Soba 1000 年以上の歴史をもつ「蕎麦」について	教科書 pp. 52-53 Unit 11 の小テスト	当該ユニットの予習 復習																																																				
10	Unit 12: Soba 1000 年以上の歴史をもつ「蕎麦」について	教科書 pp. 54-55	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備																																																				
11	Unit 13: Bento 手作り弁当、コンビニ弁当、駅弁などの日本の「弁当文化」について	教科書 pp. 56-57 Unit12 の小テスト	当該ユニットの予習 復習																																																				
12	Unit 13: Bento 手作り弁当、コンビニ弁当、	教科書 pp. 58-59	当該ユニットの予習 復習 小テストの準備																																																				

		駅弁などの日本の「弁当文化」について		
	13	Unit 14: Shrine 神社の構造と外国人が経験する日本のお正月について	教科書 pp.60-61 Unit 13 の小テスト	当該ユニットの予習 復習
	14	Unit 14: Shrine 神社の構造と外国人が経験する日本のお正月について	教科書 pp.62-63	当該ユニットの予習 復習
	15	Unit 15: Onsen 日本には 3000 以上の温泉地がある。温泉の特徴とそこを訪ねる外国人について	教科書 pp.64-65	当該ユニットの予習 復習 後期テストの準備
実務経験				
関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Glances of Japan	坂部 俊行 / 岡島 徳昭 / Howard Tarnoff	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」／Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	qnky20i			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	理工学部共通課題(TOEIC Bridge20%、e-learning 20%) 40% テスト 30%、 小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 原則として出席・課題提出 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。 辞書は必ず持参すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)			
備考	- 実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 - 授業計画は進度によって変わる場合がある。 - 事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 - 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	授業では、まず重要単語や表現、文法事項を確認します。ポプスを聴きながら英語特有の音声変化やリズムに慣れ親しみ、英語の基礎力をバランスよく向上させることを目的とします。
到達目標	基礎的な読解力、語彙力をつける。
授業方法と留意点	Web Folder を使用して、毎回課題提出があります。課題提出で出席とします。小テストもありますから、課題提出後に教材フォルダーにアップされる解答を確認し、復習をしてください。提出期限を厳守し、真面目に取り組む姿勢を評価します。
科目学習の効果（資格）	英検・TOEIC テストのスコアアップなど

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 You Are Not Alone [Radio Edit] 現在完了形	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	Unit 8 You Are Not Alone [Radio Edit] 現在完了形	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1201-1230 テキストの予習、復習
	3	Unit 9 You Gotta Be 比 較	文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1231-1260 テキストの予習、復習
	4	Unit 9 You Gotta Be 比 較	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1261-1290 テキストの予習、復習
	5	Unit 10 How Crazy Are You? 分 詞	文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1291-1320 テキストの予習、復習
	6	Unit 10 How Crazy Are You? 分 詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1321-1350 テキストの予習、復習
	7	Unit 11 Last Christmas [Pudding Mix] 不定詞	文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1351-1380 テキストの予習、復習
	8	Unit 11 Last Christmas [Pudding Mix] 不定詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1381-1410 テキストの復習
	9	Unit 12 Desperado 関係詞	文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1411-1440 テキストの予習、復習
	10	Unit 12 Desperado 関係詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1441-1460 テキストの予習、復習
	11	Unit 13 All I Want For Christmas Is You 接続詞・前置詞	文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1461-1480 テキストの予習、復習
	12	Unit 13 All I Want For Christmas Is You 接続詞・前置詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習：1481-1500 テキストの予習、復習
	13	Unit 14 Sunday Morning 動名詞	文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	指示された範囲の単語学習 テキストの予習、復習
	14	Unit 14 Sunday Morning 動名詞	小テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	指示された範囲の単語学習 テキストの予習、復習
	15	まとめ	まとめテスト	テキスト全体の復習

実務経験	
関連科目	基礎英語Ⅰb

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Learn English with Pop Hits!	角 山 照 彦 / Timothy F. Hawthorne	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス：
評価方法 (基準)	原則として出席率（課題提出率）80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 TOEIC Bridge 20%, e-learning 20%, まとめテスト 20%, 小テスト, 課題 40% の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	基本的な文法を理解し、確実に英語力をつけることを目指します。そのためにも、e ラーニング教材を活用して単語力を増強し、TOEIC (Bridge) 試験に挑戦しましょう。課題、テスト提出は期限を必ず守ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	自主学習には、毎回 1 時間以上をかけ丁寧に準備、復習すること。 「質問等は学内メールで対応する」

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名(英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中村 信之
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英語力の土台となる基礎を身につける。具体的には基本的な文法、リーディング、スピーキング、ライティング、リスニングの技能を身につけることで、会話やニュースによく出てくるトピック（文化、社会、自然科学）を基本的な英語で理解し、そのトピックに対する自分の意見を基本的な英語で表現する力をつける。授業を通して、英語に苦手意識をもっている学生はそれを無くし、また英語にある程度自信がある学生はさらに自信をつけることで、英語を好きになることを目指す。
到達目標	①5文型を中心に、英語の基本的な構造を理解する。 ②テキストが紹介する、日常会話でもよく話されるトピック（生物、工学、地質、宇宙、文化、歴史など）を基本的な英語で理解できるようになる。 ③教員やクラスメイトが表現する基本的な英語を聞き取り（リスニング）、また自分の意見を基本的な英語を用いて教員やクラスメイトに伝えることができるようになる（スピーキング）。
授業方法と留意点	＝授業方法＝ ・各講義を消化するという事はすなわち、テキストの文章の内容を理解し（リーディング）、文章を構成する各文の簡単な構造がわかり（文法）、文章内の単語の意味がわかり（語彙力）、テキストの文章を音読することができ（スピーキング）、トピックに沿った英語を聞き取ることができ（リスニング）、講義毎で紹介する英語表現を用いて英文を作成することができる（ライティング）ようになること。そのために予めテキストに目を通し、わからない単語を事前に調べるといった予習は効果的だが、むしろ各講義をしっかり復習することに
科目学習の効果（資格）	・英語の基本構造が理解できるようになる。 ・基本構造が理解できるようになると、相手の言っていることをより正確に理解できるようになり（リスニングおよびリーディング技能の向上）、また自分で言いたいことが英語で表現できるようになる（スピーキングおよびライティング技能の向上）。 ・英検、TOEIC など英語能力試験のスコア向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、成績評価の方法を説明。 品詞の確認。	第2講に備え、テキストを購入。
	2	Unit 1:Predators and Prey: (A) Hiding from Danger	昆虫の擬態(カモフラージュ)に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.13 を読み、わからない単語を調べておく。P.13 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	3	Unit 1:Predators and Prey: (B) Spider Webs, Video: Spider Webs	蜘蛛の網に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.17 を読み、わからない単語を調べておく。P.17 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	4	Unit 2 : Bionics: (A) Remaking Humans, (B) Making Robots Human	人間工学、ロボット工学に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.23、および P.27 を読み、わからない単語を調べておく。P.23、27 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	5	Review 1 : Tongariro National Park, A Maori Folktale: Maui and the Magic Fishhook	トンガリロ国立公園、ニュージーランドの民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.32～33、および P.35 を読み、わからない単語を調べておく。P.32～33、35 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	6	Unit 3 : Clues about the Past: (A) Earth's Beginning, (B) Deep Sea Vents	地球の黎明期、熱水噴出孔に生息する生き物に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.39、および P.43 を読み、わからない単語を調べておく。P.39、43 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	7	Unit 4 : Survival: (A) When Danger Is Near, (B) Survival at Sea	サバイバル技術、ニック・ワード著『Left for Dead』に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.49、および P.53 を読み、わからない単語を調べておく。P.49、53 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	8	Review 2 : SGang Gwaay, A Haida Folktale: How the Raven Stole the Sun	スカン・グアイ、ハイダ族の民話に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.58～59、および P.61 を読み、わからない単語を調べておく。P.58～59、61 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	9	Unit 5 : Outer Space: (A) Saturn, (B) To the Moon	土星、アポロ計画に関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P.65、および P.69 を読み、わからない単語を調べておく。P.65、69 の文章を音読する。 事後学習：授業ノートを復習。
	10	Unit 6 : The Power of Writing: (A) Writing around the World, (B) Why Do People Read?	文字の歴史、図書館学者のポストウィックに関する文章を読む。 文法(品詞、5文型)の学習。 音読練習。 英作文。	【事前学習】テキスト P.75、および P.79 を読み、わからない単語を調べておく。P.75、79 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。

			ペアワーク。	
	11	Review 3: The Bend of the Boyne, An Irish Folktale: Aonghus and Caer	ブルー・ナ・ボーニヤ、アイルランドの民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 84～85、および P. 87 を読み、わからない単語を調べておく。P. 84～85、87 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	12	Unit 7: Lewis Carroll: (A) The Wonderland of Lewis Carroll, (B) Through the Looking Glass	ルイス・キャロルと『不思議の国のアリス』に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 91、および P. 95 を読み、わからない単語を調べておく。P. 35、95 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	13	Unit 8: Preserving Heritage: (A) Disappearing Languages, (B) The Hadza	言語の消失、タンザニアのハッザ族に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 101、および P. 105 を読み、わからない単語を調べておく。P. 101、105 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	14	Review 4: Saryarka, A Kazakh Folktale: Aldar Kose and the Magic Coat	サリヤルカ、カザフスタンの民話に関する文章を読む。 文法（品詞、5 文型）の学習。 音読練習。 英作文。 ペアワーク。	【事前学習】テキスト P. 110～111、および P. 113 を読み、わからない単語を調べておく。P. 110～111、113 の文章を音読する。 【事後学習】授業ノートを復習。
	15	後期総復習	後期で学んだことを総復習し、期末試験に備える。	【事前学習】期末試験に備え、これまでの授業ノートを復習。適宜、テキストを参照すること。 【事後学習】授業ノートを復習。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading Adventures 3	Carmella Lieske, Scott Menking	Heinle Cengage Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	・共通試験: 20% (TOEIC Bridge: 20%) ・e-learning 学習の進捗度: 20% ・期末試験: 30% ・平常点: 18% ・課題: 6% ・小テスト: 6% 注意: 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。平常点とは、授業態度（講義への集中力、投げかける質問に対する呼応、グループ学習への参加、積極性など）を総合的に評価するものであり、出席点ではない。			
学生への メッセージ	・英語を学ぶ上で先ず大事なのが、日本語とは違う構造を知ることです（文法・単語）。構造がわかると英語で書かれた文章を理解できるようになり、自分の興味を英語で広げることができるようになります（リーディング）。英語は言葉なので、相手が言ったことを理解し（リスニング）、また自分の言いたいことを相手に伝えられるようになります（スピーキング）。文法、リーディング、リスニング、スピーキングという 4 つの柱をバランス良く身に付け、ぜひ英語で自分の世界を広げていってください。 ・一度単位を取ると決めたら、ぜひそのことに時			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室			
備考	事前・事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。			

科目名	基礎英語Ⅱb	科目名（英文）	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	嶋村 恵理
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	この授業は基礎的な文法力・語彙力・読解力を身につけることを目的とする。 高校までに学習した文法を復習し、簡単な読解などを通じて語彙を増やすことによって、基礎レベルの英文が理解できるようになることを目標とする。																																																																		
到達目標	辞書を多用することなしに英文を理解する。 基礎読解力の向上																																																																		
授業方法と留意点	教科書に沿ってリスニング、文法解説、演習、読解を行う。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC など各種英語検定試験に必要な文法力、語彙力、読解力の基本を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unit 6</td><td>小惑星のお届けもの(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 6</td><td>小惑星のお届けもの(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 7</td><td>トイレから道路へ走りだそう！(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 7</td><td>トイレから道路へ走りだそう！(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 8</td><td>実験ならロボットにお任せを(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 8</td><td>実験ならロボットにお任せを(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 9</td><td>高層ビルの大農場(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>8</td><td>Unit 9</td><td>高層ビルの大農場(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 10</td><td>双子とホルモンの関係(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 10</td><td>双子とホルモンの関係(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 11</td><td>チョウのお母さんは知っている(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 11</td><td>チョウのお母さんは知っている(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 12</td><td>宇宙のチリにご注意！(1)</td><td>単語を覚える</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 12</td><td>宇宙のチリにご注意！(2)</td><td>文法の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>後期のまとめ</td><td>後期の総復習</td><td>総復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 6	小惑星のお届けもの(1)	単語を覚える	2	Unit 6	小惑星のお届けもの(2)	文法の復習	3	Unit 7	トイレから道路へ走りだそう！(1)	単語を覚える	4	Unit 7	トイレから道路へ走りだそう！(2)	文法の復習	5	Unit 8	実験ならロボットにお任せを(1)	単語を覚える	6	Unit 8	実験ならロボットにお任せを(2)	文法の復習	7	Unit 9	高層ビルの大農場(1)	単語を覚える	8	Unit 9	高層ビルの大農場(2)	文法の復習	9	Unit 10	双子とホルモンの関係(1)	単語を覚える	10	Unit 10	双子とホルモンの関係(2)	文法の復習	11	Unit 11	チョウのお母さんは知っている(1)	単語を覚える	12	Unit 11	チョウのお母さんは知っている(2)	文法の復習	13	Unit 12	宇宙のチリにご注意！(1)	単語を覚える	14	Unit 12	宇宙のチリにご注意！(2)	文法の復習	15	後期のまとめ	後期の総復習	総復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Unit 6	小惑星のお届けもの(1)	単語を覚える																																																																
2	Unit 6	小惑星のお届けもの(2)	文法の復習																																																																
3	Unit 7	トイレから道路へ走りだそう！(1)	単語を覚える																																																																
4	Unit 7	トイレから道路へ走りだそう！(2)	文法の復習																																																																
5	Unit 8	実験ならロボットにお任せを(1)	単語を覚える																																																																
6	Unit 8	実験ならロボットにお任せを(2)	文法の復習																																																																
7	Unit 9	高層ビルの大農場(1)	単語を覚える																																																																
8	Unit 9	高層ビルの大農場(2)	文法の復習																																																																
9	Unit 10	双子とホルモンの関係(1)	単語を覚える																																																																
10	Unit 10	双子とホルモンの関係(2)	文法の復習																																																																
11	Unit 11	チョウのお母さんは知っている(1)	単語を覚える																																																																
12	Unit 11	チョウのお母さんは知っている(2)	文法の復習																																																																
13	Unit 12	宇宙のチリにご注意！(1)	単語を覚える																																																																
14	Unit 12	宇宙のチリにご注意！(2)	文法の復習																																																																
15	後期のまとめ	後期の総復習	総復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	基礎英語Ⅰb																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Science for Everyone</td><td>服部圭子 / Kevin Cleary / 村瀬寿代 / 山下弥生 / 篠原弘樹</td><td>金星堂</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Science for Everyone	服部圭子 / Kevin Cleary / 村瀬寿代 / 山下弥生 / 篠原弘樹	金星堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Science for Everyone	服部圭子 / Kevin Cleary / 村瀬寿代 / 山下弥生 / 篠原弘樹	金星堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle/Web Folder/zoom																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	basic																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	e-learning が20%、TOEIC 又は TOEICBridge が20%ですので、この授業で評価するのは課題提出および小テストにより 60%です。																																																																		
学生へのメッセージ	じっくり解説し、繰り返し練習します。着実に基礎英語力をUPさせましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)																																																																		
備考	・事前・事後、毎回、1 時間以上予習・復習すること。 ・課題等は授業中にフィードバックする。																																																																		

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1 年次に習得した基礎的読解力を基にして、内外の英字新聞記事を読む練習をする。より長い文章を読むことにより、より多くの語彙力、文法力をつけていくことを目的とする。 世界の新しいニュースを英語で読むことで、学生は興味をもって受講することだろう。
到達目標	e-learning で TOEIC に頻出する単語を学び、TOEIC 500 以上を取ることを目標にする。授業では、少しぐらい意味の分からない箇所があっても、英字新聞を抵抗なく読むことができるようになる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。リスニング・、訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かせることなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は英検や TOEIC、TOEIC Bridge 等のテストに必ず役立つ。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	ガイダンス 英字新聞の構成	授業の進め方と評価方法の説明 教科書の最初にある英字新聞の紹介のページを読む。	事前に、教科書の内容を概観し、これから学習する内容を予測。できれば、最初の「英字新聞紹介」ページに目を通す。 事後は、習った内容を見返す。(1 時間)
	2	Chapter 1 Books! Bring a Bright Future to Children カンボジアに図書館を設立するための資金を出した日本人高校生についての記事の読解	新聞記事によくみられる表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための練習問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	3	Chapter 1 Japanese teen funds library for Cambodian School out of her own pocket 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、Chapter 1 の練習問題をできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確認する。(1 時間)
	4	Chapter 2 Brew Sake with Fresh Ideas! 日本の酒造会社に「修行」にきた外国人についての記事の読解	新聞記事によくみられる表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための練習問題を解く。	事前に、Chapter 2 の記事と練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容理解ができたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	5	Chapter 3 A Unique Tour Guide 九十九島のパールシーリゾートのユニークなガイドについての記事の読解	新聞記事によくみられる表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	6	Chapter 3 "Rock star" guide offers boat tours of fanciful formations 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、Chapter 3 の内容理解確認問題をできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	7	Chapter 4 A Banana with an Edible Peel 鹿児島で栽培されている、皮も食べられるバナナについての記事の読解	この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための練習問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、問題はできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容理解ができたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	8	Chapter 5 Too Crowded to Carry it on our Backs! バッグにまつわるお国事情についての記事の読解	新聞記事特有の表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	9	Chapter 5 Back to front for manners on Japanese public transport 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための問題を解く。	事前に、記事のあとに続く内容確認問題をできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	10	Chapter 6 Monitoring Kid's Phone Use アメリカ人の家庭で起こった携帯電話にまつわる論争についての記事の読解	記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための問題を解く。	事前に、記事とその前後の練習問題に目を通り、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容理解ができたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	11	Chapter 7 Learn about your Pet Dog at the Museum ニューヨークにできた犬の博物館についての記事の読解	新聞記事特有の表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	12	Chapter 7 New dog museum unleashed in New York City 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための問題を解く。	事前に、記事の後の練習問題を、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	13	Chapter 8 Dream of Space Tourism Comes True アメリカの会社が提供する宇宙旅行についての記事の読解	記事の内容理解に必要な表現や背景知識を学んだ後、その記事を読解し、内容理解を確認するための練習問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	14	Chapter 9 Save the World	記事の内容理解に必要な表現や背景知識	事前に、記事と練習問題に目を通し、できるだけ解

		from Garbage! 東南アジアのゴミ対策についての記事の読解	識を学んだ後、その記事を読解し、要約文や内容理解確認の問題を解く。	いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)																
	15	Chapter 10 Manga Featuring the Elderly 高齢者を登場させる日本人漫画家についての記事の読解	記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、要約文や内容理解確認の問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)																
実務経験																				
関連科目	他の英語科目																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>INSIGHTS 2020</td><td>村尾純子、深山晶子、他</td><td>金星堂</td></tr><tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	INSIGHTS 2020	村尾純子、深山晶子、他	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	INSIGHTS 2020	村尾純子、深山晶子、他	金星堂																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	統一単語テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第 1 回目に授業で説明する。																			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。																			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																			
備考	・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 ・授業計画は進度によって変わる場合がある。 ・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 ・小テスト等は授業中にフィードバックする。																			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1 回生で習得した読解力に加えて、英語を聴いて、その内容を理解する段階まで進めていきたい。また、より長い文章を読むことにより、より多くの語彙力、文法力をつけていくことを目的とする。 教科書は、アメリカの学生向けニュース番組 CNN Student News から採択されたものを取り上げているので、今のニュースをネイティブ英語を通して学べる。書き取りのテストも行い、リスニング能力の向上も目指す。
到達目標	DVD を見て、今の英語を「聴き」「読む」ことでリスニングとリーディングの能力を向上させることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組み、自らの努力することで、必ず英語の力がつき、TOEIC のスコアアップにつながるようになる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。リスニング、訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かすことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力やリスニング力は英検や TOEIC 等のテストに必ず役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 英語ニュース	授業の進め方と評価方法の説明 英語のニュースを聞き取りと内容把握	教科書をもってくること Unit 1 の予習
	2	Unit 1: Can Babies Choose Between Good and Bad? 赤ちゃんに認められる 善悪の判断とその限界	教科書 pp.1-2 第 1 回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0001-0040
	3	Unit1: Can Babies Choose Between Good and Bad? 赤ちゃんに認められる 善悪の判断とその限界	教科書 pp.2-4 第 2 回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0041-0080 教科書小テストの準備
	4	Unit 2: Half-Empty or Half-Full? 考え方ひとつで変わる生き方	語彙問題とリスニング 第 3 回単語テスト 教科書 Unit 1 小テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0081-0120
	5	Unit 2: Half-Empty or Half-Full? 考え方ひとつで変わる生き方	内容把握と練習問題 第 4 回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0121-0160 教科書小テストの準備
	6	Unit 3: How to Pass a Test テスト前にすべきこと、やめること、そして合格の心構え	語彙問題とリスニング 第 5 回単語テスト 教科書 Unit 2 小テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0161-0200
	7	Unit 3: How to Pass a Test テスト前にすべきこと、やめること、そして合格の心構え	内容把握と練習問題 第 6 回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0201-0240 教科書小テストの準備
	8	Unit 4: Soccer Brain Study ヘディングが脳に与える影響とその構造	語彙問題とリスニング 第 7 回単語テスト 教科書 Unit3 小テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0241-0280
	9	Unit 4: Soccer Brain Study ヘディングが脳に与える影響とその構造	内容把握と練習問題 第 8 回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0281-0320 教科書小テストの準備
	10	Unit 5: Google Glass for Firefighters Google が消防士のために開発したメガネ	語彙問題とリスニング 第 9 回単語テスト 教科書 Unit 4 の準備	復習、予習 単語学習範囲: 0321-0360
	11	Unit 5: Google Glass for Firefighters Google が消防士のために開発したメガネ	内容把握と練習問題 第 10 回単語テスト	復習、の予習 単語学習範囲: 0361-0400 教科書小テストの準備
	12	Unit 6: Women on Submarine 女性に開かれた海軍士官への道	語彙問題とリスニング 教科書 Unit5 小テスト	復習、予習
	13	Unit 6: Women on Submarine 女性に開かれた海軍士官への道	内容把握と練習問題	復習、予習 教科書小テストの準備

	14	Unit 7: iPhone Musician iPhoneを使って作曲し、プロになったミュージシャン	語彙問題とリスニング 教科書 Unit6 小テスト	復習、予習
	15	Unit 7: iPhone Musician iPhoneを使って作曲し、プロになったミュージシャン	内容把握と練習問題	復習と定期試験（前期末）の準備
実務経験				
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	CNN Student News for Reading & Writing	関戸冬彦・Jake Arnold・Ken Ikedal・小暮正人	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	統一単語テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	- 実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 - 授業計画は進度によって変わる場合がある。 - 事前事後の学習のため、毎回平均1時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 - 小テスト等は授業中にフィードバックする。			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	AFP の最新ニュース映像を使って、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) を達成するために何ができるかを考える。SDGs に関連する映像でリスニング力を強化し、やさしい英文で書かれた話題でリーディング力を強化する。最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC 350 点 (TOEIC Bridge 130 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は 'Active Participation in Class' (授業への積極的な参加) が前提である。双方向の全員参加の授業を展開する。教科書の内容を補うプリントが毎回配布されるので、それに基づいて回答することが求められる。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC 550 点以上は必ず取れるはず。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Lesson 1 貧困をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 1 の予習 単語学習範囲: 01-35
	2	Lesson 1 貧困をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 1 の復習、予習 単語学習範囲: 36-70
	3	Lesson 2 飢餓をゼロに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 2 の予習 単語学習範囲: 71-105
	4	Lesson 2 飢餓をゼロに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 2 の復習、予習 単語学習範囲: 106-140
	5	Lesson 3 すべての人に健康と福祉を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 3 の予習 単語学習範囲: 141-175
	6	Lesson 3 すべての人に健康と福祉を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 3 の復習、予習 単語学習範囲: 176-210
	7	Lesson 4 質の高い教育をみんなに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 4 の予習 単語学習範囲: 211-245
	8	Lesson 4 質の高い教育をみんなに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 4 の復習、予習 単語学習範囲: 246-290
	9	Lesson 5 ジェンダー平等を実現しよう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 5 の予習 単語学習範囲: 291-325
	10	Lesson 5 ジェンダー平等を実現しよう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 5 の復習、予習 単語学習範囲: 326-360
	11	Lesson 6 安全な水とトイレを世界に	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 6 の予習 単語学習範囲: 361-395
	12	Lesson 6 安全な水とトイレを世界に	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 6 の復習、予習 単語学習範囲: 396-430
	13	Lesson 7 エネルギーをみんなに、そしてグリーンに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 7 の予習 単語学習範囲: 396-430
	14	Lesson 7 エネルギーをみんなに、そしてグリーンに	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 7 の復習、予習 単語学習範囲: 396-430
	15	Lesson 8 働きがいも、経済成長も	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	定期試験 (前期末) の準備 単語学習範囲: 396-430

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5	Makoto Shishido	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	期末試験 30% 提出課題 30% 統一英語単語テスト 20% e-learning 20%
学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) があるように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に

	勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	英語の辞典を持参してください。 単語学習範囲(20個)は授業中に毎回練習しますので、その範囲の予習・復習を、e-learning 学習を含めて、毎日1時間は学習してください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 TOEIC Bridge に慣れて、高得点を目指すようになることが目標である。
到達目標	TOEIC 300点 (TOEIC Bridge 120点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストは NO 1～NO 400 の範囲を毎回 40 単語ずつ 10 回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、および TOEIC 形式のプレテスト	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・ TOEIC プレテスト	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1～40
	2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする Be 動詞 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 41～80 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 一般動詞 1 単語テスト 2	単語テストの予習 NO 81～120 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 一般動詞 2 単語テスト 3	単語テストの予習 NO121～160 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 進行形 単語テスト 4	単語テストの予習 NO161～200 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 未来形 単語テスト 5	単語テストの予習 NO 201～240 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 助動詞 単語テスト 6	単語テストの予習 NO 241～280 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	8	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 名詞 単語テスト 7	単語テストの予習 NO 281～320 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	9	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 冠詞 単語テスト 8	単語テストの予習 NO 321～360 復該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	10	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 代名詞 単語テスト 9	単語テストの予習 NO 361～400 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	11	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 前置詞 単語テスト 10	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	12	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 形容詞	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	13	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 副詞	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	14	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 比較	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
	15	総まとめ TOEIC 形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC L&R テスト文法項目別トレーニング	鈴木淳 他	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 20%、小テスト 20%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning 20% の割合で評価する。
学生への メッセージ	・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。 基本的な英語能力で専門的な分野（科学的 content）を学ぶ。 TOEIC Bridge, TOEIC 対策も目的とする。																																																																		
到達目標	正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。 基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	講義（解説）と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。 辞書を引き、充分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。 指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC300 点台を突破する読解力・リスニング力の習得。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction</td><td>授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定</td><td>教科書と辞書を持参する</td></tr> <tr> <td>2</td><td>New Directions</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0001-0038</td></tr> <tr> <td>3</td><td>New Directions</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0039-0076</td></tr> <tr> <td>4</td><td>What's the Other Option?</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0077-0114</td></tr> <tr> <td>5</td><td>What's the Other Option?</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0115-0152</td></tr> <tr> <td>6</td><td>You're Leaving Us?</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0153-0190</td></tr> <tr> <td>7</td><td>You're Leaving Us?</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0191-0228</td></tr> <tr> <td>8</td><td>まとめと中間テスト</td><td>これまでのまとめと中間テスト</td><td>中間テストの準備</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Don't Stop Believing</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0229-0266</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Don't Stop Believing</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0267-0304</td></tr> <tr> <td>11</td><td>He's Not Coming</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0305-0342</td></tr> <tr> <td>12</td><td>He's Not Coming</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0343-0400</td></tr> <tr> <td>13</td><td>I Want In</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読 統一単語テストの準備</td></tr> <tr> <td>14</td><td>I Want In</td><td>テキスト実践、解説</td><td>学習範囲の英文の音読</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>これまでの項目を総復習</td><td>期末試験の準備</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	教科書と辞書を持参する	2	New Directions	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0001-0038	3	New Directions	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0039-0076	4	What's the Other Option?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0077-0114	5	What's the Other Option?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0115-0152	6	You're Leaving Us?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0153-0190	7	You're Leaving Us?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0191-0228	8	まとめと中間テスト	これまでのまとめと中間テスト	中間テストの準備	9	Don't Stop Believing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0229-0266	10	Don't Stop Believing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0267-0304	11	He's Not Coming	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0305-0342	12	He's Not Coming	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0343-0400	13	I Want In	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 統一単語テストの準備	14	I Want In	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読	15	まとめ	これまでの項目を総復習	期末試験の準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	教科書と辞書を持参する																																																																
2	New Directions	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0001-0038																																																																
3	New Directions	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0039-0076																																																																
4	What's the Other Option?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0077-0114																																																																
5	What's the Other Option?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0115-0152																																																																
6	You're Leaving Us?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0153-0190																																																																
7	You're Leaving Us?	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0191-0228																																																																
8	まとめと中間テスト	これまでのまとめと中間テスト	中間テストの準備																																																																
9	Don't Stop Believing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0229-0266																																																																
10	Don't Stop Believing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0267-0304																																																																
11	He's Not Coming	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0305-0342																																																																
12	He's Not Coming	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0343-0400																																																																
13	I Want In	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 統一単語テストの準備																																																																
14	I Want In	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読																																																																
15	まとめ	これまでの項目を総復習	期末試験の準備																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	その他の英語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Communicate in English with glee</td><td>Simon Capper 他</td><td>Shohakusha</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 core vocabulary for the ToEIC test</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Communicate in English with glee	Simon Capper 他	Shohakusha	2	The 1500 core vocabulary for the ToEIC test	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Communicate in English with glee	Simon Capper 他	Shohakusha																																																																
2	The 1500 core vocabulary for the ToEIC test	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	共通試験 20%（統一英語単語テスト 20%） 中間試験と定期試験 40% 提出物・授業参加 20% e-learning20%の割合で評価する。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で 3～5 点減点します。																																																																		
学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey たくさん失敗し、たくさん学んでください！																																																																		
担当者の	7 号館 2 階（非常勤講師室）																																																																		

研究室等	
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。 英単語は e-learning 学習など、毎日、平均 1 時間は学習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹部 春樹
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。
到達目標	TOEIC 350 点 (TOEIC Bridge 130 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストは No. 0001-0400 の範囲を毎回 40 単語ずつ 10 回に分けてテストしたあと、全範囲を対象とした小テストを行なう。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	語彙、文法、読解力、リスニングの向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前：シラバスを読み、教科書をながめてみる。
	2	Chapter 1: Smokey Bear: A Mascot with a Message	接続詞の復習をしながら、第一章を学習する。 単語テスト No. 0001-0040	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	3	Chapter 1: Smokey Bear: A Mascot with a Message	接続詞の復習をしながら、第一章を学習する。 単語テスト No. 0041-0080	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	4	Chapter 2: Overtourism is a Problem!	現在形の復習をしながら、第二章を学習する。 単語テスト No. 0081-0120	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	5	Chapter 2: Overtourism is a Problem!	現在形の復習をしながら、第二章を学習する。 単語テスト No. 0121-0160	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	6	Chapter 3: Gender Equality in the Workplace	助動詞の復習をしながら、第三章を学習する。 単語テスト No. 0161-0200	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	7	Chapter 3: Gender Equality in the Workplace	助動詞の復習をしながら、第三章を学習する。 単語テスト No. 0201-0240	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	8	Chapter 4: Changing Definitions of Beauty	進行形の復習をしながら、第四章を学習する。 単語テスト No. 0241-0280	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	9	Chapter 4: Changing Definitions of Beauty	進行形の復習をしながら、第四章を学習する。 単語テスト No. 0281-0320	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	10	Chapter 5: Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance	過去形の復習をしながら、第五章を学習する。 単語テスト No. 0321-0360	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	11	Chapter 5: Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance	過去形の復習をしながら、第五章を学習する。 単語テスト No. 0360-0400	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	12	Chapter 6: Nature and Health	動名詞の復習をしながら、第六章を学習する。 単語テスト No. 0001-0400	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	13	Chapter 6: Nature and Health	動名詞の復習をしながら、第六章を学習する。 単語テスト No. 0001-0400	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	14	Chapter 7: Golden Years and Silver Divorces	否定文の復習をしながら、第七章を学習する。 単語テスト No. 0001-0400	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	15	Chapter 7: Golden Years and Silver Divorces	否定文の復習をしながら、第七章を学習する。 単語テスト No. 0001-0400	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell ほか	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 20% 小テスト 20% 定期試験 30% 授業態度（投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など）10%
学生への メッセージ	英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、（少しずつでも）毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。 質問などあれば、いつでも haruki.takebe@edu.setsunan.ac.jp にどうぞ。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	この授業は、TOEIC Bridge、及び TOEIC 受験対策を目的とする。従って日常生活、ビジネスシーン等で使用される英語の基本語彙を学び、役立つ文法事項を確認をする。メール、広告、掲示物などから必要な情報を読み取ったり、様々なシチュエーションにおけるダイアログ、アナウンスメント等を聞いて内容把握をする練習を行う。
到達目標	TOEIC 300 点 (TOEIC Bridge 120 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は学生による発表を中心に進めますから、テキストの指定された箇所を予習して授業に出席してください。予習とは、単語、熟語等の意味のみならず、音読できるように発音を確認することも含みます。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 余暇時間の過ごし方	授業の進め方の説明 テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの準備
	2	外食	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 401- 440
	3	趣味	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 441- 480
	4	交通機関	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 481- 520
	5	住居	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 521- 560
	6	学校生活	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 561- 600
	7	医療	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 601- 640
	8	ショッピング	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 641- 680
	9	家族、友人、ペット	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 681- 720
	10	マスメディア	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 721- 760
	11	就職活動	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 761- 808
	12	広告、宣伝	テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
	13	事務職	テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
	14	仕事上の伝達	テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
	15	会議	テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習

実務経験	
------	--

関連科目	全ての英語科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Practical TOEIC Bridge L & R Tests	Alison Kizman 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 学習の進捗度 20%、定期試験 50%、授業への取り組み 10%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	TOEICブリッジの試験対策講座として、前期末のTOEICブリッジでのスコアアップを目指す。																																																																		
到達目標	TOEICブリッジでのスコアアップ																																																																		
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Test の得点アップにつなげる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction</td><td>授業内容の詳しい解説</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>2</td><td>読解、文法、語彙 品詞</td><td>TOEIC 文法・読解演習 主要品詞</td><td>単語小テスト No. 0401-0440 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>3</td><td>読解、文法、語彙 動詞の形 1</td><td>TOEIC 文法・読解演習 時制</td><td>単語小テスト No. 0441-0480 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>4</td><td>読解、文法、語彙 動詞の形 2</td><td>TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態</td><td>単語小テスト No. 0481-0520 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>5</td><td>読解、文法、語彙 前置詞</td><td>TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割</td><td>単語小テスト No. 0521-0560 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>6</td><td>読解、文法、語彙 接続詞</td><td>TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割</td><td>単語小テスト No. 0561-0600 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Review</td><td>前半の復習</td><td>単語小テスト No. 0601-0640 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>8</td><td>臨時試験</td><td>前半の試験</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>臨時試験評価</td><td>臨時試験の解説及び評</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>10</td><td>読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞</td><td>TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について</td><td>単語小テスト No. 0641-0680 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>11</td><td>読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応</td><td>TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について</td><td>単語小テスト No. 0681-0720 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>12</td><td>読解、文法、語彙 関係詞</td><td>TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法</td><td>単語小テスト No. 0721-0760 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>13</td><td>読解、文法、語彙 名詞節</td><td>TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法</td><td>単語小テスト No. 0761-0808 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>14</td><td>読解、文法、語彙 副詞節</td><td>TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法</td><td>教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Review</td><td>後半の復習</td><td>Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No. 0401-0440 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	3	読解、文法、語彙 動詞の形 1	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No. 0441-0480 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	4	読解、文法、語彙 動詞の形 2	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No. 0481-0520 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No. 0521-0560 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No. 0561-0600 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	7	Review	前半の復習	単語小テスト No. 0601-0640 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No. 0641-0680 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No. 0681-0720 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No. 0721-0760 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No. 0761-0808 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No. 0401-0440 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
3	読解、文法、語彙 動詞の形 1	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No. 0441-0480 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
4	読解、文法、語彙 動詞の形 2	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No. 0481-0520 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No. 0521-0560 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No. 0561-0600 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
7	Review	前半の復習	単語小テスト No. 0601-0640 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No. 0641-0680 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No. 0681-0720 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No. 0721-0760 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No. 0761-0808 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Seize the Essence of the TOEIC Test</td><td>Masako Yasumaru et al.</td><td>KINSEIDO</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>NISHIYA Koji</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	共通試験 20% (単語試験 20%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度 (発表など) 10%、e-learning 20% の割合で総合的に評価する。																																																																		
学生への メッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。																																																																		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。																																																																		

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	この授業は、TOEIC (Bridge) 形式の問題を解きながら、文法事項の再確認をし、リスニング・リーディングの力をつけ、日常やビジネス・シーンで役立つコミュニケーション能力を養って行きます。授業はまず学生に発表してもらい、その後ポイントを解説して行きます。この授業を通して TOEIC 形式に慣れ、正解を導くコツを身につけるようにしてください。尚、毎回授業の初めに単語テストを行います。																																																																		
到達目標	TOEIC350 点 (TOEIC Bridge130 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	この授業は、TOEIC Bridge で高得点を取るだけでなく、TOEIC テストへの導入も目的としています。TOEIC のコツを身につけられるように、必ず予習をして、授業中は正解だけでなく、なぜその答えが正しいのかということに注意しながら解説をよく聞いて、しっかりメモを取ることが大切です。授業は学生の発表と解説という形で進め、授業の最後に質疑応答の時間を設けます。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション、プリント教材</td><td>授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題</td><td>テキストの予習、以下 2 回目以降の単語テスト範囲を記すので、授業までに必ず覚えておくこと、また授業の後は、次のテスト範囲とともに、見直しをすること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The Weather</td><td>天気/ 現在時制、過去時制</td><td>テキストの予習 単語 401-440</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Meetings & Messages</td><td>ミーティング、メッセージ/ 冠詞、代名詞</td><td>テキストの予習 単語 441-480</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Health</td><td>健康/ 進行形</td><td>テキストの予習 単語 481-520</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Advertising & Sales</td><td>広告、セール/ 名詞、数詞</td><td>テキストの予習 単語 521-560</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Investment & Office Supplies</td><td>投資、オフィスの備品/ 形容詞、副詞</td><td>テキストの予習 単語 561-600</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Telephone Messages</td><td>電話メッセージ/ 接続詞、前置詞</td><td>テキストの予習 単語 601-640</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Jobs & Promotions</td><td>仕事、昇進/ 助動詞、使役・感覚動詞</td><td>テキストの予習 単語 641-680</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Flights & Traveling</td><td>フライト、旅行/ 未来時制</td><td>テキストの予習 単語 681-720</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Housing</td><td>住居/ 比較</td><td>テキストの予習 単語 721-764</td></tr> <tr> <td>11</td><td>New Products & Electrical Appliances</td><td>新製品、電化製品/ 不定詞、動名詞</td><td>テキストの予習 単語 765-808</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Media</td><td>メディア/ 完了時制</td><td>テキストの予習 単語 401-440</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Ordering & Shipping</td><td>注文、発送/ 受動態</td><td>テキストの予習 単語 441-480</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Customer Services</td><td>顧客サービス/ 関係詞</td><td>テキストの予習 単語 481-520</td></tr> <tr> <td>15</td><td>The Environment</td><td>環境/ 仮定法、復習</td><td>テキストのこれまでの内容の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習、以下 2 回目以降の単語テスト範囲を記すので、授業までに必ず覚えておくこと、また授業の後は、次のテスト範囲とともに、見直しをすること。	2	The Weather	天気/ 現在時制、過去時制	テキストの予習 単語 401-440	3	Meetings & Messages	ミーティング、メッセージ/ 冠詞、代名詞	テキストの予習 単語 441-480	4	Health	健康/ 進行形	テキストの予習 単語 481-520	5	Advertising & Sales	広告、セール/ 名詞、数詞	テキストの予習 単語 521-560	6	Investment & Office Supplies	投資、オフィスの備品/ 形容詞、副詞	テキストの予習 単語 561-600	7	Telephone Messages	電話メッセージ/ 接続詞、前置詞	テキストの予習 単語 601-640	8	Jobs & Promotions	仕事、昇進/ 助動詞、使役・感覚動詞	テキストの予習 単語 641-680	9	Flights & Traveling	フライト、旅行/ 未来時制	テキストの予習 単語 681-720	10	Housing	住居/ 比較	テキストの予習 単語 721-764	11	New Products & Electrical Appliances	新製品、電化製品/ 不定詞、動名詞	テキストの予習 単語 765-808	12	Media	メディア/ 完了時制	テキストの予習 単語 401-440	13	Ordering & Shipping	注文、発送/ 受動態	テキストの予習 単語 441-480	14	Customer Services	顧客サービス/ 関係詞	テキストの予習 単語 481-520	15	The Environment	環境/ 仮定法、復習	テキストのこれまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション、プリント教材	授業の進め方の説明、プリント教材を使った課題	テキストの予習、以下 2 回目以降の単語テスト範囲を記すので、授業までに必ず覚えておくこと、また授業の後は、次のテスト範囲とともに、見直しをすること。																																																																
2	The Weather	天気/ 現在時制、過去時制	テキストの予習 単語 401-440																																																																
3	Meetings & Messages	ミーティング、メッセージ/ 冠詞、代名詞	テキストの予習 単語 441-480																																																																
4	Health	健康/ 進行形	テキストの予習 単語 481-520																																																																
5	Advertising & Sales	広告、セール/ 名詞、数詞	テキストの予習 単語 521-560																																																																
6	Investment & Office Supplies	投資、オフィスの備品/ 形容詞、副詞	テキストの予習 単語 561-600																																																																
7	Telephone Messages	電話メッセージ/ 接続詞、前置詞	テキストの予習 単語 601-640																																																																
8	Jobs & Promotions	仕事、昇進/ 助動詞、使役・感覚動詞	テキストの予習 単語 641-680																																																																
9	Flights & Traveling	フライト、旅行/ 未来時制	テキストの予習 単語 681-720																																																																
10	Housing	住居/ 比較	テキストの予習 単語 721-764																																																																
11	New Products & Electrical Appliances	新製品、電化製品/ 不定詞、動名詞	テキストの予習 単語 765-808																																																																
12	Media	メディア/ 完了時制	テキストの予習 単語 401-440																																																																
13	Ordering & Shipping	注文、発送/ 受動態	テキストの予習 単語 441-480																																																																
14	Customer Services	顧客サービス/ 関係詞	テキストの予習 単語 481-520																																																																
15	The Environment	環境/ 仮定法、復習	テキストのこれまでの内容の復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	全ての英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>TOEIC Bridge Lounge</td><td>Terry O'Brien 他</td><td>南雲堂</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEIC Bridge Lounge	Terry O'Brien 他	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	TOEIC Bridge Lounge	Terry O'Brien 他	南雲堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、e-learning20%、定期試験 30%、授業中のテスト 20%、授業態度(発表、積極性、メモのとり方など) 10%の割合で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	辞書を持参して毎回出席すること、指定された個所を必ず予習することを心がけてください。TOEIC テストは、形式に慣れることで大幅に点数が上がると言われてしています。是非学生のうちに何度か受験しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	内山 知美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	この授業は、TOEIC (Bridge) 形式の問題を解きながら、文法事項の再確認をし、リスニング・リーディングの力をつけ、日常やビジネス・シーンで役立つコミュニケーション能力を養って行きます。授業はまず学生に発表してもらい、その後ポイントを解説して行きます。この授業を通して TOEIC 形式に慣れ、正解を導くコツを身につけるようにしてください。尚、毎回授業の初めに単語テストを行います。
到達目標	TOEIC 300 点 (TOEIC Bridge 120 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	この授業は、TOEIC Bridge で高得点を取るだけでなく、TOEIC テストへの導入も目的としています。TOEIC のコツを身につけられるように、必ず予習をして、授業中は正解だけでなく、なぜその答えが正しいのかということに注意しながら解説をよく聞いて、しっかりメモを取ることが大切です。授業は学生の発表と解説という形で進め、授業の最後に質疑応答の時間を設けます。注意事項の詳細は、授業で説明・配布します。それに従ってください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 1 Activities 1	授業の進め方の説明 テキスト 1 Activities 1 品詞	テキストの予習、以下 2 回目以降の単語テスト範囲を記すので、授業までに必ず覚えておくこと、また授業の後は、次のテスト範囲とともに、見直しをすること。
	2	2 Activities 2	単語テスト第一回目 テキスト be 動詞	テキストの予習 単語 401-436
	3	3 Dining Out 1	単語テスト テキスト 3 人称現在	テキストの予習 単語 437-474
	4	4 Dining Out 2	単語テスト テキスト 動詞過去形	テキストの予習 単語 475-511
	5	5 Entertainment 1	単語テスト テキスト 進行形	テキストの予習 単語 512-548
	6	6 Entertainment 2	単語テスト テキスト 未来形	テキストの予習 単語 549-585
	7	7 At Home 1	単語テスト テキスト 前置詞 1 場所/空間	テキストの予習 単語 586-622
	8	8 At Home 2	単語テスト テキスト 前置詞 2 方向	テキストの予習 単語 623-659
	9	9 At Work 1	単語テスト テキスト 前置詞 3 時	テキストの予習 単語 660-696
	10	10 At Work 2	単語テスト テキスト前置詞 4	テキストの予習 単語 670-733
	11	11 At Work 3	単語テスト テキスト 第 1 文型 (主語+動詞)	テキストの予習 単語 734-770
	12	12 Travel 1	単語テスト テキスト 第 2 文型 (主語+動詞+補語)	テキストの予習 単語 771-808
	13	13 Travel 2	単語テスト テキスト 第 3 文型 (主語+動詞+目的語)	テキストの予習
	14	14 College Life 1	単語テスト テキスト 第 4 文型 (主語+動詞+間接目的語+直接目的語)	テキストの予習
	15	15 College Life 2 まとめ	テキスト第 5 文型 (主語+動詞+目的語+補語)	テキストのこれまでの内容の復習

実務経験	
関連科目	全ての英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Beginner Course for the TOEIC BridgeR Test / 初級 TOEIC BridgeR Test 集中コース	Alex Cameron 他	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	統一英語単語テスト 20%、e-learning20%、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度 10%の割合で評価する。授業態度とは、授業中の質問に対する

(基準)	回答状況、毎授業の集中度を指す。また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	e-learning 教材と、教科書の音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。 予習・復習を怠らないようにし、良い辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。 地道な努力により英語力は伸びてゆきます。 教科書の他、ニュースや歌、映画も視聴して楽しく学びましょう。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	TOEIC Bridge の試験対策講座として、前期末の TOEIC Bridge でのスコアアップを目指す。
到達目標	単語力、文法力の底上げをし、TOEIC Bridge 130 点以上の実力を身に付ける。
授業方法と留意点	単語テストを授業始めに行うので遅れないように来ること。また、テスト範囲が多いのでしっかり予習しておくこと。プリント類が多いので別ファイルにしっかり整理できるようにしておくこと。 文法問題は選択肢の意味だけではなく品詞からのアプローチを学習する。 語彙の感覚を養い、辞書の意味だけを単独で丸覚えするのではなく、よくある組合せの表現句にも注目して行く。 文章問題は情報のスキミングを作業プリントで確認しながら解くことにより、知らない語彙にとらわれないでスピードリーディングを身につけるようにする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 品詞の認識 品詞とは 語彙発展	授業の進め方、得点配分など リスニング Unit1 リーディング Unit7 品詞分けプリントで品詞解説 文法問題 単語	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	2	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展 文章題に慣れる	単語テスト 1 リスニング Unit1 リーディング Unit7 Unit8 文法問題 文章問題 単語 文法「接続詞」	単語小テスト No. 4 0 1 ? 4 8 3 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	3	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展 文章題に慣れる	単語テスト 2 リスニング Unit1 リーディング Unit7 Unit8 文法問題 文章問題 単語 文法「前置詞」	単語小テスト No. 4 8 4 ? 5 6 4 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	4	品詞の観点をもって文法問題を解く 語彙発展 文章題に慣れる	単語テスト 3 リスニング Unit1 リーディング Unit7 Unit8 文法?文章問題 単語 文法「分詞 1」	単語小テスト No. 5 6 5 ? 6 4 5 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	5	テスト第 1 回 語彙発展 文章形式の文法問題を解く	総合テスト第 1 回 Unit7 文章文法問題 文法「分詞 2」	単語 No. 6 4 6 ? 7 2 6 含む復習 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	6	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	テスト返却 フィードバック 単語テスト 4 リスニング Unit1 リーディング Unit 9 文法問題 単語 文法「関係代名詞 1」	単語小テスト No. 7 2 7 ? 8 0 8 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	7	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト 5 リスニング Unit2 リーディング Unit9 Unit10 文法?文章問題 単語 文法「関係代名詞 2」	単語小テスト前半復習 No. 4 0 1 ? 6 1 1 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	8	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト 6 リスニング Unit2 リーディング Unit 9 Unit10 文法?文章問題 単語 文法「不定詞」	単語小テスト後半復習 No. 6 1 2 ? 8 0 8 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	9	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	単語テスト 7 リスニング Unit2 リーディング Unit 9 Unit10 文法?文章問題 単語 文法「不定詞動名詞」	単語小テスト No. 681-720 及び教科書 P.46-50 & P.54-58 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	10	テスト第 2 回 語彙発展 文章形式の文法問題を解く 品詞の観点をもって文法問題を解く	復習テスト第 2 回 リスニング Unit2 リーディング Unit 9、10 文法問題 文章問題、単語	教科書の単語を含む復習 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	11	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	テスト返却、フィードバック リスニング Unit2 リーディング Unit 9 文章、文法問題 単語 文法「過去形と現在完了形」	授業中に次回の範囲を指定 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	12	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	リスニング Unit 3 リーディング Unit 11 文法問題 単語 文法「受身形 1」	授業中に次回の範囲を指定 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	13	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す	リスニング Unit 3 リーディング Unit 11 文法問題 単語 文法「受身形 1」Unit 11 Unit12 文章?	授業中に次回の範囲を指定 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること

		り出す 語彙発展	文法問題 単語「受身形2」																	
	14	品詞の観点をもって文法問題を解く 文章題から適切な情報を取り出す 語彙発展	リスニングUnit3 リーディング 文法問題 単語 文法「受身形1」Unit11 Unit12 文章? 文法問題 単語	授業中に次回の範囲を指定 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること																
	15	復習テスト、フィードバック、期末試験対策	復習テスト第3回 テスト返却、フィードバック	今までの復習 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること																
実務経験																				
関連科目	TOEIC、英検ほか、英語関連の資格一般																			
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>Quick Start for the TOEIC Test 2</td><td>Kazushike cho 他</td><td>マクミラン</td></tr><tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK-</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Quick Start for the TOEIC Test 2	Kazushike cho 他	マクミラン	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK-	西谷恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Quick Start for the TOEIC Test 2	Kazushike cho 他	マクミラン																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - WORD BOOK-	西谷恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、e-learning 20%、定期試験 25%、 平常点（小テスト（3点X6回+2点X1回）、授業態度）35%の割合で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでいただきたい。																			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。																			

科目名	実践英語初級	科目名（英文）	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石倉 綾乃
ディプロマポリシー（DP）	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	TOEIC 受験対策に特化し、TOEIC でのスコアアップを目指す。																																																																		
到達目標	TOEIC 350 点以上																																																																		
授業方法と留意点	毎回、授業の最初に単語テストを行った後、教科書の演習を進めていく。 演習では、指名により解答を発表してもらうので、事前に練習問題を解いておき、知らない単語は調べておくことが必要となる。																																																																		
科目学習の効果（資格）	TOEIC、英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>受講にあたってのオリエンテーション</td><td>受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など）</td><td>教科書の予習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>2</td><td>Unit 1：動詞</td><td>文法問題、リスニング問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>3</td><td>Unit 2：品詞と文型</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>4</td><td>Unit 3：受動態</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>5</td><td>Unit 4：時制</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>6</td><td>Unit 5：動名詞と不定詞</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Unit 6：現在分詞と過去分詞</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>8</td><td>Unit 7：前置詞</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>9</td><td>Unit 8：関係詞・接続詞</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>10</td><td>Unit 9：助動詞と仮定法</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>11</td><td>Unit 10：比較と TOEIC 頻出の形容詞</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>12</td><td>Unit 11：TOEIC 頻出の名詞表現</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>13</td><td>Unit 12：副詞と重要構文</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習 小テストの対策学習</td></tr> <tr> <td>14</td><td>Unit 13：模擬問題</td><td>文法問題、資料の読解問題を解く</td><td>教科書の予習・復習</td></tr> <tr> <td>15</td><td>まとめ</td><td>重要なポイントの復習、期末試験についての連絡</td><td>授業内容の予習復習、定期試験対策</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など）	教科書の予習 小テストの対策学習	2	Unit 1：動詞	文法問題、リスニング問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	3	Unit 2：品詞と文型	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	4	Unit 3：受動態	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	5	Unit 4：時制	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	6	Unit 5：動名詞と不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	7	Unit 6：現在分詞と過去分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	8	Unit 7：前置詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	9	Unit 8：関係詞・接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	10	Unit 9：助動詞と仮定法	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	11	Unit 10：比較と TOEIC 頻出の形容詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	12	Unit 11：TOEIC 頻出の名詞表現	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	13	Unit 12：副詞と重要構文	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習	14	Unit 13：模擬問題	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習	15	まとめ	重要なポイントの復習、期末試験についての連絡	授業内容の予習復習、定期試験対策
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種テストについての説明など）	教科書の予習 小テストの対策学習																																																																
2	Unit 1：動詞	文法問題、リスニング問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
3	Unit 2：品詞と文型	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
4	Unit 3：受動態	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
5	Unit 4：時制	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
6	Unit 5：動名詞と不定詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
7	Unit 6：現在分詞と過去分詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
8	Unit 7：前置詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
9	Unit 8：関係詞・接続詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
10	Unit 9：助動詞と仮定法	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
11	Unit 10：比較と TOEIC 頻出の形容詞	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
12	Unit 11：TOEIC 頻出の名詞表現	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
13	Unit 12：副詞と重要構文	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習 小テストの対策学習																																																																
14	Unit 13：模擬問題	文法問題、資料の読解問題を解く	教科書の予習・復習																																																																
15	まとめ	重要なポイントの復習、期末試験についての連絡	授業内容の予習復習、定期試験対策																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>TOEIC L&R TEST のための基礎演習</td><td>中川右也ほか</td><td>三修社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>西谷恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TOEIC L&R TEST のための基礎演習	中川右也ほか	三修社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	TOEIC L&R TEST のための基礎演習	中川右也ほか	三修社																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	統一英語単語テスト（20%） e-learning 学習（20%） 期末試験、小テスト、授業態度、宿題等（60%）																																																																		
学生へのメッセージ	一歩ずつ着実に英語力を上げていきましょう。 予習、復習には時間をかけるようにしてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階非常勤講師室																																																																		
備考	原則として欠席が 4 回以上の受講者は評価対象とならない。携帯電話の使用や無断での途中退室といった問題行為が発覚した場合は欠席扱いとなる。 その他質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト等の提出物に対しては授業中にフィードバックを行う。 事前事後学習には毎回 1 時間以上かけること。																																																																		

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	永野 喜子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1 年次ならびに 2 年次前期に習得した読解力を基にして、内外の英字新聞記事を読む練習を続ける。より長い文章を読むことにより、より多くの語彙力、文法力をつけていくことを目的とする。 世界の新しいニュースを英語で読むことで、学生は興味をもって受講することだろう。
到達目標	e-learning で TOEIC に頻出する単語を学び、TOEIC 550 以上を取ることを目標にする。授業では、少しぐらい意味の分からない箇所があっても、英字新聞を抵抗なく読むことができるようになる。
授業方法と留意点	前期に引き続き、教科書を 1 課ずつ学習していきます。 英字新聞記事を楽しみながら読むことができることを目指し、ひとつひとつの記事を学習のために最大限に活用することができるよう、各自が工夫して学習してほしいと思います。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は英検や TOEIC, TOEIC Bridge 等のテストに必ず役立つ。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
授業計画	1	ガイダンス Chapter 11 Why Not Go to Kyoto? IT 産業の会社の多い京都についての記事の読解	授業の進め方と評価方法の説明 この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	2	Chapter 11 Kyoto popular spot for IT firms, branches 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事の後に続く練習問題をできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	3	Chapter 12 To Be More Eco-friendly 環境にやさしい服地についての記事の読解	新聞記事特有の表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	4	Chapter 12 Can the fashion industry become more sustainable? 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための問題を解く。	記事の後の練習問題を、事前にできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	5	Chapter 13 A Pleasant Night's Sleep at a Capsule Hotel 大阪にあるカプセルホテルについての記事の読解	新聞記事によくみられる表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	6	Chapter 13 The secret of capsule hotels popularity 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事の後の内容理解確認問題をできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	7	Chapter 14 Healthy Lifestyles Discount Premium 健康志向の社会と保険についての記事の読解	この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための練習問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、問題はできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容理解ができたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	8	Chapter 15 Stylish Sweden vs. Traditional India IKEA のインド進出についての記事の読解	新聞記事特有の表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	9	Chapter 15 IKEA wins India's rising consumer class, tapping new markets 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための問題を解く。	事前に、記事のあとに続く内容確認問題をできるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	10	Chapter 16 Silent Speech Recognition App to Help People 音声不要の言語認識アプリについての記事の読解	記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容確認のための問題を解く。	事前に、記事とその前後の練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容理解ができたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	11	Chapter 17 Real vs. Artificial Christmas Trees アメリカの昨今のクリスマスツリー事情についての記事の読解	新聞記事特有の表現や、この記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事に目を通し、知らない単語・表現を辞書で調べる。事後には、その記事を再読し、分からない箇所が見つかれば、次の授業で質問することができるように準備する。(1 時間)
	12	Chapter 17 It's Christmas, Keep It Real 前回の記事の読解の続き	前回の授業に引き続き、記事を読解し、要約文や内容理解確認のための問題を解く。	事前に、記事の後の練習問題を、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	13	Chapter 18 Take them to the Ski Resort 日本のスキー場に来る外国人の数の増加についての記事の読解	記事の内容理解に必要な表現や背景知識を学んだ後、その記事を読解し、内容理解確認のための練習問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
	14	Chapter 19 Impossible Made Possible ベジタリアンのためのハンバーガーを製造したバーガー	記事の内容理解に必要な表現や背景知識を学んだ後、その記事を読解し、要約文や内容理解確認の問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)

		ー・キングについての記事の読解		
	15	Chapter 20 Yet Another Step of the Giant アマゾンがハーバード大学付属病院に AI を与えたニュース記事の読解	記事の内容理解に必要な表現を学んだ後、その記事を読解し、要約文や内容理解確認の問題を解く。	事前に、記事と練習問題に目を通し、できるだけ解いておく。事後には、記事を再読し、内容が理解できたかどうかを自分で確かめる。(1 時間)
実務経験				
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	INSIGHTS 2020	村尾純子、深山晶子、他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	TOEIC L&R 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、学期を通した提出物の内容 (60%) を総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	- 実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 - 授業計画は進度によって変わる場合がある。 - 事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。 - 自分で学習しながら、不明点が見つかれば、すぐに質問してください。			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1 回生で習得した読解力に加えて、英語を聴いて、その内容を理解する段階まで進めていきたい。また、より長い文章を読むことにより、より多くの語彙力、文法力をつけていくことを目的とする。 教科書は、アメリカの学生向けニュース番組 CNN Student News から採択されたものを取り上げているので、今のニュースをネイティブ英語を通して学べる。書き取りのテストも行い、リスニング能力の向上も目指す。
到達目標	DVD を見て、今の英語を「聴き」「読む」ことでリスニングとリーディングの能力を向上させることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組み、自らの努力することで、必ず英語の力がつき、TOEIC のスコアアップにつながるようになる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。リスニング、訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かすことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力やリスニング力は英検や TOEIC 等のテストに必ず役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: Bringing People Back to Baseball 観客が少ない球団の観客呼び込み作戦	教科書 pp. 29-30	教科書予習
	2	Unit 8: Bringing People Back to Baseball 観客が少ない球団の観客呼び込み作戦	教科書 pp. 30-32	復習、予習 教科書小テストの準備
	3	Unit9: Smell of Success 香りでお客の購買意欲をそそる方法	教科書 pp. 33-34 教科書 Unit 8 小テスト	復習、予習
	4	Unit 9: Smell of Success 香りでお客の購買意欲をそそる方法	教科書 pp. 34-36	復習、予習 教科書小テストの準備
	5	Unit 10: Octocopter Amazon のより早い配達方法	教科書 pp. 37-38 教科書 Unit9 小テスト	復習、予習
	6	Unit 10: Octocopter Amazon のより早い配達方法	教科書 pp. 38-40	復習、予習 教科書小テストの準備
	7	Unit 11: Staying Safe Online Free Wi-Fi 地域での危険	教科書 pp. 41-42 教科書 Unit10 小テスト	復習、予習
	8	Unit 11: Staying Safe Online Free Wi-Fi 地域での危険	教科書 pp. 42-44	復習、予習 教科書小テストの準備
	9	Unit 12: Air Pollution in Asian Cities アジアの空気汚染	教科書 pp. 45-46 教科書 Unit11 小テスト	復習、予習
	10	Unit 12: Air Pollution in Asian Cities アジアの空気汚染	教科書 pp. 46-48	復習、予習 教科書小テストの準備
	11	Unit 13: Protecting Michelangelo's Paintings ミケランジェロの絵画を守る方法	教科書 p pp. 49-50 教科書 Unit12 小テスト	復習、の予習
	12	Unit 13: Protecting Michelangelo's Paintings ミケランジェロの絵画を守る方法	教科書 pp. 50-52	復習、予習 教科書小テストの準備
	13	Unit 14: Choosing Jury アメリカの陪審制度と仕組み	教科書 pp. 53-54 教科書 Unit13 小テスト	復習、予習
	14	Unit 14: Choosing Jury アメリカの陪審制度と仕組み	教科書 pp. 54-56	復習、予習
	15	Unit 15: Light Pollution	教科書 pp. 57-58	復習と試験 (後期末) の準備

	光による公害																		
実務経験																			
関連科目	他の英語科目																		
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>CNN Student News for Reading & Writing</td> <td>関戸冬彦・Jake Arnold・Ken Ikeda1・小暮正人</td> <td>朝日出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	CNN Student News for Reading & Writing	関戸冬彦・Jake Arnold・Ken Ikeda1・小暮正人	朝日出版社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	CNN Student News for Reading & Writing	関戸冬彦・Jake Arnold・Ken Ikeda1・小暮正人	朝日出版社																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																
3																			
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」／Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	d79uv47																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	理工学部共通課題 (TOEIC L&R 20%、e-learning 20%) 40% テスト 30%、 小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。 原則として出席・課題 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。																		
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。																		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	- 実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。 - 授業計画は進度によって変わる場合がある。 - 事前事後の学習のため、毎回平均1時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 - 小テスト等は授業中にフィードバックする。																		

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	箕田 正開
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	AFP の最新ニュース映像を使って、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals) を達成するために何ができるかを考える。SDGs に関連する映像でリスニング力を強化し、やさしい英文で書かれた話題でリーディング力を強化する。最終的に、しっかりした読解能力と文法知識に基づくコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。
到達目標	TOEIC450 点 (TOEIC Bridge 150 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業は 'Active Participation in Class' (授業への積極的な参加) が前提である。双方向の全員参加の授業を展開する。教科書の内容を補うプリントが毎回配布されるので、それに基づいて回答することが求められる。
科目学習の効果 (資格)	予習・復習を欠かさず、英語に触れる絶対量を増やせば、英検 2 級以上、TOEIC 550 点以上は必ず取れるはず。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Lesson 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 9 の予習 単語学習範囲: 809-858
	2	Lesson 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 9 の復習、予習 単語学習範囲: 859-908
	3	Lesson 10 人や国の不平等をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 10 の予習 単語学習範囲: 909-958
	4	Lesson 10 人や国の不平等をなくそう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 10 の復習、予習 単語学習範囲: 959-1008
	5	Lesson 11 住み続けられるまちづくりを	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 11 の予習 単語学習範囲: 1009-1058
	6	Lesson 11 住み続けられるまちづくりを	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 11 の復習、予習 単語学習範囲: 1059-1108
	7	Lesson 12 つくる責任、つかう責任	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 12 の予習 単語学習範囲: 1109-1158
	8	Lesson 12 つくる責任、つかう責任	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 12 の復習、予習 単語学習範囲: 1159-1208
	9	Lesson 13 気候変動に具体的な対策を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 13 の予習 単語学習範囲: 1209-1258
	10	Lesson 13 気候変動に具体的な対策を	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 13 の復習、予習 単語学習範囲: 1259-1308
	11	Lesson 14 海の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 14 の予習 単語学習範囲: 1309-1358
	12	Lesson 14 海の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 14 の復習、予習 単語学習範囲: 1359-1408
	13	Lesson 15 陸の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 15 の予習 単語学習範囲: 1409-1458
	14	Lesson 15 陸の豊かさを守ろう	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	UNIT 15 の復習、予習 単語学習範囲: 1459-1500
	15	Lesson 16 平和と公正をすべての人に	内容把握、語彙、リスニングに関する練習問題	定期試験 (前期末) の準備 単語学習範囲: 1459-1500

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	AFP World News Report 5	Makoto Shishido	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	期末試験 30% 提出課題 30% TOEIC Bridge 20% e-learning 20%
-----------	--

学生へのメッセージ	There is no royal road to English learning. (英語学習に王道なし) ないように英語学習に王道などありません。英語に触れる絶対的な量を増やさない限り、英語の力は絶対に伸びません。Slow and (or but) steady wins the race. (急がば回れ) を心に留め、ゆっくりでも着実に
-----------	---

	勉強を続けることです。そうすれば英語の力は必ず上達します。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	英語の辞典を持参してください。 単語学習範囲(20個)は授業中に毎回練習しますので、その範囲の予習・復習を、e-learning 学習を含めて、毎日1時間は学習してください。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。実際のTOEICテストに慣れ、高得点を目指すことを目標とする。
到達目標	TOEIC450点 (TOEIC Bridge150点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 809～NO 1500 の範囲を各自学習すること。また、テキストの内容も各章ごとに確認のための臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 32 単語 (NO 809～840) の学習とテスト	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語予習 NO 841～900
	2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞 1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 911～960
	3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞 2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 961～1020
	4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 不定詞 1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1021～1080
	5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、動名詞	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1081～1140
	6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、現在完了 1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1141～1200
	7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、現在完了 2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1201～1260
	8	文法問題対策	語彙、読解、文法 文型 1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1261～1320
	9	文法問題対策	語彙、読解、文法、 文型 2	復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1321～1380
	10	文法問題対策	語彙、読解、文法 文型 3	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 1381～1440
	11	文法問題対策	語彙、読解、文法、 関係代名詞 1 単語テスト 1 1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1441～1500
	12	読解問題対策	語彙、読解、文法、 関係代名詞 2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	13	読解問題対策	語彙、読解、文法のまとめ	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	14	読解問題対策	語彙、読解、文法のまとめ	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
	15	総まとめ TOEIC 形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TOEIC L&R テスト 文法項目別トレーニング	鈴木淳 他	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／zoom ライブ
------	--------------------------

Teams コード	fv7fw15
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	大学共通 (TOEIC Bridge 20%、 e-learning 20%) 臨時テスト 25%、課題レポート 25%、授業態度 10% (授業中の発表) の割合で評価する。
--------------	--

学生への メッセージ	・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・辞書は毎回必携のこと ・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。
---------------	---

担当者の 研究室等	7 号館 2 階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習（それぞれ約 1 時間）以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語中級	科目名（英文）	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー（DP）	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	高校英語レベルの復習を目標に、読解力を中心に、語彙力、文法力、英語表現力を身につけることを目標とする。 。基本的な英語能力で専門的な分野（科学的な内容）を学ぶ。 TOEIC Bridge、TOEIC 対策も目的とする。
到達目標	正確な語彙力、文法力を基にした、英文読解力、またリスニング力、そして自己表現力を得ることが出来る。基礎的な英語力で、理系科学に関する内容を読解、説明できるようになる。
授業方法と留意点	講義（解説）と演習の両方をおこない、全員参加型の授業を目指す。辞書を引き、充分に予習をして授業に臨んでください。辞書は必ず持参すること。指定の単語集を用いて毎回、授業の初めにテストをします。
科目学習の効果（資格）	英語の基礎的な語彙力、文法力が身に付きます。英文の基礎読解力、英語での簡単な表現力が身に付きます。理系科学に関する内容を英語で理解できるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	教科書と辞書を持参
	2	Where Is Everybody? 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0809-0880
	3	Where Is Everybody? 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0881-0960
	4	You Inspire People 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 0961-1040
	5	You Inspire People 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1041-1120
	6	He Doesn't Belong Here 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1121-1200
	7	He Doesn't Belong Here	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1201-1280
	8	まとめと中間テスト	これまでのまとめと中間テスト	中間テストの準備
	9	So Be It 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1281-1360
	10	So Be It 語彙、チャンク	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1361-1440
	11	It's a Win-Win for Both of Us 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1441-1460
	12	It's a Win-Win for Both of Us 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 The 1500 core vocabulary 1481-1500
	13	Thanks for Telling Me 語彙、チャンク、viewing	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読 統一単語テストの準備
	14	Thanks for Telling Me	テキスト実践、解説	学習範囲の英文の音読
	15	まとめ	これまでの項目の総復習	期末テストの準備

実務経験	
関連科目	その他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Communicate in English with glee 1	Simon Capper 他	Shohakusha
	2	The 1500 core vocabulary for the Toeic test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	jc20 f 3
連絡手段	Moodle その他
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	e-learning を 20%、TOEIC または TOEIC Bridge を 20%、授業活動を 60% の割合とする。 教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で 3 ～ 5 点減点します。
学生への メッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey たくさん失敗し、たくさん学んでください！
担当者の	7 号館 2 階（非常勤講師室）

研究室等	
備考	事前事後学習には，毎回 1 時間以上かけること 自主学習には，期末試験の準備を含めて，合計 20 時間はかけること。 英単語は e-learning 学習など，毎日，平均 1 時間は学習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 課題等の提出物は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	竹部 春樹
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。
到達目標	TOEIC 350 点 (TOEIC Bridge 130 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストは No. 0809-1500 の範囲を約 60 単語ずつ 12 回に分けてテストしたあと、全範囲を対象とした小テストを行なう。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	語彙、文法、読解力、リスニングの向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス Chapter 6: Nature and Health	授業についての説明。 動名詞の復習をしながら、第六章を学習する。 単語テスト No. 0809-0865	事前：シラバスを読む。単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	2	Chapter 7: Golden Years and Silver Divorces	否定文の復習。 単語テスト No. 0866-0916	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	3	Chapter 7: Golden Years and Silver Divorces	第七章を学習する。 単語テスト No. 0917-0979	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	4	Chapter 8: Trees: A Gift from Nature	不定詞の復習。 単語テスト No. 0980-1039	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	5	Chapter 8: Trees: A Gift from Nature	第八章を学習する。 単語テスト No. 1040-1101	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	6	Chapter 9: Tattoos	前置詞の復習をしながら、第九章を学習する。 単語テスト No. 1102-1161	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	7	Chapter 10: Redefining Gender and Marriage	現在完了形の復習。 単語テスト No. 1162-1224	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	8	Chapter 10: Redefining Gender and Marriage	第十章を学習する。 単語テスト No. 1225-1284	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	9	Chapter 11: All the Lonely People	使役動詞などの復習。 単語テスト No. 1285-1347	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	10	Chapter 11: All the Lonely People	第十一章を学習する。 単語テスト No. 1348-1406	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	11	Chapter 12: Think Before You Talk, Text, or Tweet	受動態の復習をしながら、第十二章を学習する。 単語テスト No. 1407-1465	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	12	Chapter 13: Jeans Go Global!	関係代名詞・関係副詞の復習。 単語テスト No. 1466-1500	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	13	Chapter 13: Jeans Go Global!	第十三章を学習する。 単語テスト No. 0809-1500	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	14	Chapter 14: Helping People with Disabilities	比較の復習。 単語テスト No. 0809-1500	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。
	15	Chapter 14: Helping People with Disabilities	第十四章を学習する。 単語テスト No. 0809-1500	事前：単語テストの勉強。教科書を予習する。 事後：不明点を解決する。

実務経験	
関連科目	他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Changing Times, Changing Worlds	Joan McConnell ほかに	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Moodle
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	pef3
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	TOEIC Bridge 20% e-learning 20% Moodle 上での課題 60%
学生への	英語の訓練は楽器やスポーツの練習に似ているところがあって、(少しずつでも) 毎日やるのが大切だと思います。がんばりましょう。質問など

メッセージ	あれば、いつでも haruki.takebe@edu.setsunan.ac.jp にどうぞ。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	辞書は毎回の授業に持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC 400 点の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。																																																																		
到達目標	TOEIC400 点以上の実力 (TOEIC Bridge 140 点)																																																																		
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらおうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>Introduction</td><td>授業内容の詳しい解説</td><td>教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>2</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.0809-0880 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>3</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.0881-0950 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>4</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.0951-1020 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>5</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1021-1090 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>6</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1091-1160 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>7</td><td>Review</td><td>前半の復習</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>8</td><td>前半のまとめ</td><td>前半のまとめも文法・読解演習</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>9</td><td>前半試験返却及び解説</td><td>前半試験返却及び解説</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>10</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1161-1230 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>11</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1231-1300 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>12</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1301-1370 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>13</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1371-1440 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>14</td><td>読解、文法、語彙</td><td>TOEIC 文法・読解演習</td><td>単語小テスト NO.1441-1500 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> <tr> <td>15</td><td>Review</td><td>後半復習</td><td>事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.0809-0880 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.0881-0950 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.0951-1020 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1021-1090 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1091-1160 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1161-1230 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1231-1300 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1301-1370 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1371-1440 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1441-1500 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.0809-0880 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.0881-0950 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.0951-1020 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1021-1090 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1091-1160 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1161-1230 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1231-1300 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1301-1370 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1371-1440 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1441-1500 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550</td><td>David E. Bramley/中井弘一</td><td>松柏社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>NISHIYA Koji</td><td>成美堂</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550	David E. Bramley/中井弘一	松柏社	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550	David E. Bramley/中井弘一	松柏社																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	NISHIYA Koji	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Web Folder																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	共通試験 (TOEIC L&R) 20%, e-learning 学習の進捗度 20%, 定期試験 40% (場合によっては中間試験を実施する場合がある (実施する場合、中間・期末試験各 20%) 小テスト 10% 授業態度 (発表など) 10% の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80% 以上の学生のみを成績評価の対象とする。																																																																		
学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 歩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	英語の読み・書き・話し・聴く四技能をバランスよく伸ばし、TOEIC などの英語資格試験のスコアアップに繋がるような実践力を身に付けることを目標とします。
到達目標	・TOEIC 400 点 (TOEIC Bridge140) 以上取得 ・統一英語単語テストでの高得点 広く文法力、語彙力、読解力の底上げをする。
授業方法と留意点	・リングボルトの e-learning 課題はスケジュールに沿って、授業外で自習してください。 オンライン授業 Google Meet にて、ID meet.google.com/bpr-kxxr-oza で行います。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション There is More than One Way to Be a Leader 語彙	授業の内容、方法、評価基準、課題について説明 ユニット 1	TOEIC 単語 809-925 ユニット 1 予習
	2	A Cool Response to Food Waste 語彙 課題提出 1	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 2 単語テスト 1	TOEIC 単語 926-1040 ユニット 1 復習 ユニット 2 予習
	3	Could Your Face Cost You Your Privacy? 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 4 単語テスト 2	TOEIC 単語 1041-1155 ユニット 2 復習 ユニット 4 予習
	4	Russia's City of the East 語彙 課題提出 2	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 5 単語テスト 3	TOEIC 単語 1156-1270 ユニット 4 復習 ユニット 5 予習
	5	チェックテスト第一回 採点 講評/解説	ユニット 1, 2, 4, 5, 復習 復習テスト・採点・質問受付・解説	TOEIC 単語 1271-1385 ユニット 1, 2, 4, 5, 復習、テスト対策
	6	The Healing Power of Music 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 6 単語テスト 4	TOEIC 単語 1386-1500 ユニット 5 復習 ユニット 6 予習
	7	Looking at Life 語彙 課題提出 3	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 7 単語テスト 5	TOEIC 単語前半復習 8 0 9? 1 2 0 7 ユニット 6 復習 ユニット 7 予習
	8	Designing Solutions 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 8 単語テスト 6	TOEIC 単語後半復習 1 2 0 8? 1 5 0 0 ユニット 7 復習 ユニット 8 予習
	9	Currying Favor in Britain and Japan 語彙 課題提出 4	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 9 単語テスト 7	テキスト内の単語 ユニット 8 復習 ユニット 9 予習
	10	チェックテスト第二回 採点 講評/解説	ユニット 6、7、8、9 復習 テスト・採点・質問受付・解説	ユニット 6、7、8、9 復習
	11	Interaction with Others 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読	ユニット 9 復習 ユニット 1 0 予習
	12	The Age of Innocence 語彙 課題提出 5	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 1 2	ユニット 1 0 復習 ユニット 1 2 予習
	13	Two Great Painters 語彙	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 1 4	テキスト内の単語 ユニット 1 2 復習 ユニット 1 4 予習
	14	What's in a Name? 語彙 課題提出 6	語彙演習、内容読解、文法問題、音読 ユニット 1 5	テキスト内の単語 ユニット 14 ユニット 1 5 予習
	15	期末テスト	ユニット 10, 12, 14, 15 復習 テスト	期末テストの準備 ユニット 10, 12, 14, 15 復習

実務経験	
関連科目	実践英語入門、実践英語初級

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pleasure in Reading Aloud and Retelling	Anthony P Newell, Takane Yamaguchi	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
授業形態	Google Meet Web Folder) Teams「教材・課題配信型」)			
Teams コード	xnsps2r			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	下記の個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出物 6 回 X 7 点 = 4 2 期末テスト 1 8 点分テスト評価 TOEIC L&R 20% e-learning (リンガポルタ) 20% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	オンライン授業 Google Meet にて、ID meet.google.com/bpr-kxxr-oza で行います。 教材は web folder で配布、臨時で全クラスにお知らせがあるときは teams にて掲示します。 web folder のガイダンスプリントを事前に印刷しておいてください。			
担当者の 研究室等	メールで質問は随時受け付けています。			
備考	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。			

科目名	実践英語上級	科目名 (英文)	Practical English for the Advanced
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鈴木 大介
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3421c2		

授業概要・目的	1～2年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	(リーディング) 英語を英語のまま理解し文章の要点を理解すると同時に、内容に対する考察を深めることができる。 (リスニング) 日常的なテーマを題材にした英文に関する基本的な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができるようになる。 (ライティング、スピーキング) 複数の英文を組み合わせ、自分なりの意見を述べられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに沿った聴解や読解を中心に、より実践的な問題に取り組む。 演習型の授業を行うため、積極的な参加が求められる。 4回以上欠席した者には、原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	英文読解能力と文法知識に基づくリーディング力の向上 TOEIC 等の資格試験への対策

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方や評価基準に関する説明 本文の読解と文法、リスニングなど	
	2	Chapter 1 Restaurant 疑問文 (基礎)	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	3	Chapter 2 Department Store 疑問文 (応用)	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	4	Chapter 3 Hotel 一般疑問文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	5	Chapter 4 Bank 選択疑問文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	6	Chapter 5 Hospital 提案文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	7	Chapter 6 Fitness Club 付加疑問文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	8	Chapter 7 Airport be 動詞を用いた文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	9	Chapter 8 Leisure 未来・完了時制	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	10	Chapter 9 Business Trip 否定疑問文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	11	Chapter 10 Job Training 肯定文と疑問文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	12	Chapter 11 Internet Age 勧誘や依頼文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	13	Chapter 12 Car Society 色々な形式の文	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	14	Chapter 13 Success in Business 意外な応答 1	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 小テストの準備 単語学習
	15	Chapter 14 Campus Life 意外な応答 2	小テスト 本文の読解と文法、リスニングなど	予習・復習 単語学習 期末テストの準備

実務経験	
関連科目	他の英語科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	語彙力を高める TOEIC Listening and Reading Test 総合対策	石井隆之／松本恵美子／松村優子／山口修／岩田雅彦／Joe Ciunci	英宝社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	e-learning 学習の進捗度 20% 期末試験 30% 小テスト 30% 授業への参加や態度（質問に対する返答や集中度、積極性などを含む） 20%
学生への メッセージ	語彙力・文法力は英語力の基本です。この授業を通して、しっかり力をつけていきましょう。
担当者の 研究室等	7号館5階 鈴木研究室
備考	毎回の授業のための予習・復習、担当者からの課題や小テストの準備などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウィリアム
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3422c2		

授業概要・目的	基礎英会話の習得を目標とする。テキストは日常的に使っている英文を扱っており、しっかり学習すれば、リスニング、スピーキングの力も確実に向上する。会話の習得を目的とする授業であるから、学生が中心になり、学生によって進められていくべきであることは言うまでもない。
到達目標	状況に合わせた基礎的な日常的英会話ができる。
授業方法と留意点	学生主導の授業である。ペアワークなど、躊躇することなく積極的に参加すること。
科目学習の効果 (資格)	英語を使つてのコミュニケーション能力がつき、今後遭遇すると思われるさまざまなシチュエーションで役に立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Class Introduction		Class Introduction
	2	Personal Information	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
	3	挨拶、自己紹介等の会話	現在形の文で挨拶、自己紹介などの会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1
	4	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
	5	日常生活、学生生活の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 2
	6	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 1 and 2 Test
	7	娯楽、趣味の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
	8	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3
	9	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
	10	場所の会話	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 4
	11	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 3 and 4 Test
	12	旅行の会話	～はどこですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
	13	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 5
	14	買い物の会話	～はいくらですか。の会話教科書を使い、リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6
	15	復習	リスニング、ディクテーション、ペアワークなど	Unit 6

実務経験	
関連科目	他の英語のクラスすべて

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点 (毎週のクイズ 40%、発表 30%、課題提出 30%) にて評価する。
学生へのメッセージ	Be prepared to speak in class. Looking forward to seeing you.
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考	事前・事後学習課題については1日90分程度行うこと。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	フーバー トッド
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3423c2		

授業概要・目的	このコースでは、様々な幅広いトピックについて自分の経験や考えを表現することを学びます。授業はスピーキングを重視し、英語でよく使う会話表現を学びます。また、会話を繋げるための関連した質問の使い方も学びます。毎回スピーキング評価をするので、毎週自分が何を学んだのかを示すことができます。			
到達目標	このコースの最終目標は、 英語の会話を 10 分間持続する方法を学び、 会話表現を使用することで英語での会話を導き、 英語で文法的に正確な質問を作ることができ、 ノートを取ることでリスニング力を向上させることです。			
授業方法と留意点	宿題として毎週ライティングの課題があります。このライティングの課題は授業での会話の話題として使用することになります。授業は全てペアかグループでの活動になるので、クラスメートとの協力が必要になります。 このコースでは、同期性の授業でズームとチームズを使います。			
科目学習の効果（資格）	このコースは資格を取得するのを目的とし、あなたのスキルを向上させるのに役立ちます。			
授業計画				

			情報交換: ターゲットを使つての情報交換 ライティング: ターゲットを使つてのオリジナルの会話を書く 発表: 自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック: ターゲットを用いたスピーキングの評価	
	8	スピーキングテスト 1	1 週目から 7 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施: ?一般動詞を含む wh 疑問文、?be 動詞を含む wh 疑問文、?yes/no 疑問文	ライティングの課題、授業内容の復習
	9	旅行経験: 最後に行った旅行の思い出	今日のターゲット: 経験についての質問 文法: 今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング: 今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアログ: 今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング: 今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価: 今日のターゲットを使用した会話ができただかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
	10	伝統的文化: 日本芸術、工芸、活動	今日のターゲットの復習: 経験についての質問 情報交換: ターゲットを使つての情報交換 ライティング: ターゲットを使つてのオリジナルの会話を書く 発表: 自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック: ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
	11	有名人: 自分が賞賛し尊敬する人々	今日のターゲット: 仮説に基づく質問 文法: 今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング: 今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアログ: 今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング: 今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価: 今日のターゲットを使用した会話ができただかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
	12	夢の休暇: 旅行の計画	今日のターゲットの復習: 仮説に基づく質問 情報交換: ターゲットを使つての情報交換 ライティング: ターゲットを使つてのオリジナルの会話を書く 発表: 自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック: ターゲットを用いたスピーキングの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
	13	スポーツ: アスリートとチーム	今日のターゲット: 繰り返しを求める文法: 今日のターゲットを使った文法的に正確な文章を作る練習 リスニング: 今日のターゲットに基づいたリスニング力をチェック ダイアログ: 今日のターゲットを使った会話例での発話練習 スピーキング: 今日のターゲットを使った自分のオリジナルの会話練習 スピーキング評価: 今日のターゲットを使用した会話ができただかの評価	ライティングの課題、授業内容の復習
	14	休暇の計画: 春休みの行動	今日のターゲットの復習: 繰り返しを求める 情報交換: ターゲットを使つての情報交換 ライティング: ターゲットを使つてのオリジナルの会話を書く 発表: 自分たちが作ったオリジナル会話の練習と他の生徒の前での発表 スピーキングチェック: ターゲットを用いたスピーキングの評価	9 週目から 14 週目までの内容の復習
	15	スピーキングテスト 2	9 週目から 14 週目までのターゲットを含むスピーキングテストの実施: ?経験についての質問、?仮説に基づく質問、?繰り返しを求める	授業内容の復習
実務経験				
関連科目				
英語基礎会話 a				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他			
Teams コード	ilfcqdl			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	email or Teams chat			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	発話量 30% ライティング課題 24% 毎週実施のスピーキング評価 24% スピーキングテスト 20% 資料のチェック 2%			
学生への メッセージ	このクラスではたくさん発話する必要があります。授業に来る前に必ず話したい事を十分準備するようにしてください。そうすれば会話はとても楽しいものになりますよ！			
担当者の 研究室等	フーバー研究室（7号館3階）			
備考	・毎回の授業の予習・復習に1時間以上かけること			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02425a2		

授業概要・目的	この授業では、議会・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本のみならず世界の主要国と比較しながら概説するとともに、幕末から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。 それにより、有権者たる学生の皆さんがこれからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	【新型コロナ対応：7月9日更新】 この授業では、私の作成した動画をみなさんの都合の良い時に視聴していただく形の「オンデマンド型」授業をやっていきます。教科書は使用せず、講義レジュメによって授業をすすめていきます。 授業計画、動画配信情報、成績評価方法の詳細、講義レジュメのダウンロードなど、全てを Moodle の中で指示していますので、履修する方は必ず Moodle の登録を行ってください。 登録キー：1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	『日本政治論』講義について ○第1部 政治制度論 近代社会と現代社会	講義の内容全体について 「近代」と「現代」の意味するところについて	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
	2	近代議会と選挙	近代議会主義と選挙制度について 日本の国会の選挙制度について	小選挙区制と比例代表制について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 2 回) を見直しておく (約 1 時間)
	3	各国の政治制度・選挙制度	アメリカ・イギリス・フランス・ドイツの政治制度・選挙制度について	議院内閣制と大統領制について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 3 回) を見直しておく (約 1 時間)
	4	政党	政党の機能や分類、政党制について	イギリスの初期の政党について調べておく (約 30 分) レジュメ (第 4 回) を見直しておく (約 1 時間)
	5	利益集団	利益集団の機能や分類、活動および日本の利益集団政治について	日本にどんな利益集団があるか調べておく (約 30 分) レジュメ (第 5 回) を見直しておく (約 1 時間)
	6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30 分) レジュメ (第 6 回) を見直しておく (約 1 時間)
	7	政府批判の噴出	士族の反乱と自由民権運動について	西南戦争について調べておく (30 分) レジュメ (第 7 回) を見直しておく (約 1 時間)
	8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	不平等条約の内容について調べておく (30 分) レジュメ (第 8 回) を見直しておく (約 1 時間)
	9	議会政治の定着	初期議会・日清戦争後の藩閥-政党関係について	自由党・立憲改進黨について調べておく (30 分) レジュメ (第 9 回) を見直しておく (約 1 時間)
	10	政党政治の発展	日露戦争後・大正期の藩閥-政党関係について	大正時代の政党について調べておく (30 分) レジュメ (第 10 回) を見直しておく (約 1 時間)
	11	国際協調と政党内閣	原敬内閣および政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30 分) レジュメ (第 11 回) を見直しておく (約 1 時間)
	12	軍部の台頭と帝国の崩壊	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30 分) レジュメ (第 12 回) を見直しておく (約 1 時間)
	13	敗戦・占領・講和	初期占領改革、冷戦構造と講和について	戦後初期の政党について調べておく (30 分) レジュメ (第 13 回) を見直しておく (約 1 時間)
	14	自民党政治	55 年体制成立以降の国内政治・国際関係について	自民党の派閥の成り立ちについて調べておく (30 分) レジュメ (第 14 回) を見直しておく (約 1 時間)
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4 時間)
実務経験				
関連科目	政治学、政治史関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、 山口 二郎	岩波書店
	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	日本の政治 <2020 年度後期 金曜 1 限 T・2 担当：森康一> 1206
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	【新型コロナ対応：7 月 9 日更新】 ①平常点：30%（小テストを 2 回実施予定（第 6 回・第 11 回の授業日の 9：20?10：50 に、Moodle を通じて実施。制限時間は 15 分で、1 問 1 点×15 問）） ②期末レポート：70%（5 つのテーマを出し、そのうち 2 つを選択して書いてもらいます。文字数は各 800?1000 文字で。分量と理解度を勘案し、それぞれ 35・30・25・20・・・と 5 点刻みで採点します。Moodle を通じて提出してもらいます。テーマは第 15 回目
学生への メッセージ	高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	現代と地理学	科目名 (英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02426a2		

授業概要・目的	『環境』ということばはいろいろの分野でよく使われているが、地理学では最も重要な術語の一つである。そして近年人間活動にともなうこの環境に著しい変化が生じている。本講義では、最近の地理的環境問題の例をいくつか取り上げて説明し、受講生諸君が現代社会について考える一助にしてもらいたいと考えている。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講した事が諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	WebFolder にあげた音声入りのパワーポイントファイルを使って講義を行います。講義実施日から1週間以内をめどに必ず見て下さい。何回かレポート課題を課しますので、自らも疑問点を調べるという態度で受講して下さい。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じ取ることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	地理学とは？	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通しておいて下さい。
	2	地理学と環境	・人類による環境への働きかけの歴史 (過去から現在まで)	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	3	生活の舞台としての地形－その1－	・扇状地の地形と土地利用 ・氾濫原における生活と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	4	生活の舞台としての地形－その2－	・台地・河岸段丘の発達と土地利用	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	5	ため池の多面的機能	・ため池の持つ多面的な機能が現在にどのように生かされているか	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	6	ダム建設とそれにもなう環境の変化	・ダム堆砂およびそれにもなう環境の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	7	離島における地下ダムの建設	・宮古島における地下ダムの建設	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	8	都市化にともなう水文環境の変化	・都市化にともなう流出および水質の変化 ・都市化地域における水害と下水道整備	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	9	都市気候について	・都市気候とは？ ・都市気候の具体例	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	10	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	11	すみわけられた都市社会空間	・エスニックマイノリティー社会 ・インナーシティ問題	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	13	日本の産業立地	・工業地域構造の形成と変貌	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	14	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
	15	伝統工業の現状と課題	・伝統工業の育成および発展。京都市を例として。	指定テキストに目を通しておいて下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

実務経験	
関連科目	「環境関連科目」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	レポート試験を実施します。配点は60点です。さらにパワーポイント講義を聞いてもらった後、何回かレポート課題を課しますので、期日までに WebFolder の指定したフォルダーに提出して下さい。配点は40点です。なお評価のポイントは、自分なりの考えが持てるようになったかどうかです。
-----------	--

学生へのメッセージ	地理学には地図が付きものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば、講義中に持参して欲しい。
-----------	---

担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、可能な限り文献や辞典類を読み、1時間以上の十分な時間を掛けた丁寧な報告を作成してくれることを期待している。なお、レポートを提出する際には出典も必ず明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	法学入門	科目名（英文）	Jurisprudence
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー（DP）	A◎		
科目ナンバリング	TS02427a2		

授業概要・目的	私たちの日常生活は多くの法律と関わります。そこでこの講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、民事訴訟法などの基本的な内容と考え方を説明します。この授業の目的は、日常生活に必要な法律の知識を習得してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、授業で習得した法律学の基礎的な知識を用いて、交通事故の損害賠償や相続などの日常生活において生じる問題を法的な視点から考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。
科目学習の効果（資格）	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 239 頁から 243 頁と 246 頁から 247 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 244 頁から 245 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 106 頁から 131 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 131 頁から 147 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いてください。(1 時間程度)
	10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 147 頁から 155 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 156 頁から 168 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 169 頁から 204 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 205 頁から 216 頁、248 頁から 249 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決（和解、調停、仲裁）について説明します。	事前に教科書 216 頁から 238 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの問題を解いて下さい。(1 時間程度)
	15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配付プリントの問題を確認して下さい。(1 時間程度)

実務経験	
------	--

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界（第 7 版）	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子	有斐閣アルマ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末試験の点数(55%)と小テストの点数(45%)の合計で評価します。
学生への メッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	①小テストの返却は11号館6階キャリアルームで行い、その正解は次の回の授業で解説します。 ②授業時間外の質問等に対しては、月曜日12時30分から13時20分に11号館5階法学部資料室において対応できます。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02428a2		

授業概要・目的	日本国憲法をおおまかに理解できるように、基本的人権を中心に、授業テーマと関連する憲法に関わる問題をとりあげ、これに関わる基本的な事項、判例、学説を説明していきます。この授業の目的は、身近に生じる憲法に関わる問題を通して、憲法の基本的な内容と考え方を理解してもらうことです。
到達目標	この授業を通じて学生には、憲法の基本的な知識を習得し、「首相の靖国神社参拝」や「一票の格差」などの身近で話題になっている問題を憲法を通して考え説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	Teams「教材・課題配信型」を用いて授業を行います。毎回、チームチャンネルを通して配布する教材の設題を使って問題点を説明していきますが、必ず、事前に各回に関連する教科書の該当箇所（事前・事後学習課題において指示している）を読み、また事後においては配布教材の練習問題を解いていってください。
科目学習の効果（資格）	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	憲法とは	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書 11 頁から 20 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	2	国民主権	国民主権の意味、国民主権を具体化する制度、国民主権が人権の解釈にどのような関わりなどについて説明します。	事前に教科書 243 頁から 249 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	3	基本的人権の保障 1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書 21 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	4	基本的人権の保障 2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められるか、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書 31 頁から 40 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	5	幸福追求権	幸福追求権の意味と範囲、新しい人権について説明します。	事前に教科書 49 頁から 58 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	6	法の下の平等	憲法 14 条の定める平等の意味、差別の許される合理的根拠かどうかの判断基準などについて説明します。	事前に教科書 60 頁から 70 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	7	信教の自由と政教分離	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の関わりなどについて説明します。	事前に教科書 71 頁から 82 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	8	表現の自由	表現の自由の保障の範囲、限界、検閲などについて説明します。	事前に教科書 83 頁から 104 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書 105 頁から 114 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	10	社会権	生存権の法的性格、教育を受ける権利の法的性格について説明します。	事前に教科書 115 頁から 134 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	11	刑罰と刑事手続	刑罰と憲法、適正手続について説明します。	事前に教科書 135 頁から 144 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	12	国会	国会の最高機関性、立法機関性について説明します。	事前に 161 頁から 172 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	13	内閣	議院内閣制、衆議院の解散などについて説明します。	事前に教科書 173 頁から 184 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立、違憲立法審査権について説明します。	事前に教科書 185 頁から 206 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）
	15	平和主義	戦争の放棄の意義、放棄された戦争の範囲、戦力の不保持の意味について説明します。	事前に教科書 217 頁から 229 頁を読んでおいてください。事後においては、配付プリントの練習問題を解いて下さい。（1 時間程度）

実務経験				
関連科目	法学入門			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学（第3版）	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	3mb0yz0			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teamsに「質問用」というチャンネルを作ります。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	配布資料で実施する回を連絡する4回の小テスト（1回25点）の得点合計で評価します。			
学生への メッセージ	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）			
備考	質問はチームズに「質問用」というチャンネルを作ります。それで質問してください。			

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥西 達也
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02429a2		

授業概要・目的	この授業は、受講生在経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事をある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。
到達目標	経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる
授業方法と留意点	テキストは使用せず授業プリント・資料・板書を用いて講義をする。授業内容の理解度を測るためチェックシート(小テスト)を実施する。 場合によっては授業の最後に短文の感想を書いてもらい、それを読んで次回の授業のやり方を工夫することもある。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前学習として「経済」とは何か、「経済学」とはいかなる学問かについて、自分なりの見解を簡単にまとめておく。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	2	経済と経済学	誰のための経済か。様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など): 対象の違い、視座の違い。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生: 自然失業率と景気変動。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和: 労働法制とさまざまな雇用形態。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株価の決定。株式会社のしくみ。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利子率。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	9	GDP と経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、経済成長率。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は: ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。租税政策と所得再分配。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	15	世界経済と日本 まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および

				指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かかること。																
実務経験																				
関連科目	なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>経済学入門（マクロ編）</td> <td>ティモシー・テイラー</td> <td>かんき出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>日本経済の常識</td> <td>中原隆幸</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>入門経済学</td> <td>J. スティグリッツ</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	経済学入門（マクロ編）	ティモシー・テイラー	かんき出版	2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版	3	入門経済学	J. スティグリッツ	東洋経済新報社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	経済学入門（マクロ編）	ティモシー・テイラー	かんき出版																	
2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版																	
3	入門経済学	J. スティグリッツ	東洋経済新報社																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	定期試験（筆記試験）70%、小テスト・授業態度（授業への集中度）30%。無断欠席が4回以上ある場合は原則として成績評価をしない。																			
学生への メッセージ	日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて（自分なりに）掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。																			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）																			
備考																				

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02429a2		

授業概要・目的	マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。この動きは、毎日の新聞・ニュースで紹介されています。設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことー 将来、社会人になると、これら経済の動きを知っておく必要があります。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです（もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります）。この講義は、知っておくべきマクロ経済学の基礎理論を習得すること、そして実際のマクロ経済の動向について経済学に基づいた視点で考察できるようになることを目的としています。 なお、この講義で扱う内容は、市役所（教養試験）や警察・消防など地方公務員の試験でも出題されます。宿題や練習問題では、これらを意識した問題に取り組んでいただきます。																																																																		
到達目標	基本的なマクロ経済学の知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。																																																																		
授業方法と留意点	講義資料は Web Folder、Moodle にアップロードします。また講義中の課題（練習問題）は Moodle に回答してください。なお、Moodle の練習問題は、制限時間を設けてあります。基本的には、講義開講時間を問題回答時間としておりますので、気をつけてください。 また、講義資料には、PowerPoint と PDF ファイルがあり、どちらも解説用の音声ファイルを埋め込んであります。ただし、使用環境やアプリによっては、音声が出ないこともありますので、注意してください。例えば、PDF ファイルの場合は、Acrobat																																																																		
科目学習の効果（資格）	現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>マクロ経済の基礎（1）</td><td>マクロ経済循環とマクロ経済指標について</td><td>講義資料（1）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>2</td><td>マクロ経済の基礎（2）</td><td>支出と需要、フローとストックについて</td><td>講義資料（2）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>3</td><td>経済成長と景気循環</td><td>経済成長の要因と好況・不況の定義について</td><td>講義資料（3）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>4</td><td>物価とインフレーション</td><td>物価の決定と物価変動の要因について</td><td>講義資料（4）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>5</td><td>失業</td><td>失業についての考え方と日本の失業について</td><td>講義資料（5）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>6</td><td>マクロ経済政策</td><td>政府や中央銀行による政策（マクロ経済政策）とその効果について</td><td>講義資料（6）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>7</td><td>マクロ経済と金融（1）</td><td>マクロ金融に関する基本事項（利子率、債券価格、貨幣需要）について</td><td>講義資料（7）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>8</td><td>マクロ経済と金融（2）</td><td>中央銀行（日本銀行）の役割について</td><td>講義資料（8）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>9</td><td>乗数効果</td><td>4 5 度線分析とその応用について</td><td>講義資料（9）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>10</td><td>国民所得の決定</td><td>望ましい国民所得の水準とその決定について</td><td>講義資料（10）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>11</td><td>IS-LM 分析（1）</td><td>短期モデルである IS-LM モデルを構成する、財市場の均衡条件（IS 曲線）について</td><td>講義資料（11）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>12</td><td>IS-LM 分析（2）</td><td>短期モデルである IS-LM モデルを構成する、貨幣市場の均衡条件（LM 曲線）について</td><td>講義資料（12）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>13</td><td>IS-LM 分析（3）</td><td>IS-LM モデルによる、財政政策・金融政策の分析について</td><td>講義資料（13）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>14</td><td>貿易と海外投資</td><td>経常収支・金融収支の関係と国際収支表の見方について</td><td>講義資料（14）での学習（1 時間）</td></tr> <tr> <td>15</td><td>為替レート</td><td>2 国間の通貨の交換比率である、為替レートについて</td><td>講義資料（15）での学習（1 時間）</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	マクロ経済の基礎（1）	マクロ経済循環とマクロ経済指標について	講義資料（1）での学習（1 時間）	2	マクロ経済の基礎（2）	支出と需要、フローとストックについて	講義資料（2）での学習（1 時間）	3	経済成長と景気循環	経済成長の要因と好況・不況の定義について	講義資料（3）での学習（1 時間）	4	物価とインフレーション	物価の決定と物価変動の要因について	講義資料（4）での学習（1 時間）	5	失業	失業についての考え方と日本の失業について	講義資料（5）での学習（1 時間）	6	マクロ経済政策	政府や中央銀行による政策（マクロ経済政策）とその効果について	講義資料（6）での学習（1 時間）	7	マクロ経済と金融（1）	マクロ金融に関する基本事項（利子率、債券価格、貨幣需要）について	講義資料（7）での学習（1 時間）	8	マクロ経済と金融（2）	中央銀行（日本銀行）の役割について	講義資料（8）での学習（1 時間）	9	乗数効果	4 5 度線分析とその応用について	講義資料（9）での学習（1 時間）	10	国民所得の決定	望ましい国民所得の水準とその決定について	講義資料（10）での学習（1 時間）	11	IS-LM 分析（1）	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、財市場の均衡条件（IS 曲線）について	講義資料（11）での学習（1 時間）	12	IS-LM 分析（2）	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、貨幣市場の均衡条件（LM 曲線）について	講義資料（12）での学習（1 時間）	13	IS-LM 分析（3）	IS-LM モデルによる、財政政策・金融政策の分析について	講義資料（13）での学習（1 時間）	14	貿易と海外投資	経常収支・金融収支の関係と国際収支表の見方について	講義資料（14）での学習（1 時間）	15	為替レート	2 国間の通貨の交換比率である、為替レートについて	講義資料（15）での学習（1 時間）
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	マクロ経済の基礎（1）	マクロ経済循環とマクロ経済指標について	講義資料（1）での学習（1 時間）																																																																
2	マクロ経済の基礎（2）	支出と需要、フローとストックについて	講義資料（2）での学習（1 時間）																																																																
3	経済成長と景気循環	経済成長の要因と好況・不況の定義について	講義資料（3）での学習（1 時間）																																																																
4	物価とインフレーション	物価の決定と物価変動の要因について	講義資料（4）での学習（1 時間）																																																																
5	失業	失業についての考え方と日本の失業について	講義資料（5）での学習（1 時間）																																																																
6	マクロ経済政策	政府や中央銀行による政策（マクロ経済政策）とその効果について	講義資料（6）での学習（1 時間）																																																																
7	マクロ経済と金融（1）	マクロ金融に関する基本事項（利子率、債券価格、貨幣需要）について	講義資料（7）での学習（1 時間）																																																																
8	マクロ経済と金融（2）	中央銀行（日本銀行）の役割について	講義資料（8）での学習（1 時間）																																																																
9	乗数効果	4 5 度線分析とその応用について	講義資料（9）での学習（1 時間）																																																																
10	国民所得の決定	望ましい国民所得の水準とその決定について	講義資料（10）での学習（1 時間）																																																																
11	IS-LM 分析（1）	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、財市場の均衡条件（IS 曲線）について	講義資料（11）での学習（1 時間）																																																																
12	IS-LM 分析（2）	短期モデルである IS-LM モデルを構成する、貨幣市場の均衡条件（LM 曲線）について	講義資料（12）での学習（1 時間）																																																																
13	IS-LM 分析（3）	IS-LM モデルによる、財政政策・金融政策の分析について	講義資料（13）での学習（1 時間）																																																																
14	貿易と海外投資	経常収支・金融収支の関係と国際収支表の見方について	講義資料（14）での学習（1 時間）																																																																
15	為替レート	2 国間の通貨の交換比率である、為替レートについて	講義資料（15）での学習（1 時間）																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>有斐閣アルマ マクロ経済学入門（第 5 版）</td><td>福田慎一・照山博司</td><td>有斐閣</td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	有斐閣アルマ マクロ経済学入門（第 5 版）	福田慎一・照山博司	有斐閣	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	有斐閣アルマ マクロ経済学入門（第 5 版）	福田慎一・照山博司	有斐閣																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	講義中の課題（練習問題）、期末試験、レポートで評価します。特に Moodle で出題・回答する練習問題は、回答の時間が講義時間中に限られています。そのため、講義開講時間にあわせた学習が必要です。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、メールなどを介してもいいので、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。																																																																		

担当者の 研究室等	1 号館 7 階 小塚研究室
備考	

科目名	企業経営	科目名 (英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02430a2		

授業概要・目的	【遠隔授業の方法と留意点】 本来の授業概要と目的は、以下記載のとおりです。ただし、2020 年度後期はコロナウィルス感染防止のため、当面の間、遠隔授業を行います。このシラバスに記載の【遠隔授業の方法と留意点】を熟読し、授業を受講して下さい。 【本来の授業概要・目的】 ・学ぶのは、「戦略」です。企業経営の視点から、とくに理系学生にとって不可欠な「ものづくり」に関するテーマにフォーカスし、その「ビジネス戦略」について様々な視点から学ぶ「ビジネススクール形式」の授業です。 ・主な学習テーマは、以下のとおりです。 ①理工学部の学生にとって、なぜ「ビジネス戦略」を学ぶことが必要なのか？ ②起業し、経営し、そして成功するための「ビジネス戦略」とは、何か？ ③「ものづくり」を行う製造業は、日頃どんな課題を抱え、どのように解決しているのか？ ④「ものづくり」を行う製造業にとって、市場のニーズをどう掴むのか？ ⑤「ものづくり」を行う製造業は、卸・小売・サービス業とはどんな違いがあるのか？ ⑥厳しい国際競争の中で、「ものづくり」をビジネス戦略や企業の持続的成長にどう活かせば良いのか？ ・なお、この科目は、「実務経験のある教員による授業科目」です。民間企業、経済団体、シンクタンク等に通算 29 年間勤務し、また経営コンサルタント (中小企業診断士) として 150 社以上 (うち製造業 90 社以上) の企業経営支援に携わった実務経験を活かし、アクティブラーニング (ケースメソッド形式) による実践的な授業を行います。 ・この科目は、SDGs9 (産業と技術革新の基盤づくり)、SDGs12 (つくる責任とつかう責任) の目標に関連する科目です。
	到達目標 ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、この授業の到達目標です。 ・「ものづくり」とビジネス戦略の関連性について分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 ・また、その到達目標をクリアできているか検証するため、毎回の授業において、ケースメソッドによる個人作業、グループワーク、プレゼン、質疑応答等を実施し、その到達度合いを一人一人判定します。
	授業方法と留意点 【遠隔授業の方法と留意点】 2020 年度後期は、コロナウィルス感染防止のため、当面の間、以下のとおり遠隔授業を行います。 (1) 授業は、遠隔授業ツール「Microsoft Teams」を使用し、文字・スライド・音声等による授業となります。また、指定の授業テキストを用いて行います。毎回の授業毎に、①課題の確認→②課題の提出→③解答例の確認→④次週の課題の確認...という流れで行います。 (2) 課題は、全て指定の授業テキストの頁に沿って出題されます。したがって、事前にこのシラバスに記載されている指定の
	科目学習の効果 (資格) ・販売士または中小企業診断士等の資格取得に向けた基礎知識の習得に効果があります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス ～この授業で何を学ぶのか？～	本科目の目的とテーマ、授業の進め方・ルール、成績評価基準等について説明します。	<予習> テキストを熟読し、分からない専門用語等は事前に調べておくように (1 時間)。 <復習> 授業の最後に必ず「本日のポイント」を説明します。その内容について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	2	ケースメソッドⅠ：シャッターガード誕生物語Ⅰ①	技術開発型ベンチャー企業 Y 社①技術開発と知的財産権	<予習> 教科書 p3-20 (1 時間) <復習> 技術開発型ベンチャー企業がビジネスで成功するための「武器とは何か、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	3	ケースメソッドⅠ：シャッターガード誕生物語Ⅰ②	技術開発型ベンチャー企業 Y 社②起業家精神と SWOT 分析	<予習> 教科書 p3-20 (1 時間) <復習> ビジネス戦略策定のための代表的分析手法である SWOT 分析とは何か、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	4	ケースメソッドⅠ：シャッターガード誕生物語Ⅰ③	技術開発型ベンチャー企業 Y 社③戦略 SWOT 分析と注力戦略	<予習> 教科書 p3-20 (1 時間) <復習> 分析のみでは意味がない、戦略を立案するための重要な視点とは何か、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	5	ケースメソッドⅡ：シャッターガード誕生物語Ⅱ①	技術開発型ベンチャー企業 Y 社④個人向け販売と法人向け販売	<予習> 教科書 p21-42 (1 時間) <復習> BtoC と BtoB の戦略の違いを、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	6	ケースメソッドⅡ：シャッターガード誕生物語Ⅱ②	技術開発型ベンチャー企業 Y 社⑤流通チャネルと販売価格	<予習> 教科書 p21-42 (1 時間) <復習> 製造業にとって、流通ルートとは何か、スムーズな流通にすため、何が必要か、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	7	ケースメソッドⅡ：シャッターガード誕生物語Ⅱ③	技術開発型ベンチャー企業 Y 社⑥流通における卸売業の役割	<予習> 教科書 p21-42 (1 時間) <復習> 製造業のビジネス流通に、なぜ卸売業 (総代理店など) が必要なのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい (1 時間)
	8	ケースメソッドⅢ：ものづくりをマネジメント	企業事例研究：和菓子メーカー S 社①作業標準書、生産方法・形態	<予習> 教科書 p43-62 (1 時間)

		する①		<復習> 生産方法・形態の違い、なぜ作業標準書が必要か等について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)																
	9	ケースメソッドⅢ： ものづくりをマネジメントする②	企業事例研究：和菓子メーカー S 社 ②生産工程の揺らぎと工程管理	<予習> 教科書 p43-62(1 時間) <復習> 生産の進捗を遅らせる原因分析と、それが取引先にどれだけ迷惑をかけるのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)																
	10	ケースメソッドⅢ： ものづくりをマネジメントする③	企業事例研究：和菓子メーカー S 社 ③不良品発生とその解決策～	<予習> 教科書 p43-62(1 時間) <復習> 1 個の不良品を発生させることが、生産工程全体にどんな影響を及ぼすのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)																
	11	ケースメソッドⅢ： ものづくりをマネジメントする④	企業事例研究：和菓子メーカー S 社 ④リードタイム短縮のためのムダの排除	<予習> 教科書 p43-62(1 時間) <復習> 生産の進捗を遅らせる「揺らぎ」を解決するために何が必要なのか、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)																
	12	ケースメソッドⅣ： アジアの中で生き残れ！①	企業事例研究：プリント基板メーカー Y 社 ①企業の海外進出理由	<予習> 教科書 p63-78(1 時間) <復習> 業種や進出先によって、理由が異なる点について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)																
	13	ケースメソッドⅣ： アジアの中で生き残れ！②	企業事例研究：プリント基板メーカー Y 社 ②国内回帰とマザー工場	<予習> 教科書 p63-78(1 時間) <復習> せっかく海外進出したのに、なぜ戻って来るのかについて、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい(1 時間)																
	14	ケースメソッドⅣ： アジアの中で生き残れ！③	企業事例研究：プリント基板メーカー Y 社 ③ライン生産とセル生産	<予習> 教科書 p63-78(1 時間) <復習> 2 つの生産方法のメリット・デメリット、国際立地戦略における使い分け等について、しっかりと復習し、小レポートにまとめて下さい。また、ライン生産のボトルネックについて、実例と試算による検証について、しっかりと復習して下さい。(1 時間)																
	15	ケースメソッドⅣ： アジアの中で生き残れ！④	企業事例研究：プリント基板メーカー Y 社 ④アジア諸国との競争戦略	<予習> 教科書 p63-78(1 時間) <復習> アジアとの競争の中で、生産の 3 要素をどのように戦略化すべきか、しっかりと復習して下さい。(1 時間)																
実務経験																				
関連科目		CSR 経営論、産業社会と知的財産など																		
教科書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>アクティブラーニング(ケースメソッド) 授業テキスト ものづくりと企業ビジネス[第 3 版]</td><td>大田住吉、佐々木公之</td><td>デザインエッグ社</td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	アクティブラーニング(ケースメソッド) 授業テキスト ものづくりと企業ビジネス[第 3 版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	アクティブラーニング(ケースメソッド) 授業テキスト ものづくりと企業ビジネス[第 3 版]	大田住吉、佐々木公之	デザインエッグ社																	
2																				
3																				
参考書		<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td>イラスト図解 工場のしくみ</td><td>松林光男、渡部弘</td><td>日本実業出版社</td></tr><tr><td>2</td><td>工場コストダウン事典</td><td>五十嵐瞭</td><td>日刊工業新聞社</td></tr><tr><td>3</td><td>現場のムダどり事典</td><td>山田日登志</td><td>日刊工業新聞社</td></tr></table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社	2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社	3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	イラスト図解 工場のしくみ	松林光男、渡部弘	日本実業出版社																	
2	工場コストダウン事典	五十嵐瞭	日刊工業新聞社																	
3	現場のムダどり事典	山田日登志	日刊工業新聞社																	
授業形態		Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード		66fusgk																		
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段		学内メール																		
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)		【遠隔授業の評価方法(基準)】 (1) 遠隔授業の成績評価は、全て毎回提出される課題の解答内容により都度判定し、全 15 回分を合計し、判定します。 (2) 判定基準は、理解度(40%)、表現力(35%)、自分なりの独創性(20%)、定期試験(5%)です。 【本来の評価方法(基準)】 ①グループワークへの貢献度(参加意欲、役割分担、個人別作業、呼応発言内容など)(35%) ②制限時間内におけるプレゼン用シートの記載内容・分析力(15%) ③プレゼン力および質疑応答対応力(15%) ④毎回の授																		
学生への		・コロナ禍は、成績不良の理由にはなりません。厳しい状況下、自分自身をしっかりと見つめ、学業等に励んでください。																		

メッセージ	・通算 35 年間の民間企業等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ ・失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。
担当者の研究室等	11 号館 7 階 大田住吉研究室
備考	理解度チェック小テストの結果については、授業の中で適宜フィードバックします。 事前事後学習は各々概ね 60 分程度を目安に行ってください。

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02431a2		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、その営みによって何が明らかになってきたのか。この授業では、こうした問いに迫るために、社会学の基本的なものの見方について解説する。授業の前半では、社会学の成立の過程をたどりつつ、他の学問とは異なる社会学に固有の関心事を考えていく。授業の後半では、社会学の巨匠たちの古典的業績を参照しつつ、現代にも通じる近代社会の諸問題について考えていく。
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一歩深い水準から考察することができるようになる。
授業方法と留意点	配布レジュメを用いた講義形式の授業をおこなう。 受講者の理解を深めるために、統計データや小説・映画など、テーマに関連するさまざまな資料を使用したい。
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。
	2	社会学の概要	社会学とは何か	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	3	社会学前史 (1)	17 世紀と社会契約論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	4	社会学前史 (2)	18 世紀とスコットランド啓蒙	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	5	社会学の登場	19 世紀とその思想的諸相	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	6	デュルケムの社会学	デュルケムの生涯、デュルケム社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	7	デュルケム『自殺論』を読む (1)	『自殺論』のもくろみ	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	8	デュルケム『自殺論』を読む (2)	連帯の欠如、「自己本位的自殺」、夏目漱石	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	9	デュルケム『自殺論』を読む (3)	規制の欠如、「アノミー的自殺」、『ボヴァリー夫人』	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	10	ウェーバーの社会学	ウェーバーの生涯、ウェーバー社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	11	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む (1)	『プロ倫』のもくろみ	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	12	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む (2)	意図せざる帰結としての資本主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	13	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む (3)	「鉄の檻」	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	14	社会学のその後の展開	20 世紀以降の社会学	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
	15	講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。

実務経験	
関連科目	社会学Ⅰ、社会学Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業への積極的参加 20%、期末試験 80%
学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人はのぞいてみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。
担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。

	motoki.nonomura@gmail.com
--	----------------------------------

また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 裕久
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02431a2		

授業概要・目的	この「社会の仕組み」の授業では、社会科学の一端を担う「社会学」や「文化人類学」を考え方の基礎に位置づける。それらの多種多様な仕組みや論題の中から、比較的身近なトピックを選出し、授業上の課題として提示し検討する。基本的には比較的大きな仕組みから、小さな仕組みへの変遷をひとつの方向性として示す。			
	主専攻が理工系の各学問分野である受講生には、社会科学とは関係性が薄いと考えられることがある。だが、人間自身、社会的な存在として生を送る。その意味で重要視せざるを得ない学問分野が、例えば上の二者である。			
	授業の内容は、受講生の専攻に若干傾斜させた「理系的な視点」から、社会の仕組みを講じてゆく。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。			
	授業の具体的な内容は授業テーマや各回の授業計画を参照いただきたい。この授業では、主に社会や文化に関する事象を各回のトピックとして取り上げ、講義をすすめる。授業は1, 2 回程度で完結するオムニバス形式で行う。			
到達目標	これらの諸課題の学習(受講とその後の復習など)を通じて、諸項目の社会的かつ文化的な意味づけを理解しながら、社会全体への認識へとつながる豊かな視点も養成できればと考えている。			
	この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関して、社会学や文化人類学的認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての「教養」を養成することのみならず、社会人としての素養の獲得に直結している。小テストと定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。			
	講義形式の座学が中心である。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2 ページほどずつ蓄積されるが、例年、そのノートを持ち込んで定期試験を行っている。また、授業の内容は毎年変わるため、昨年度のノートは意味を成さない点は、受講前に認識しておくべきである。			
	工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、仕組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション/授業の進め方/文化を成立させる要素	座学としての受講の仕方・授業の進め方、ならびに文化を成立させる要素としての言語の意味について検討し、認識を深める。	(事前・事後学習課題の総論的な課題については備考欄を参照のこと)文化や言語について説明できること。
	2	文化を考える	人間を社会的存在として検討し、その考え方の応用に触れる。	受講生自身が文化的存在であることを自身が説明できること。
	3	社会を考える+小テスト	社会の概念について検討する。	受講生自身が社会の一員であることを認識し、さらにその概念について説明できること。
	4	地球環境問題と社会(1)	地球環境問題の概論について検討する。	地球環境問題の概念について説明できること。
	5	地球環境問題と社会(2)	地球環境問題の各論的な要素について検討する。	地球環境問題の地域的な状況について検討するための一定の認識を持つこと。
	6	食をめぐる文化・社会問題(1)	食をめぐる文化・社会問題やその特質について検討する。	食をめぐる文化・社会問題やその特質について一定の説明ができること。
	7	食をめぐる文化・社会問題(2)+小テスト	食をめぐる文化・社会問題の各論的な要素について検討する。	食をめぐる文化・社会問題の意味について、一定の説明をすることができること。
	8	都市化と地域社会	都市化と地域社会の具体例について検討する。	都市化の概念や地域社会のありさまについて、具体的に説明ができること。
	9	家族・親族論(1)	家族の形態的定義やその事例について検討する。	家族に関する認識を深め、それをめぐる事象について、説明ができること。
	10	家族・親族論(2)	家族・親族の多様なありさまを具体的に検討する。	近代的家族のありさまについて、一定の説明ができる。
	11	家族・親族論(3)	社会学や文化人類学など、社会科学的な説明から、家族や親族の認識の有用性について検討する。	家族や親族に関して、社会科学的な認識の重要性について一定の意見を提示することができる。
	12	科学技術と社会(1)	科学技術の誕生と社会的な変遷について検討する。	科学技術と社会との連関について一定の説明をすることができる。
	13	科学技術と社会(2)+小テスト	今日的な科学技術のありさまについて社会的に検討する。	科学技術論を社会科学的な立場から見渡すことができる。
	14	個人の社会化	個人の社会化について、社会科学的な立場から検討する。	個人が社会化するプロセスについて、社会科学的な立場から、意見や一定の回答を提示できること。
	15	総括	社会科学的な思考法と、それを支持する社会のありさまについて検討する。	社会科学的な思考法について一定の理解があり、それを社会に適用する方法などを具体的に提示ができること。
実務経験				
関連科目	なし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	使用しない。		
	2			
	3			
参考書				

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜、告知する。		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 50%、平常点[授業への参加度・態度を評価する得点] 14 点×1.4 倍[換算係数]≒20%)、小テスト(10 点×3 回=30%)の割合で総合的に点数化し、評価する。小テストについては、その次の回で解答を開示し、全体の講評を述べる。 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	受講生は授業の内容の中に自分の将来に役に立つ知識を積極的に探そうと努力すること。 パワーポイントのスライドを授業時に使用するため、積極的にノートをとめることが肝要。授業時間中のスマホなどの利用は厳禁する。電源をオフにしてから入室すること。			
担当者の 研究室等	11 号館 6 階、経営学部事務室			
備考	授業時間内でのノート・テイキングと蓄積された受講生個人のノートを重視するが、それ以外に事後学習の学習時間について記しておく。 1) 事前事後学習には、毎回最低 30 分以上かけ、ウェブサイトの情報ではなく、できるだけ既出文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。 2) 期末試験の準備を含め自主学習には、最低でも合計 7 時間はかけること。 3) 授業で示す英単語は術語であるため、英語の事前事後学習時間に補足として数分でも時間をかけ、意味内容を把握しておくこと。			

科目名	マーケティング	科目名 (英文)	Marketing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02432a2		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングの基礎的知識や基本的な分析枠組みについて理解を深めることを目的としています。製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策の展開過程を学習していきます。			
到達目標	マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。			
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。			
科目学習の効果（資格）				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	マーケティングの全体について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	2	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・マネジメントに関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	3	製品政策	製品の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	4	価格政策	価格の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	5	流通チャネル政策	流通の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	6	販売促進政策	販売促進の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	7	消費者の購買意思決定過程	消費者の購買意思決定過程について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費者の購買意思決定過程に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	8	消費パターンと消費行動の歴史的変遷	消費行動の歴史的変遷過程について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史的変遷に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	9	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの基礎について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	10	市場細分化戦略	市場細分化戦略について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	11	製品ライフサイクル戦略	製品ライフサイクルについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	12	競争の戦略（1）	競争の基本戦略、企業の地位別戦略について、学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、競争戦略や企業の地位別戦略に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	13	競争の戦略（2）	SWOT 分析、バリューチェーン分析について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、SWOT 分析やバリューチェーン分析に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	14	グローバル・マーケティング	グローバル・マーケティングについて学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
	15	講義のまとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング全般に関連する内容を読みましょう。（所要時間 1 時間）
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	21w7b1m			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Teams 上で対応します。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	11 号館 8 階 武居教授室			
備考				

科目名	産業社会と知的財産	科目名 (英文)	Industrial Society and Intellectual Property
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02433a2		

授業概要・目的	近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。知的財産（特許権）を企業成長戦略に必要な武器として今後創出し、活用するために必要な基本的な知識と戦略、法的背景について事例を通じて学びます。 【SDGS-9】（産業と技術革新の基盤をつくろう） 【担当教員実務経歴】 ①監査法人（ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価：資産査定業務） ②ベンチャー投資財団（株式公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導） ③大学機関（知的財産本部副本部長 研究シーズ、特許等の出願、管理に係る業務）
到達目標	企業での開発業務等において、技術者として必要な基本的で且つ実践的な知的財産に関する知識を、事例等を通じて習得し、企業等が求めている戦略的且つ挑戦意欲があり、開発を経営的視点で広く捉えられる人材の育成を目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業 (Teams) を実施します。 毎回、当該授業内容に関する「講義資料」と付属資料を配付します。 授業後の復習として活用してください。 毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を WebFolder に講義終了時に提出してもらいます。
科目学習の効果（資格）	研究者、技術者であっても企業の研究成果（知的資産）の戦略的活用のノウハウ 社会生活、企業活動における遵守すべき知的資産の管理ノウハウ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 知的財産の基礎	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 企業における知的財産の活用事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認。	＜事後＞授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）
	2	技術的範囲の実質的解釈	「発明」の概念と法的解釈。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認。	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	3	知的財産制度基本事項の確認	出願～拒絶対応に至るまでの事例研究 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	4	先行技術調査手法	先行技術調査の進め方と知財審決訴訟の考え方。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	5	特許侵害	侵害の判断基準と諸説事例。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	6	侵害対応	特許等侵害訴訟への対応策。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	7	知的財産の活用方法	ライセンスチェックポイントと実用新案、意匠権の活用事例。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	8	商標権	商標権の特徴と活用方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	9	営業秘密	不正競争防止法、著作権法によるノウハウの管理と活用。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	10	国際市場での活用	国際出願とライセンス条約。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	11	知財管理 Case by Case (1)	知財管理事例（国内）と他国の知財法 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	12	知財管理 Case by Case (2)	標準化戦略と知財管理との関係事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	13	知財管理	国際標準化戦略と知財価値評価の考え	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を

		Case by Case (3)	方。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	活用した用語等の習得 (30 分)。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30 分)。
	14	著作権	アニメーション制作における著作権管理事例。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30 分)。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30 分)。
	15	著作権事業	著作権による事業戦略事例 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	＜事前＞次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得 (30 分)。 ＜事後＞事前学習で調べた内容の再確認と事例等の検索・学習 (30 分)。
実務経験				
関連科目		知的財産管理 (経営学部)		
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知的創造活動と知的財産	工業所有権情報・研修館	工業所有権情報・研修館
	2			
	3			
授業形態		Teams「オンライン型」／Web Folder		
Teams コード		hhhar3z		
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段		masahiro.hayashi@kjo.setsunan.ac.jp		
メールアドレス		メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)		①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価 (評価割合：50%) 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕(授業内容に関する質問および要望) について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②期末レポート (評価割合：50%) 知的財産権の基本的な戦略的考え方を習得した知識から知		
学生への メッセージ		我々の消費生活における身の回りの製品・商品には多々、知的資産が活用されています。これら知的資産を戦略的に活用・管理する手法が、企業単位だけではなく、国の施策としても重要視されてきています。 社会人としてこれら戦略的思考を身に付けると共に、学生時代とは異なる著作物やデータの法令に則った取扱の重要性を認識してください。		
担当者の 研究室等		11号館7階 林研究室		
備考		工業所有権情報・研修館のサイトのうち、「知的財産人材の育成」のカテゴリーより、「知的創造活動と知的財産」のむテキストをダウンロード (無料) し、学習に役立ててください。		

科目名	国際理解概論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 功
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02434a2		

授業概要・目的	グローバリゼーションが急速に進むなかで、政治・経済・社会・技術の視点で我々を取り巻く環境を理解する。前半では米国、中国、欧州、日本それぞれの現状を象徴するいくつかのキーワードを掘り下げて学ぶことで、世界の動きを把握する。そのうえで後半では、グローバル市場に取組む日本企業の活動を学ぶことで、より具体的に日常の仕事のレベルで理解を深める。世界の動きと企業の活動を学んだうえで、自分自身の生活や日常に関連付けて考えることで、今後のキャリアや学習に関する示唆を得る。
到達目標	グローバルな視点で物事を考え、判断しなければならないことに気づき、海外での出来事にも関心を持ち、自らで考えるという習慣を身に付ける。
授業方法と留意点	講義形式を原則とするが、随時グループディスカッションや対話形式を取り入れ、学生が主体的に講義に参加して、議論しながら理解を深められることを目指す。
科目学習の効果 (資格)	グローバリズムによる大きな変革期であることを理解して、理工学部で学ぶ学生として、今後の進路を考えるうえでの気づきを得る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス グローバルという言葉の定義	最近のインバウンドに焦点をあてて、グローバル化が我々に及ぼす影響について考える。	講義の復習 (1 時間)
	2	世界の状況をグローバルに理解する	世界の状況を理解するために、政治 (P)、経済 (E)、社会 (S)、技術 (T) の切り口で整理するフレームワーク「PEST」を学ぶ。	講義の復習 次回のキーワード「一带一路」について事前に調べておく (1.5 時間)
	3	キーワードを掘り下げて学ぶ① 中国の一带一路構想	中国の一带一路という構想の政治的な思惑と、経済的な期待効果を学び、特に日本に及ぼす影響を考える。	講義の復習 次回のテーマのトランプ政権について、基礎的な事項を確認しておく (1.5 時間)
	4	キーワードを掘り下げて学ぶ② 米国トランプ政権のアメリカンファースト	アメリカンファーストという考え方の米国の社会的背景を学んだうえで、中国との関係と世界経済に及ぼす影響について考える。	講義の復習 次回のテーマの英国の EU 離脱について、基礎的な事項を確認しておく (1.5 時間)
	5	キーワードを掘り下げて学ぶ③ 英国の EU 離脱と欧州の移民・難民問題	大戦後の欧州の歴史と現在抱えている問題を学び、EU という市場共同体の意義について考える	講義の復習 次回のテーマのアベノミクスという政策について、基礎的な事項を確認しておく (1.5 時間)
	6	キーワードを掘り下げて学ぶ④ 日本のアベノミクス	アベノミクスの三本の矢という政策を理解した上で、現在の問題について考える。	講義の復習 (1 時間)
	7	キーワードから経済 (E) を学ぶ 米中覇権争いと、日中米での国際分業 (GAFA 対 BATH)	中国製造 2025 という国家戦略のもとと技術超大国を目指す中国と米国の攻防とその狭間の日本の立ち位置を考える。	講義の復習 (1 時間)
	8	キーワードから社会 (S) を学ぶ 高齢化、長寿命社会、グローバリズムとナショナリズム	高齢化と労働力不足、移民と難民が社会に及ぼす影響について学ぶ。特に日本での少子高齢化と外国人労働者の受け入れについて、身近な問題として考える。	講義の復習 次回のテーマの AI・ロボットによってなくなる仕事について、自分なりに考えておく (1.5 時間)
	9	キーワードから技術 (T) を学ぶ AI・ロボットにより無くなる仕事	技術革新の世界的な動向と社会や産業構造に及ぼす影響を学び、職業という視点で考える。	講義の復習 (1 時間)
	10	グローバルに取組む日本企業を研究する	ネットを使って、企業の業績やビジョン・戦略の調査の仕方と簡単な分析の手法を学ぶ。	講義の復習 有価証券報告書をダウンロードして読んでみる
	11	企業研究① グローバル化した日本企業の発展の歴史	トヨタ、パナソニック、ソニーといったグローバルブランドの企業の発展の歴史を、海外事業という点に焦点をあてて学ぶ。	講義の復習 ネットで関心の有る企業の戦略、ビジョンを調べてみる (1.5 時間)
	12	企業研究② グローバル化を目指している日本企業の戦略	日清食品、小林製薬、京阪電車といった国内内需中心であった企業のグローバル事業への取組みについて学ぶ。	講義の復習 ネットで関心の有る企業の戦略、ビジョンを調べてみる (1.5 時間)
	13	企業研究③ グローバル化のための M&A	武田薬品、シャープを事例に、外国企業との M&A を通じてグローバルを目指す取組みについて学ぶ。また外国人経営者・社員と日本人社員の関係についても考える。	講義の復習 (1 時間)
	14	グローバル企業の経営、働き方	グローバル企業で求められるダイバーシティ&インクルージョンという考えを学び、日本企業・日本人としての課題について考える。	講義の復習 (1 時間)
	15	グローバリゼーションのもとでのキャリア開発	社会がグローバル化するなかで、現在グローバルで働く人の事例を学びながら、自分自身の職業観とこれから何を学ぶべきかについて考える。	講義の復習 (1 時間)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2																		
	3																		
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード	hnou18x																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	個人メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	平常点（講義中に課す課題、発表内容） 50%、定期試験（論文）の点数 50% 両方で評価します。																		
学生への メッセージ	授業では積極的な発言を期待しています。																		
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階） 非常勤講師ですので研究室はありません。授業内に質疑の時間を設けます。																		
備考	テキストはありませんが、重要なキーワードについては、ネット等で事前に簡単に調べて予習をしておいてください。																		

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA2441a2		

授業概要・目的	この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じること が期待される。 インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。 なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。 SDG s 4-4 SDG s 8-6
到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	- 授業オリエンテーション - 学生と社会人の違いを理解する - インターンシップの目的を考える	- 事前学修: インターンシップとは何かについて考えること (1 時間) - 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (2 時間)
	2	企業組織・ビジネスの理解	- 組織の形態を知る - ビジネスへの理解を深める	- 事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (3 時間) - 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること (1 時間)
	3	実習参加企業について	- 産業の分類を知る - 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	- 事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること (1 時間) - 事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (3 時間)
	4	効果的なプレゼンテーションとは	効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	- 事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること (1 時間) - 事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること (3 時間)
	5	課題のプレゼンテーション①	第 4 回目の課題をプレゼンテーションする	- 事前学修: 第 4 回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること (3 時間) - 事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる (1 時間)
	6	社会人のマナー①	- 社会人としての心構えを知る - 身だしなみ	- 事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること (2 時間) - 事後学修: 配付されたテキストを精読すること (2 時間)
	7	社会人のマナー②	文書でのコミュニケーション	- 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) - 事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (2 時間)
	8	社会人のマナー③	口頭でのコミュニケーション	- 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること (2 時間) - 事後学修: マナーの大切さを再度考えること (2 時間)
	9	履歴書を記入する	インターンシップ用の履歴書を記入する	- 事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと (2 時間) - 事後学修: 講義を振り返り、履歴書を書きすること (2 時間)
	10	グループワーク①	掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	- 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること (2 時間) - 事後学修: グループで課題に取り組むこと (2 時間)
	11	グループワーク②	掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	- 事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること (2 時間) - 事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること (2 時間)
	12	事前訪問について	事前訪問のマナーと準備について	- 事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること (2 時間) - 事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること (2 時間)
	13	課題のプレゼンテーション②	インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	- 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) - 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)
	14	課題のプレゼンテーション③	インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	- 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) - 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること (2 時間)

	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップⅠで学んだことをまとめること（2時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（3時間）																
実務経験																				
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	各課題 55%とレポート 45%(企業研究のPPTと企業研究レポート 25%、最終レポート 20%)																			
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始（予定） インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。																			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）																			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA3442a2		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ＊スーツ着用のこと	・事前学習：社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習：マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修：実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修：実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修：事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	8	事後学修① 9月19日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	9	事後学修② 9月19日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修：個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	10	事後学修③ 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	11	事後学修④ 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習：代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修：聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	12	事後学修⑤ 10月3日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習：実習記録簿を見直してくること(1時間)
	13	事後学修⑥ 10月3日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修：インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
	14	事後学修⑦ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習：全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること ＊学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
	15	事後学修⑧ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	
実務経験				
関連科目	インターンシップⅠ			
教科書				

	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	1.「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 2.「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(水野)																
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。																

科目名	コミュニケーションⅠ	科目名（英文）	CommunicationⅠ
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1443a2		

授業概要・目的	（概要と目的）私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦労はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を話し言葉（音声言語）によって正確に他者に伝達し、かつ明快な文章（書記言語）で過不足なく表現することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要であり、それらを実践練習の中で琢磨していく必要がある。この授業を履修することで、大学生活・社会生活において不可欠な言語能力を一段高いレベルにおいて習得し、それに伴う思考力の獲得と向上をめざす。																																																																		
到達目標	大学生に求められる基本的な日本語能力の取得を目指す。特に、大学生として不足のない文章を書けるようになること、就職活動に必要な日本語表現、自己表現方法をマスターし、ひいては社会人に相応しい日本語使用ができるようになることを目指す。これについては文語・口語ともに射程に含まれる。																																																																		
授業方法と留意点	提示の資料内容に関する講義をおこないます。																																																																		
科目学習の効果（資格）	文章の読解・文章の作成・対話（コミュニケーション）といった日本語能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イントロダクション</td><td>コミュニケーションとは何かをまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>敬語の基礎をまなぶ</td><td>敬語の基礎をまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>敬語の基礎を応用する</td><td>敬語の基礎を応用する</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>敬語の応用問題をまなぶ</td><td>敬語の応用問題をまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>就職活動に必要な敬語をまなぶ</td><td>就職活動に必要な敬語をまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>日常生活とビジネスシーンに敬語をまなぶ</td><td>日常生活とビジネスシーンに必要な敬語をまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>日本語表現の基礎を確認する</td><td>基礎的な日本語の習得度の確認をする</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>漢字の読み書きに習熟する</td><td>漢字の習得度の確認をする</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>同音異義語をまなぶ</td><td>同音異義語をまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>熟語表現をまなぶ</td><td>熟語表現をまなぶ</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>自分の苦手分野を知る</td><td>自己分析と人生の棚卸し</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>自分の得意分野を知る</td><td>自己分析と人生の棚卸し</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>挫折経験を振り返る</td><td>自己分析と人生の棚卸し</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>苦労したことを振り返る</td><td>自己分析と人生の棚卸し</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>自己紹介文を完成させる</td><td>テーマに沿って文章を完成させる</td><td>毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	コミュニケーションとは何かをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	敬語の基礎をまなぶ	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	敬語の基礎を応用する	敬語の基礎を応用する	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	敬語の応用問題をまなぶ	敬語の応用問題をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	就職活動に必要な敬語をまなぶ	就職活動に必要な敬語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	日常生活とビジネスシーンに敬語をまなぶ	日常生活とビジネスシーンに必要な敬語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	日本語表現の基礎を確認する	基礎的な日本語の習得度の確認をする	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	漢字の読み書きに習熟する	漢字の習得度の確認をする	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	同音異義語をまなぶ	同音異義語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	熟語表現をまなぶ	熟語表現をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	自分の苦手分野を知る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	自分の得意分野を知る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	挫折経験を振り返る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	苦労したことを振り返る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	自己紹介文を完成させる	テーマに沿って文章を完成させる	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	コミュニケーションとは何かをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	敬語の基礎をまなぶ	敬語の基礎をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	敬語の基礎を応用する	敬語の基礎を応用する	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	敬語の応用問題をまなぶ	敬語の応用問題をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	就職活動に必要な敬語をまなぶ	就職活動に必要な敬語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	日常生活とビジネスシーンに敬語をまなぶ	日常生活とビジネスシーンに必要な敬語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	日本語表現の基礎を確認する	基礎的な日本語の習得度の確認をする	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	漢字の読み書きに習熟する	漢字の習得度の確認をする	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	同音異義語をまなぶ	同音異義語をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	熟語表現をまなぶ	熟語表現をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	自分の苦手分野を知る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	自分の得意分野を知る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	挫折経験を振り返る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	苦労したことを振り返る	自己分析と人生の棚卸し	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	自己紹介文を完成させる	テーマに沿って文章を完成させる	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	特になし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法（基準）	期末試験 90%、授業態度 10%の割合で評価する。参加態度の悪さから講義中に退席を求めた学生については期末試験を評価しない。授業態度とは、①質問への投げかけに対する応答の姿勢、②授業への集中度、③授業内における演習の達成度を指し、出席点をさすものではない。																																																																		
学生へのメッセージ	日本語の読み書きに関心をもって下さい。積極的な参加を期待しています。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）																																																																		
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																																																																		

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名（英文）	Communication II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1444a2		

授業概要・目的	本講義では、音声言語（話し言葉）のみならず、文字言語（書き言葉）によるコミュニケーションも射程に入れ、「コミュニケーションⅠ」で修得した言語技術をさらに深めさせることを目指す。挨拶・紹介・説明（研究発表を含む）・報告（調査報告を含む）・依頼・勧誘・質疑応答・議論・話し合い・見舞い・詫び・感謝・賞賛といった目的別の言語行動を想定し、より実践的な言語運用能力を修得することを目標とする。																																																																		
到達目標	目的に応じた日本語表現の技法を学ぶことで、日本語の誤用をなくす。日本語を支える文化背景を学ぶことで、現在無意識に使用している流行語、若者言葉、オノマトベの意義を知り、大学生として不足のない文章を書けるようになることを初歩的目標とする。さらに就職活動に必要な基礎的 社会人敬語、自己表現方法を獲得し、ひいては社会人にふさわしい日本語使用ができることを最終的に目指す。これについては、文語・口語ともに射程に含まれる。																																																																		
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。																																																																		
科目学習の 効果（資格）	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>言語と非言語コミュニケーションについて</td><td>基本事項の説明</td><td>コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>2</td><td>認識のメカニズム</td><td>認知認識のメカニズムを学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>3</td><td>聴くと聞く</td><td>ヒアリングの回路を学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>4</td><td>人を動かすコミュニケーション①</td><td>説得について学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>5</td><td>人を動かすコミュニケーション②</td><td>動機付けについて学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>6</td><td>対人コミュニケーション①</td><td>階層理論を学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>7</td><td>対人コミュニケーション②</td><td>人間関係発展のプロセスを学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>8</td><td>小集団のコミュニケーション</td><td>複数人内のコミュニケーションを学ぶ</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>9</td><td>組織のコミュニケーション</td><td>上下関係のコミュニケーションを学ぶ</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>10</td><td>自己とコミュニケーション</td><td>自己操作を学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>11</td><td>うわさのコミュニケーション</td><td>うわさの効用を学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>12</td><td>マスメディアの影響</td><td>マスメディアの功罪を学ぶ</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>13</td><td>広告のコミュニケーション</td><td>広告の効能を学ぶ</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>14</td><td>異文化間コミュニケーション①</td><td>異文化間のコミュニケーションを学ぶ。</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> <tr> <td>15</td><td>異文化間コミュニケーション②</td><td>後期総括</td><td>事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	言語と非言語コミュニケーションについて	基本事項の説明	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	2	認識のメカニズム	認知認識のメカニズムを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	3	聴くと聞く	ヒアリングの回路を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	4	人を動かすコミュニケーション①	説得について学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	5	人を動かすコミュニケーション②	動機付けについて学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	6	対人コミュニケーション①	階層理論を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	7	対人コミュニケーション②	人間関係発展のプロセスを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	8	小集団のコミュニケーション	複数人内のコミュニケーションを学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	9	組織のコミュニケーション	上下関係のコミュニケーションを学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	10	自己とコミュニケーション	自己操作を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	11	うわさのコミュニケーション	うわさの効用を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	12	マスメディアの影響	マスメディアの功罪を学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	13	広告のコミュニケーション	広告の効能を学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	14	異文化間コミュニケーション①	異文化間のコミュニケーションを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。	15	異文化間コミュニケーション②	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	言語と非言語コミュニケーションについて	基本事項の説明	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
2	認識のメカニズム	認知認識のメカニズムを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
3	聴くと聞く	ヒアリングの回路を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
4	人を動かすコミュニケーション①	説得について学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
5	人を動かすコミュニケーション②	動機付けについて学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
6	対人コミュニケーション①	階層理論を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
7	対人コミュニケーション②	人間関係発展のプロセスを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
8	小集団のコミュニケーション	複数人内のコミュニケーションを学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
9	組織のコミュニケーション	上下関係のコミュニケーションを学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
10	自己とコミュニケーション	自己操作を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
11	うわさのコミュニケーション	うわさの効用を学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
12	マスメディアの影響	マスメディアの功罪を学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
13	広告のコミュニケーション	広告の効能を学ぶ	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
14	異文化間コミュニケーション①	異文化間のコミュニケーションを学ぶ。	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
15	異文化間コミュニケーション②	後期総括	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションⅠ など																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	52nxtf3																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業態度（提出物）10%、定期試験90%。 授業態度には①質問の投げかけに対する応答姿勢、②授業への集中度、③ノート書写の姿勢、などを指します。 出席回数は点数に含まれません。80%以上の出席を単位認定の前提とします。 毎回400字程度のかんたんな課題提出を求めます。																																																																		
学生への メッセージ	意欲的な参加を求めます。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する																																																																		

科目名	技術英語	科目名 (英文)	Engineering English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井原 駿
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3450c2		

授業概要・目的	日本企業の手による身近な製品に関わる英文の読解を通じ、機械、環境、情報、医療など、広く科学技術の英語に親しむ。読解力に加え、習得した英語の知識を「話す」「書く」といったアウトプット活動にも結びつけることを意識する。
到達目標	理工系の技術が実践的に生かされる事例について知見を深めながら、技術に関する英語文献を読みこなすことができる。
授業方法と留意点	授業では、テキスト内容の読解を基本に、読解内容を通じて得た知識を用いて話す、書くといった活動も行う。テキスト読解に当たっては受講者に対する理解度確認と教員の解説を中心に取り組みを進めるので、各自で毎回の読解テキストについて予習を行って参加すること。毎回の授業では、予習や復習内容に関する小テストなどを行い、知識や理解の定着を図りながら進める。
科目学習の効果 (資格)	技術に関する英語文献の読解力を高め、テキストを通じて科学技術の応用の実態について知見を得る。読んで知ったことを知識として身につけ、それをもとに自身の考えについて発信する力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の内容、方法、評価について確認	
	2	Unit 1 Design First!	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	テキストの予習
	3	Unit 2 Meeting Athletes' Needs	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	4	Unit 3 Seven Years in the Making	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	5	Unit 4 MEISter to the Rescue	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	6	Unit 5 Space Station Science	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	7	Unit 6 Driving Control & Safety	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	8	Unit 7 Renewing Plastics	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	9	Unit 8 Directing the Blind	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	10	Unit 9 Music and Architecture in Harmony	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	11	Unit 10 Painless Injections	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	12	Unit 11 Tsunami Defense	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	13	Unit 12 Improving Business Performance	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	14	Unit 13 An Efficient Refrigerant	テーマに関する技術英語の確認、テキスト読解、英語表現の運用演習	前回の復習・テキストの予習
	15	総復習	学習内容の復習	これまでの復習

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Japan's Skyline Technological Highlights of Major Companies	椋平 淳・辻本智子・村尾純子・玉田麻里子・Ryan Smithers	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	受講状況 (予習、学習内容の定着、受講姿勢) 40% 期末試験 40% e-learning 学習状況 20%
学生へのメッセージ	科学技術が実社会に応用される事例について参照しながら、技術文献を読みこなすために必要な知識をつけていきましょう。単に文章を「解説」する、というのではなく、自身の中に知識や発想を取り込み、それを活用することを意識しながら取り組んでください。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師控室
備考	予習、復習には時間がかかるかもしれませんが、地道に取り組み、学習内容を定着させていきましょう。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 事前事後学習は毎回概ね 1.5 時間行うことが望まれる。

科目名	科学英語	科目名 (英文)	Scientific English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鈴木 三千代
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3451c2		

授業概要・目的	理系分野では、開発した技術や研究成果を英語で発信してグローバル化している産業社会においては、情報をリアルタイムで手に入れたり、素早く発信したりしていく英語力が必要である。この授業では興味深いトピックを取り上げた英文のリーディングを中心に、理系分野で役立つ基本的な英語や専門的な英語を学んでいく。また今まで学んだ文法を確認しながら語彙・語法を習得し、資料の読み取りにも挑戦する。
到達目標	先端技術分野においてどのような研究がなされ、どのような製品が開発されているのかの情報を理解するのに必要な英語基礎力を養い、グローバルに活躍することができる技術者として様々な状況に対応できる英語能力を身につける。
授業方法と留意点	この授業では、様々なジャンルの最先端技術の英文を読み解く。授業の流れとしては、各トピックごとに Vocabulary Preview、Reading、Comprehension Check、Best Summary、Word Choice、Composition、Partial Dictation and Conversation、Active Learning、Words & Phrases と進めていく。まず重要な語彙の意味を確認し、文法事項を復習しながら専門分野の英文を読んで内容を理解する。次にその内容
科目学習の効果 (資格)	専門英語の理解と TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	授業内容についての説明、英語の 4 スキルに関する導入と準備をする。	事前に教科書の内容に目を通しておくこと。
	2	Unit 3: 複製ができないハイテク鍵に関するリーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	3	Unit 3: 複製ができないハイテク鍵に関するリーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	4	unit 4: 聞き慣れないエネルギー資源に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	5	unit 4: 聞き慣れないエネルギー資源に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	6	Unit 7: インフラ (社会資本) としての日本のコンビニに関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	7	Unit 7: インフラ (社会資本) としての日本のコンビニに関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	8	Unit 11: 瞑想とスポーツに関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	9	Unit 15: アリの生態に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	10	Unit 19: 巨大隕石から地球を守るに関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	11	unit 8: 人口知能と英語学習に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	12	Unit 12: スマホで起こる体の異変に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	13	Unit 16: エキゾチックなベトナムに関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	14	Unit 20: 火星移住計画に関する語彙・文法・リーディング・リスニングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	レポート等最終提出。

実務経験	
関連科目	全英語科目、専門科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science in Our Daily Life	Kobayashi Toshihiko 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	michiyo.suzuki@edu.setsunan.ac.jp			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	e-learning 学習 20%、平常点（授業への取り組み、レポート・課題、小テスト）40%、授業内期末まとめのテスト 40%の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 e-learning 学習をフルに活用し、また予習・復習を怠らないようにして、必ず辞書を持って積極的な授業への参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。e-learningを含めて、毎日1時間以上学習すること。 小テスト、レポート等は授業中にフィードバックする。			

科目名	産業技術史	科目名（英文）	History of Industrial Technology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元 弘行
ディプロマポリシー（DP）	A◎		
科目ナンバリング	TNA3452a2		

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業形式は、「教材・課題配信型」である。「教材・課題配信型」の授業となるが、産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、可能な限りできるだけ多くの資料と視聴覚教材を用いて解説する。
科目学習の効果（資格）	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	産業技術史を学ぶにあたって／特許から見た産業発展史	産業技術史を学ぶ意味を考える。 明治時代の近代日本創生から現代のプロパテント時代まで、日本の産業発展に特許制度が果たした役割を理解し、我が国の歴史から産業発展と特許制度の関係を学ぶ。	課題レポート提出①
	2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①：たたら製鉄の技術	金属材料の基礎について学ぶ。 伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	課題レポート提出②
	3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②：近代製鋼法の技術	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	課題レポート提出③
	4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③：高炉の技術	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。	課題レポート提出④
	5	製鉄・鉄鋼産業の技術史④：新素材の技術	国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」、「超電導材料」などについて学ぶ。	課題レポート提出⑤
	6	自動車産業の歴史①：自動車産業のあけぼの	国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	課題レポート提出⑥
	7	自動車産業の歴史②：自動車産業の基礎技術	自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。	課題レポート提出⑦
	8	自動車産業の歴史③：低公害自動車「CVCC エンジン」の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑧
	9	自動車産業の歴史④：ハイブリットカー・電気自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑨
	10	自動車産業の歴史⑤：燃料電池自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。 ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	課題レポート提出⑩
	11	鉄道産業の歴史①：高速鉄道のかかえる社会的問題	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	課題レポート提出⑪
	12	鉄道産業の歴史②：新幹線の技術	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。 新幹線を作る様々な技術（町工場がもつアナログ的な技術）を学ぶ。	課題レポート提出⑫
	13	鉄道産業の歴史③：リニアモーターカーの技術	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。 また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。	課題レポート提出⑬
	14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の 1 つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	課題レポート提出⑭
	15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	課題レポート提出⑮

実務経験	
------	--

関連科目	産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

		1			
		2			
		3			
授業形態	Moodle				
Teams コード	coauct				
Moodle コース名 および登録キー	magpie9squid				
連絡手段	学内メール				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	各授業毎の課題レポート(全15枚)を100点配分で評価する。なお、評価の基準は、すべての課題レポートを提出し、それぞれのレポートの内容について、題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さなどから総合的に評価し、60点以上を合格とする。				
学生への メッセージ	「教材・課題配信型」の授業ではありますが、各授業毎の課題レポートは、全て期限内に提出してください。レポートの作成においては、レポート課題の理解、課題にそった解答、内容の正確な理解、専門用語の正確な理解、論理的でわかりやすい展開、自分なりの視点で課題を考察、独創性の芽が感じられる内容を書けるように整理し、文章にまとめる力をつけてください。				
担当者の 研究室等					
備考	講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として2時間程度である。				

科目名	科学技術教養 V 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	居場 嘉教. 井尻 貴之. 尾山 廣. 川崎 勝己. 中嶋 義隆. 西村 仁. 船越 英資. 宮崎 裕明
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3455a2		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学研究の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	不妊のしくみ	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	2	病気と遺伝子	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。なぜ肥満が様々な疾患の発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	3	なぜ肥満は問題なのか?	肥満そのものは病気とは言えない。しかし、糖尿病、高脂血症、高血圧、脳血管障害など様々な「生活習慣病」と呼ばれる疾患のリスクファクターになることが知られている。なぜ肥満が様々な疾患の原因になってしまうのか、そのメカニズムと予防・治療法について解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約 3 人に 1 人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の 30% を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物 (タンパク質) を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	8	くすりと組換え生物	生物が持つ遺伝情報に改変を施した「遺伝子組換え生物」は、再生医療やヒト疾患の治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の開発などにも役立っている。本講義では、遺伝子組換え生物やクローン生物の作製に関する技術と応用について概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)
	10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)

			概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	
	11	くすりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存というと、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	14	認知症～その原因と治療法	我が国は超高齢化社会へと進行し続けおり、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）
実務経験				
関連科目	科学技術教養 V2			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。			
学生への メッセージ	病気やくすりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくすりについて、生命科学の観点から具体例を挙げて分かりやすく解説します。本講義は生物・薬を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 川崎、尾山、西村、中嶋、宮崎、船越、井尻、居場研究室			
備考	レポート・課題は各教員が採点した後、適宜返却する。			

科目名	科学技術教養Ⅴ 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	長田 武, 青笹 治, 井尻 貴之, 大橋 貴生, 木村 朋紀, 西矢 芳昭, 松尾 康光, 向井 歩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3456a2		

授業概要・目的	本講義では、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、繊維加工に利用されている遺伝子組換え技術など、我々の暮らしを豊かにするバイオテクノロジーから、環境リスクの評価、ヒトの健康を守る知識や技術まで、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、企業で商品開発等に 20 年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして化粧品や繊維製品のバイオテクノロジー応用に関する教育も行う (第 3, 4 回)。 SDGs-2, 3, 12, 13
到達目標	醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について説明できる。
授業方法と留意点	Moodle の教材・課題に沿って授業を行う。教員によっては Teams「オンライン型」を行う場合がある。Moodle での指示に従うこと。講義ごとに受講メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々の暮らしや健康との関わりが理解できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	遺伝子組換え植物とその将来	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	配布資料を復習する。
	2	バイオレメディエーションの可能性	過去、日本であった重金属汚染について簡単に復習し、特に水銀に焦点を合わせて水銀浄化法を説明する。物理化学的浄化法と微生物を用いた生物学的浄化法を対比しながら、適宜遺伝子組換え技術について補足を加え概説し、植物を用いた生物学的浄化法についても説明する。	配布資料を復習する。
	3	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	配布資料を復習する。
	4	繊維とバイオテクノロジー	繊維に反応する酵素を紹介し、これらを用いた繊維加工の応用例および今後の可能性について解説する。	配布資料を復習する。
	5	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から解説する。	配布資料を復習する。
	6	バイオエネルギー技術	21 世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場から解説する。	配布資料を復習する。
	7	機能性食品などの新しい食品の形態	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	配布資料を復習する。
	8	食品の健康障害リスクと対策	微生物、アレルギー性物質、残留農薬などの食品に存在するヒトの健康障害リスクについて具体的な事例を取り上げ、解説する。	配布資料を復習する。
	9	動く分子とバイオテクノロジー	ATP 合成酵素や細菌のべん毛モーターなどの動く分子を紹介し、生物がもつ運動機能を生体分子モーターなどへ応用するバイオテクノロジーについて解説する。	配布資料を復習する。
	10	昆虫学を用いた、ヒトの暮らしを支える科学技術	地球上でもっとも繁栄した生物群である昆虫は、時にヒトの暮らしを脅かす害虫となり、時にヒトに恵みをもたらす益虫となる。害虫からヒトの財産・健康を守り、益虫のもたらす恩恵を最大化するためには、昆虫を「知る」ことが不可欠である。本講義では、昆虫学がうみだす知識が、どのように科学技術に応用され	配布資料を復習する。

			ているかを紹介する。	
	11	機能性糖質	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	配布資料を復習する。
	12	糖質とバイオ医薬	人の体の中で、糖質はエネルギー源として利用されているだけでなく、免疫応答・代謝物の末梢組織への運搬など、多岐に渡った生命維持に必要な機能を有している。本講義では、このような糖質の生理機能について解説する。	配布資料を復習する。
	13	生体高分子の利用	最近、廃棄されたプラスチックにより生成されるマイクロプラスチックによる環境汚染問題が問題視されている。本講義では、今後幅広く使用されることが期待される生体高分子がどのように利用され、化学合成によりつくられる様々なマテリアルに代替されているかについて解説する。	配布資料を復習する。
	14	環境リスクの評価方法	環境汚染物質や食品添加物などの合成化学物質などのヒトに対する安全性評価すなわちリスクアセスメントの考え方を講述し、水道水質基準や環境基準の策定に関する基本的な考え方を述べる。	配布資料を復習する。
	15	地球規模の環境破壊と人体への影響	主にオゾン層の破壊、地球の温暖化および酸性雨に関して発生原因、発生機構、人への影響およびその防止対策に関して述べる。	配布資料を復習する。
実務経験				
関連科目	科学技術教養Ⅴ 1			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」			
Teams コード	npr1106			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養Ⅴ2（2020年度） 3586			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。30分未満の遅刻は欠席0.5日、30分以上の遅刻は欠席1日とする。			
学生への メッセージ	本講義では、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は、生物・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。 毎回レポート・課題があるので、毎回出席すること。出席および遅刻・欠席の扱いは、一回目の講義で説明します。			
担当者の 研究室等	1号館8階 長田講師室			
備考	事後学習に要する総時間の目安は15時間			

科目名	科学技術教養 A 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加嶋 章博, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 木多 彩子, 小林 健治, 白須 寛規, 西村 勝尚, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3459a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどのように考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。毎回授業教材を用意するが、詳細は、初回授業で資料を提示する。
授業方法と留意点	各回、テキストおよび資料を用いた授業を実施する。 各回の内容に沿った演習課題、ならびに、総合課題を行う。 提供するテキストを講義の進捗にあわせて読み込むことが重要である。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築とは何か	建築の考え方、 建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、 ライフスタイルからみた多様性、民族・ 地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	3	建築と都市環境	建築と都市の関係、 都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	4	建築の歴史	建築の歴史的変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	6	建築の内装	インテリア、 家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	8	建築のUD	こどもと建築、 バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、 エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
	15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 A1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	授業で実施する演習課題（60％）と総合課題（40％）を総合して評価し、60 点以上を合格とする。期末試験は行わない。

(基準)	原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とします。ただし、各課題の提出期限は明示するものの、体調不良や通信環境の不具合などの不測の事態に鑑み、追加提出期限を設けた上で課題を受け付けます。この追加提出期限内に提出された課題も評価します。
学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
担当者の研究室等	8号館3階・各授業担当者の研究室
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養 A 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy A2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 木多 彩子, 小林 健治, 白須 寛規, 西村 勝尚, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3460a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築の代表的な計画デザインや実施の事例、およびその手法について紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)																																																																		
到達目標	建築学に関連する科学技術についての教養を身につけることで、卒業後も社会生活を送るうえで、様々な状況において適用し、建設的な思考につなげていくことができることを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	主に Moodle を利用して授業を運用する。全体アナウンスなどは、Teams を用いる場合もある。各講の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回実施する。各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>住む建築</td><td>住宅、住むことの工夫</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>2</td><td>集まって住む建築</td><td>集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>3</td><td>福祉医療の建築</td><td>建築と福祉医療</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>4</td><td>公共の建築</td><td>公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>5</td><td>商業の建築</td><td>商業建築、商店街の歴史と再生</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>6</td><td>文化の建築</td><td>建築に象徴された様々な文化を読み取る。</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>7</td><td>交通の建築</td><td>陸・海・空の交通 交通建築の特徴</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>8</td><td>高層の建築</td><td>五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>9</td><td>地下空間の建築</td><td>地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>10</td><td>環境共生と建築</td><td>環境と共生する建築について考える。</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>11</td><td>木造の建築</td><td>木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>12</td><td>プレハブ建築</td><td>種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>13</td><td>建築とロボット</td><td>ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>14</td><td>街並みの建築</td><td>ランドスケープと建築、 街並みと要素</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> <tr> <td>15</td><td>将来の建築</td><td>空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替</td><td>講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう	15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
2	集まって住む建築	集まって住む楽しさ、集まって住むカタチ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
3	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
4	公共の建築	公共の建築、パブリックスペース、公共性のある都市施設等に着目し、建築の公共性について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
5	商業の建築	商業建築、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
6	文化の建築	建築に象徴された様々な文化を読み取る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
7	交通の建築	陸・海・空の交通 交通建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
8	高層の建築	五重塔と超高層、 超高層建築の性能と設計、耐震要素と構造技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
9	地下空間の建築	地下空間のメリット、地下空間の利用、 大深度地下、地下都市	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
10	環境共生と建築	環境と共生する建築について考える。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
11	木造の建築	木匠、伝統技術と最新技術 木造建築、木材の使用	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
12	プレハブ建築	種類と概要、 プレハブ化の普及、設計と生産、 災害仮設住宅	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
13	建築とロボット	ロボット導入の経緯、 ロボット化の現状と技術、 今後のロボット	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
14	街並みの建築	ランドスケープと建築、 街並みと要素	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
15	将来の建築	空間条件と心理、ヒューマンスケール、 人はどこに住むか、 近代建築の問題、将来の建替	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	専門科目全般																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>科学技術教養 A2</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 A2			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	科学技術教養 A2																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Moodle																																																																		
Teams コード	t09d96w																																																																		
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 A2 kagakua2																																																																		
連絡手段	Teams																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	計 15 回の課題 (各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・課題・グループワークディスカッションの成果により構成され、それぞれの割合の合計が 100% となる) により評価する。期末試験は行わない。																																																																		

学生への メッセージ	科学技術教養科目においては受講者希望者数が定数を超えた場合、抽選により受講者を決定する。
担当者の 研究室等	8号館3階
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる。 事前あるいは事後学習として、教科書（配布予定）の当該回の範囲を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養M1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀江 昌朗・池田 周之・植田 芳昭・諏訪 晴彦・原 宣宏
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3461a2		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を提供する。 ・moodleによるweb授業を実施します。 ・テキストは必要ですので準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。 ・各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題（レポート）」などをmoodleに提出してもらいます。 ・質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M1」で受け付けます。 学技術教養M1」で受け付けます。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは？	・機械工学の発展の歴史を概観する。 ・「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	テキスト第1章に目を通しておくこと。
	2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史：ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	テキスト第2章2.1-2.3に目を通しておくこと。
	3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	テキスト第2章2.4-2.5に目を通しておくこと。
	4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか？ ・鉄鋼の製造方法	テキスト第3章（鉄づくりの変遷）に目を通しておくこと。
	5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造（金属と何が異なるか？） ・高強度・機能性材料の話	テキスト第4章（非金属材料）に目を通しておくこと。
	6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	テキスト第5章（新素材）に目を通しておくこと。
	7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械（工作機械の歴史） ・機械時計、工具と運動、機械部品	テキスト第6章（母なる機械）に目を通しておくこと。
	8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する（コンピュータと工作機械） ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	テキスト第7章（精密に加工する）に目を通しておくこと。
	9	ものづくり(3) - 工場（ファクトリー）	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	テキスト第8章（ファクトリー）に目を通しておくこと。
	10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	テキスト第9章（人間の作業を補助する機械）に目を通しておくこと。
	11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	テキスト第10章（力を伝える・増幅する機械）に目を通しておくこと。
	12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	テキスト第11章（機械の知能化）に目を通しておくこと。
	13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	テキスト第12章（精密機械）に目を通しておくこと。
	14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくなることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	テキスト第13章（小さくつくる）に目を通しておくこと。
	15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	テキスト第14章（小さくて広大な世界）に目を通しておくこと。

実務経験				
関連科目	産業技術史			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養M 1		
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回、「ノート」と「課題（レポート）」を提出する。 「ノート」(50%)、「課題（レポート）」(50%)で評価する。
学生への メッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	フィードバック：Microsoft Teams で適宜対応

科目名	科学技術教養M2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀江 昌朗, 石田 秀士, 小田 靖久, 川野 常夫, 岸本 直子, 原 宣宏, 山崎 達志
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3462a2		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	人の活動に貢献し生活を豊かにする機械技術を理解するとともに、機械システムと社会や経済活動、生活・生命との関わりを理解する。
授業方法と留意点	- 各テーマごとに、歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 - moodleによるweb授業を実施します。 - テキストは必要ですので準備してください。なお、適宜、資料や動画を配信します。 - 各テーマごとに指定された時間までに「ノート」や「課題（レポート）」などをmoodleに提出してもらいます。 - 質問等はMicrosoft Teams「科学技術教養M2」で受け付けます。
科目学習の効果（資格）	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	機械工学とは？	- 機械工学の発展の歴史を概観する。 「機械工学曼荼羅」を用いて、機械工学の役割、範囲、応用を紹介する。	テキスト第1章（機械工学とは）に目を通しておくこと（60分）
	2	活動の源(1) - 動力・エネルギーの世界	- 身近なエネルギー利用と動力の歴史 - 人力、蓄力、水力、風力、蒸気力	テキスト第2章（動力）に目を通しておくこと（60分）
	3	活動の源(2) - 発電	- エネルギー利用と発電 - 水力、風力、火力、地熱、原子力発電	テキスト第3章（電力）に目を通しておくこと（60分）
	4	乗り物(1) - エンジン	- 熱工学とエンジンシステム - 種々のエンジン（ガソリン等）、電気モータ	テキスト第4章（エンジン）に目を通しておくこと（60分）
	5	乗り物(2) - 輸送する	- 交通と物流 - 自動車交通、船舶、鉄道	テキスト第5章（輸送する）に目を通しておくこと（60分）
	6	空間を移動する(1) - 空を飛ぶ	- 空を飛ぶことができる機械の機能、種類、歴史と原理 - 飛行機、ヘリコプター、飛行船、揚力	テキスト第6章（空を飛ぶ）に目を通しておくこと（60分）
	7	空間を移動する(2) - 高速移動	- 深海に潜ることができる機械の機能、種類、歴史と原理 - しんかい6500、深海探査、水圧、チタン合金、生命維持システム	テキスト第7章（深海に潜る）に目を通しておくこと（60分）
	8	空間を移動する(3) - 宇宙へ飛び立つ	- 宇宙空間に飛んでいる機械の機能、種類、歴史と原理 - ロケット、スペースシャトル、宇宙ステーション、高真空、ロケットエンジン	テキスト第8章（宇宙へ飛び立つ）に目を通しておくこと（60分）
	9	物を測る	- 測り方を共通にすることで広がる世界 - 度量衡と政治の関係、原器、ものさし、機械的測定	テキスト第9章（物を測る）に目を通しておくこと（60分）
	10	センサで測る	- センサの発達と誤差との戦い - センサ、センシング技術、計測と誤差	テキスト第10章（センサで測る）に目を通しておくこと（60分）
	11	制御する	- 制御の成り立ちと発展、自動制御とは？ - 調速機、結果を見て制御する（フィードバック）	テキスト第11章（制御するとは？）に目を通しておくこと（60分）
	12	操る・抑える	- サーボ機構とプロセス制御 - ロボットアーム、ロケット、原子力発電、鉄鋼プラント	テキスト第12章（操る・抑える）に目を通しておくこと（60分）
	13	生命・生体に倣う機械(1) バイオエンジニアリング	- バイオエンジニアリング、生体工学の世界 - 生体の模倣と設計、鳥と飛行機、ハコフグと低燃費自動車、サソリと多足ロボット	テキスト第13章（バイオエンジニアリング）に目を通しておくこと（60分）
	14	生命・生体に倣う機械(2) - 医療と健康	- 人間を援ける医用工学、人間を癒す福祉工学の世界 - 人工臓器、福祉機器、健康機器、スポーツ機器	テキスト第14章（医療と健康）に目を通しておくこと（60分）
	15	生命・生体に倣う機械(3) - ヒューマノイド	- 人間を測る、診る、まねる世界 - 生体計測、生体力学、医用診断装置、ヒューマノイドロボット	テキスト第15章（ヒューマノイド）に目を通しておくこと（60分）

実務経験				
関連科目	産業技術史			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名

		1			
		2			
		3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」／Moodle				
Teams コード	fbr4gqg				
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養M2 STML2				
連絡手段	学内メール				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	毎回、講義メモとレポートを提出する。 講義全体にわたるメモ(50%)、講義内容に対する理解と考察を問うレポート(50%)で評価する。				
学生への メッセージ	機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか？日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか？近未来にどのような乗り物が実現されているか？等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。				
担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕				
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、次のルールを原則とする。 ・出席率80%以上を成績評価の対象とする。 ・30分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・遅刻は2回で欠席1回とみなす。 ※ 詳細は、初回に配布する『M科開講「科学技術教養M1・M2」受講の際の注意』を熟読すること。 フィードバック：講義メモ・レポートは翌週に返却する。				

科目名	科学技術教養 E 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 金澤 尚史, 工藤 隆則, 鹿間 信介, 高瀬 冬人, 檜橋 祥一, 西 恵理, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3463a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくなくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにある電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどのようなしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[教材・課題提供型授業] 教科書データ・補助資料（パワーポイントスライドや PDF ファイル、事前に録画した動画など）の教材を Moodle 上に提示する。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出も Moodle 上で行う。 前期授業期間に合わせて、すべての講義回に無理のないペースで取り組み、補助資料を参照しつつ教科書の精読・課題作成・課題提出を行うことを推奨する。 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 講義は 1 話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の
科目学習の効果（資格）	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ること、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ること、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史と電気回路の基礎	科学技術教養の意義 電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1 時間
	2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1 次電池と 2 次電池	テキストを復習する。1 時間
	3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1 時間
	4	半導体のお話	半導体とは何か、p 形と n 形、大規模集積回路、LED 照明とは	テキストを復習する。1 時間
	5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。 売電のしくみ。	テキストを復習する。1 時間
	6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1 時間
	7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1 時間
	8	モールス通信から携帯電話へ	モールス電信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1 時間
	9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2 進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1 時間
	10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1 時間
	11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジや IH のしくみ	テキストを復習する。1 時間
	12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CD のしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1 時間
	13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1 時間
	14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線 LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1 時間
	15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1 時間

実務経験				
関連科目	特になし			
教科書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
	2			
	3			
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。			
担当者の 研究室等	1号館4階・5階の電気電子工学科教員室 責任者：片田（1号館4階）			
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 教材・課題提供、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。			

科目名	科学技術教養 E 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	片田 喜章, 井上 雅彦, 奥野 竜平, 金澤 尚史, 工藤 隆則, 高瀬 冬人, 檜橋 祥一, 西 恵理, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3464a2		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の歴史と簡単な基礎理論を説明した後、電気を発生する発電のしくみとその方法を手始めに、現代社会において応用されている電気電子工学、通信情報工学の最新科学技術について講述する。
到達目標	電車のしくみや放送技術、携帯電話やレーザー光線の原理、最新のナノテクノロジー、ロボット工学や人工知能の話などもあり、最終的には電気を使った科学技術がどの様なしくみで我々の暮らしに関わっているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	[教材・課題提供型授業] 教科書データ・補助資料（パワーポイントスライドの PDF ファイルまたは説明動画）の教材を Moodle 上に提示する。 毎回、課題レポートが用意されている。課題レポートの提出も Moodle 上で行う。 授業時間割の日時に合わせて、すべての講義回を週一回のペースで取り組み、補助資料を参照しつつ教科書の精読・課題作成・課題提出を行うことを推奨する。ICT ツールのトラブルも考慮して、提出期日より早く提出するように注意すること。 電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。
科目学習の効果（資格）	現代社会を支えている電気エネルギーとその応用について総合的に学ぶことにより、電気への理解を深め、これにより原子力発電も含めた電力供給系と節電に対する正しい考え方を身につけることができる。また、携帯電話やスマートフォンでどこでも通信ができる社会のしくみ等も知ることができる。国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	電気の歴史	科学技術教養の意義 磁石の利用、クーロンの法則、アンペールの法則、ファラデーの電磁誘導、マクスウェル理論と電磁波の予言	電気に関するニュースに注意する。1 時間
	2	発電の原理と発電所	電気エネルギーを発生させるしくみ、発電機、水力、火力 交流発生か直流か、50Hz と 60Hz	テキストを復習する。1 時間
	3	原子力発電	核エネルギーの発生、原子力発電のしくみ、事故と防災対策、放射線の性質と測定	テキストを復習する。1 時間
	4	再生可能エネルギー	太陽光発電、風力発電 地熱発電、海洋エネルギー、宇宙発電、エネルギー効率	テキストを復習する。1 時間
	5	送電・配電	電気を安定に送る、交流送電か直流送電、周波数変換 送電電圧と家庭電圧への変換、スマートグリッド	テキストを復習する。1 時間
	6	モータのしくみと電車	磁石と電流による力の発生、モータのしくみ 電車、リニア新幹線、電気ブレーキと電力回生	テキストを復習する。1 時間
	7	電波と放送	電波の利用と電波法、ラジオ放送、テレビ放送、衛星放送、放送の進化	テキストを復習する。1 時間
	8	携帯電話のしくみ	固定電話から携帯電話へ、セルラーシステム、携帯電話のつながるしくみ、音声通信からデータ通信へ、携帯電話の進化	テキストを復習する。1 時間
	9	私たちの生活をささえる電気照明	エジソンによる電灯の発明、蛍光灯のしくみ、青色 LED の発明、LED 照明	テキストを復習する。1 時間
	10	レーザーの発明	物質からの光放射、線スペクトルと誘導放射 メーザーからレーザーへ、レーザーの特徴	テキストを復習する。1 時間
	11	光デバイス	さまざまな光デバイスの原理と応用など	テキストを復習する。1 時間
	12	進化するナノテクノロジー	半導体の動作原理、半導体集積回路の構造、集積回路技術の歴史と現状、スマートフォンからウェアラブル計算機へ、今後の発展	テキストを復習する。1 時間
	13	プログラマブル高速計算機の発達	チューリング機械、手回し計算機と計算尺、最初の電算機 ENIAC 弾道ミサイルの計算、金融計算から天気予報まで	テキストを復習する。1 時間
	14	ロボット工学	ロボット工学の過去・現在・未来を解説	テキストを復習する。1 時間
	15	人工知能	知能・人工知能とは？ 人工知能の歴史、人工知能の分類、ルールベースとエキスパートシステム、機械学習と深層学習	テキストを復習する。1 時間
実務経験				
関連科目	特になし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		

	2																		
	3																		
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 E2 (2020 年度後期) kyouyo_e2																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	授業の各回で課される課題レポートの合計点で評価する。 原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。																		
学生への メッセージ	我々の暮らしに電気は不可欠です。しかも原子力発電の問題が出てきて、エネルギー問題への関心は節電対策も含め高まっていると思います。しかし、単純に噂などを鵜呑みにするのではなく、電気の発生から伝達までのしくみを詳しく知れば、風評に惑わされることなく、対策を考えることができます。常に様々な電気関連のニュースに注意を払いながら受講して下さい。																		
担当者の 研究室等	1 号館 4 階・5 階電気電子工学科教員室 責任者：片田 (1 号館 4 階)																		
備考	原則として課題レポートの提出率 80%以上を成績評価の対象とする。 教材・課題提供、課題レポート提出はすべて Moodle 上で行う。 課題レポートには提出期日がある。 課題レポートの結果は Moodle 上で個別に通知する。																		

科目名	科学技術教養C 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 賢太郎, 石田 裕子, 伊藤 謙, 片桐 信, 熊野 知司, 佐藤 大作, 福島 徹, 水野 忠雄
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3465a2		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う。講義資料はICT ツールを用いて、PPT+ナレーションを用いた動画とPDFを配布する。当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い、・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人々（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
	2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
	3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
	4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
	5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
	6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
	7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
	8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
	9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
	10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ、水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
	11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間、地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
	12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
	13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
	14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
	15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C1	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各回もしくは各テーマでの課題の点数を合計した総合点で評価する。3回分以上(2回までは可とする)の課題の提出がない場合には、原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 C 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 譲, 石田 裕子, 片桐 信, 熊谷 樹一郎, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田中 賢太郎, 寺本 俊太郎, 水野 忠雄
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3466a2		

授業概要・目的	概要：いくつかのプロジェクトを例に，建設事業の流れに沿って，社会的な位置づけ，市民生活との関わりを解説する．第 1 回目の授業では，事業主体別にプロジェクトの流れを説明する．第 2～3 回目は，高速道路建設を例に地形の調査・土質の調査，環境の調査を解説する．第 4～7 回は高速道路を構成する橋，トンネル，道路の設計と施工の考え方を解説する．第 8～15 回は，安全で潤いのある社会を築く観点からダム・堰，堤防，浸水対策，ライフライン，公園・まちづくり，地震防災など身近なテーマを概説する．
到達目標	土木構造物の計画から施工管理までの流れの概要を理解し土木構造物と社会や経済活動，生活との関わりを理解できる．
授業方法と留意点	講義は非対面型遠隔授業方式で行う．講義資料は ICT ツール(Moodle)を用いて，PPT+ナレーションを用いた動画と PDF を配布し，課題の回収も行う．当該資料を繰り返し視聴し学習するとともに課題に取り組み理解を深める． 私たちの生活を支える社会基盤がどのようにして計画され，設計・施工されているかを事業の流れに沿って解説する．代表的な構造物や身近なテーマを取り上げ，安全で安心な社会を築くため，何が重要かを理解できるように講義を進める．
科目学習の成果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているかなどの知識が得られ，安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	社会基盤をつくる建設事業の流れ	国家プロジェクト，地域プロジェクト，民間主導プロジェクトなど事業主体別の建設の流れ，計画（意思決定）～調査～設計～施工の概要	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	2	高速道路建設の計画・調査・設計	国土開発や都市計画・地域計画との関連，一般道路や鉄道との関連，需要予測，予算，資本回収の考え方	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	3	建設に必要な調査①（地形の調査・土質の調査）	測量計測技術（地形測量・平板測量・水準測量・写真測量・GPS 測量），地盤の調査	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	4	建設に必要な調査②（環境の調査）	生態系・環境への影響，負荷の軽減策，排ガス規制と大気汚染など環境アセスメント	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	5	橋の設計と施工	コンクリート橋と鋼橋，橋の形式と適用支間長，景観設計，施工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	6	トンネル，半地下開削工法	山岳トンネル・都市地下トンネルの設計と施工，地山の強度と工法，半地下開削工法	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	7	道路の設計と施工	盛土形式と高架形式，道路の構造，道路舗装	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	8	ダム・堰の計画と施工	洪水への備え（治水、防災），発電・灌漑・上水などの多目的ダム，ダムの構造と種類	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	9	堰・堤防の計画と設計・施工	洪水・土砂災害への備え（治山・治水、防災），計画雨量，遊水池，親水施設	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	10	都市型洪水への備え	透水性舗装，都市大型地下貯槽，屋上緑化，排水と下水道設計，地下道・地下鉄の浸水対策	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	11	市民の日常生活を支えるライフライン	上下水道，水質管理，水質浄化，下水処理，電気，通信設備	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	12	市民の生活に潤いを与える公園・まちづくり	まちづくりとは，実現するものは，人とのかわり，技術とのかわり	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	13	市民の生活環境を守る	地球環境と生態系，人口増加と都市化・食糧生産，・自然エネルギーの問題点，火力発電所と大気汚染・温暖化，原子力発電と放射能問題，温排水問題	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	14	震災から市民を守る	地震の種類と特性，地震に備える構造とは？制震構造と免震構造，ライフラインの耐震，避難体制，緊急地震速報	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．
	15	津波や台風・高潮から市民を守る	港湾施設・防波堤，津波，避難施設，避難誘導	配布資料講義部分の予習と復習を十分行う．

実務経験	
関連科目	特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C2	都市環境工学科全教員	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	2020 年度 3 年次配当科目 科学技術教養 C2 STLC2
連絡手段	学内メール, Teams 内質問チャンネル
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	受講メモ 50%, レポート・小論文 50%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは 2～3 回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。ただし、4 回分以上（3 回までは可とする）の課題の提出がない場合には、原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設がどのように計画設計され施工されているか知り理解を深めていただければ幸いです。
担当者の 研究室等	講義担当者居室 1 号館 3 階および 4 階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回 1 時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 T 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大、小林 俊公、友枝 恭子、長島 健、東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3467a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9				
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。				
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 初回に配布するテキスト及び毎回の配布資料を用いる。				
科目学習の効果（資格）	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。				
授業計画		回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	人類にとっての数 (1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
		2	人類にとっての数 (2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
		3	人類にとっての数 (3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
		4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
		5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
		6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
		7	波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
		8	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
		9	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マックスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
		10	レーザー光	光を発するもの（光源）には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード (LED) が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
		11	X 線の発見から利用	X 線の発見から発生の原理、さらに X 線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンや X 線 CT がなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)

			線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。																	
	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)																
	15	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)																
実務経験																				
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 T1</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 T1	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1 号館 2 階, 3 号館 3 階, 8 号館 2 階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回 1 時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	科学技術教養 T 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 伸一・神嶋 修・佐々木 洋平・中津 了勇・安井 幸則
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3468a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。 SDGs-9																																																																		
到達目標	時間や位置とともに変化する量をどのように表すのか、そして、その変化の割合がいったい何を意味し、現代科学につながっていくのかを、歴史的背景も込めて、知る。																																																																		
授業方法と留意点	座学・説明中心の講義となるので、遅刻・私語は厳禁である。 今年度は Teams・Moodle 等を用いた遠隔授業を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>微積分が成立するまでの話</td><td>ニュートンとライブニッツという 2 つ異なる個性が微積分の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>2</td><td>文字式から単位のない実数の世界へ</td><td>微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>3</td><td>ヒルベルトのデーゼ: 無矛盾ならば存在する</td><td>微積分が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>4</td><td>現代科学は力 (ちから) F から始まった</td><td>ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>5</td><td>万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か</td><td>ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>6</td><td>破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か</td><td>物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2 つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は 50 年間議論した。その結論はどうだったのか。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>7</td><td>蒸気機関と熱力学の誕生 (1)</td><td>18 世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>8</td><td>蒸気機関と熱力学の誕生 (2)</td><td>カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>9</td><td>蒸気機関と熱力学の誕生 (3)</td><td>カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則 (熱力学第一法則) v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>10</td><td>角の 3 等分について (1)</td><td>歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>11</td><td>角の 3 等分について (2)</td><td>60 度は 3 等分できない、体の考え方</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>12</td><td>角の 3 等分について (3)</td><td>体の拡大と作図できる数、定理の証明</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>13</td><td>ニュートンからアインシュタインへ</td><td>慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>14</td><td>特殊相対論――原理はたったの 2 つだけ</td><td>2 つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。</td><td>課題・レポート</td></tr> <tr> <td>15</td><td>一般相対論――重力の謎</td><td>ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか？</td><td>課題・レポート</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	微積分が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという 2 つ異なる個性が微積分の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート	2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート	3	ヒルベルトのデーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート	4	現代科学は力 (ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート	5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート	6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2 つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は 50 年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート	7	蒸気機関と熱力学の誕生 (1)	18 世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート	8	蒸気機関と熱力学の誕生 (2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート	9	蒸気機関と熱力学の誕生 (3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則 (熱力学第一法則) v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート	10	角の 3 等分について (1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート	11	角の 3 等分について (2)	60 度は 3 等分できない、体の考え方	課題・レポート	12	角の 3 等分について (3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート	13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート	14	特殊相対論――原理はたったの 2 つだけ	2 つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート	15	一般相対論――重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか？	課題・レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	微積分が成立するまでの話	ニュートンとライブニッツという 2 つ異なる個性が微積分の成立にどう影響したか、その歴史を概観する。	課題・レポート																																																																
2	文字式から単位のない実数の世界へ	微積分の厳密化の過程で、記号法・単位の問題から実数概念をどう獲得していったか振り返る。	課題・レポート																																																																
3	ヒルベルトのデーゼ: 無矛盾ならば存在する	微積分が挑んだ無限を無矛盾・選択公理をキーワードにして述べる。	課題・レポート																																																																
4	現代科学は力 (ちから) F から始まった	ニュートンの運動の法則 $F=ma$ は、なんだか良くわからない力 F を使って、なんだか良くわからない質量 m を定めた。どちらもわかっていないのに、大丈夫なのだろうか。	課題・レポート																																																																
5	万有引力の法則の美しいスケール不変性は偶然か	ニュートンが発見した「万有引力の法則」は、巨大なサイズをもった惑星の運動から導き出されたにもかかわらず、人工衛星や、飛行機、果ては雨粒にまで適用できることが分かった。これは、自然科学において貴重な「スケール不変性」をもつといい、人類の科学の発展にとって、計り知れないほど幸運であった。	課題・レポート																																																																
6	破壊力、衝撃力はどちらも同じ意味か	物体がもつ「運動の勢い」を考えると、2 つの新しい概念が生まれた。一つを運動量といい、他方をエネルギーという。どちらの量が「運動の勢い」を正しく表している尺度なのか人々は 50 年間議論した。その結論はどうだったのか。	課題・レポート																																																																
7	蒸気機関と熱力学の誕生 (1)	18 世紀イギリス産業革命と熱機関。蒸気機関の改良・熱効率・熱素説。	課題・レポート																																																																
8	蒸気機関と熱力学の誕生 (2)	カルノー登場。カルノーサイクルとそれを用いる思考実験。カルノーの定理の発見。	課題・レポート																																																																
9	蒸気機関と熱力学の誕生 (3)	カルノーからケルビン、そしてクラウジウスに至る道。エネルギー保存則 (熱力学第一法則) v. s. 不可逆性。熱力学第二法則とその表現。熱力学的エントロピー。	課題・レポート																																																																
10	角の 3 等分について (1)	歴史的背景、方程式と結びつける、ユークリッド作図、作図できる数・できない数	課題・レポート																																																																
11	角の 3 等分について (2)	60 度は 3 等分できない、体の考え方	課題・レポート																																																																
12	角の 3 等分について (3)	体の拡大と作図できる数、定理の証明	課題・レポート																																																																
13	ニュートンからアインシュタインへ	慣性系、ガリレイ変換、マイケルソン・モーレーの実験等々アインシュタイン登場前に何が謎だったのかを説明する。	課題・レポート																																																																
14	特殊相対論――原理はたったの 2 つだけ	2 つの基本的な原理を出発点にして、従来の時間や空間に対する考え方がどのように変更されたのか、高校レベルの数学を使って解説する。	課題・レポート																																																																
15	一般相対論――重力の謎	ニュートンの万有引力の法則はアインシュタインの相対論ではどのように記述されるのか？	課題・レポート																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	数学・物理の全科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>科学技術教養 T2</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 T2			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	科学技術教養 T2																																																																		
2																																																																			
3																																																																			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」／Moodle			
Teams コード	ljae0fu			
Moodle コース名 および登録キー	科学技術教養 II 2020T2			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義メモ 50%, レポート 50%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は毎回1時間以上かけること。			

科目名	統計情報処理	科目名 (英文)	Statistical Information Processing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	妹尾 史郎, 渡邊 るりこ
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1022a0		

授業概要・目的	情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。表計算ソフトを用いて、その特有のデータ処理・分析の操作・手順を学ぶ。
到達目標	理工学分野で必要となる情報（数値データ）の処理方法と基本的分析方法を習得する。
授業方法と留意点	代表的かつ標準的な表計算ソフトである Excel を対象とする。Excel の多種多様な機能のうち理工系の学生にとって必要なデータの集計・分析に有効利用できる機能に焦点を絞り、表計算を利用した数学的な考察能力の向上を促進するための演習を行う。
科目学習の効果（資格）	IT パスポートや基本情報処理技術者（ともに国家資格）や Microsoft オフィススペシャリスト（民間資格）の試験に役に立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	利用システムの説明 表計算の基本操作 (1)	・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明 ・ソフトの起動・終了、データ入力	情報処理室の利用手引きを読む。 (第 1～3 回の課題)
	2	表計算の基本操作 (2) 効果的なグラフ表現	・表の整形、数式入力 ・式のコピーと貼り付け ・グラフの作成	表のレイアウト設定に関する演習課題の配布 (第 4～6 回の課題)
	3	関数の利用	・数式の書き方 ・関数ウィザード	統計基本関数を用いた演習課題の配布 (第 7 回の課題)
	4	データ集計とセルの参照	・セルの相対参照と絶対参照 ・データの並び替え	オートフィルタの演習 (第 8 回の課題)
	5	ヒストグラム	・分析ツールの利用 ・論理関数によるヒストグラムの作成	ヒストグラム作成の演習 (第 9 回の課題)
	6	散布図と回帰分析	・回帰直線とデータの推測	散布図の作成と回帰直線によるデータ分析の演習 課題 (第 10 回の課題)
	7	相関係数	・相関係数とは ・相関係数の求め方	相関係数を用いたデータ分析の演習課題 (第 11 回の課題)
	8	統計基礎量（分布の代表値・ 広がり）	・分布の代表値（平均値／中央値／最頻 値） ・分布の広がり（最大最小／分散／標準 偏差）	データ集計とデータ分布の割合に関する演習課題 (第 12 回の課題)
	9	正規分布	・正規分布とは／標準正規分布 ・分布データの存在確率	正規分布関数を用いたデータ分析の演習課題 (第 13 回の課題)
	10	データの標準化（平均と標準 偏差）	・平均が異なるデータの比較／標準偏 差の異なるデータの比較 ・分布の異なるデータの比較／データ の標準化	データの標準化と比較の演習課題 (第 14 回の課題)
	11	分析ツールによる単回帰分 析	・散布図による回帰分析 ・相関係数と決定係数 ・分析ツールを用いた単回帰分析	分析ツールを用いた単回帰分析の演習課題 (第 15 回の課題)
	12	重回帰分析	・相関行列／重回帰分析の基本	分析ツールを用いた重回帰分析の演習課題 (第 16 回の課題)
	13	t 分布	・t 分布とは／正規分布との関係 ・t 検定と有意差	簡単な t 検定の演習課題 (第 17 回の課題)
	14	平均値の差の検定	・t 検定による平均値と差の検定 ・分散分析	分析ツールを用いた t 検定の演習課題 (第 18 回の課題)
	15	総合演習	・まとめ	データ集計・分析の総合的演習課題

実務経験	
関連科目	情報リテラシー I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	演習テキストおよび資料を毎回配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて関連書籍（アスキー出版、インプレス出版等）を各自用意するとよい		
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の演習と受講態度 (30%)、小テスト (70%) で評価する。
学生への	上位学年次の学習や研究で必要となるデータの処理と分析の方法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する演習課題にじっくり取り組む姿勢

メッセージ	が大事です。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1401a1		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。
授業方法と留意点	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する
科目学習の効果（資格）	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む
	2	作品としての『百人一首』1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む
	3	作品としての『百人一首』2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む
	4	作品としての『百人一首』3	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む
	5	四季歌を読む 春 1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 春の歌を読みます	配布プリントを読む
	6	四季歌を読む 春 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 桜の歌を読みます	配布プリントを読む
	7	四季歌を読む 夏	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 夏の歌を読みます	配布プリントを読む
	8	四季歌を読む 秋 1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 秋の歌を読みます	配布プリントを読む
	9	四季歌を読む 秋 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む
	10	四季歌を読む 冬	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 冬の歌を読みます	配布プリントを読む
	11	恋歌 1	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	12	恋歌 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	13	恋歌 3	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む
	14	雑歌 2	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む
	15	授業の総括	「遠隔授業（教材・課題提供型授業）」にて実施する 『百人一首』の意義と他の文学作品との	配布プリントを読む

			関わり																	
実務経験																				
関連科目	日本語読解																			
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																	
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																	
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	授業態度(質問への回答)や復習テストなど20%、定期試験80% ”新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑みて、レポートの活用による学修評価等、現記載の評価方等を変更する場合があります、その際は別途連絡する”																			
学生への メッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																			
備考	予習復習は、配布資料を約1時間程度通読する。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	段階的に文章執筆のメソッドを習得し、最終的に 1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行う。教科書は必ず用意して授業に臨むこと。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現問題のプリントを行う。このプリントのまとめをテストとして実施し、成績評価に取り入れるため、遅刻をしないこと。 講義の進捗状況によって、シラバスに記載した順番が前後することもある。
科目学習の効果 (資格)	レポート・論文の作成に必要な文章スキルを身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 文章の書き方 1 文章表現の基礎を学ぶ	本講義に臨むための基本姿勢 講義 文章表現の基礎	授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	2	文章の書き方 2 文章表現の基礎を学ぶ	講義 文章表現の基礎	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	3	事実の記述と意見の記述 【課題 1】ある事物について、論理的に説明する文章を書く	講義 事実を述べる文章と意見を述べる文章の違い 論理的に説明する方法	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う
	4	課題 1 の返却 要約	課題 1 のフィードバック 個別に不足点を指導する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	5	文章を引用し、出典注記を記す	講義 他者の文章を引用する際の作法をまなぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	6	文章を引用し、出典注記を記す【確認】	講義 文章の引用方法習得の確認	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	7	【課題 2】文章資料を引用し、出典注記を明記する文章を書く	確認テスト	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う
	8	三部構成	講義 論理的文章の構成をまなぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	9	図表の引用	講義 図表などのデータを引用する方法	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	10	課題 2 の返却	フィードバック 個別に不足点を指導する	教科書 意見の述べ方を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む 課題 2 を見直す
	11	意見の述べ方	講義 総合的な見解の述べ方をまなぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	12	【課題 3】資料 (文章と図表) を引用して見解を述べる	文章と図表を引用し、論理的な文章を書く	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う
	13	引用の確認	講義 図表の引用と出典注記の記述方法を確認する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む
	14	小テストの実施	これまで行った小テストの内容を確認する	全回配布分のプリントを確認・見直す
	15	課題 3 の返却	レポートのフィードバックと総括	課題 3 を見直す 各自の理解不足箇所を補う
実務経験				
関連科目	ゼミ、卒業研究など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	ijqid2w			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題3回により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。			
学生への メッセージ	読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておく。			
担当者の 研究室等	1号館2階（非常勤講師室）			
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックします。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田林 千尋
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 具体的には、教科書を用いた講義形式で、論理的な文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。 授業時間内に 2 回の課題と、1 回のレポートを提出する。 授業時間内に小テスト（予習不要）を行い、最後に確認テストを行う。 教科書の問題にきちんと取り組んでいるか、適宜チェックを行う。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、評価方法、進め方等の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ 原稿用紙の使い方	復習：教科書 1-6 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 7-12 頁 (0.5 時間)
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	復習：教科書 7-12 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 13-17 頁 (0.5 時間)
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、必要なことをわかりやすく説明する方法を学ぶ	復習：教科書 1-17 頁 (0.5 時間)
	4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	復習：教科書 1-17 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 19-22 頁 (0.5 時間)
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	復習：教科書 19-22 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 23-26 頁 (0.5 時間)
	6	要約	要旨の要約の作成方法を知る	復習：教科書 23-26 頁 (0.5 時間)
	7	【課題 1】フィードバック	【課題 1】のフィードバック これまでの復習	復習： 課題 1 の見直し (0.5 時間) 教科書 1-26 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 27-31 頁 (0.5 時間)
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	復習：教科書 27-31 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 32-37 頁 (0.5 時間)
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	復習：教科書 27-37 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 38-39 頁 (0.5 時間)
	10	引用の復習 意見を述べる	文章・図表からの引用の復習 考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	復習：教科書 27-39 頁 (0.5 時間)
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる	復習：教科書 1-39 頁 (0.5 時間) 予習：教科書 41-44 頁 (0.5 時間)
	12	レポートの書き方 1・2 【レポート】執筆 1	レポートの体裁について学ぶ レポート課題についての説明 レポートテーマの決定 【レポート】の執筆 次週までに調べることのリストアップ	復習：教科書 1-44 頁 (0.5 時間) 予習：【レポート】に必要な資料を集めてくる (0.5 時間)
	13	【課題 2】フィードバック 【レポート】執筆 2	【課題 2】のフィードバック 【レポート】の執筆 次週までに調べることのリストアップ	復習： 教科書 1-44 頁 (0.5 時間) 【課題 2】を見直す (0.5 時間) 予習：【レポート】に必要な資料を集め、あらかじめ文章にまとめる (1 時間)
	14	【レポート】執筆 3 【レポート】提出	【レポート】の執筆 【レポート】を完成させ、提出する	復習：教科書 1-44 頁 (0.5 時間) 予習：小テストの復習 (1 時間)
	15	【レポート】フィードバック 小テストの復習テスト	【レポート】のフィードバック 小テストの復習テストをする	復習：教科書 1-44 (0.5 時間)

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	ax0ay9q
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により 評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	【重要】教科書は必ず1人1冊購入してください。各自教科書を持っていることを前提に授業を進めます。内容理解の確認もします。 日常会話で使っている日本語と、大学のレポートや論文、社会に出てから作成する報告書などで用いる日本語は区別しなくてはなりません。本講義では、レポート・論文・報告書で書くべき論理的文章はもちろん、就職活動で重要となる敬語などを広く学びます。これからの学生生活、社会人生活に必要なことと理解し、日本語と真面目に向き合ひましょう。
担当者の 研究室等	-----<通常時>----- 7号館2階非常勤講師室（水曜日 13:00～15:10 在室） それ以外の時間帯の緊急連絡はメールにて対応します。メールアドレスは初回授業にて伝えます。 -----<遠隔授業時>----- 水曜日にメール確認をします。それ以外もメールは常時受け付けていますが、必ずしも即時返信を約束するものではありません。緊急の連絡がある場合は、メールの題名に【緊急】、【要返信】などを付けて送ってください。
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。 【再度確認】教科書は必ず1人1冊購入してください。各自教科書を持っていることを前提に授業を進めます。内容理解の確認もします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	テキストに即して講義形式で知識を整理したのち、各自課題に取り組み、その結果を適宜講師が確認しながら教室全体にフィードバックする形で授業を進めていきます。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	・はじめに ・文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	2	・文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	3	・事実と意見	事実と意見の書き分け	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	4	・課題①－1 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	5	・課題①－2 説明文	課題①を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	6	・構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	7	・要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	8	・文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	9	・図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	10	・意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	11	・課題②－1 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	12	・課題②－2 論説文	課題②を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	13	・レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	14	・レポートの書き方 2	レポートの作成の注意点を教える	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)
	15	・最終課題レポート	まとめのレポートを作成する	当日のレポート作成に備えて、テキストを読み直して注意点を確認しておく。(所要時間の目安は 1.5 時間)

実務経験	
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「大学生の日本語文章表現」	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名	

および登録キー	
連絡手段	毎回の提出レポートに「質問その他」の欄を設けます。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	学生として、社会人として、他人に自分の考えていることを伝えるには、友人とのラインのやり取りのようなわけにはいきません。自分の文章を胸を張って他人に提示できるように、実際に手を動かしてトレーニングを重ねましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	◇事前事後学習の総時間の目安は15時間。 ◇提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1445a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 ようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6																																																																		
到達目標	1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th><th>授業テーマ</th><th>内容・方法 等</th><th>事前・事後学習課題</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>ようこそ、摂南大学へ</td><td> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える </td><td> ・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>2</td><td>さあ始めよう！大学生活を</td><td> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける </td><td> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>3</td><td>摂南大学</td><td> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する </td><td> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間) </td></tr> <tr> <td>4</td><td>自己効力感を高めよう</td><td> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション </td><td> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間) </td></tr> <tr> <td>5</td><td>グループ課題の設定</td><td> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える </td><td> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間) </td></tr> <tr> <td>6</td><td>社会は君を待っている</td><td> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える </td><td> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>7</td><td>社会の仕組み①</td><td> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える </td><td> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>8</td><td>社会の仕組み②</td><td> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション </td><td> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>9</td><td>自分づくり①</td><td> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク </td><td> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間) </td></tr> <tr> <td>10</td><td>自分づくり②</td><td> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 </td><td> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>11</td><td>スケジューリング術</td><td> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる </td><td> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間) </td></tr> <tr> <td>12</td><td>ビブリオバトル①</td><td> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する </td><td> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間) </td></tr> <tr> <td>13</td><td>グループ課題の発表会</td><td>グループ課題の発表会</td><td> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間) </td></tr> <tr> <td>14</td><td>グループ課題の発表会</td><td>・グループごとのプレゼンテーション</td><td> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間) </td></tr> <tr> <td>15</td><td>夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい</td><td> ・学びのプランニング ・講義の振り返り </td><td> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間) </td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)	2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)	3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)	4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)	5	グループ課題の設定	・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)	6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)	7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)	8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)	9	自分づくり①	・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)	10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)	11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)	12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)	15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとは何か？何故必要なのか？ ・公と私について考える	・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること (0.5 時間)																																																																
2	さあ始めよう！大学生活を	・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける	・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)																																																																
3	摂南大学	・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する	・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)																																																																
4	自己効力感を高めよう	・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション	・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)																																																																
5	グループ課題の設定	・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)																																																																
6	社会は君を待っている	・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える	・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)																																																																
7	社会の仕組み①	・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える	・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)																																																																
8	社会の仕組み②	・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション	・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)																																																																
9	自分づくり①	・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク	・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)																																																																
10	自分づくり②	・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定	・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)																																																																
11	スケジューリング術	・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる	・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)																																																																
12	ビブリオバトル①	・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する	・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)																																																																
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	・学びのプランニング ・講義の振り返り	・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップⅠ、インターンシップⅡ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	職業指導	科目名 (英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期		授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(1時間)。 事後学習:年間の学びの計画を立てること(3時間)
	2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習:職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと(2時間) 事後学習:職業指導に関する資料を熟読すること(2時間)。
	3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習:欧米の職業指導に関して調査すること(3時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(1時間)
	4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習:日本の産業の変遷について市調べておくこと(3時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
	5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習:日本の戦後の教育改革について調べておくこと(2時間)。 事後学習:配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
	6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習:日本型雇用について発表資料を作成すること(3時間)。 事後学習:発表及びディスカッションの内容を振り返ること(1時間)
	7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習:高卒労働市場に関して調べておくこと(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
	8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習:高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること(3時間) 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
	9	「労働すること」を考える	・仕事をすることの意義を考える	事前学習:仕事をする意味について意見をまとめておくこと(2時間) 事後学習:自らの労働観について考えること(2時間)。
	10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習:職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
	11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:自己について考えておくこと(2時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(2時間)。
	12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えておくこと(3時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(1時間)。
	13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習:高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと(1時間) 事後学習:模擬授業の準備をすること(3時間)。
	14	模擬授業①	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習:模擬授業の準備をすること(2時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(2時間)
	15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習:前期のレポートを作成すること(3時間)。 事後学習:講義全体を振り返ること(1時間)
	16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	事前学習:本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習:後期の学習計画を立てること(3時間)
	17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	事前学習:商業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
	18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	事前学習:工業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
	19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習:普通科高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
	20	フリーターとニートに	・グループ(またはペア)でフリーター・	事前学習:フリーター・ニート問題に関して調査し、

		ついて	ニート対策を考える	ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）
	24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間） 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）
	25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」／Web Folder			
Teams コード	2z97dst			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）			
備考				

科目名	基礎数学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mathematics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ハ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1001a0		

授業概要・目的	この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。微積分学は瞬間の変化を記述し、微小なものを足し合わせる方法を教えている。その動機付けとなるような問題も扱いたいと思っている。そのため物理からの簡単な応用問題も取り上げたいと思っている。
到達目標	主な目標は (1) 種々の量を文字式で表現できる。 (2) 初等関数の性質を利用した計算ができる。 (3) 平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 これと並行して、各単元の内容の演習を演習教材(ワークブック)を用いて次のサイクルで実施する： (1) 授業で指定された演習問題に解答し、 (2) 教員の評価を受けること。正解するまでやり直し、 (3) その単元の全問題に正答したことの認定を教員から受ける。
科目学習の効果 (資格)	微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	演習テキスト 第 1.1～1.4 章 レポート課題
	2	複素数・無理数	・複素数の四則演算	演習テキスト 第 1.5～1.6 章 レポート課題
	3	複素平面と極形式	・複素数の極形式表示	演習テキスト 第 1.7 章 レポート課題
	4	文字式	・文字式の展開・因数分解	演習テキスト 第 2.1～2.3 章 レポート課題
	5	2 次方程式	・解の公式等による 2 次方程式の解法	演習テキスト 第 2.4 章 レポート課題
	6	高次方程式	・因数定理を用いた高次方程式の解法	演習テキスト 第 2.4 章 レポート課題
	7	1 次関数 (1)	・直線の式、直交条件	演習テキスト 第 3.1 章 レポート課題
	8	1 次関数 (2)	・1 次関数の応用	演習テキスト 第 3.1 章 レポート課題
	9	2 次関数	・グラフ	演習テキスト 第 3.2 章 レポート課題
	10	無理関数	・グラフ	演習テキスト 第 3.2 章 レポート課題
	11	分数式	・計算・部分分数分解	演習テキスト 第 4.1-4.2 章 レポート課題
	12	分数式	・グラフ	演習テキスト 第 4.2 章 レポート課題
	13	三角比 (1)	・一般角、三平方の定理とその応用	演習テキスト 第 5.1 章 レポート課題
	14	三角比 (2)	・三角関数の定義、グラフ	演習テキスト 第 5.2 章 レポート課題
	15	三角比 (3)	・三角比の計算、余弦定理	演習テキスト 第 5.2～5.3 章 レポート課題
	16	絶対値 (1)	・絶対値の基本的性質	演習テキスト 第 6.1 章 レポート課題
	17	絶対値 (2)	・絶対値付きの方程式の解法、グラフ	演習テキスト 第 6.2～6.3 章 レポート課題
	18	指数関数 (1)	・指数法則	演習テキスト 第 7.1 章 レポート課題
	19	指数関数 (2)	・指数関数のグラフ、方程式の解法	演習テキスト 第 7.1 章 レポート課題
	20	対数関数 (1)	・対数の定義、底の変換公式	演習テキスト 第 7.2 章 レポート課題
	21	対数関数 (2)	・対数関数を含む方程式	演習テキスト 第 7.2 章 レポート課題
	22	対数関数 (3)	・対数関数のグラフ	演習テキスト 第 7.2 章 レポート課題
	23	三角関数 (1)	・加法定理	演習テキスト 第 8.1 章 レポート課題
	24	三角関数 (2)	・加法定理を用いた計算問題	演習テキスト 第 8.1 章 レポート課題
	25	三角関数 (3)	・加法定理から導かれる種々の公式	演習テキスト 第 8.2 章 レポート課題
	26	三角関数 (4)	・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方	演習テキスト 第 8.3 章 レポート課題
	27	数列	・等差数列、等比数列	演習テキスト 第 9.1～9.3 章 レポート課題
	28	和の公式	・等差数列、等比数列の和、シグマ記号	演習テキスト 第 9.2～9.4 章 レポート課題

			に慣れる	ポート課題	
	29	数学的帰納法	・数学的帰納法を用いた証明	演習テキスト 第9.5章 課題	レポート
	30	総合演習	・応用問題	レポート課題	
関連科目	数式を用いるすべての科目、特に微積分。				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	数学の基礎	摂南大学基礎理工学機構数学教室編		
	2	日々の演習	摂南大学基礎理工学機構数学教室編		
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
授業形態					
Teams コード					
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段					
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	全単元の認定を受けて演習教材(ワークブック)を完遂した者のみを成績評価の対象とし、演習、小テスト、演習教材(ワークブック)で30%、 中間35%、期末35%の割合で判定し評価する。 試験については、COVID19 感染対策状況により、レポート等への変更も有り得る。				
学生への メッセージ	教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。演習は必ず自分で解こうと努力し、わからないところは質問する積極的な姿勢を望みます。				
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室				
備考	事前事後学習には、各々毎回1.5時間以上かけること。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。				

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ニ
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安井 幸則
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1002a0		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、3 角、指数、対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	資料配信型でのオンライン授業を実施する。授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養・計算能力を身につけるために、予習復習を励行すること。
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 微積分 II, 工業数学 I, 工業数学 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第 1 章の間, 問題 課題レポート
	2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第 1 章の間, 問題 課題レポート
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第 1 章の間, 問題 課題レポート
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第 1 章の間, 問題 課題レポート
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第 2 章の間, 問題 課題レポート
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第 2 章の間, 問題 課題レポート
	7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	第 2 章の間, 問題 課題レポート
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第 2 章の間, 問題 課題レポート
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第 2 章の間, 問題 課題レポート
	10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e ・指数関数の定義	第 3 章の間, 問題 課題レポート
	11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第 3 章の間, 問題 課題レポート
	12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第 3 章の間, 問題 課題レポート
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第 3 章の間, 問題 課題レポート
	14	3 角関数	・弧度法・3 角関数の定義・諸性質と公式	第 4 章の間, 問題 課題レポート
	15	3 角関数・逆 3 角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・3 角関数の微分・逆 3 角関数の微分	第 4 章の間, 問題 課題レポート
	16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第 5 章の間, 問題 課題レポート
	17	高次導関数 (2)	・指数、対数、3 角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第 5 章の間, 問題 課題レポート
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第 6 章の間, 問題 課題レポート
	19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	第 6 章の間, 問題 課題レポート
	20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第 6 章の間, 問題 課題レポート
	21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第 6 章の間, 問題 課題レポート
	22	関数の展開 (2)	・指数関数、3 角関数、対数関数の展開・2 項定理の一般化	第 6 章の間, 問題 課題レポート
	23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	25	原始関数 (3)	・3 角関数の不定積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第 7 章の間, 問題 課題レポート
	30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第 7 章の間, 問題 課題レポート

関連科目	微積分 II; 線形代数 I; II; 工業数学 I; 工業数学 II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	関連の本が沢山出版されている。図書館に所蔵されている他、数学研究室にも多数あり貸し出し可。		
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。期末試験については COVID 19 感染状況次第ではレポート等への変更もあり得る。
学生への メッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問すること。いつでも親切に答えるようにしています。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、チューデントアワー(月-金の5限目)には3号館3階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習には、各々毎回 1.5 時間以上かけること。小テストは採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	微積分Ⅰ	科目名(英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1002a0		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	(1) 基本的な関数の微分を行うことができる。 (2) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (3) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。
授業方法と留意点	Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために、予習復習を励行すること。
科目学習の効果(資格)	本講義の内容は微積分Ⅱを習得するのに引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ(1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の問題
	2	関数とそのグラフ(2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の問題
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第1章の問題
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の問題
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の問題
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の問題
	7	導関数の計算法	・積、商の導関数	第2章の問題
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の問題
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の問題
	10	指数関数	・指数法則・ネイピア数 e ・指数関数の定義	第3章の問題
	11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の問題
	12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の問題
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の問題
	14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	第4章の問題
	15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	第4章の問題
	16	高次導関数(1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の問題
	17	高次導関数(2)	・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の問題
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の問題
	19	関数の挙動(1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の問題
	20	関数の挙動(2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の問題
	21	関数の展開(1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の問題
	22	関数の展開(2)	・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化	第6章の問題
	23	原始関数(1)	・微分の逆演算としての不定積分	第7章の問題
	24	原始関数(2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の問題
	25	原始関数(3)	・三角関数の不定積分	第7章の問題
	26	原始関数(4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の問題
	27	不定積分の計算法(1)	・置換積分	第7章の問題
	28	不定積分の計算法(2)	・部分積分	第7章の問題
	29	不定積分の計算法(3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の問題
	30	不定積分の計算法(4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の問題

関連科目	以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められる。 微積分Ⅱ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、代数学、幾何学Ⅱ、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎 — 理工系学生に向けて — (ISBN:9784320110274)	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」／Moodle
Teams コード	90owx05
Moodle コース名 および登録キー	微積分 I < 2020 年度・後期・木, 金 1 時限・R 科 > bisekiR
連絡手段	Teams チャンネル, チャット
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得る)
学生への メッセージ	3 号館 3 階に数学教員はいますので、数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽に聞きに来て下さい。
担当者の 研究室等	3 号館 3 階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回 1.5 時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	微積分Ⅰ	科目名(英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東山 和巳
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1002a0		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	(1) 基本的な関数の微分を行うことができる。 (2) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (3) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。
授業方法と留意点	Microsoft Teamsを経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する。 授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために、予習復習を励行すること。
科目学習の効果(資格)	本講義の内容は微積分Ⅱを習得するのに引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ(1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第1章の問題
	2	関数とそのグラフ(2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第1章の問題
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算法	第1章の問題
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第1章の問題
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第2章の問題
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第2章の問題
	7	導関数の計算法	・積、商の導関数	第2章の問題
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第2章の問題
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第2章の問題
	10	指数関数	・指数法則・ネイピア数 e ・指数関数の定義	第3章の問題
	11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第3章の問題
	12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第3章の問題
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第3章の問題
	14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	第4章の問題
	15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	第4章の問題
	16	高次導関数(1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第5章の問題
	17	高次導関数(2)	・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第5章の問題
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第6章の問題
	19	関数の挙動(1)	・関数の増減・極大、極小	第6章の問題
	20	関数の挙動(2)	・グラフの凹凸・変曲点	第6章の問題
	21	関数の展開(1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第6章の問題
	22	関数の展開(2)	・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化	第6章の問題
	23	原始関数(1)	・微分の逆演算としての不定積分	第7章の問題
	24	原始関数(2)	・整式、有理式的不定積分	第7章の問題
	25	原始関数(3)	・三角関数の不定積分	第7章の問題
	26	原始関数(4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第7章の問題
	27	不定積分の計算法(1)	・置換積分	第7章の問題
	28	不定積分の計算法(2)	・部分積分	第7章の問題
	29	不定積分の計算法(3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第7章の問題
	30	不定積分の計算法(4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第7章の問題
関連科目	以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められる。 微積分Ⅱ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ 上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎 ―理工系学生に向けて―(ISBN:9784320110274)	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)。
学生への メッセージ	3号館3階に数学教員はいますので、数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽に聞きに来て下さい。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾 尚武
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1003a0		

授業概要・目的	1 変数関数の定積分、及び多変数関数の微積分法の初歩について理解することを目的とします。			
到達目標	(1) 定積分/広義積分の初歩を理解し、簡単な計算ができる。 (2) 偏微分の初歩を理解し、非常に簡単な計算ができる。 (3) 重積分の初歩を若干理解し、非常に簡単な計算ができる。			
授業方法と留意点	講義では、厳密性は犠牲にして平易な内容のみを丁寧に解説します。 演習では計算練習を中心にしてもらいます。 受講者は授業内容を確実に自分のものとするよう心掛けてください。 そのために、まずは授業に出席してください。			
科目学習の効果（資格）	微積分は理系の九九の様なものです。 (本講義の内容は、工業数学及び諸々の専門科目の習得に引き継がれます。)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	定積分の定義	・ 定積分の定義 ・ 定積分の性質	第 8 章の問題
	2	簡単な定積分	・ 定数関数, 1 次, 2 次関数の定積分 ・ 不定積分と定積分 ・ 基本的な関数の定積分	第 8 章の問題
	3	定積分の計算法 (1)	・ 微積分の基本定理 ・ 不定積分と定積分	第 8 章の問題
	4	定積分の計算法(2)	・ 置換積分 ・ 部分積分	第 8 章の問題
	5	定積分の計算法(3)	・ 指数関数, 三角関数の定積分	第 8 章の問題
	6	定積分の計算法(4)	・ 有理関数, 無理関数の定積分	第 8 章の問題
	7	定積分の応用(1)	・ 曲線が囲む面積の計算	第 8 章の問題
	8	定積分の応用(2)	・ 体積の計算 ・ 回転体の体積	第 8 章の問題
	9	広義積分(1)	・ 広義積分	第 8 章の問題
	10	広義積分(2)	・ 広義積分の収束	第 8 章の問題
	11	点列の極限	・ 内点, 境界 ・ 内部, 閉包 ・ 開集合, 閉集合	第 9 章の問題
	12	2 変数の関数(1)	・ 2 変数関数の例 ・ xy 平面内の領域と関数の定義域	第 9 章の問題
	13	2 変数関数のグラフ(1)	・ グラフとしての曲面 ・ グラフ上の曲線	第 9 章の問題
	14	2 変数の関数(2)	・ 2 変数関数の極限 ・ 2 変数関数の連続性	第 9 章の問題
	15	2 変数関数のグラフ(2)	・ グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第 9 章の問題
	16	偏微分	・ 偏微分の定義	第 9 章の問題
	17	偏微分の計算(1)	・ 偏導関数の定義 ・ 偏導関数の計算法	第 9 章の問題
	18	偏微分の計算(2)	・ 偏微分可能性 ・ 全微分可能性	第 9 章の問題
	19	合成関数の偏微分	・ 2 変数関数の合成と偏微分の計算	第 9 章の問題
	20	高次偏導関数(1)	・ 2 次偏導関数の定義 ・ 偏微分の順序交換	第 9 章の問題
	21	高次偏導関数(2)	・ 合成の高次偏微分 ・ 偏微分作用素の表示	第 9 章の問題
	22	高次偏導関数(3)	・ 2 変数のテイラー展開	第 9 章の問題
	23	偏微分の応用(1)	・ 2 変数関数の極値問題	第 9 章の問題
	24	偏微分の応用(2)	・ 陰関数定理 ・ 条件付き極値問題	第 9 章の問題
	25	重積分の定義(1)	・ 体積と重積分 ・ 長方形領域上での重積分	第 10 章の問題
	26	重積分の定義(2)	・ 長方形上での逐次積分	第 10 章の問題
	27	重積分の計算法(1)	・ 曲線で囲まれた領域上での重積分	第 10 章の問題
	28	重積分の計算法(2)	・ 逐次積分への帰着	第 10 章の問題
	29	重積分の計算法(3)	・ 重積分と立体の体積	第 10 章の問題
	30	重積分の計算法(4)	・ 広義重積分 ・ ガンマ関数とベータ関数	第 10 章の問題
関連科目	以下の科目の講義は微積分 II の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 応用数学 I, 応用数学 II (ですから, 上記科目を受講する予定の学生は本講義を履修しておく方がよいでしょう。)			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」／Moodle／その他			
Teams コード	2euuudt			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	個人メール等			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点 30%， 期末試験 70%で判定し評価します。 但し， 期末試験については新型コロナウイルス感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得ます。			
学生への メッセージ	事前事後学習は必ず毎回 1.5 時間以上かけてください。			
	分からない点があれば放置せず，質問してください。 授業の前後は勿論，3 号館 2 階 3 階には数学の教員がいますので，遠慮なく質問においで下さい。			
担当者の 研究室等				
備考	初回の授業でより具体的な授業の内容や進め方，成績評価の方法，授業時間外学習についてお伝えします。			
	また，教科書が自分に合わない場合，遠慮なくご相談ください。適当な参考書を一緒に探しましょう。 尚，今年度の特殊な社会情勢及び授業の進行状況に応じてシラパスの内容は若干変更されます。			

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 洋平
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1003a0		

授業概要・目的	本講義では微積分Ⅰに引き続き、 (1) 定積分の概念と計算方法 (2) 広義積分の概念と計算方法及び収束の判定法 (3) 多変数関数の微分とそのグラフの把握・極値問題の扱い方 (4) 重積分の概念と計算方法 について取り扱う。
到達目標	以下の3項目を到達目標とする： (1) 基本的な関数の定積分・広義積分ができること。 (2) 多変数関数の微分が計算でき、グラフの概形が把握できること。 (3) 重積分の計算ができること。
授業方法と留意点	オンライン授業で実施する。授業形式についてはTeamsの「T093-微積分Ⅱ-佐々木 洋平」を参照されたい。 毎回の講義毎に提出課題と予習問題を提供する。全ての提出課題を完遂すること。
科目学習の効果(資格)	微積分は理工系科目の必須教養であり、ほぼ全ての専門科目は微積分学の知識を前提としている。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	定積分の定義	・区分求積法とその一般化 ・定積分の定義 ・定積分の性質	第8章の問、問題、課題レポート
	2	簡単な定積分	定数関数、1次関数の定積分	第8章の問、問題、課題レポート
	3	定積分と不定積分の関係	微積分の基本定理	第8章の問、問題、課題レポート
	4	定積分の計算(1)	簡単な関数の定積分	第8章の問、問題、課題レポート
	5	定積分の計算(2)	置換積分	第8章の問、問題、課題レポート
	6	定積分の計算(3)	部分積分	第8章の問、問題、課題レポート
	7	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算 ・体積の計算	第8章の問、問題、課題レポート
	8	定積分の応用(2)	・グラフの長さ ・回転体の体積	第8章の問、問題、課題レポート
	9	広義積分	・広義積分の定義 ・優関数による収束判定	第8章の問、問題、課題レポート
	10	ガンマ関数とベータ関数	・ガンマ関数とベータ関数 ・ベータ関数の定積分への応用	第8章の問、問題、課題レポート
	11	総合演習	複雑な関数の定積分、広義積分	第8章の問、問題、課題レポート
	12	中間試験	第8章の内容から出題	第8章の問、問題、課題レポート
	13	2変数関数とそのグラフ	・多変数関数の定義 ・グラフとしての曲面 ・グラフ上の曲線 ・接ベクトルと法ベクトル	第9章の問、問題、課題レポート
	14	2変数関数の連続性	・2変数関数の極限 ・2変数関数の連続性	第9章の問、問題、課題レポート
	15	偏微分	偏微係数、偏導関数、偏微分	第9章の問、問題、課題レポート
	16	偏微分の計算	複雑な関数の偏微分	第9章の問、問題、課題レポート
	17	全微分	全微分可能性と全微分	第9章の問、問題、課題レポート
	18	多変数関数の接平面	全微分と接平面	第9章の問、問題、課題レポート
	19	高次偏導関数(1)	・(偏)微分作用素(演算子) ・高次偏導関数	第9章の問、問題、課題レポート
	20	高次偏導関数(2)	・偏微分の順序交換 ・偏微分の変数変換	第9章の問、問題、課題レポート
	21	多変数の展開	・2変数のテイラー展開、マクローリン展開	第9章の問、問題、課題レポート
	22	多変数関数のグラフ	2変数関数の極大・極小	第9章の問、問題、課題レポート
	23	陰関数定理	陰関数定理	第9章の問、問題、課題レポート
	24	条件付き極値問題	条件付き極値問題	第9章の問、問題、課題レポート
	25	重積分の定義	・体積と重積分 ・長方形上での逐次積分	第10章の問、問題、課題レポート
	26	重積分の計算(1)	一般の閉領域での重積分	第10章の問、問題、課題レポート
	27	重積分の計算(2)	逐次積分の順序交換	第10章の問、問題、課題レポート
	28	重積分の計算(3)	積分の変数変換	第10章の問、問題、課題レポート
	29	重積分の計算(4)	・重積分と立体の体積 ・曲面の面積	第10章の問、問題、課題レポート
	30	重積分の計算(5)	・広義重積分 ・ガンマ関数とベータ関数：再考	第10章の問、問題、課題レポート
関連科目	本講義を履修する前に微積分Ⅰを履修しておくことが望ましい。また、多変数関数の挙動を理解するには線形代数Ⅰ・Ⅱの知識があると有用であるため、これら科目の履修を推奨する。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	提出課題 40%、期末試験 60%で判定し評価する(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)。			
学生への メッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。 また、講義外でも質問がありましたら、お気軽に3号館3階にいらして下さい。			
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室			
備考	事前事後学習には、各々毎回1.5時間以上かけること。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。			

科目名	プロダクトデザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Product Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 大野 亜紀, 澤田 正治, 鹿間 栄吉, 西山 徹
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2063a0		

授業概要・目的	この演習はヒューマンスケールのプロダクトを製作するなど、デザイン志向の学生を対象とするプログラムである。これまで個別に学習した様々な基礎的なデザインに関する知識を具体的な実践課題を通して総合化することを目的としている。プロダクト製作を通して、材料の特性を活かした機能や造形、加工法などプロダクトデザインにおける基礎的なデザイン能力を獲得する。なお、本演習授業はプロダクトデザインおよびその生産部門で活躍されてきた実務経験豊かな講師陣が指導する。講師陣の経験に基づいたプロダクトデザイン現場でのプロセスを疑似体験する。 プログラムは2つからなる。A) 木工プログラムと B) 商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。ただし、A) 木工プログラムは作業安全確保の観点から受講者数を最大 16 人に限定している。 また、履修登録前に受講希望者数を確認することを目的に事前登録を行う。定員より受講希望者が大幅に多い場合には、抽選により受講者を決定する。 SDGs-9、11、12			
到達目標	プロダクトデザインに関する基礎的能力の習得・活用できることを目標とする。具体的には、①問題発見能力、②問題解決能力（創造力）、③コミュニケーション能力（伝える力）である。			
授業方法と留意点	プログラムは2つからなる。A) 木工プログラムと B) 商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。 A) 木工プログラム 木を材料とした小物制作（設計・加工）から木材の特性を体験を通して理解するとともに基礎的な設計・製図を学ぶ。次に、簡単な椅子などの自分達の身体寸法にあった木工家具の製作を行う。定員は 16 人とする。製作材料などの費用がかかる。安全指示に従い、正しい服装や態度などを保つことが求められる。指示に従わない場合は、安全確保のため受講中止することがある。 B) 商品開発プログラム 演習はレクチャーと実習からなっている。商品開発からデザインまでを担当する模擬開発者として、そのプロセスを学ぶ。具体的には、①情報収集・分析手法から、課題を見つける。②ブレインストーミングなどでアイデア出しをしてアイデアシートにまとめる。③商品化決定したアイデアを、デザインする。④デザインしたものを、利用者にわかりやすく伝える。これらは連続した実習として行うため、欠席することは演習を進める上で大きな障害となるので注意すること。演習の内容は受講者の作業進行状況に合わせて適宜変更する。また、演習作業に必要な材料は各自授業進行に合わせて購入準備すること。			
科目学習の効果（資格）	インテリアプランナー、インテリアコーディネーター資格および本学科の空間デザインに関係する科目。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	A) ガイダンス B) ガイダンス・レクチャー（商品開発の現場）	A) 目的、演習概要説明 B) 目的、演習概要説明および商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	2	A) レクチャー B) レクチャー（商品開発の現場）	A) 目的、演習概要説明 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	3	A) 小作品製図 1 B) レクチャー（商品開発の現場）	A) 製図法の修得 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	4	A) 小作品製図 2 B) レクチャー（企画・デザイン）	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。図面の未完成の部分を次回演習授業までに補っておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	5	A) 小作品製図 3 B) レクチャー（企画・デザイン）	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認し、事前に図面不整合部分を修正しておく。図面の未完成の部分を次回演習授業までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	6	A) 小作品制作 1（部品切り出し） B) 実習 1	A) 図面から加工行程へ（図面提出） B) 想定企業を検討するための資料を収集する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	7	A) 小作品制作 2（接合部加工） B) 実習 2	A) 図面から加工行程へ B) 想定企業を検討するための資料を収集する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	8	A) 小作品制作 3（接合部加工、組立て） B) 実習 3	A) 加工行程 B) 想定企業を決定する	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	9	A) 小作品制作 4（組立て、仕上加工） B) 実習 4	A) 加工工程から仕上工程へ B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 仕上げ工程の注意点を事前にデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	10	A) 小作品制作 5（仕上加工） B) 実習 5	A) 仕上行程（提出） B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	仕上げ工程の注意点を事前 A) にデザイン工房 1 に設置の参考図書で学習しておく。演習時間内に完成できなかった場合には、必ず次回までに完成させておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	11	A) 木工家具レクチャー 1 B) 実習 6	A) 小作品の講評、木の特性とデザインについての基礎的なレクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 課題書を良く読んで、演習前にデザイン案を検討し、10 点描いて演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	12	A) 木工家具レクチャー	A) デザインと加工方法について基礎的	A) レクチャーを受けて、事前に作成した自分のデザ

		2 B) 実習 7	レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析をまとめる（課題提出）	イン案の実現可能性について検討し、改善案を作成したうえで次回演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	13	A) 木工家具デザイン 1 B) 実習 8	A) 木工家具デザイン作業（エスキースチェック） B) プレーンストーミング	A) 改善案に対するコメントを元に、さらなる改善案を作成すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	14	A) 木工家具デザイン 2 B) 実習 9	A) 木工家具デザイン作業（デザイン決定） B) プレーンストーミング	A) 最終デザイン決定案の加工工程を事前検討し、部品加工イメージを組み立てたうえで演習に出席すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	15	A) 木工家具製図 1 B) 実習 10	A) 木工家具製図作業 B) プレーンストーミング	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	16	A) 木工家具製図 2 B) 実習 11	A) 木工家具製図作業 B) プレーンストーミングをまとめる（課題提出）	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	17	A) 木工家具製図 3 B) 実習 12	A) 木工家具製図作業 B) アイデアシート作成（ニーズ・ネーミング・売り言葉など）	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房 1 に設置の参考図書を参考にして製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	18	A) 木工家具製図 4 B) 実習 13	A) 木工家具製図作業（図面提出） B) アイデアシート作成（ニーズ・ネーミング・売り言葉など）	A) 次回演習までに部品加工のイメージを組み立ておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	19	A) 木工家具加工 1 B) 実習 14	A) 木工家具加工工程（部品切り出し） B) アイデアシート作成（ニーズ・ネーミング・売り言葉など）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	20	A) 木工家具加工 2 B) 実習 15	A) 木工家具加工工程（部品切り出し） B) アイデアシート作成（ニーズ・ネーミング・売り言葉など）（課題提出）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	21	A) 木工家具加工 3 B) 実習 16	A) 木工家具加工工程（接合部加工） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	22	A) 木工家具加工 4 B) 実習 17	A) 木工家具加工工程（部品切り出し） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	23	A) 木工家具加工 5 B) 実習 18	A) 木工家具加工工程（接合部加工） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	24	A) 木工家具加工 6 B) 実習 19	A) 木工家具加工工程（接合部加工） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	25	A) 木工家具加工 7 B) 実習 20	A) 木工家具加工工程（接合部加工） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）（課題提出）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	26	A) 木工家具組立と仕上 1 B) 実習 21	A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作（ポスター・全紙広告・カタログなど）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	27	A) 木工家具組立と仕上 2 B) 実習 22	A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作（ポスター・全紙広告・カタログなど）	自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	28	A) 木工家具組立と仕上 3 B) 実習 23	A) 木工家具組立と仕上行程 B) 伝える方法の検討制作（ポスター・全紙広告・カタログなど）（課題提出）	自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。塗装する場合には塗料や塗装道具を自分で用意しておくこと。作品を完成させておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
	29	講評会 1	講評会を行う	作品のプレゼンテーション準備をしてから演習に参加すること。
	30	講評会 2	講評会を行う	作品講評内容を理解し、今後のデザインに活かせるように、まとめておくこと。
関連科目	プロダクトデザイン論、インテリアデザイン論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ウラからのぞけばオモテが見える	佐藤オオキ、川上典李子	日経 BP 社
	2	名作椅子の由来図典：歴史の流れがひと目でわかる	西川栄明	誠文堂新光社
	3	椅子—人間工学・製図・意匠登録まで	井上 昇	建築資料研究社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	A) 制作過程における評価 50%、完成作品評価 50% B) 演習課題評価 (60%)、プレゼン (20%)、授業態度 (20%)
学生への メッセージ	我々は日常的に様々なプロダクトデザインに接している。特にこの演習は短時間で集中的に学ぶプログラムとなっているため、日頃からプロダクトデザインに対して高い意識をもって過ごすことでより有意義な演習となる。
担当者の 研究室等	12号館7階 稲地准教授室
備考	A) 製作に使用する材料などの購入費用がかかる。木加工は大変危険であるため、服装や行動には注意が必要である。安全指示に背き、受講を続けることが危険と判断される場合には、演習途中でも受講中断することがある。 B) 模型やプレゼンテーションに使用する材料・用具などを購入費用がかかる (モデルボード、カッティングシート、イラストレーションマーカーなど)。 演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 古矢 篤史, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科: II ◎, R 科: A◎, A 科: A◎, M 科: A1○, E 科: B○, C 科: II ◎, L 科: DP2◎, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP8△, J 科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科: TL01452a1, L 科: LL01354a1, D 科・S 科: IL01361a1, P 科: YL01417a2, J 科: JL01363a1, W 科: WL01342a1, N 科: NL01343a1		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。 また由良町役場の行政担当者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。
到達目標	・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 第 11 回目は和歌山県由良町での体験学習となります。体験学習に参加できない学生は履修しないようにしてください。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【第 1 回】 4 月 11 日 (土) 1 限 テーマ: オリエンテーション 内容・方法等: 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。地域のことを学ぶ意義を解説します。(鶴坂) 事前学習: シラバスをみて、内容を確認する。地域のことを学ぶことについて自分なりに考える (1 時間)。 事後学習: 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える (1 時間)。 【第 2 回】 4 月 11 日 (土) 2、3 限 テーマ: チームビルディング 内容・方法等: グループワークを進めていくためのチームビルディングを行います。(水野・鶴坂) 事前学習: グループワークを行う上で大切なことは何かを考える (1 時間)。 事後学習: チームビルディングを行った感想と今後の豊富についてまとめる (1 時間)。 【第 3 回】 4 月 25 日 (土) 1 限 テーマ: 今、地域で何が起きているか 内容・方法等: 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。(鶴坂) 事前学習: キーワード「消滅可能性都市」について調べる (1 時間)。 事後学習: 由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループで レポートをまとめる (2 時間)。 【第 4 回】 4 月 25 日 (土) 2 限 テーマ: 由良町関係者の講演 内容・方法等: 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、防災、文化、地域医療等の現状や課題をお聞きます。(鶴坂・上野山) 事前学習: 和歌山県由良町の概要を調べる (1 時間)。 事後学習: 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートを作成する (2 時間)。 【第 5 回】 4 月 25 日 (土) 3 限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1、2 限の講義内容をふまえ、由良町の課題と人口減少の原因を議論しまとめ、発表する。(鶴坂・上野山) 事前学習: プレゼンテーションループリックを確認する (1 時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2 時間)。 【第 6 回】 5 月 2 日 (土) 1 限 テーマ: 地域経済・経営ー地域の観光・ブランディングー 内容・方法等: 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。(久保・鶴坂) 事前学習: 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる (1 時間)。 事後学習: 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる (2 時間)。 【第 7 回】 5 月 2 日 (土) 2 限 テーマ: 地域環境・防災ー空き家の現状と課題ー 内容・方法等: 大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。 地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。(稲地) 事前学習: 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと (1 時間)。 事後学習: 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる (2 時間)。 【第 8 回】 5 月 2 日 (土) 3 限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1 限の課題、2 限の課題と 2 つに区分し、グループでまとめ、発表する。(鶴坂・久保・稲地) 事前学習: 前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションループリックを確認する (1 時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2 時間)。 【第 9 回】 5 月 16 日 (土) 1 限 テーマ: 地域市民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。(田中・上野山) 事前学習: 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと (1 時間)。 事後学習: 授業で発表された内容について整理し、由良町の地域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる (2 時間)。

	【第10回】 5月16日（土）2限 テーマ：地域政策・文化－地域の小規模ミュージアム 内容・方法等：地域（とくに過疎化地域）における「小規模ミュージアム（記念館、文学館、博物館、美術館など）」の意義や現状を踏まえ、内容や効果を考えます。（古矢） 事前学習：「小規模ミュージアム」とは何かを調べる（1時間）。 事後学習：地域における「小規模ミュージアム」の内容や効果をグループでレポートをまとめる（2時間）。 【第11回】 5月16日（土）3限 テーマ：グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等：1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。（古矢・田中・上野山） 事前学習：前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する（1時間）。 事後学習：グループでのレポート作成（2時間）。 【第12回】 5月30日（土）1限 テーマ：プレゼンテーション講座 内容・方法等：プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。（石井、鶴坂） 事前学習：パワーポイントの練習（1時間）。 事後学習：最終報告会での大まかな流れを作る（2時間）。 【第13回】 5月30日（土）2，3時間 テーマ：グループワーク 内容・方法等：由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。（鶴坂、上野山） 事前学習：グループでどの領域の問題を取り扱うかを定める（1時間）。 事後学習：由良町でのフィールドワークの準備を行う（2時間）。 【第14回】 6月6日（土）終日 テーマ：体験学習（和歌山県由良町） 内容・方法等：由良町に出かけ、フィールドワーク（調査）を行います。（鶴坂、稲地、久保、古矢、上野山） 事前学習：現地で調べることにについて予備調査しておく（1時間）。 事後学習：現地で得られた情報をまとめておく（2時間）。 【第15回】 6月27日（土）1，2限 テーマ：グループワーク 内容・方法等：発表用スライドの作成。（鶴坂、上野山） 事前学習：現地で得た情報の整理（1時間）。 事後学習：スライドの完成（4時間）。 【第16回】 7月18日（土）1，2限 テーマ：成果発表会 内容・方法等：作成したスライドを使い、成果発表を行う。（鶴坂、久保、稲地、古矢、上野山） 事前学習：発表の練習（4時間）。 事後学習：他のグループの取組内容の整理をする（1時間）発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。 【第17回】 7月18日（土）3限 テーマ：ふりかえり・わかちあい 内容・方法等：「地域と私」での学びの成果等をふりかえり、発表する 事前学習：これまでのプリントや副専攻ガイドブック等の整理（1時間） 事後学習：個人レポートの作成（4時間）																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																
教科書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table><tr><td>番号</td><td>書籍名</td><td>著者名</td><td>出版社名</td></tr><tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20%（ルーブリック評価） 最終レポート 40% 60%で合格とする。																
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																
担当者の	鶴坂研究室 11号館7階																

研究室等	
備考	詳しい日程はガイダンスのときに発表します。基本的に土曜日開講です。

科目名	地域貢献実践演習	科目名 (英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL03457a1, L 科 : LL03366a1, D 科・S 科 : IL03366a1, P 科 : YL03422a2, J 科 : JL03368a1, W 科 : WL0347a1, N 科 : NL03348a1		

授業概要・目的	この授業は、ソーシヤルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までの PDCA サイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内での役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	この授業は少なくとも前期中はネットで授業を行います。 授業で課題を出しますので、それぞれ履修者が調べ学習を行いレポートにまとめ指示された提出場所、提出期間に提出をお願いします。 提出されたレポートについて、プロジェクト (グループ) 単位で議論をすることがあります。 学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行うかどうかは新型コロナウイルスの状況に応じて判断をします。 状況が改善しない場合は、ネットでの授業や発表を後期も継続します。 また、対面で行わないような活動、たとえば連携先様の活動を SNS で発信するなどの広報活動等を行う可能性もあります。 状況に応じた活動内容となるため例年とは異なる授業内容となりますのでご注意ください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は本来フィールドワークを学生がチーム単位で主体的に行うことを前提にしていたですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため不可能ですので、学生個人のワークが中心となります。 プロジェクトは今のところ3つありますので、自分が希望するプロジェクトをに関する学びを深め課題解決のための提案を自分自身が深掘していく形となります。 新型コロナウイルス状況に応じて、プロジェクトの活動時期や内容は異なりますのでご了承ください。 第1回 5月29日 (金) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明をネットで行います。 例年とは異なる進め方となりますので、履修者は必ず出席してください。 第2回 6月5日 (金) 第3回 6月19日 (金) 第4回 7月3日 (金) 第5回 7月17日 (金) いずれもネットでの授業です。 上記以外でプロジェクトごとにネット上でミーティング等を行うことがあります。 後期については前期最後の授業でお知らせします。 授業担当者は経営学部 鶴坂、法学部 小野、教育イノベーションセンター 水野・上野山です。																		
関連科目	ソーシヤルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス :																		
評価方法 (基準)	課題提出物 40%、活動の取組 30%、最終レポート 30%																		
学生へのメッセージ	PBL より、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう !																		
担当者の研究室等																			
備考	【事前学習】 活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成ください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。																		

	【事後学習】活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をお願いします。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学生時間が必要となります。
--	---

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。 2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。 4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに対応すること。 2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出 3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。 4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。 6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。 7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。 8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td><td>教育実習を考える会</td><td>蒼丘書林</td></tr> <tr> <td>2</td><td>学習指導要領解説</td><td>文部科学省</td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, P 科：DP8△, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎, N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, P 科：YT01423a2～YT01427a2, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1, N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマーケティングの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																		
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第 1 回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すみみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第 1 回目の事前授業は 4 月 11 日 6 時限目、1134 教室で行う。 ----- 事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AED の使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキル A：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキル B：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキル C：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキル D：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 活動（90 分×20 回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 事後教育（90 分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ----- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各 1 時間程度行う。																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	lusjvks																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調査、以上の 4 点を総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階（浅野研究室）																		
備考	第 1 回目の事前授業は 4 月 15 日 6 時限目、1124 教室で行う。																		

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	V 科：II◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B△, C 科：II◎, L 科：DP2◎, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, P 科：DP8△, J 科：DP1◎, W 科：DP1◎, N 科：DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TT01461a1～TT01465a1, L 科：LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科：IT01371a1～IT01375a1, P 科：YT01423a2～YT01427a2, J 科：JT01374a～JT01378a1, W 科：WT01352a1～WT01356a1, N 科：NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン（地球市民）の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。																		
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。																		
授業方法と留意点	・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬 （9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬 （11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬 （2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬 （3 月～4 月下旬） 本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなければならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップである ECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ(入門)、グローバル・シチズンシップ(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	yvwu6a																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	原則 Teams、履修前なら国際交流センターへメール問い合わせを																		

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館4階国際交流センターまで 授業内容に関する質問、相談は鳥居（研究室は7号館3階）まで。
備考	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1～TT01465a1, L 科 : LT01366a1～LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1～IT01375a1, P 科 : YT01423a2～YT01427a2, J 科 : JT01374a～JT01378a1, W 科 : WT01352a1～WT01356a1, N 科 : NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程 1 年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は 2 年次の「摂南大学 PBL プロジェクト」、3 年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけしています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																		
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																		
授業方法と留意点	主として現地でのフィールドワークです。1 か月に 2 回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 チーム 10 名程度のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. 進捗管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の 1～6 の活動を通じ、PDCA サイクルを回しながら、年度当初に設定した目標を達成できるよう協働していきます。 第 1 回授業は 4 月 14 日 (火) 6 時間目です。 このときに、詳しい取組内容、どの取組内容に参加するかなどを決定します。 チームは「地域と私」のグループ (1 グループ 5 人程度) を基本にして組んでいきます。 【前期】 第 2 回目は 4 月 28 日 (火) いずれも 6 時間目 第 3 回目は 5 月 12 日 (火) 第 4 回目は 5 月 26 日 (火) 第 5 回目は 6 月 9 日 (火) 第 6 回目は 6 月 23 日 (火) 第 7 回目は 7 月 7 日 (火) 第 8 回目は 7 月 21 日 (火) を予定しています。 【後期】については前期授業中に連絡します。																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :																		
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																		
学生へのメッセージ	まずは一歩踏み出して、地域での活動に取り組んでみよう！																		
担当者の研究室等	鶴坂研究室 11 号館 7 回																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 船越 英資
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A I ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	<摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として 2019 年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	3 人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	実施手順は以下のとおりである。 <開発プロジェクト> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <販売プロジェクト> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 週 1 回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室（1 号館 9 階）、木村准教授室（1 号館 8 階）、船越准教授室（1 号館 9 階）																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教. 木村 朋紀. 船越 英資
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A I ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	<摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト> 様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として 2019 年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	3 人の教員が担当する。 少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	実施手順は以下のとおりである。 <開発プロジェクト> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <販売プロジェクト> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 週 1 回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室 (1 号館 9 階)、木村准教授室 (1 号館 8 階)、船越准教授室 (1 号館 9 階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。 SDG s -6, 13, 14, 15																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月 1 回）は原則として平常授業期間内の土曜日 1・2 限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月 1 回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（7 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。																		
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60％） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40％）																		

学生への メッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の 研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。 目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。 SDG s -6, 13, 14, 15																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。																		
授業方法と留意点	連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。 留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト 内容： 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 方法：授業のうち半分（月 1 回）は原則として平常授業期間内の土曜日 1・2 限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9 月と 12 月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。 他の半分（月 1 回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。 学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6 月）、近畿水環境交流会（7 月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11 月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。 事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。																		
関連科目	自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C 科） 科学技術教養 C1・C2																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60％） 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40％）																		

学生への メッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の 研究室等	1 号館 3 階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数 30 時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の 3 種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第 1 回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の 1 つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60% 以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道 5 時間という距離である。この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。 社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成を自主学習として、調べておくこと。																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力（資源）を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。 地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の 3 種類。 ①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第 1 回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	すさみ町は人口が約 4700 人で、39 ある集落のうち 18 が限界集落の町で、その中の 1 つ、佐本・大都河地域は人口約 360 人、高齢化率 60% 以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化（社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など）を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。 すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220 年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。 大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道 5 時間という距離である。この距離が PDCA を行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港（大学）を出港（出発）して、遠洋（すさみ町）で漁業（活動）するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段など PDCA を現実に体験する。 事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。 社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の 3 つの能力（12 の能力要素）から構成を自主学習として、調べておくこと。																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7 号館 5 階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A I ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。 SDGs-3, 4, 11																		
到達目標	・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 自治体での業務プロセス分析 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦 【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。 【方法】 ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。 【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。 ・自治体の情報サービスの現状調査（4 時間×2 回） ・IT 関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1 時間×8 回） ・データベース設計の見直し（3 時間） ・作成したアプリの動作テスト（2 時間） 学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生への メッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A I ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦 学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築（携帯アプリ）の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。 SDGs-3, 4, 11																		
到達目標	・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる																		
授業方法と留意点	データベースに関する勉強会（土曜日開催） ヒアリング調査 自治体での業務プロセス分析 開発合宿 自治体でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦 【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。 【方法】 ・データベースに関する勉強会（土曜日開催） ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。 【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。 ・自治体の情報サービスの現状調査（4 時間×2 回） ・IT 関連の情報収集（サービス、セキュリティ、生産性向上など）（1 時間×8 回） ・データベース設計の見直し（3 時間） ・作成したアプリの動作テスト（2 時間） 学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	技術習得の成長度（グループとしての学び合いを高く評価する） 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生への メッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の 研究室等	11 号館 7 階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B○, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, DP5△, DP6△, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, P 科：DP8△, J 科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科：DP1◎, DP7◎, N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL02455a1, L 科：LL02357a1, D 科・S 科：IL02364a1, P 科：YL02420a2, J 科：JL02366a1, W 科：WL02345a1, N 科：NL02346a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																		
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11 号館 7 階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																		
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																		
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																		
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																		
担当者の研究室等	11 号館 7 階 鶴坂研究室																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B○, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, DP5△, DP6△, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, P 科：DP8△, J 科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科：DP1◎, DP7◎, N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL02455a1, L 科：LL02357a1, D 科・S 科：IL02364a1, P 科：YL02420a2, J 科：JL02366a1, W 科：WL02345a1, N 科：NL02346a1		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。																		
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1 時間)と後(2 時間)に取る。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河内町）などである。 【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週 1 時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後 2 時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。																		
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。																		
担当者の	11 号館 7 階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 地元の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する 以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。																		
授業方法と留意点	学内でのレクチャー（学部講師を含む）、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。 プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。 参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。 自主学習時間を活動前(1 時間)と後(2 時間)に取る。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～ 【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開（寝屋川市、京都市ほか）、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント（枚方市）、大学共同のイルミネーションイベント（茨木市）、スポーツ教室運営（門真市）、地域の IT スキル測定と教育（摂津市）、歴史資産の展覧会企画（河内町）などである。 【方法】 ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。 【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週 1 時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。 【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後 2 時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学（消費者）、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。																		
評価方法（基準）	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。																		
担当者の	11 号館 7 階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, DP5△, DP6△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習（座学による） 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井研究室 7 号館 3 階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態（座学、現地調査）を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習（座学による） 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備（広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行） 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL 中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																		
関連科目	チームビルディング																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。																		
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井研究室 7 号館 3 階 水野研究室																		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間（事前・事後）をとってください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B ◎, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	【テーマ】 Dig ! SDGs プロジェクト 【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGs への取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGs に寄与する活動（企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む）」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また 1 で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちに SDGs 教育を実施する 【目的】 1. 2020 年 11 月末までに地域及び学内において SDGs を広報するためのアクションを 5 つを行う 2. SDGs を学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する																		
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の 6 点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGs とは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外部協力団体様と折衝することで社会人として必要なマナーを身につける 4. イベントなど取り組むべき課題に対処することで、工程管理の基本を身につける 5. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる 6. イベントを実施及び最終報告会に挑むことで PPT スキル、プレゼンテーションスキルの向上を目指す																		
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 1. 「SDGs を大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これから SDGs に取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われている SDG s に寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関において SDGs を教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。 【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施 【年間計画（予定）】 4 月 SDGs に関する文献レビュー・勉強会の実施 5 月 SDGs に関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6 月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7 月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8 月 小学校向けのイベント実施 10 月 中間報告会 11 月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12 月 振り返り・最終報告																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的																		

(基準)	に判断し評価する。
学生への メッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み，SDGs の普及に貢献しましょう。
担当者の 研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し，事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが，一つの活動に対して，それぞれ5?10時間が必要です。

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B ◎, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	【テーマ】 Dig ! SDGs プロジェクト 【概 要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGs への取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGs に寄与する活動（企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む）」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また 1 で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちに SDGs 教育を実施する 【目的】 1. 2020 年 11 月末までに地域及び学内において SDGs を広報するためのアクションを 5 つを行う 2. SDGs を学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する																		
到達目標	【PBL プロジェクト到達目標（共通）】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の 6 点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGs とは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外部協力団体様と折衝することで社会人として必要なマナーを身につける 4. イベントなど取り組むべき課題に対処することで、工程管理の基本を身につける 5. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる 6. イベントを実施及び最終報告会に挑むことで PPT スキル、プレゼンテーションスキルの向上を目指す																		
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【内容】 1. 「SDGs を大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これから SDGs に取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われている SDG s に寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関において SDGs を教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。 【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施 【年間計画（予定）】 4 月 SDGs に関する文献レビュー・勉強会の実施 5 月 SDGs に関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6 月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7 月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8 月 小学校向けのイベント実施 10 月 中間報告会 11 月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12 月 振り返り・最終報告																		
関連科目	全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的																		

(基準)	に判断し評価する。
学生への メッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み，SDGs の普及に貢献しましょう。
担当者の 研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し，事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが，一つの活動に対して，それぞれ5?10時間が必要です。

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ㊟, R 科 : A㊟, A 科 : A㊟, M 科 : A1㊟, E 科 : B㊟, C 科 : II ㊟, L 科 : DP2㊟, DP5Δ, DP6Δ, D 科 : DP1㊟, S 科 : DP1㊟, P 科 : DP8Δ, J 科 : DP1㊟, DP6㊟, DP7㊟, W 科 : DP1㊟, DP7㊟, N 科 : DP1㊟N : DP1㊟		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02455a1, L 科 : LL02357a1, D 科・S 科 : IL02364a1, P 科 : YL02420a2, J 科 : JL02366a1, W 科 : WL02345a1, N 科 : NL02346a1		

授業概要・目的	I 授業概要 ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動する NP0 団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合ってコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等で紹介された。2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っている NP0 団体等との協働による課題対応力を修得する。 II 目的 ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。
到達目標	I 到達目標（共通） 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 II 到達目標（本プロジェクト）： I の目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。 （１）課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 （２）課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 （３）異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 （４）成功事例を発展させることで他の事例への P D C A スキルを醸成できること。 （５）行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案ができること。 （６）地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 （７）企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 （８）企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。 （９）地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。 （１０）世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
授業方法と留意点	I 授業方法 ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ 2 階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに 2020 年度からは吹田市拠点の NP0 団体とも協働する。これらの活動における様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防犯策や地域貢献活動等を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。 ・特に 2020 年度は、地域事業者主体のプログラム実施だけでなく学生が積極的に企画・運営することを推進する。 ・ICT ツールを活用した事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 II 留意点 ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	I 授業テーマ： 商店街を中心とした地域ブランドの創生 ・ICT ツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 II 内容、方法、事前・事後学習課題 （１）ICT ツールによる事前・事後学習 ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会） （２）参画する課外活動例 ・５月頃：ICT ツールによる勉強会や吹田市で活動する NP0 団体等との年度事業企画調整を行う。 ・６月：ICT ツールによる今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。） 今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ ・７月頃：その他、NP0 事業に参画 ・８月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。） ・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。 ・９月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。） ・１０月頃：高浜神社 戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加 ・１２月～３月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けの WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019 年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。

	このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。																		
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>凡人のための地域再生入門</td><td>木下 齊</td><td>ダイヤモンド社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ</td><td>久 繁 哲之介</td><td>ちくま書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td>商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道</td><td>新 雅 史</td><td>光文社新書</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久 繁 哲之介	ちくま書房	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新 雅 史	光文社新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社																
2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久 繁 哲之介	ちくま書房																
3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新 雅 史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td><td>足立基浩</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-</td><td>森川すいめい</td><td>青土社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房																
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社																
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールによる提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等の NPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。																		
学生への メッセージ	・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。																		
担当者の 研究室等	1 号館 7 階 経済学部 田井義人研究室																		
備考	・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2◎, DP5△, DP6△, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, P 科 : DP8△, J 科 : DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科 : DP1◎, DP7◎, N 科 : DP1◎N : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	I 授業概要 ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動する NPO 団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合ってコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画（企画・活動・推進・振り返り活動への参画）を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV 等で紹介された。2018 年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っている NPO 団体等との協働による課題対応力を修得する。 II 目的 ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。
到達目標	I 到達目標（共通） 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 II 到達目標（本プロジェクト）： I の目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。 （１）課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 （２）課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 （３）異なる世代間の交流により情報収集のスキルを修得すること。 （４）成功事例を発展させることで他の事例への P D C A スキルを醸成できること。 （５）行政依存から脱却し地域の市民主体の取り組みの有効性と効果を体験することで自立した政策提案をすることができること。 （６）地域住民や商店街関係者との地域活性化に尽力する「本気の大人」に出会うことによるコミュニケーション力や「気づき」力を醸成すること。 （７）企画・運営・振り返り資料作成による PPT のスキル、プレゼンテーションスキルを醸成すること。 （８）企画から振り返りまでの一貫した事業展開への参画による PDCA 活用スキルを修得すること。 （９）地域活性化に必要な知識と活用による各種ステークホルダー間の調整スキルを修得すること。 （１０）世代間コミュニケーションスキルを修得すること。
授業方法と留意点	ICT ツールを活用して下記内容を実施する。 I 授業方法 ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点（コンビニ 2 階）を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに 2020 年度からは吹田市拠点の NPO 団体とも協働する。これらの活動における様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り入れることにより連携先課題であるシャッター商店街防止策や地域貢献活動等を企画・活動・推進・振り返りを行う。 ・上記目的の達成のため、大学における事前・事後学習と演習及び地元での課外学習（参画による）によって到達目標へ指導する。 ・特に 2020 年度は、地域事業者主体のプログラム実施だけでなく学生が積極的に企画・運営することを推進する。 ・事前学習において、課題設定のブレインストーミングを行い出来ればグループ分けを行う。 II 留意点 ・上記学習、演習に必ず参加すること。特に他の授業やクラブなどの課外活動との時間調整であるタイムマネジメントに留意すること。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	I 授業テーマ： 商店街を中心とした地域ブランドの創生 ・ICT ツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 II 内容、方法、事前・事後学習課題 （１）ICT ツールによる事前・事後学習 ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。（中間報告会、最終報告会） （２）参画する課外活動例 ・５月頃：ICT ツールによる勉強会や吹田市で活動する NPO 団体等との年度事業企画調整を行う。 ・６月：ICT ツールによる今後の企画運営検討（エンタメ教室：地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討：栄通りの特色を検討、商店会は場提供。） 今後の企画運営検討（落研寄席：近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進：地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ ・７月頃：その他、NPO 事業に参画 ・８月以降：エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室（親子教室）に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。（予選エントリー本戦 16 組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。） ・随時：周辺空き家の活用（古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ）による商店街連携検討。 ・９月頃：エンタメ教室実施。（ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。） ・１０月頃：高浜神社 戎祭支援（チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導）に参加 ・１２月～３月頃：今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けの WEB 委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019 年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。

	このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。																		
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>凡人のための地域再生入門</td><td>木下 齊</td><td>ダイヤモンド社</td></tr> <tr> <td>2</td><td>商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ</td><td>久 繁 哲之介</td><td>ちくま書房</td></tr> <tr> <td>3</td><td>商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道</td><td>新雅史</td><td>光文社新書</td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久 繁 哲之介	ちくま書房	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社																
2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久 繁 哲之介	ちくま書房																
3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td><td>足立基浩</td><td>ミネルヴァ書房</td></tr> <tr> <td>2</td><td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-</td><td>森川すいめい</td><td>青土社</td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立基浩	ミネルヴァ書房																
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社																
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールでの提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等のNPOとのICTツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいはICTツールによる打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールでの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。																		
学生への メッセージ	・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。																		
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室																		
備考	・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名（英文）	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V 科：Ⅱ◎, R 科：A◎, A 科：A◎, M 科：A1○, E 科：B○, C 科：Ⅱ◎, L 科：DP2◎, DP5△, DP6△, D 科：DP1◎, S 科：DP1◎, P 科：DP8△, J 科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W 科：DP1◎, DP7◎, N 科：DP1◎N：DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科：TL02455a1, L 科：LL02357a1, D 科・S 科：IL02364a1, P 科：YL02420a2, J 科：JL02366a1, W 科：WL02345a1, N 科：NL02346a1		

授業概要・目的	テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト 概 要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーマンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。 SDGs-3, 11, 17																		
到達目標	①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる ③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける																		
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。 ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	摂南大学 PBL プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ○, E 科 : B ○, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, DP5 △, DP6 △, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, P 科 : DP8 △, J 科 : DP1 ◎, DP6 ◎, DP7 ◎, W 科 : DP1 ◎, DP7 ◎, N 科 : DP1 ◎N : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TL02456a1, L 科 : LL02358a1, D 科・S 科 : IL02365a1, P 科 : YL02421a2, J 科 : JL02367a1, W 科 : WL02346a1, N 科 : NL02347a1		

授業概要・目的	テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト 概 要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーマンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。 SDGs-3, 11, 17																		
到達目標	①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる ②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる ③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる ④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける																		
授業方法と留意点	文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。 具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。 ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1 時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2 時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回）																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間／最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之. カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シヤカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カカ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。
到達目標	1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)き」に取(ト)り組(ク)む力(チカラ)」、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイゲツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。 2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in your mother tange)。 3) 社会における異文化摩擦(イブンカマサツ)による問題(課題)を知る。 4) 3)の身近(ミヅカ)なところで起きている課題を、自分事(ジブンゴト)としてとらえる観点(カンテン)から考える視点(シテン)を養(ヤシナ)い、自分は何ができるのかを考え、行動(コウドウ)に移(ウツ)す。 5) 1)～4)の目標のほかに、本プロジェクトの活動を通して解決したい個人的(コジンテキ)またはグループでの課題や到達目標(トウタツモクヒョウ)を設定(セッテイ)し、達成(タッセイ)する。 例1)「このプロジェクトの活動を通して、わたしは～する／～できるようになる」 例2)「私の専門性(センモンセイ)／強味(ツヨミ)を生(イ)かして、地域の課題に対(タイ)して向(ム)き合う力を養(ヤシナ)う」 例3)「これまでの経験(ケイケン)や学(マナ)んだことを、実社会(ジッシャカイ)において通用(ツウヨウ)するのか試(タメ)してみる」 例4) したいことを我慢(がまん)して(TVや音楽、ゲームなどの誘惑(ユウワク)に負けないで、今するべきことに向き合う力を身(ミ)につける。
授業方法と留意点	1) 週1～2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピージュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応(オウ)じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。 2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り入(イ)れたいと考(カンガ)えています。 3) 評価(ヒョウカ)についても、担当教員(タントウキョウイン)とともに参加学生全員が話し合いながら納得(ナットク)する形(カタチ)で設定(セッテイ)していく予定(ヨテイ)です。シラバス上の評価方法の基準(キジュン)は確定(カクテイ)ではありません。 4) お昼の集(アツ)まりには、毎回出席することが望(ノゾ)ましいですが、就職(シュウショク)活動や課外活動(クラブやサークルの活動)、専攻科目(センコウカモク)の宿題や課題などが重(カサ)なって出席が困難(コンナン)な時は、事前(ジゼン)に知らせてください。 5) プロジェクト開始とともにポートフォリオを作成し、活動すること、日誌(記録)をつけて各自(カクジ)で振(フ)り返(カエ)ります。また、イベント実施後や発表等の後には、全体(ゼンタイ)で振(フ)り返(カエ)りの会議(カイギ)もします。 6) ポートフォリオは中間発表、最終報告会、最終レポートなどまとめる際に活用できますので、普段(フダン)から(活動のあとは)、こまめに記録(キロク)する習慣(シュウカン)をつけましょう。気づいたことや自分たちの成長過程(セイチョウウカテイ)、本プロジェクトで得(エ)られた成果(セイカ)などに生(イ)かせますので、写真や広告パンフレット、(eポートフォリオの場合は動画(ドウガ)や音声記録(オンセイキロク))などもファイルしておくといいですよ。
授業テーマ・内容・方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 - 異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 - よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシャカイ)とは何かを考える - 地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイソクシン)；異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) - 摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト 【内容】 - 連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 - 講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 - 留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 - 自由企画(ジユウキカク)：自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につなげるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 【方法】 初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(スス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナットク)する形で今後どのように活動するのか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。

	【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成（摂大HPにアップされます）など																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	プロジェクト活動における貢献度：30%（自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%）、 レポート：20%（ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析）、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度：30%																		
学生への メッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近（ミヅカ）にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験（ミケイケン）のことにも、失敗（シッパイ）を恐（オソ）れずチャレンジしてください。自（ミヅカ）ら様々な役割（ヤクワリ）を担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシン）に取り組んでほしいと思います。 自分																		
担当者の 研究室等	梅野、カーティス＝チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）																		
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之. カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シヤカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カカ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。
到達目標	1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)き」に取(ト)り組(ク)む力(チカラ)」、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイゲツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。 2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in your mother tange)。 3) 社会における異文化摩擦(イブンカマサツ)による問題(課題)を知る。 4) 3)の身近(ミヅカ)なところで起きている課題を、自分事(ジブンゴト)としてとらえる観点(カンテン)から考える視点(シテン)を養(ヤシナ)い、自分は何ができるのかを考え、行動(コウドウ)に移(ウツ)す。 5) 1)～4)の目標のほかに、本プロジェクトの活動を通して解決したい個人的(コジンテキ)またはグループでの課題や到達目標(トウタツモクヒョウ)を設定(セッテイ)し、達成(タッセイ)する。 例1)「このプロジェクトの活動を通して、わたしは～する／～できるようになる」 例2)「私の専門性(センモンセイ)／強味(ツヨミ)を生(イ)かして、地域の課題に対(タイ)して向(ム)き合う力を養(ヤシナ)う」 例3)「これまでの経験(ケイケン)や学(マナ)んだことを、実社会(ジッシャカイ)において通用(ツウヨウ)するのか試(タメ)してみる」 例4) したいことを我慢(がまん)して(TVや音楽、ゲームなどの誘惑(ユウワク)に負けないで、今するべきことに向き合う力を身(ミ)につける。
授業方法と留意点	1) 週1～2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピーウジュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応(オウ)じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。 2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り入(イ)れたいと考(カンガ)えています。 3) 評価(ヒョウカ)についても、担当教員(タントウキョウイン)とともに参加学生全員が話し合いながら納得(ナットク)する形(カタチ)で設定(セッテイ)していく予定(ヨテイ)です。シラバス上の評価方法の基準(キジュン)は確定(カクテイ)ではありません。 4) お昼の集(アツ)まりには、毎回出席することが望(ノゾ)ましいですが、就職(シュウショク)活動や課外活動(クラブやサークルの活動)、専攻科目(センコウカモク)の宿題や課題などが重(カサ)なって出席が困難(コンナン)な時は、事前(ジゼン)に知らせてください。 5) プロジェクト開始とともにポートフォリオを作成し、活動すること、日誌(記録)をつけて各自(カクジ)で振(フ)り返(カエ)ります。また、イベント実施後や発表等の後には、全体(ゼンタイ)で振(フ)り返(カエ)りの会議(カイギ)もします。 6) ポートフォリオは中間発表、最終報告会、最終レポートなどまとめる際に活用できますので、普段(フダン)から(活動のあとは)、こまめに記録(キロク)する習慣(シュウカン)をつけましょう。気づいたことや自分たちの成長過程(セイチョウウカテイ)、本プロジェクトで得(エ)られた成果(セイカ)などに生(イ)かせますので、写真や広告パンフレット、(eポートフォリオの場合は動画(ドウガ)や音声記録(オンセイキロク))などもファイルしておくといいですよ。
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ】 - 異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 - よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシャカイ)とは何かを考える - 地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイソクシン)；異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) - 摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト 【内容】 - 連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 - 講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちに何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 - 留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 - 自由企画(ジユウキカク)：自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながらるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 【方法】 初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(スス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナットク)する形で今後どのように活動するのか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。

	【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成（摂大HPにアップされます）など																		
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	プロジェクト活動における貢献度：30%（自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%）、 レポート：20%（ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析）、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度：30%																		
学生への メッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近（ミヅカ）にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験（ミケイケン）のことにも、失敗（シッパイ）を恐（オソ）れずチャレンジしてください。自（ミヅカ）ら様々な役割（ヤクワリ）を担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシン）に取り組んでほしいと思います。 自分																		
担当者の 研究室等	梅野、カーティス＝チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）																		
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。																		

科目名	理工学基礎実験	科目名 (英文)	Basic Experiments in Science and Engineering
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹村 明久, 川上 比奈子, 塩谷 茂明, 志賀 和広, 嶋田 恭博, 山根 聡子, 脇田 和樹
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1019a0		

授業概要・目的	理工学に必要な基礎的計測技術を身につけ、理工学の基礎的な考え方を体験する。さらに、専門分野だけでなく理工学全体の基礎知識に触れることを目的とする。																		
到達目標	(1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pH などの計測技術を身につける。(2)工学、物理学の基礎的な考え方を知る。																		
授業方法と留意点	実験と課題演習を交互に実施する。 実験は2～3名のチームで協力して実験を行う。実験室は常時換気するとともに、作業前後に器具のアルコール消毒する。 時間内に実験からレポート作成まで行う。 課題演習は遠隔授業で実施する。 なお、緊急事態宣言発出中は大学構内への立ち入りが禁止されるため、実験をオンライン模擬実験に変更する場合がある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1 回目：ガイダンス、歩測 2～15 回目：下記テーマの実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す） 実験テーマ： (1) 歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？ (2) 体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。 (3) 浮力 浮力のメカニズムを理解する。 (4) 平面図形の重心（図心） 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？ (5) 力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。 (6) フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。 (7) 重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。 (8) 水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。 (9) 圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。 (10) 仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。 (11) 電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を知る。オームの法則、直流と交流について調べる。 (12) 電池の仕組み 金属のイオン化傾向を調べ、化学電池（乾電池）の基礎を学ぶ。次世代電池の仕組みを理解する。 (13) 電流と磁場 磁石を使って電気をつくり、つくった電気で磁場中の導線を動かす。逆の現象として、磁場の力で動きを止める磁気ブレーキを体験する。 (14) 光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。 (15) 空気の対流 空気の対流を作り、対流内の温度差を計測することで仕組みを理解する。 (16) pH と EC 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。 (17) ビオトープの観察 ビオトープの環境を調べ、生物を観察する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>理工学部基礎実験</td><td>摂南大学理工学部</td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	理工学部基礎実験	摂南大学理工学部		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	理工学部基礎実験	摂南大学理工学部																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	課題演習（50%）、レポート（50%）の割合で評価する。																		
学生へのメッセージ	この授業で学び体験するさまざまな物理・化学現象の測定技術は、住環境のデザインや建物の設計に欠かせないものです。実験を通して物理・化学現象を身近に体験しながら計測技術と理工学の基礎となる考え方を修得しましょう。																		
担当者の研究室等																			
備考	事前学習として、教科書を読み、用紙に要約する課題が課せられている。 毎回1.5時間以上をかけて教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書いて課題を提出すること。																		

科目名	ゼミ A	科目名 (英文)	Seminar A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR1063a0		

授業概要・目的	[授業の概要・目的]住環境デザイン学科は、学際的な学問領域を含む学科であるため、幅広い分野の科目のなかから自分に適した科目を選択し、自分自身で体系化して理解を深める必要がある。ゼミ A では、少人数形式の講義、討論、演習、さらに研修旅行や演習の発表会などを通して、多面的価値観を育成すること、及びコミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、学科の教育目標を周知し、教養教育の補完を図り、自分自身の適性を見つけさせるようにする。																		
到達目標	発表会などにおいて、自己の考えもとに、他者の多面的価値観を踏まえコミュニケーションできる。																		
授業方法と留意点	基本的に、ICT を活用し、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。 ゼミは、教員数に合せ、学生を少人数に分けて行う。 実施日時は学期初めに連絡する。 学期初めには、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆全体ゼミを 3 回、研修旅行ゼミを 8 回、教員個別の少人数ゼミを 2 回、英語テストを 2 回行う。 ○第 1 回全体ゼミ : 1 回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う ○研修旅行ゼミ (事前準備、資料作成、発表含む) : 8 回 関連する施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論・発表を行う。 ○少人数ゼミ : 2 回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。 ○第 2 回全体ゼミ・第 3 回全体ゼミ : 2 回 少人数ゼミの演習で作成・まとめた課題について互いにプレゼンテーションを行い、意見交換する。 知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。 ○英語テスト : 2 回																		
関連科目	ゼミ B、C、スタジオ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス :																		
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。																		
学生へのメッセージ	授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。 本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 6 階 坂本教授室 12 号館 7 階 岩田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など、約 1.5 時間程度をこれに当てること。 課題については、発表等の際に教員・受講者からの講評を随時実施する。																		

科目名	ゼミ B	科目名 (英文)	Seminar B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榎 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR2064a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学びのスタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学習し、自分の個性を生かしながら協調してものづくりをおこなうことの大切さを理解させる。 [到達目標] 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 各専門分野の理解 4) 自分自身の適性の把握																		
到達目標	住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力を養い、人間力・統合力を身につけ行動できる。																		
授業方法と留意点	基本的に、ICT ツールを活用して、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 初日では、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネージメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆全体ゼミを 3 回、教員個別の少人数ゼミを 10 回、英語テストを 2 回行う。 ○第 1 回全体ゼミ : 1 回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う ○少人数ゼミ : 10 回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。 ○第 2 回全体ゼミ・第 3 回全体ゼミ : 2 回 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することもある。 ○英語テスト : 2 回																		
関連科目	ゼミ A、C、D																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。																		
学生への メッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の 研究室等	12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 6 階 坂本教授室 12 号館 7 階 岩田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	ゼミに係る予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など 1.5 時間程度をこれに当てること。 課題については、発表等の際に教員・受講者からの講評を随時実施する。																		

科目名	ゼミ C	科目名 (英文)	Seminar C
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR2065a0		

授業概要・目的	ゼミ C は、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、この授業の最後には自分の専門分野を決めます。																		
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 社会における専門分野の理解 4) 自分自身の専門分野の決定、ができる																		
授業方法と留意点	基本的に、ICT ツールを活用し、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆全体ゼミを 6 回、教員個別の少人数ゼミを 9 回行う。 ○第 1 回全体ゼミ : 1 回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う ○少人数ゼミ : 9 回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。 ○第 2 回～第 6 回全体ゼミ : 5 回 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することもある。																		
関連科目	ゼミ A、B、D																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。																		
学生への メッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の 研究室等	12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 6 階 坂本教授室 12 号館 7 階 岩田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	予習・復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動などをし、1.5 時間程度をこれに当てること。 課題については、発表等の際に教員・受講者からの講評を随時実施する。																		

科目名	ゼミ D	科目名 (英文)	Seminar D
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榊 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR3072a0		

授業概要・目的	専門ゼミ D は、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、卒業研究に向けた基礎的な力を身につける助走期間とする。																		
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 配属された研究室における専門分野のより深い理解をもとに行動できる。																		
授業方法と留意点	ゼミは、全員が集合する全体ゼミと、教員ごとに学生を少人数に分けて行う少人数ゼミとがある。 ゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 少人数ゼミでは、基本的にグループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッション等を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆全体ゼミを、計 1 回行い、教員個別の少人数ゼミを 14 回行う。 ○全体ゼミ : 1 回 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することがある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することがある。 ○少人数ゼミ : 14 回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加して、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。																		
関連科目	ゼミ A～C																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																		
Teams コード	080ouqs																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams の投稿欄、学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。																		
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12 号館 6 階 住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 6 階 坂本教授室 12 号館 7 階 岩田教授室、川上教授室、久富教授室、稲地准教授室、榊准教授室、白鳥准教授室、大橋准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など 1.5 時間程度をこれに当てる。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4 年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	岩田 三千子, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榊 愛, 坂本 淳二, 白鳥 武, 竹村 明久, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR4067a0		

授業概要・目的	卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。 目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。																		
到達目標	習得した専門知識・技能をもとに、社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得し行動できる。																		
授業方法と留意点	①学期初めのゼミ初日は研究・制作の基礎的背景となっている住生活と環境デザインの考え方、②本学における ISO14001 規格に適合した環境マネジメントシステム、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 研究テーマに必要な知識を得るためのゼミとフィールドワークを基本とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【主な研究のテーマ】 ○成熟社会の建築・環境デザインに関する研究 ○ユニバーサル社会の光・色彩環境計画に関する研究 ○建築・都市環境におけるエネルギー使用合理化に関する研究 ○自然の力をかりるインテリア・建築史を踏まえた新たな空間デザインの提案 ○空間情報技術を用いた住環境の安全性・快適性の評価と改善策の提案 ○景観から読み取れる地域の諸問題の要因把握と対応策の提案 ○共生を阻害する問題群を多角的に分析し、解決に導く有形・無形のデザインを提案する ○人と空気環境の関係に関する研究 ○地球環境と社会の変化に対応する建築意匠と設計に関する研究 ○共用空間を所有する住宅地の管理とコミュニティに関する研究 【研究方法】 ○各研究室のテーマに対応して、ゼミ、実験、調査、制作、フィールドワークを実施する 【事前事後学習課題】 ○各自の研究テーマに対応して、指導教員より提示する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																		
Teams コード	8jlanhx																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams の投稿欄、学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	○可否は中間審査 20%、および卒業研究最終審査の総合評価 80%により決定する。 ○卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。																		
学生へのメッセージ	○ゼミノートの記録保持、実験試料・調査資料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき倫理について、常に注意すること。 ○論文のテーマは、上にあげたもの以外でも興味のあるテーマであれば、取り組んでもらえるよう調整します。																		
担当者の研究室等																			
備考	○週 15 時間以上を目安として、自主的に組み立てること																		

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2424c2		

授業概要・目的	海外で実施される語学研修プログラムに参加して外国語運用能力の向上を図りつつ、グローバル・シチズン（地球市民）としての基礎知識、態度を身につける。本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と目標や学習内容を共有する。副専攻の履修者が本科目の単位を取得すると、「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」は履修済みと見なされる。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズンの育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得するようにする」に資するものである。 本科目の受講生は、国際交流センターが主催する海外語学研修プログラムのいずれかに参加する。受講生には、現地での語学授業に真摯に取り組むと同時に、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ活動を行うことが求められる。また、この授業で得られた反省点を、帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。																		
到達目標	・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・事前・事後を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。 ※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。																		
授業方法と留意点	※2020 年度は新型コロナウイルスの影響により現地派遣の見通しが立っていないため、オンラインによるプログラムにより現地派遣を代替し、事前・事後授業も大部分または全てをオンライン型の遠隔授業で実施する予定である。募集説明会においてよく確認すること。 ・事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。 ・年度末にあたる 2～3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。（ ）内は同年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2～3 月になる場合のスケジュールである。 ・募集説明会：4 月中旬（9 月下旬～10 月上旬） ・事前授業 10 回：6 月中下旬～7 月下旬（11 月～2 月） ・現地派遣：2 週間程度 8 月中旬～9 月上旬（2 月中下旬～3 月下旬） ・事後授業 5 回（成果報告会含む）：9 月～10 月中旬（3 月～4 月下旬） 本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する海外語学研修プログラムのいずれかに参加申し込みをしなければならない。各プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の 2～3 月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。 事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。 派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまっていけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。 事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ（入門）、グローバル・シチズンシップ（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th><th>書籍名</th><th>著者名</th><th>出版社名</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生への メッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、この海外語学研修、そして「グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)」で二度行きましょう。
担当者の 研究室等	3号館4階国際交流センター
備考	